

令和3年度
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

令和4年1月

さいたま市 市民局 市民生活部 人権政策・男女共同参画課

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収結果	1
6	調査結果の表示方法	1
7	他調査との比較について	2
8	回答者の属性	3
	(1) 戸籍上の性別	3
	(2) 年齢	3
	(3) 就労状況	4
	(4) 婚姻状況、子どもの有無	4
	(5) 家族構成	5
	(6) 居住区	5
	(7) 国籍	6
	(8) 滞在年数	6
II	調査結果	7
1	男女平等に関する意識について	7
	(1) 言葉の認知度	7
	(2) 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識	35
	(3) 各分野における男女の地位の平等感	45
2	家庭生活について	62
	(1) 家庭生活における役割分担	62
	(2) 男性が家事、子育て、介護、地域活動へ参加するために必要なこと	73

3	就業について	76
(1)	女性が職業をもつことに対する考え方	76
(2)	女性が働き続けたり再就職をするために必要なこと	79
(3)	昇格の希望	81
(4)	職場における男女の地位の平等感	90
(5)	男性の育児・介護休業等取得に対する考え方	112
(6)	育児休業、介護休業等の取得状況	121
4	社会参画について	126
(1)	今後増えてほしい女性の職業や役職	126
(2)	女性リーダーの増加による影響	128
(3)	女性の政策・方針決定の場への参画が少ない理由	131
(4)	地域活動において起こること	133
(5)	地域の防災（災害時の避難所運営）について必要なこと	136
5	ハラスメントについて	138
(1)	セクシュアル・ハラスメントの経験	138
(2)	マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメントの経験	145
(3)	女性の人権への意識	150
6	新型コロナウイルス感染症の影響について	152
(1)	新型コロナウイルス感染による働き方への影響	152
(2)	新型コロナウイルス感染による生活や行動への影響	155
7	性について	158
(1)	LGBTQなど性的少数者について	158
(2)	性的少数者かどうかについて	159
(3)	性的少数者であることについての悩みの有無	160
8	教育について	161
(1)	学校での男女平等教育の意識	161
9	市の男女共同参画の推進に関する施策について	165
(1)	市の施策や制度の認知度	165
(2)	男女共同参画推進センターの利用経験	170
(3)	男女共同参画推進センターに期待すること	174

10	配偶者などからの暴力について	179
	(1) 暴力に関する言葉の認知度	179
	(2) 暴力として認知される行為	182
	(3) 配偶者などへの加害行為	195
	(4) 問 30 の各行為を行った後の行動	208
	(5) 問 30 の各行為を行った理由	209
	(6) 問 30 の各行為の後に相談した相手（場所）	211
	(7) 問 30 の各行為をやめる（しない）ために必要なこと	213
	(8) 配偶者などからの被害経験	215
	(9) 問 31 の各行為を受けた時期	221
	(10) 問 31 の各行為中に感じた命の危機	225
	(11) 問 31 の各行為を受けた際、子どもの目撃の有無	226
	(12) 問 31 の各行為が子どもにも同様に行われたか	227
	(13) 問 31 の各行為に関しての相談状況	228
	(14) 問 31 の各行為に関しての相談相手（場所）	229
	(15) 問 31 の各行為に関して相談しなかった理由	230
	(16) 配偶者などの間における暴力を防止するために必要なこと	231
11	交際相手からの暴力について	233
	(1) 10 代、20 代における交際相手の有無	233
	(2) 10 代、20 代中の交際相手から受けた行為	235
	(3) 10 代、20 代中の交際相手から受けた行為に関して相談した相手（場所）	239
	(4) 問 33-1 の各行為に関して相談しなかった理由	240
12	自由意見	241
13	調査のまとめと今後の課題	248
	【1 男女平等に関する意識について】	248
	【2 家庭生活について】	248
	【3 就業について】	248
	【4 社会参画について】	249
	【5 ハラスメントについて】	249
	【6 新型コロナウイルス感染症の影響について】	250
	【7 性について】	250
	【8 教育について】	250
	【9 市の男女共同参画の推進に関する施策について】	250
	【10 配偶者などからの暴力について】	250
	【11 交際相手からの暴力について】	251

Ⅲ	調査票と単純集計結果	252
---	------------	-----

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、「第4次さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン」の改訂及び今後の市の男女共同参画施策の推進に反映させることを目的として実施したものです。

2 調査対象

さいたま市在住の18歳以上、5,000人を無作為抽出（うち外国人102人）

3 調査期間

令和3年8月2日から令和3年8月23日

（注記）令和3年9月10日回収分までを結果に反映しています。

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収結果

	配布数	有効回答数	有効回答率
市民	5,000通	1,846通	36.9%
男性	2,516通	761通	30.2%
女性	2,484通	1,015通	40.9%
性別無回答		70通	—

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

7 他調査との比較について

(1) さいたま市「男女共同参画に関する市民意識調査」(平成 28 年度)	
対 象	市内在住の満 20 歳以上の男女 5,000 人
調査方法	郵送配布、郵送回収(礼状兼督促状 1 回送付)
調査期間	平成 28 年 8 月 1 日～8 月 22 日
回収状況	有効回収率: 39.6% (男性: 30.1%、女性: 45.5%、性別不詳: -)

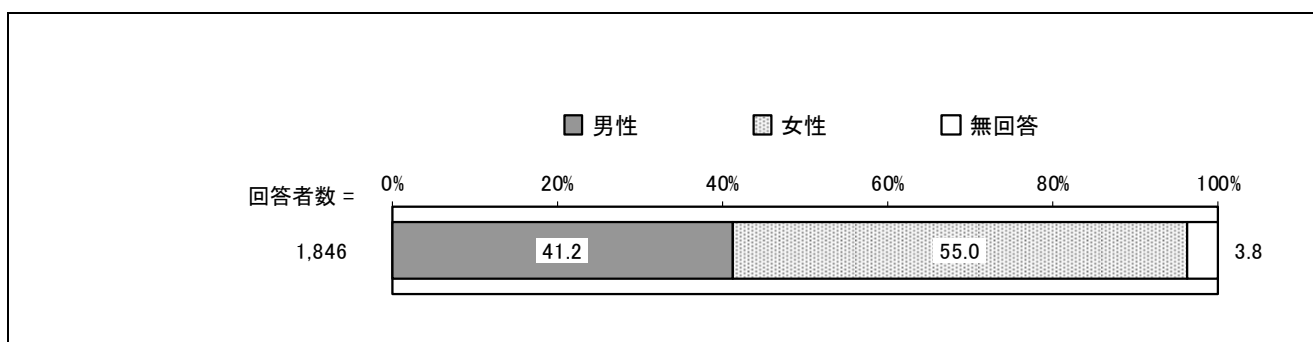
(2) さいたま市「男女共同参画に関する市民意識調査」(平成 23 年度)	
対 象	市内在住の満 20 歳以上の男女 5,000 人
調査方法	郵送配布、郵送回収(礼状兼督促状 1 回送付)
調査期間	平成 23 年 8 月 3 日～8 月 26 日
回収状況	有効回収率: 43.2% (男性: 32.1%、女性: 43.1%)

(3) 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年度)	
対 象	全国 18 歳以上の日本国籍を有する者 5,000 人
調査方法	調査員による個別面接聴取法
調査期間	令和元年 9 月 5 日～9 月 22 日
回収状況	有効回収率: 52.9% (男性: 50.3%、女性: 55.4%)

(4) 埼玉県「男女共同参画に関する意識・実態調査」(令和 2 年度)	
対 象	県内在住の満 18 歳以上の男女 5,000 人
調査方法	郵送配布、郵送回収・インターネット回収併用
調査時期	令和 2 年 9 月
回収状況	有効回収率: 44.4% (男性: 37.0%、女性: 49.6%)

8 回答者の属性

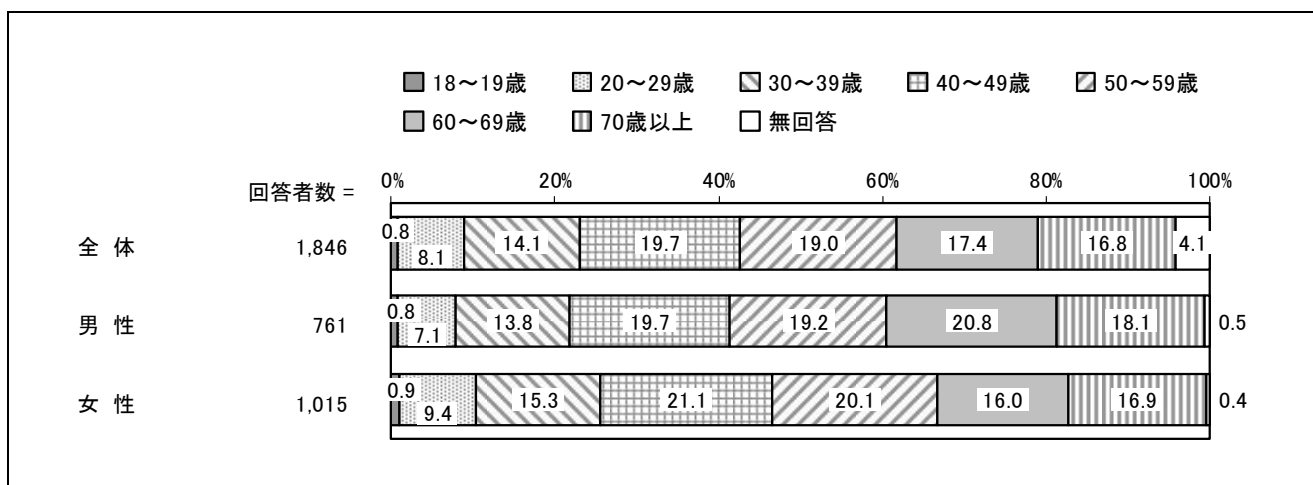
(1) 戸籍上の性別



図表 1-1 戸籍上の性別

「男性」の割合が 41.2%、「女性」の割合が 55.0%となっている。

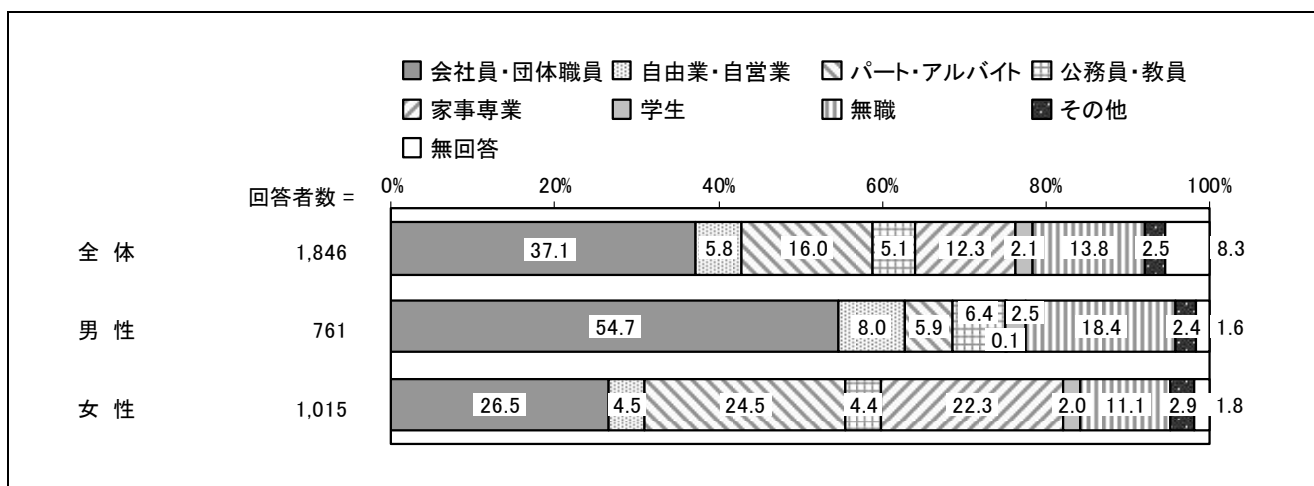
(2) 年齢



図表 1-2 年齢 (性別)

「40～49歳」の割合が 19.7%と最も高く、次いで「50～59歳」の割合が 19.0%、「60～69歳」の割合が 17.4%となっている。

(3) 就労状況

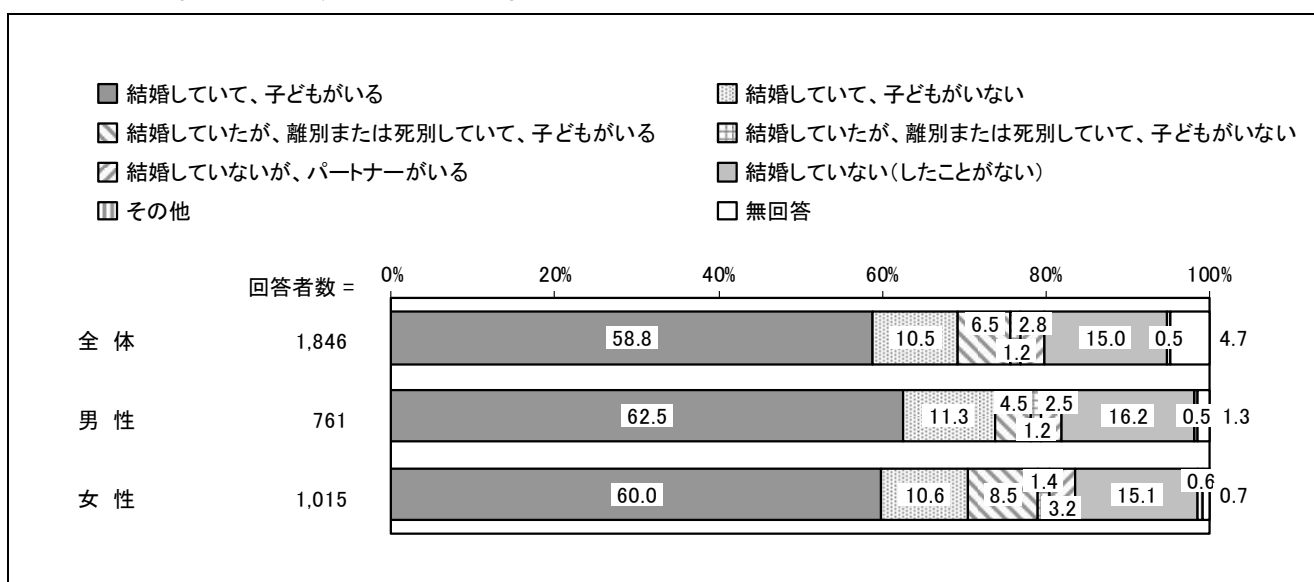


図表 1-3 就労状況（性別）

「会社員・団体職員」の割合が37.1%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」(16.0%)、「無職」(13.8%)となっている。

男性は「会社員・団体職員」が約5割、「無職」が2割近くとなっており、他の項目は1割未満となっている。女性は、「会社員・団体職員」「パート・アルバイト」「家事専業」がそれぞれ2割を超えている。

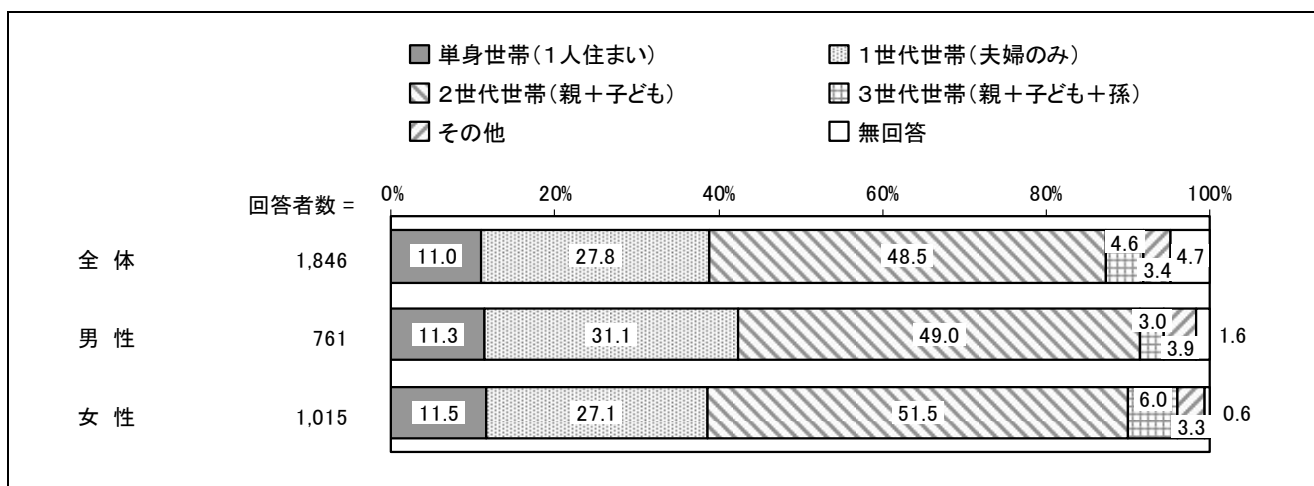
(4) 婚姻状況、子どもの有無



図表 1-4 婚姻状況、子どもの有無（性別）

「結婚していて、子どもがいる」の割合が58.8%と最も高く、次いで「結婚していない(したことがない)」(15.0%)、「結婚していて、子どもがいない」(10.5%)となっている。

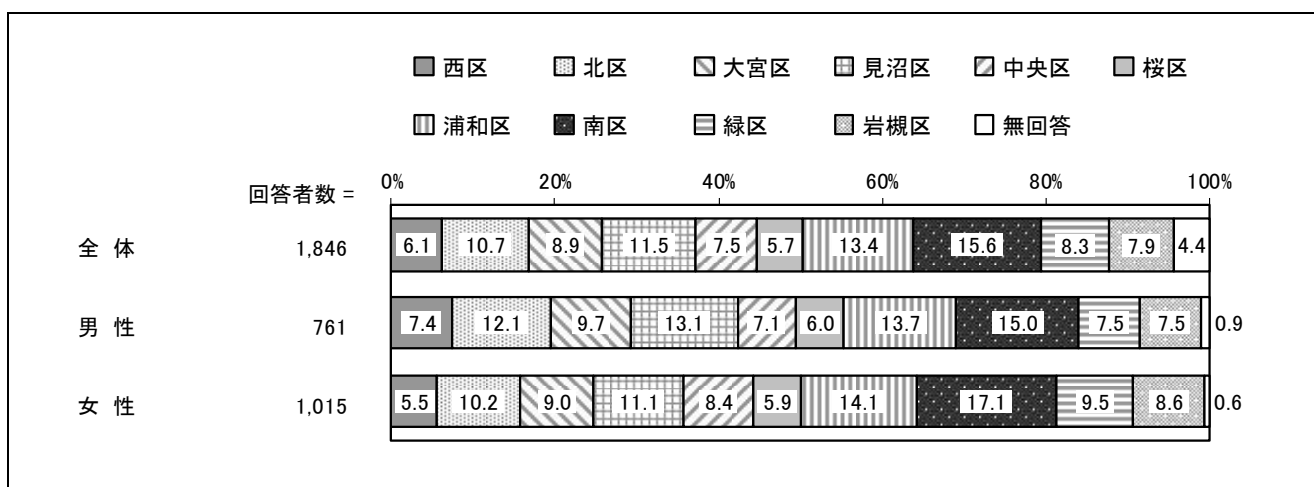
(5) 家族構成



図表 1-5 家族構成 (性別)

「2世代世帯(親+子ども)」の割合が48.5%と最も高く、次いで「1世代世帯(夫婦のみ)」(27.8%)、「単身世帯(1人住まい)」(11.0%)となっている。

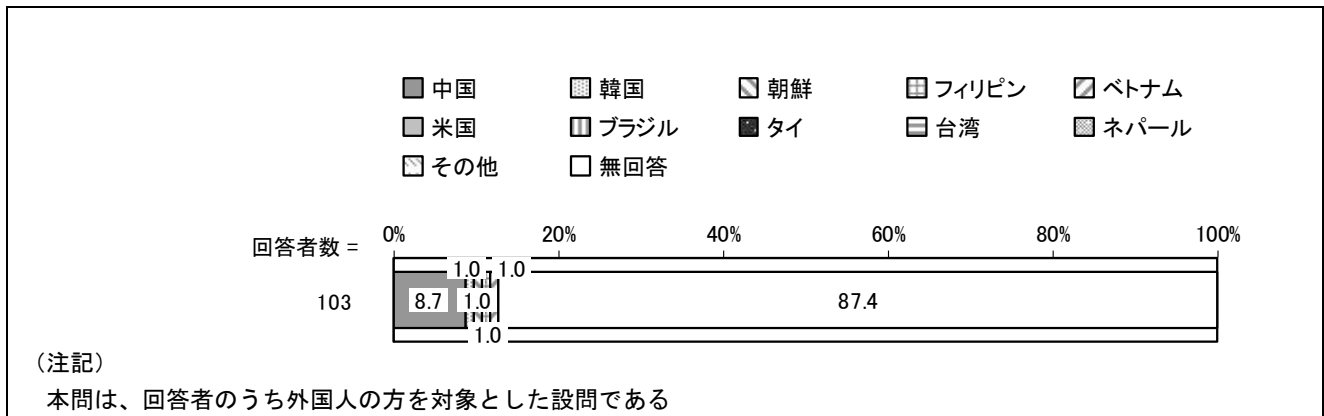
(6) 居住区



図表 1-6 居住区 (性別)

「南区」の割合が15.6%と最も高く、次いで「浦和区」(13.4%)、「見沼区」(11.5%)となっている。

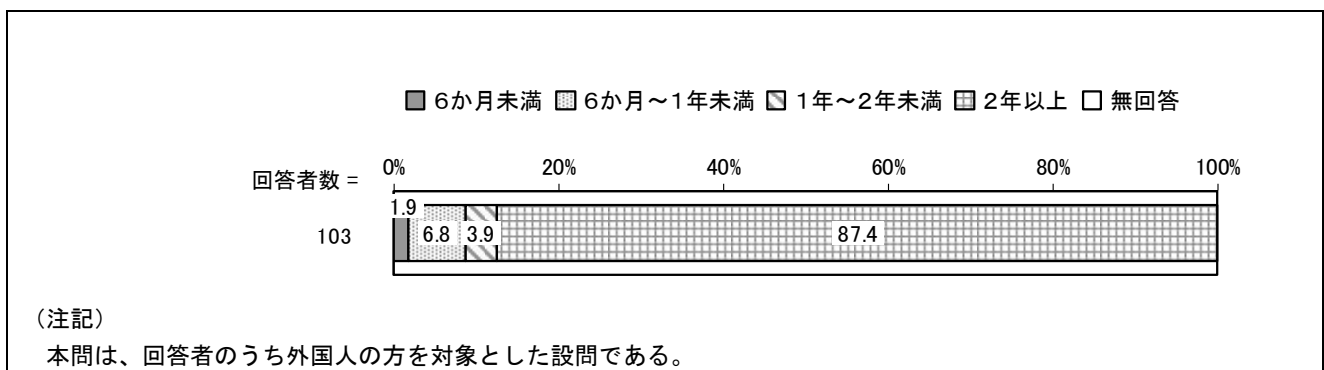
(7) 国籍



図表 1-7 国籍

「中国」の割合が8.7%と最も高くなっている。

(8) 滞在年数



図表 1-8 滞在年数

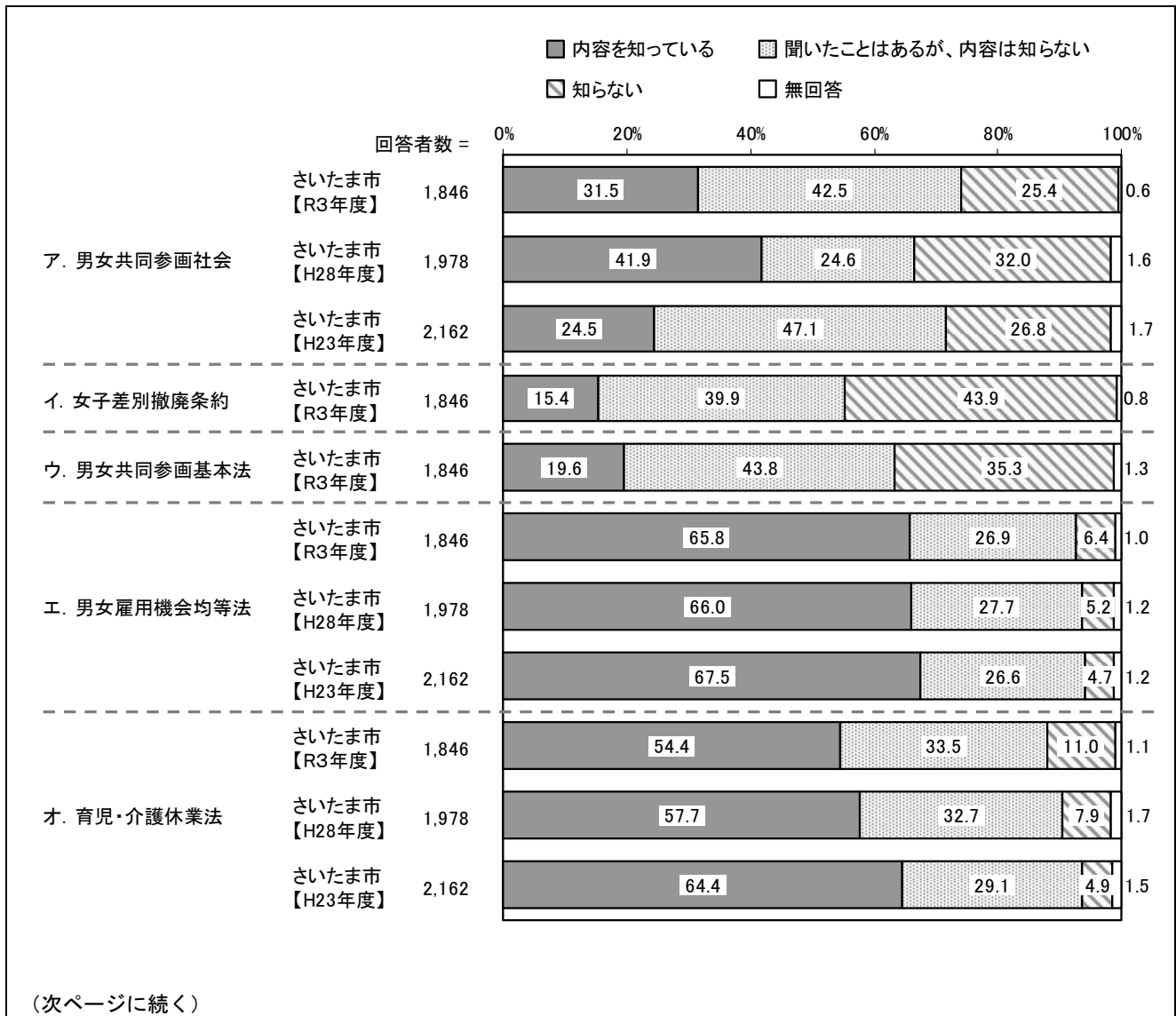
「2年以上」の割合が87.4%と最も高くなっている。

II 調査結果

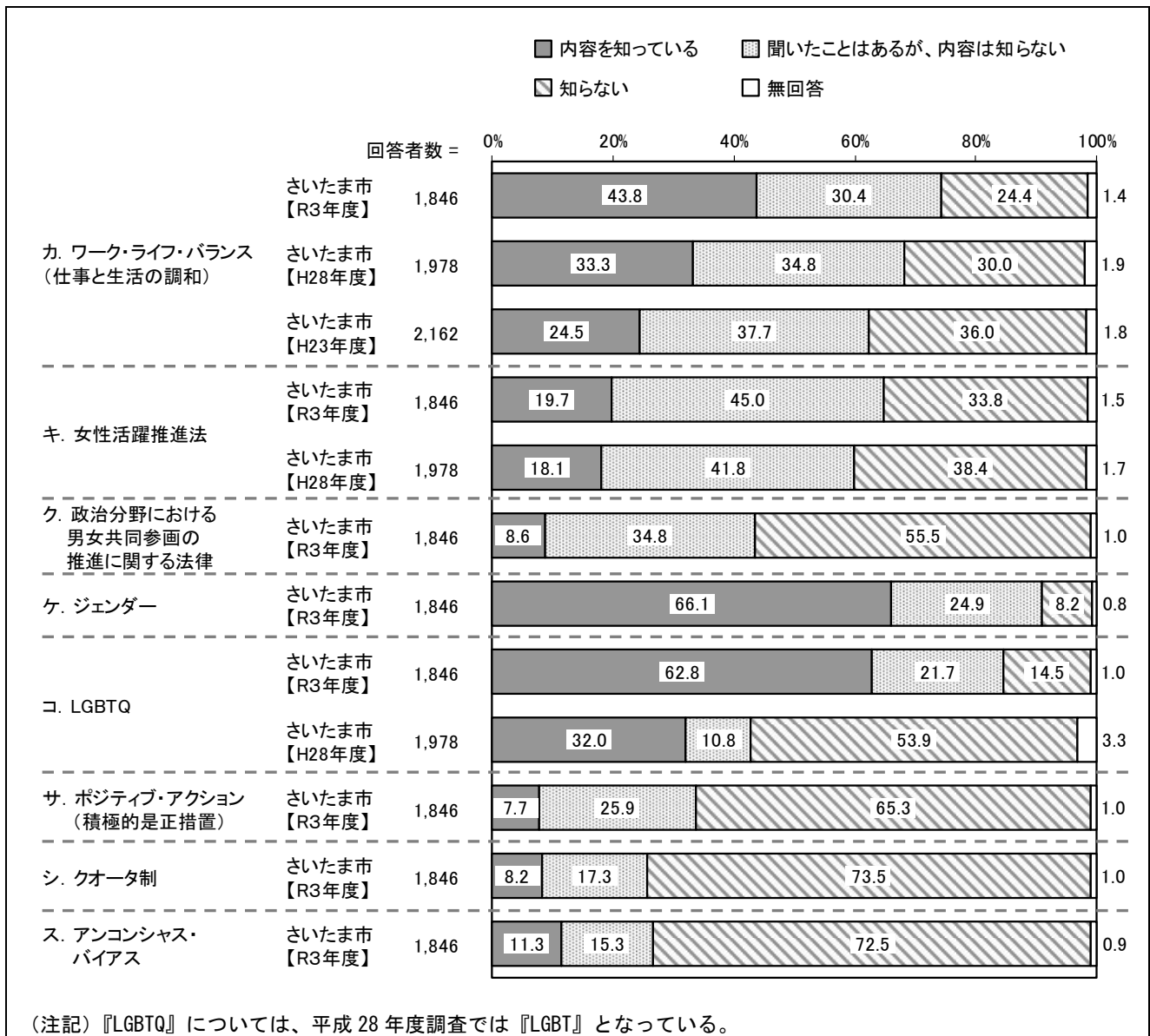
1 男女平等に関する意識について

(1) 言葉の認知度

問1. あなたは、次にあげる言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。
(ア～スのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)



図表 2-1-1-1 男女共同参画に関する言葉の認知度 (その1)



図表 2-1-1-2 男女共同参画に関する言葉の認知度 (その2)

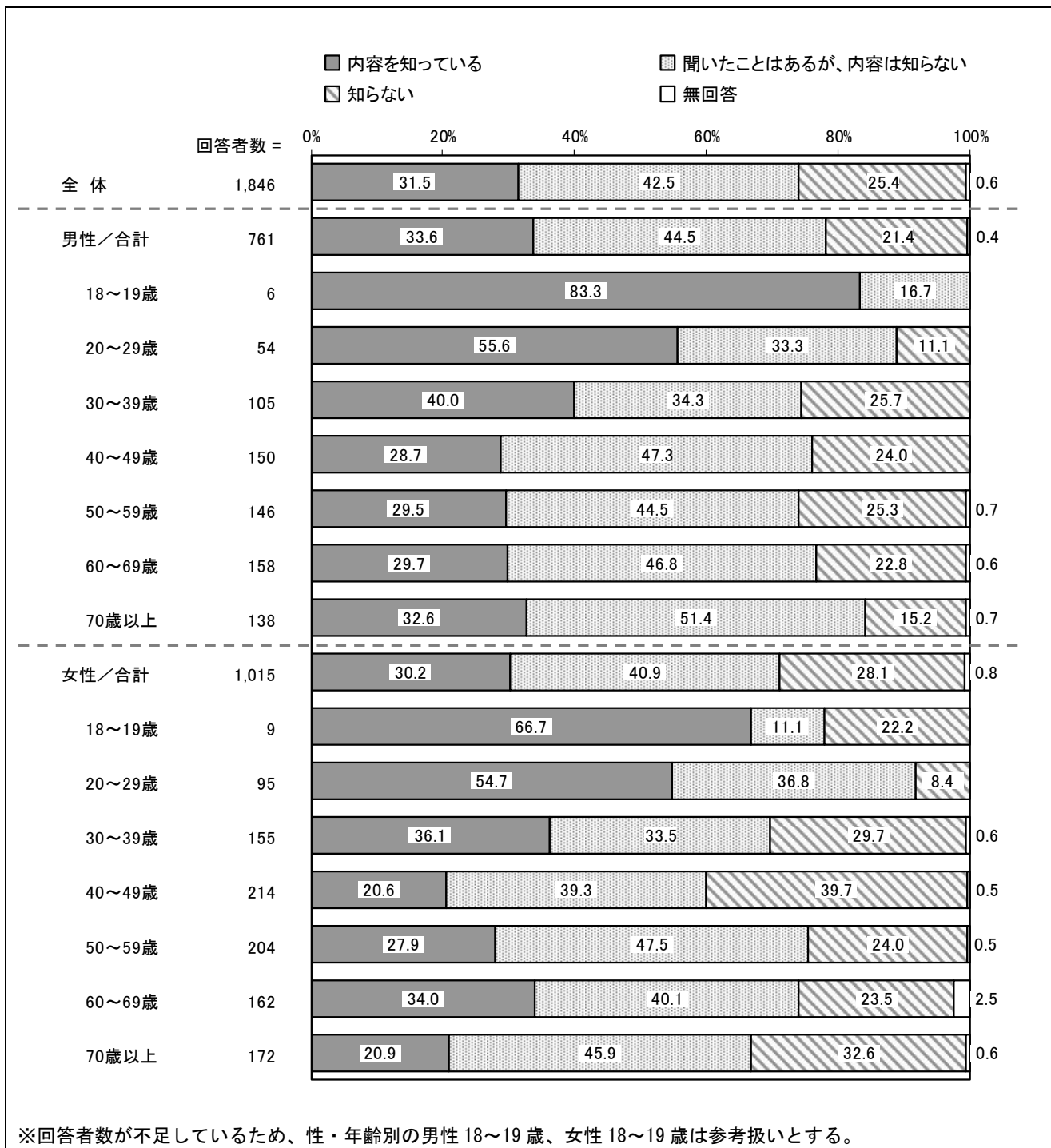
○全体の傾向・経年変化

男女共同参画に関する言葉の認知度について、「内容を知っている」人の割合は、『男女雇用機会均等法』(65.8%)、『ジェンダー』(66.1%)、『LGBTQ』(62.8%)で6割を超えており、また『育児・介護休業法』(54.4%)でも過半数を超えている。

一方、「知らない」人の割合は『政治分野における男女共同参画の推進に関する法律』(55.5%)、『ポジティブ・アクション (積極的是正措置)』(65.3%)、『クオータ制』(73.5%)、『アンコンシャス・バイアス』(72.5%)で高く、特に「クオータ制」「アンコンシャス・バイアス」では7割を超えている。

過去の調査と比較すると、『ワーク・ライフ・バランス』、『LGBTQ』では「内容を知っている」の割合が大きく増加しており、前者では10.5ポイント、後者では30.8ポイントの増加がみられる。一方、『男女共同参画社会』では「内容を知っている」の割合が10.4ポイント減少している。なお、『男女雇用機会均等法』、『育児・介護休業法』、『女性活躍推進法』では大きな変化はみられない。

ア. 男女共同参画社会

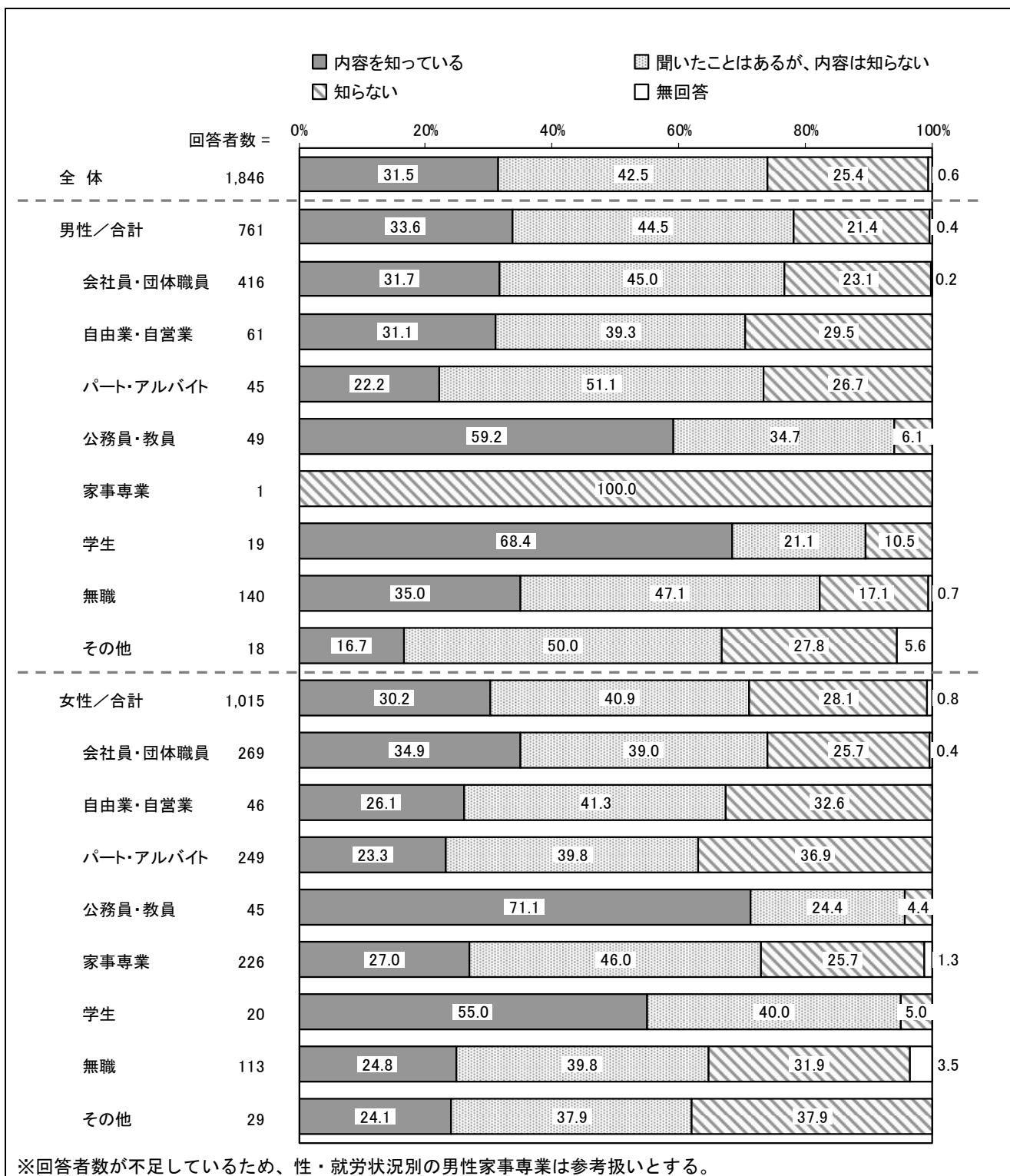


図表 2-1-2 「男女共同参画社会」という言葉の認知度（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

『男女共同参画社会』の認知度を性別で見ると、「知らない」の割合は男性（21.4%）よりも女性（28.1%）で高くなっている。

性・年齢別で見ると、男女とも20～29歳で「内容を知っている」の割合が高く、5割半ばとなっている。一方、女性の40～49歳、70歳以上では「内容を知っている」よりも「知らない」の割合が高く、特に女性の40～49歳では「知らない」が4割近くを占めている。

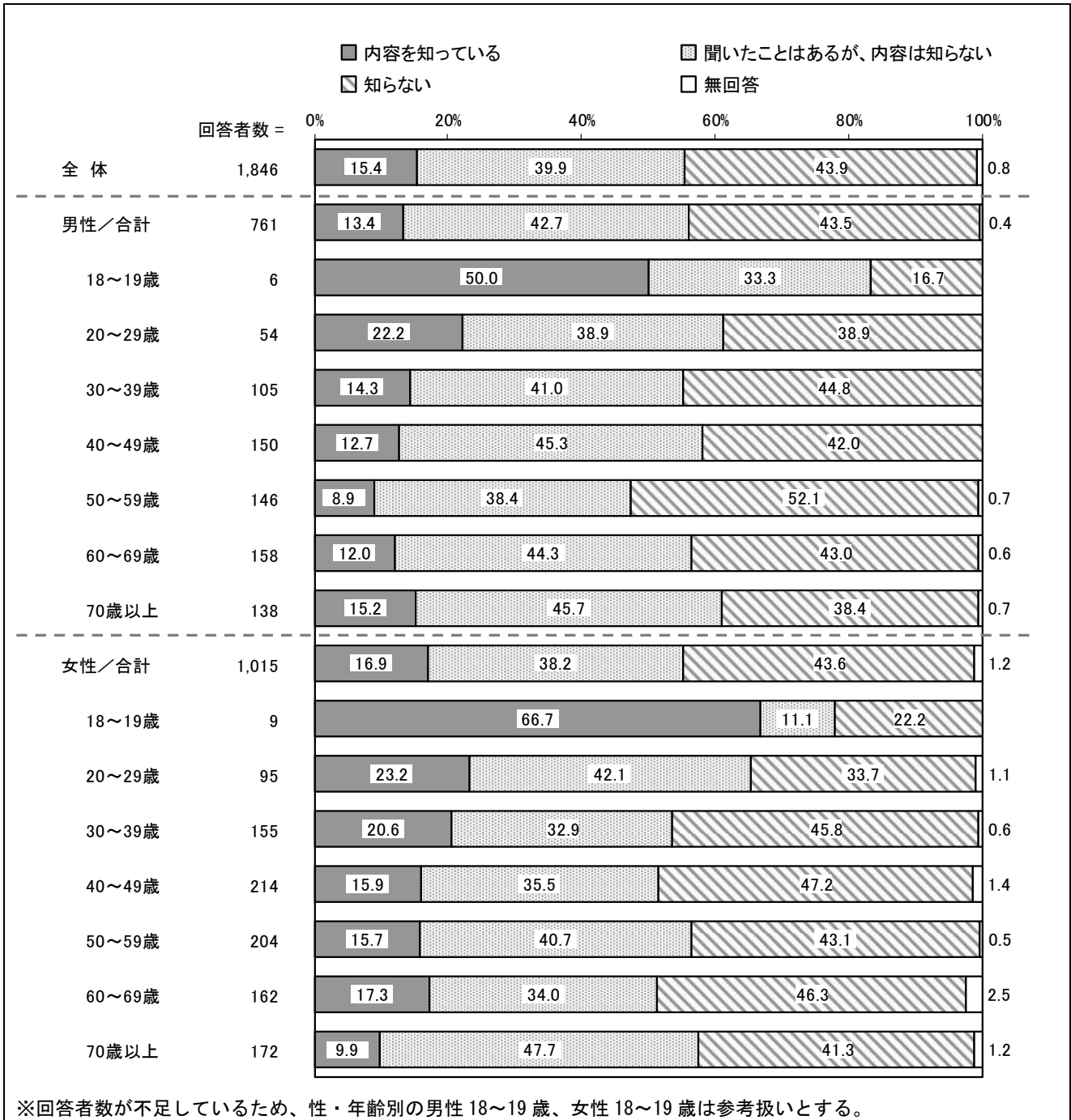


図表 2-1-3 「男女共同参画社会」という言葉の認知度（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

『男女共同参画社会』の認知度を性・就労状況別でみると、「内容を知っている」の割合は男女とも公務員・教員、学生で高く、特に男性の学生（68.4%）、女性の公務員・教員（71.1%）で約7割となっている。一方、女性のパート・アルバイトでは「知らない」の割合が36.9%と高くなっている。

イ. 女子差別撤廃条約

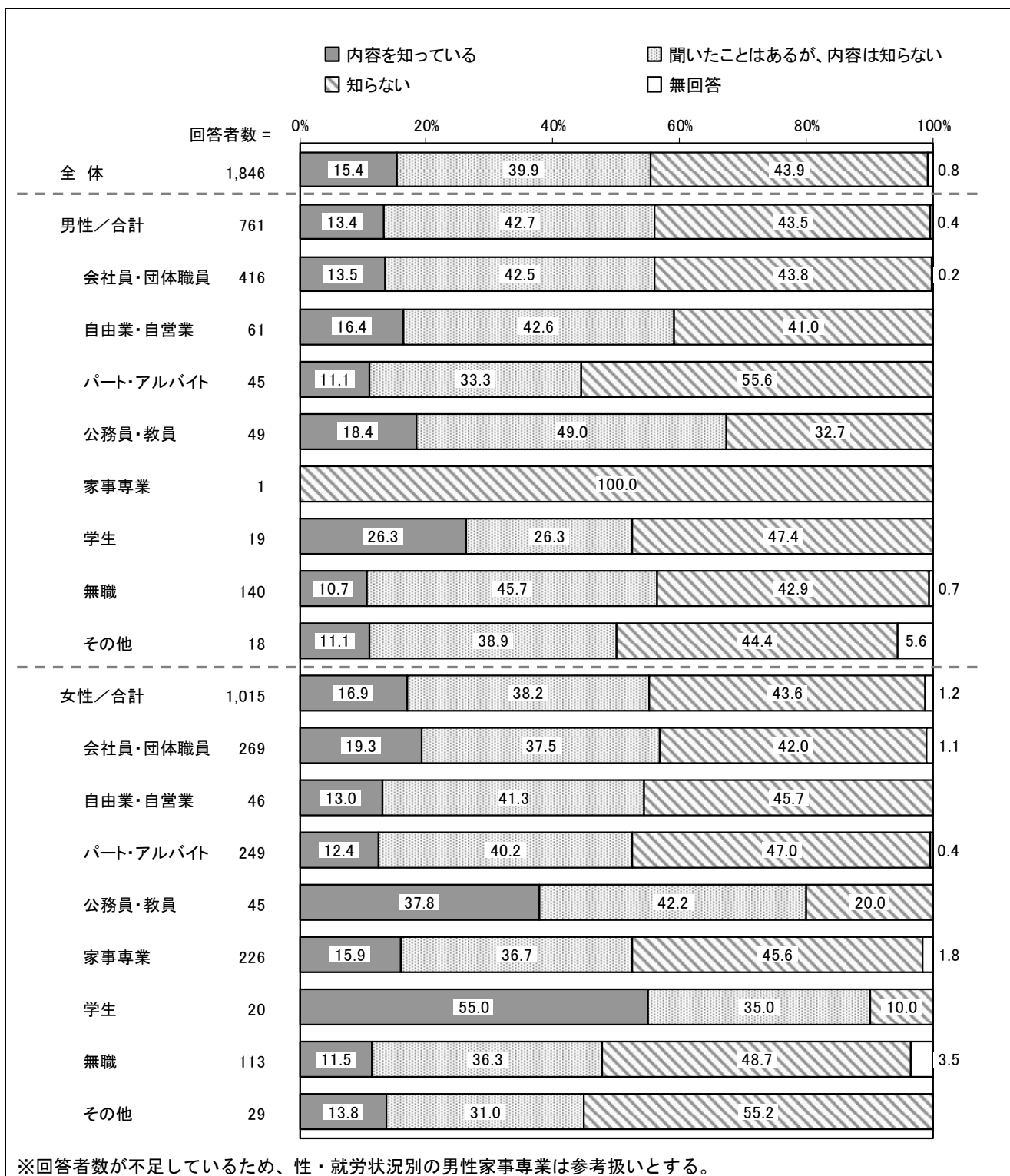


図表 2-1-4 「女子差別撤廃条約」という言葉の認知度（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「内容を知っている」の割合は、男性（13.4%）、女性（16.9%）と男女とも1割台と大きな差はみられず、また、男女ともに年齢が高くなるにつれ「内容を知っている」の割合が低くなる傾向がみられる。

「知らない」の割合は、男性の50～59歳（52.1%）、女性の40～49歳（47.2%）で高く、ともに約5割となっている。

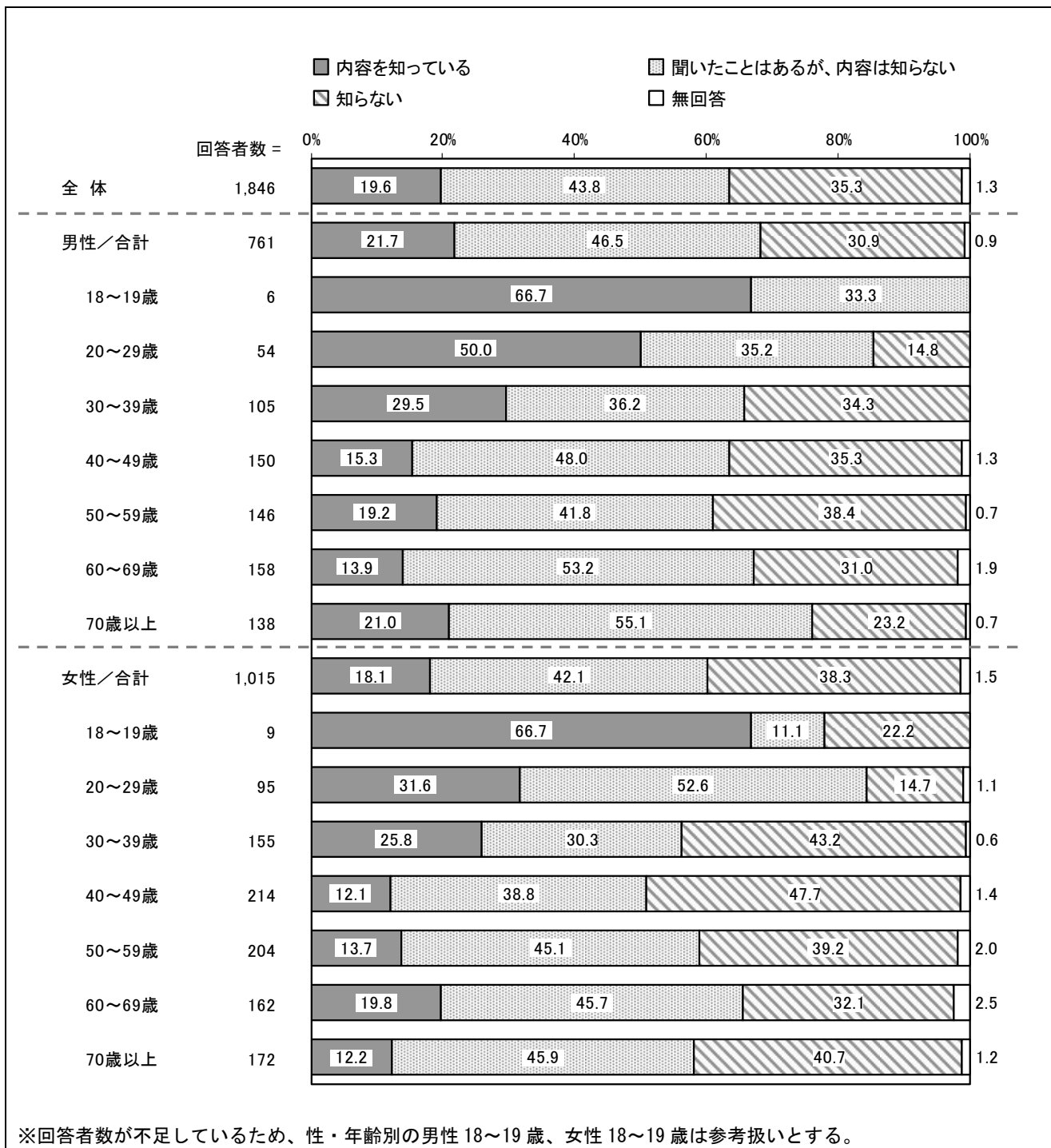


図表 2-1-5 「女子差別撤廃条約」という言葉の認知度（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「内容を知っている」の割合は、女性の学生（55.0%）で5割を超えているほか、女性の公務員・教員でも37.8%と高くなっている。一方、男性のパート・アルバイトでは「知らない」の割合が55.6%と半数を超え、女性のパート・アルバイトでも47.0%と半数近くと、高い割合となっている。

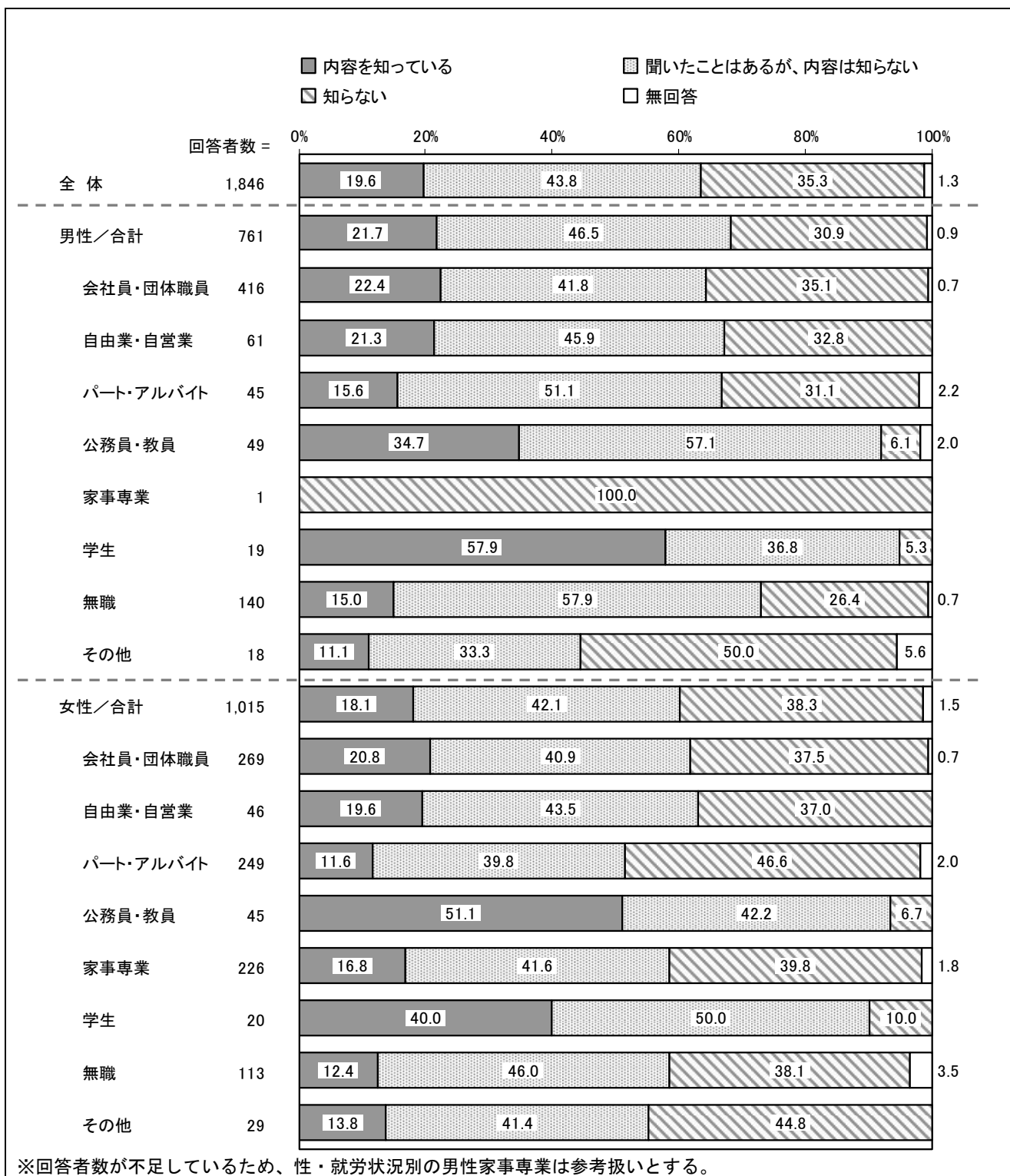
ウ. 男女共同参画基本法



図表 2-1-6 「男女共同参画基本法」という言葉の認知度（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「内容を知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合は男女で差が小さいものの、「知らない」の割合は、男性（30.9%）よりも女性（38.3%）で高くなっている。特に、女性の70歳以上（40.7%）では、男性（23.2%）に比べ17.5ポイント高くなっている。また、「内容を知っている」の割合は、男性の20～29歳で高く、50.0%と半数に上っている。

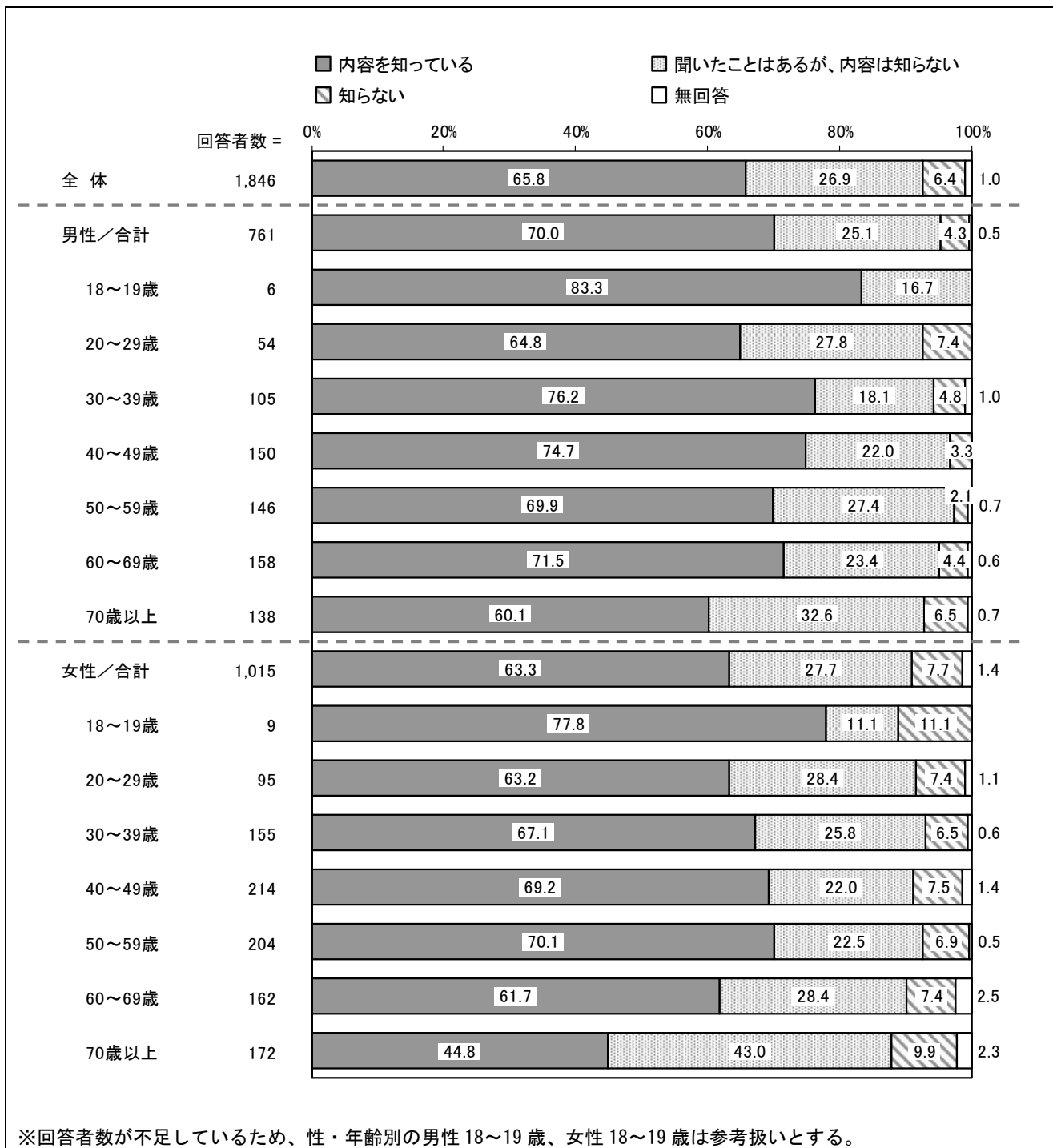


図表 2-1-7 「男女共同参画基本法」という言葉の認知度（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「内容を知っている」の割合は、男性の学生（57.9%）、女性の公務員・教員（51.1%）で高く、半数以上となっている。また、「知らない」の割合については、すべての職業で、男性より女性で高く、特に女性のパート・アルバイトでは46.6%と半数近くとなっている。

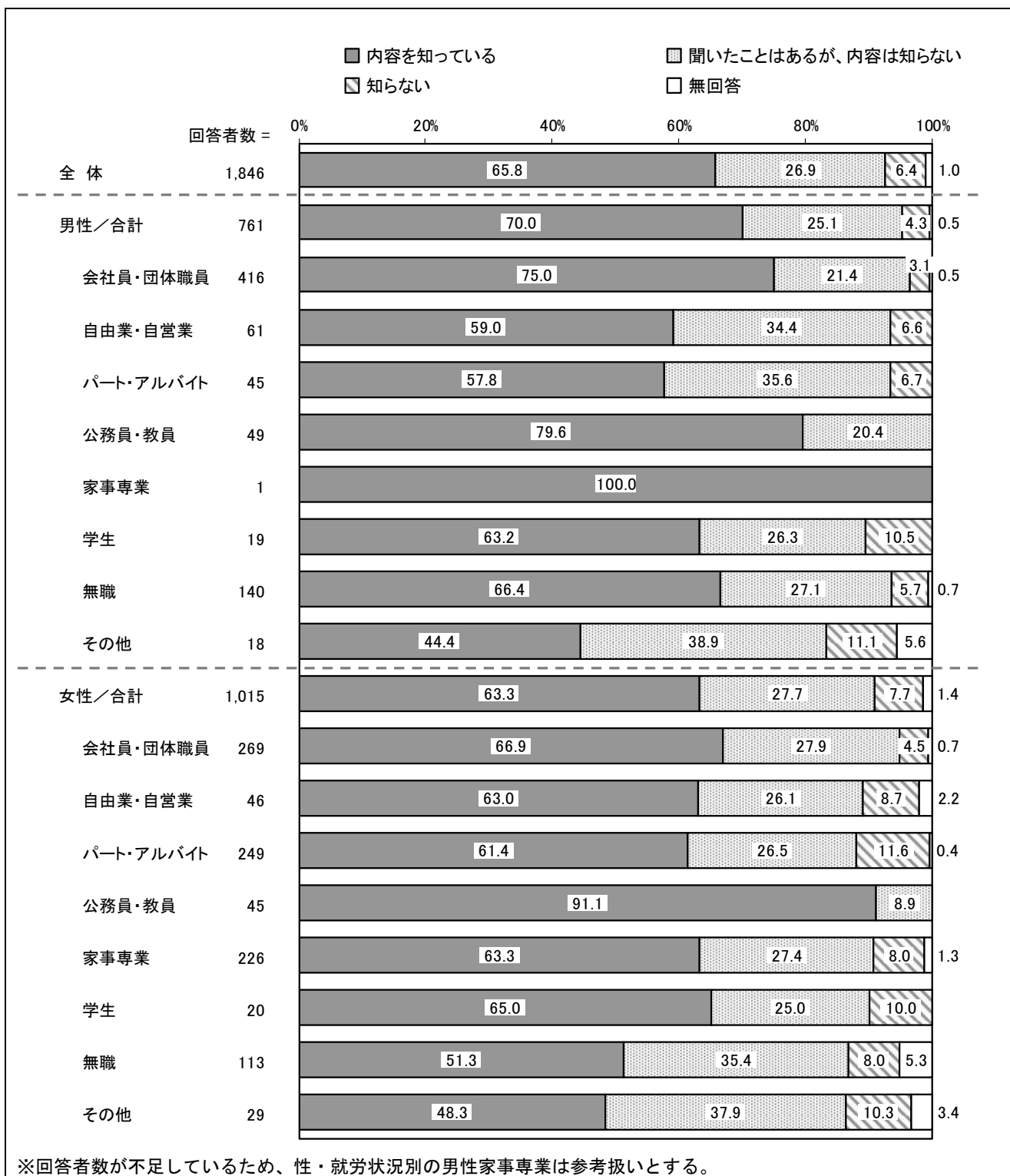
工. 男女雇用機会均等法



図表 2-1-8 「男女雇用機会均等法」という言葉の認知度（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「内容を知っている」の割合は、女性（63.3%）により男性（70.0%）で高くなっている。中でも、男性の40～49歳では「内容を知っている」が74.7%と7割半ばを占めている。一方、女性の70歳以上では「内容を知っている」の割合は44.8%と半数未満となっている。なお、「知らない」の割合は、男女ともすべての年代で1割未満となっている。

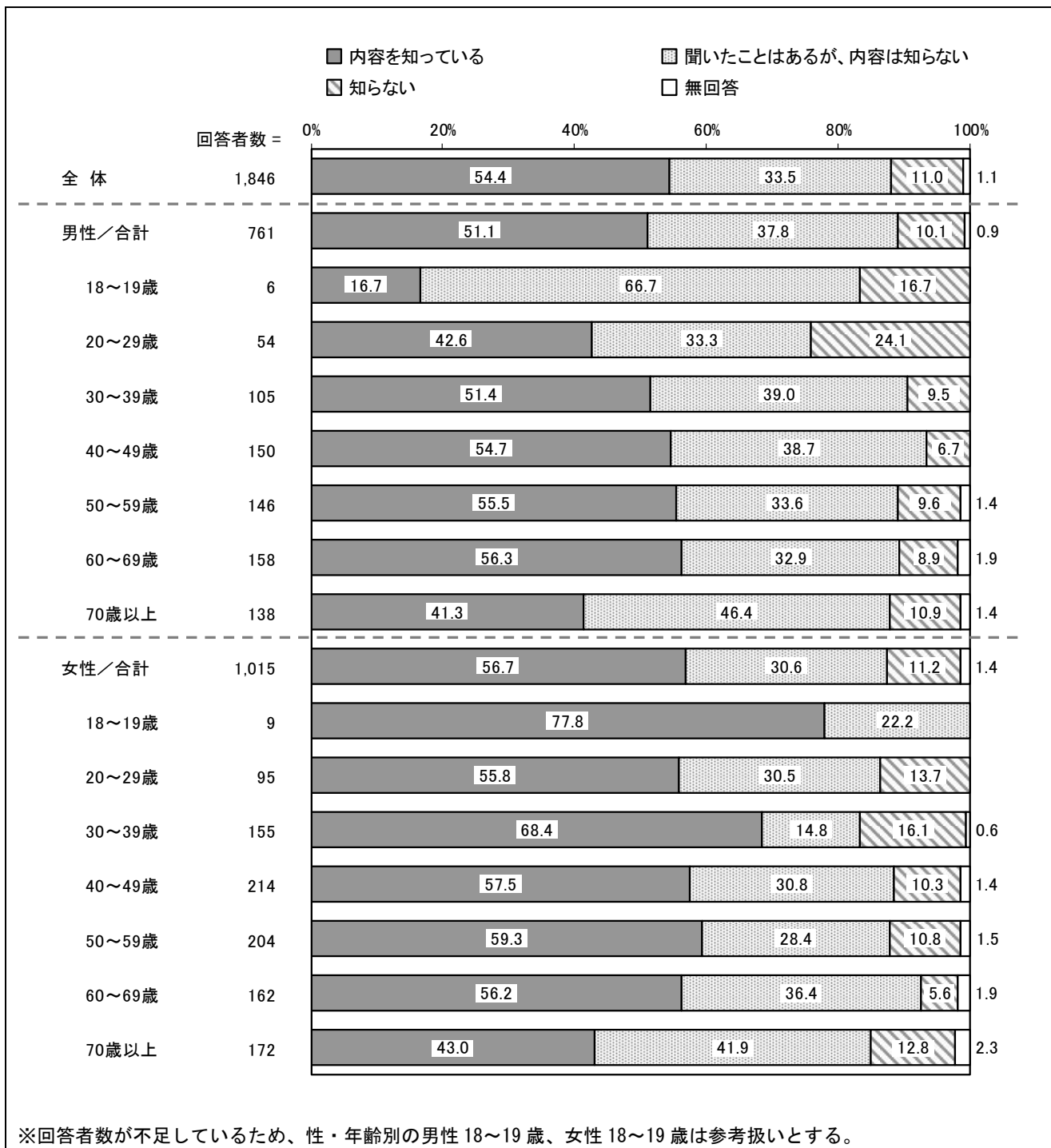


図表 2-1-9 「男女雇用機会均等法」という言葉の認知度（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「内容を知っている」の割合については、女性の公務員・教員（91.1%）と9割を超え、男性の公務員・教員より11.5ポイント高くなっている。また、男性の会社員・団体職員（75.0%）、男性の公務員・教員（79.6%）でも7割を超えている。一方、女性の無職では51.3%と半数にとどまっている。

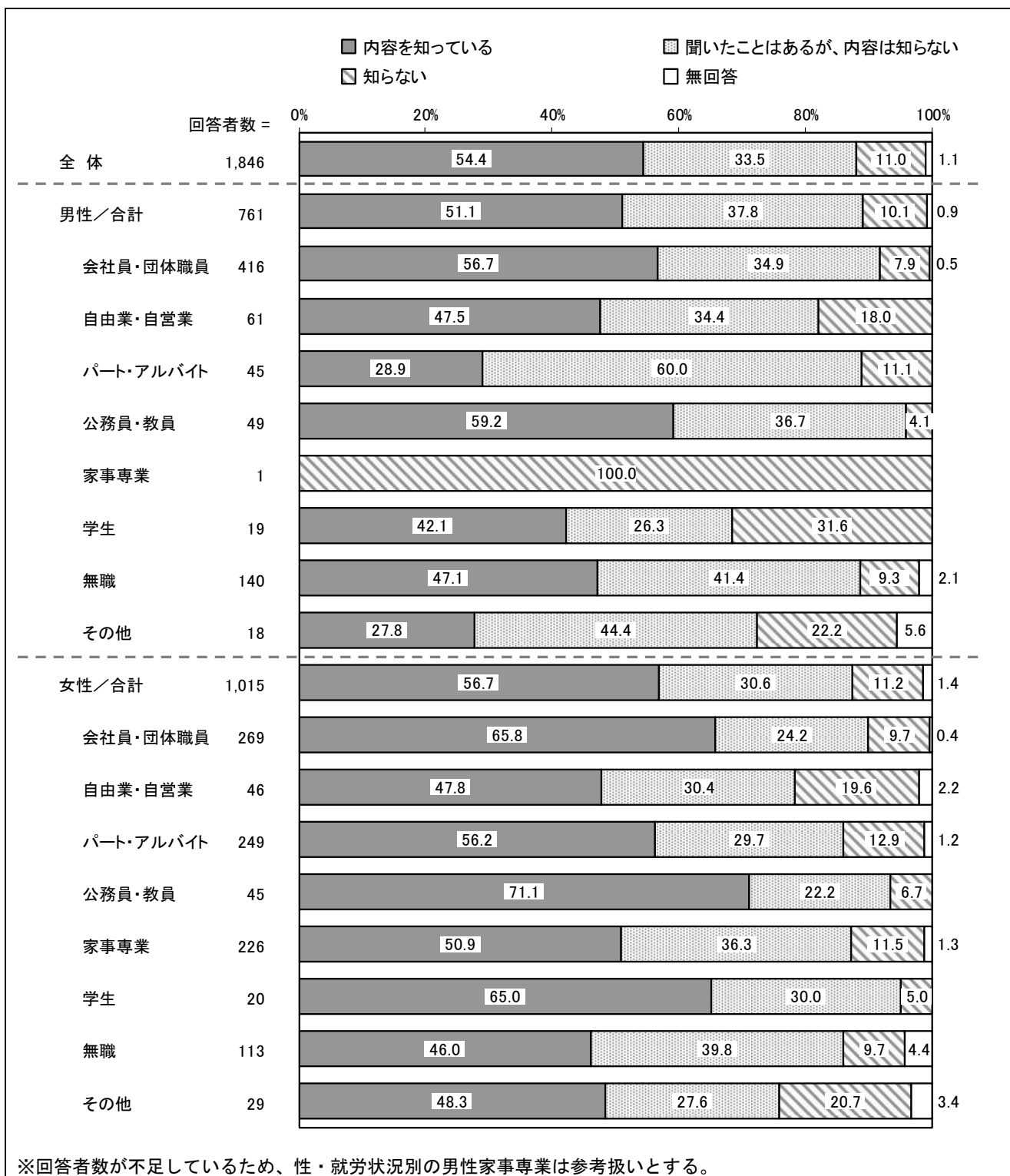
オ. 育児・介護休業法



図表 2-1-10 「育児・介護休業法」という言葉の認知度（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「内容を知っている」の割合は、男性（51.1%）より女性（56.7%）で高い。年齢別でも60～69歳を除くすべての年代で男性より女性で「内容を知っている」の割合が高く、特に30～39歳では男性（51.4%）と女性（68.4%）で17.0ポイントの差となっている。また、男性の20～29歳で「知らない」の割合が24.1%と高く、同じ女性の20～29歳（13.7%）より10.4ポイント高くなっている。

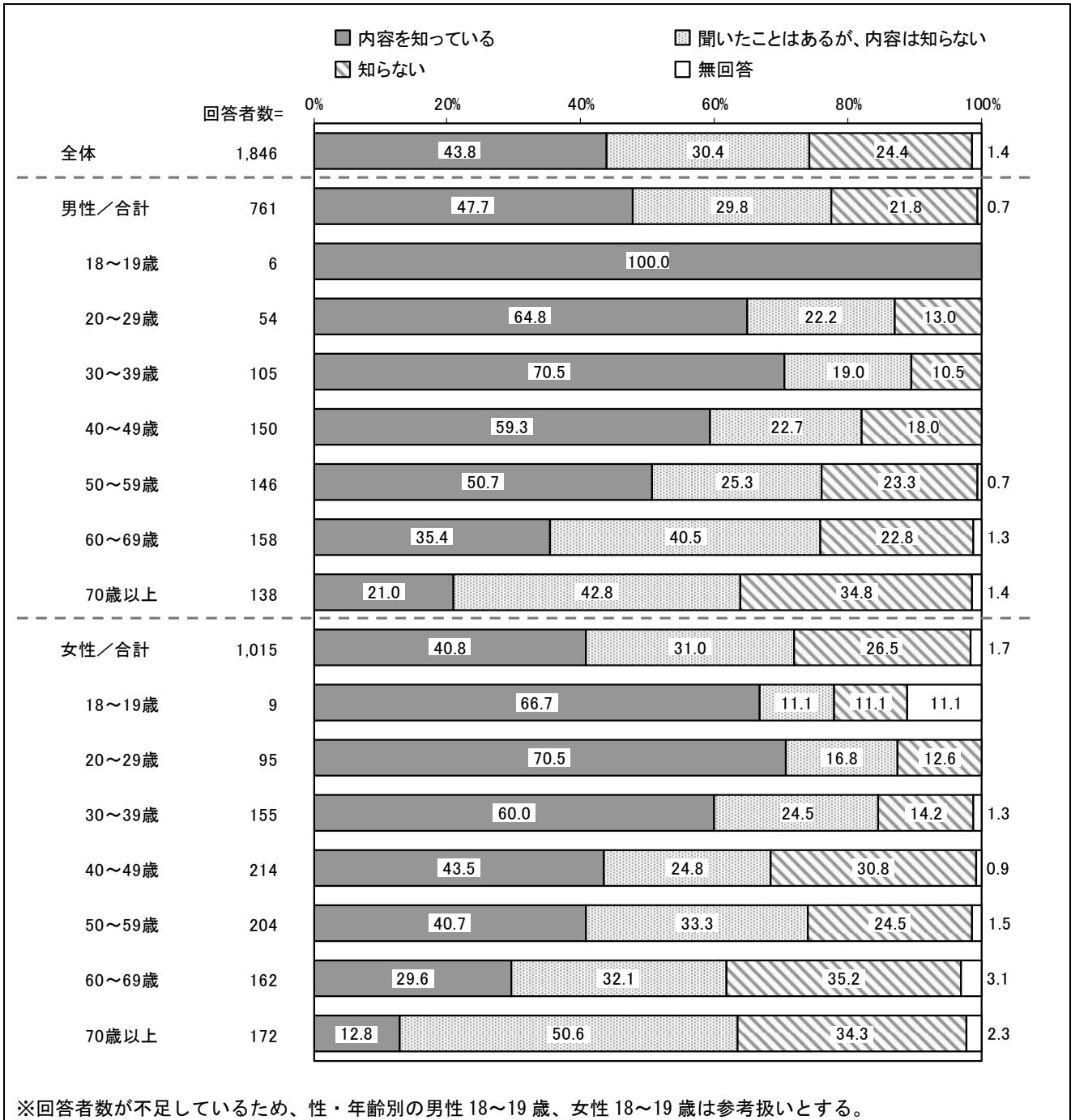


図表 2-1-11 「育児・介護休業法」という言葉の認知度（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「内容を知っている」の割合は、無職では男女の差が小さいが、無職を除く職業では、男性より女性で高い。特に、パート・アルバイト、学生では、男性と女性で20ポイント以上の差がついている。また、「知らない」の割合は男性の学生で31.6%と高くなっている。

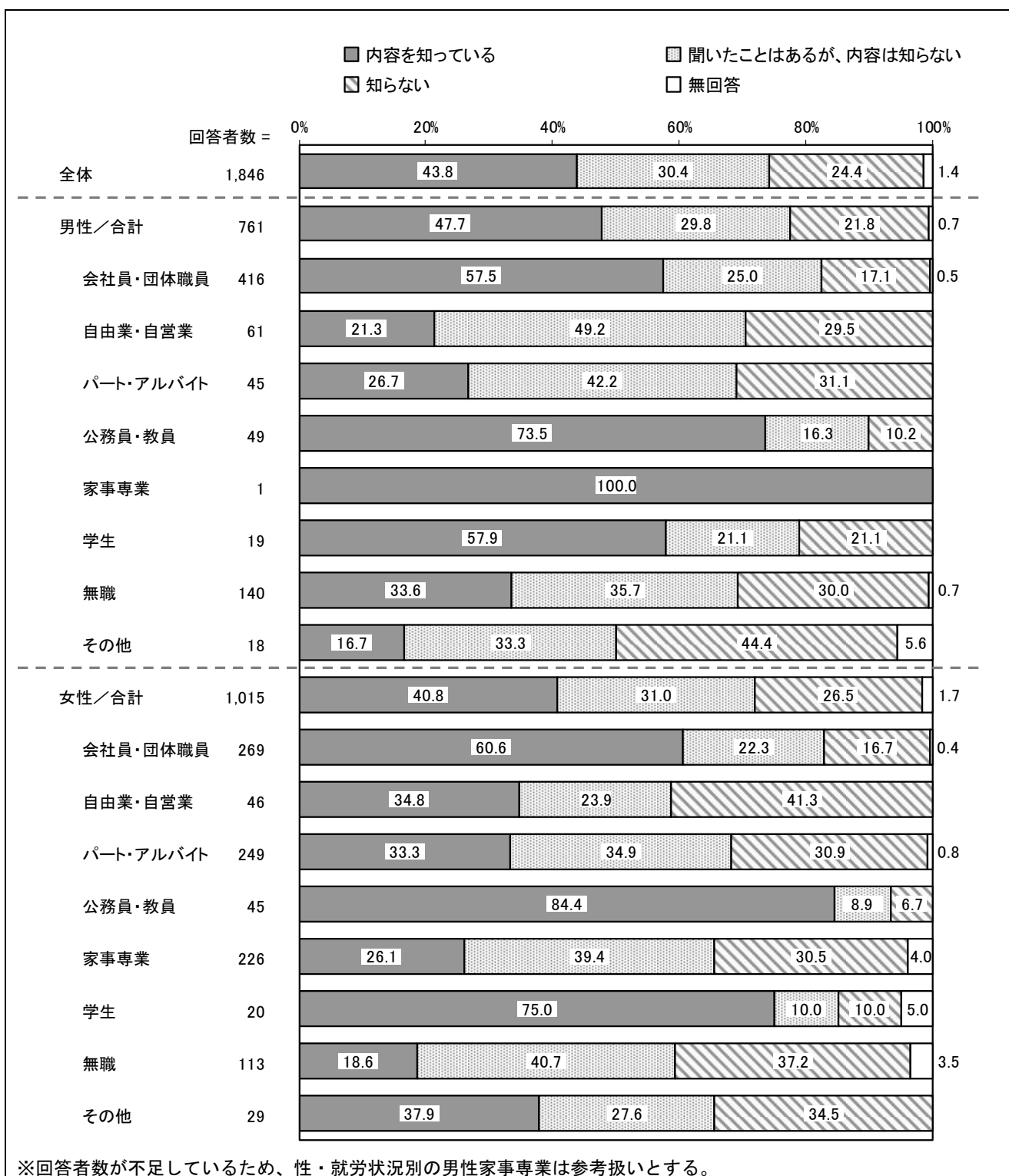
カ. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



図表 2-1-12 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉の認知度（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「内容を知っている」の割合は、女性（40.8％）に比べ、男性（47.7％）で高く、6.9ポイントの差がついている。年齢別でも20～29歳を除くすべての年代で、女性より男性で「内容を知っている」の割合が高くなっているが、20～29歳では女性（70.5％）のほうが男性（64.8％）より5.7ポイント高くなっている。また、男性の70歳以上、女性の60歳以上で「知らない」の割合が高く、3割半ばとなっている。



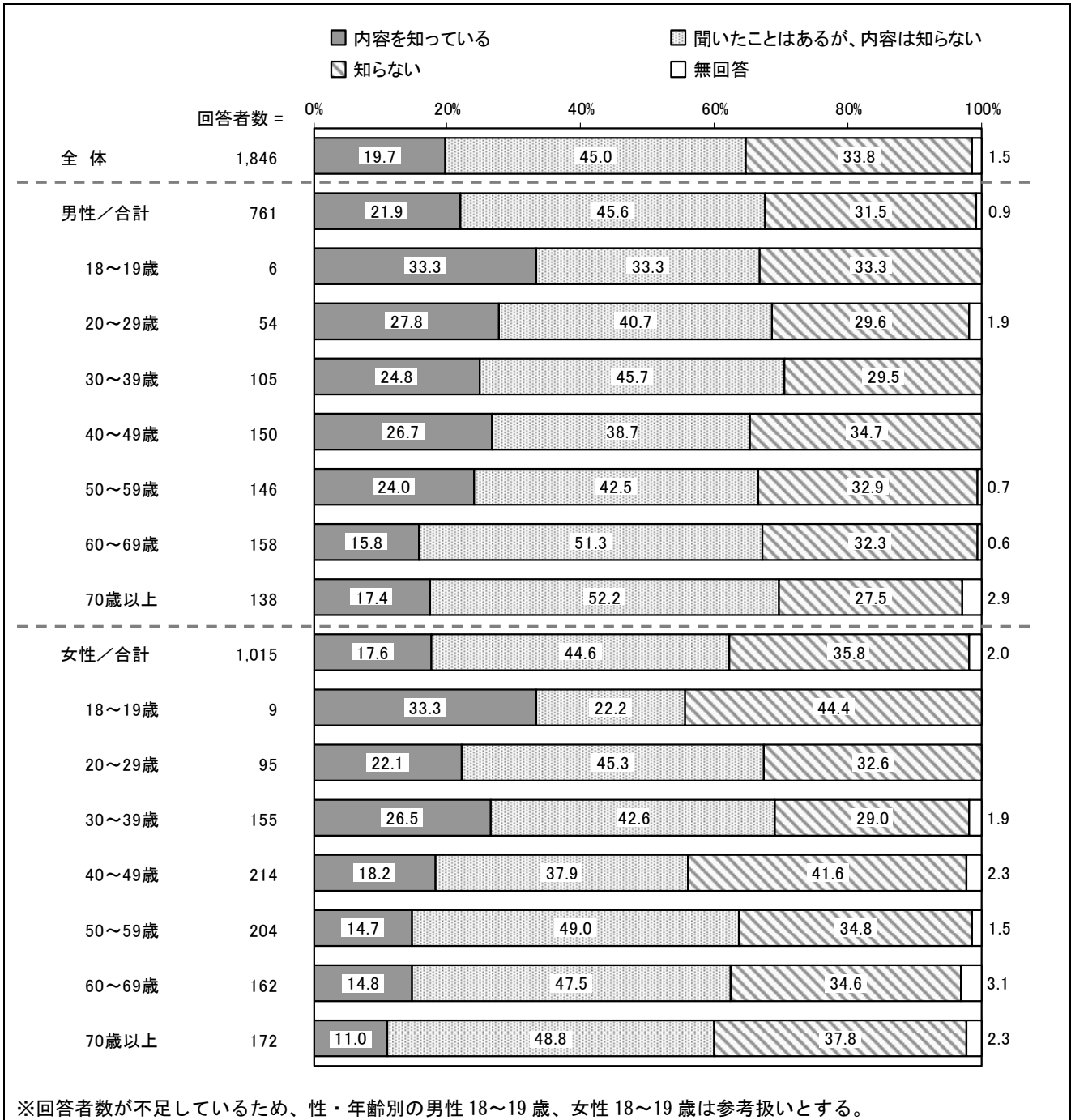
図表 2-1-13 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉の認知度（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「内容を知っている」の割合は、会社員・団体職員、自由業・自営業、パート・アルバイト、公務員・教員、学生では男性よりも女性で高く、特に学生では17.1ポイント差がついている。一方、無職では女性より男性で「内容を知っている」の割合が15.0ポイント高くなっている。

「知らない」の割合は、女性の自由業・自営業で高く、41.3%にのぼっている。

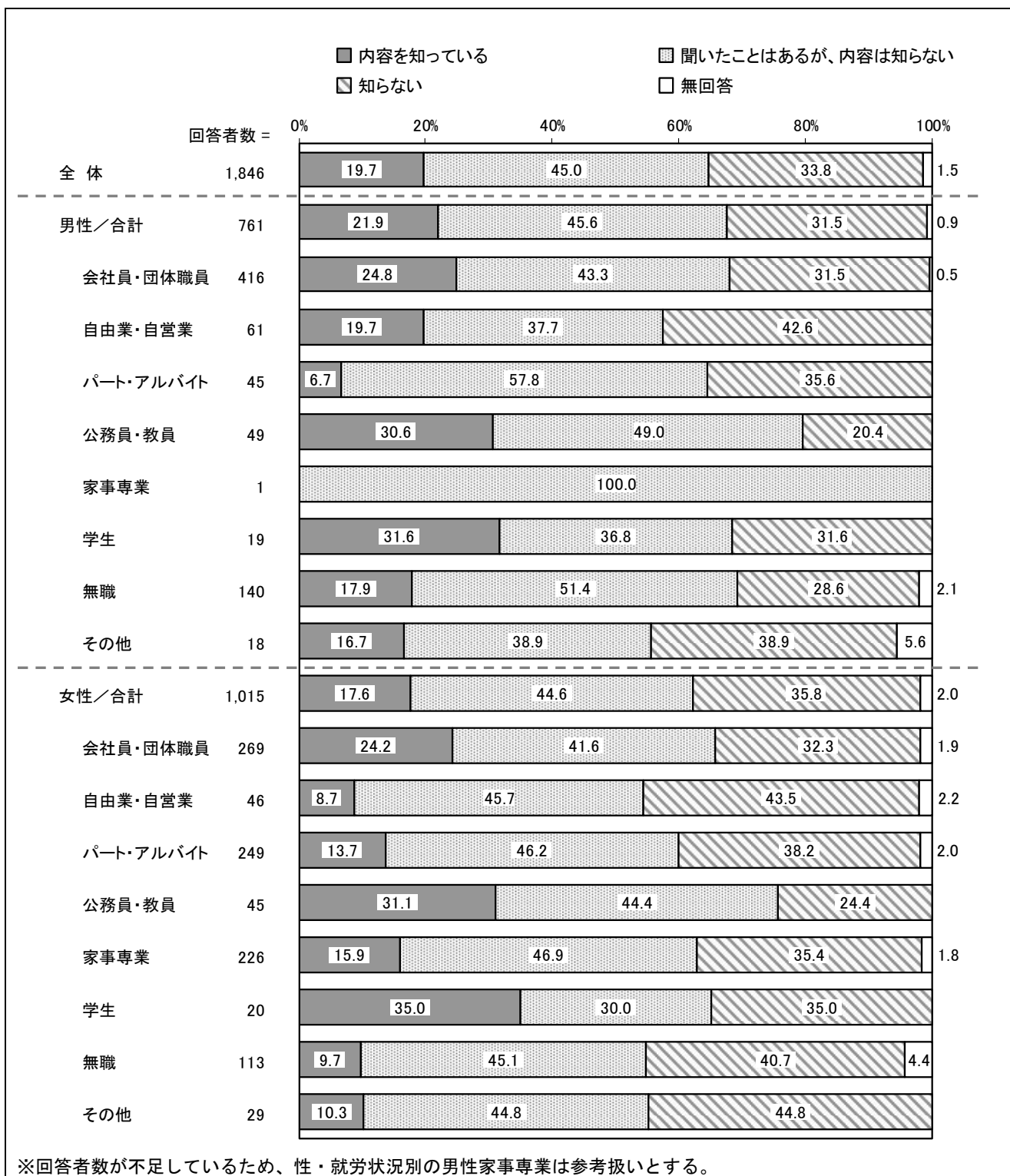
キ. 女性活躍推進法



図表 2-1-14 「女性活躍推進法」という言葉の認知度（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、「内容を知っている」の割合は、女性（17.6%）より男性（21.9%）で高くなっている。年齢別でも、30～39歳を除くすべての年代で、女性より男性で「内容を知っている」の割合が高くなっている。また、「知らない」の割合は、女性の40～49歳で高く、41.6%となっている。また、70歳以上では、「知らない」の割合が男性（27.5%）より女性（37.8%）で10.3ポイント高くなっている。

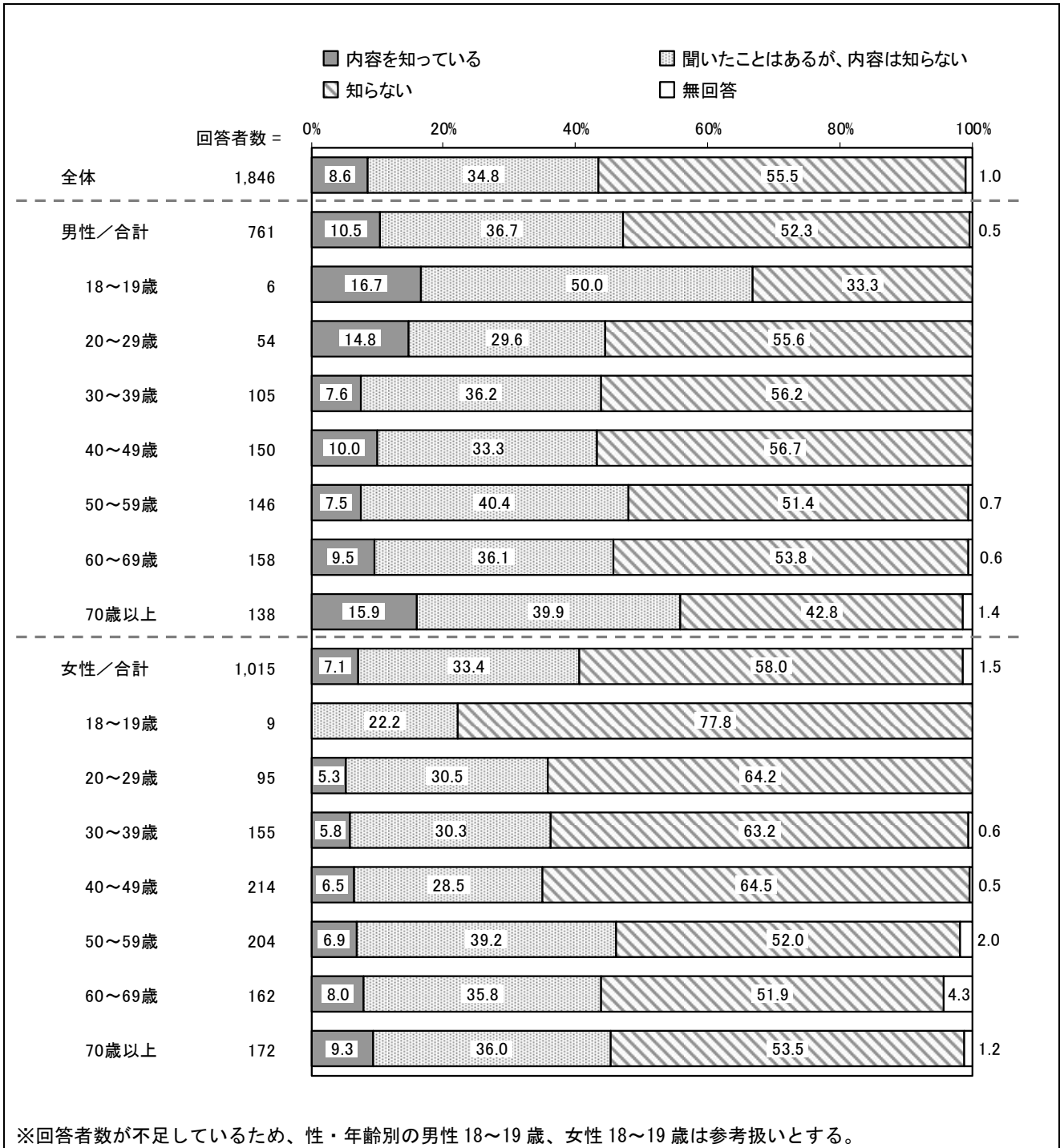


図表 2-1-15 「女性活躍推進法」という言葉の認知度（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「内容を知っている」の割合は、パート・アルバイト、公務員・教員、学生では男性より女性で高く、特に女性の学生では35.0%と高くなっている、一方、自由業・自営業、無職では、「知らない」の割合は、男性より女性で高く、特に無職では女性（40.7%）で4割を占め、男性（28.6%）に比べ12.1ポイント高くなっている。

ク. 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律

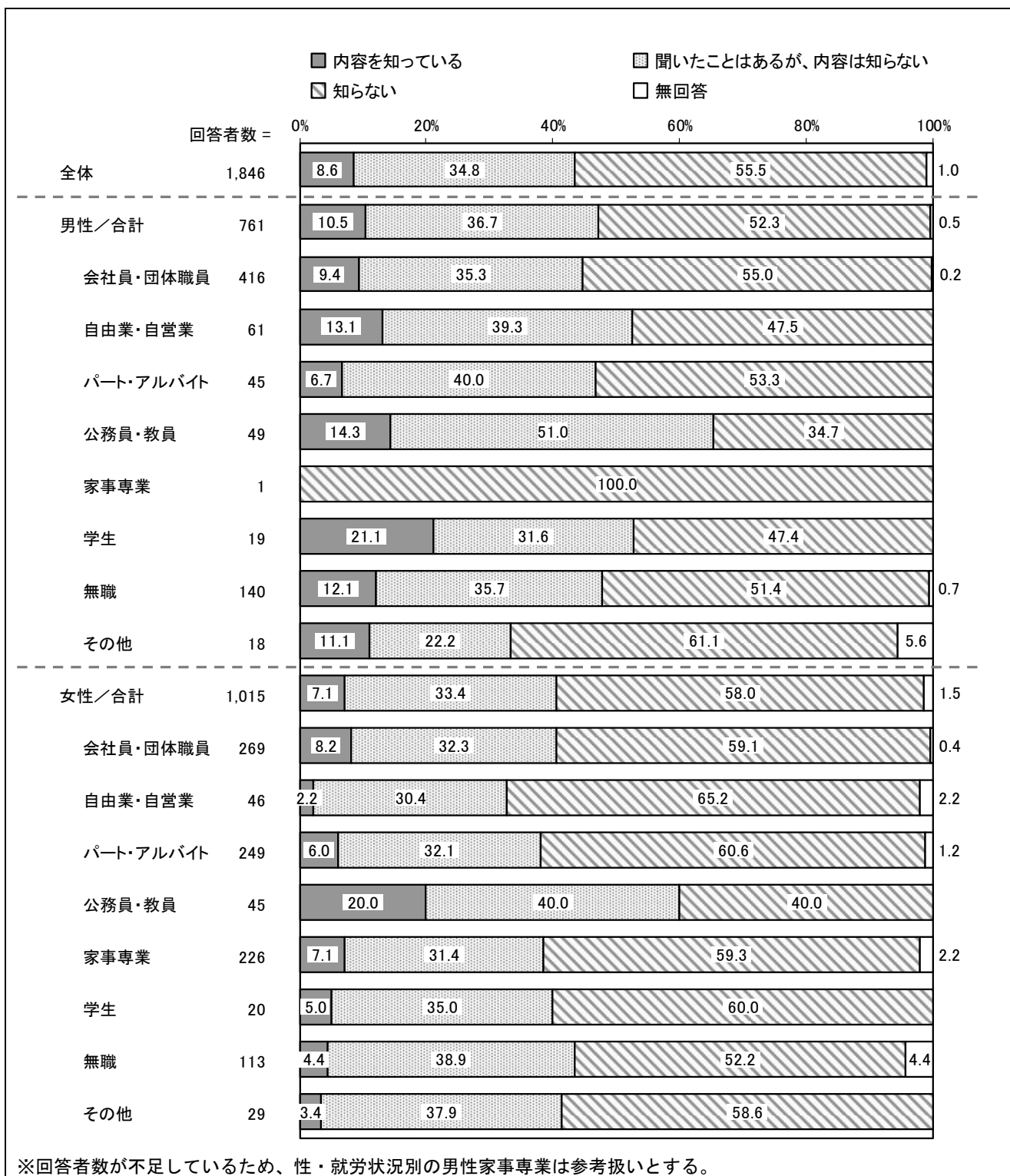


図表 2-1-16 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」という言葉の認知度（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「内容を知っている」の割合は、男性（10.5%）と女性（7.1%）では大きな差異はみられない。しかし、年齢別では20～29歳の男性（14.8%）が、20～29歳の女性（5.3%）より9.5ポイント高くなっている。

一方、「知らない」の割合は、男性では年齢による変化は少ないが、女性で50歳未満の年代で高く、6割以上が「知らない」と回答している。

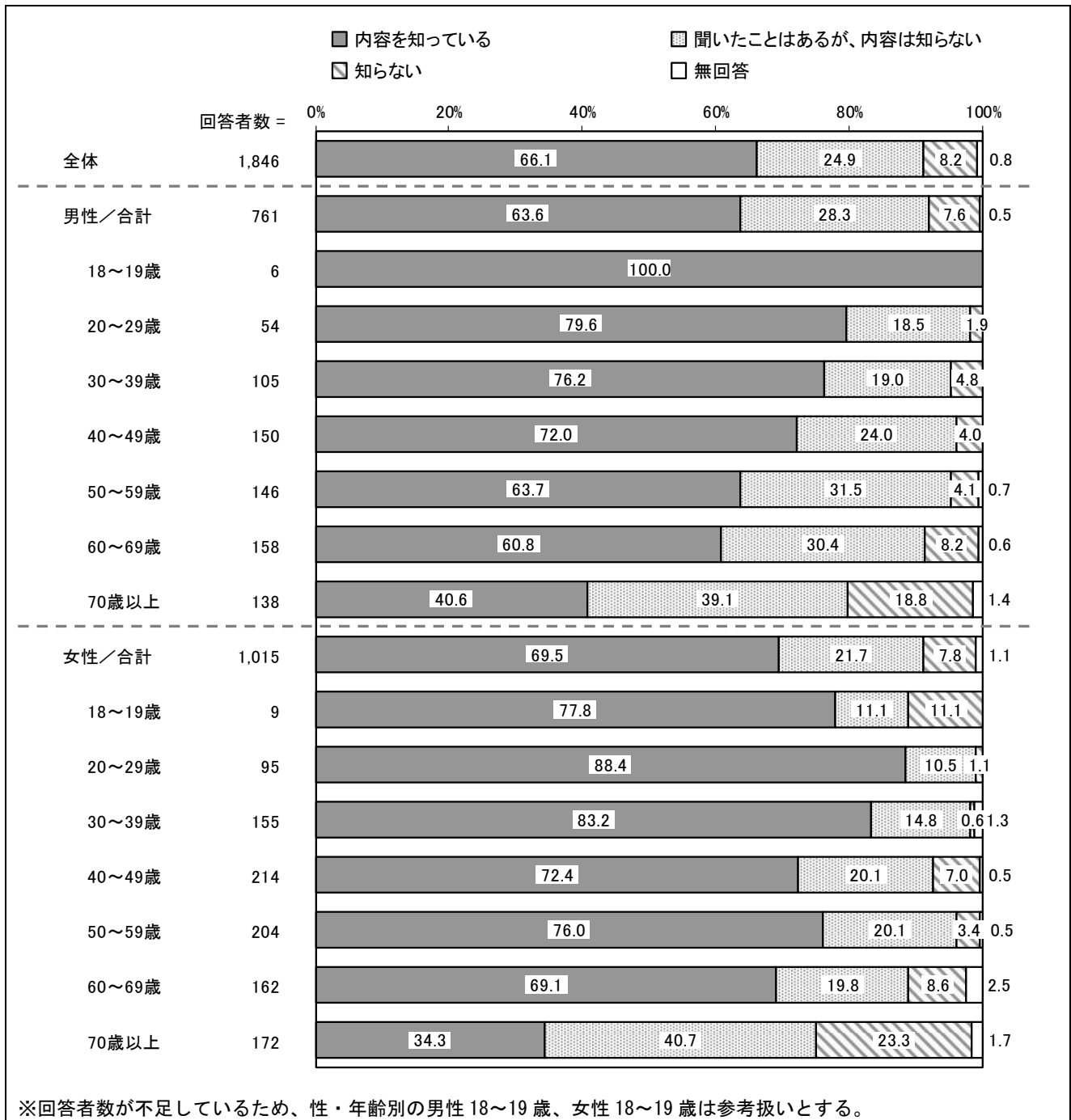


図表 2-1-17 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」という言葉の認知度（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「内容を知っている」の割合は、公務員・教員では男性より女性で高く、20.0%となっている。一方、自由業・自営業、学生、無職では、「内容を知っている」の割合は、女性より男性で高く、特に学生では男性（21.1%）と、女性（5.0%）に比べ16.1ポイント高くなっている。

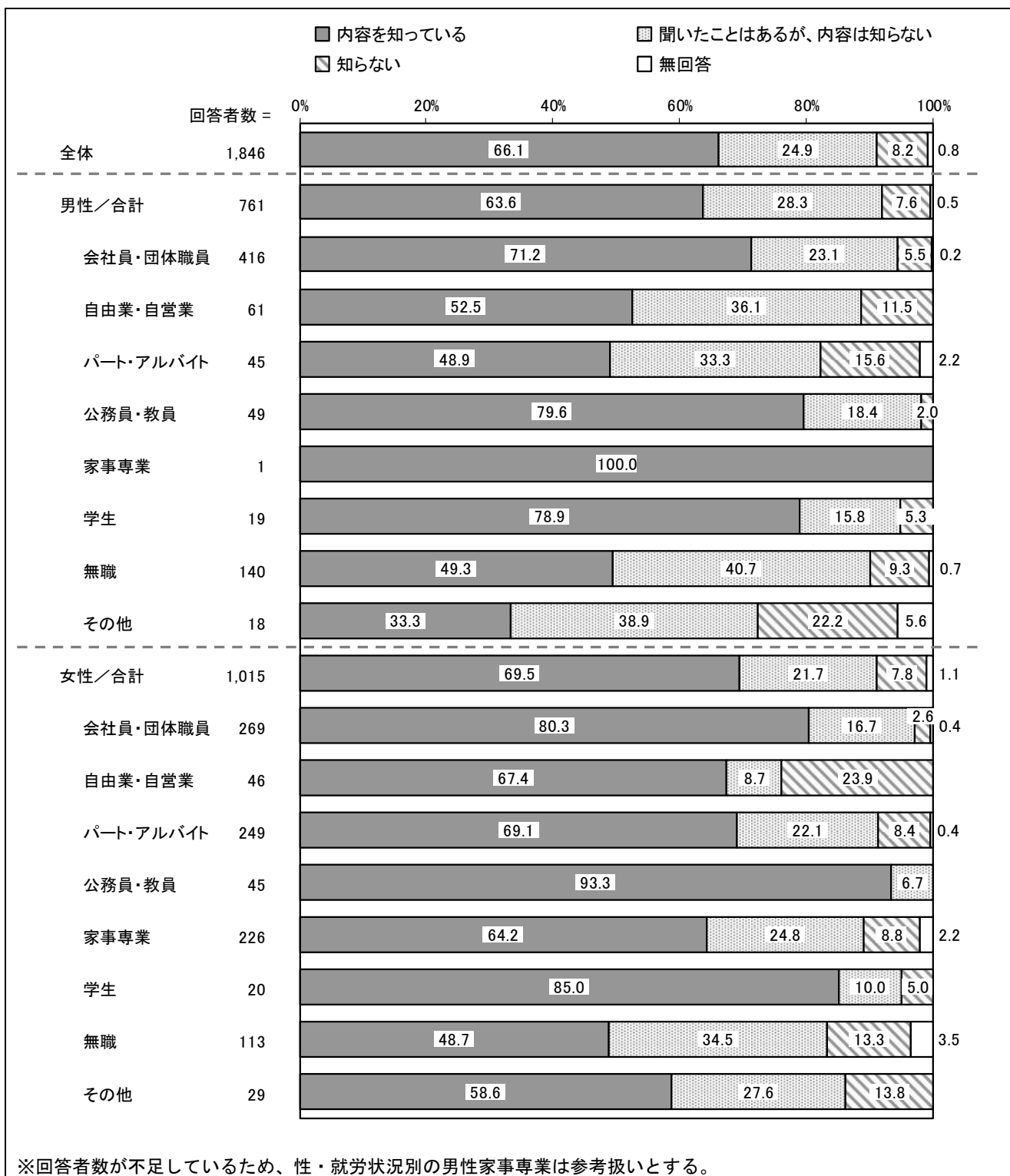
ケ. ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）



図表 2-1-18 「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」という言葉の認知度（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「内容を知っている」の割合は、男性（63.6%）に比べ女性（69.5%）がやや上回っている。特に、女性20～29歳、30～39歳では8割を超えている。また、男女とも20歳以上では年齢が高くなるにつれ「内容を知っている」の割合が減少する傾向があらわれている。

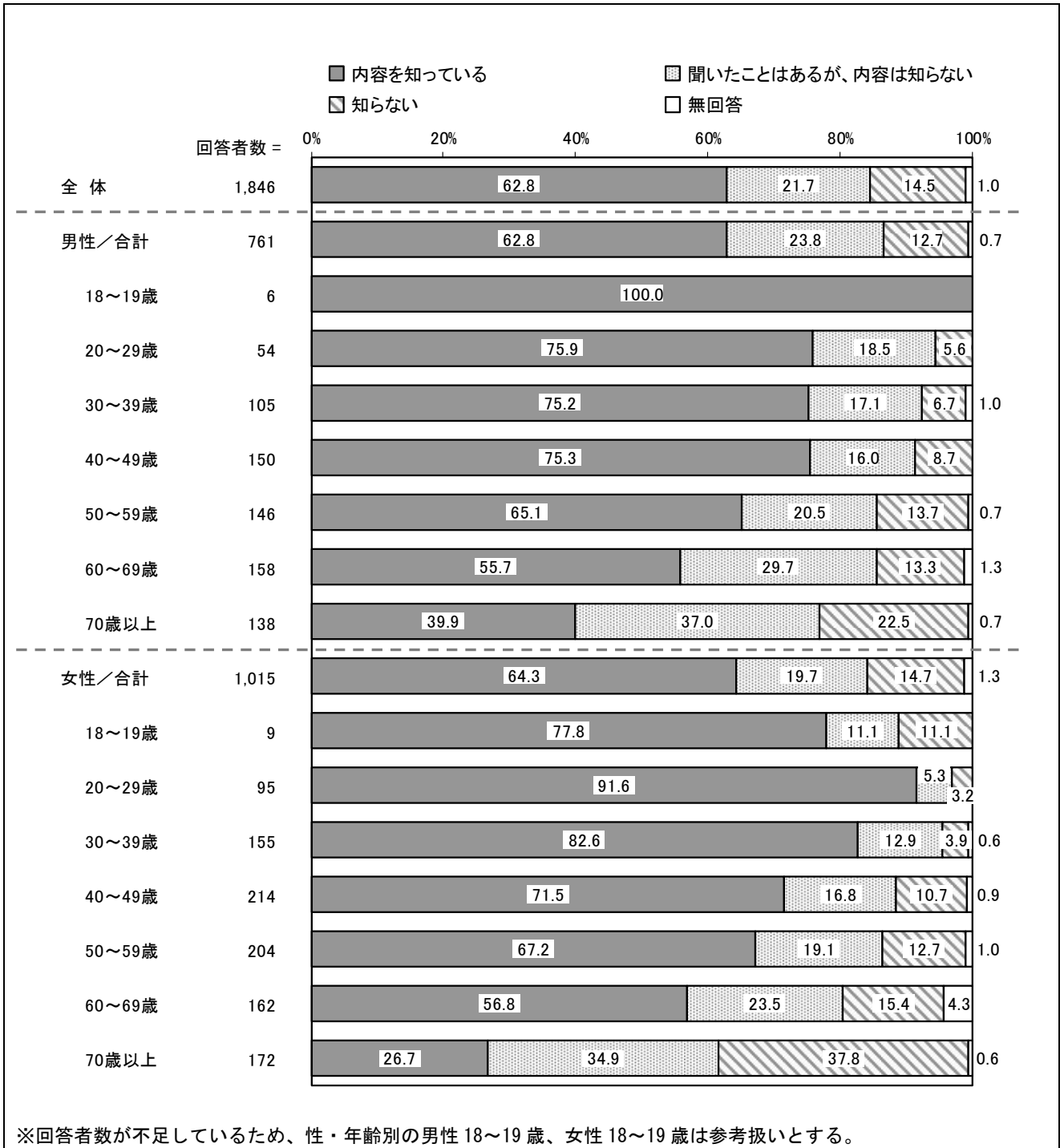


図表 2-1-19 「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」という言葉の認知度（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「内容を知っている」の割合は、会社員・団体職員、自由業・自営業、パート・アルバイト、公務員・教員、学生では男性よりも女性で高く、特にパート・アルバイトでは20.2ポイント差がついている。一方、自由業・自営業では、「知らない」の割合が女性(23.9%)は男性(11.5%)に比べ12.4ポイント高くなっている。

コ. LGBTQ（性的少数者を表す総称の一つ）

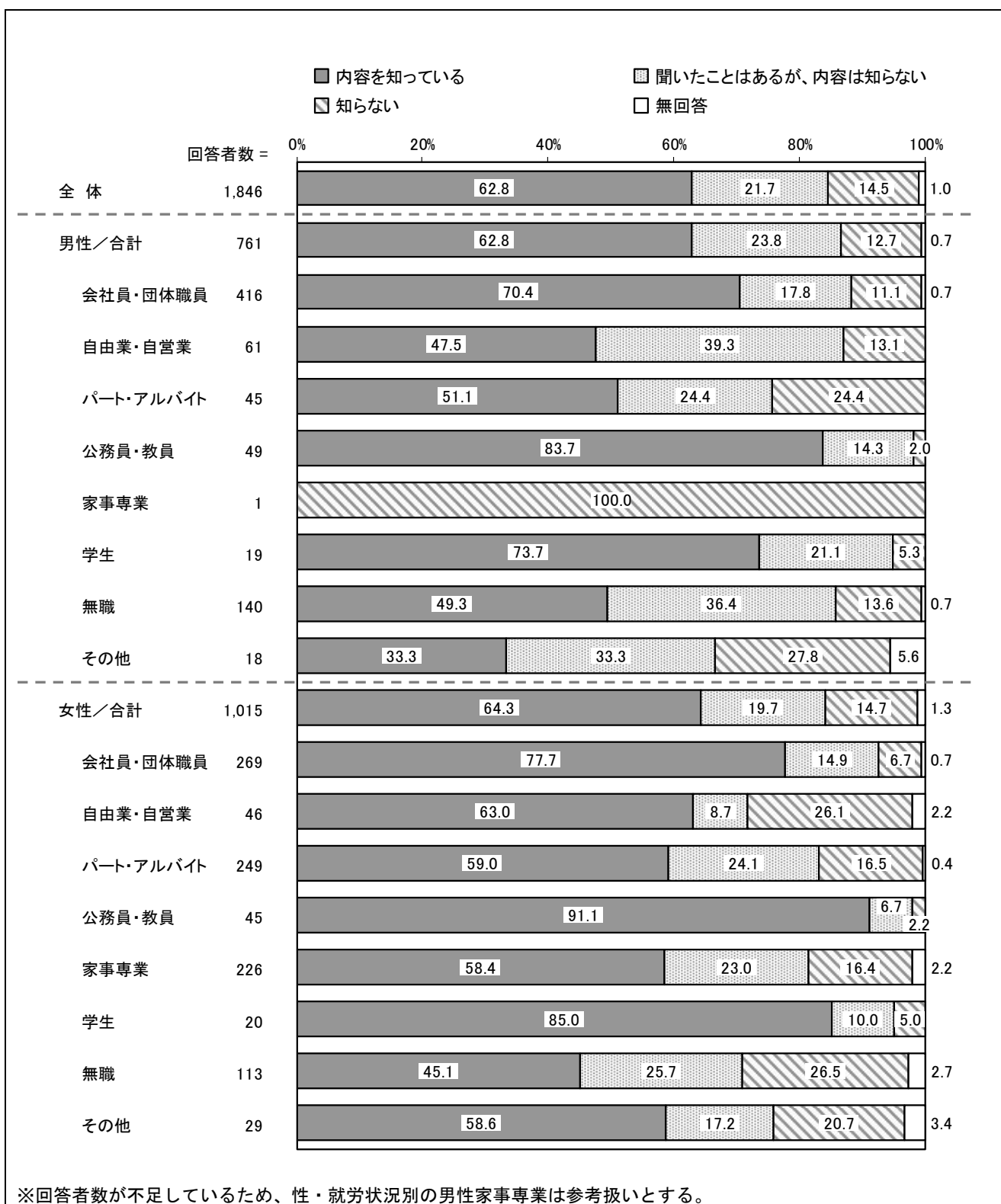


図表 2-1-20 「LGBTQ（性的少数者を表す総称の一つ）」という言葉の認知度（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、「内容を知っている」の割合は、男性（62.8%）と女性（64.3%）で同程度となっている。一方、20～29歳、30～39歳で男性よりも女性で高く、特に20～29歳では15.7ポイント差がついている。

また、男女とも20歳以上では年齢が高くなるにつれ「内容を知っている」の割合が減少する傾向があらわれている。

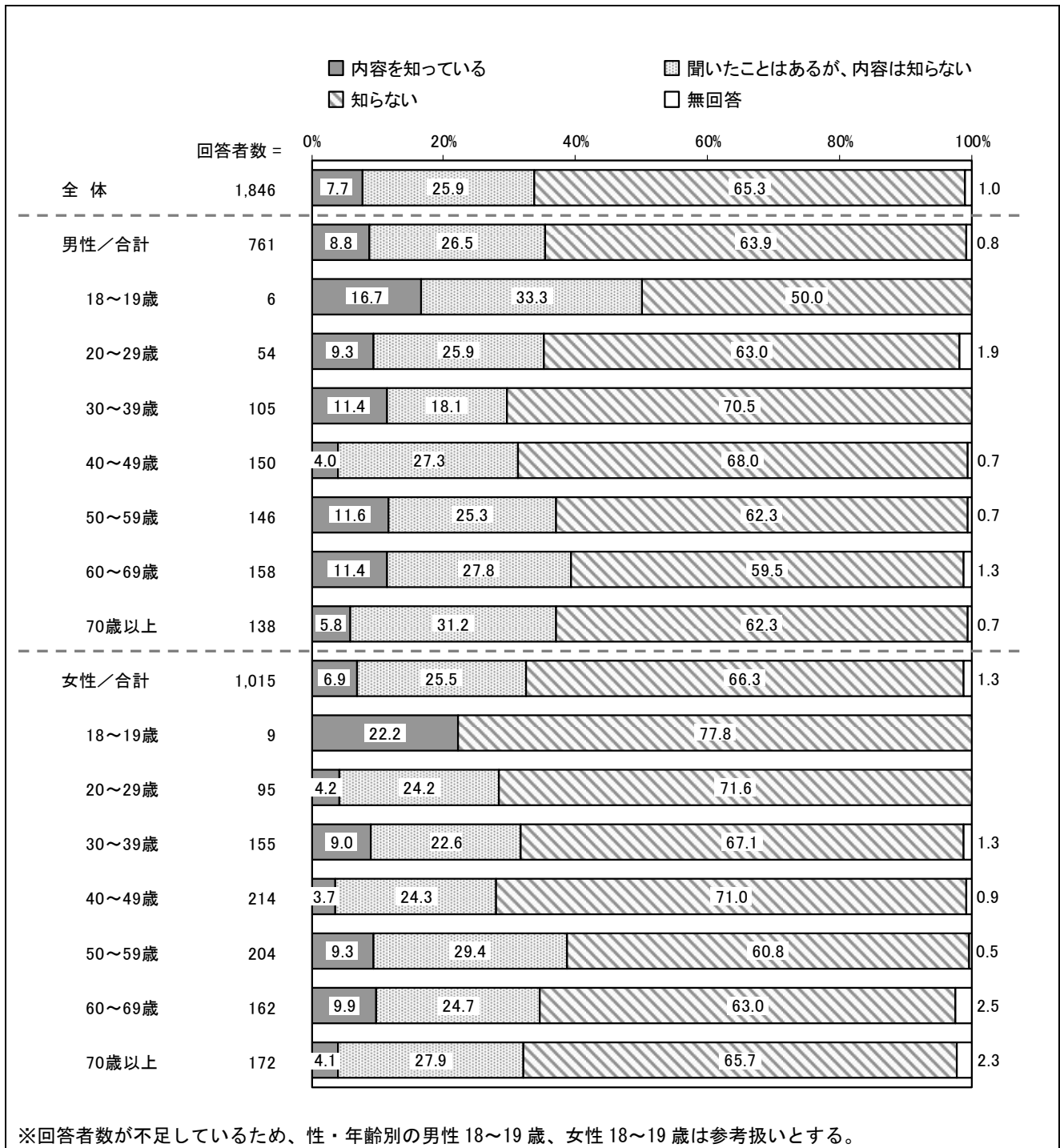


図表 2-1-21 「LGBTQ（性的少数者を表す総称の一つ）」という言葉の認知度（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「内容を知っている」の割合は、会社員・団体職員、自由業・自営業、パート・アルバイト、公務員・教員、学生では男性よりも女性で高く、特に自由業・自営業では15.5ポイント差がついている。一方、自由業・自営業では、「知らない」の割合が女性（26.1%）は、男性（13.1%）に比べ13.0ポイント高くなっている。

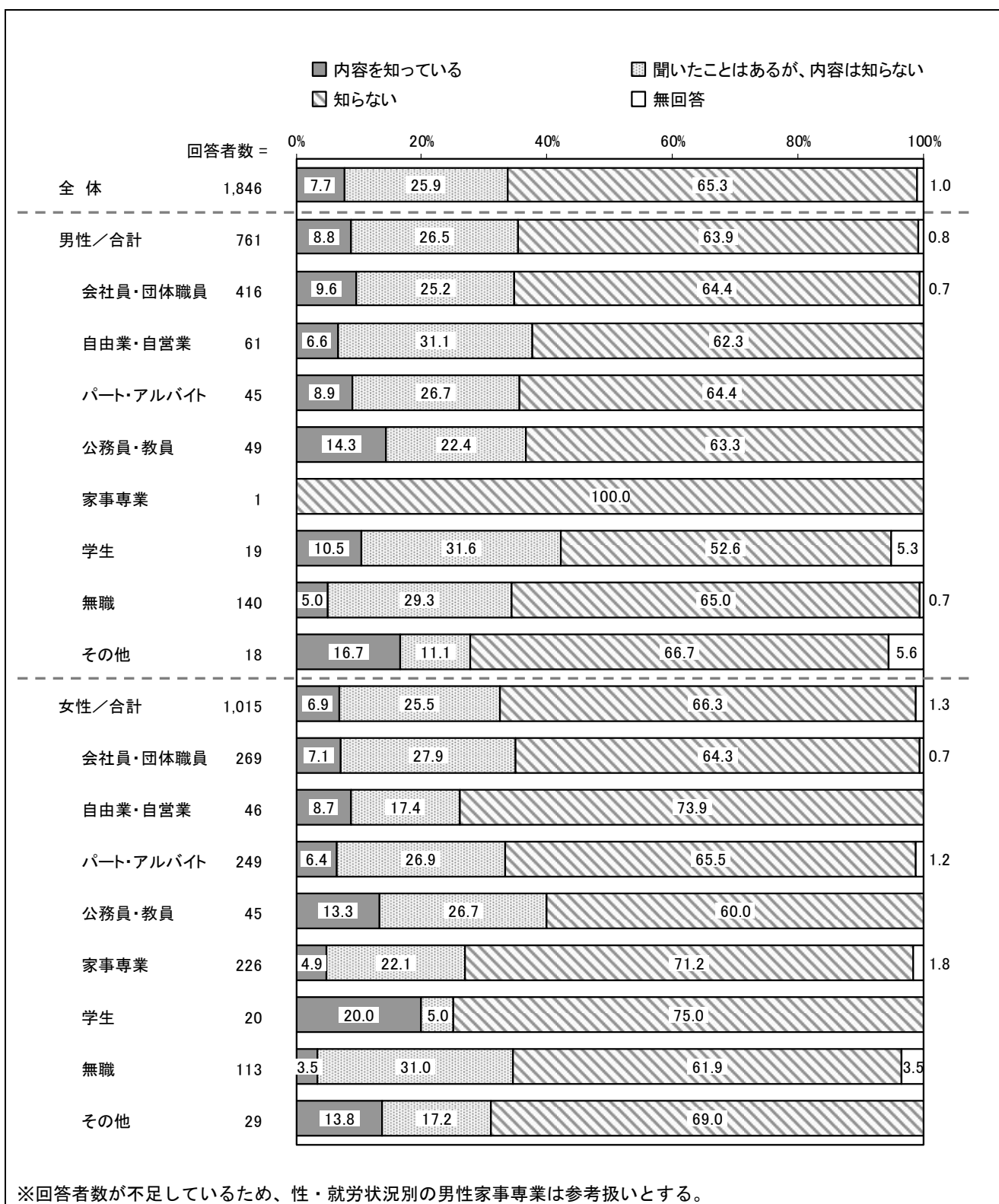
サ. ポジティブ・アクション（積極的是正措置）



図表 2-1-22 「ポジティブ・アクション（積極的是正措置）」という言葉の認知度（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「内容を知っている」の割合は、男性（8.8%）と女性（6.9%）で同程度となっている。一方、「知らない」の割合は、男性30～39歳、女性20～29歳、40～49歳で特に高く7割を超えている。

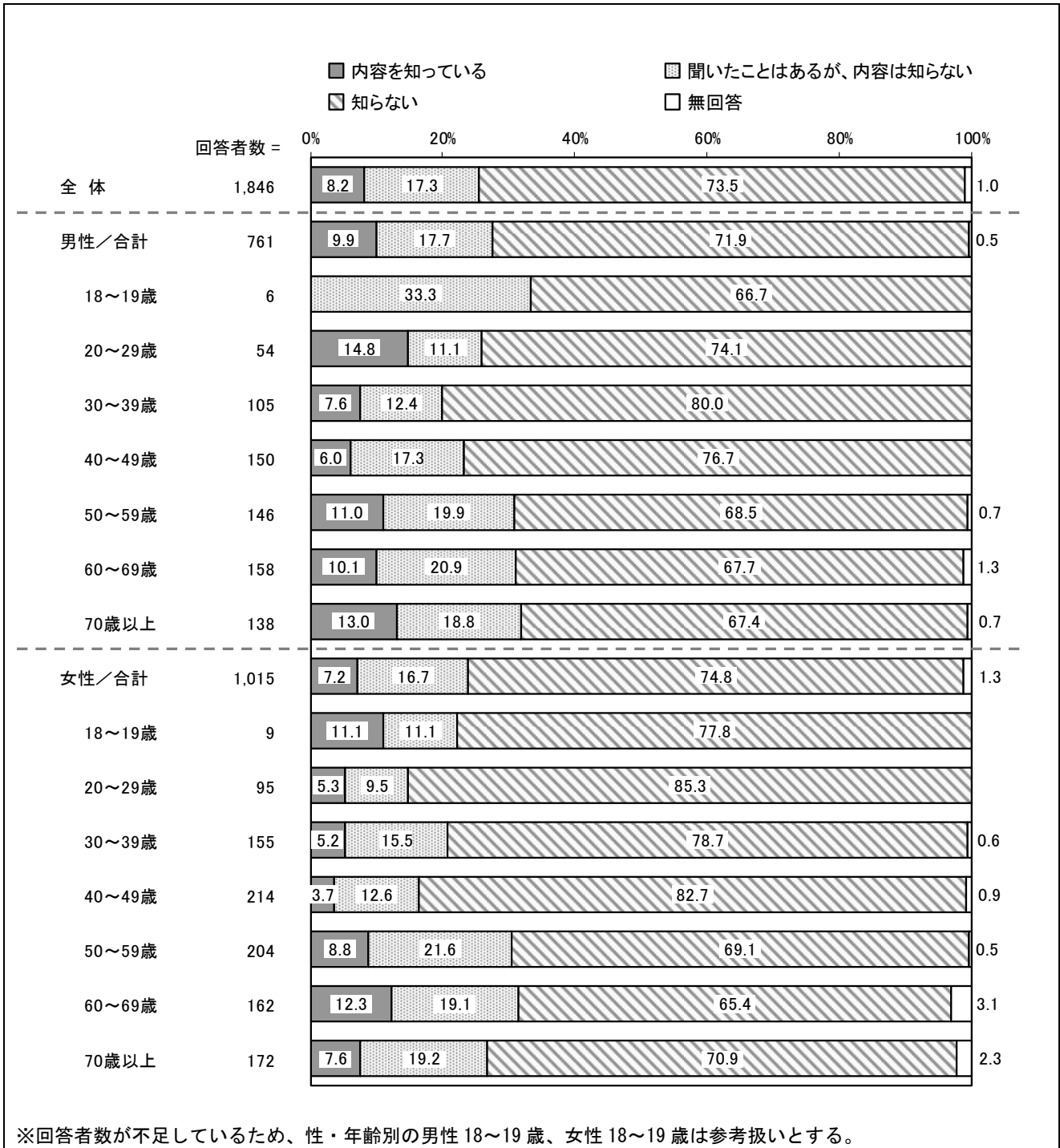


図表 2-1-23 「ポジティブ・アクション（積極的是正措置）」という言葉の認知度（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「内容を知っている」の割合は、学生では男性（10.5%）よりも女性（20.0%）で高く、9.5ポイント差がついている一方で、「知らない」の割合も女性（75.0%）は、男性（52.6%）に比べ22.4ポイント高くなっている。

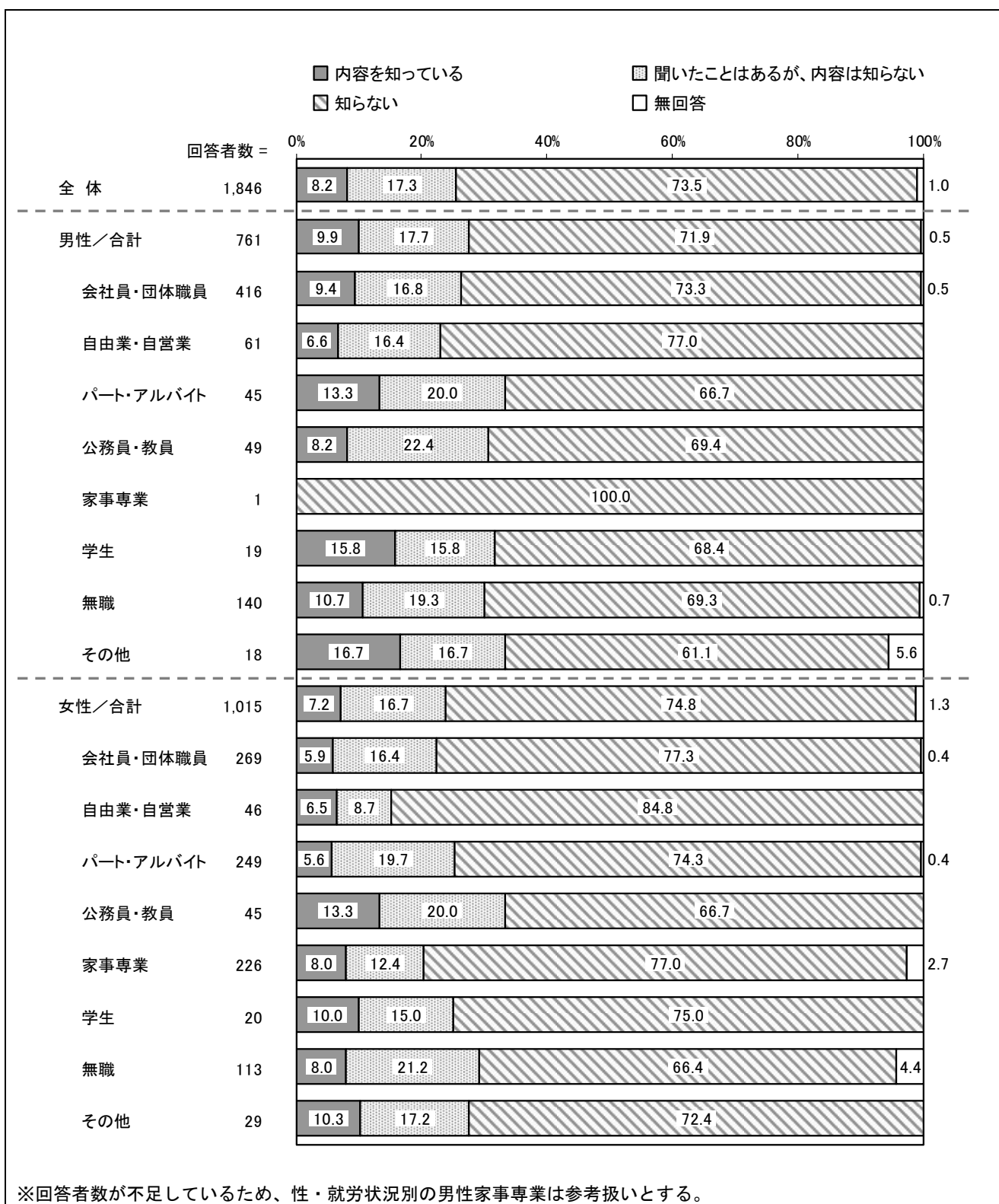
シ. クォータ制（性別による割り当て制度）



図表 2-1-24 「クォータ制（性別による割り当て制度）」という言葉の認知度（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「内容を知っている」の割合は、男性（9.9%）と女性（7.2%）で同程度となっている。一方、20～29歳では、女性（5.3%）よりも男性（14.8%）で高く、9.5ポイント差がついている。「知らない」の割合は、男性30～39歳、女性20～29歳、40～49歳で特に高く8割を超えている。

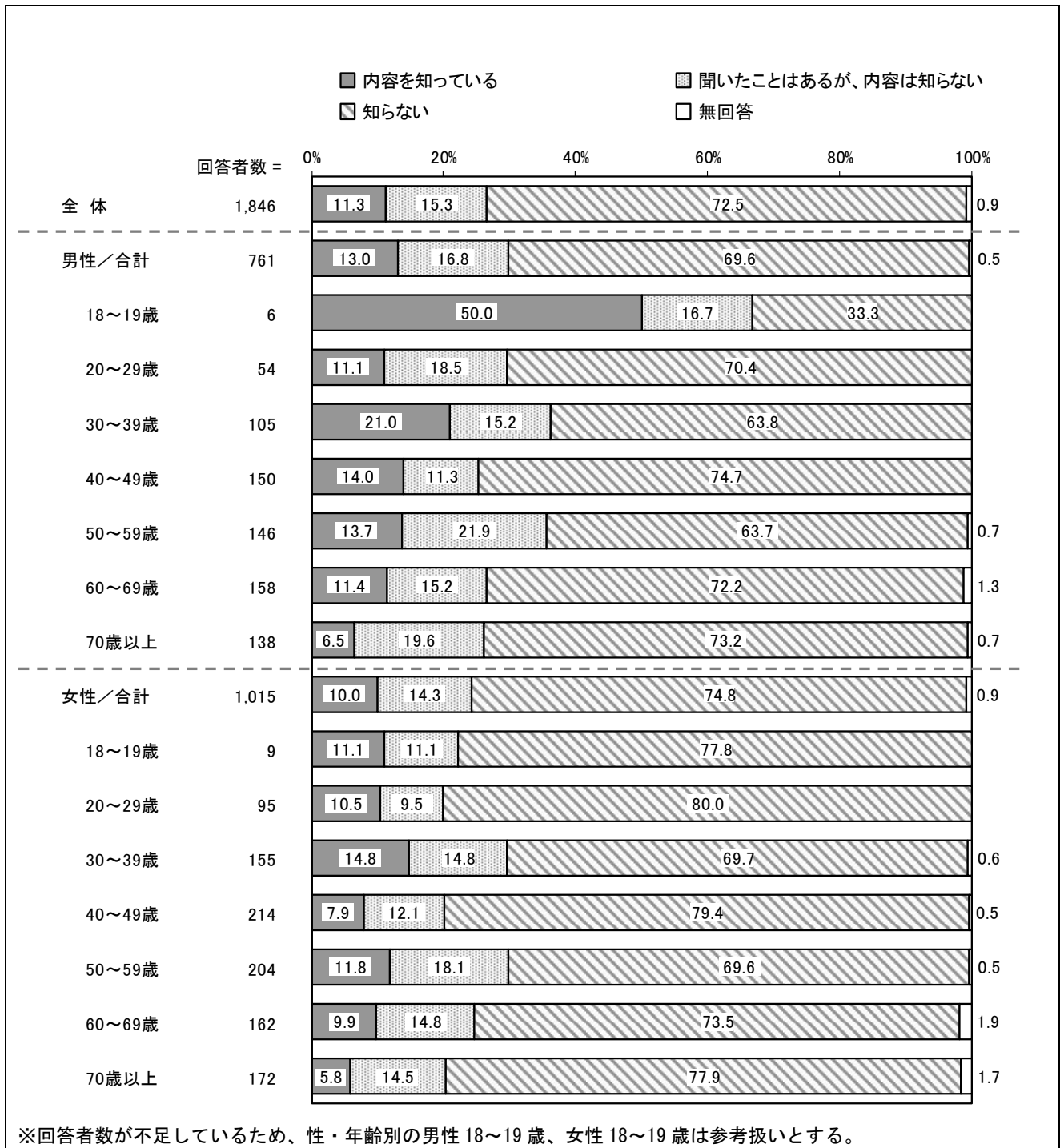


図表 2-1-25 「クオータ制（性別による割り当て制度）」という言葉の認知度（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「内容を知っている」の割合は、会社員・団体職員、パート・アルバイト、学生、無職では女性よりも男性で高く、一方、公務員・教員では男性よりも女性で高くなっている。特にパート・アルバイトでは男性（13.3%）は、女性（5.6%）に比べ7.7ポイント高くなっている。

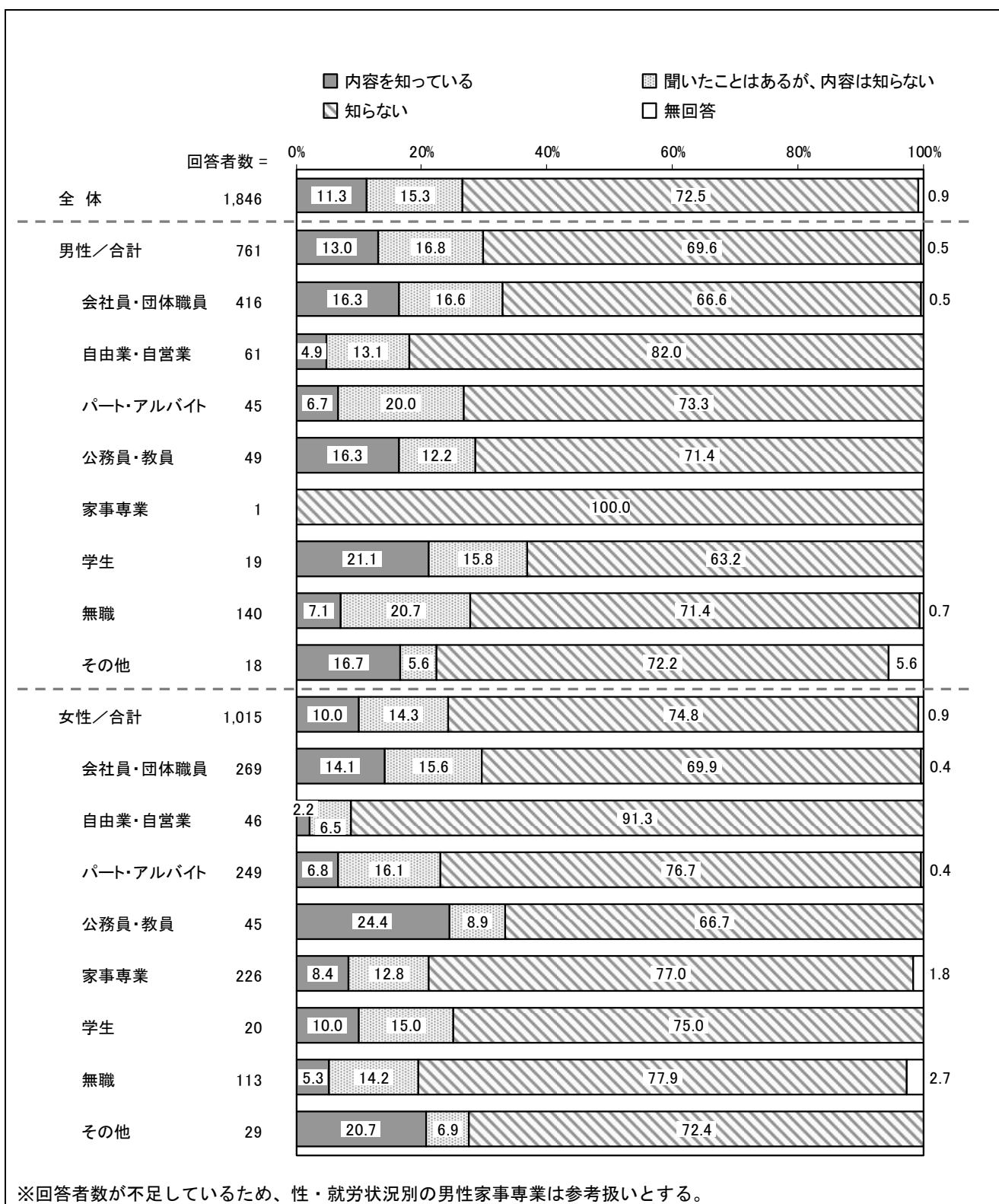
ス. アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）



図表 2-1-26 「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」という言葉の認知度（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「内容を知っている」の割合は、男性（13.0%）が女性（10.0%）をやや上回っている。特に、30～39歳では、女性（14.8%）と男性（21.0%）で、6.2ポイント差がついている。一方、「知らない」の割合は、女性20～29歳で最も多く、8割となっている。



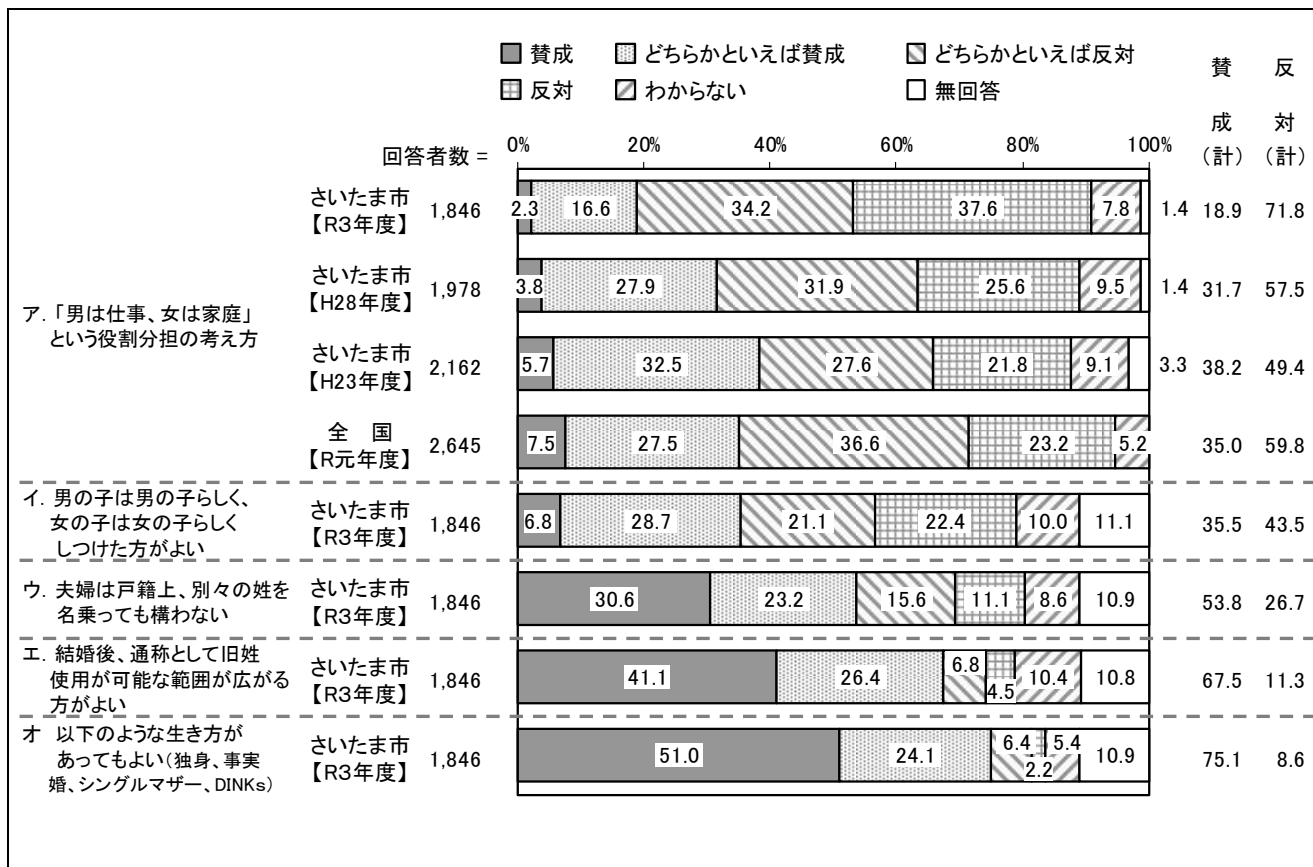
図表 2-1-27 「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」という言葉の認知度（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「内容を知っている」の割合は、学生では女性よりも男性で高く、一方、公務員・教員では男性よりも女性で高くなっている。特に学生では男性（21.1%）は、女性（10.0%）に比べ11.1ポイント高くなっている。

(2) 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識

問2. 結婚、家庭、離婚について、さまざまな考え方がありますが、あなたは次の意見についてどのように思いますか。
(ア～オのそれぞれについて、あてはまる「1～5」に○を1つ)



図表 2-1-28 結婚、家庭、離婚についての考え方への賛否

○全体の傾向・経年変化・全国調査との比較

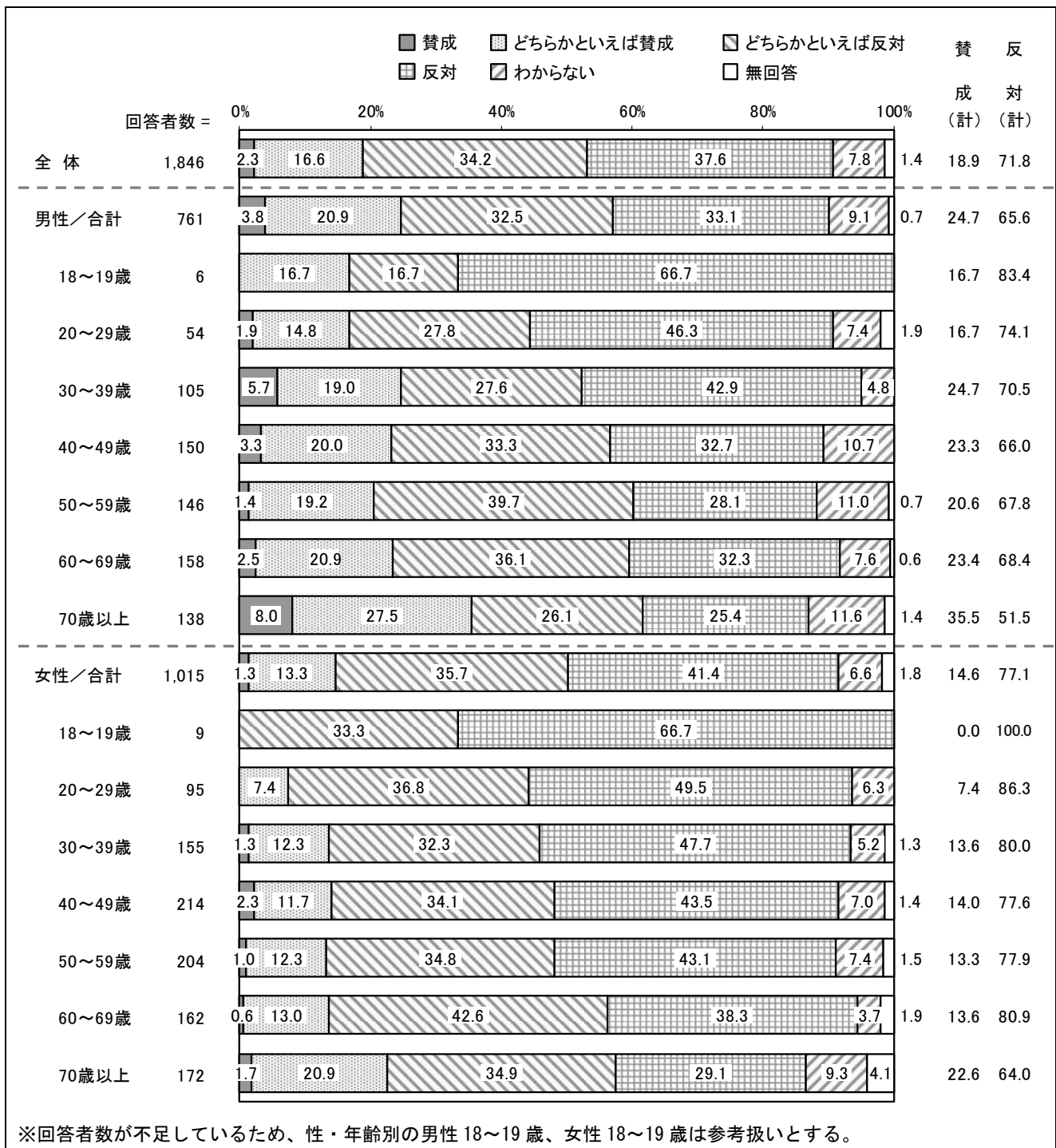
結婚、家庭、離婚についての考え方について、『「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方』に「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた『反対(計)』の割合が71.8%と「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成(計)』の割合を大きく上回っている。

また、『男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけた方がよい』に『賛成(計)』(35.5%)の割合を『反対(計)』(43.5%)の割合が上回るとともに、『夫婦は戸籍上、別々の姓を名乗っても構わない』『結婚後、通称として旧姓使用が可能な範囲が広がる方がよい』『以下のような生き方があってもよい(独身、事実婚、シングルマザー、DINKs)』に『賛成(計)』の割合が『反対(計)』の割合を上回っている。

過去の調査と比較すると、『「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方』に『反対(計)』の割合は増加傾向にあり、平成28年度(57.5%)から14.3ポイントの増加がみられる。

全国の調査結果と比較すると、さいたま市は、『「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方』に『反対(計)』の割合が全国(59.8%)から12.0ポイント高くなっている。

ア. 「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方



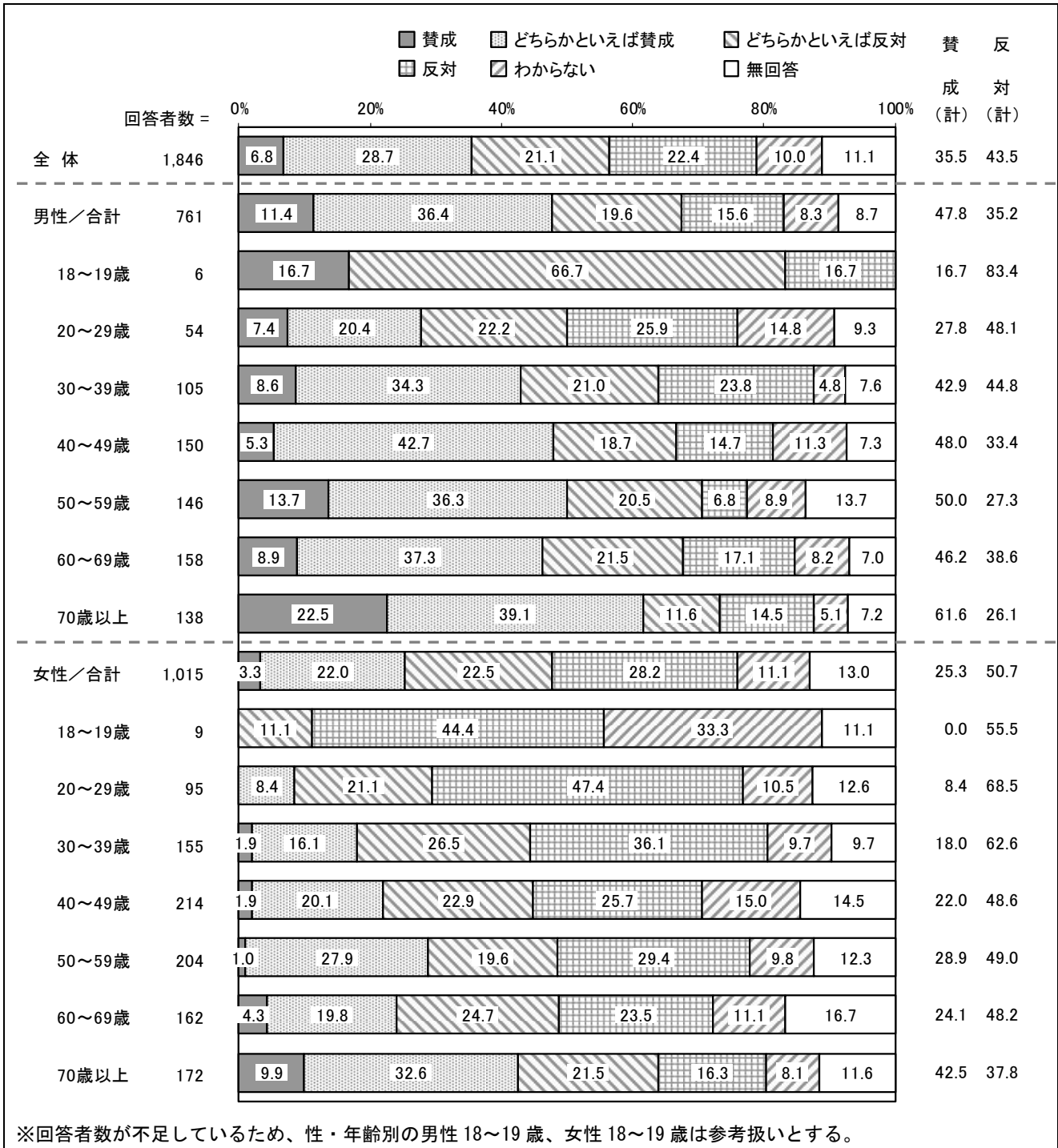
図表 2-1-29 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『賛成 (計)』の割合は、男性 (24.7%) が女性 (14.6%) を 10.1 ポイント上回っている。

また、『賛成 (計)』の割合は年齢が下がるにつれて減少する傾向があらわれている。

イ. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけた方がよい



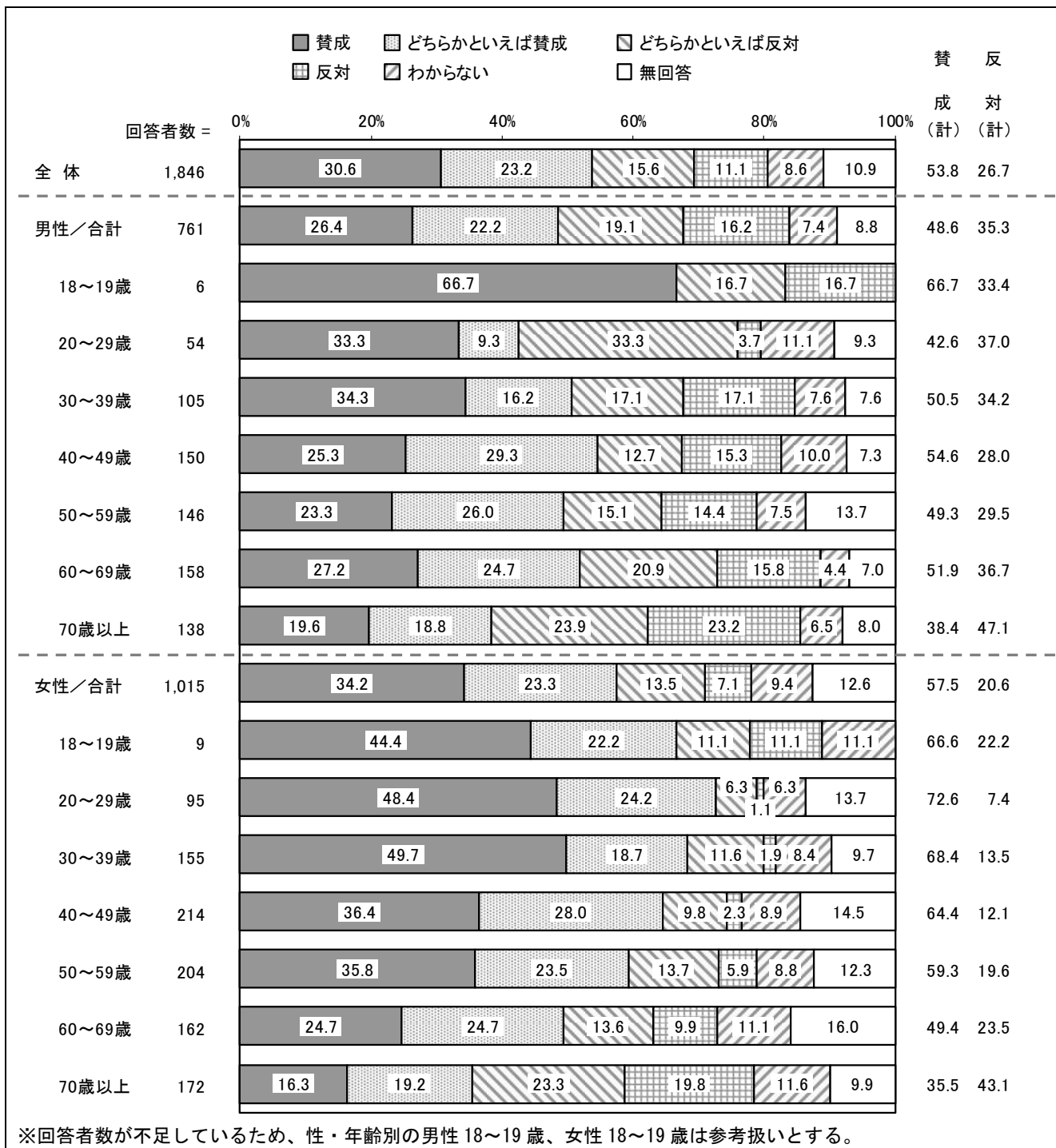
図表 2-1-30 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけた方がよいという意識 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『賛成 (計)』の割合は、男性 (47.8%) が女性 (25.3%) を 22.5 ポイント上回っている。

また、『賛成 (計)』の割合は男性も女性も年齢が上がるにつれて増加する傾向があらわれている。

ウ. 夫婦は戸籍上、別々の姓を名乗っても構わない

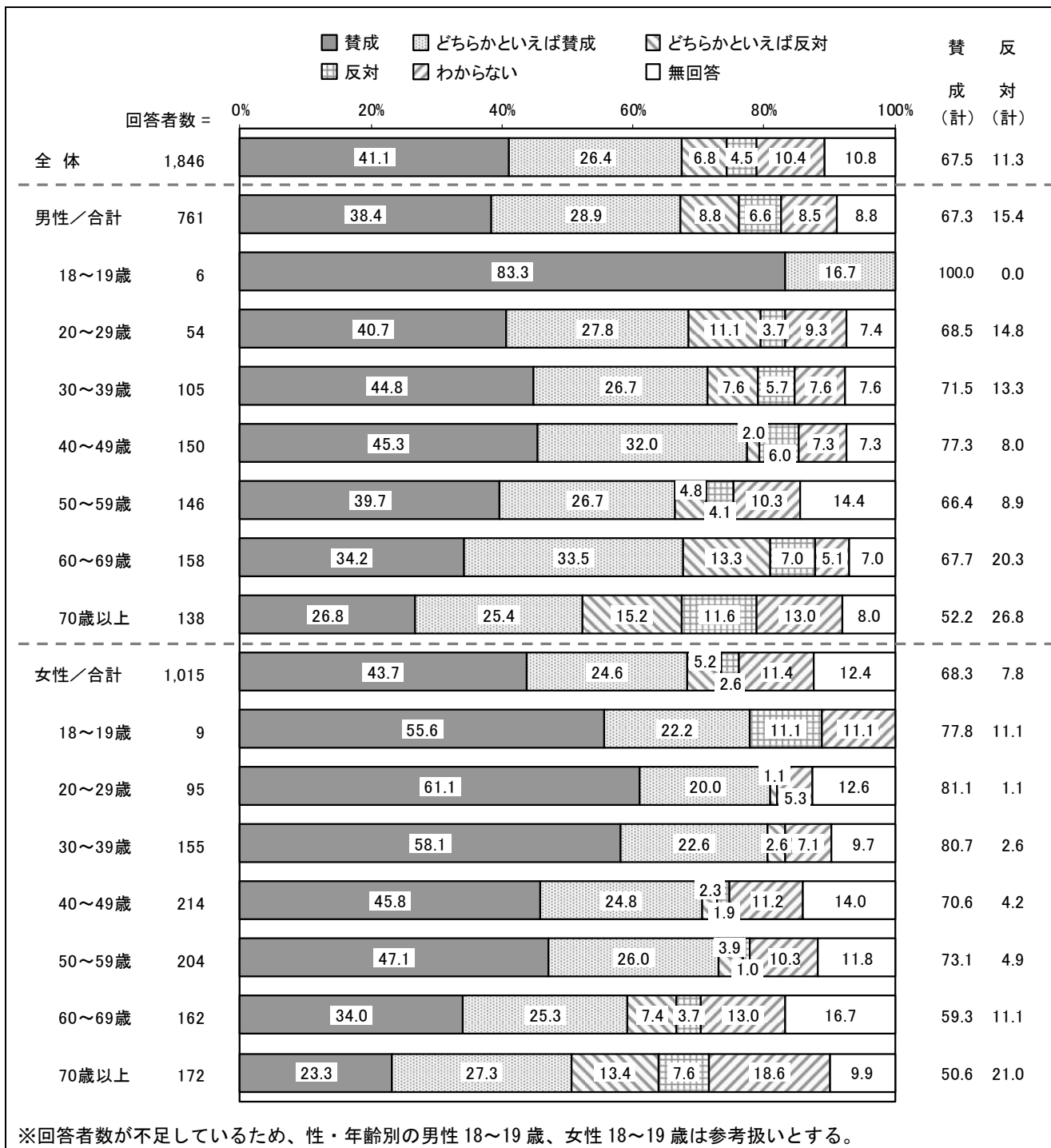


図表 2-1-31 夫婦は戸籍上、別々の姓を名乗っても構わないという意識 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『賛成 (計)』の割合は、男性 (48.6%) が女性 (57.5%) を 8.9 ポイント下回っている。『賛成 (計)』の割合は女性 20～29 歳が最も多く 7 割を超えており、男性 (42.6%) とは 30.0 ポイントと大きく開いている。

エ. 結婚後、通称として旧姓使用が可能な範囲が広がる方がよい



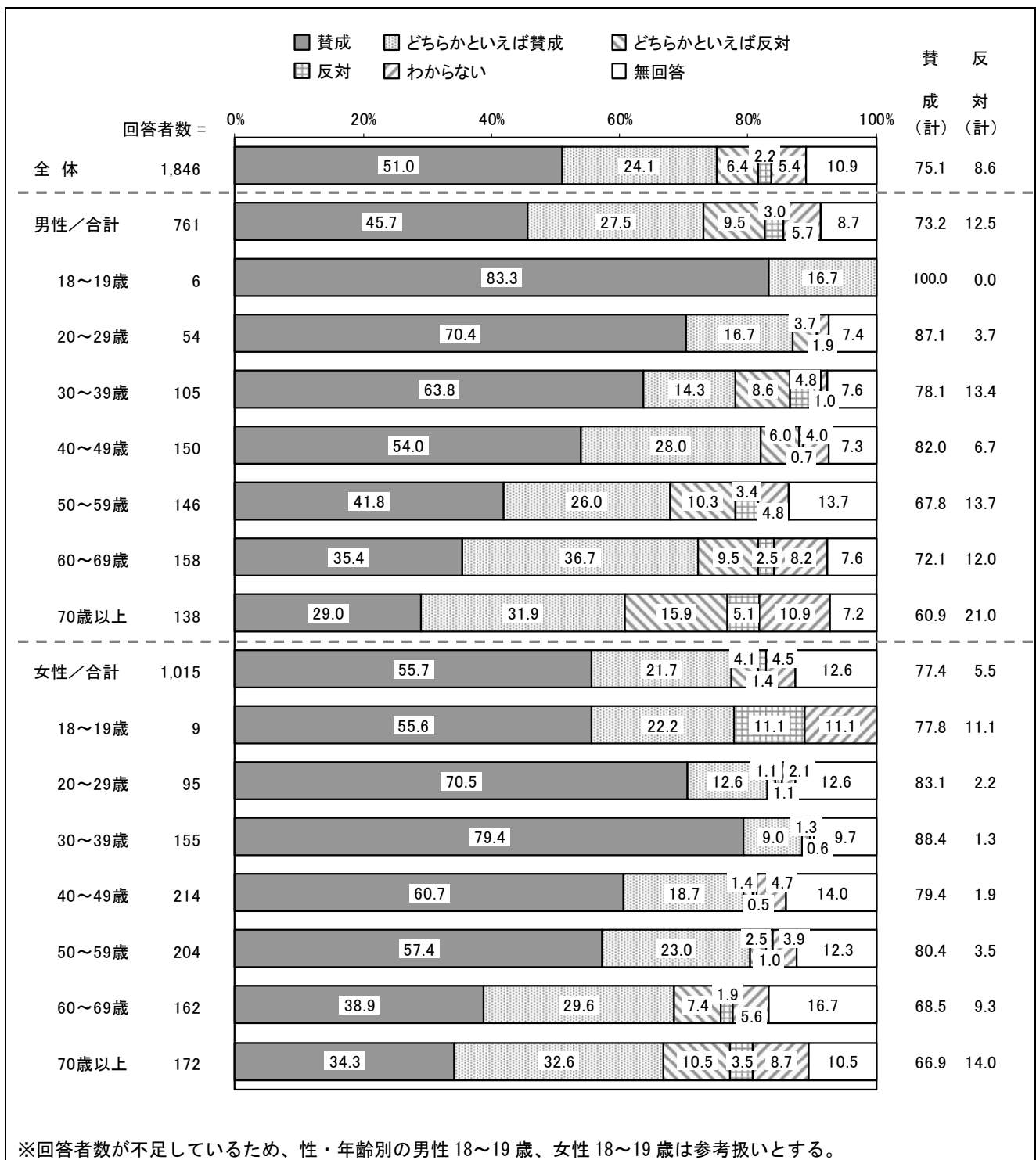
図表 2-1-32 結婚後、通称として旧姓使用が可能な範囲が広がる方がよいという意識 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『賛成 (計)』の割合は、男性 (67.3%) と女性 (68.3%) では大きな差異はみられない。しかし、『賛成 (計)』の割合は女性 20～29 歳 (81.1%) が最も高く 8 割を超えており、男性 (68.5%) より 12.6 ポイント高くなっている。

オ. 以下のような生き方があってもよい

独身、事実婚、シングルマザー、DINKs（共働きで子を持たない家庭）



※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

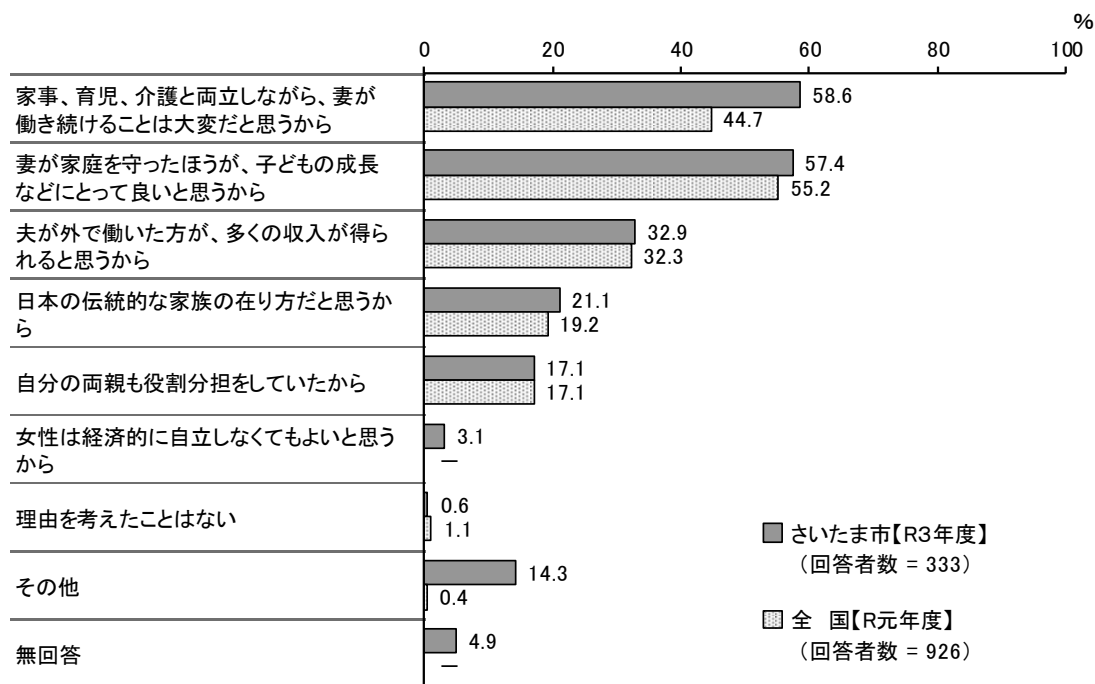
図表 2-1-33 独身、事実婚、シングルマザー、DINKs（共働きで子を持たない家庭）
という生き方があってもよいという意識（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『賛成（計）』の割合は、男性（73.2%）を女性（77.4%）がやや上回っている。『賛成（計）』の割合は女性30～39歳（88.4%）が最も高く、男性（78.1%）より10.3ポイント高くなっている。

※問2「(ア)「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方について「賛成」、「どちらかといえば賛成」とお答えの方に伺います。

問2-1. その理由は何ですか。(〇はいくつでも)



(注記) 全国調査に「女性は経済的に自立しなくてもよいと思うから」の選択肢はない。

図表 2-1-34 「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方に賛成の理由

○全体の傾向

「家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」と回答した人の割合が58.6%と最も高く、次いで「妻が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」(57.4%)、「夫が外で働いた方が、多くの収入が得られると思うから」(32.9%)となっている。

全国の調査結果と比較すると、「家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」と回答した人の割合が全国(44.7%)より13.9ポイント高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	妻が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから	夫が外で働いた方が、多くの収入が得られると思うから	日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	自分の両親も役割分担をしていたから	女性は経済的に自立しなくてもよいと思うから	理由を考えたことはない	その他	無回答
全 体	350	58.6	57.4	32.9	21.1	17.1	3.1	0.6	14.3	4.9
男性／合計	188	47.9	61.7	28.7	22.9	14.4	2.1	1.1	16.5	3.7
18～19 歳	1	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—
20～29 歳	9	55.6	22.2	55.6	11.1	11.1	—	—	11.1	—
30～39 歳	26	34.6	46.2	26.9	11.5	11.5	—	—	26.9	3.8
40～49 歳	35	51.4	60.0	31.4	11.4	14.3	—	—	34.3	2.9
50～59 歳	30	60.0	70.0	20.0	26.7	13.3	—	3.3	10.0	3.3
60～69 歳	37	45.9	64.9	24.3	16.2	10.8	8.1	—	2.7	8.1
70 歳以上	49	46.9	73.5	32.7	40.8	18.4	2.0	2.0	12.2	2.0
女性／合計	148	72.3	52.7	39.2	19.6	20.3	4.1	—	12.8	4.7
18～19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	7	57.1	28.6	57.1	—	14.3	—	—	14.3	—
30～39 歳	21	71.4	33.3	33.3	19.0	33.3	9.5	—	23.8	—
40～49 歳	30	76.7	53.3	43.3	20.0	26.7	6.7	—	13.3	—
50～59 歳	27	74.1	63.0	25.9	11.1	18.5	—	—	18.5	—
60～69 歳	22	86.4	40.9	27.3	22.7	9.1	4.5	—	9.1	9.1
70 歳以上	39	64.1	64.1	48.7	28.2	17.9	2.6	—	5.1	12.8

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、20～29歳、女性18～19歳、20～29歳は参考扱いとする。

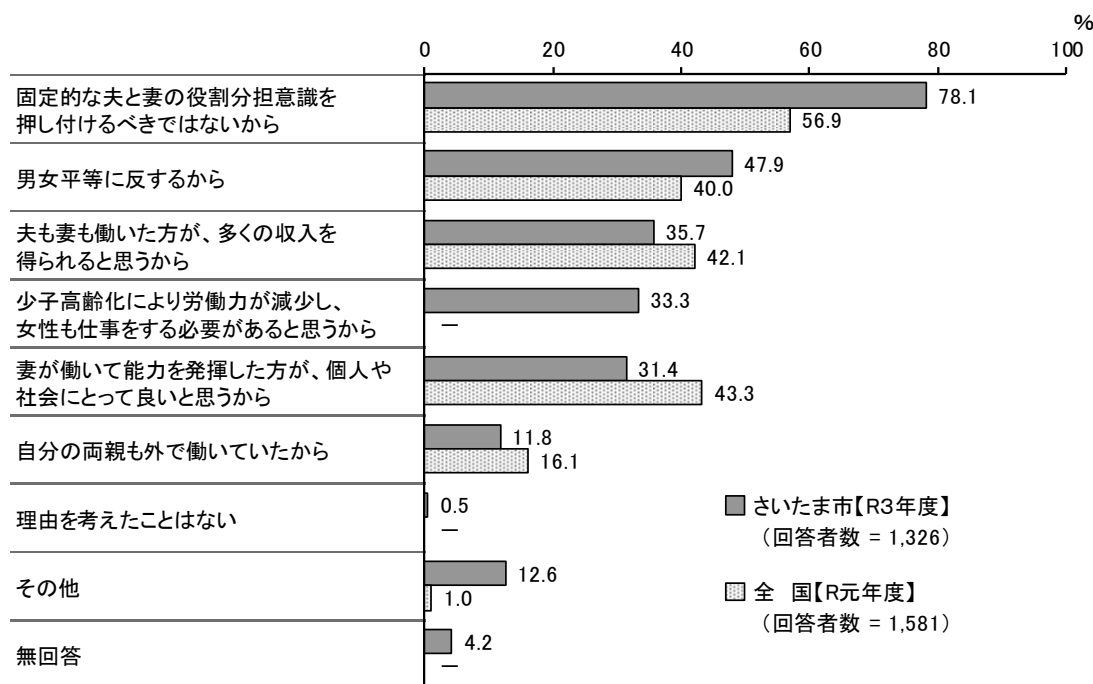
図表 2-1-35 「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方に賛成の理由（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、男性では「妻が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」と回答した人の割合が61.7%と最も高く、女性（52.7%）と比べ、9.0ポイント高くなっている。一方、「家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」と回答した人の割合は男性（47.9%）に比べ女性（72.3%）が24.4ポイント高くなっている。特に、女性60～69歳が最も高く、8割以上となっている。

※問2「(ア)「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方」について
「どちらかといえば反対」「反対」とお答えの方に伺います。

問2-2. その理由は何ですか。(〇はいくつでも)



(注記) 全国調査には「少子高齢化により労働力が減少し、女性も仕事をする必要があると思うから」「理由を考えたことはない」の選択肢はない。

図表 2-1-36 「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方に反対の理由

○全体の傾向

「固定的な夫と妻の役割分担意識を押し付けるべきではないから」と回答した人の割合が78.1%と最も高く、次いで「男女平等に反するから」(47.9%)、「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(35.7%)となっている。

全国の調査結果と比較すると、「固定的な夫と妻の役割分担意識を押し付けるべきではないから」と回答した人の割合が全国(56.9%)より21.2ポイントと大きく上回っている。一方で、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」(31.4%)と回答した人の割合は全国(43.3%)より11.9ポイント低くなっている。

単位：%

区分	回答者数(件)	固定的な夫と妻の役割分担意識を押し付けるべきではないから	男女平等に反するから	夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから	少子高齢化により労働力が減少し、女性も仕事をする必要があると思うから	妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	自分の両親も外で働いていたから	理由を考えたことはない	その他	無回答
全体	1,326	78.1	47.9	35.7	33.3	31.4	11.8	0.5	12.6	4.2
男性／合計	499	72.5	47.1	35.7	32.7	39.3	10.2	0.6	9.2	3.6
18～19歳	5	100.0	60.0	20.0	20.0	60.0	40.0	—	—	—
20～29歳	40	85.0	45.0	40.0	22.5	27.5	27.5	—	5.0	5.0
30～39歳	74	73.0	37.8	41.9	27.0	39.2	10.8	—	16.2	—
40～49歳	99	70.7	39.4	43.4	29.3	36.4	12.1	1.0	14.1	2.0
50～59歳	99	64.6	48.5	39.4	40.4	41.4	9.1	2.0	7.1	3.0
60～69歳	108	72.2	51.9	33.3	39.8	43.5	4.6	—	7.4	5.6
70歳以上	71	76.1	57.7	15.5	28.2	38.0	4.2	—	4.2	7.0
女性／合計	782	81.7	48.5	36.4	34.4	27.1	13.0	0.4	14.7	4.3
18～19歳	9	88.9	55.6	11.1	22.2	22.2	22.2	—	11.1	11.1
20～29歳	82	85.4	53.7	34.1	30.5	23.2	17.1	1.2	19.5	1.2
30～39歳	124	84.7	46.8	45.2	30.6	25.8	19.4	—	17.7	1.6
40～49歳	166	80.7	50.0	37.3	26.5	21.7	18.7	—	19.3	2.4
50～59歳	159	81.8	44.7	34.0	33.3	26.4	8.2	0.6	11.9	6.9
60～69歳	131	79.4	50.4	34.4	43.5	27.5	6.9	0.8	11.5	4.6
70歳以上	110	79.1	46.4	34.5	45.5	40.9	8.2	—	9.1	8.2

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

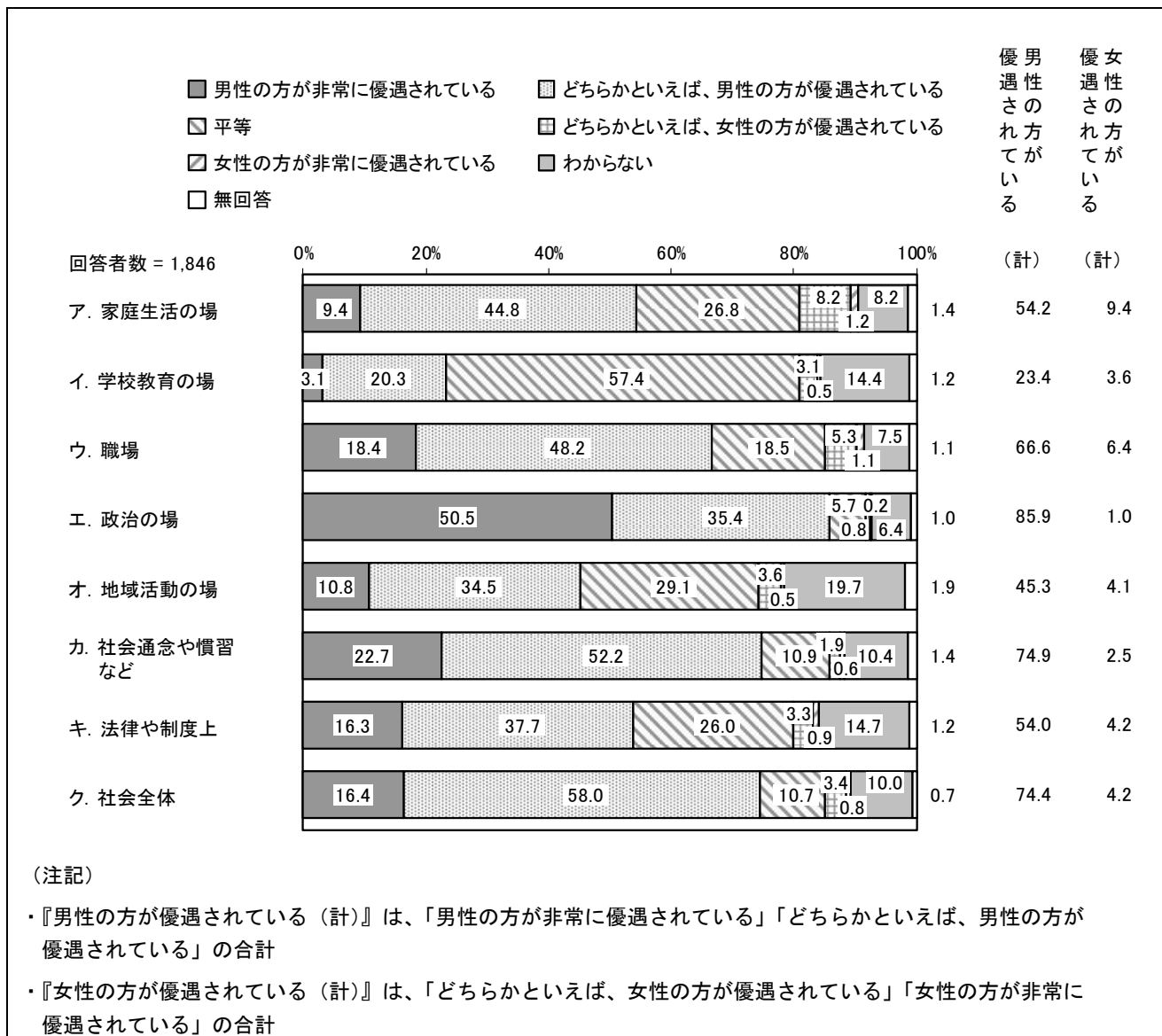
図表 2-1-37 「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方に反対の理由（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、男女ともに「固定的な夫と妻の役割分担意識を押し付けるべきではないから」と回答した人の割合が最も高くなっているが、女性（81.7%）と比べ男性（72.5%）は9.2ポイント低くなっている。また、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」と回答した人の割合は女性（27.1%）に比べ男性（39.3%）が12.2ポイント高くなっている。特に、男性50～59歳、60～69歳が高く、4割以上と同年代の女性に比べ開きが大きくなっている。

(3) 各分野における男女の地位の平等感

問3. あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
(ア～クのそれぞれについて、あてはまる「1～6」に○を1つ)

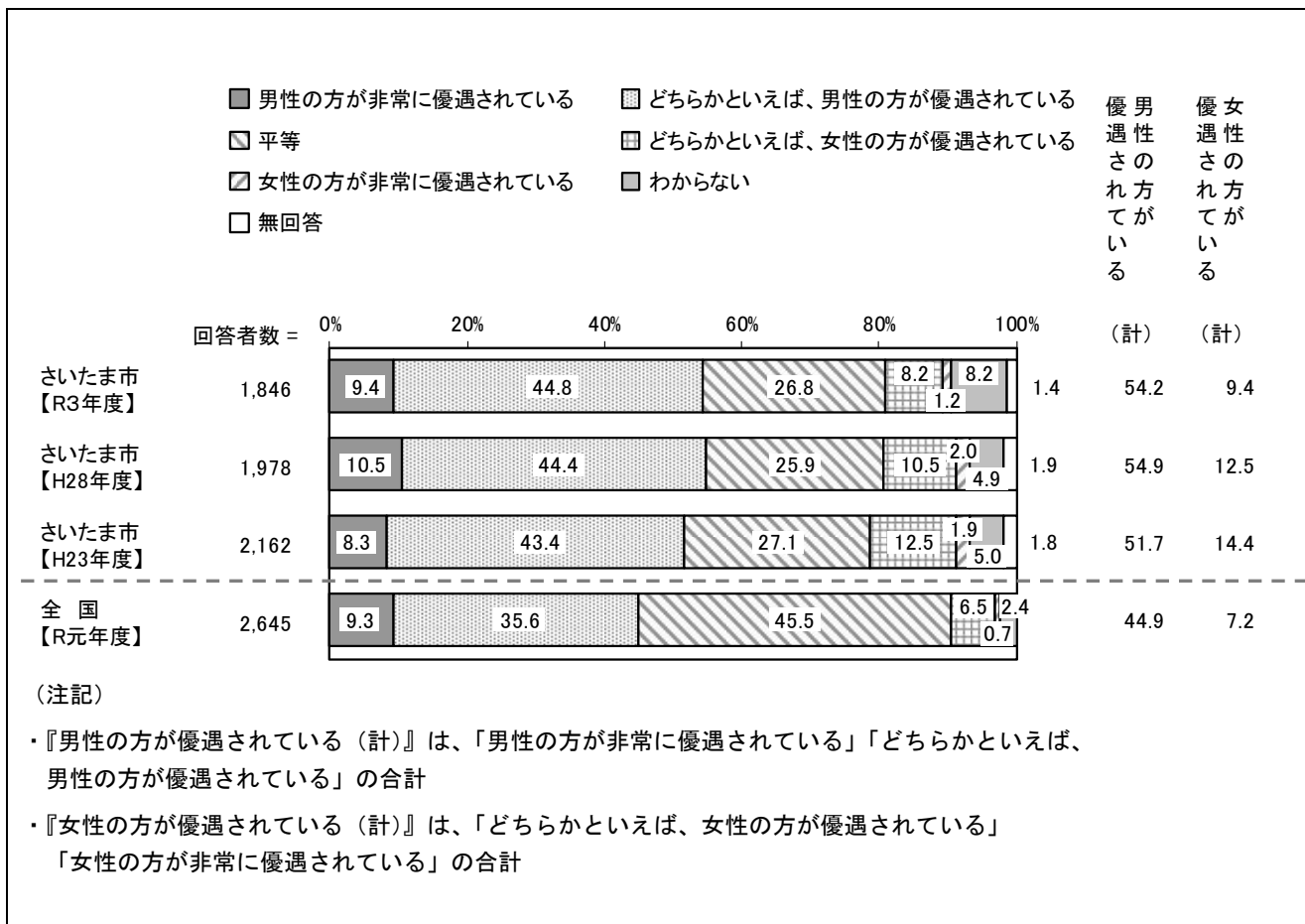


図表 2-1-38 各分野における男女の地位の平等感

○全体の傾向

各分野における男女の地位は、8項目中6項目で『男性の方が優遇されている (計)』の割合が5割を超えている。特に「政治の場」(85.9%)、「社会通念や慣習など」(74.9%)、「社会全体」(74.4%)などは『男性の方が優遇されている (計)』の割合が高く、7割を超えている。一方、「学校教育の場」は「平等」(57.4%)の割合が5割を超えている。

ア. 家庭生活の場



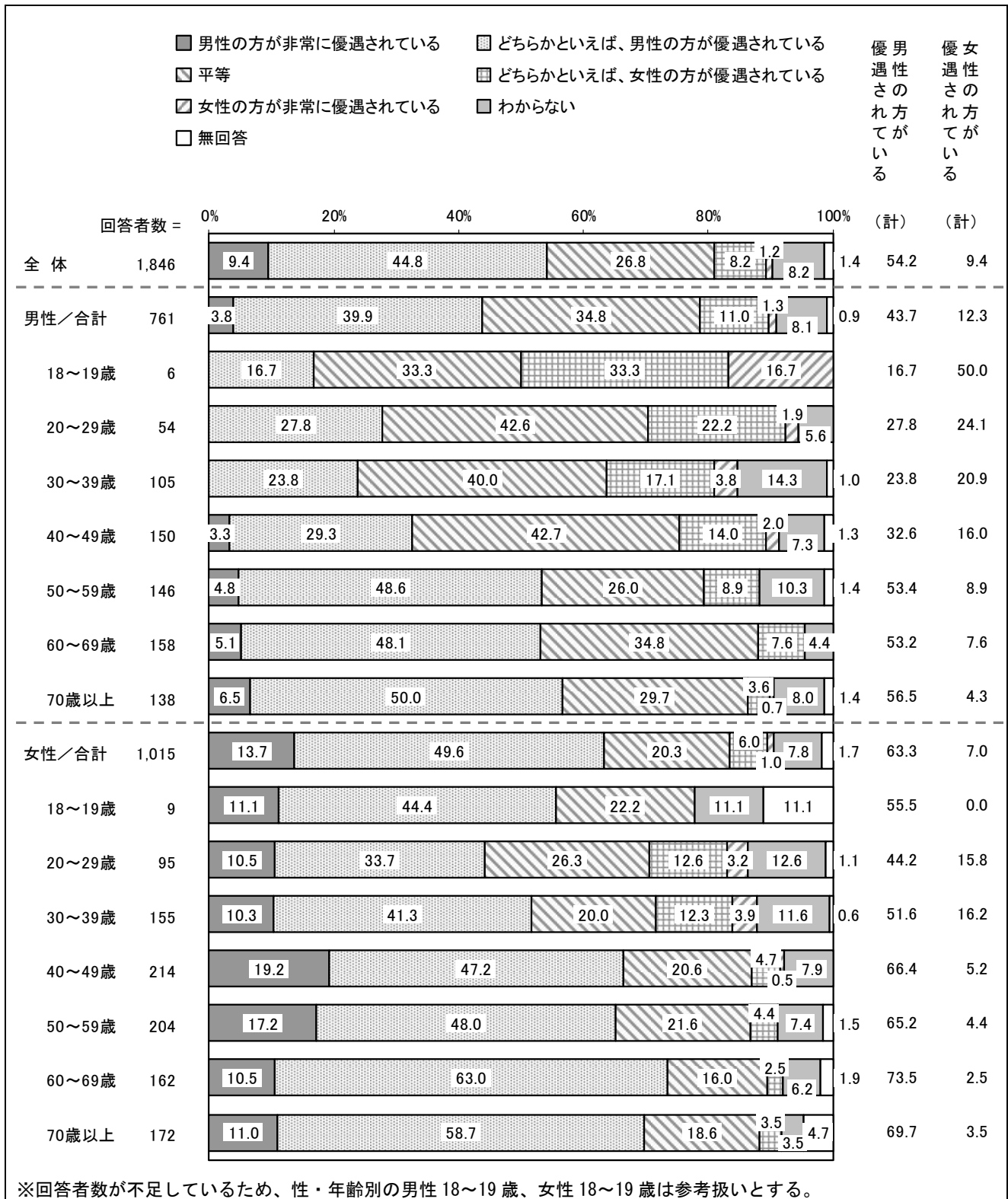
図表 2-1-39 「家庭生活の場」における男女の地位の平等感

○全体の傾向・経年変化・全国調査との比較

『男性の方が優遇されている (計)』の割合が 54.2%、「平等」の割合が 26.8%、『女性の方が優遇されている (計)』の割合が 9.4%となっている。

過去の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている (計)』の割合に大きな変化はないものの、いずれの年度でも半数を超えている。

全国の調査結果と比較すると、さいたま市は、『男性の方が優遇されている (計)』の割合が全国 (44.9%) から 9.3 ポイント高くなっている。

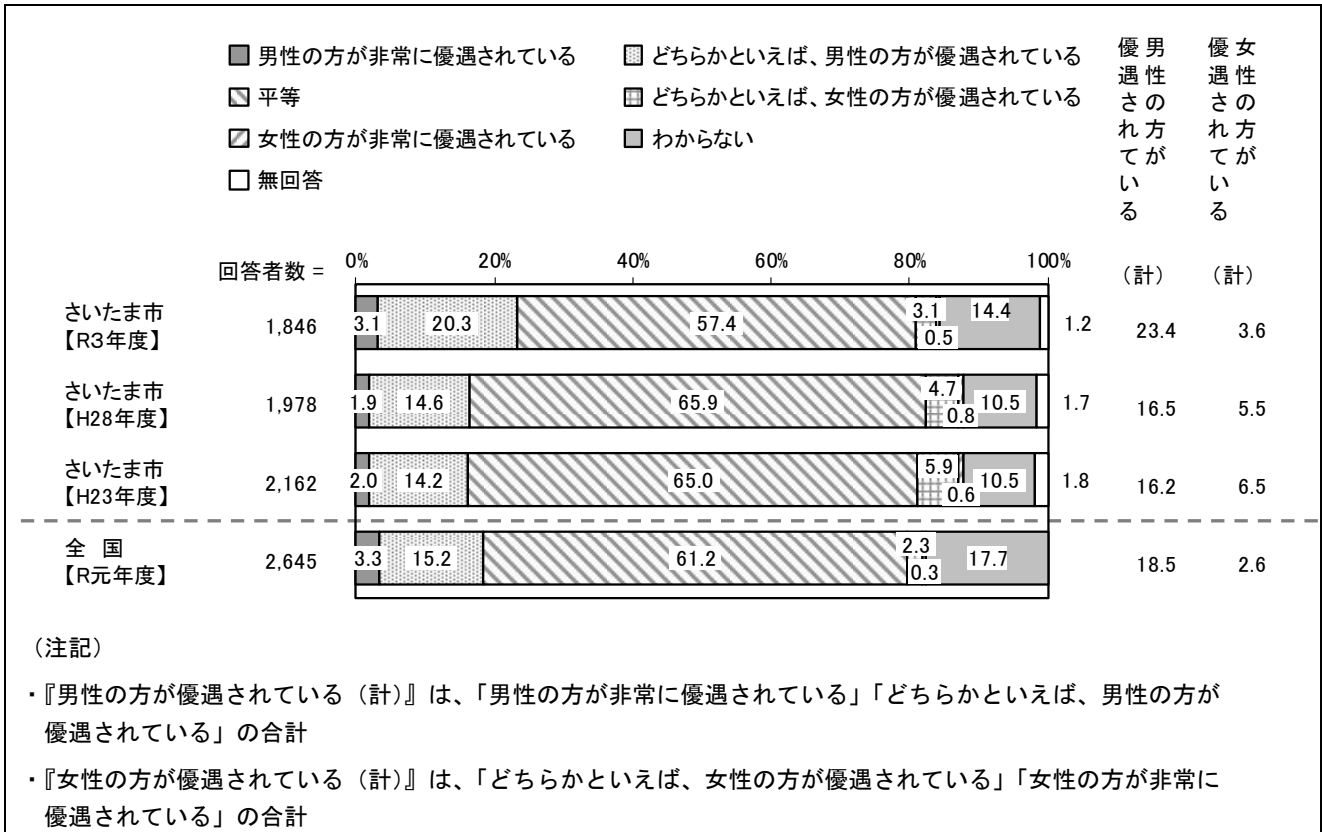


図表 2-1-40 「家庭生活の場」における男女の地位の平等感（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は女性（63.3%）が男性（43.7%）を19.6ポイント上回っている。特に、女性60~69歳が最も高く、7割を超えている。一方、男性20~29歳や30~39歳は低くなっており3割を下回っている。

イ. 学校教育の場



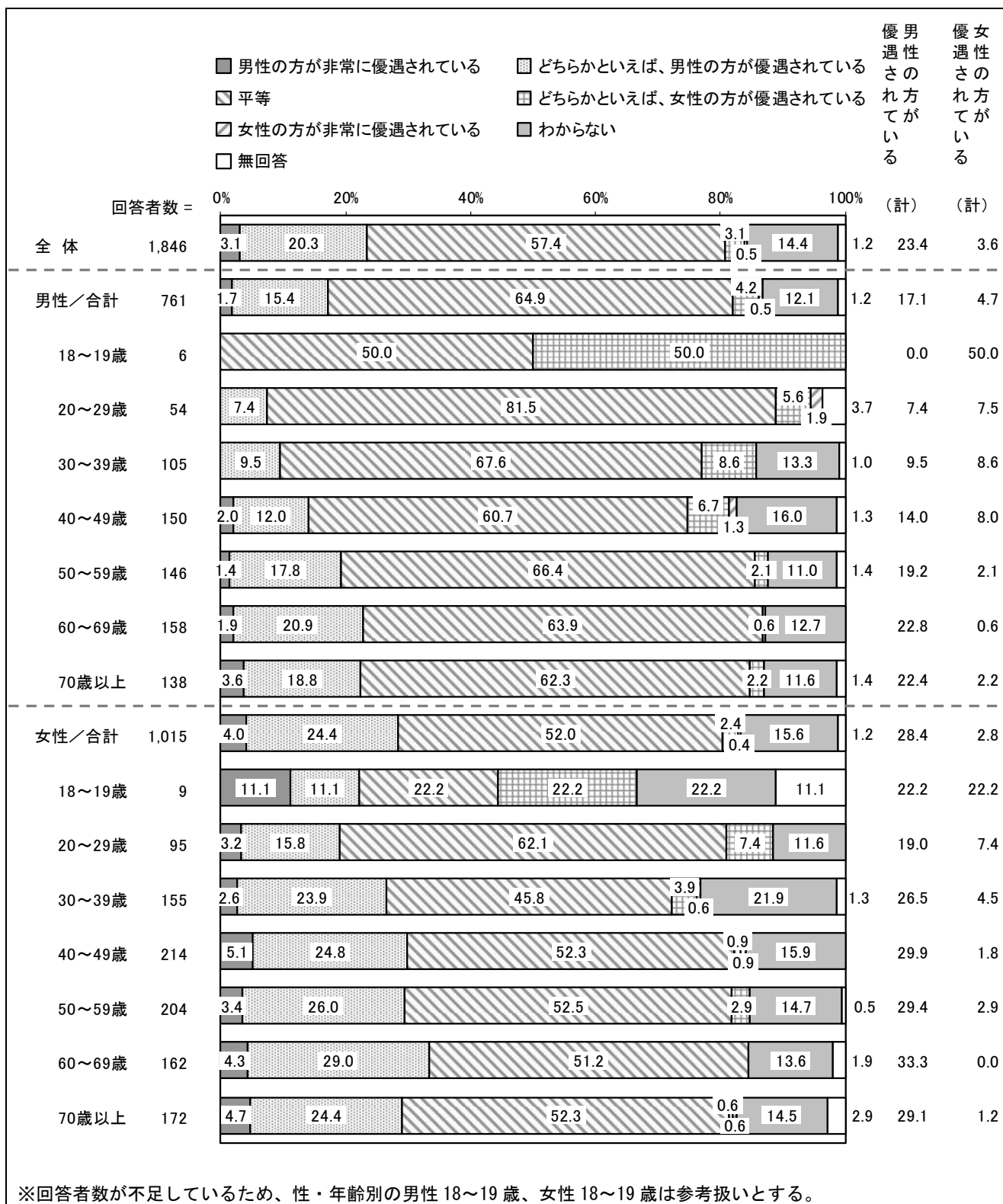
図表 2-1-41 「学校教育の場」における男女の地位の平等感

○全体の傾向・経年変化・全国調査との比較

『男性の方が優遇されている (計)』の割合が23.4%、「平等」の割合が57.4%、『女性の方が優遇されている (計)』の割合が3.6%となっている。

過去の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている (計)』の割合が平成28年度(16.5%)から6.9ポイントの増加がみられる。

全国の調査結果と比較すると、さいたま市は、『男性の方が優遇されている (計)』の割合が全国(18.5%)から4.9ポイント高くなっている。



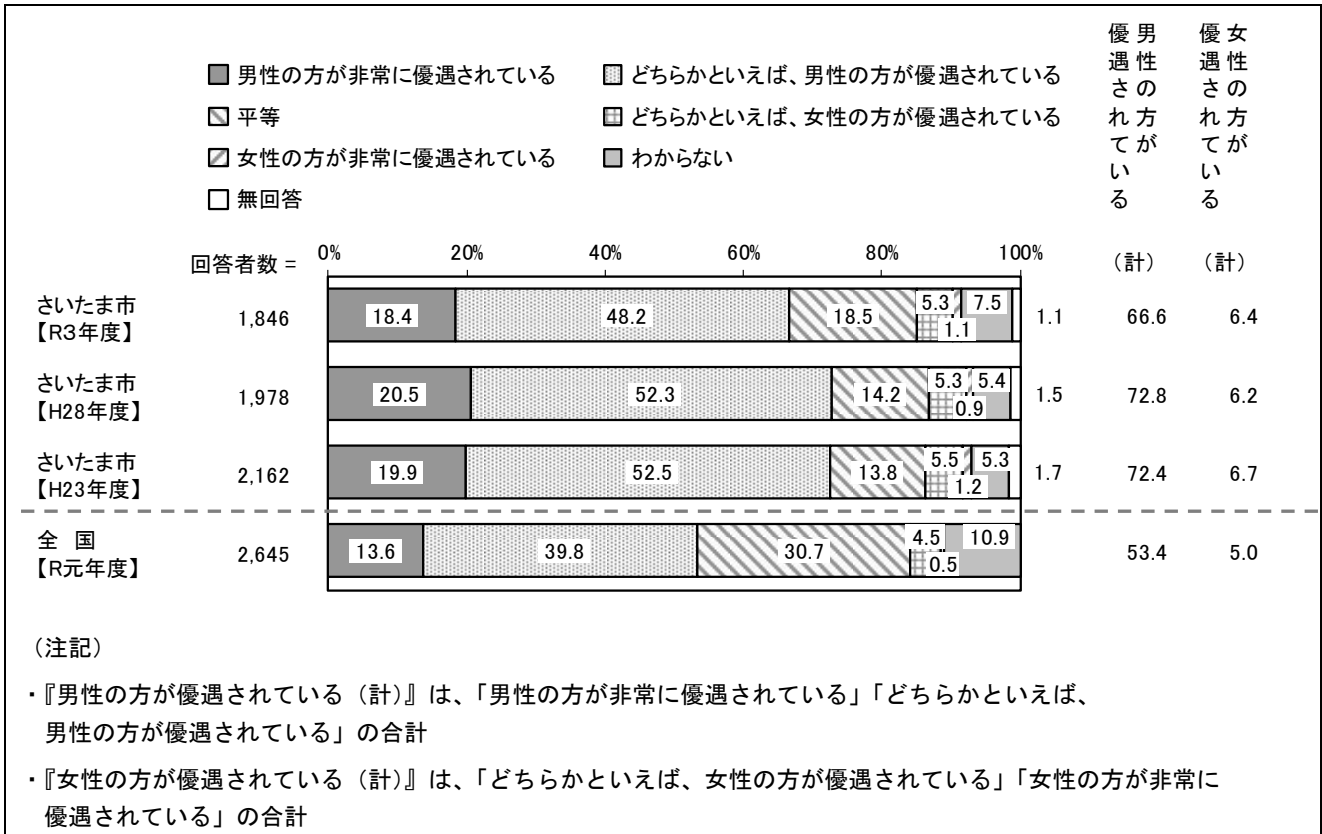
※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

図表 2-1-42 「学校教育の場」における男女の地位の平等感（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は女性（28.4%）が男性（17.1%）を11.3ポイント上回っている。『男性の方が優遇されている（計）』の割合は年齢が上がるほど高くなる傾向にあり、特に、女性60～69歳では3割を超えている。

ウ. 職場



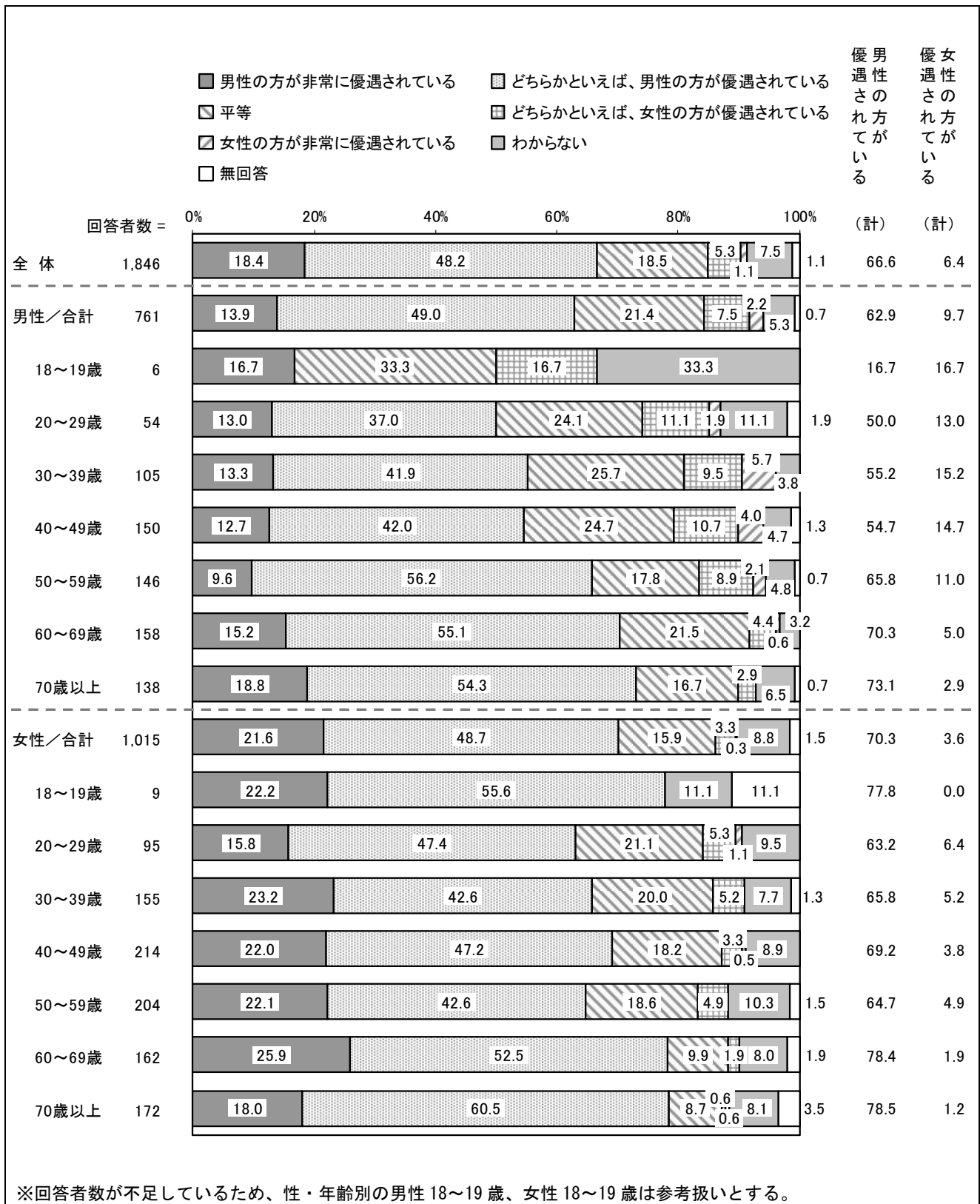
図表 2-1-43 「職場」における男女の地位の平等感

○全体の傾向・経年変化・全国調査との比較

『男性の方が優遇されている (計)』の割合が 66.6%、「平等」の割合が 18.5%、『女性の方が優遇されている (計)』の割合が 6.4%となっている。

過去の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている (計)』の割合はいずれの年度でも半数を超えているものの、平成 28 年度 (72.8%) から 6.2 ポイントの減少がみられる。

全国の調査結果と比較すると、さいたま市は、『男性の方が優遇されている (計)』の割合が全国 (53.4%) から 13.2 ポイント高くなっている。

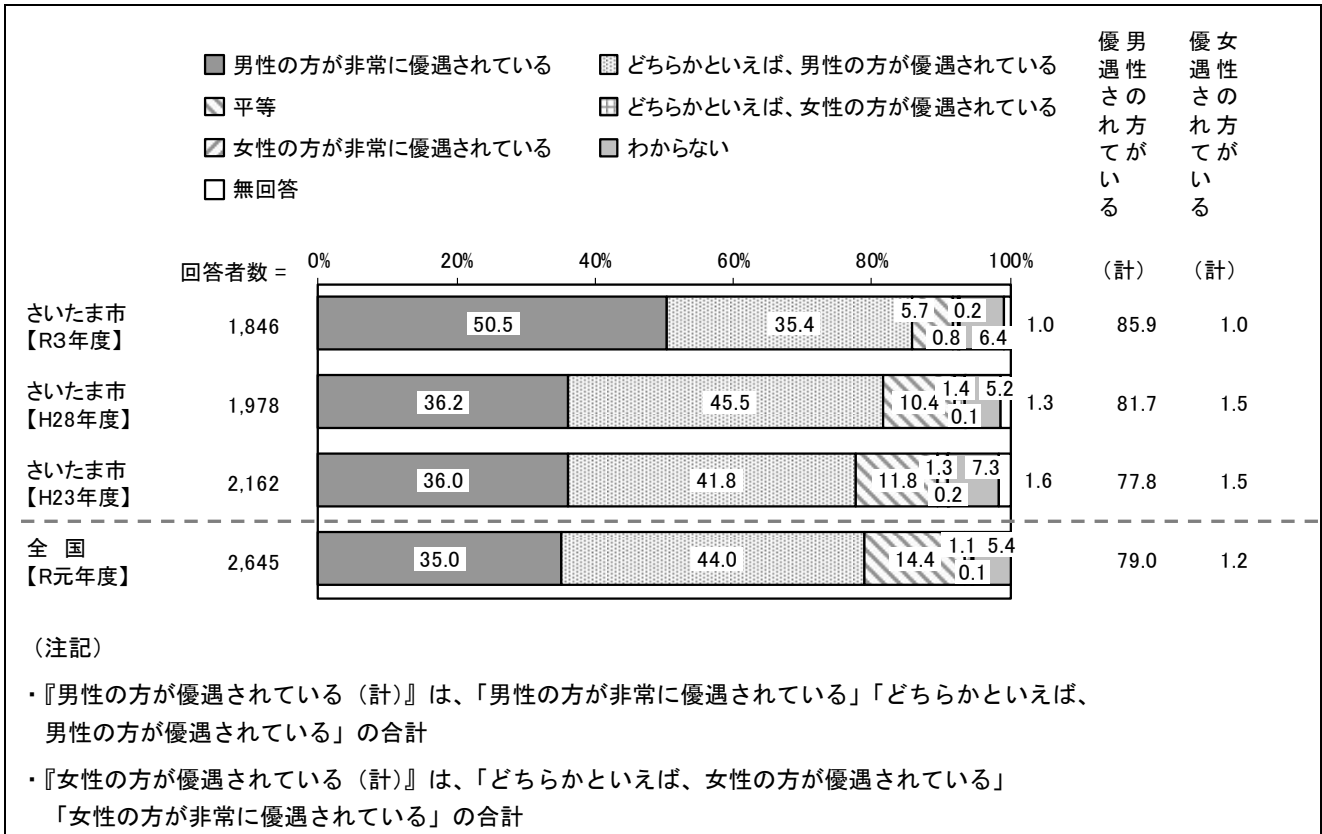


図表 2-1-44 「職場」における男女の地位の平等感 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『男性の方が優遇されている(計)』の割合は女性(70.3%)が男性(62.9%)を7.4ポイント上回っている。特に、女性60～69歳と70歳以上が高く、約8割となっている。一方、男性20～29歳から40～49歳は低くなっており6割を下回っている。

エ. 政治の場



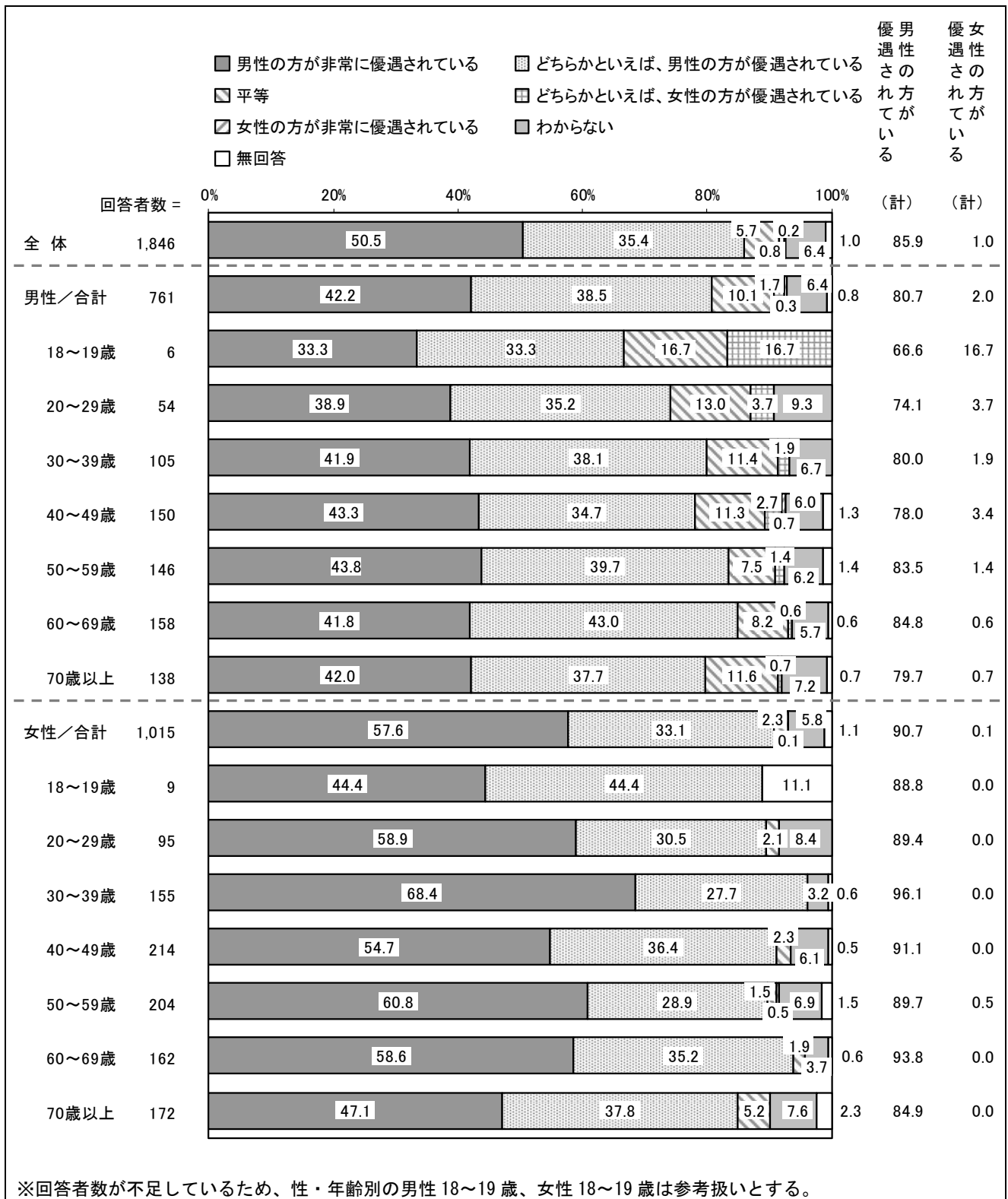
図表 2-1-45 「政治の場」における男女の地位の平等感

○全体の傾向・経年変化・全国調査との比較

『男性の方が優遇されている (計)』の割合が 85.9%、「平等」の割合が 5.7%、『女性の方が優遇されている (計)』の割合が 1.0%となっている。

過去の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている (計)』の割合が増加傾向にあり、平成 28 年度 (81.7%) から 4.2 ポイントの増加がみられる。特に「男性の方が非常に優遇されている」が大きく増加している。

全国の調査結果と比較すると、さいたま市は、『男性の方が優遇されている (計)』の割合が全国 (79.0%) から 6.9 ポイント高くなっている。



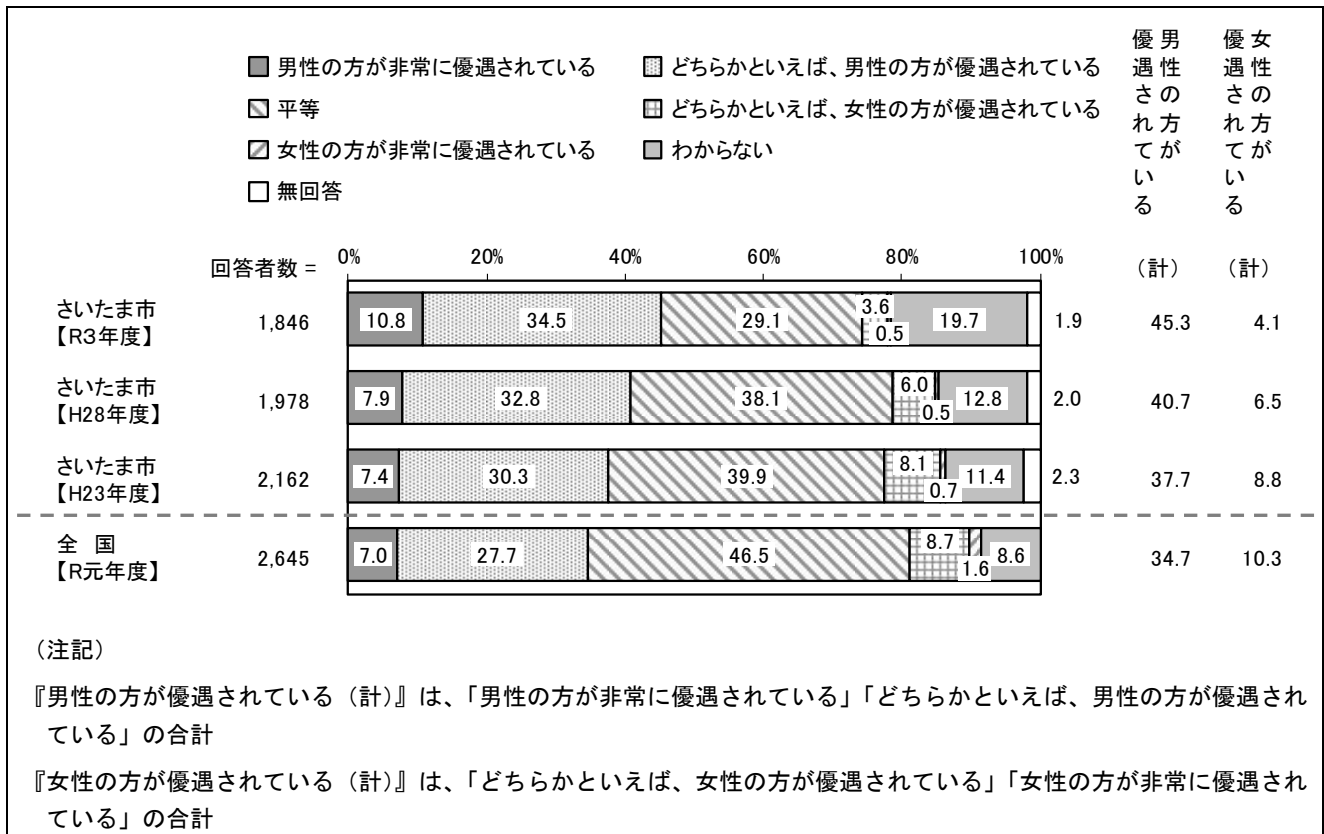
※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

図表 2-1-46 「政治の場」における男女の地位の平等感（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『男性の方が優遇されている(計)』の割合は女性(90.7%)が男性(80.7%)を10.0ポイント上回っている。特に、女性30～39歳が最も高く、10割に近い割合となっている。一方、男性20～29歳はやや低くなっている。

オ. 地域活動の場



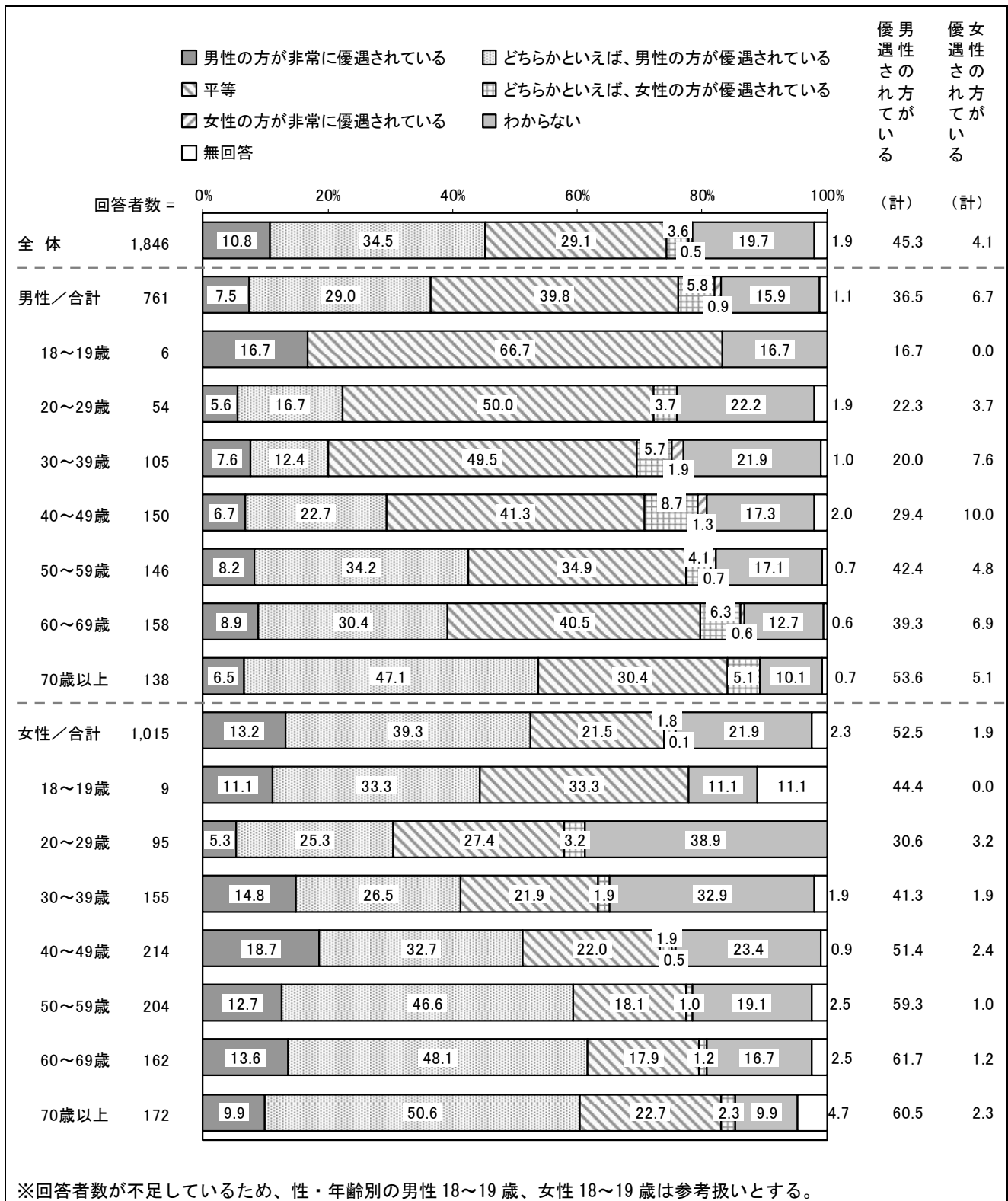
図表 2-1-47 「地域活動の場」における男女の地位の平等感

○全体の傾向・経年変化・全国調査との比較

『男性の方が優遇されている (計)』の割合が 45.3%、「平等」の割合が 29.1%、『女性の方が優遇されている (計)』の割合が 4.1%となっている。

過去の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている (計)』の割合が増加傾向にあり、平成 28 年度 (40.7%) から 4.6 ポイントの増加がみられる。

全国の調査結果と比較すると、さいたま市は、『男性の方が優遇されている (計)』の割合が全国 (34.7%) から 10.6 ポイント高くなっている。

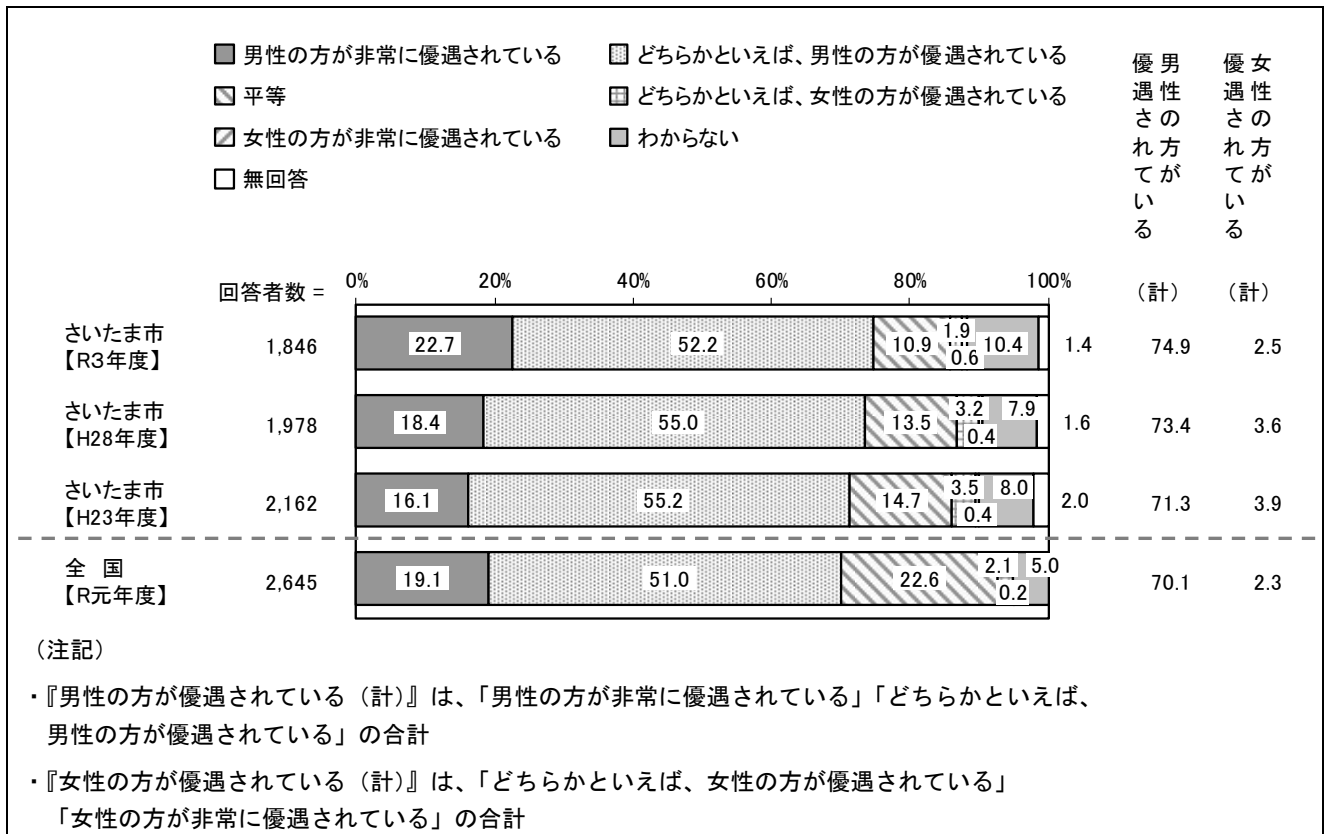


図表 2-1-48 「地域活動の場」における男女の地位の平等感（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は女性（52.5%）が男性（36.5%）を16.0ポイント上回っている。特に、女性50～59歳、60～69歳、70歳以上で高く、約6割となっている。

カ. 社会通念や慣習など



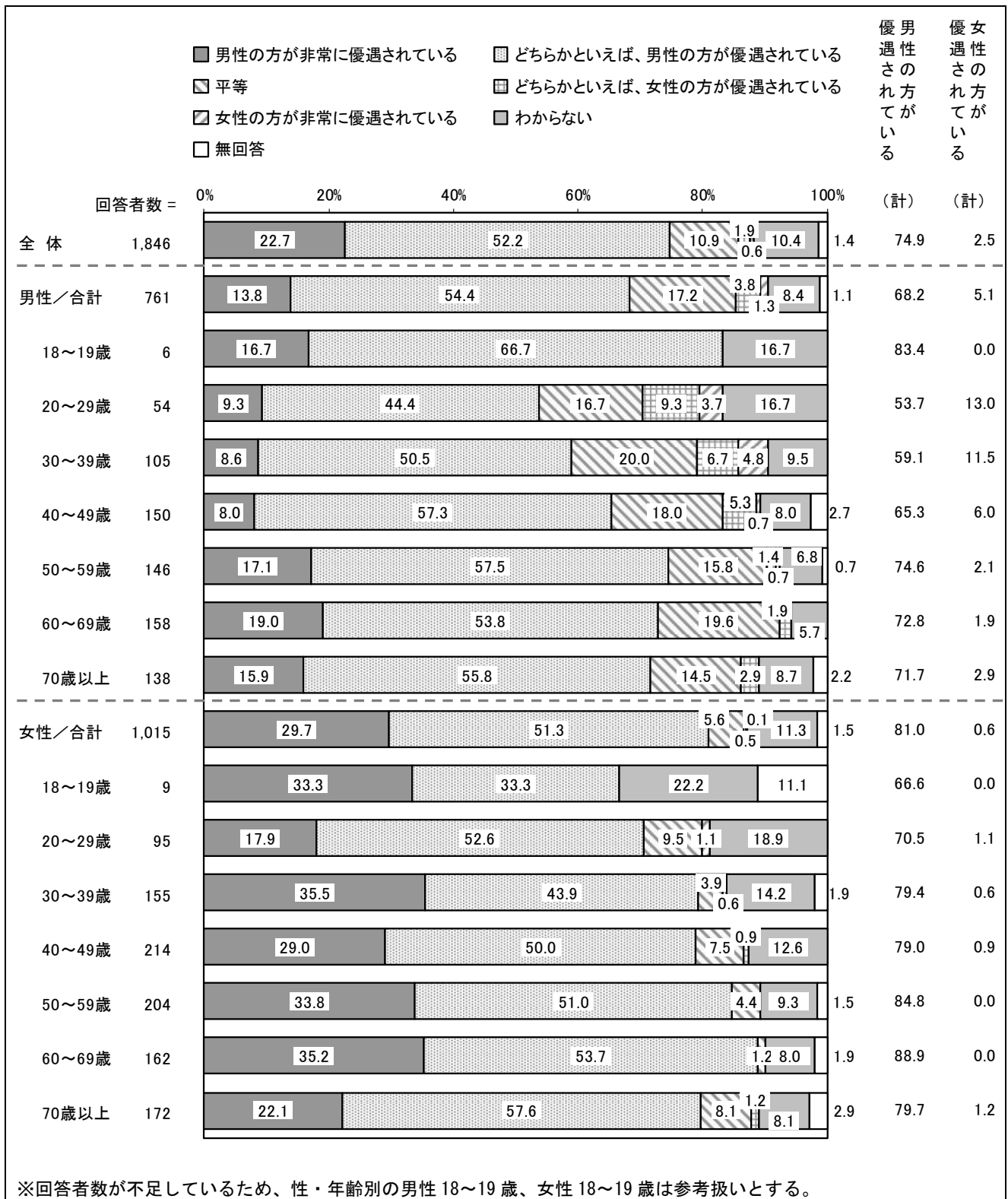
図表 2-1-49 「社会通念や慣習など」における男女の地位の平等感

○全体の傾向・経年変化・全国調査との比較

『男性の方が優遇されている (計)』の割合が 74.9%、「平等」の割合が 10.9%、『女性の方が優遇されている (計)』の割合が 2.5%となっている。

過去の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている (計)』の割合が微増傾向にあり、平成 28 年度 (73.4%) から 1.5 ポイントの増加がみられる。

全国の調査結果と比較すると、さいたま市は、『男性の方が優遇されている (計)』の割合が全国 (70.1%) から 4.8 ポイント高くなっている。

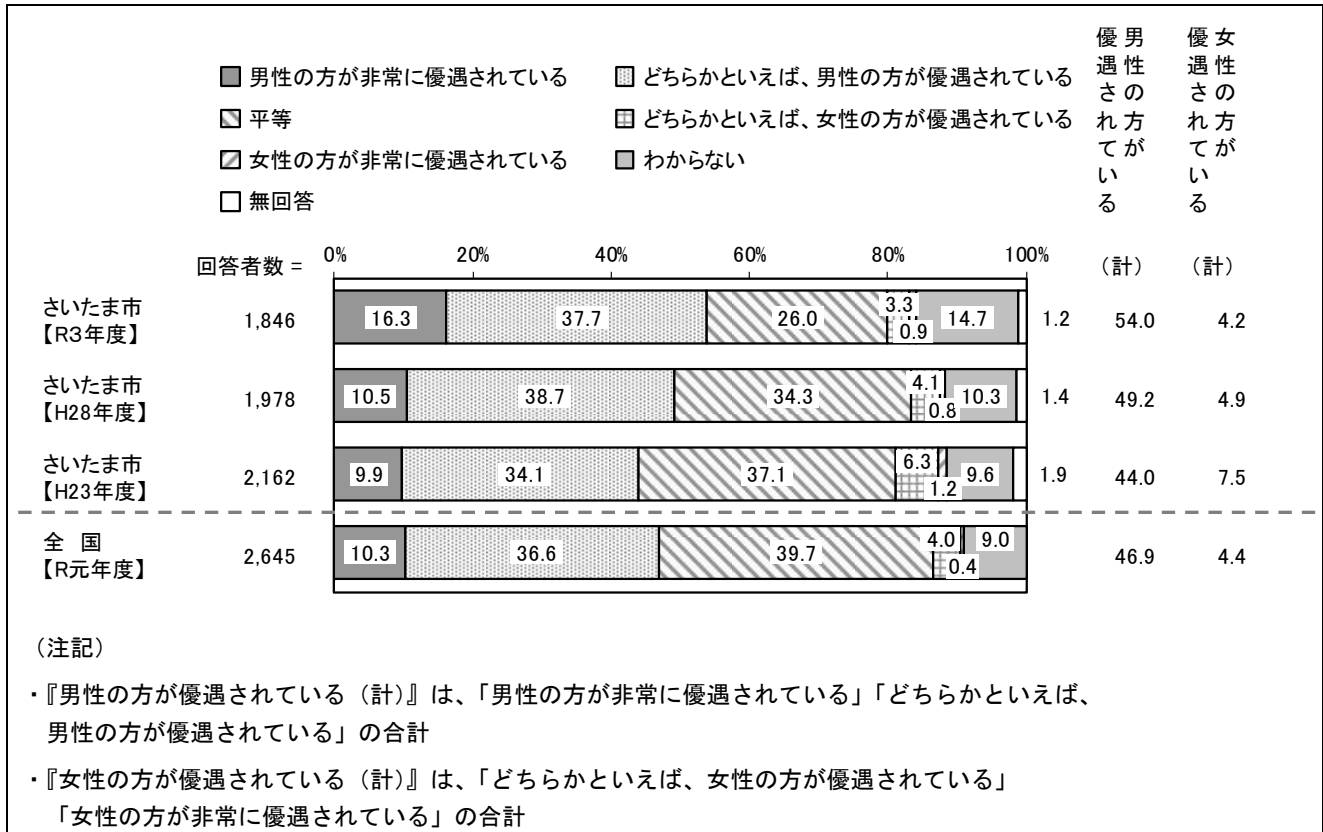


図表 2-1-50 「社会通念や慣習など」における男女の地位の平等感（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は女性（81.0%）が男性（68.2%）を12.8ポイント上回っている。特に、女性50～59歳、60～69歳が高く、8割を超えている。一方、男性20～29歳、30～39歳は低く、6割を下回っている。

キ. 法律や制度上



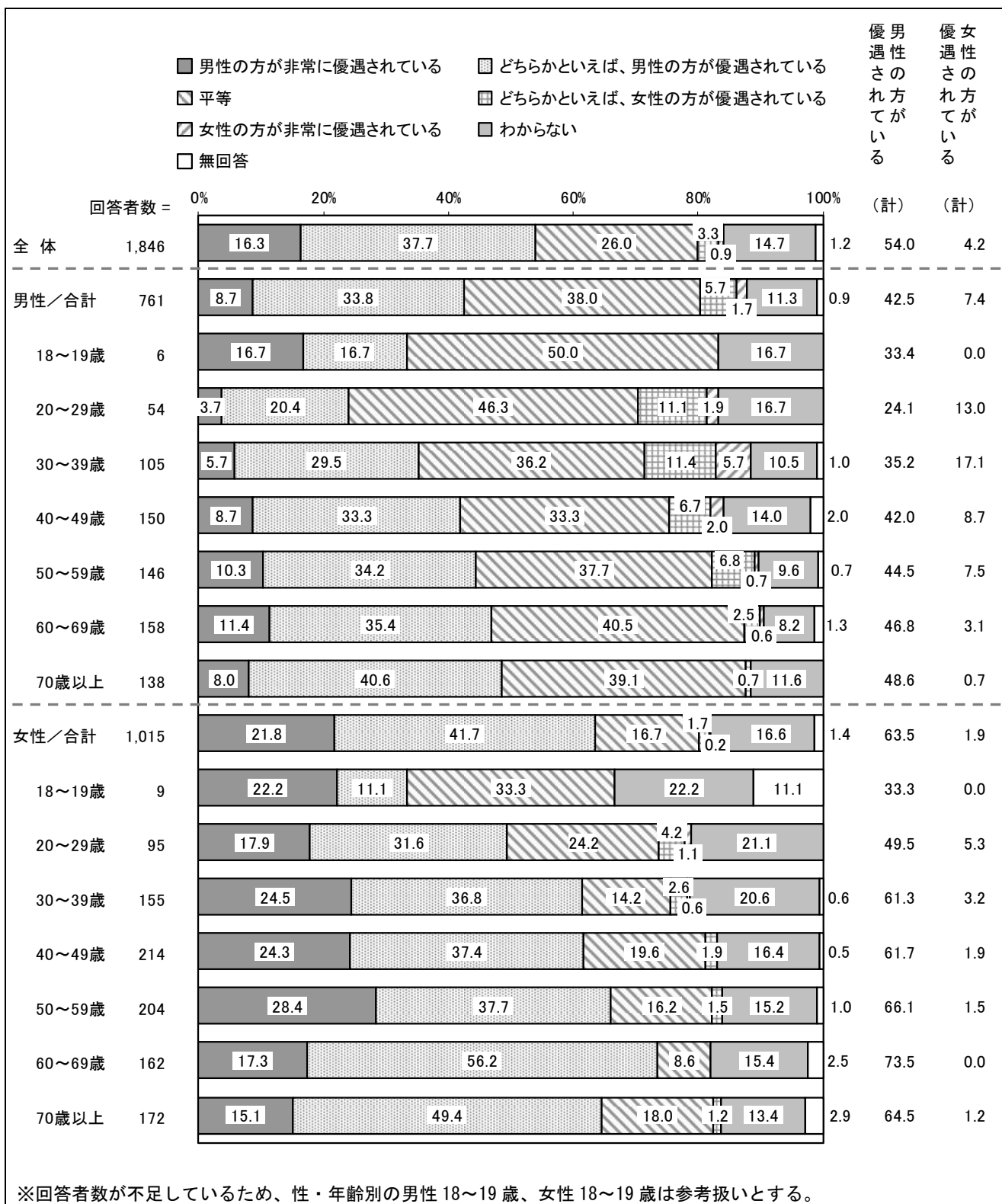
図表 2-1-51 「法律や制度上」における男女の地位の平等感

○全体の傾向・経年変化・全国調査との比較

『男性の方が優遇されている (計)』の割合が 54.0%、「平等」の割合が 26.0%、『女性の方が優遇されている (計)』の割合が 4.2%となっている。

過去の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている (計)』の割合が増加傾向にあり、平成 28 年度 (49.2%) から 4.8 ポイントの増加がみられる。

全国の調査結果と比較すると、さいたま市は、『男性の方が優遇されている (計)』の割合が全国 (46.9%) から 7.1 ポイント高くなっている。

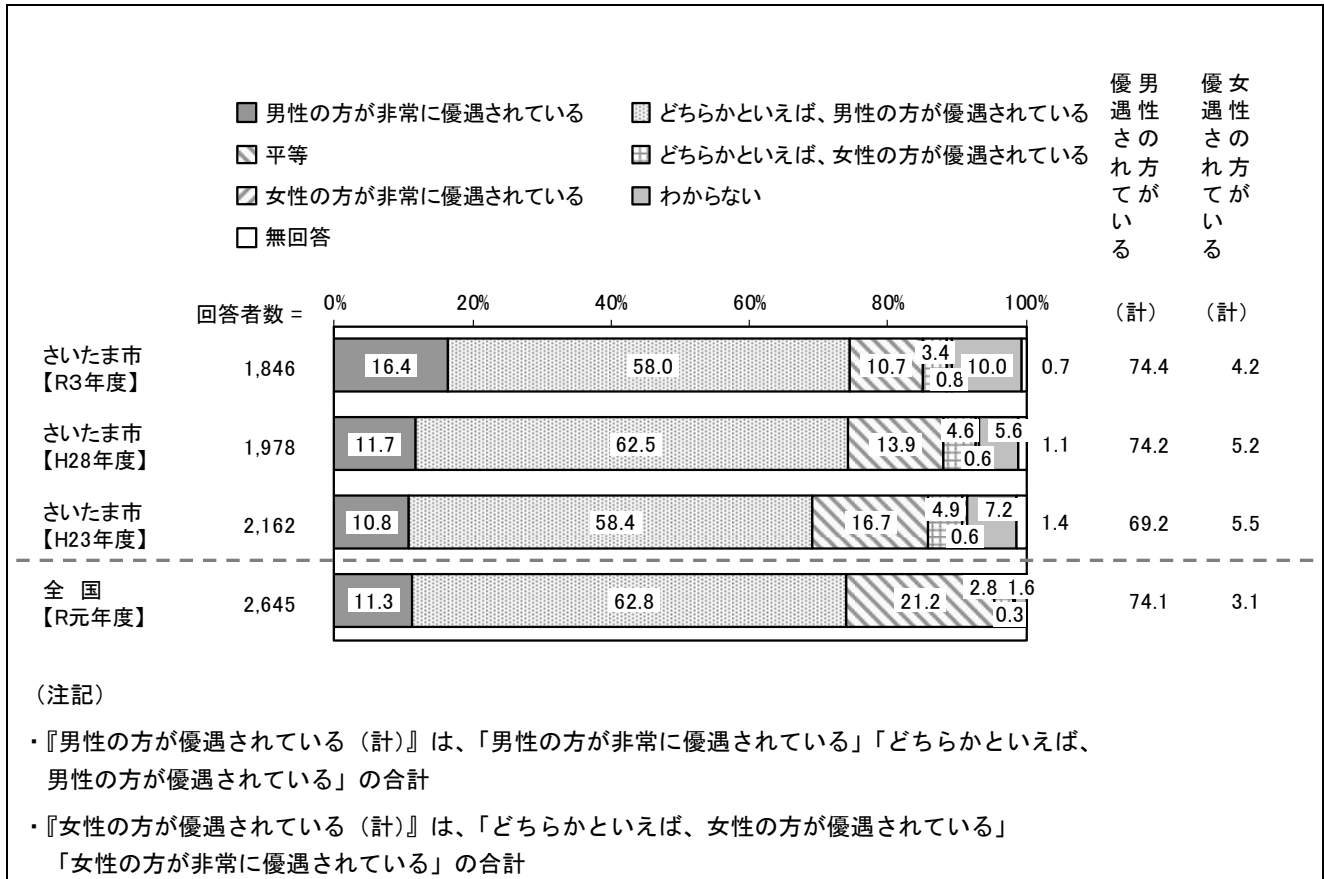


図表 2-1-52 「法律や制度上」における男女の地位の平等感（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は女性（63.5%）が男性（42.5%）を21.0ポイント上回っている。特に、女性60~69歳が最も高く、7割を超えている。一方、男性20~29歳、30~39歳は低く、4割を下回っている。

ク. 社会全体



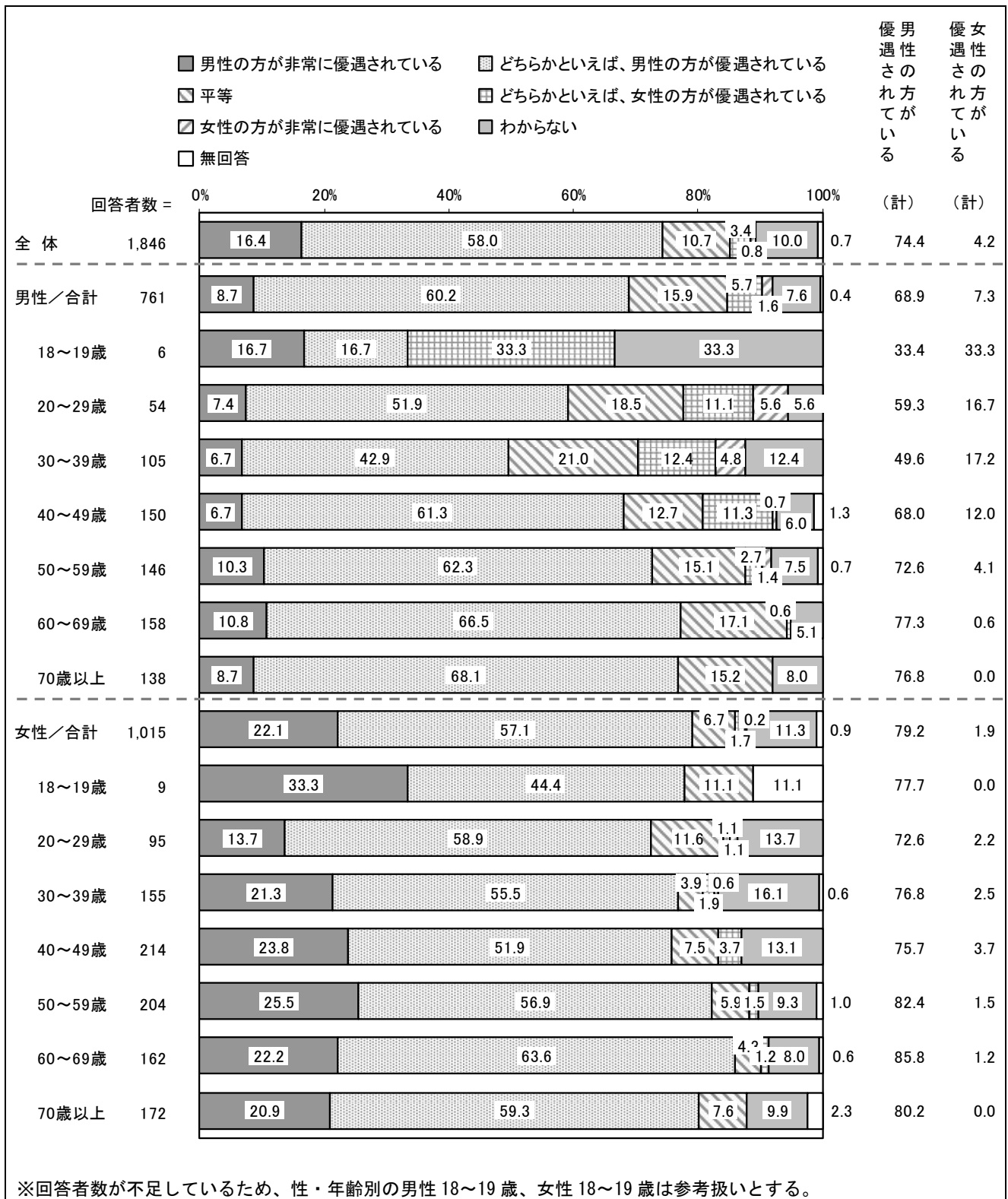
図表 2-1-53 「社会全体」における男女の地位の平等感

○全体の傾向・経年変化・全国調査との比較

『男性の方が優遇されている (計)』の割合が 74.4%、「平等」の割合が 10.7%、『女性の方が優遇されている (計)』の割合が 4.2%となっている。

過去の調査と比較すると、『男性の方が優遇されている (計)』の割合は平成 28 年度 (74.2%) から大きな変化はないものの、「男性の方が非常に優遇されている」が 4.7 ポイント増加している。

全国の調査結果と比較すると、さいたま市は、『男性の方が優遇されている (計)』の割合は全国 (74.1%) と同程度となっているものの、「平等」の割合は低くなっている。



※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18~19歳、女性18~19歳は参考扱いとする。

図表 2-1-54 「社会全体」における男女の地位の平等感 (性・年齢別)

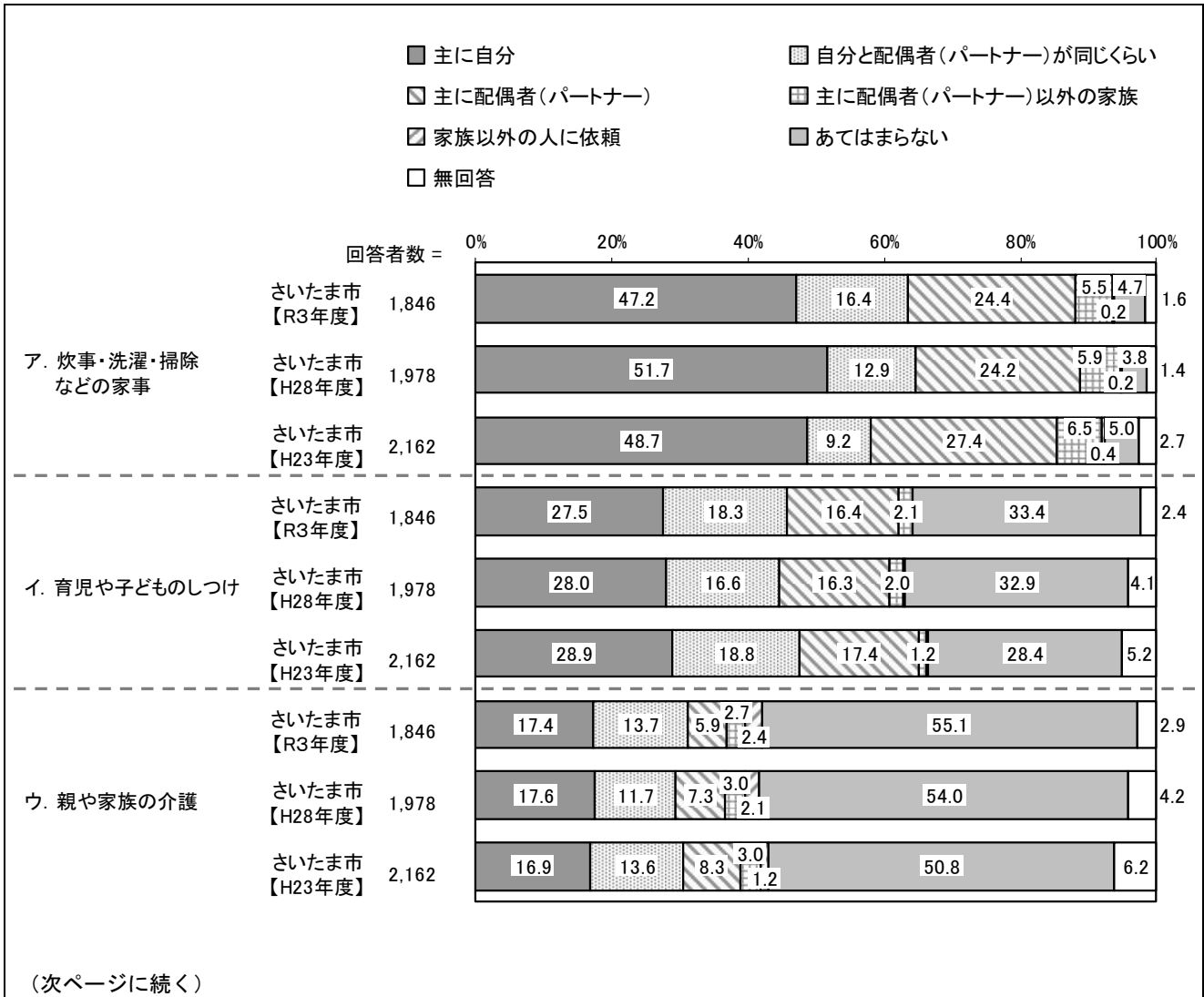
○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『男性の方が優遇されている(計)』の割合は女性(79.2%)が男性(68.9%)を10.3ポイント上回っている。特に、女性50~59歳、60~69歳、70歳以上で高く、8割を超えている。一方、男性20~29歳、30~39歳では低く、6割以下となっている。

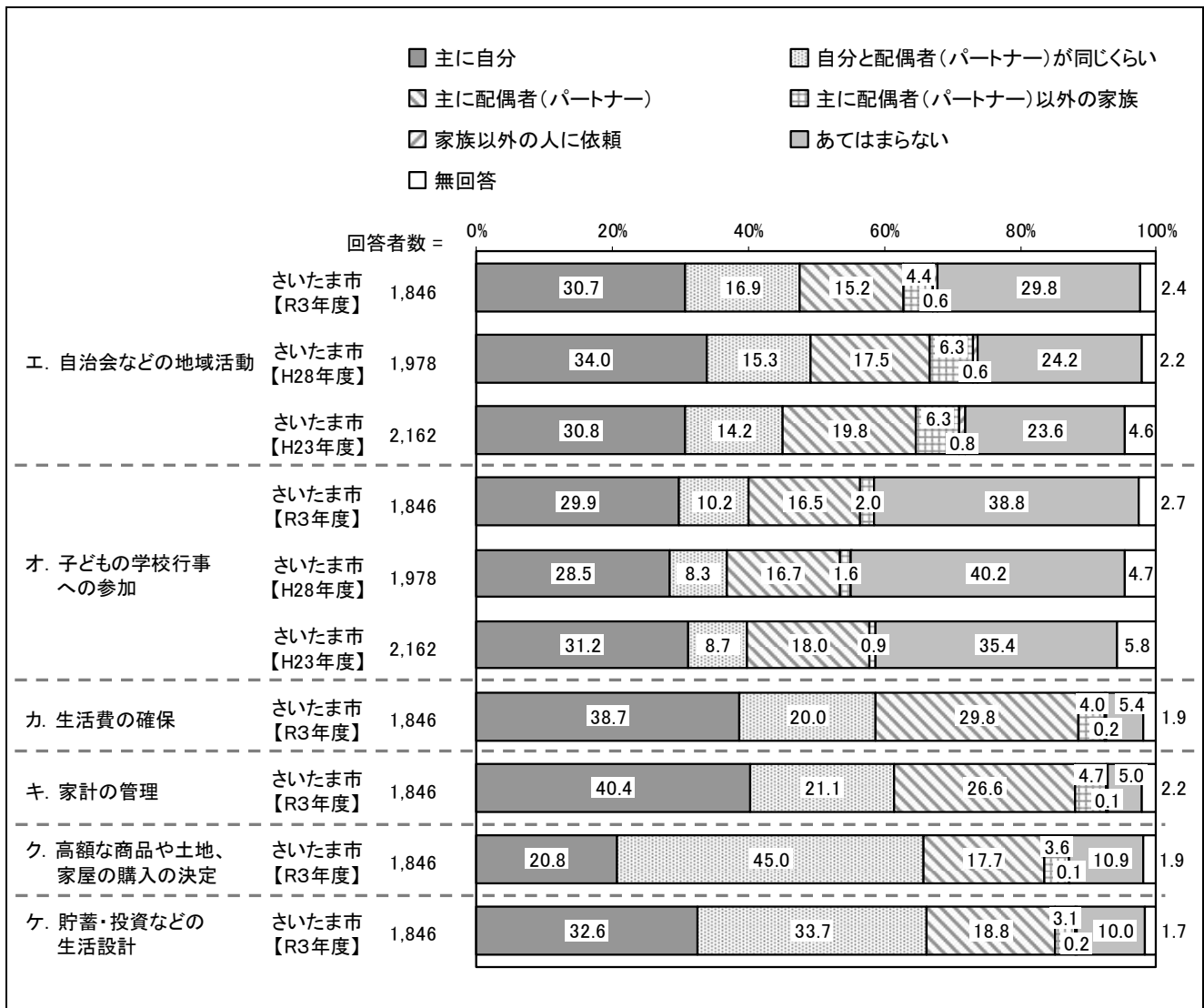
2 家庭生活について

(1) 家庭生活における役割分担

問4. 家庭では次のことがらを、主にどなたが行っていますか。
 (ア～ケのそれぞれについて、あてはまる「1～6」に○を1つ)



図表 2-2-1 家庭生活における役割分担 (その1)



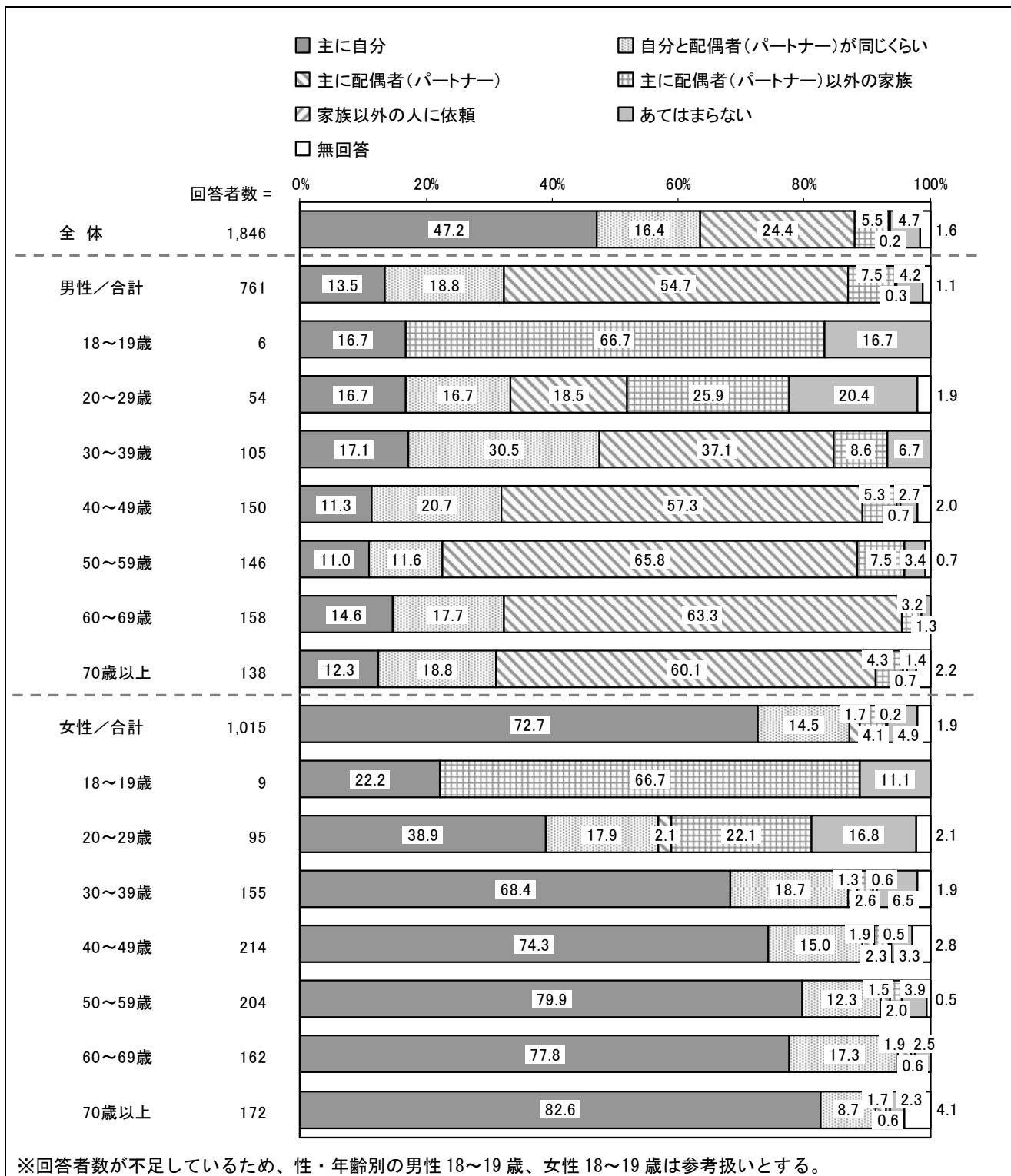
図表 2-2-1 家庭生活における役割分担（その2）

○全体の傾向・経年変化

家庭生活における役割分担の中で、「主に自分」の割合は、『炊事・洗濯・掃除などの家事』(47.2%)が最も高く、次いで、『家計の管理』(40.4%)、『生活費の確保』(38.7%)が高くなっている。一方、「主に配偶者(パートナー)」の割合は生活費の確保(29.8%)が最も高くなっている。「自分と配偶者(パートナー)が同じくらい」の割合は、高額な商品や土地、家屋の購入の決定(45.0%)で高くなっている。

過去の調査と比較すると、『炊事・洗濯・掃除などの家事』では「自分と配偶者(パートナー)が同じくらい」の割合が増加しており、平成28年度(12.9%)から3.5ポイントの増加がみられる。なお、『育児や子どものしつけ』、『親や家族の介護』、『自治会などの地域活動』、『子どもの学校行事への参加』では大きな変化はみられない。

ア. 炊事・洗濯・掃除などの家事



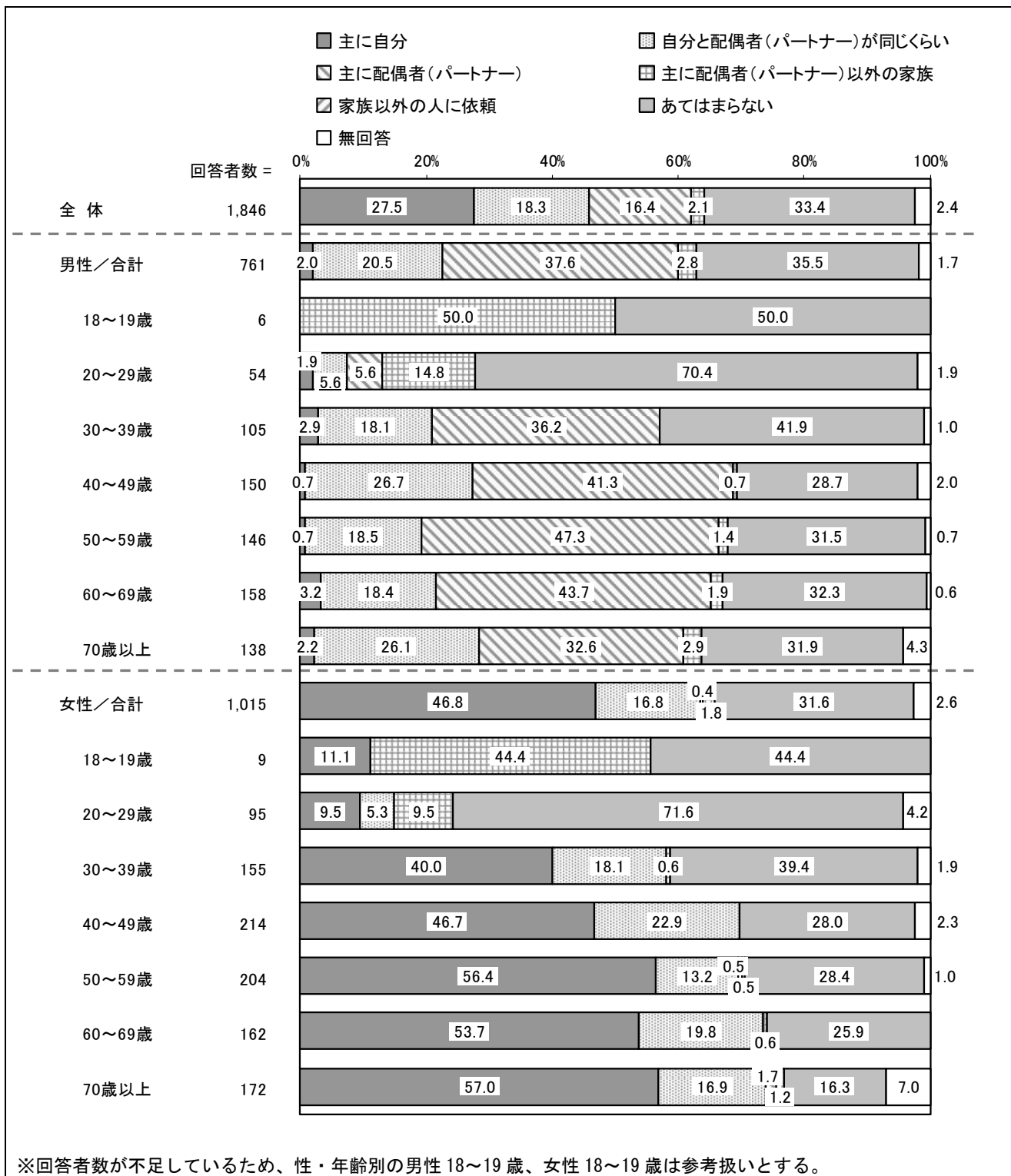
※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18~19歳、女性18~19歳は参考扱いとする。

図表 2-2-2 「炊事・洗濯・掃除などの家事」における役割分担（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、「主に自分」の割合は、女性（72.7%）が男性（13.5%）を59.2ポイント上回っている。特に、女性70歳以上が最も高く、8割を超えており、女性40~49歳、50~59歳、60~69歳で7割を超えている。男性はすべての年代で女性を下回り、70歳以上では70.3ポイントの差が生じている。

イ. 育児や子どものしつけ



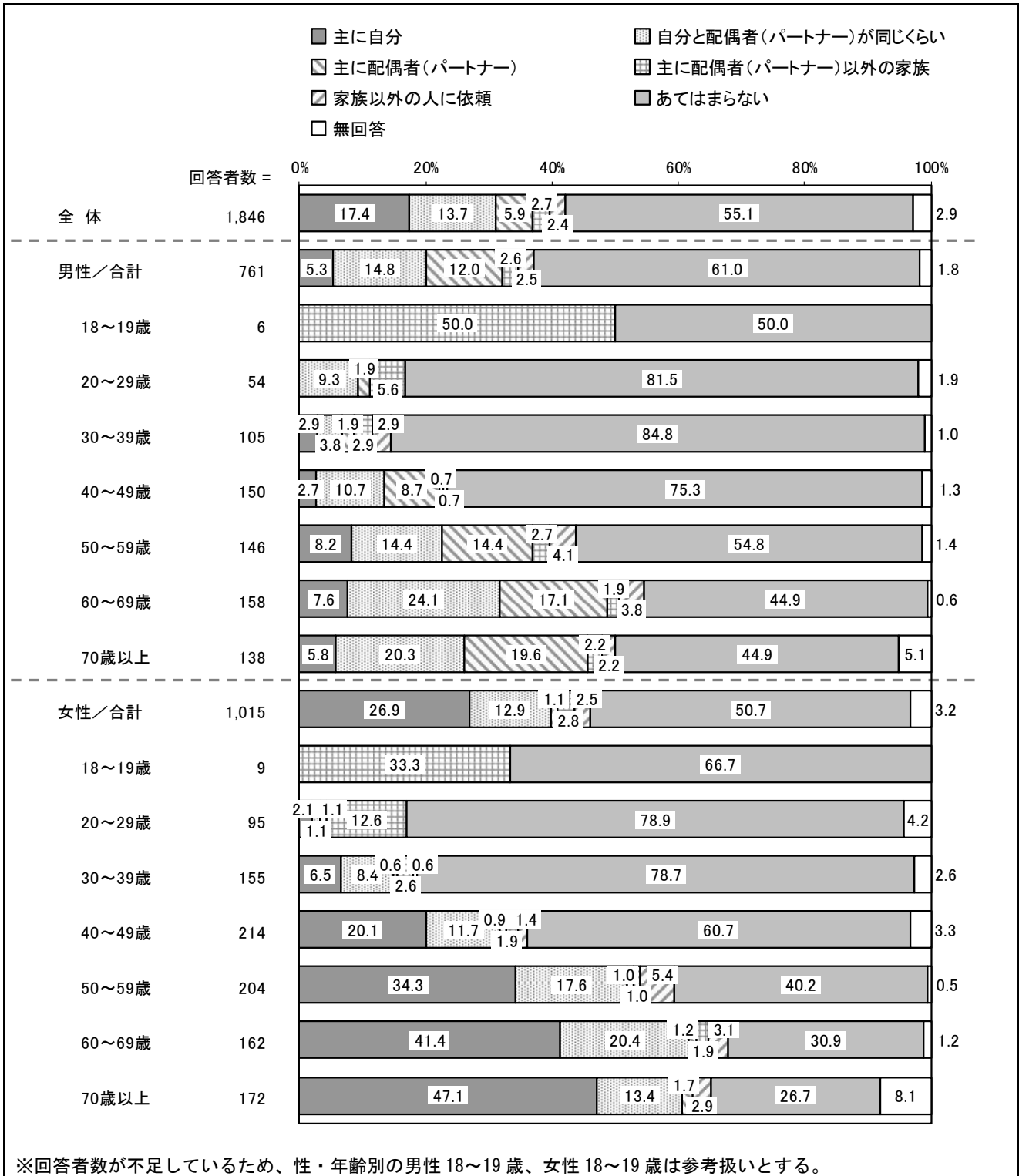
※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18~19歳、女性18~19歳は参考扱いとする。

図表 2-2-3 「育児や子どものしつけ」における役割分担（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「主に自分」の割合は、女性（46.8%）が男性（2.0%）を44.8ポイント上回っている。女性50~59歳、60~69歳、70歳以上で5割を超えている。男性はすべての年代で女性を下回っている。

ウ. 親や家族の介護



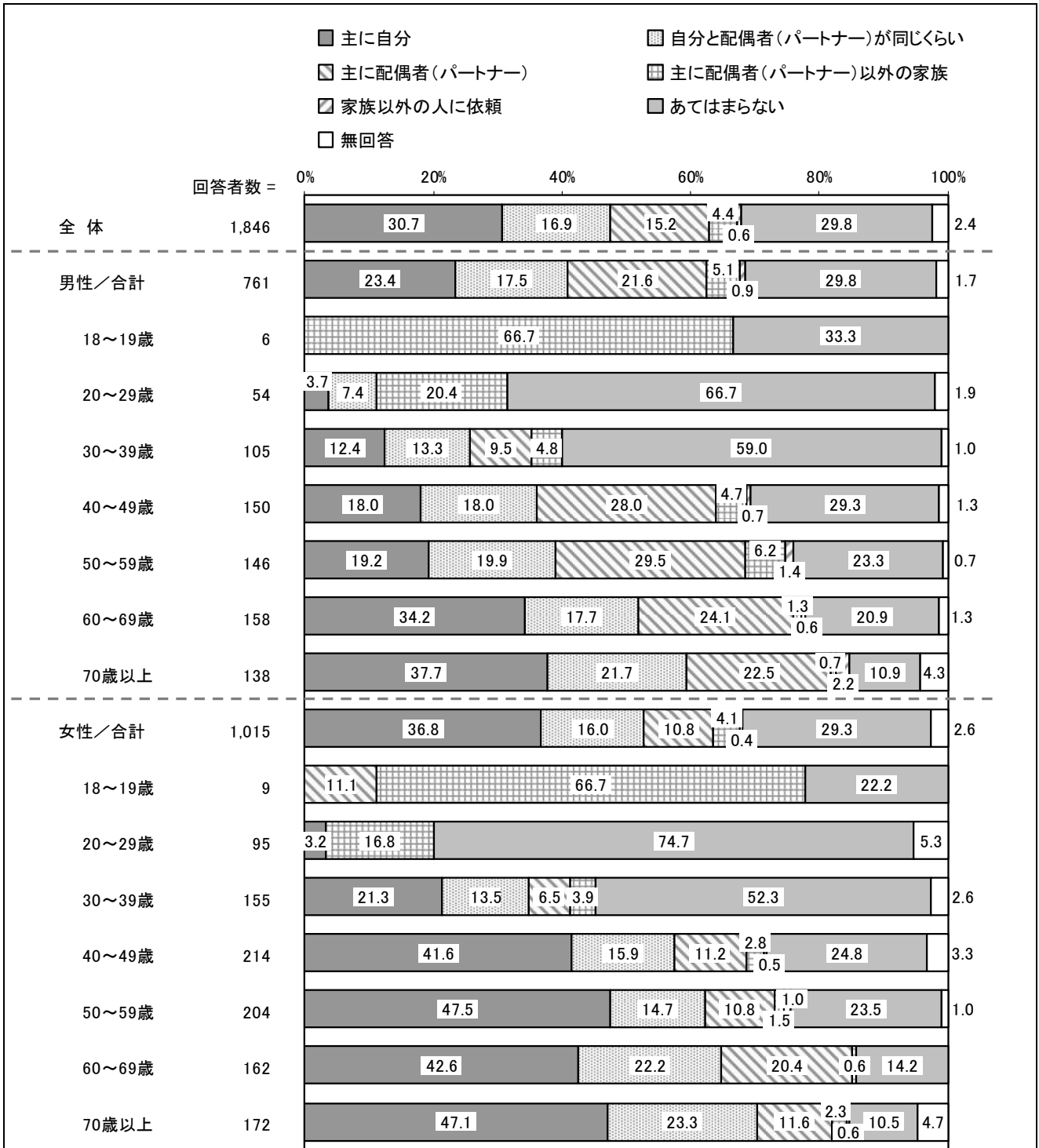
※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18~19歳、女性18~19歳は参考扱いとする。

図表 2-2-4 「親や家族の介護」における役割分担（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「主に自分」の割合は、女性（26.9%）が男性（5.3%）を21.6ポイント上回っている。女性では年齢が高くなるにつれて「主に自分」の割合が高くなる傾向がみられる。男性はすべての年代で女性を下回っている。

エ. 自治会などの地域活動



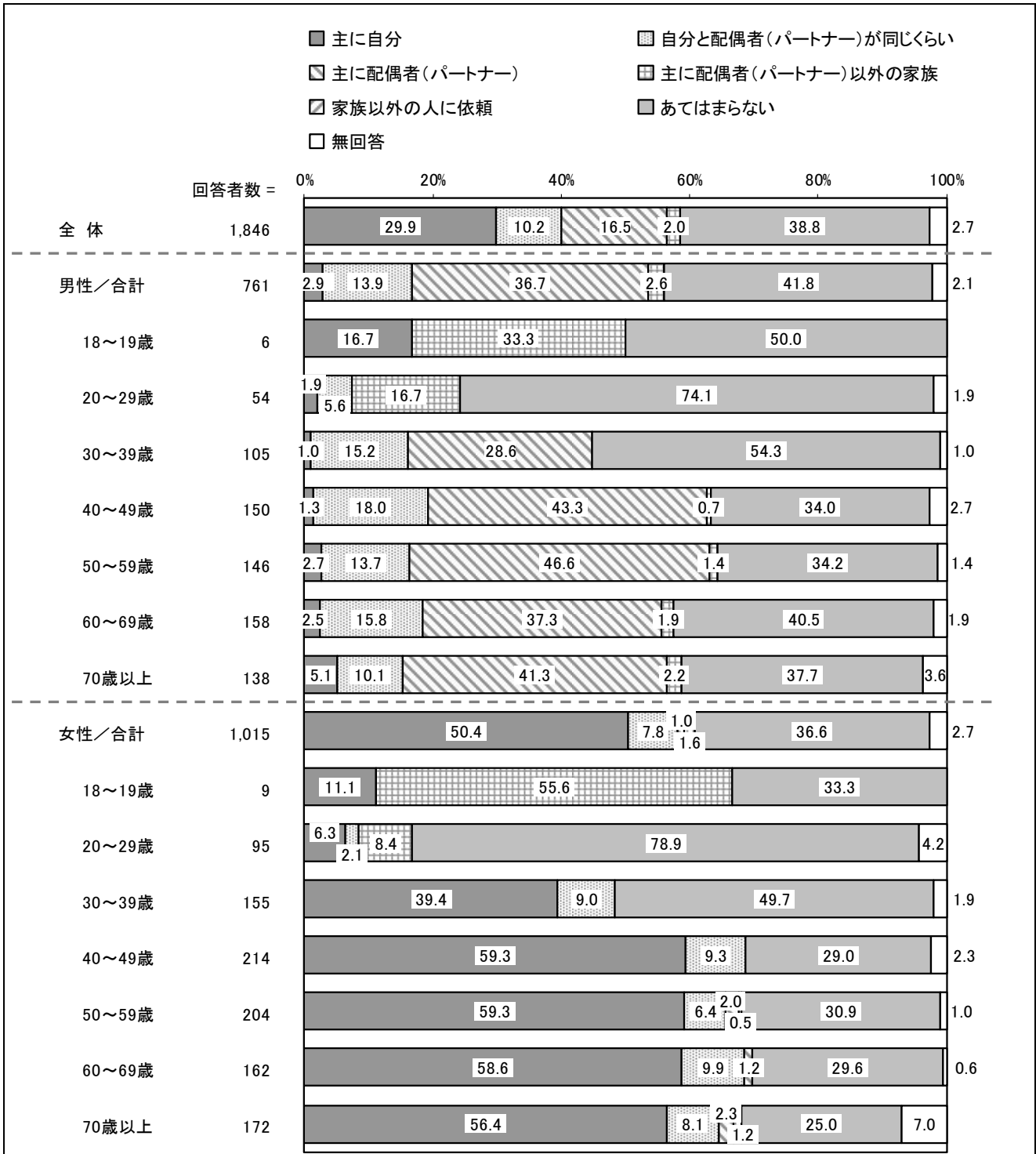
※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18~19歳、女性18~19歳は参考扱いとする。

図表 2-2-5 「自治会などの地域活動」における役割分担（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「主に自分」の割合が高くなる傾向がみられる。

オ. 子どもの学校行事への参加



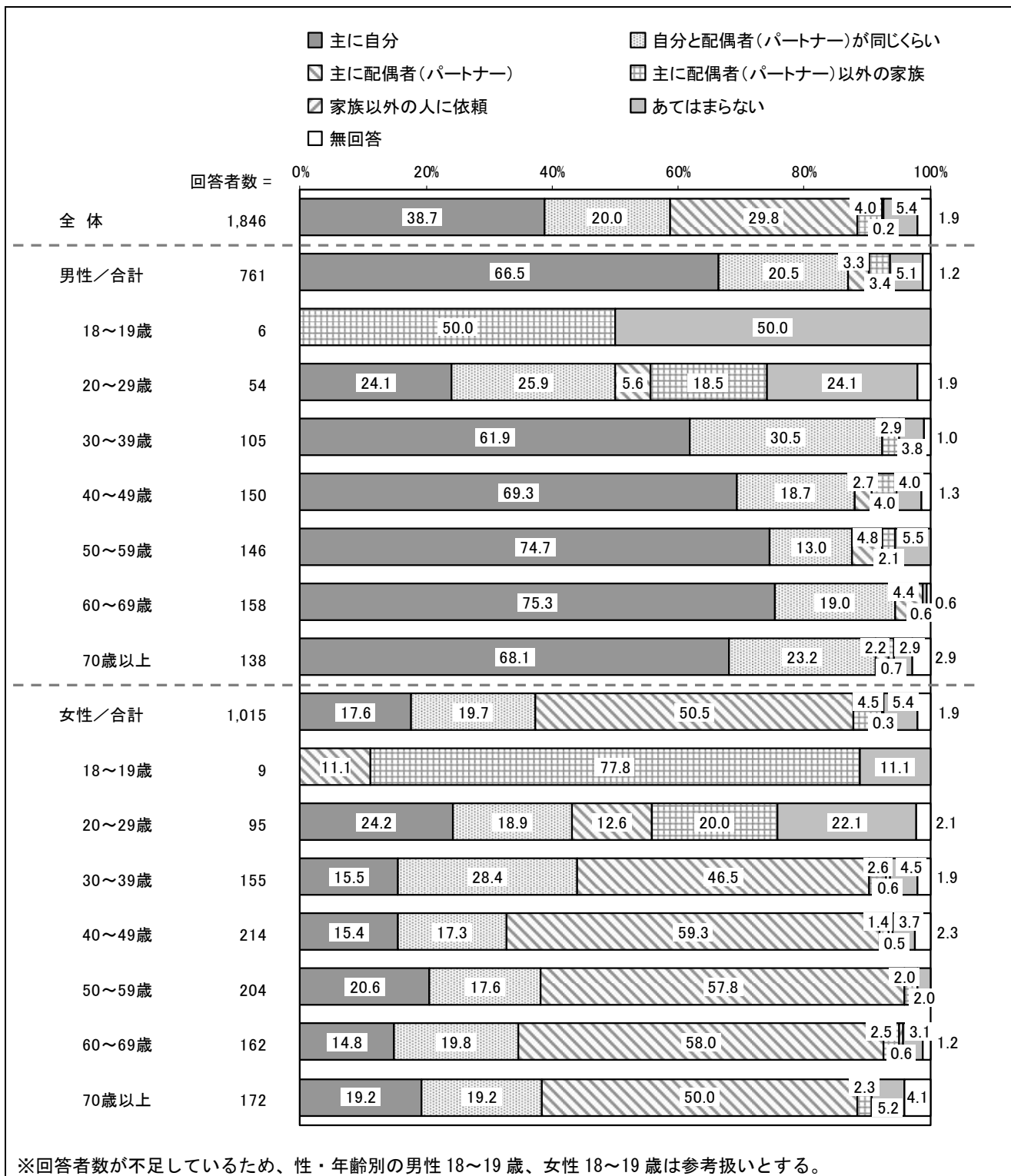
※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18~19歳、女性18~19歳は参考扱いとする。

図表 2-2-6 「子どもの学校行事への参加」における役割分担（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「主に自分」の割合は、女性（50.4%）が男性（2.9%）を47.5ポイント上回っている。女性40~49歳、50~59歳、60~69歳、70歳以上で5割を超えている。男性はすべての年代で女性を下回っている。

カ. 生活費の確保



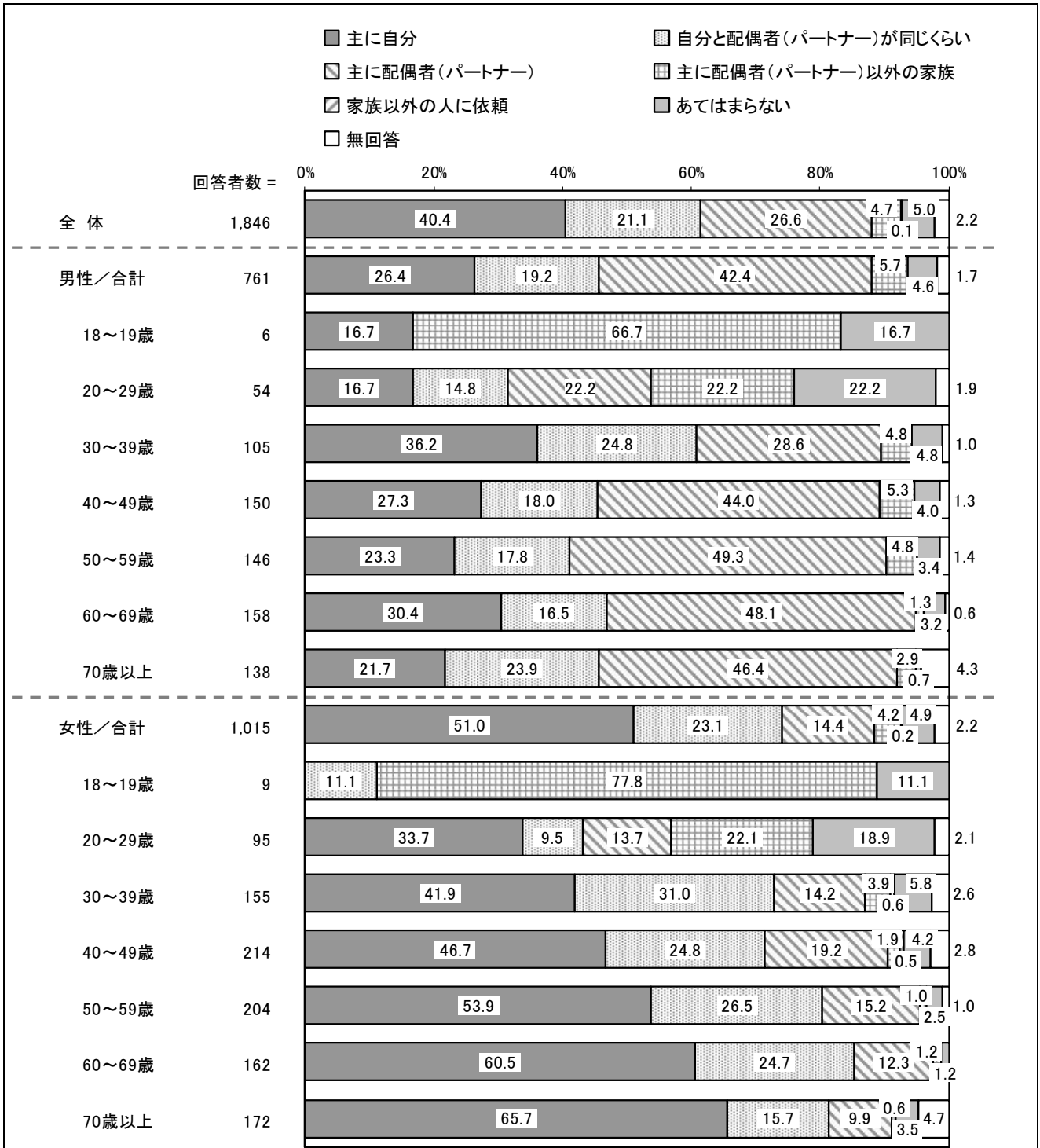
※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18~19歳、女性18~19歳は参考扱いとする。

図表 2-2-7 「生活費の確保」における役割分担 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「主に自分」の割合は、男性(66.5%)が女性(17.6%)を48.9ポイント上回っている。男性50~59歳、60~69歳で7割を超えている。女性は20~29歳を除いて男性を下回っている。

キ. 家計の管理



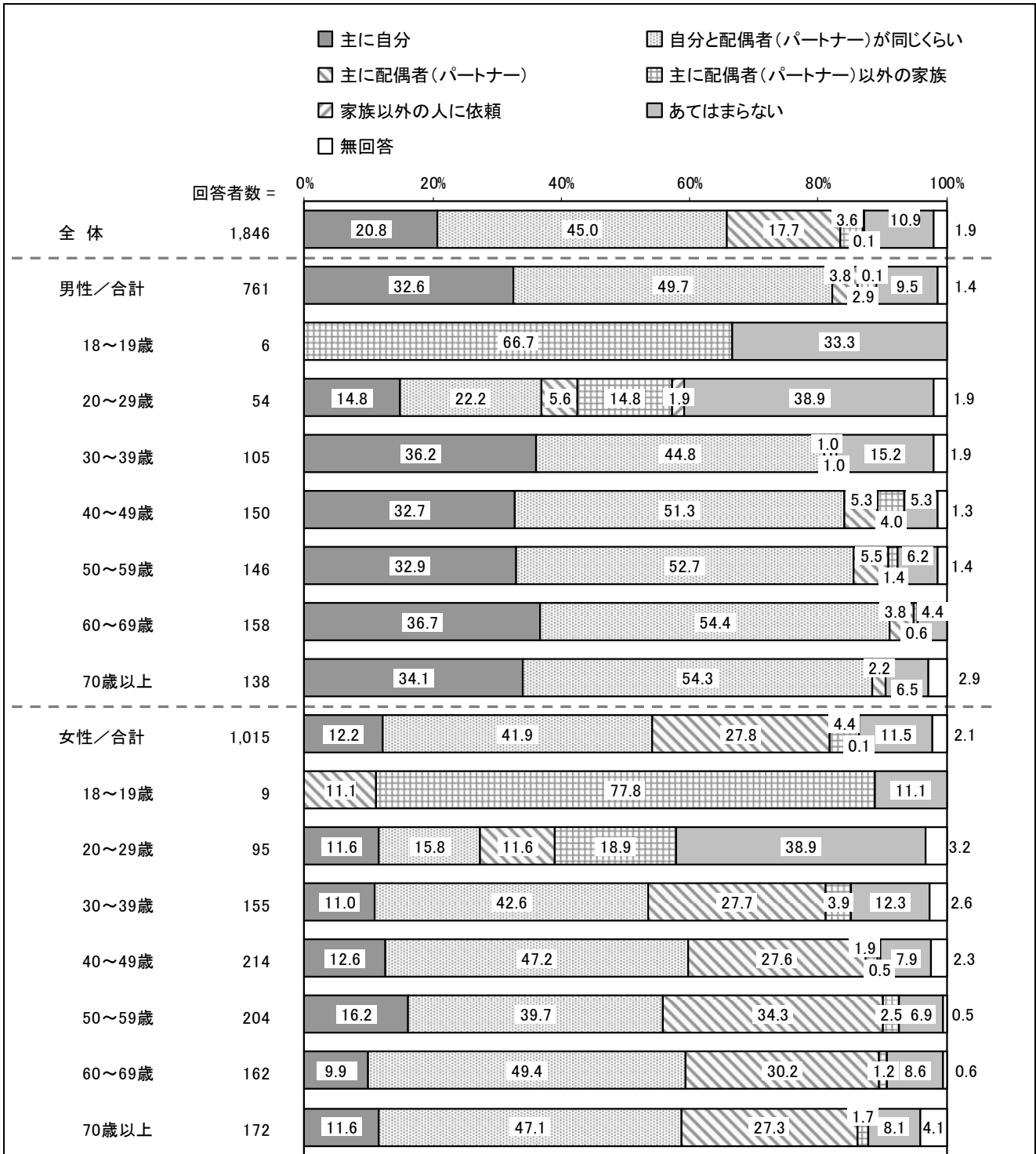
※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18~19歳、女性18~19歳は参考扱いとする。

図表 2-2-8 「家計の管理」における役割分担（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、「主に自分」の割合は、女性（51.0%）が男性（26.4%）を24.6ポイント上回っている。女性では年齢が高くなるにつれて「主に自分」の割合が高くなる傾向がみられる。

ク. 高額な商品や土地、家屋の購入の決定



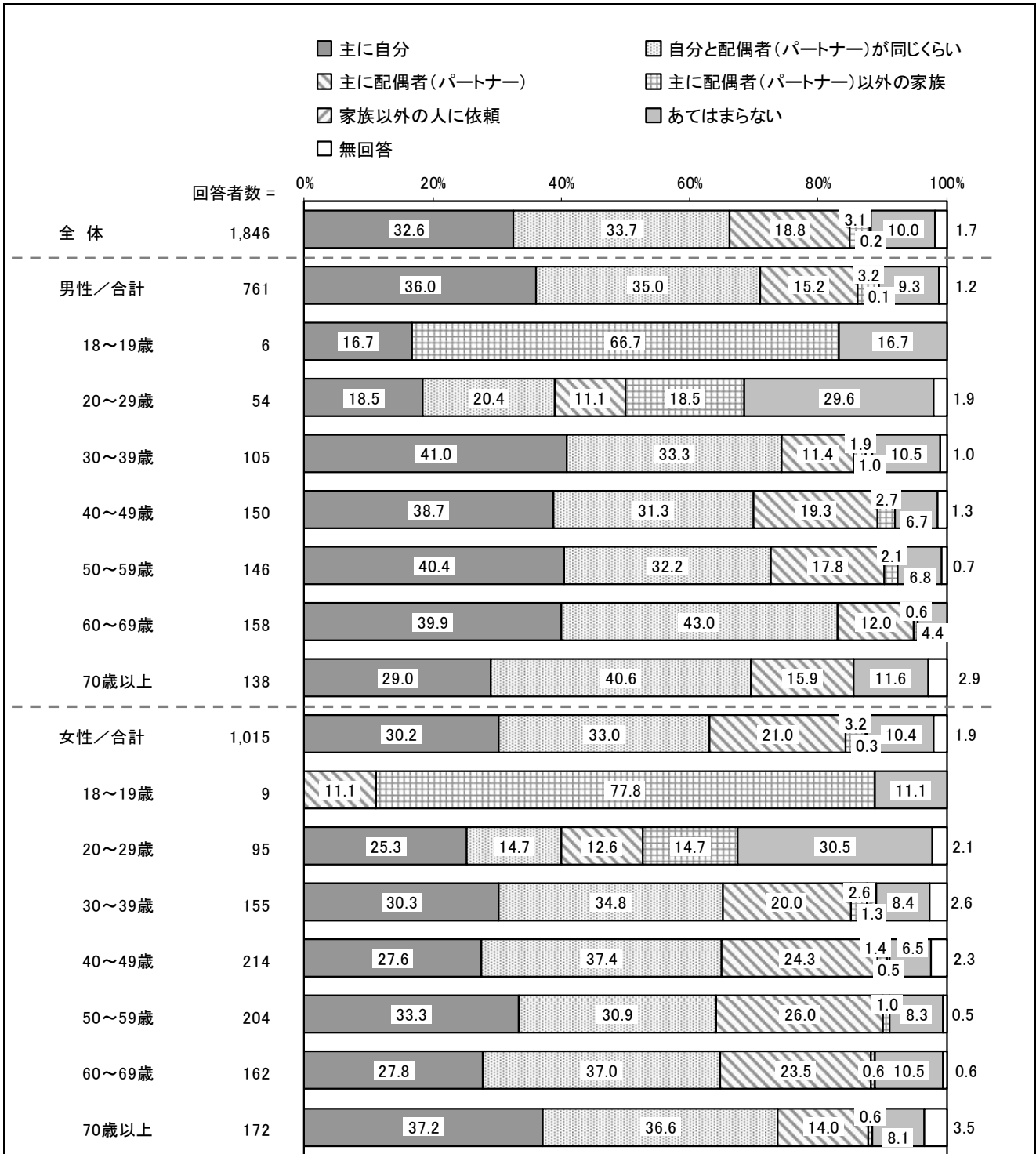
※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性 18~19 歳、女性 18~19 歳は参考扱いとする。

図表 2-2-9 「高額な商品や土地、家屋の購入の決定」における役割分担（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「主に自分」の割合は、男性（32.6%）が女性（12.2%）を 20.4 ポイント上回っている。男性の 20~29 歳を除いた年代で 3 割を超えている。

ケ. 貯蓄・投資などの生活設計



※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

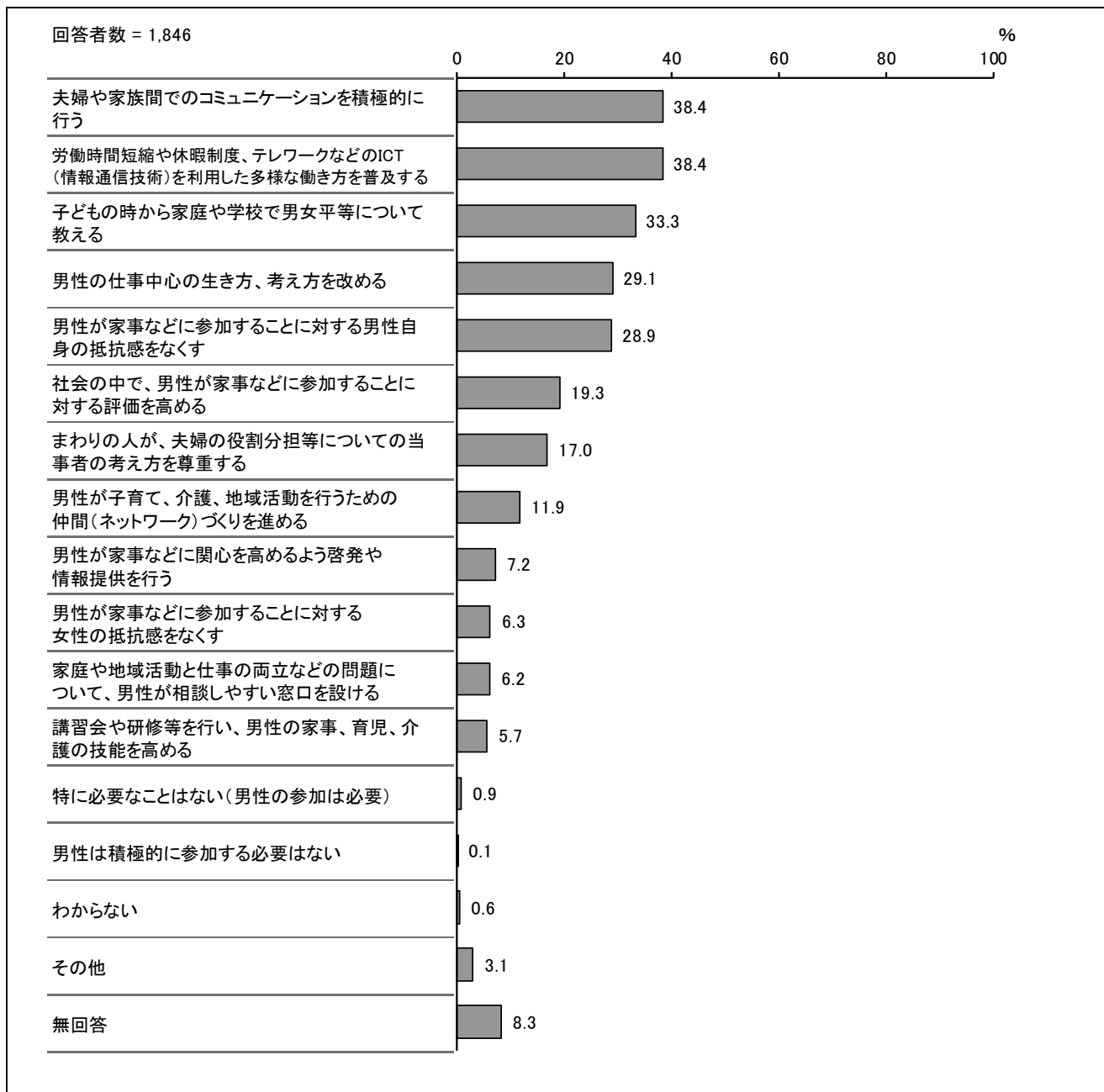
図表 2-2-10 「貯蓄・投資などの生活設計」における役割分担（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「主に自分」の割合は、男性（36.0%）が女性（30.2%）を5.8ポイント上回っている。男性30～39歳、50～59歳で4割を超えている。

(2) 男性が家事、子育て、介護、地域活動へ参加するために必要なこと

問5. あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)



図表 2-2-11 男性が家事、子育て、介護、地域活動へ参加するために必要なこと

○全体の傾向

「夫婦や家族間でのコミュニケーションを積極的に行う」「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICT(情報通信技術)を利用した多様な働き方を普及する」と回答した人の割合が38.4%と最も高く、次いで「子どもの時から家庭や学校で男女平等について教える」(33.3%)となっている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	夫婦や家族間でのコミュニケーションを積極的に行う	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICT（情報通信技術）を利用した多様な働き方を普及する	子どもの時から家庭や学校で男女平等について教える	男性の仕事中心の生き方、考え方を改める	男性が家事などに参加することに 対する男性自身の抵抗感をなくす	社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める	まわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する	男性が子育て、介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進める
全 体	1,846	38.4	38.4	33.3	29.1	28.9	19.3	17.0	11.9
男性／合計	761	38.6	43.4	26.1	32.2	25.2	20.9	14.7	14.1
18～19 歳	6	83.3	33.3	16.7	33.3	33.3	—	16.7	16.7
20～29 歳	54	44.4	50.0	18.5	18.5	27.8	24.1	24.1	11.1
30～39 歳	105	34.3	63.8	14.3	32.4	21.0	20.0	11.4	17.1
40～49 歳	150	36.0	48.7	22.7	33.3	24.0	18.7	14.7	12.0
50～59 歳	146	36.3	35.6	26.0	33.6	19.2	28.1	11.0	13.7
60～69 歳	158	39.9	40.5	34.8	34.8	27.2	18.4	15.8	12.7
70 歳以上	138	41.3	31.9	32.6	31.9	32.6	18.8	16.7	15.9
女性／合計	1,015	38.4	35.2	38.9	27.4	31.8	18.5	18.5	10.3
18～19 歳	9	44.4	—	55.6	22.2	55.6	22.2	—	33.3
20～29 歳	95	47.4	48.4	25.3	22.1	33.7	14.7	27.4	11.6
30～39 歳	155	34.2	52.3	38.7	15.5	19.4	18.1	24.5	8.4
40～49 歳	214	38.8	34.1	41.1	29.4	31.3	17.8	18.2	8.4
50～59 歳	204	39.2	33.3	43.6	27.0	31.4	19.1	20.1	11.8
60～69 歳	162	34.0	31.5	40.1	35.8	41.4	22.2	14.8	11.7
70 歳以上	172	40.7	20.3	37.2	32.0	33.7	17.4	11.6	8.7

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

(次ページへ続く)

図表 2-2-12 男性が家事、子育て、介護、地域活動へ参加するために必要なこと（性・年齢別）（その1）

単位：％

区分	男性が家事などに関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける	講習会や研修等を行い、男性の家事、育児、介護の技能を高める	特に必要なことはない (男性の参加は必要)	男性は積極的に参加する必要はない	わからない	その他	無回答
全 体	7.2	6.3	6.2	5.7	0.9	0.1	0.6	3.1	8.3
男性／合計	6.4	5.7	6.6	5.4	1.4	0.3	0.5	4.2	6.4
18～19 歳	—	16.7	—	—	—	—	—	16.7	—
20～29 歳	5.6	7.4	7.4	1.9	—	—	—	1.9	9.3
30～39 歳	1.9	13.3	7.6	3.8	1.9	—	—	3.8	4.8
40～49 歳	4.7	4.0	5.3	4.0	2.0	0.7	0.7	8.0	9.3
50～59 歳	7.5	4.8	8.9	6.2	1.4	—	1.4	6.2	6.8
60～69 歳	9.5	1.9	5.7	7.0	0.6	0.6	0.6	2.5	3.8
70 歳以上	8.0	5.8	5.1	7.2	2.2	—	—	0.7	6.5
女性／合計	7.5	6.7	5.7	5.7	0.5	—	0.5	2.5	9.7
18～19 歳	11.1	—	—	22.2	—	—	—	11.1	—
20～29 歳	6.3	9.5	3.2	6.3	—	—	—	1.1	9.5
30～39 歳	5.2	3.2	9.7	2.6	0.6	—	—	5.8	14.2
40～49 歳	8.9	6.1	3.7	2.3	0.5	—	0.5	1.4	13.1
50～59 歳	4.4	3.9	4.9	3.9	0.5	—	0.5	2.5	6.9
60～69 歳	6.2	8.0	8.6	4.9	—	—	0.6	1.9	5.6
70 歳以上	13.4	11.6	4.7	14.0	1.2	—	1.2	1.7	8.7

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性 18～19 歳、女性 18～19 歳は参考扱いとする。

図表 2-2-12 男性が家事、子育て、介護、地域活動へ参加するために必要なこと（性・年齢別）（その 2）

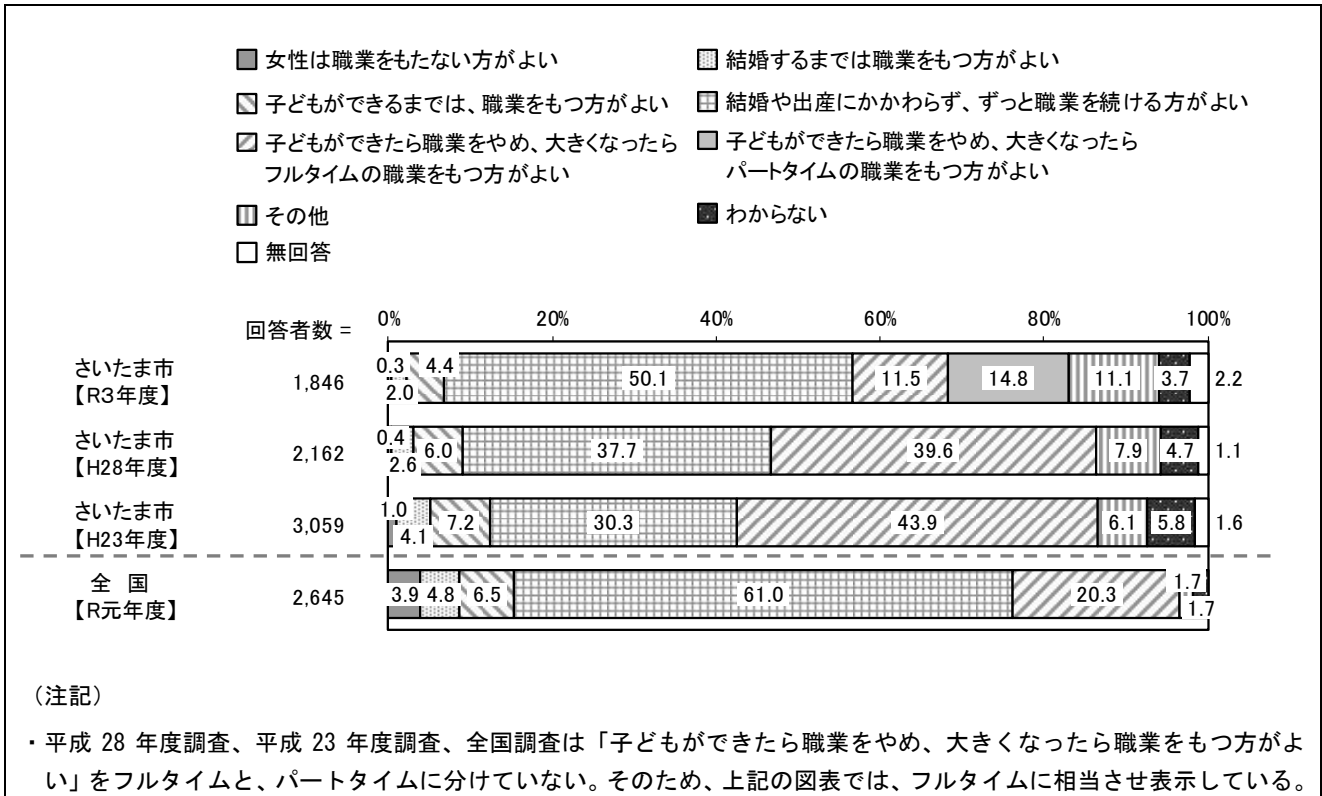
○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの ICT（情報通信技術）を利用した多様な働き方を普及する」と回答した人の割合は、男女ともに 30～39 歳で最も高く、特に男性で 6 割を超えている。

3 就業について

(1) 女性が職業をもつことに対する考え方

問6. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(〇は1つ)



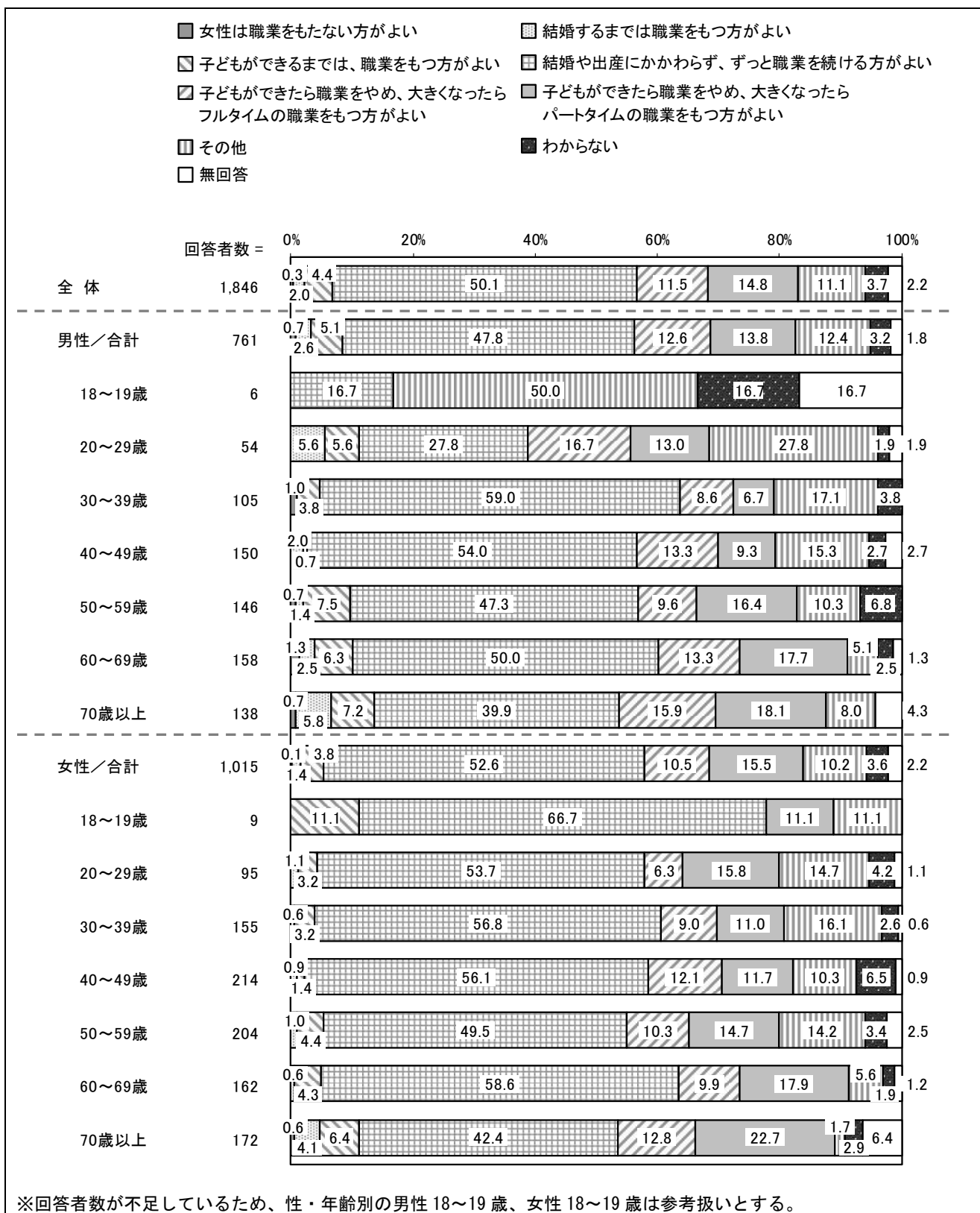
図表 2-3-1 女性が職業をもつことに対する考え方

○全体の傾向・経年変化

「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が50.1%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったらパートタイムの職業をもつ方がよい」(14.8%)、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったらフルタイムの職業をもつ方がよい」(11.5%)となっている。

過去の調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が増加傾向にある。

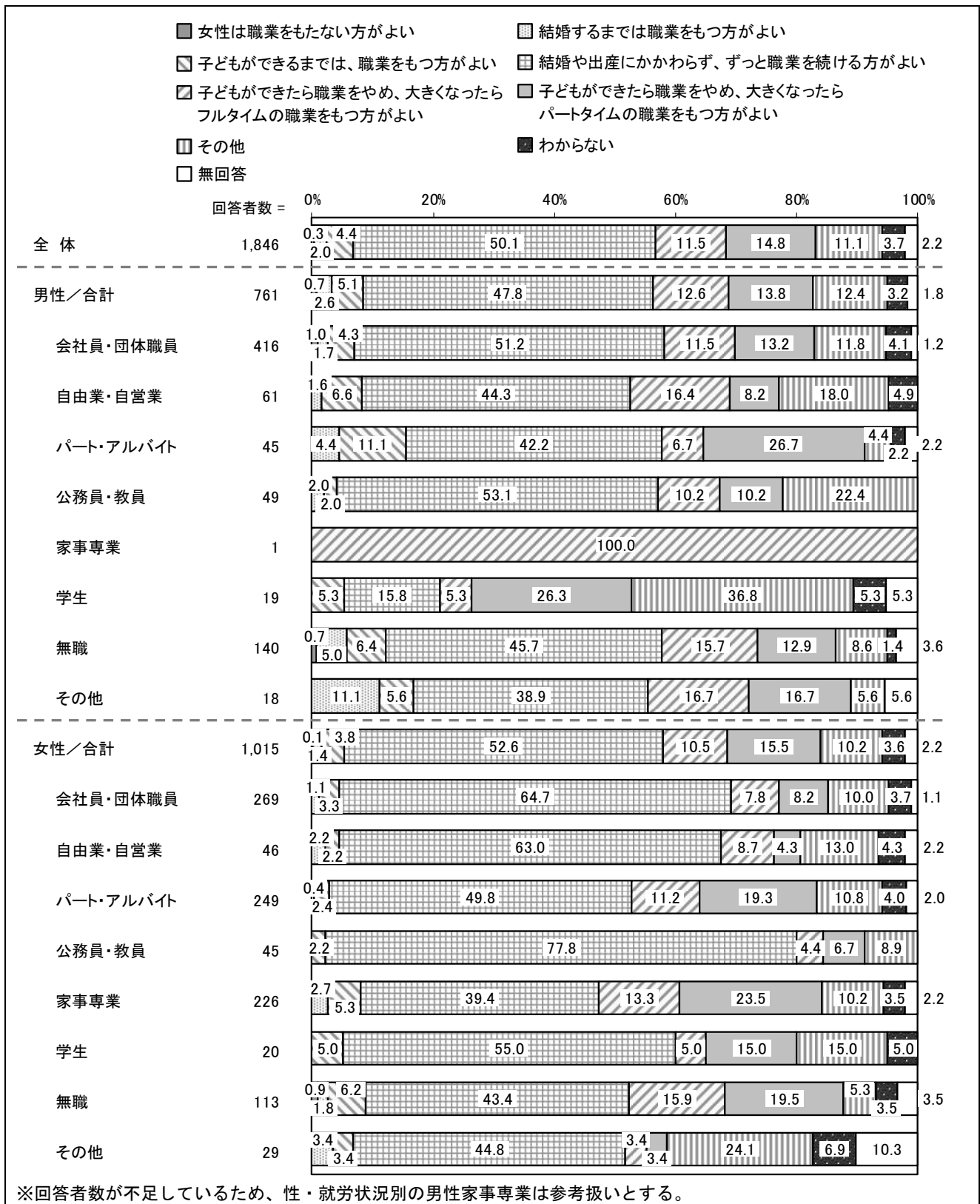
全国の調査結果と比較すると、「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が全国(61.0%)より10.9ポイント低くなっている。



図表 2-3-2 女性が職業をもつことに対する考え方（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい」の割合は、男性30～39歳、女性60～69歳で多く、約6割となっている。



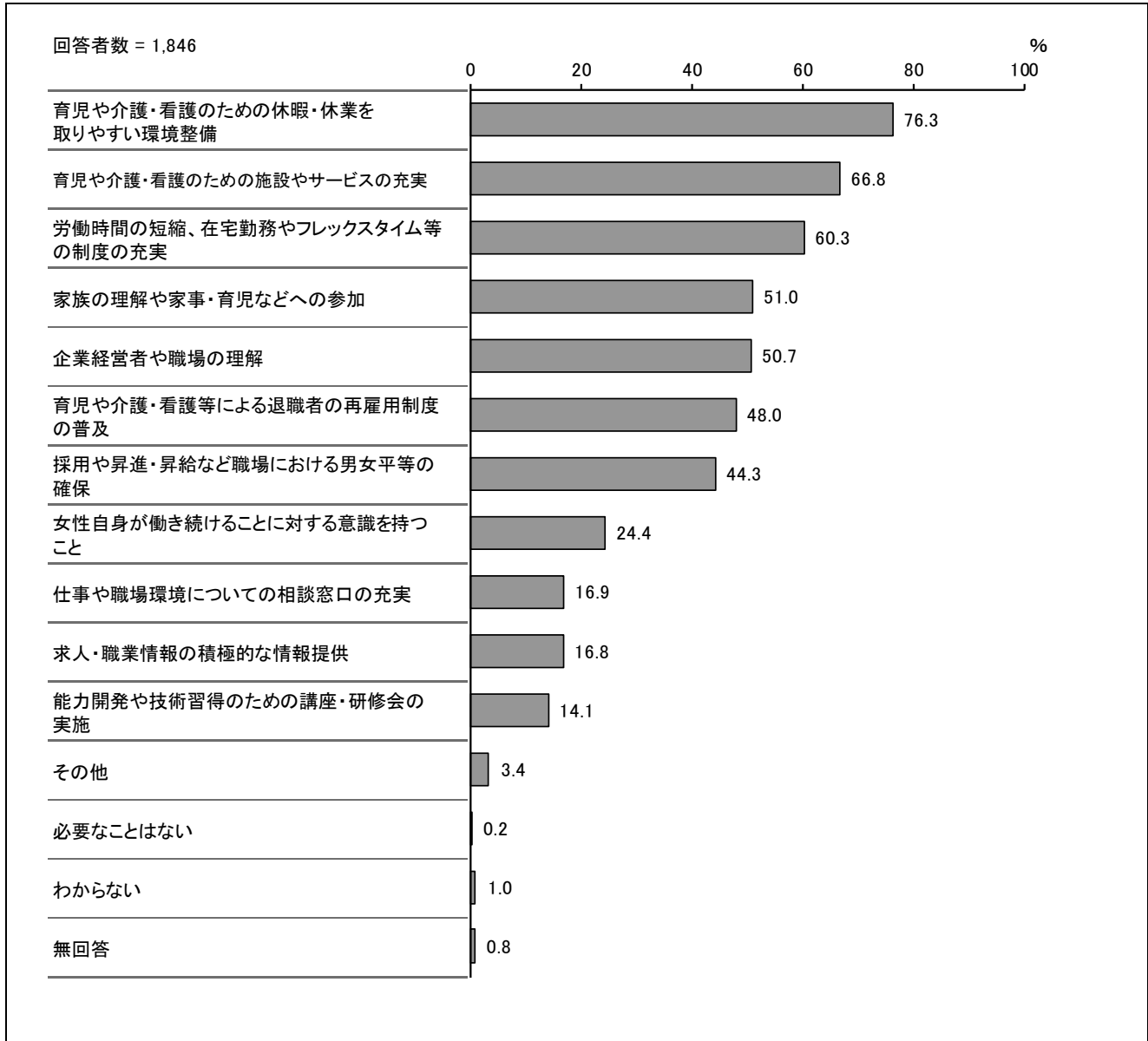
図表 2-3-3 女性が職業をもつことに対する考え方（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい」の割合は、女性公務員・教員で最も多く、7割を超えている。また、女性会社員・団体職員、女性自由業・自営業も6割を超えている。

(2) 女性が働き続けたり再就職をするために必要なこと

問7. あなたは、働く意欲のある女性が働き続けたり、再就職したりするために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



図表 2-3-4 女性が働き続けたり再就職をするために必要なこと

○全体の傾向

「育児や介護・看護のための休暇・休業を取りやすい環境整備」と回答した人の割合が76.3%と最も高く、次いで「育児や介護・看護のための施設やサービスの充実」(66.8%)、「労働時間の短縮、在宅勤務やフレックスタイム等の制度の充実」(60.3%)となっている。

単位：%

区分	回答者数(件)	育児や介護・看護のための休暇・休業を取りやすい環境整備	育児や介護・看護のための施設やサービスの充実	労働時間の短縮、在宅勤務やフレックスタイム等の制度の充実	参加	家族の理解や家事・育児などへの参加	企業経営者や職場の理解	育児や介護・看護等による退職者の再雇用制度の普及	採用や昇進・昇給など職場における男女平等の確保	女性自身が働き続けることに對する意識を持つこと	仕事や職場環境についての相談窓口の充実	求人・職業情報の積極的な情報提供	講座・研修会の実施	能力開発や技術習得のための	その他	必要なことはない	わからない	無回答
全体	1,846	76.3	66.8	60.3	51.0	50.7	48.0	44.3	24.4	16.9	16.8	14.1	3.4	0.2	1.0	0.8		
男性/合計	761	71.9	65.6	57.8	43.5	50.5	49.0	44.2	25.0	15.9	15.1	11.7	4.9	0.3	0.9	0.7		
18～19歳	6	66.7	83.3	50.0	50.0	50.0	50.0	83.3	33.3	33.3	33.3	16.7	16.7	-	-	-		
20～29歳	54	77.8	53.7	64.8	53.7	38.9	44.4	40.7	16.7	13.0	14.8	11.1	3.7	1.9	-	1.9		
30～39歳	105	75.2	69.5	71.4	47.6	53.3	54.3	39.0	33.3	10.5	10.5	8.6	6.7	-	1.0	-		
40～49歳	150	76.0	62.7	62.7	44.0	56.0	45.3	42.7	22.7	19.3	14.0	8.0	10.0	-	0.7	1.3		
50～59歳	146	69.2	65.1	55.5	41.8	48.6	47.9	39.0	23.3	18.5	14.4	8.9	5.5	0.7	0.7	0.7		
60～69歳	158	72.2	67.7	55.1	43.0	53.2	51.9	48.7	25.9	16.5	19.6	13.3	1.9	-	0.6	-		
70歳以上	138	65.9	66.7	47.1	37.0	47.1	48.6	50.0	23.9	13.0	14.5	19.6	0.7	-	2.2	0.7		
女性/合計	1,015	80.8	68.8	62.9	57.8	52.3	48.0	45.3	24.0	17.5	18.0	16.2	2.6	0.2	0.5	0.6		
18～19歳	9	77.8	66.7	44.4	55.6	55.6	44.4	33.3	11.1	11.1	22.2	-	22.2	-	-	-		
20～29歳	95	89.5	67.4	72.6	54.7	51.6	52.6	56.8	11.6	27.4	24.2	17.9	2.1	-	1.1	1.1		
30～39歳	155	85.8	80.0	82.6	67.7	61.9	52.9	57.4	20.6	20.0	19.4	17.4	5.8	-	-	-		
40～49歳	214	80.8	62.6	71.5	63.1	53.7	39.7	46.3	19.2	16.8	18.7	12.1	2.3	-	-	0.5		
50～59歳	204	76.5	73.5	61.3	60.8	53.9	49.5	41.7	23.5	17.6	19.6	16.7	1.0	-	0.5	1.0		
60～69歳	162	84.0	69.8	51.9	50.6	48.8	49.4	42.0	25.3	13.0	11.7	12.3	1.2	0.6	0.6	-		
70歳以上	172	73.8	60.5	42.4	48.3	44.2	47.7	35.5	39.5	15.1	16.3	22.7	2.3	0.6	1.2	1.2		

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

図表 2-3-5 女性が働き続けたり再就職をするために必要なこと（性・年齢別）

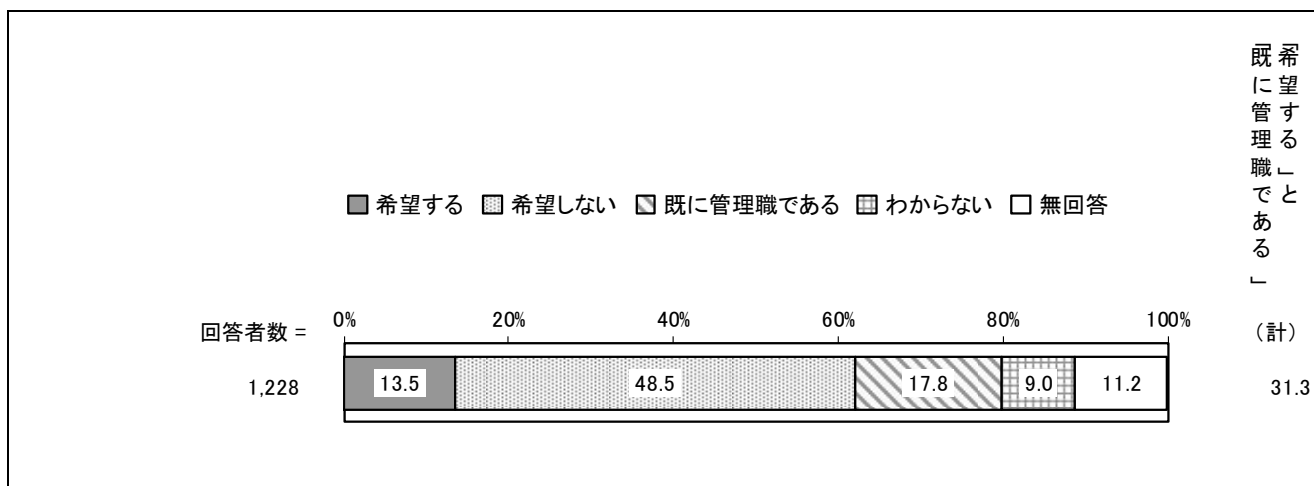
○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「労働時間の短縮、在宅勤務やフレックスタイム等の制度の充実」「家族の理解や家事・育児などへの参加」と回答した人の割合は女性30～39歳で8割以上となっている。

(3) 昇格の希望

※問8、問9は現在働いている方におうかがいします。

問8. あなたは現在、管理職（課長相当職以上）への昇格を希望していますか。
（○は1つ）



図表 2-3-6 昇格の希望

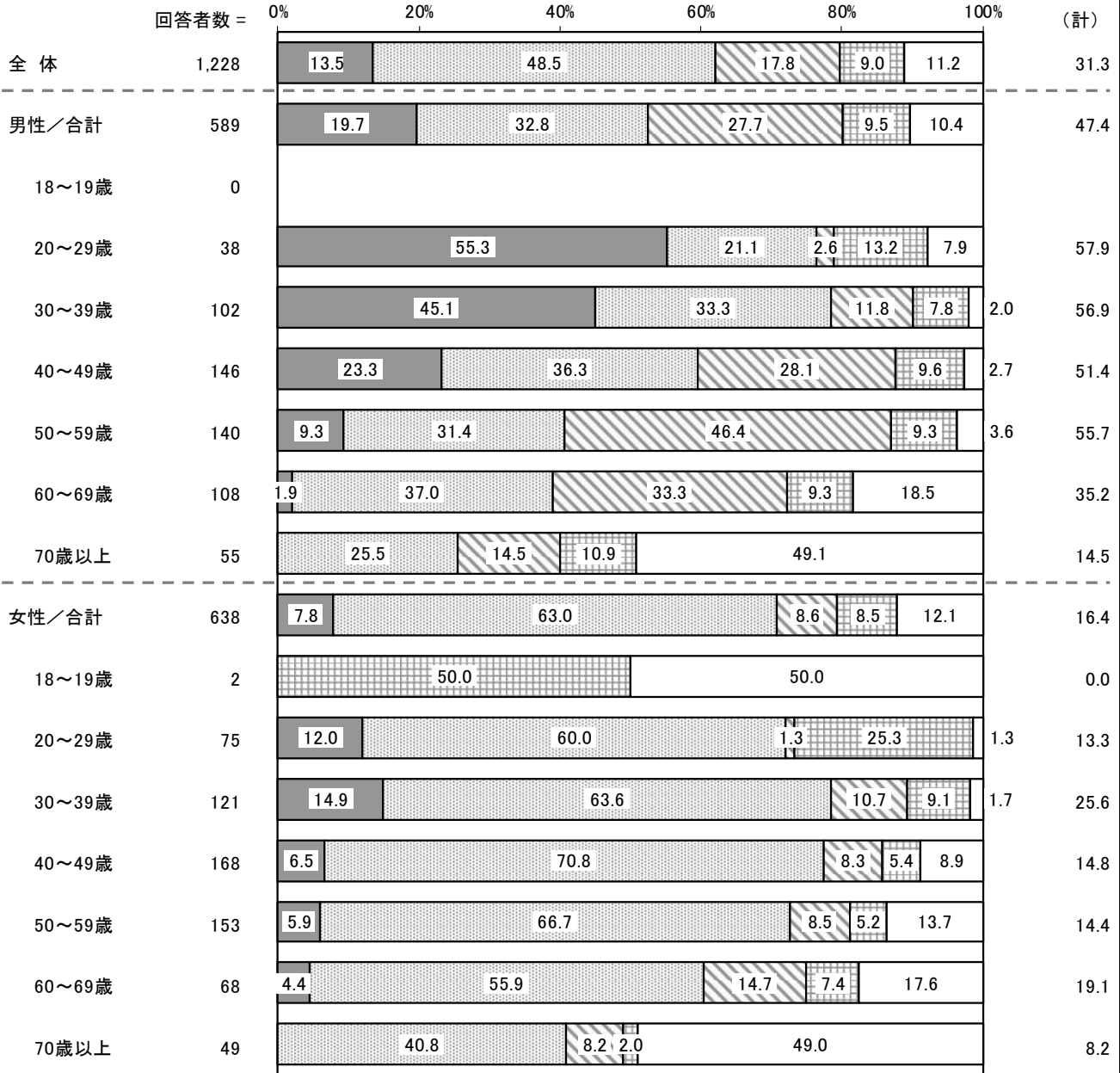
○全体の傾向

「希望しない」の割合が48.5%と最も高く、次いで「既に管理職である」（17.8%）、「希望する」（13.5%）となっている。

「既に管理職である」

(計)

■ 希望する □ 希望しない ▨ 既に管理職である ▩ わからない ○ 無回答

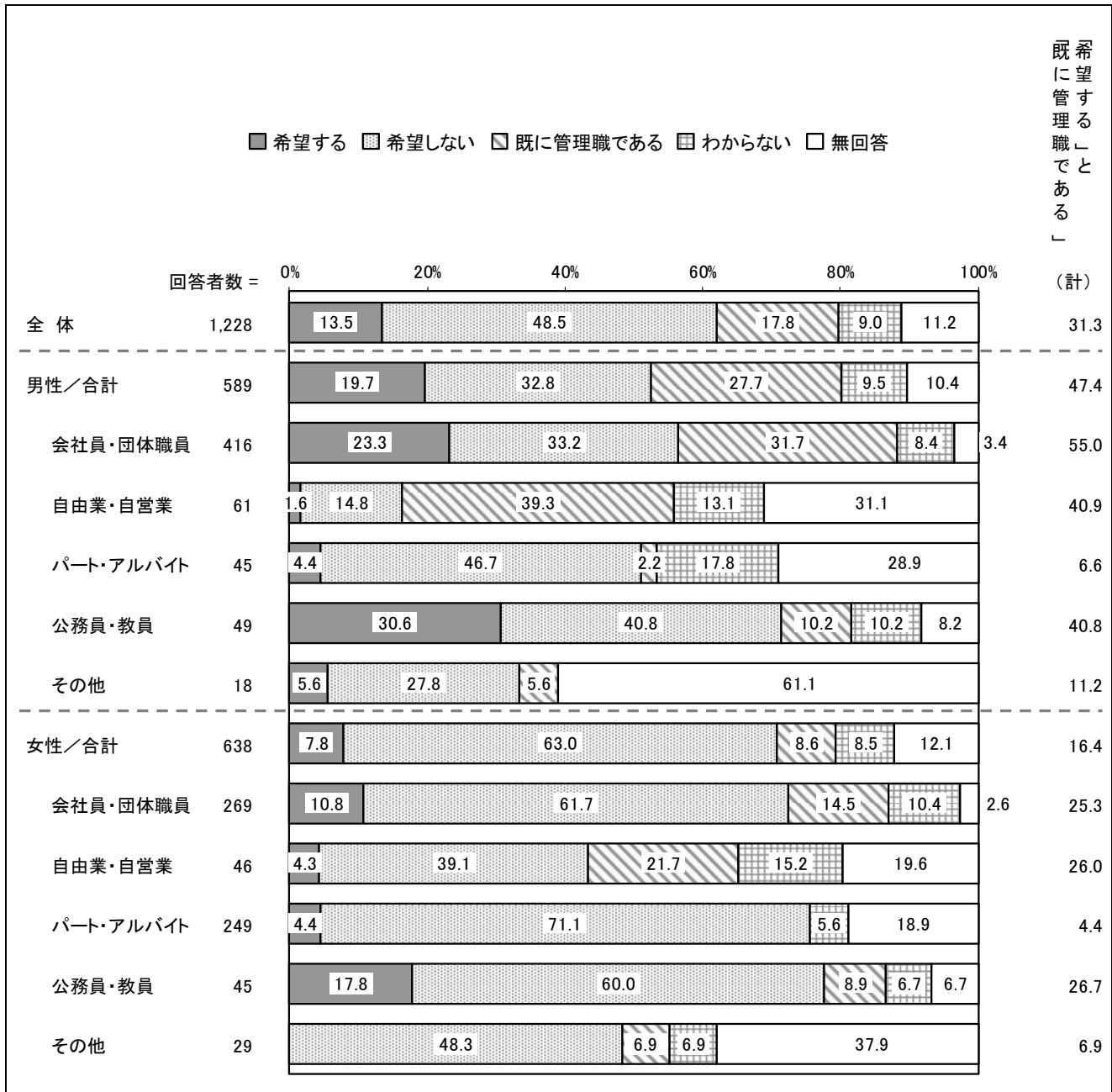


※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

図表 2-3-7 昇格の希望 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「希望しない」の割合は、女性40～49歳で最も高く、7割を超えている。また、「希望する」の割合は、男性20～29歳で最も高く、5割半ばとなっている。また、「希望する」と「既に管理職である」を合わせた割合は男性20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳が5割を超えている。



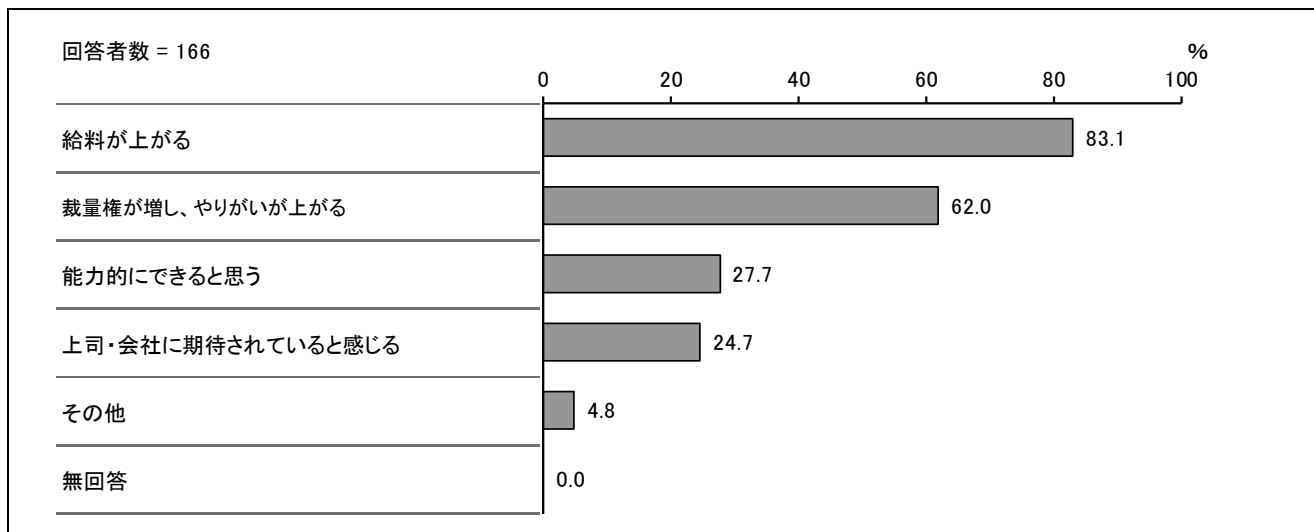
図表 2-3-8 昇格の希望（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「希望しない」の割合は、女性パート・アルバイトで7割を超え、女性会社員・団体職員、女性公務員・教員も6割を超えている。また、「希望する」と「既に管理職である」を合わせた割合は男性会社員・団体職員が5割半ばとなっている。

※問8で「希望する」とお答えの方に伺います。

問8-1. その理由は何ですか。(〇はいくつでも)



図表 2-3-9 昇格を希望する理由

○全体の傾向

「給料が上がる」と回答した人の割合が83.1%と最も高く、次いで「裁量権が増し、やりがいが増える」(62.0%)、「能力的にできると思う」(27.7%)となっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	給料が上がる	裁量権が増し、 やりがい上がる	能力的に できると思う	上司・会社に期待 されていると感じる	その他	無回答
全 体	166	83.1	62.0	27.7	24.7	4.8	—
男性／合計	116	84.5	59.5	28.4	23.3	3.4	—
18～19 歳	0	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	21	90.5	66.7	23.8	19.0	—	—
30～39 歳	46	89.1	50.0	30.4	23.9	8.7	—
40～49 歳	34	79.4	64.7	32.4	23.5	—	—
50～59 歳	13	76.9	61.5	23.1	30.8	—	—
60～69 歳	2	50.0	100.0	—	—	—	—
70 歳以上	0	—	—	—	—	—	—
女性／合計	50	80.0	68.0	26.0	28.0	8.0	—
18～19 歳	0	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	9	77.8	77.8	—	22.2	—	—
30～39 歳	18	88.9	50.0	22.2	44.4	11.1	—
40～49 歳	11	72.7	72.7	27.3	9.1	9.1	—
50～59 歳	9	88.9	88.9	44.4	33.3	11.1	—
60～69 歳	3	33.3	66.7	66.7	—	—	—
70 歳以上	0	—	—	—	—	—	—

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性 18～19 歳、60～69 歳、70 歳以上、女性 18～19 歳、20～29 歳、50～59 歳、60～69 歳、70 歳以上は参考扱いとする。

図表 2-3-10 昇格を希望する理由（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、「給料が上がる」と回答した人の割合は、男性 20～29 歳で最も高く、9 割を超え、男女とも 30～39 歳で 8 割を超えている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	給料が上がる	裁量権が増し、 やりがい上がる	能力的にできると 思う	上司・会社に期待 されていると感じる	その他	無回答
全 体	166	83.1	62.0	27.7	24.7	4.8	—
男性／合計	116	84.5	59.5	28.4	23.3	3.4	—
会社員・団体職員	97	85.6	54.6	27.8	24.7	4.1	—
自由業・自営業	1	100.0	—	—	—	—	—
パート・アルバイト	2	50.0	100.0	50.0	—	—	—
公務員・教員	15	80.0	86.7	33.3	20.0	—	—
その他	1	100.0	100.0	—	—	—	—
女性／合計	50	80.0	68.0	26.0	28.0	8.0	—
会社員・団体職員	29	89.7	65.5	27.6	34.5	10.3	—
自由業・自営業	2	100.0	—	—	50.0	—	—
パート・アルバイト	11	72.7	81.8	45.5	9.1	9.1	—
公務員・教員	8	50.0	75.0	—	25.0	—	—
その他	0	—	—	—	—	—	—

※回答者数が不足しているため、性・就労状況別の男性自由業・自営業、パート・アルバイト、その他、女性自由業・自営業、公務員・教員、その他は参考扱いとする。

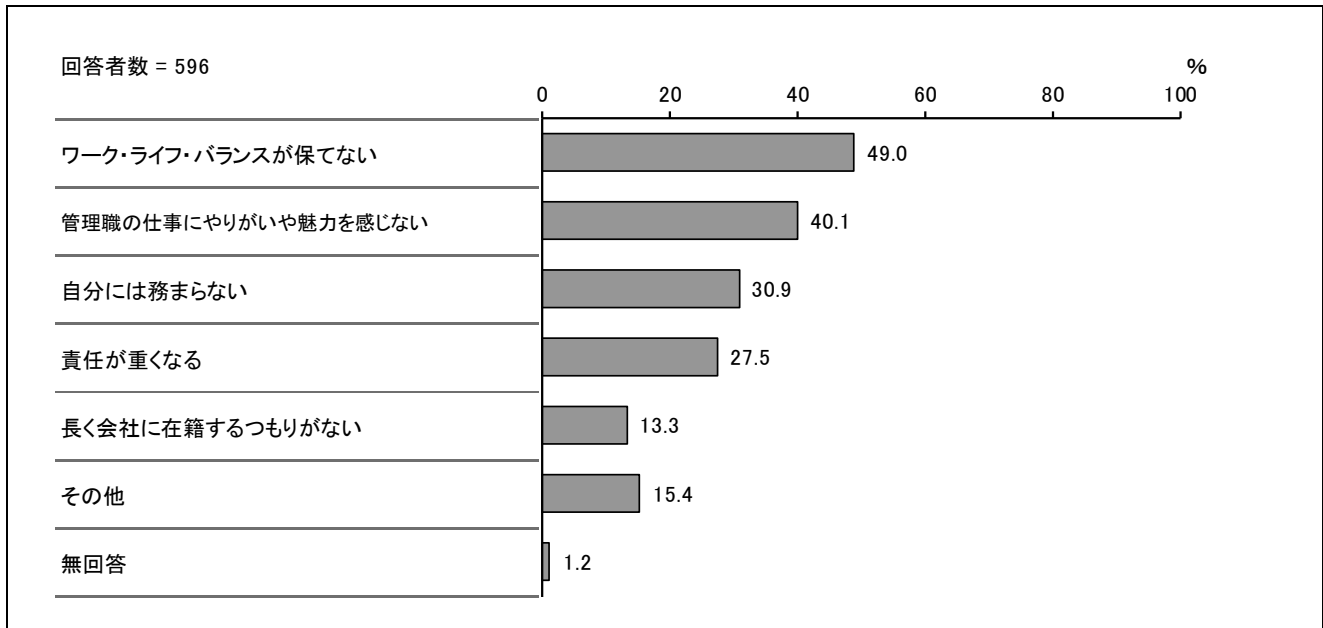
図表 2-3-11 昇格を希望する理由（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「裁量権が増し、やりがい上がる」と回答した人の割合は、男性公務員・教員、女性パート・アルバイトで8割を超えている。また、「給料が上がる」と回答した人の割合は、男女ともに会社員・団体職員で8割を超えている。

※問 8. で「希望しない」とお答えの方に伺います。

問 8-2. その理由は何ですか。(〇はいくつでも)



図表 2-3-12 昇格を希望しない理由

○全体の傾向

「ワーク・ライフ・バランスが保てない」と回答した人の割合が 49.0%と最も高く、次いで「管理職の仕事にやりがいや魅力を感じない」(40.1%)、「自分には務まらない」(30.9%)となっている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	ワーク・ライフ・ バランスが保てない	管理職の仕事にやりがい や魅力を感じない	自分には務まらない	責任が重くなる	長く会社に在籍する つもりがない	その他	無回答
全 体	596	49.0	40.1	30.9	27.5	13.3	15.4	1.2
男性／合計	193	34.2	53.4	21.2	25.4	16.6	22.3	2.1
18～19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	8	62.5	62.5	12.5	50.0	12.5	12.5	—
30～39 歳	34	44.1	64.7	29.4	26.5	17.6	8.8	5.9
40～49 歳	53	49.1	66.0	30.2	37.7	7.5	13.2	—
50～59 歳	44	27.3	61.4	22.7	15.9	15.9	20.5	2.3
60～69 歳	40	17.5	25.0	7.5	17.5	25.0	40.0	2.5
70 歳以上	14	7.1	28.6	7.1	14.3	28.6	50.0	—
女性／合計	402	56.0	33.8	35.6	28.6	11.7	12.2	0.7
18～19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	45	46.7	48.9	44.4	40.0	31.1	4.4	—
30～39 歳	77	67.5	42.9	33.8	27.3	5.2	7.8	—
40～49 歳	119	60.5	34.5	37.8	34.5	5.9	9.2	—
50～59 歳	102	52.0	28.4	35.3	24.5	8.8	17.6	2.0
60～69 歳	38	60.5	21.1	18.4	10.5	26.3	18.4	—
70 歳以上	20	15.0	15.0	45.0	30.0	15.0	25.0	5.0

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性 18～19 歳、20～29 歳、女性 18～19 歳は参考扱いとする。

図表 2-3-13 昇格を希望しない理由（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「ワーク・ライフ・バランスが保てない」と回答した人の割合は、女性 30～39 歳で最も高く、6 割半ばとなっている。また、「管理職の仕事にやりがいや魅力を感じない」と回答した人の割合は、男性 30～39 歳、40～49 歳、50～59 歳で 6 割を超えている。

単位：%

区分	回答者数 (件)	ワーク・ライフ・ バランスが保てない	管理職の仕事にやりがい や魅力を感じない	自分には務まらない	責任が重くなる	長く会社に在籍する つもりがない	その他	無回答
全 体	596	49.0	40.1	30.9	27.5	13.3	15.4	1.2
男性／合計	193	34.2	53.4	21.2	25.4	16.6	22.3	2.1
会社員・団体職員	138	39.1	58.7	21.0	23.2	15.9	21.0	1.4
自由業・自営業	9	—	22.2	11.1	11.1	11.1	66.7	11.1
パート・アルバイト	21	23.8	19.0	33.3	47.6	33.3	19.0	—
公務員・教員	20	30.0	65.0	15.0	30.0	—	10.0	5.0
その他	5	20.0	60.0	20.0	—	40.0	40.0	—
女性／合計	402	56.0	33.8	35.6	28.6	11.7	12.2	0.7
会社員・団体職員	166	56.0	51.2	39.8	31.9	10.8	9.6	—
自由業・自営業	18	27.8	16.7	22.2	11.1	5.6	33.3	5.6
パート・アルバイト	177	58.8	18.1	31.1	26.0	14.7	10.2	0.6
公務員・教員	27	55.6	48.1	40.7	40.7	3.7	14.8	3.7
その他	14	57.1	21.4	50.0	21.4	7.1	35.7	—

※回答者数が不足しているため、性・就労状況別の男性自由業・自営業、その他は参考扱いとする。

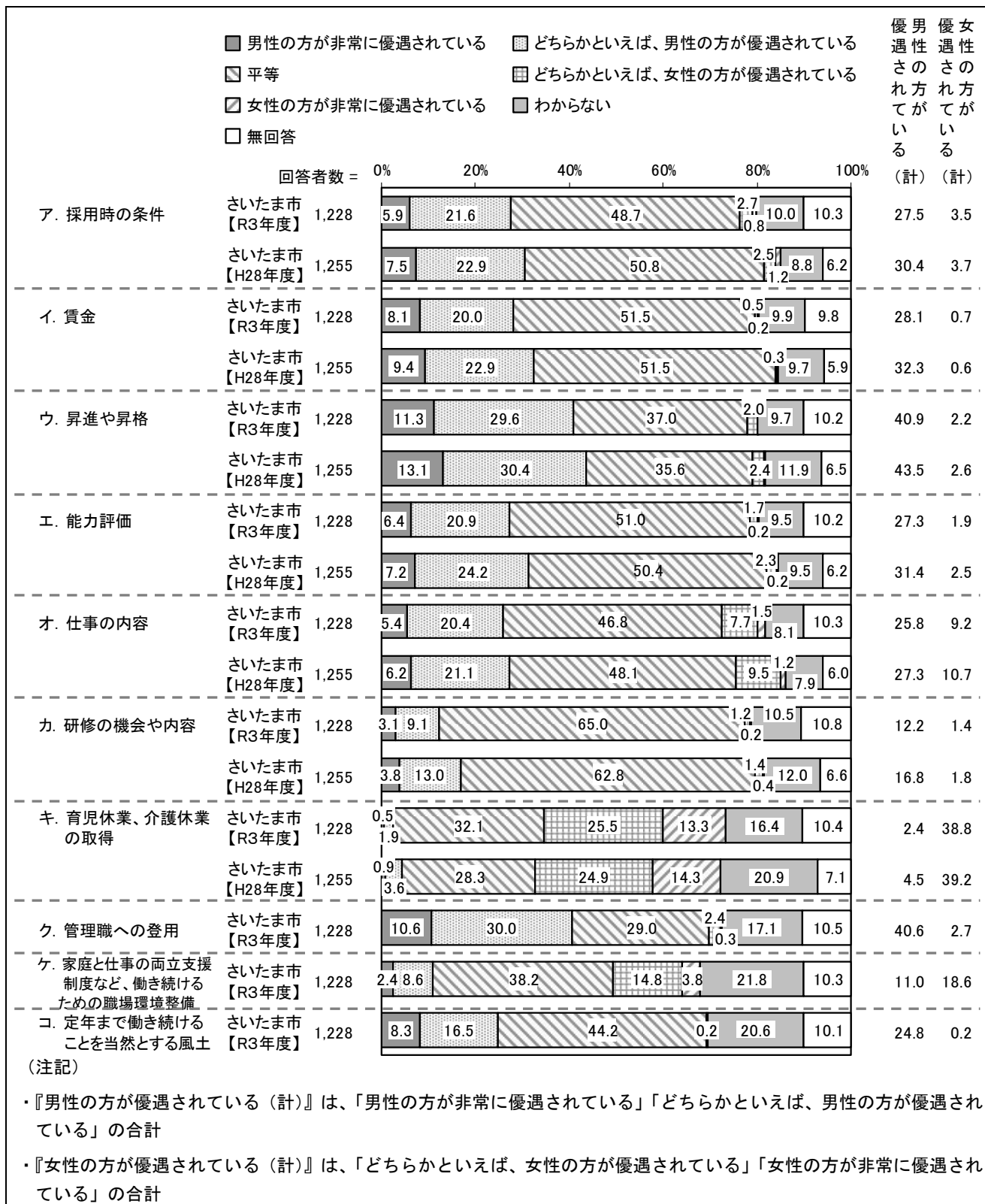
図表 2-3-14 昇格を希望しない理由（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「管理職の仕事にやりがいや魅力を感じない」と回答した人の割合は、男性公務員・教員で6割半ばとなっている。また、「ワーク・ライフ・バランスが保てない」と回答した人の割合は、女性会社員・団体職員、パート・アルバイト、公務員・教員で5割を超えている。

(4) 職場における男女の地位の平等感

問9. あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか。
(ア～コのそれぞれについて、あてはまる「1～6」に○を1つ)



図表 2-3-15 職場における男女の地位の平等感

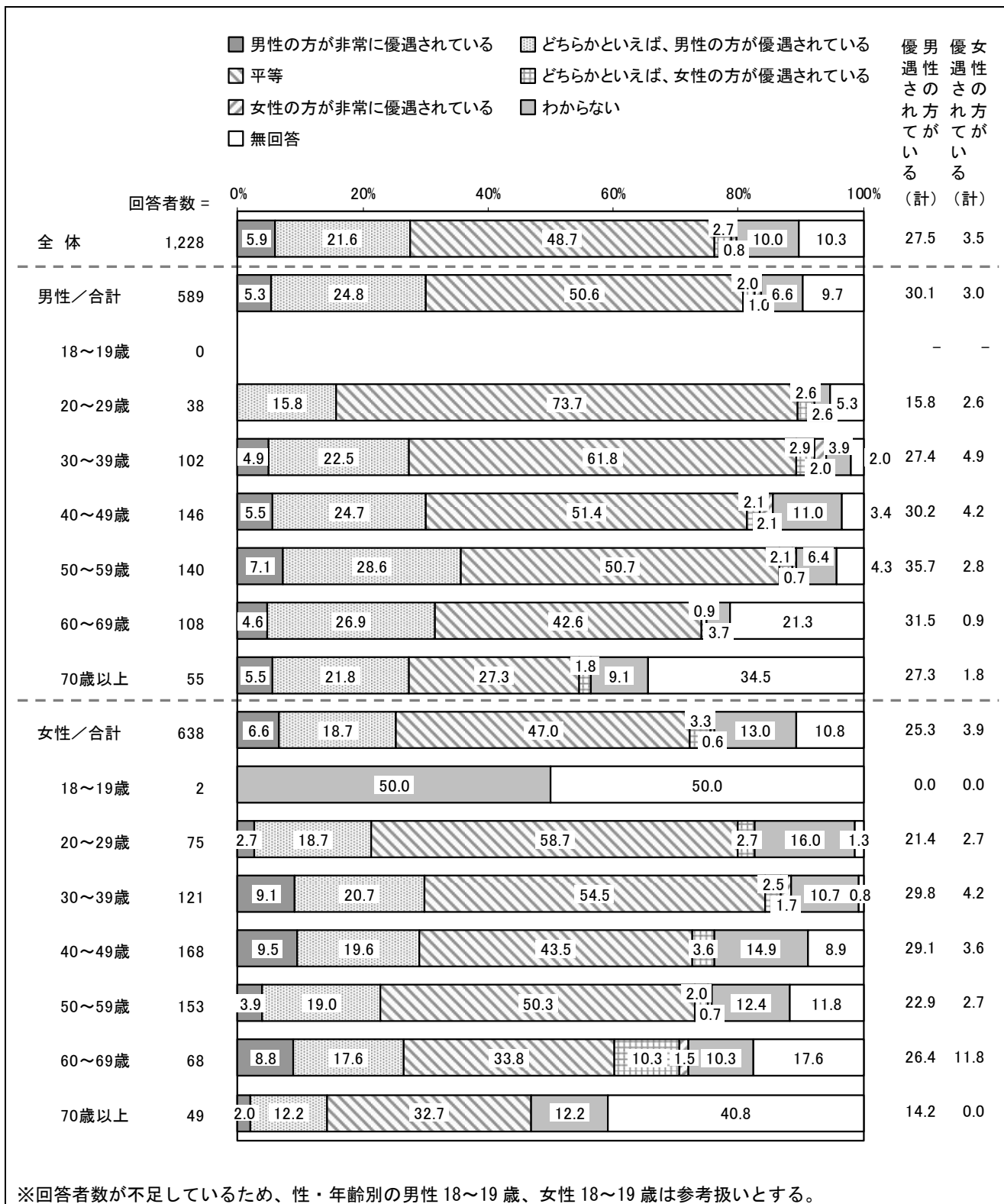
○全体の傾向・経年変化

職場における男女の地位について、昇進や昇格、管理職への登用は『男性の方が優遇されている（計）』の割合が4割を超え、「平等」の割合を上回っている。一方、育児休業、介護休業の取得は『女性の方が優遇されている（計）』（38.8%）の割合が「平等」（32.1%）、『男性の方が優遇されている』（2.4%）の割合を上回っている。また、賃金、能力評価、研修の機会や内容は「平等」の割合が5割を超えている。

過去の調査と比較すると、比較可能なすべての項目で『男性の方が優遇されている（計）』の割合が減少している。

一方、「ウ．昇進や昇格」「エ．能力評価」「カ．研修の機会や内容」「キ．育児休業、介護休業の取得」で「平等」の割合が増加している。

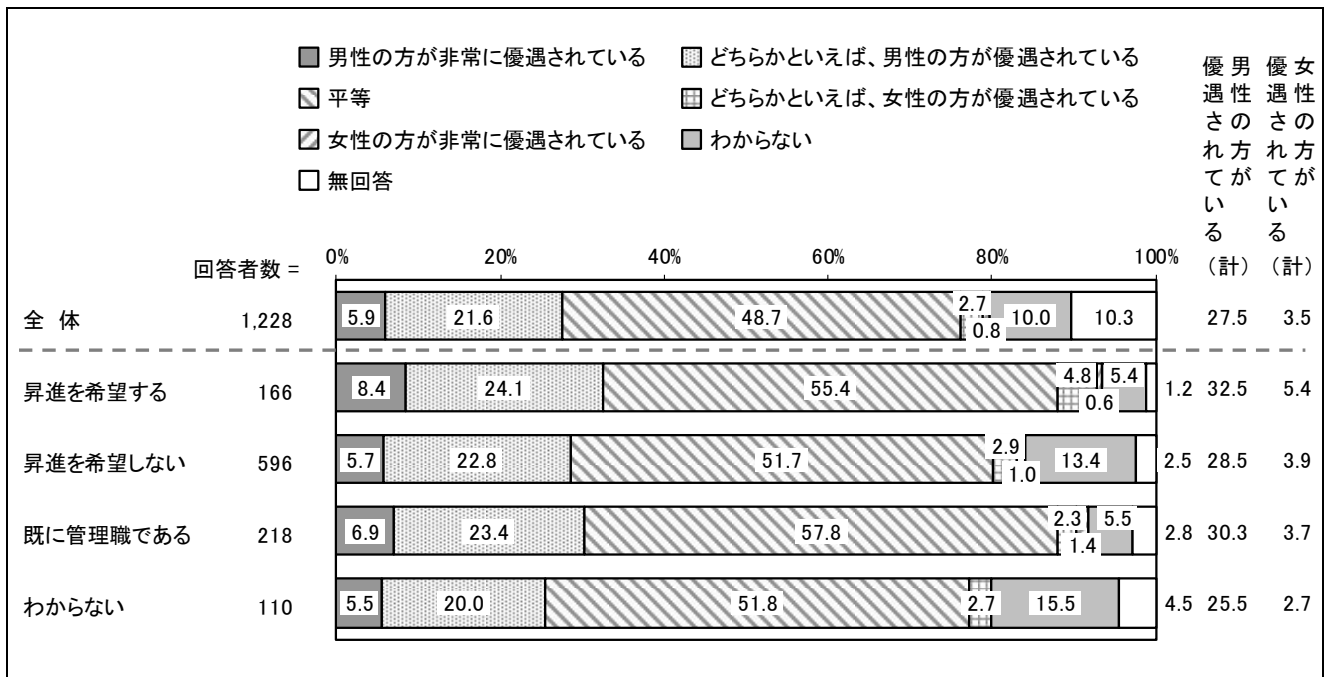
ア. 採用時の条件



図表 2-3-16 「採用時の条件」における男女の地位の平等感 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『男性の方が優遇されている (計)』の割合は男性50~59が最も高く、3割半ばとなっている。一方、男性20~29歳 (15.8%)、女性70歳以上 (14.2%) で低くなっており、2割を下回っている。

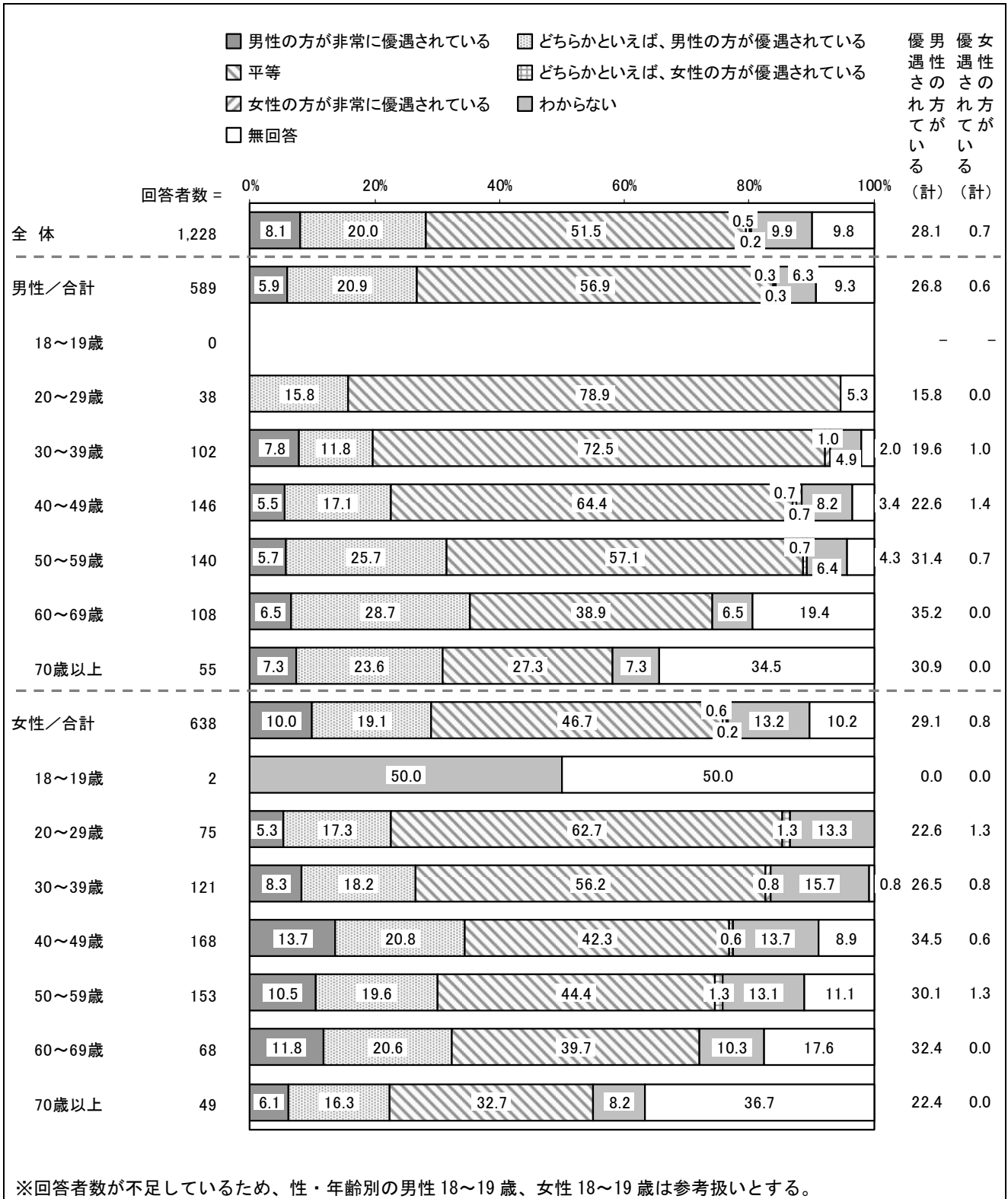


図表 2-3-17 「採用時の条件」における男女の地位の平等感（昇進の希望別）

○昇進の希望別の傾向

昇進の希望別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は昇進を希望する人、既に管理職である人で高く、3割を超えている。

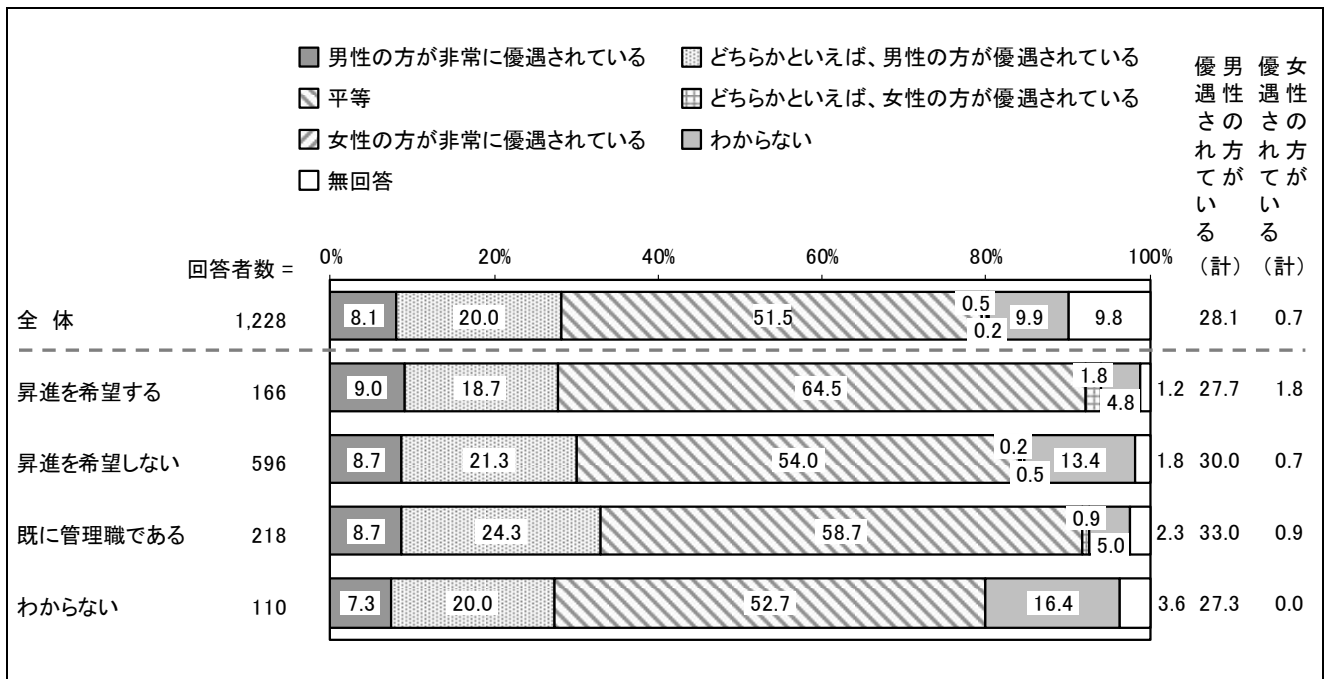
イ. 賃金



図表 2-3-18 「賃金」における男女の地位の平等感 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『男性の方が優遇されている (計)』の割合は男性60~69歳、女性40~49歳が高く、3割半ばとなっている。一方、男性の20~29歳 (15.8%)、30~39歳 (19.6%) で低くなっており、2割を下回っている。

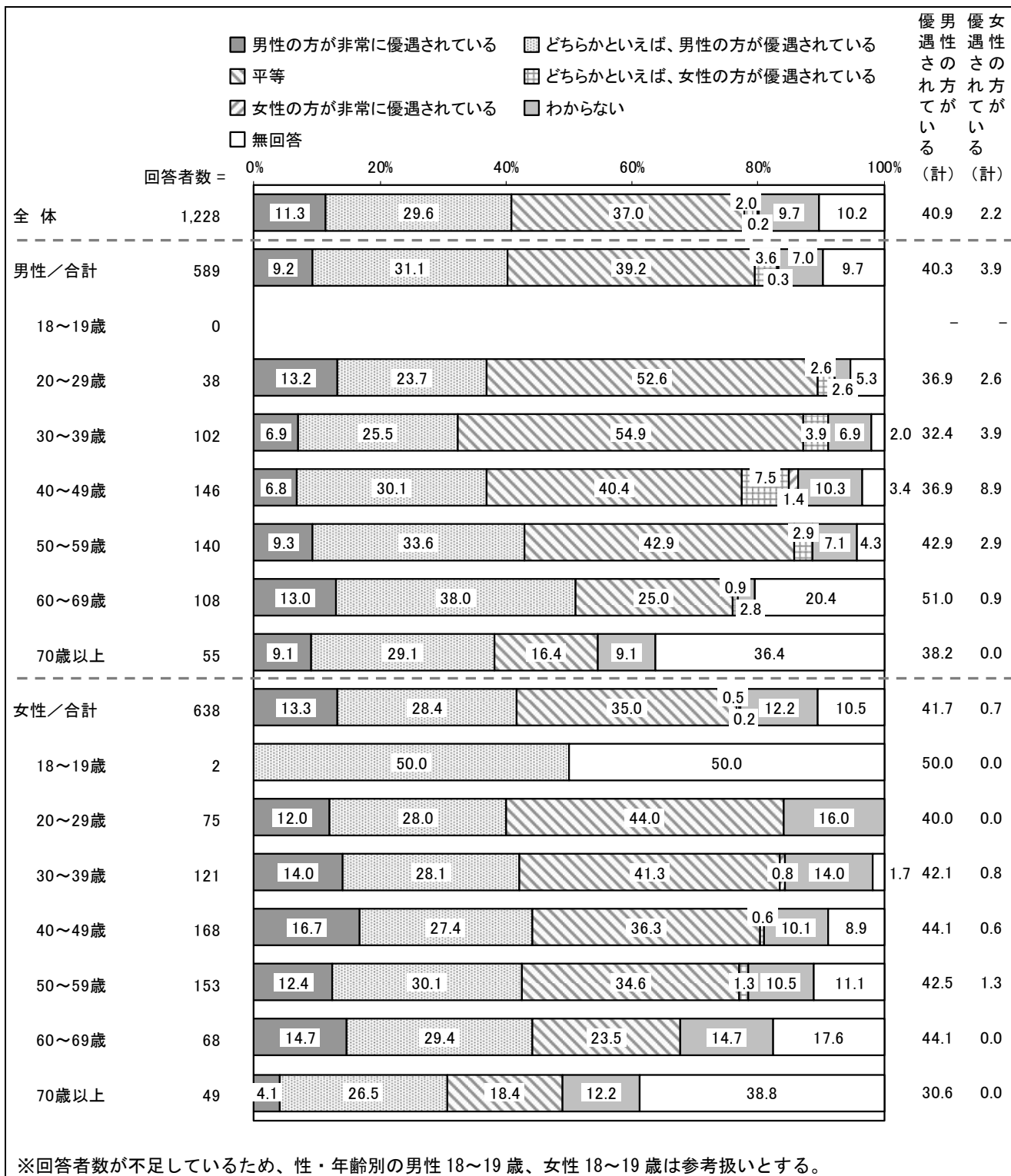


図表 2-3-19 「賃金」における男女の地位の平等感（昇進の希望別）

○昇進の希望別の傾向

昇進の希望別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は昇進を希望しない人、既に管理職である人で高く、3割を超えている。

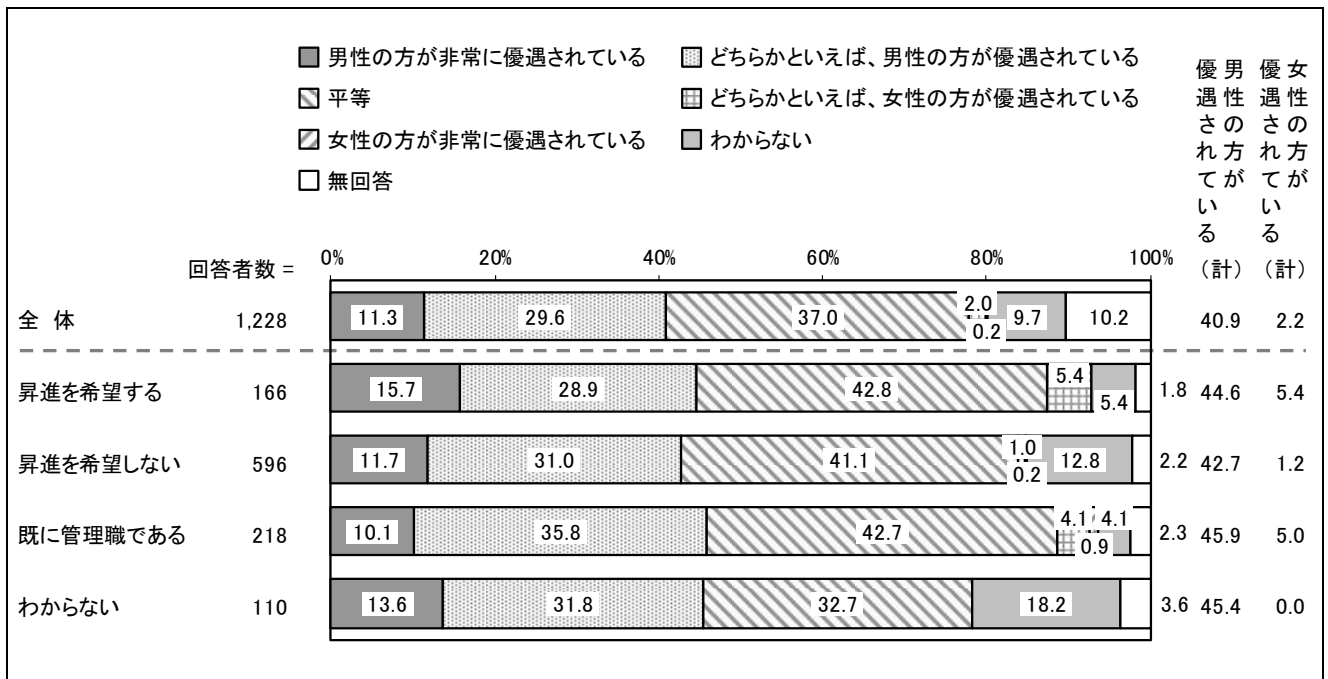
ウ. 昇進や昇格



図表 2-3-20 「昇進や昇格」における男女の地位の平等感（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は男性 60~69 歳で最も高く、5 割を超えている。

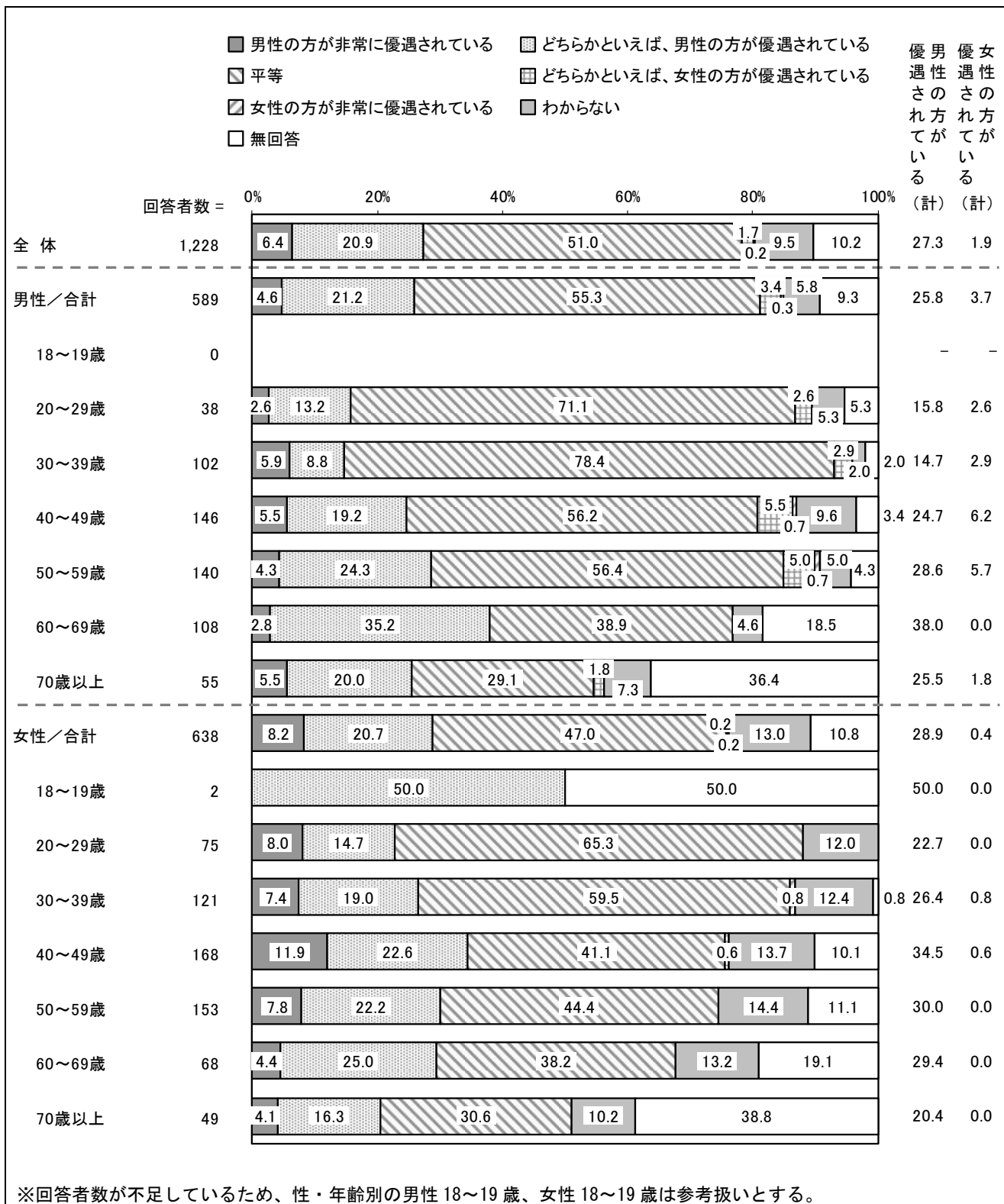


図表 2-3-21 「昇進や昇格」における男女の地位の平等感（昇進の希望別）

○昇進の希望別の傾向

昇進の希望別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は既に管理職である人（45.9%）で最も高くなっている。

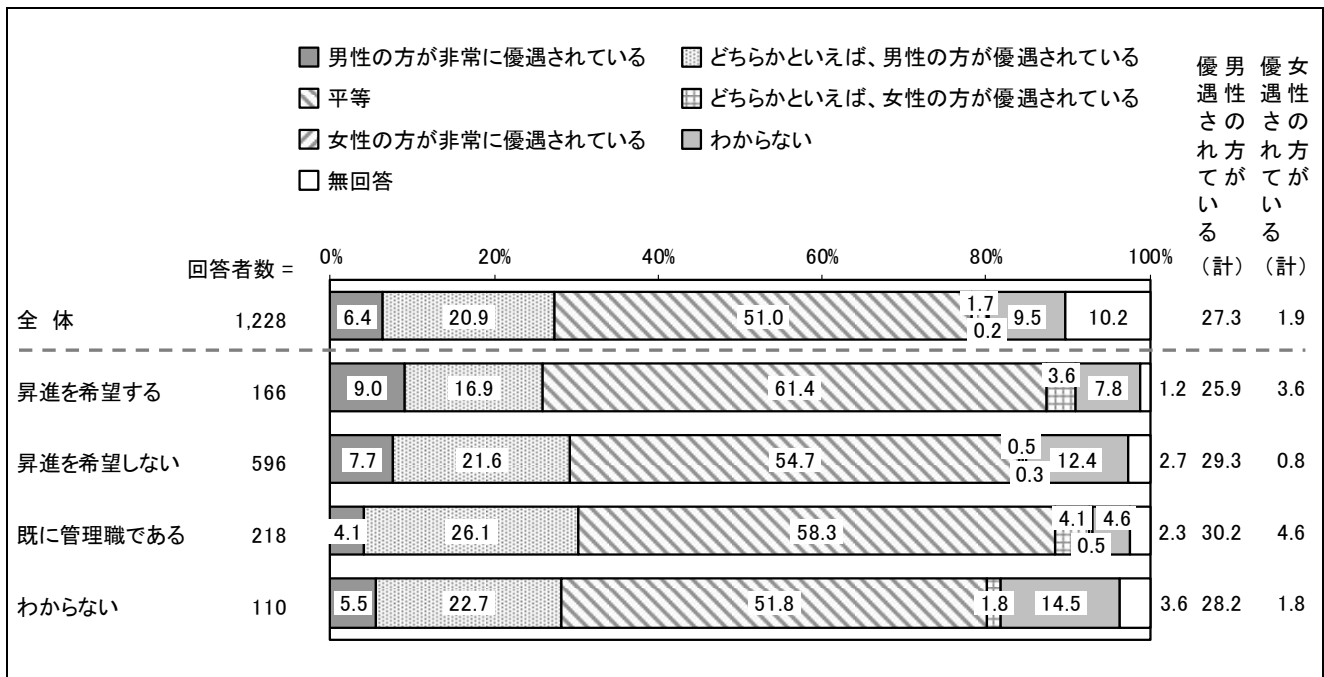
エ. 能力評価



図表 2-3-22 「能力評価」における男女の地位の平等感（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は男性60~69歳で最も高く、約4割となっている。一方、男性の20~29歳（15.8%）、30~39歳（14.7%）で低くなっており、2割を下回っている。

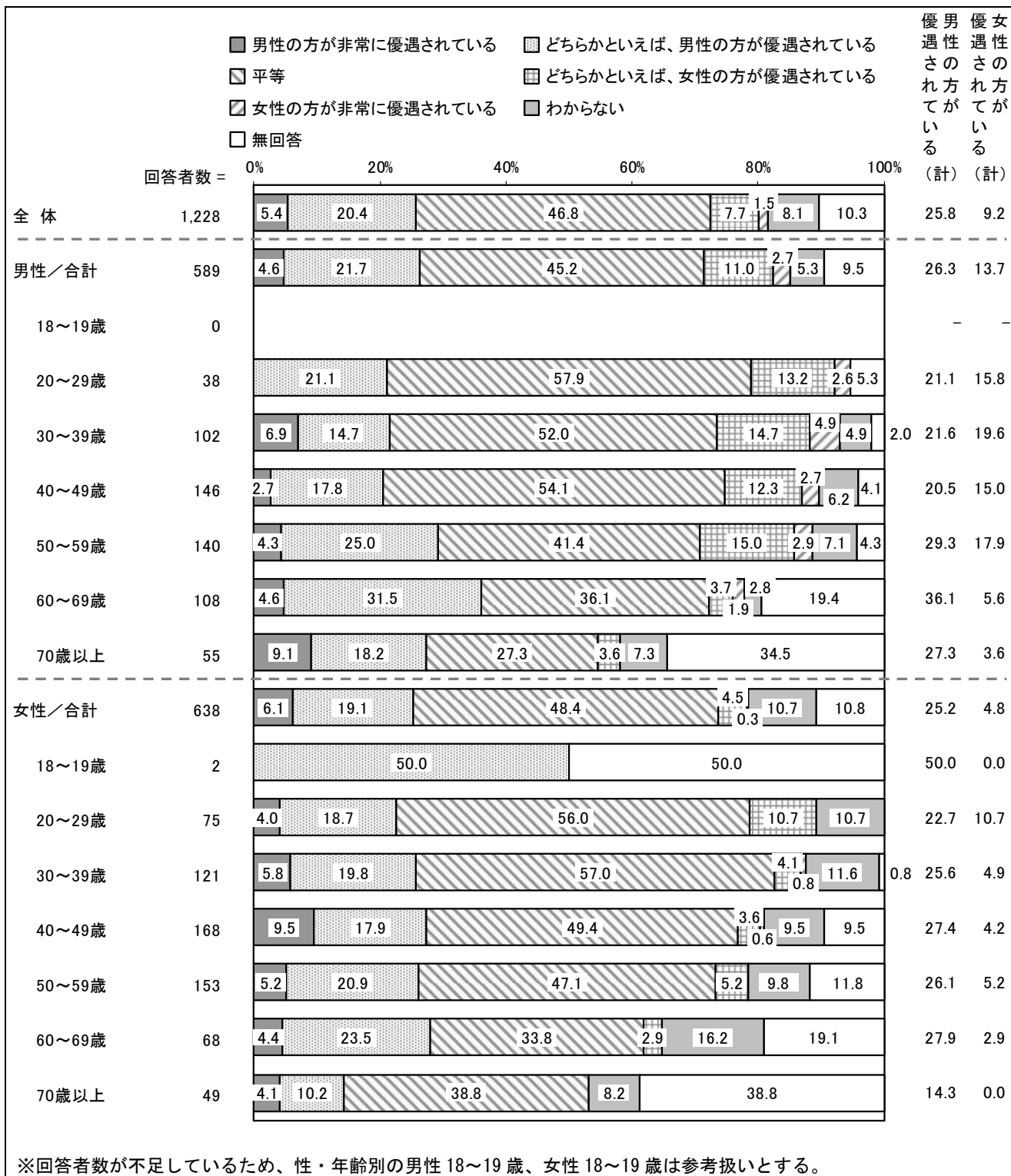


図表 2-3-23 「能力評価」における男女の地位の平等感（昇進の希望別）

○昇進の希望別の傾向

昇進の希望別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は既に管理職である人で高く、3割を超えている。

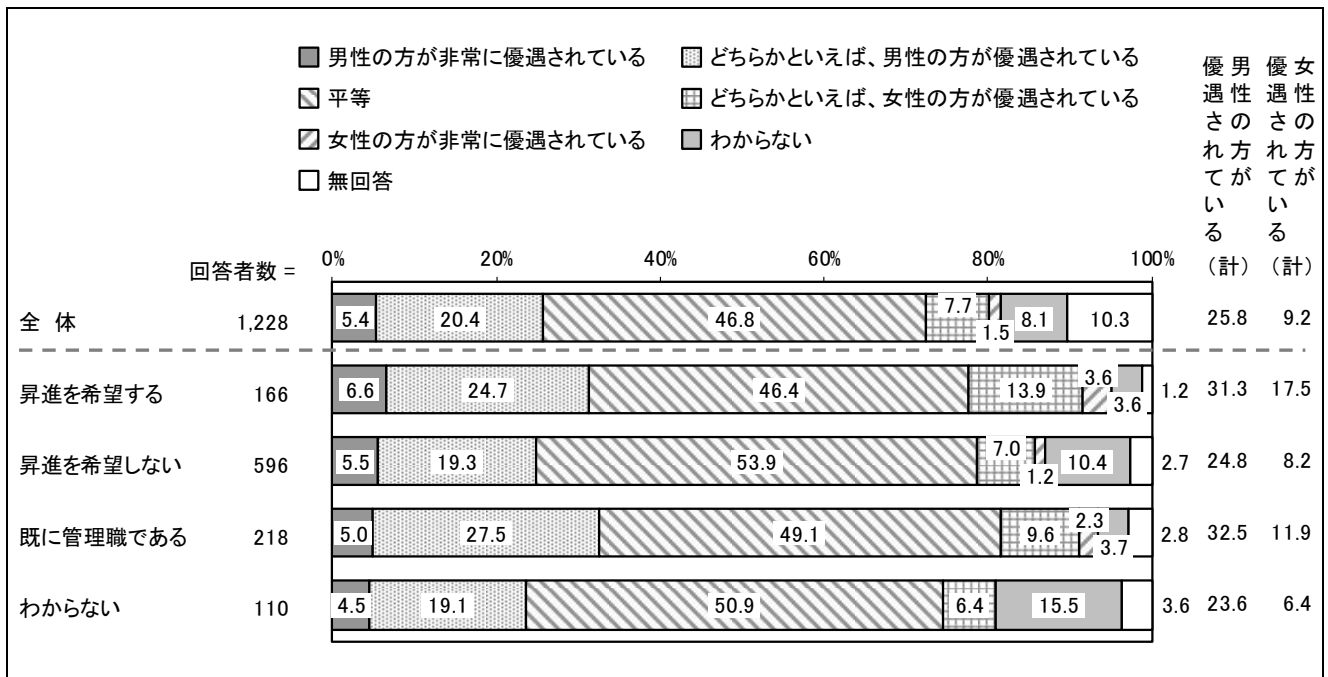
オ. 仕事の内容



図表 2-3-24 「仕事の内容」における男女の地位の平等感（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は男性60~69歳で最も高く、3割半ばとなっている。一方、女性70歳以上（14.3%）で低くなっており、2割を下回っている。

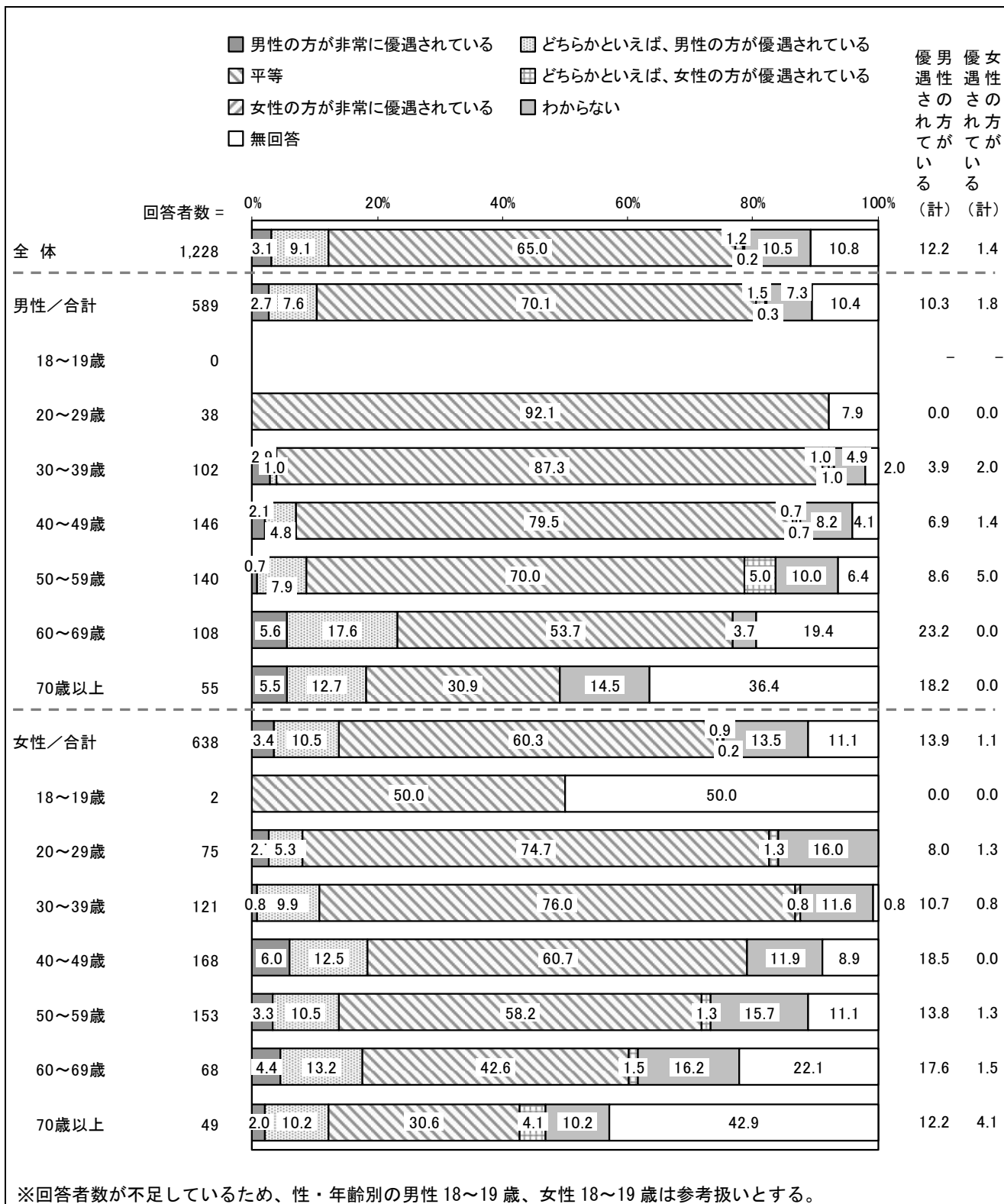


図表 2-3-25 「仕事の内容」における男女の地位の平等感（昇進の希望別）

○昇進の希望別の傾向

昇進の希望別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は昇進を希望する人、既に管理職である人で高く、3割を超えている。

カ. 研修の機会や内容

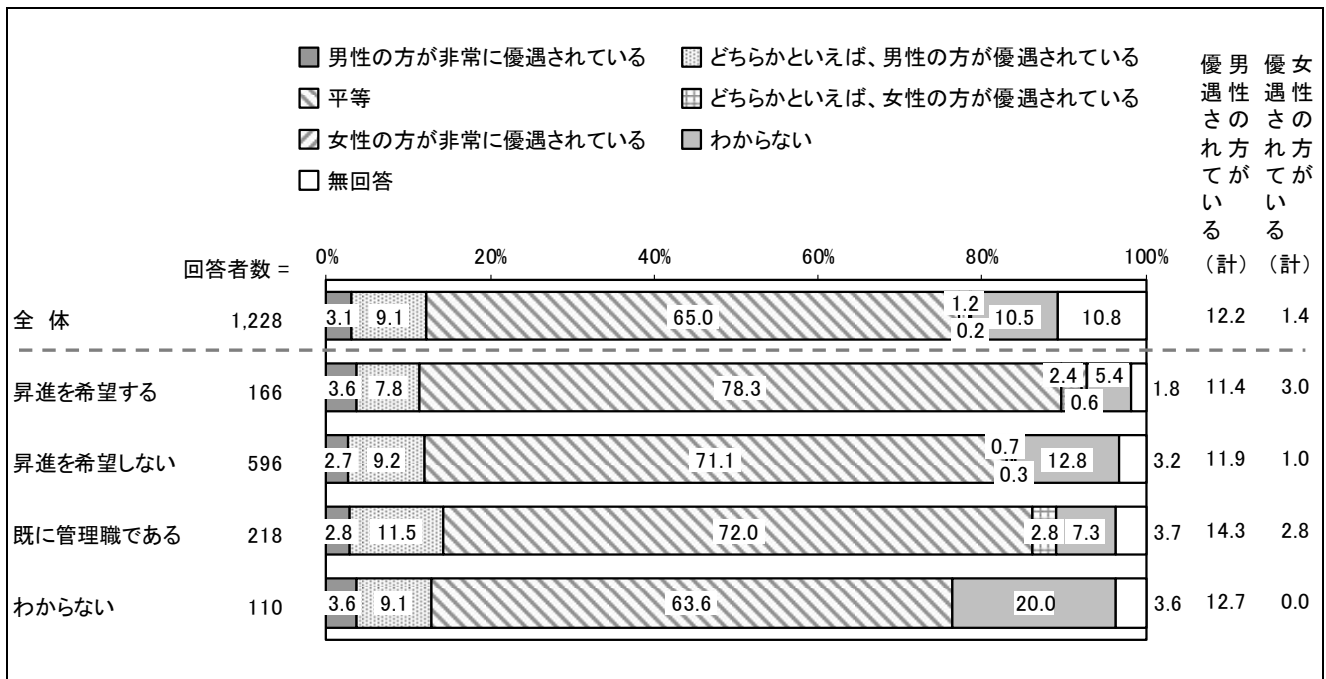


※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18~19歳、女性18~19歳は参考扱いとする。

図表 2-3-26 「研修の機会や内容」における男女の地位の平等感（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は男性60~69歳で最も高く、2割を超えている。一方、男性の20~29歳（0.0%）、30~39歳（3.9%）、40~49歳（6.9%）、50~59歳（8.6%）、女性20~29歳（8.0%）で低くなっており、1割を下回っている。

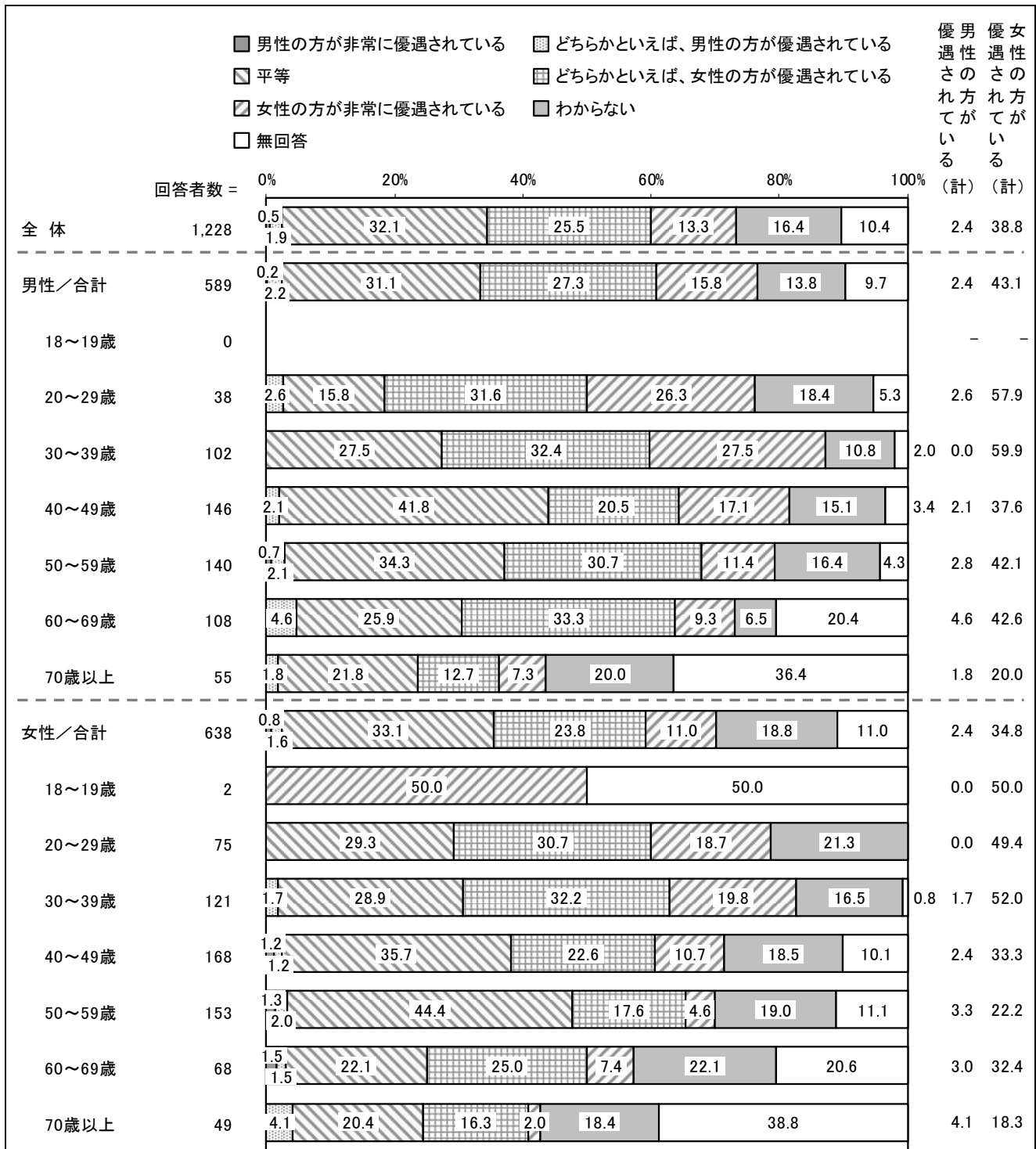


図表 2-3-27 「研修の機会や内容」における男女の地位の平等感（昇進の希望別）

○昇進の希望別の傾向

昇進の希望別でみると、「平等」の割合は昇進を希望する人で高く、約8割となっている。

キ. 育児休業、介護休業の取得

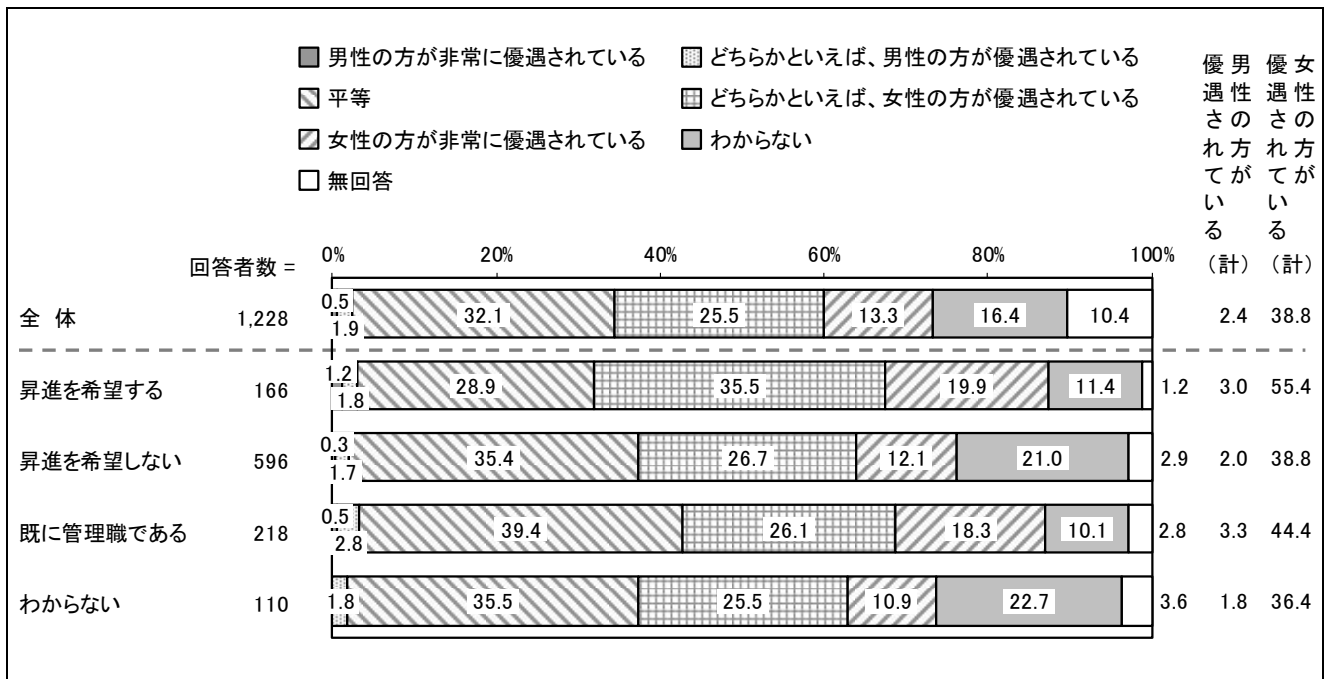


※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18~19歳、女性18~19歳は参考扱いとする。

図表 2-3-28 「育児休業、介護休業の取得」における男女の地位の平等感 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「平等」の割合は男性40~49歳、女性50~59歳で高く、4割を超えている。一方、男性20~29歳 (57.9%)、30~39歳 (59.9%)、女性30~39歳 (52.0%) は『女性の方が優遇されている (計)』の割合が高くなっており、5割を超えている。

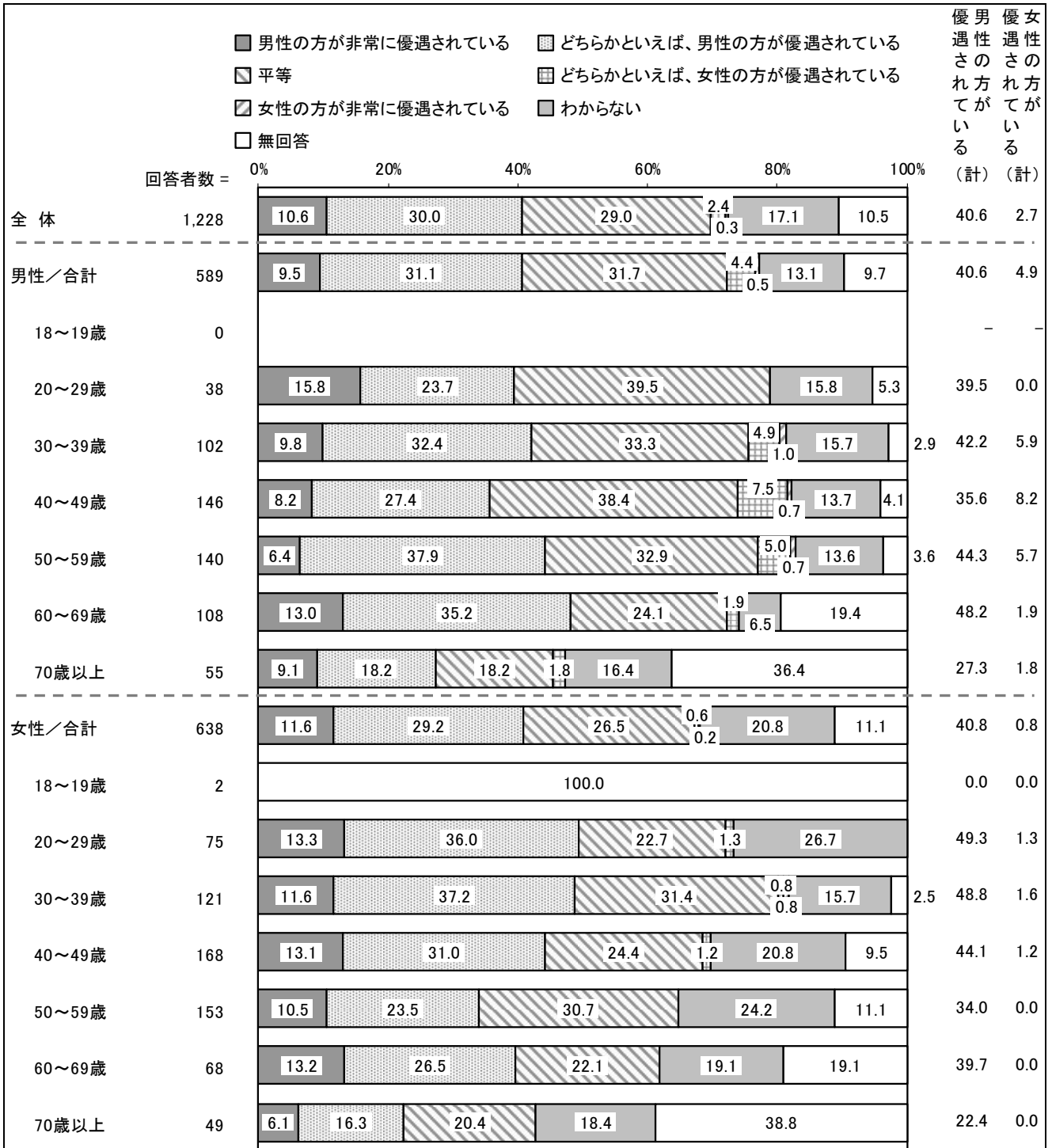


図表 2-3-29 「育児休業、介護休業の取得」における男女の地位の平等感（昇進の希望別）

○昇進の希望別の傾向

昇進の希望別でみると、『女性の方が優遇されている（計）』の割合は昇進を希望する人で高く、5割半ばとなっている。

ク. 管理職への登用

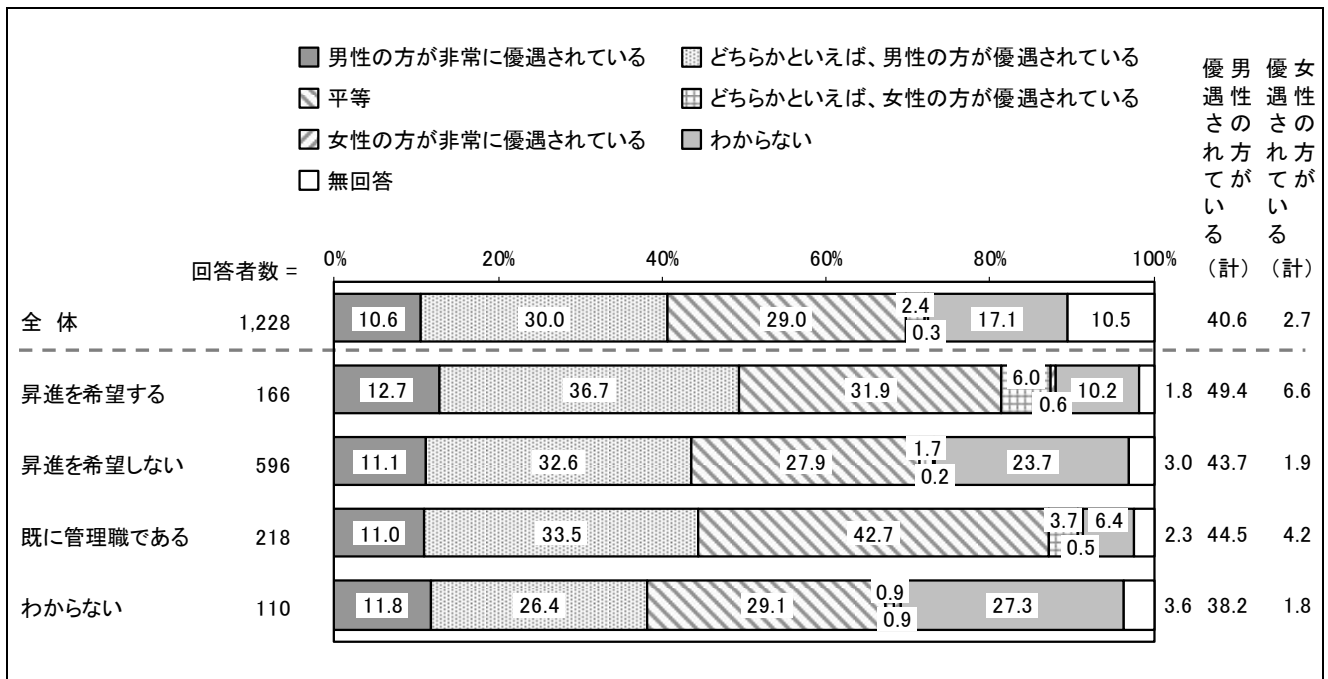


※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18~19歳、女性18~19歳は参考扱いとする。

図表 2-3-30 「管理職への登用」における男女の地位の平等感（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は男性60~69歳、女性20~29歳、30~39歳で高く、約5割となっている。一方、男女ともに70歳以上で低くなっており、3割を下回っている。

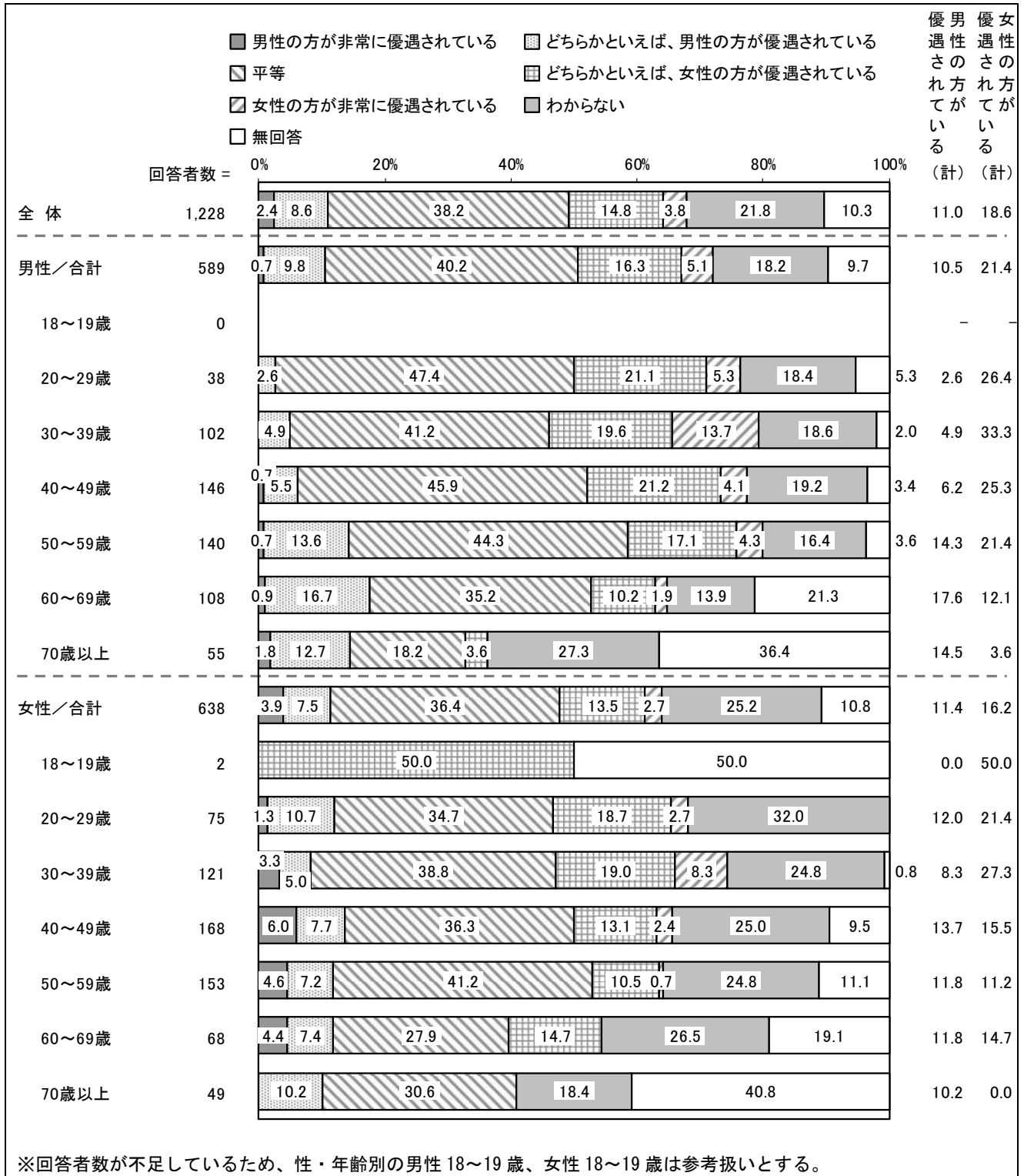


図表 2-3-31 「管理職への登用」における男女の地位の平等感（昇進の希望別）

○昇進の希望別の傾向

昇進の希望別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は昇進を希望する人で高く、約5割となっている。

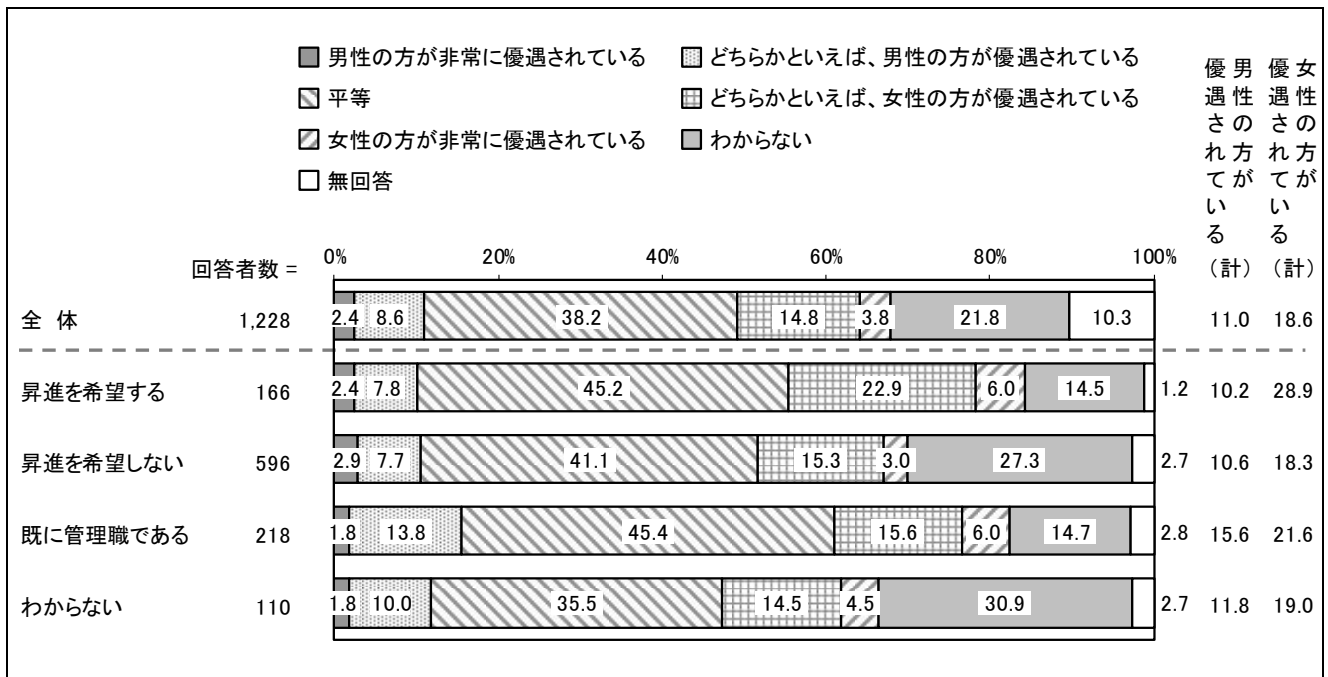
ケ. 家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備



図表 2-3-32 「家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備」における男女の地位の平等感（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『女性の方が優遇されている（計）』の割合は男性30~39歳が最も高く、3割を超えている。

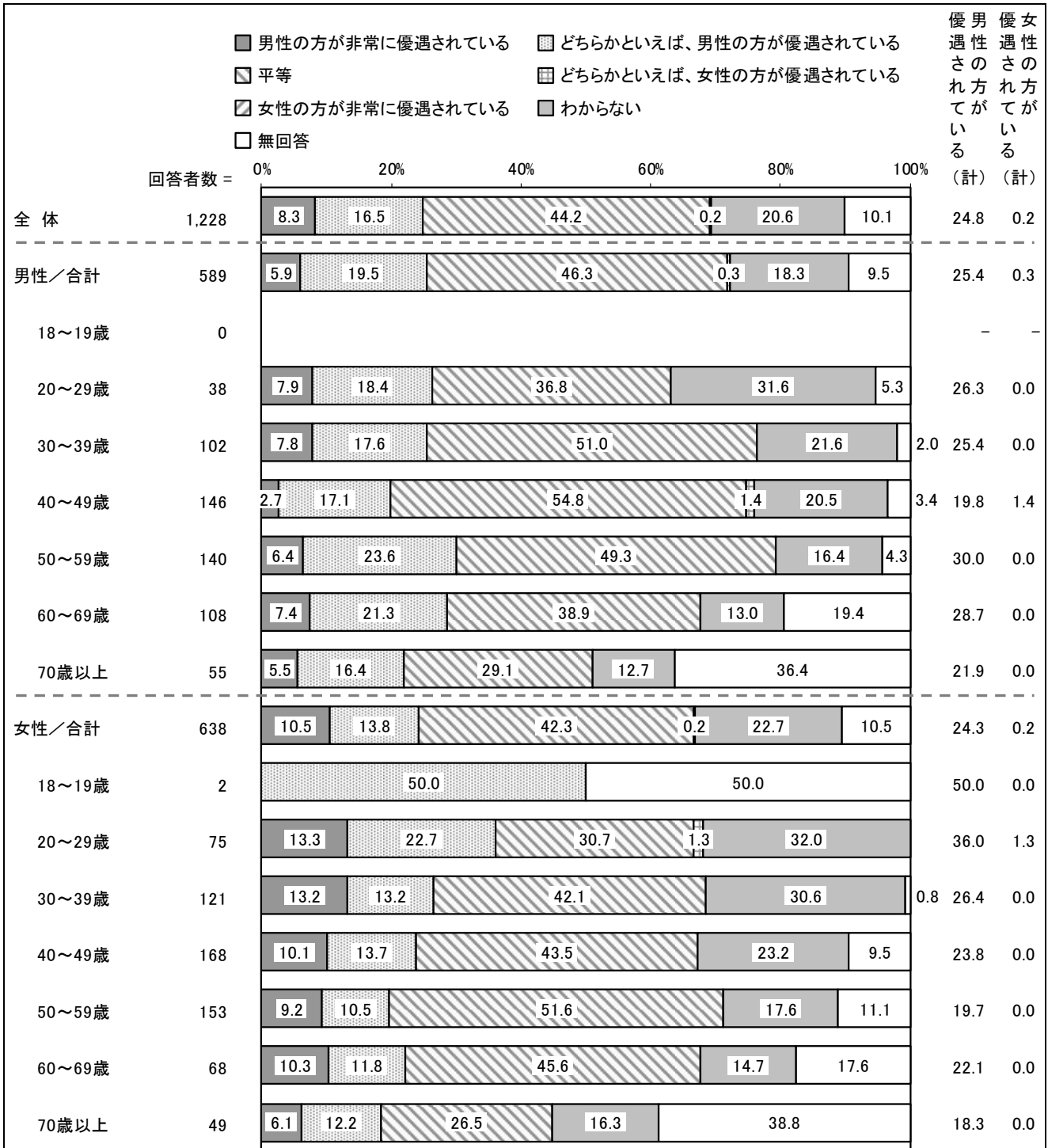


図表 2-3-33 「家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備」における男女の地位の平等感（昇進の希望別）

○昇進の希望別の傾向

昇進の希望別で見ると、『女性の方が優遇されている（計）』の割合は昇進を希望する人で高く、約3割となっている。

コ. 定年まで働き続けることを当然とする風土

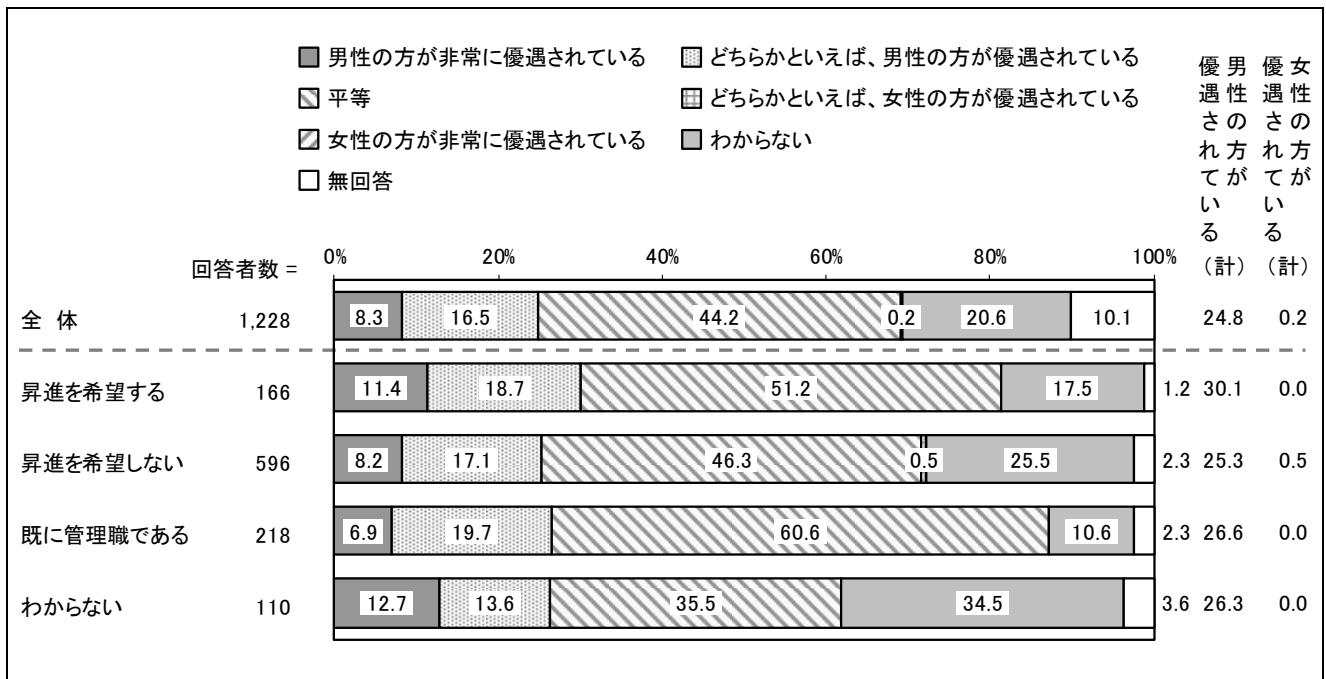


※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

図表 2-3-34 「定年まで働き続けることを当然とする風土」における男女の地位の平等感 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、「平等」の割合は男性30～39歳、40～49歳、女性50～59歳で高く、5割を超えている。



図表 2-3-35 「定年まで働き続けることを当然とする風土」における男女の地位の平等感（昇進の希望別）

○昇進の希望別の傾向

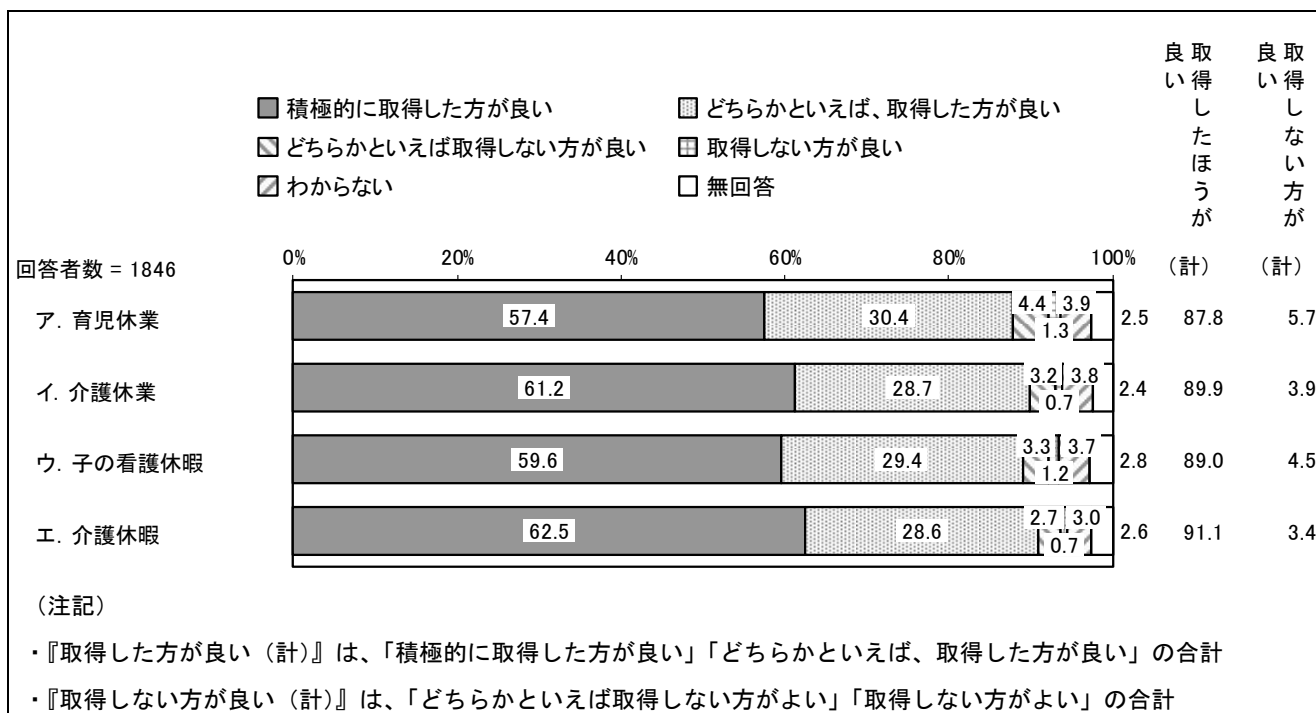
昇進の希望別でみると、『男性の方が優遇されている（計）』の割合は昇進を希望する人で高く、3割を超えている。

(5) 男性の育児・介護休業等取得に対する考え方

※ここからは再度、全員の方におうかがいします。

問10. 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児・介護休業、子の看護休暇、介護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性が、この制度を活用することについてどう思いますか。

(ア～エのそれぞれについて、あてはまる「1～5」に○を1つ)

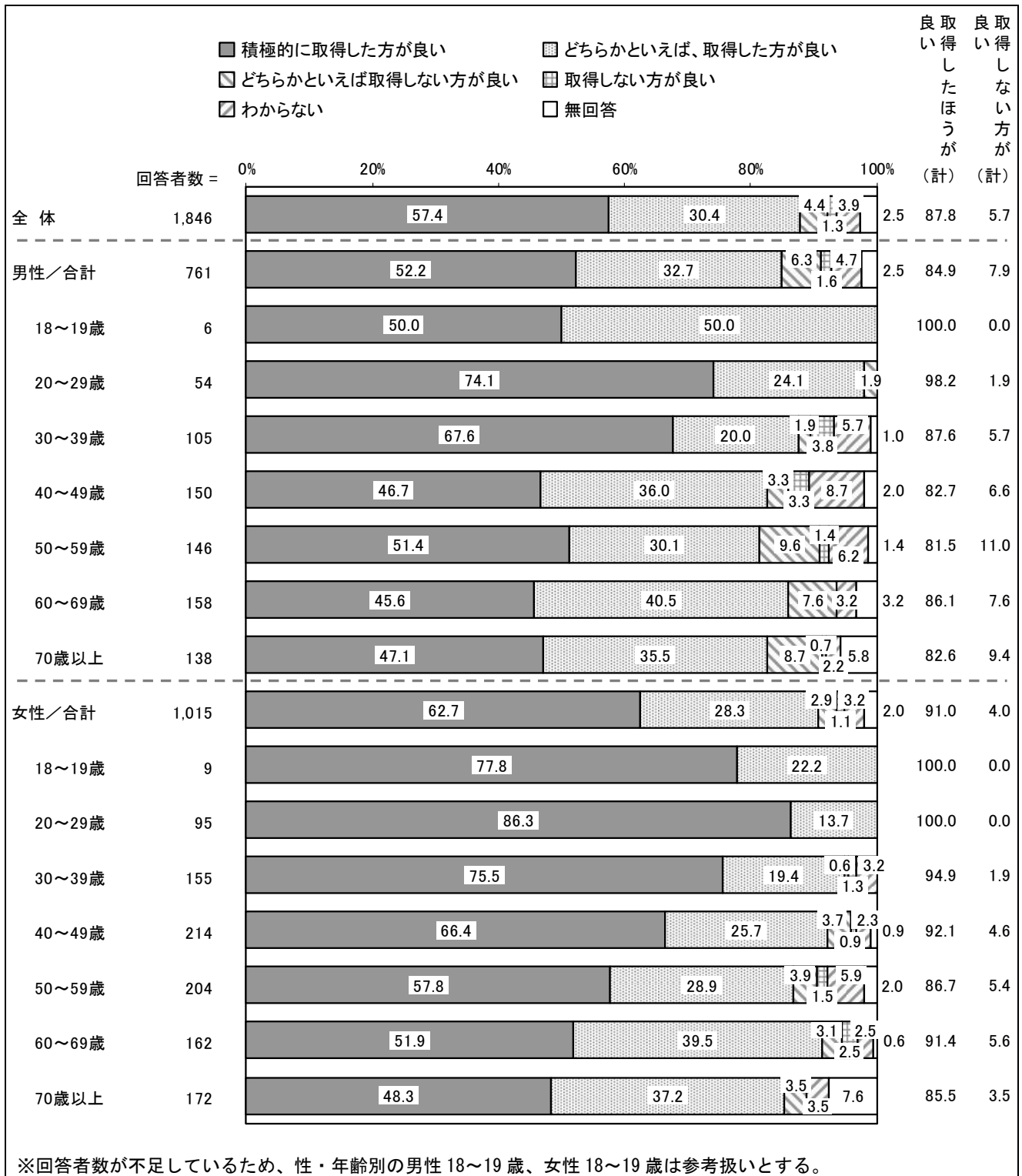


図表 2-3-36 男性の育児・介護休業等取得に対する考え方

○全体の傾向

男性の育児・介護休業等取得に対する考え方の中で、すべての項目で「積極的に取得した方が良い」の割合が5割を超えており、他を大きく上回っている。

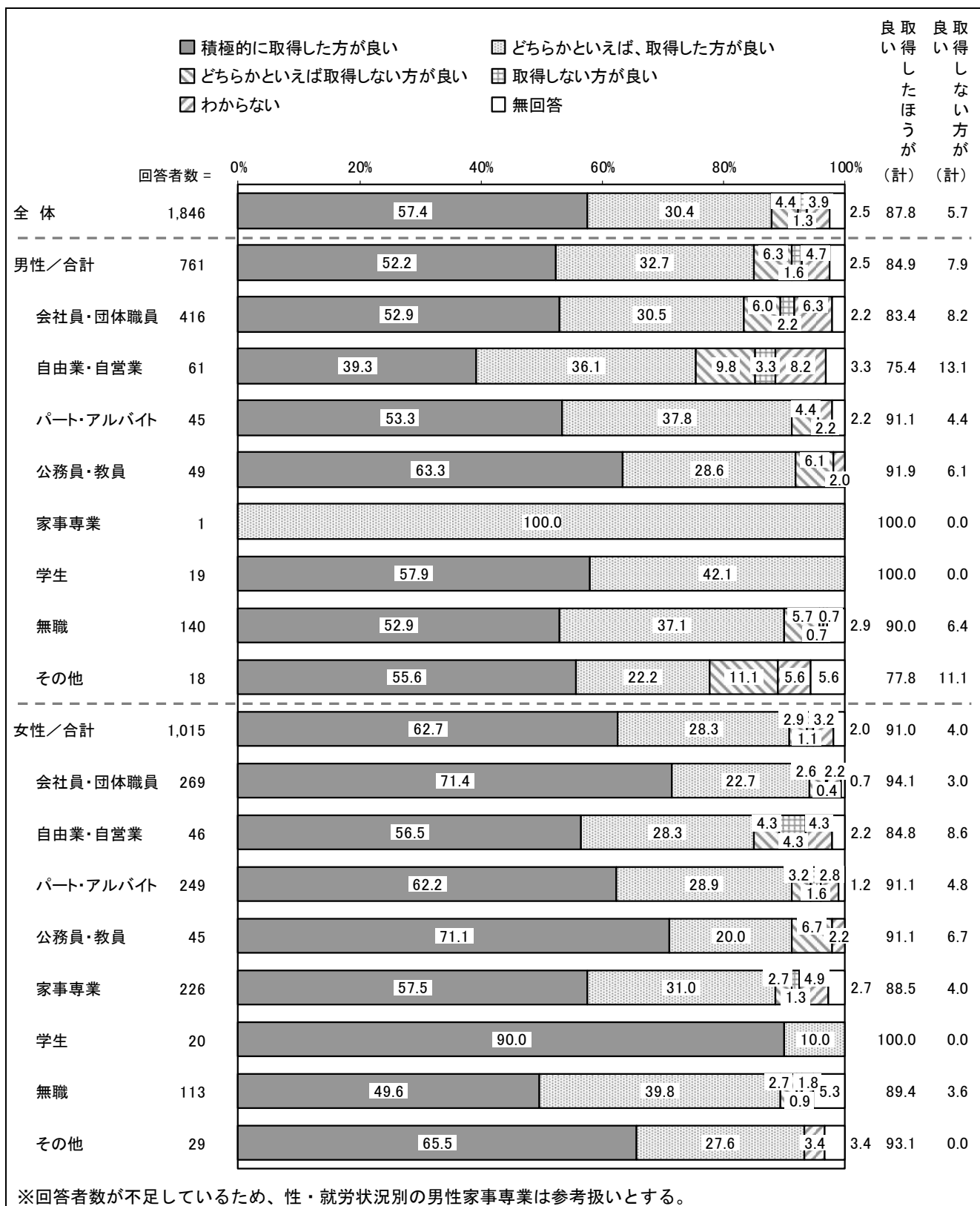
ア. 育児休業



図表 2-3-37 男性の育児休業取得に対する考え方 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、『取得した方が良い (計)』の割合は女性20~29歳 (100.0%) で最も高くなっている。

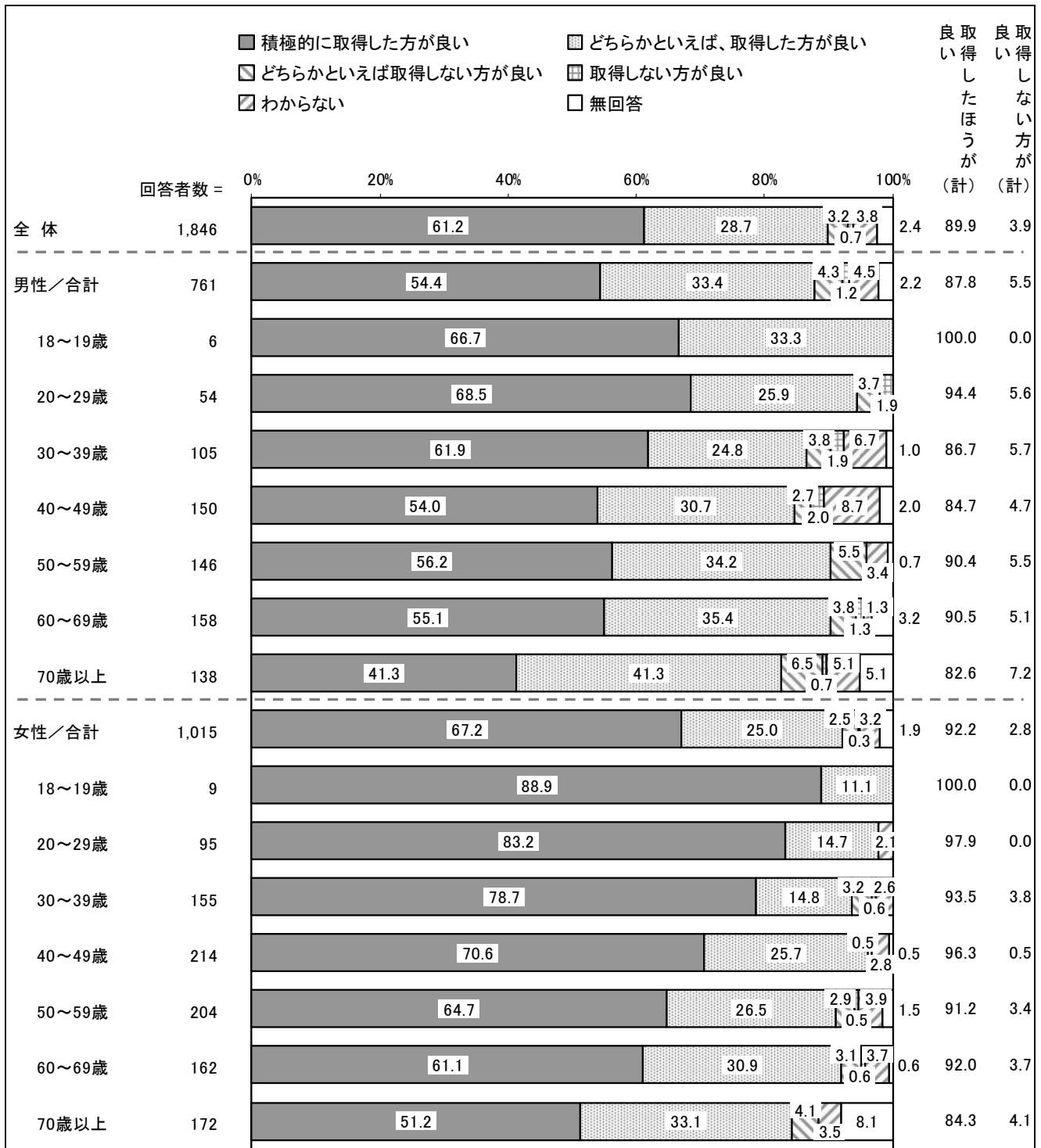


図表 2-3-38 男性の育児休業取得に対する考え方（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、『取得した方が良い（計）』の割合は男女ともに学生（100.0%）で最も高くなっている。

イ. 介護休業

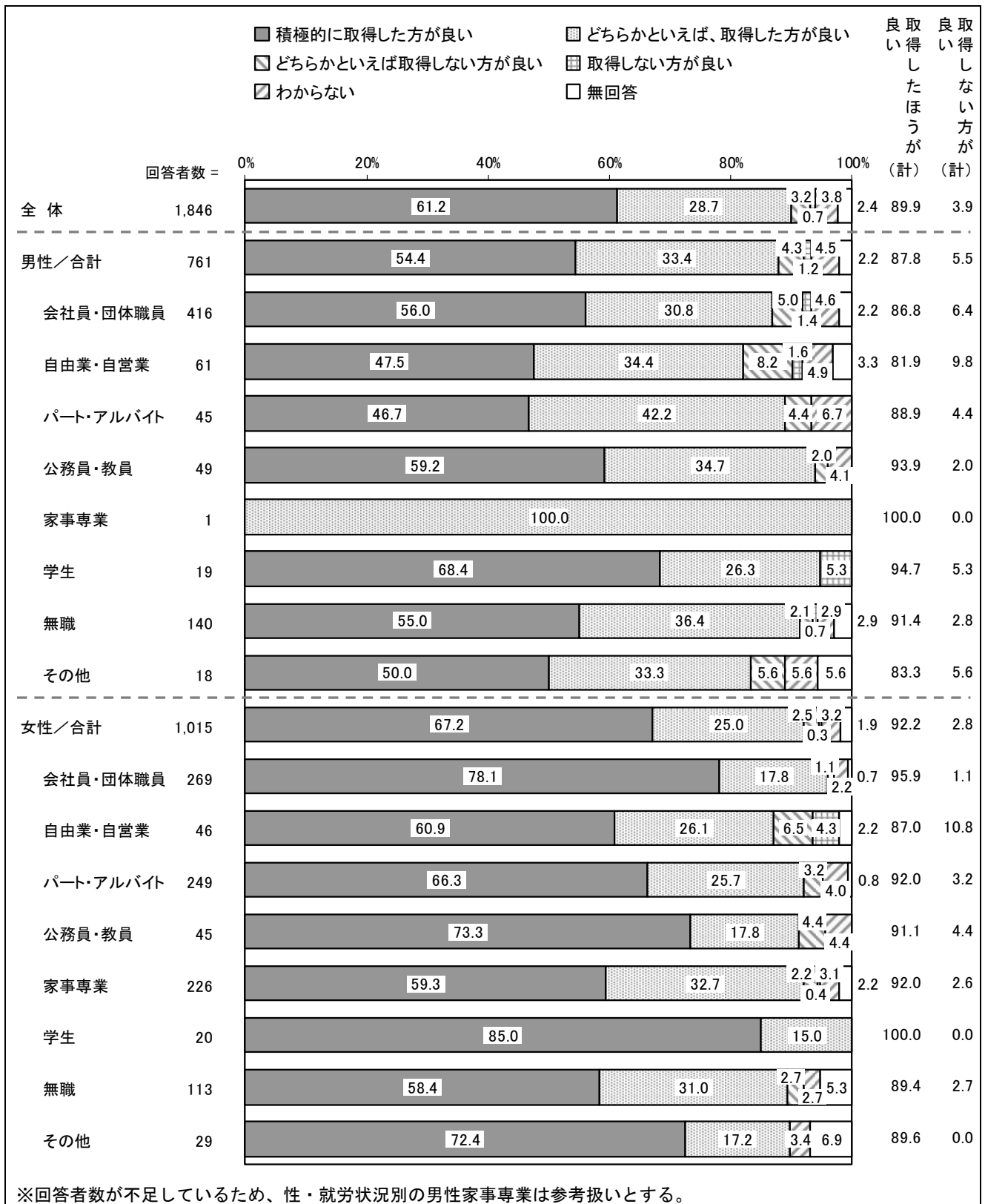


※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18~19歳、女性18~19歳は参考扱いとする。

図表 2-3-39 男性の介護休業取得に対する考え方（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「積極的に取得した方が良い」の割合が低くなる傾向がみられる。

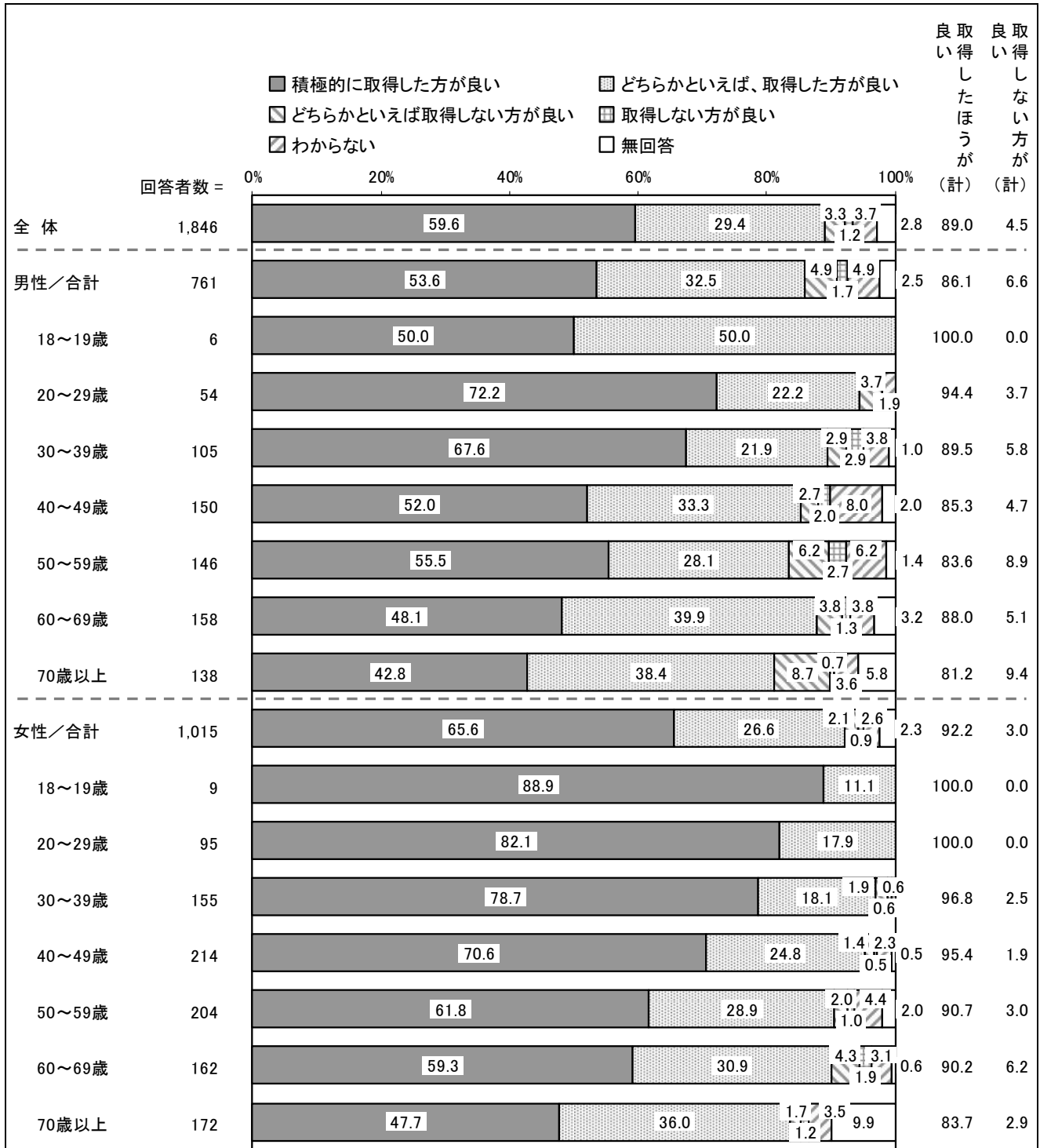


図表 2-3-40 男性の介護休業取得に対する考え方（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、『取得した方が良い（計）』の割合は男女ともに学生で最も高くなっている。

ウ. 子の看護休暇

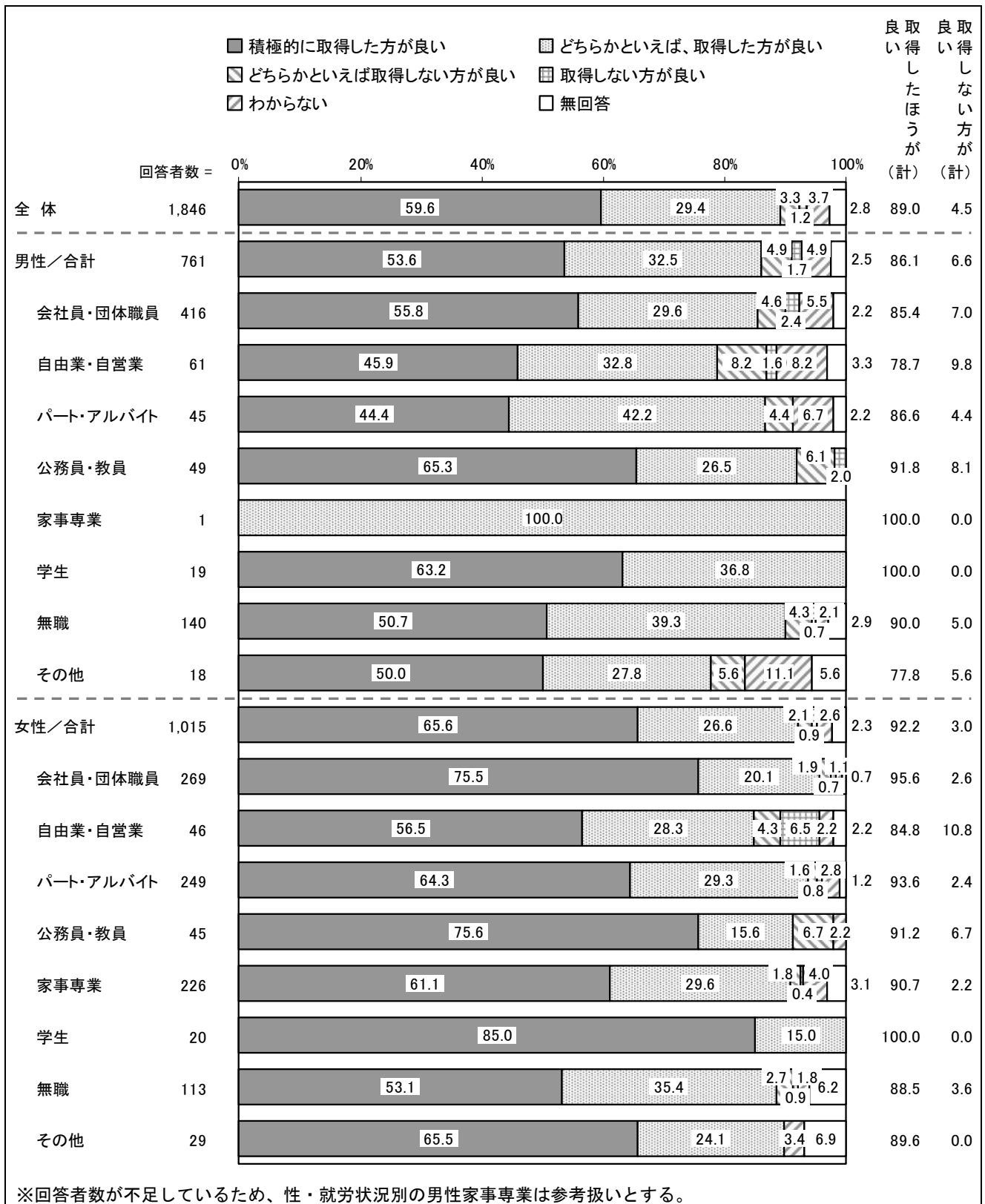


※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18~19歳、女性18~19歳は参考扱いとする。

図表 2-3-41 男性の子の看護休暇取得に対する考え方 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて『取得した方が良い (計)』の割合が低くなる傾向がみられる。

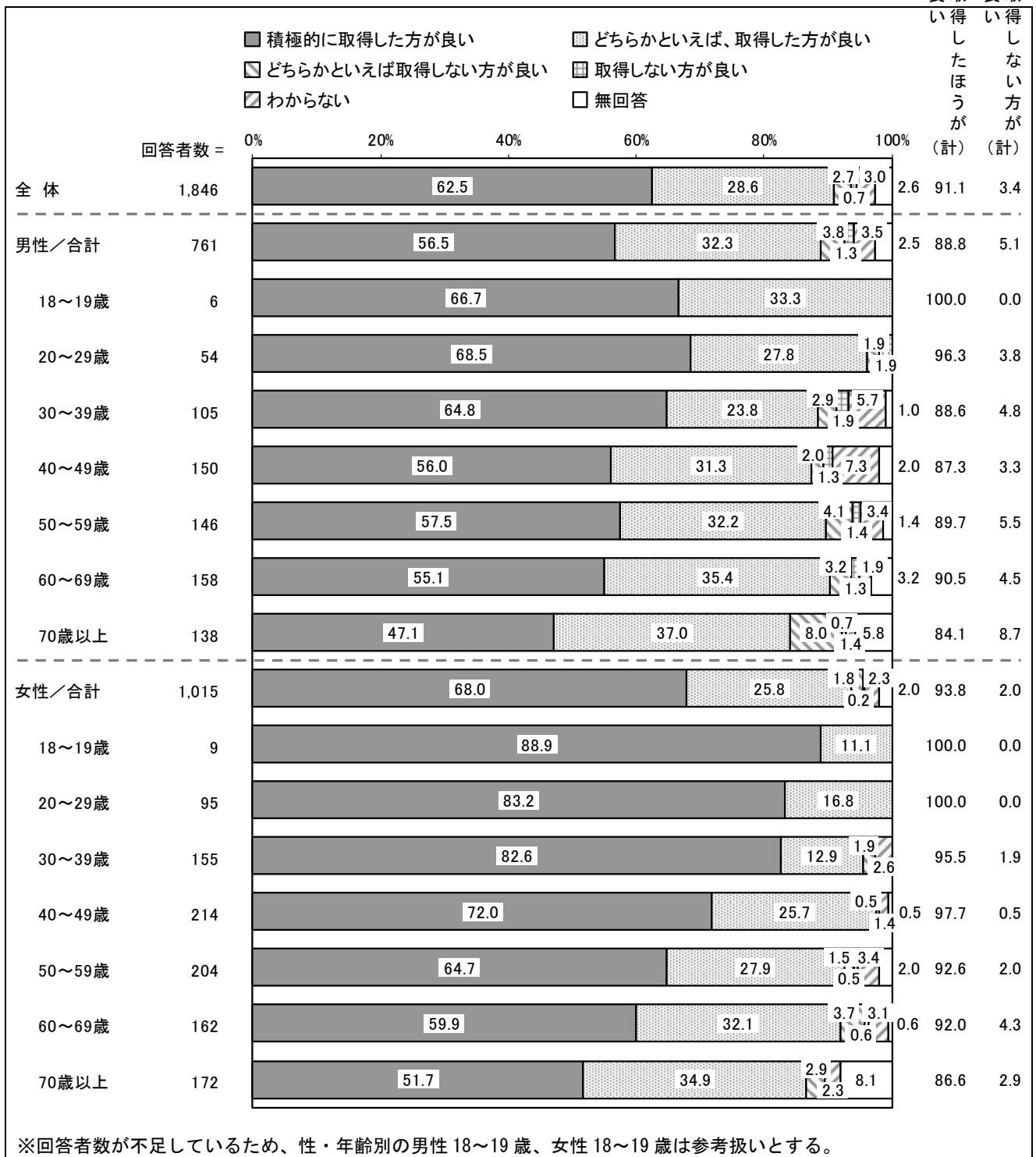


図表 2-3-42 男性の子の看護休暇取得に対する考え方（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、『取得した方が良い（計）』の割合は男女ともに学生（100.0%）で最も高くなっている。

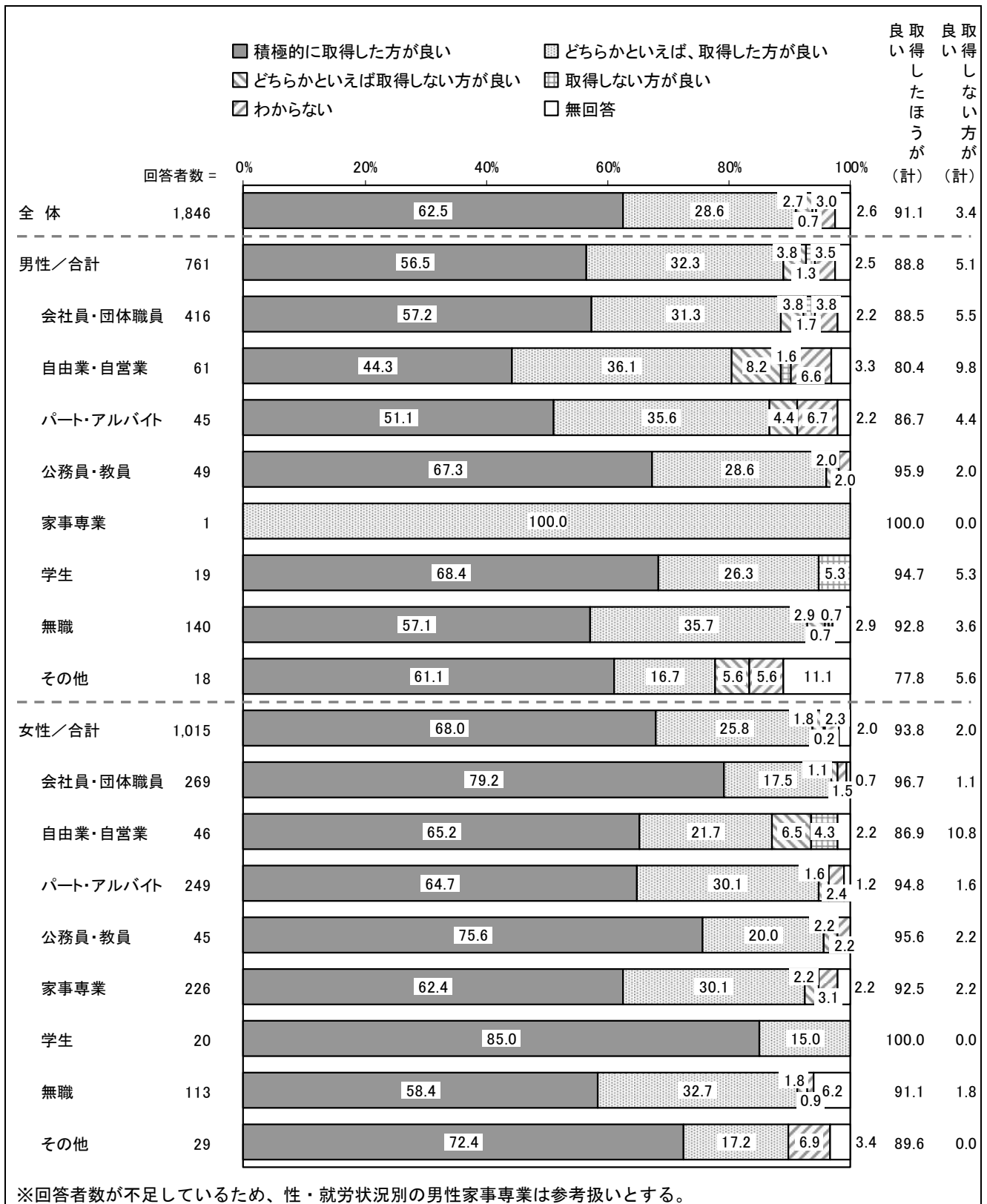
エ. 介護休暇



図表 2-3-43 男性の介護休暇取得に対する考え方 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて『取得した方が良い (計)』の割合が低くなる傾向がみられる。



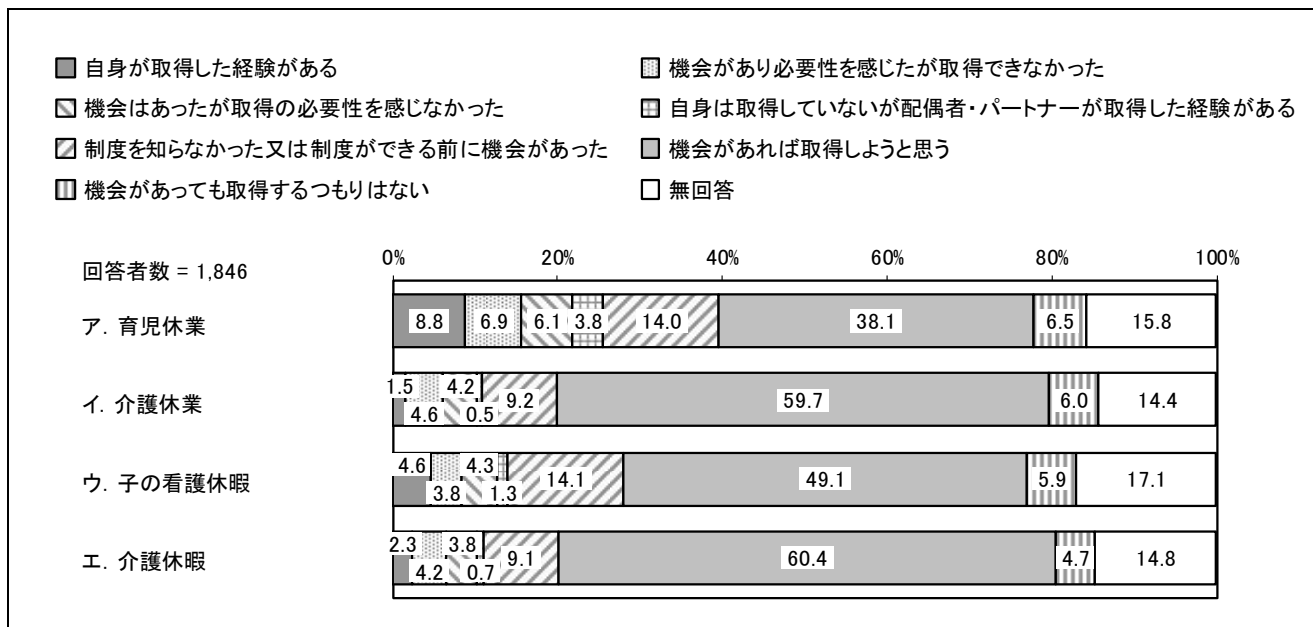
図表 2-3-44 男性の介護休暇取得に対する考え方（性・就労状況別）

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、『取得した方が良い（計）』の割合は男性公務員・教員（95.9%）、女性学生（100.0%）で最も高くなっている。

(6) 育児休業、介護休業等の取得状況

問 1 1. あなたは、育児休業、介護休業、子の看護休暇、介護休暇を取得したことがありますか。(ア～エのそれぞれについて、あてはまる「1～7」に○を1つ)

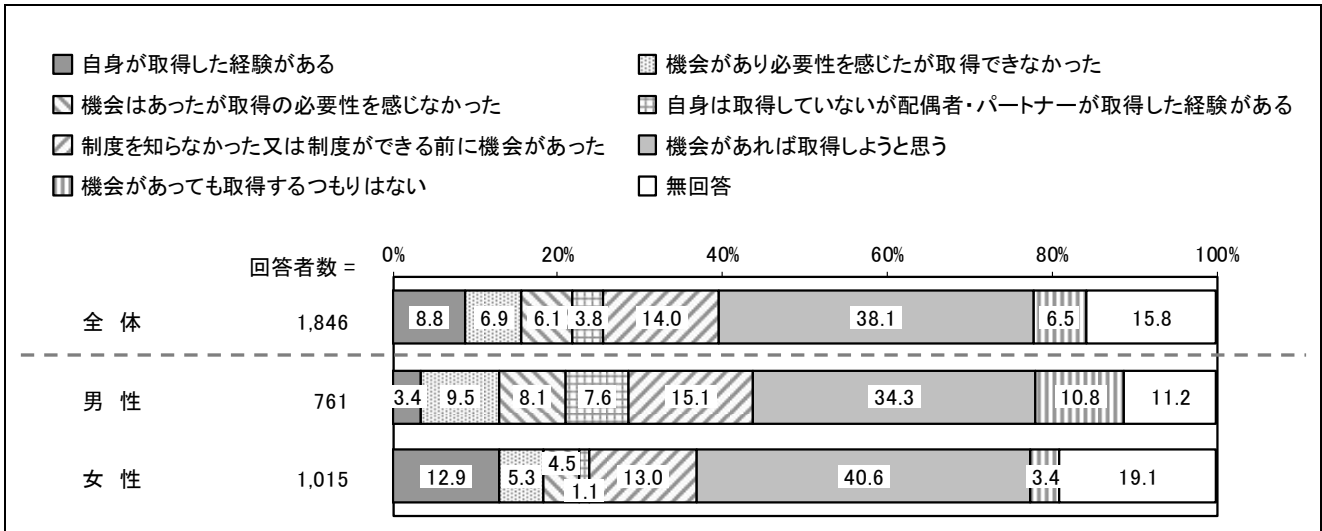


図表 2-3-45 育児休業、介護休業等の取得状況

○全体の傾向

育児休業・介護休業等の取得状況は、すべての項目で「機会があれば取得しようと思う」の割合が3～6割となっており、「機会があっても取得するつもりはない」の割合は1割を下回っている。「自身が取得した経験がある」の割合は育児休業（8.8%）が最も高く、次いで、子の看護休暇（4.6%）となっている。

ア. 育児休業

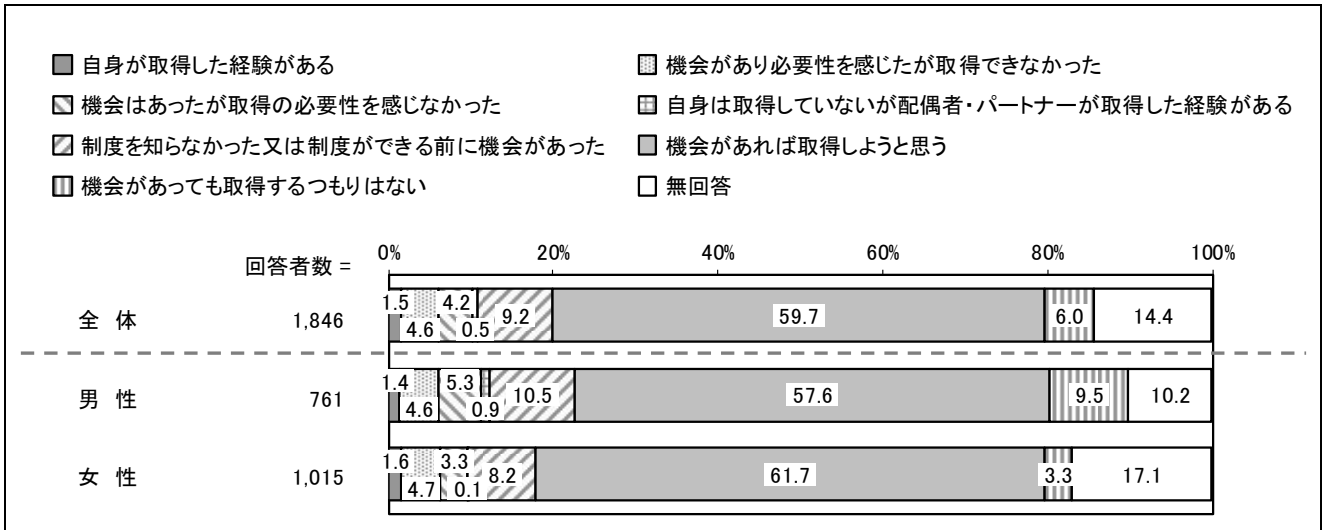


図表 2-3-46 育児休業の取得状況（性別）

○性別の傾向

性別でみると、男性（10.8%）は「機会があっても取得するつもりはない」の割合が高く、女性に比べ7.4ポイント高くなっている。

イ. 介護休業

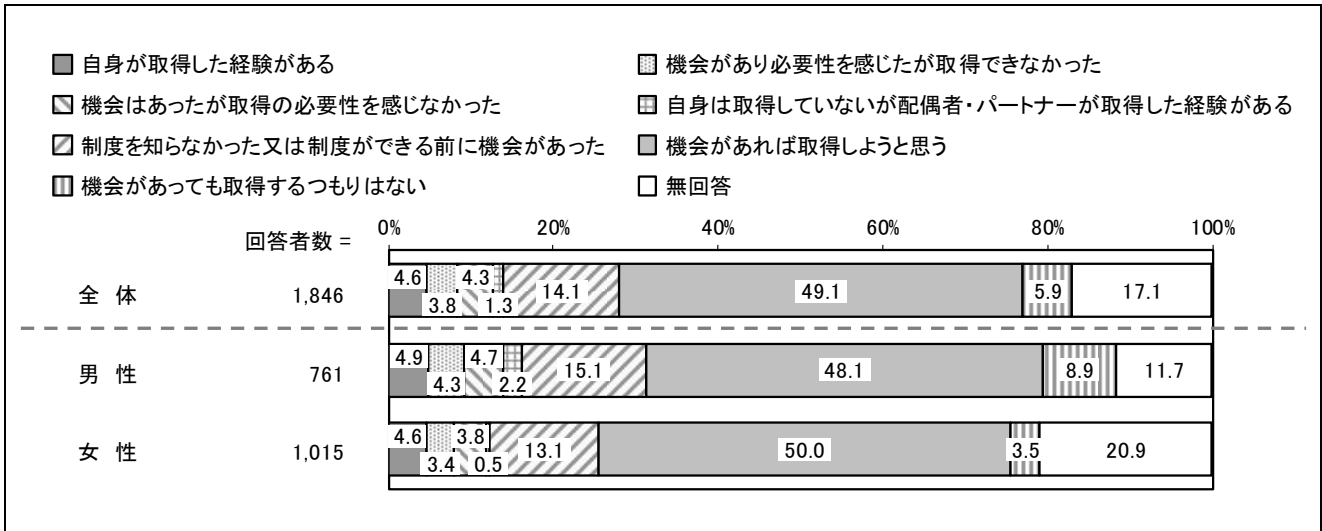


図表 2-3-47 介護休業の取得状況（性別）

○性別の傾向

性別でみると、男性（9.5%）は「機会があっても取得するつもりはない」の割合が高く、女性に比べ6.2ポイント高くなっている。

ウ. 子の看護休暇

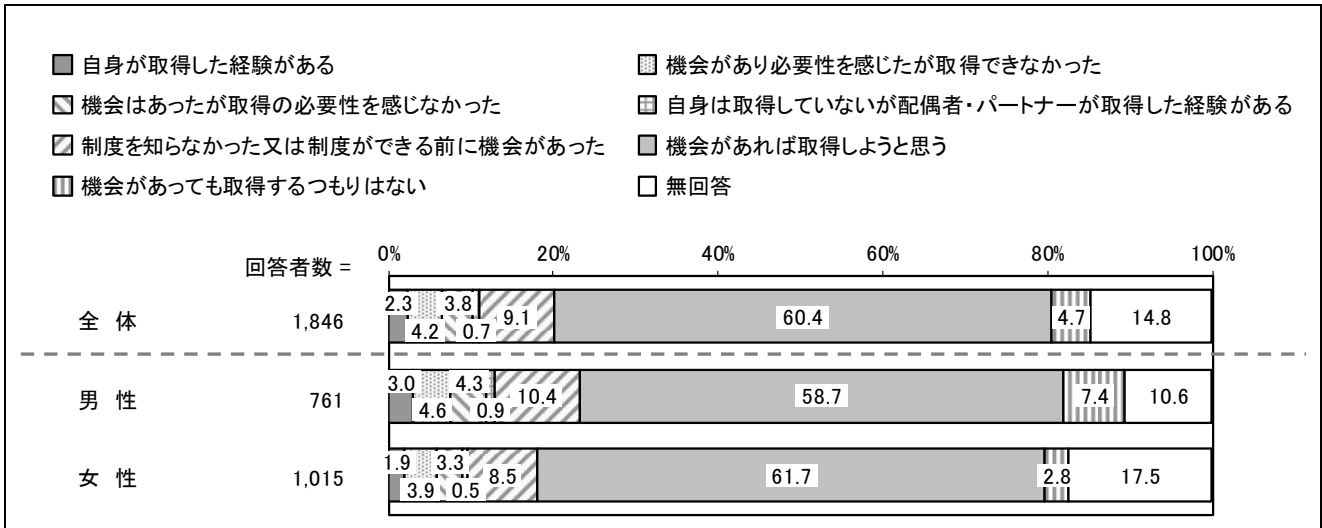


図表 2-3-48 子の看護休暇の取得状況（性別）

○性別の傾向

性別でみると、男性（8.9%）は「機会があっても取得するつもりはない」の割合が高く、女性に比べ5.4ポイント高くなっている。

エ. 介護休暇



図表 2-3-49 介護休暇の取得状況（性別）

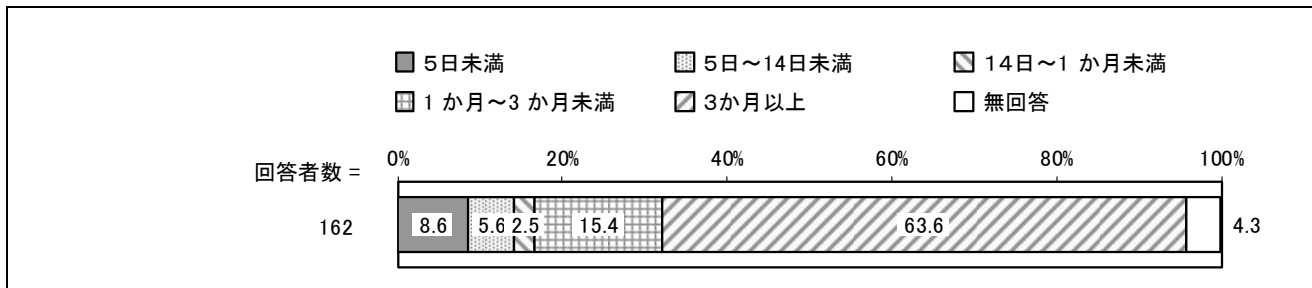
○性別の傾向

性別でみると、男性（7.4%）は「機会があっても取得するつもりはない」の割合が高く、女性に比べ4.6ポイント高くなっている。

※問11の「ア. 育児休業」、「イ. 介護休業」について「1. 自身が取得したことがある」とお答えした人に伺います。

問11-1 連続して取得した期間をお答えください。
(ア、イのそれぞれについて、あてはまる「1~5」に○を1つ)

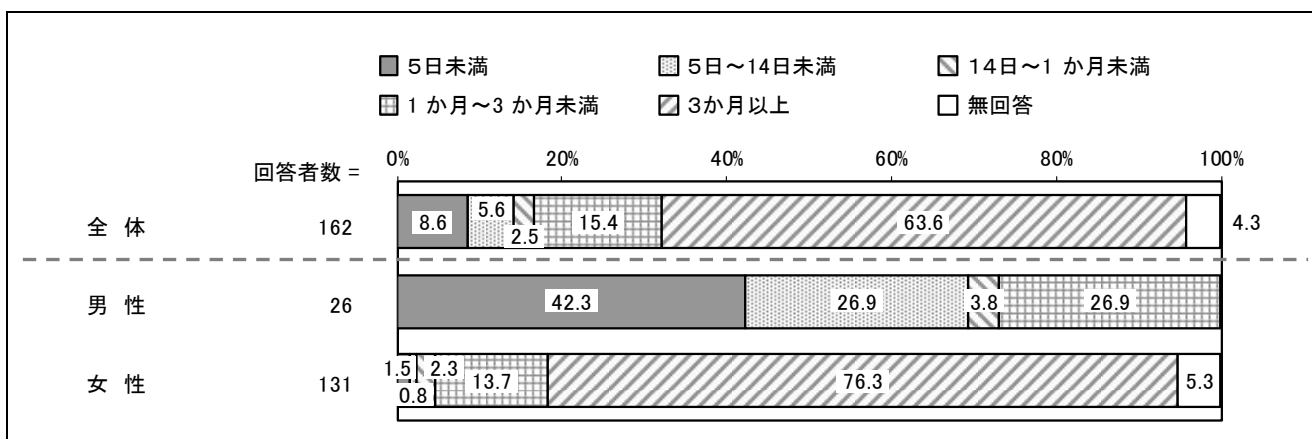
ア. 育児休業



図表 2-3-50 育児休業を連続して取得した期間

○全体の傾向

「3か月以上」の割合が63.6%と最も高く、次いで「1か月~3か月未満」(15.4%)となっている。

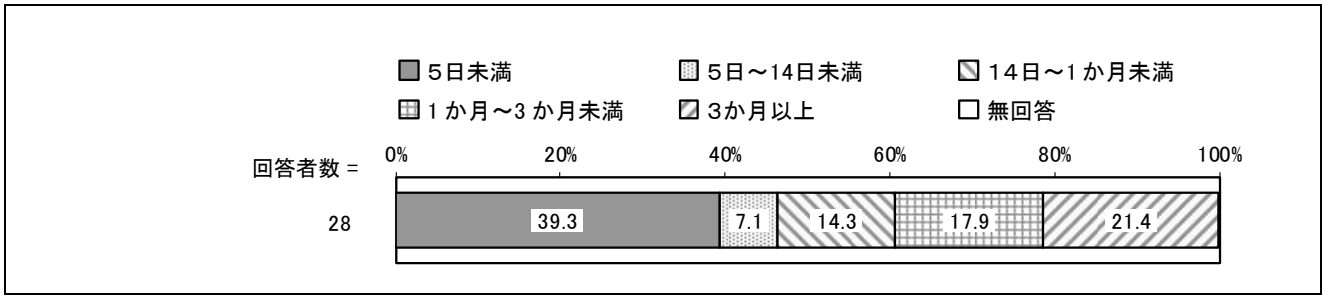


図表 2-3-51 育児休業を連続して取得した期間 (性別)

○性別の傾向

性別でみると、男性(42.3%)は「5日未満」の割合が4割を超えているが、女性(76.3%)は「3か月以上」の割合が高くなっている。

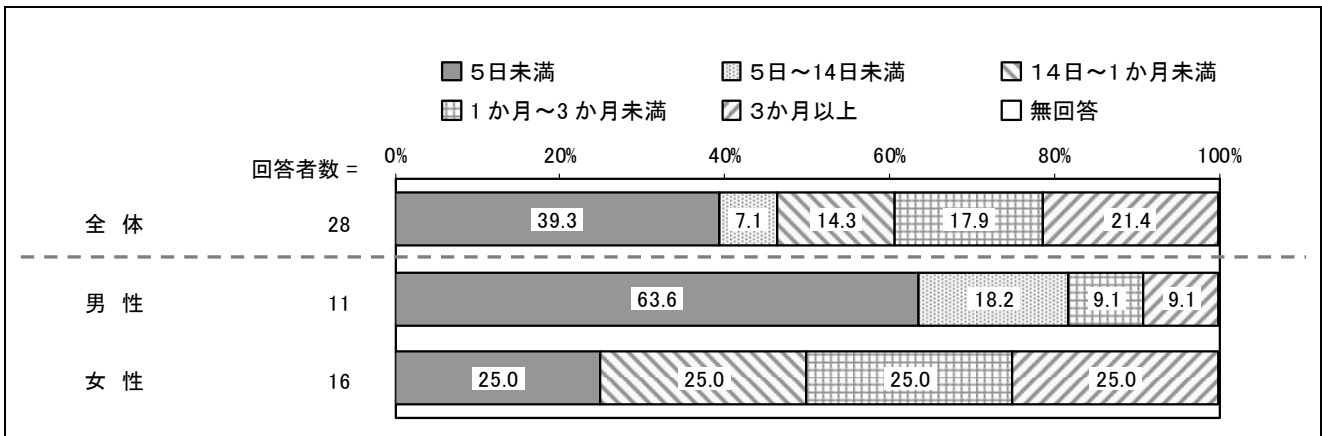
イ. 介護休業



図表 2-3-52 介護休業を連続して取得した期間

○全体の傾向

「5日未満」の割合が39.3%と最も高く、次いで「3か月以上」(21.4%)、「1か月~3か月未満」(17.9%)となっている。



図表 2-3-53 介護休業を連続して取得した期間 (性別)

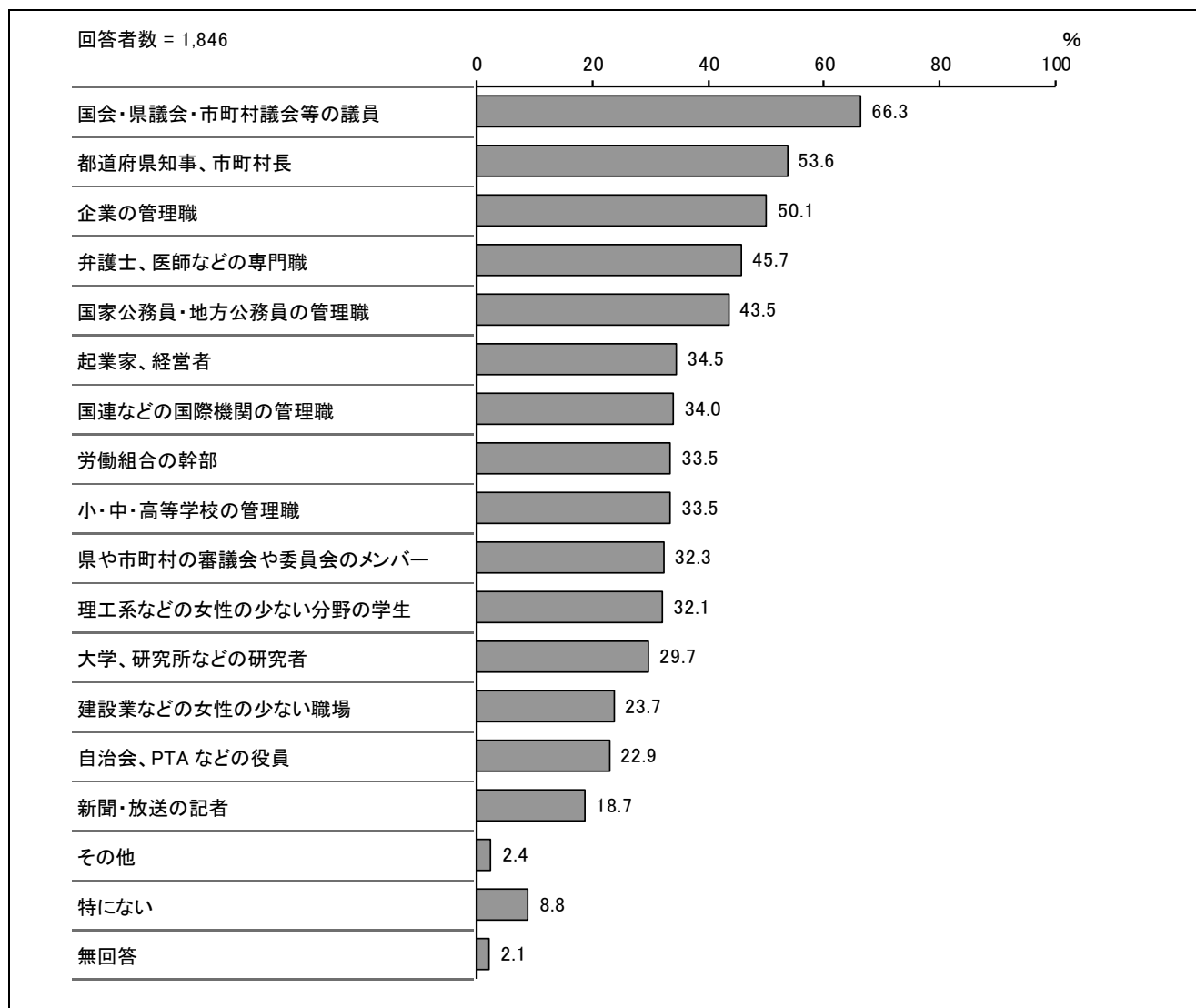
○性別の傾向

性別で見ると、男性(63.6%)は「5日未満」の割合が6割を超えているが、女性(25.0%)は38.6ポイント低くなっている。

4 社会参画について

(1) 今後増えてほしい女性の職業や役職

問12. あなたが、次にあげるような職業や役職において、今後女性がもっと増えるほうが良いと思うものはどれですか。(〇はいくつでも)



図表 2-4-1 今後増えてほしい女性の職業や役職

○全体の傾向

「国会・県議会・市町村議会等の議員」と回答した人の割合が66.3%と最も高く、次いで「都道府県知事、市町村長」(53.6%)、「企業の管理職」(50.1%)となっている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	国会・県議会・市町村 議会等の議員	都道府県知事、 市町村長	企業の管理職	弁護士、医師などの 専門職	国家公務員・地方 公務員の管理職	起業家、経営者	国連などの国際機関 の管理職	労働組合の幹部	小・中・高等学校の 管理職
全体	1,846	66.3	53.6	50.1	45.7	43.5	34.5	34.0	33.5	33.5
男性／合計	761	66.1	53.1	54.1	40.5	43.5	37.1	32.1	34.3	34.0
18～19歳	6	83.3	33.3	50.0	33.3	16.7	33.3	16.7	33.3	33.3
20～29歳	54	48.1	40.7	51.9	35.2	27.8	25.9	25.9	29.6	29.6
30～39歳	105	56.2	45.7	49.5	28.6	37.1	38.1	24.8	39.0	27.6
40～49歳	150	65.3	56.0	50.0	36.7	43.3	37.3	34.7	40.0	40.0
50～59歳	146	67.1	54.8	56.8	43.2	45.9	41.1	36.3	32.2	37.7
60～69歳	158	72.8	58.2	60.1	46.8	45.6	36.1	29.7	31.6	29.7
70歳以上	138	73.2	53.6	53.6	46.4	50.0	38.4	37.0	32.6	36.2
女性／合計	1,015	67.7	53.9	47.6	50.4	44.1	33.5	36.2	33.4	34.0
18～19歳	9	88.9	66.7	55.6	66.7	55.6	44.4	33.3	22.2	44.4
20～29歳	95	66.3	55.8	52.6	40.0	47.4	32.6	32.6	37.9	36.8
30～39歳	155	72.3	63.9	55.5	52.9	51.6	43.2	43.2	39.4	44.5
40～49歳	214	63.6	54.2	45.8	48.1	43.9	34.6	30.8	36.9	37.4
50～59歳	204	67.6	52.5	51.0	54.4	48.0	34.3	35.3	40.7	31.4
60～69歳	162	73.5	54.3	52.5	53.1	45.1	32.7	38.3	29.0	30.2
70歳以上	172	64.0	45.3	30.8	49.4	30.8	23.3	37.8	16.9	25.6

区分	県や市町村の審議会 や委員会のメンバー	理工系などの女性の 少ない分野の学生	大学、研究所などの 研究者	建設業などの女性の 少ない職場	自治会、PTAなどの 役員	新聞・放送の記者	その他	特にな い	無回 答
全体	32.3	32.1	29.7	23.7	22.9	18.7	2.4	8.8	2.1
男性／合計	35.0	37.1	30.9	31.3	28.3	20.9	2.5	8.5	1.6
18～19歳	50.0	33.3	33.3	16.7	33.3	16.7	—	16.7	—
20～29歳	22.2	35.2	33.3	29.6	11.1	14.8	5.6	9.3	—
30～39歳	22.9	33.3	22.9	30.5	20.0	16.2	3.8	14.3	1.0
40～49歳	34.0	40.0	34.0	32.7	26.0	21.3	2.0	10.7	1.3
50～59歳	37.7	43.2	32.9	40.4	28.8	22.6	2.7	6.2	1.4
60～69歳	37.3	34.2	29.1	26.6	29.7	19.6	1.3	6.3	2.5
70歳以上	44.2	34.8	31.9	28.3	39.9	26.1	2.2	6.5	2.2
女性／合計	30.9	29.3	29.2	18.4	19.5	17.7	2.3	8.9	2.0
18～19歳	44.4	22.2	44.4	22.2	22.2	22.2	—	—	—
20～29歳	27.4	23.2	23.2	10.5	11.6	15.8	2.1	10.5	—
30～39歳	34.2	32.9	31.0	24.5	23.9	20.6	2.6	5.2	0.6
40～49歳	26.6	32.2	27.1	21.0	20.6	17.3	3.3	11.2	2.3
50～59歳	30.9	29.9	28.4	19.1	18.1	18.1	2.0	9.3	1.0
60～69歳	38.9	29.6	34.0	17.3	19.8	16.7	1.9	6.8	0.6
70歳以上	27.3	25.6	29.7	14.5	19.8	17.4	1.2	9.9	6.4

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

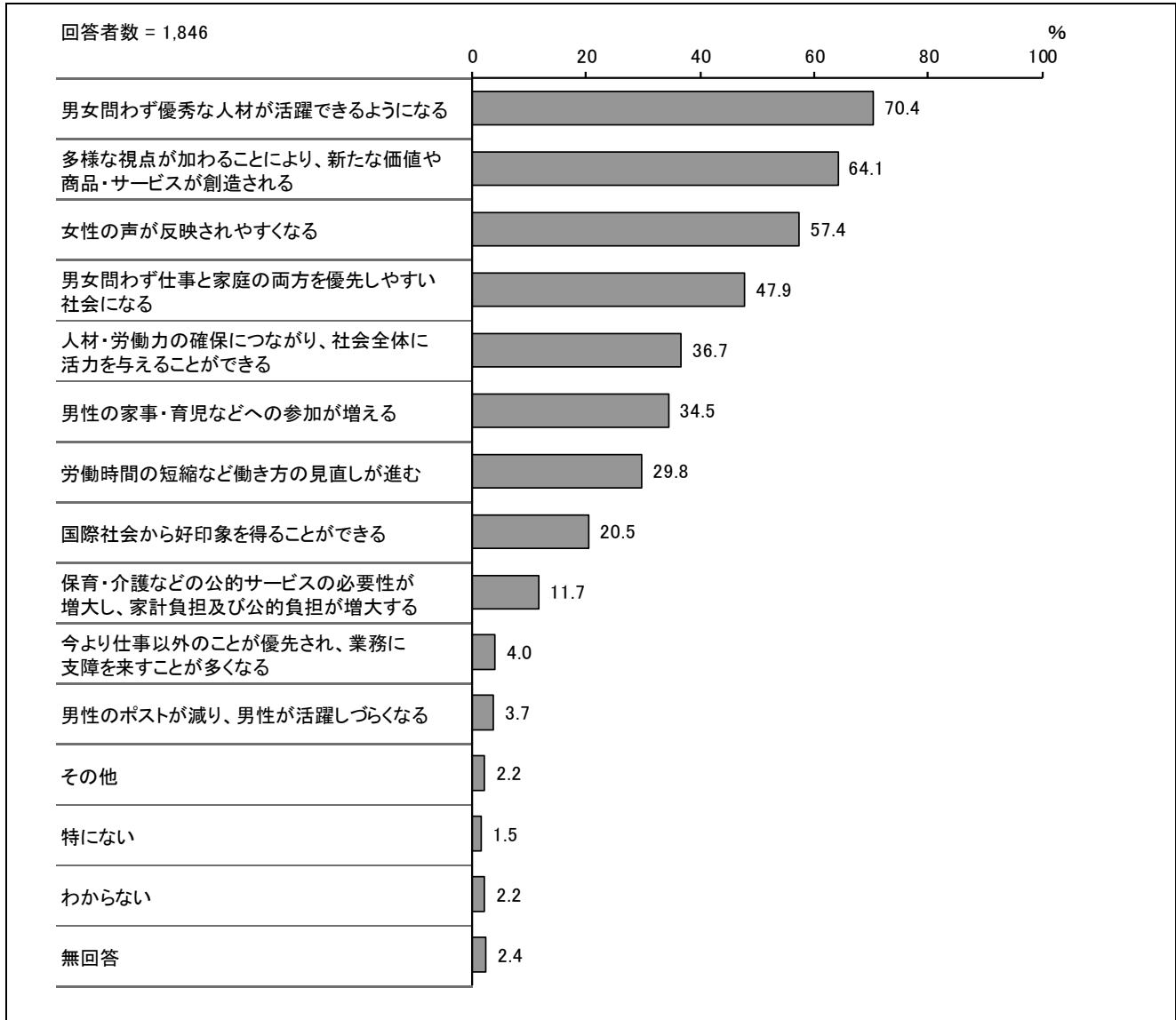
図表 2-4-2 今後増えてほしい女性の職業や役職（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、男性20～29歳を除くすべての性・年代で「国会・県議会・市町村議会等の議員」と回答した人の割合が高くなっている。

(2) 女性リーダーの増加による影響

問13. あなたは、政治・経済・地域など各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(〇はいくつでも)



図表 2-4-3 女性リーダーの増加による影響

○全体の傾向

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」と回答した人の割合が70.4%と最も高く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(64.1%)、「女性の声が反映されやすくなる」(57.4%)となっている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	多様な視点が加わることで、新たな価値や商品・サービスが創造される	女性の声が反映されやすくなる	男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	男性の家事・育児などへの参加が増える	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
全 体	1,846	70.4	64.1	57.4	47.9	36.7	34.5	29.8
男性／合計	761	69.4	66.5	54.9	43.1	41.3	32.9	28.0
18～19 歳	6	66.7	100.0	66.7	50.0	33.3	33.3	16.7
20～29 歳	54	51.9	55.6	66.7	40.7	33.3	42.6	25.9
30～39 歳	105	66.7	65.7	43.8	50.5	35.2	28.6	26.7
40～49 歳	150	70.7	64.7	58.0	44.0	38.7	32.7	29.3
50～59 歳	146	71.2	68.5	48.6	46.6	48.6	35.6	26.0
60～69 歳	158	74.1	68.4	57.6	38.6	44.3	32.9	31.6
70 歳以上	138	69.6	68.1	58.7	39.1	42.0	28.3	27.5
女性／合計	1,015	72.6	63.4	59.7	52.5	34.1	36.6	31.6
18～19 歳	9	66.7	77.8	55.6	33.3	44.4	55.6	44.4
20～29 歳	95	74.7	62.1	70.5	60.0	22.1	42.1	36.8
30～39 歳	155	74.8	71.6	59.4	61.3	30.3	38.7	36.8
40～49 歳	214	68.7	63.6	59.8	52.3	32.2	31.8	31.3
50～59 歳	204	76.0	66.2	58.3	51.0	36.8	38.7	27.0
60～69 歳	162	75.9	69.8	59.3	46.3	37.7	35.2	27.8
70 歳以上	172	68.0	47.1	56.4	50.0	38.4	35.5	33.1

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性 18～19 歳、女性 18～19 歳は参考扱いとする。

(次ページへ続く)

図表 2-4-4 女性リーダーの増加による影響 (性・年齢別) (その 1)

区分	国際社会から好印象を得ることができる	保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する	今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	その他	特にない	わからない	無回答
全 体	20.5	11.7	4.0	3.7	2.2	1.5	2.2	2.4
男性／合計	23.8	12.2	5.3	5.7	3.4	1.7	1.8	2.4
18～19 歳	33.3	16.7	33.3	33.3	—	—	—	—
20～29 歳	18.5	3.7	—	3.7	—	3.7	5.6	—
30～39 歳	22.9	14.3	9.5	7.6	4.8	1.9	1.0	2.9
40～49 歳	24.7	11.3	4.7	6.0	8.0	2.0	2.0	0.7
50～59 歳	25.3	11.6	5.5	7.5	3.4	2.1	2.1	1.4
60～69 歳	25.9	15.2	4.4	2.5	—	0.6	1.9	2.5
70 歳以上	21.7	12.3	4.3	5.1	2.9	1.4	0.7	5.8
女性／合計	18.8	11.3	3.1	2.5	1.4	1.1	2.3	1.8
18～19 歳	44.4	22.2	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	26.3	12.6	4.2	1.1	2.1	—	—	1.1
30～39 歳	19.4	11.0	3.9	2.6	2.6	1.9	0.6	1.9
40～49 歳	17.3	9.8	2.3	1.9	1.9	1.4	1.9	0.5
50～59 歳	21.1	10.3	3.9	1.5	0.5	0.5	3.9	1.5
60～69 歳	16.7	11.1	1.9	3.1	1.2	—	1.9	1.2
70 歳以上	14.0	13.4	2.9	4.7	—	2.3	3.5	4.7

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性 18～19 歳、女性 18～19 歳は参考扱いとする。

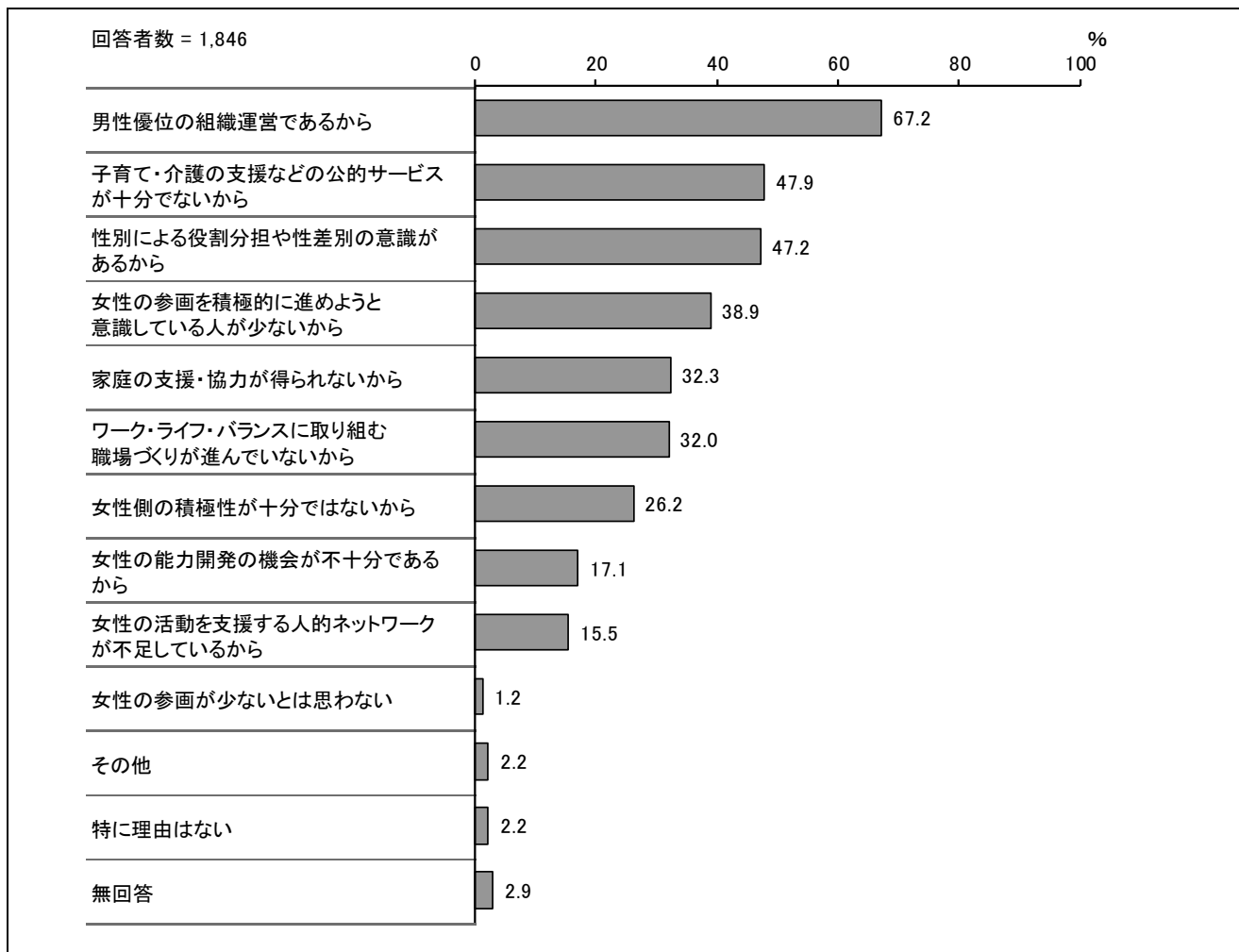
図表 2-4-4 女性リーダーの増加による影響（性・年齢別）（その 2）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」と回答した人の割合は女性 20～29 歳、30～39 歳が高く、6 割以上となっている。

(3) 女性の政策・方針決定の場への参画が少ない理由

問14. あなたは、政治や企業活動、地域活動など、あらゆる分野において、政策や方針の決定過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。(〇はいくつでも)



図表 2-4-5 女性の政策・方針決定の場への参画が少ない理由

○全体の傾向

「男性優位の組織運営であるから」と回答した人の割合が 67.2%と最も高く、次いで「子育て・介護の支援などの公的サービスが十分でないから」(47.9%)、「性別による役割分担や性差別の意識があるから」(47.2%)となっている。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性優位の組織運営であるから	子育て・介護の支援などの公的サービスが十分でないから	性別による役割分担や性差別の意識があるから	女性の参画を積極的に進めようという意識している人が少ないから	家庭の支援・協力が得られないから	職場づくりが進んでいないから	ワークライフ・バランスに取り組み	女性側の積極性が十分ではないから	女性の能力開発の機会が不十分であるから	女性の活動を支援する人的ネットワークが不足しているから	女性の参画が少ないとは思わない	その他	特に理由はない	無回答
全体	1,846	67.2	47.9	47.2	38.9	32.3	32.0	26.2	17.1	15.5	1.2	2.2	2.2	2.9	
男性／合計	761	64.9	48.5	45.2	40.5	26.3	31.7	29.6	15.5	14.7	1.7	3.4	1.8	2.4	
18～19歳	6	50.0	83.3	33.3	66.7	16.7	33.3	66.7	16.7	16.7	—	—	—	—	
20～29歳	54	50.0	48.1	51.9	27.8	25.9	33.3	20.4	7.4	20.4	1.9	5.6	3.7	—	
30～39歳	105	48.6	41.0	41.9	38.1	16.2	36.2	24.8	13.3	12.4	1.9	7.6	1.0	2.9	
40～49歳	150	67.3	41.3	43.3	33.3	28.7	32.7	25.3	11.3	14.0	2.7	4.7	2.0	—	
50～59歳	146	72.6	45.9	45.9	43.8	27.4	30.8	34.2	13.7	11.0	2.7	1.4	2.1	2.1	
60～69歳	158	70.3	50.0	44.9	46.8	27.8	32.9	34.2	20.3	15.8	0.6	1.3	2.5	2.5	
70歳以上	138	67.4	60.1	47.8	43.5	27.5	25.4	29.7	21.7	18.1	0.7	2.9	0.7	5.8	
女性／合計	1,015	70.6	48.3	50.1	38.3	37.0	32.1	23.7	18.6	16.6	0.8	1.4	2.0	2.6	
18～19歳	9	88.9	44.4	88.9	44.4	33.3	33.3	11.1	11.1	33.3	—	—	—	—	
20～29歳	95	70.5	53.7	52.6	30.5	31.6	38.9	17.9	15.8	26.3	—	1.1	—	2.1	
30～39歳	155	70.3	55.5	53.5	39.4	47.1	42.6	21.9	12.3	14.2	0.6	1.9	—	3.2	
40～49歳	214	68.2	43.5	49.5	36.4	43.5	34.6	19.6	13.1	15.4	1.9	2.3	1.9	0.5	
50～59歳	204	72.5	43.1	52.9	38.7	32.4	33.3	23.5	17.6	13.2	—	1.5	2.0	2.5	
60～69歳	162	72.2	52.5	54.9	45.1	34.0	25.3	28.4	24.1	17.3	0.6	—	3.1	1.2	
70歳以上	172	69.8	47.1	36.6	37.8	31.4	20.3	29.7	29.7	17.4	1.2	0.6	3.5	6.4	

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

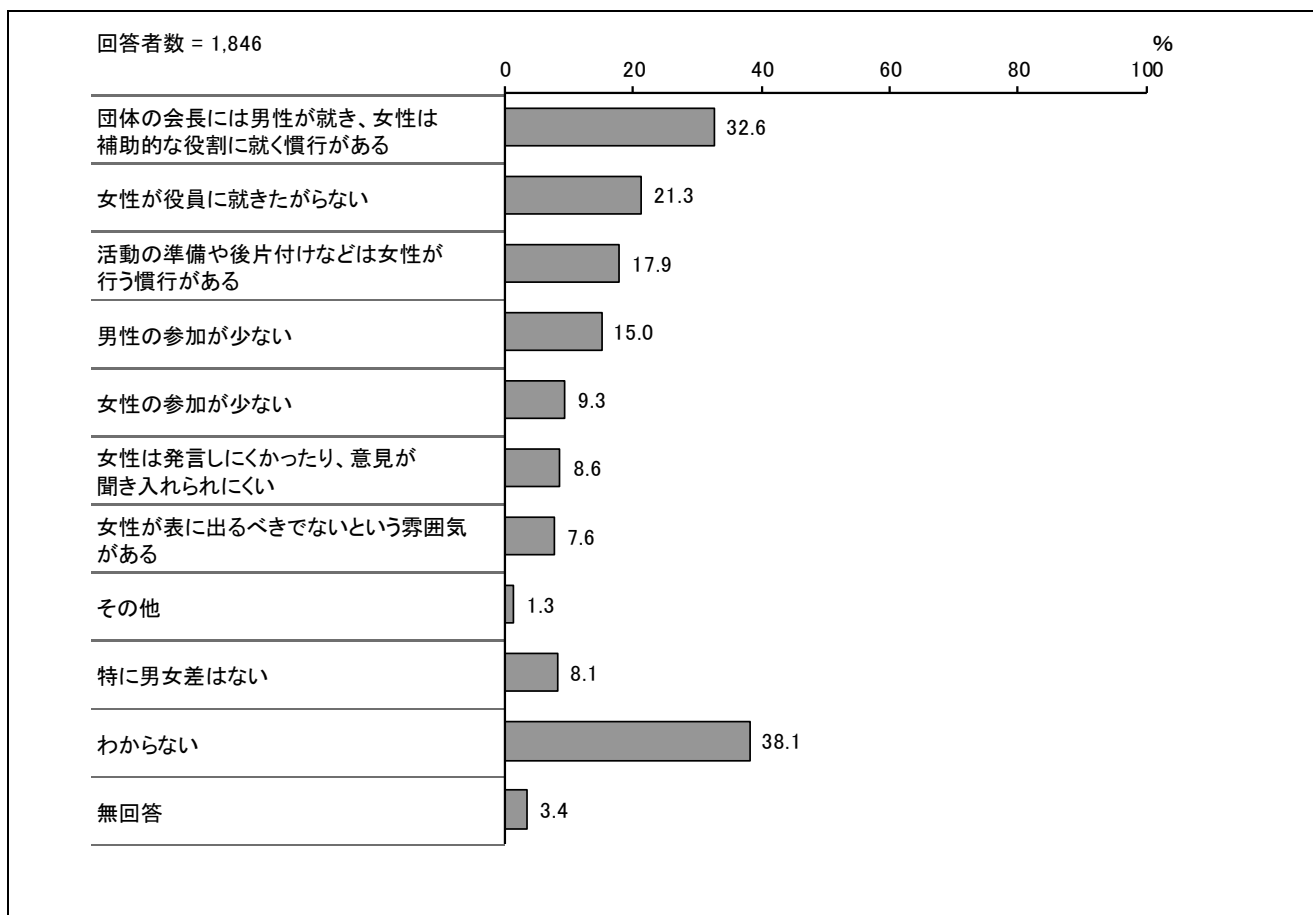
図表 2-4-6 女性の政策・方針決定の場への参画が少ない理由（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「男性優位の組織運営であるから」と回答した人の割合はすべての女性の年代で高くなっている。また、男性は20～29歳で「性別による役割分担や性差別の意識があるから」の割合が他の年代と比べやや高くなっている。

(4) 地域活動において起こること

問15. あなたがお住まいの地域の活動（自治会・子ども会・ボランティア・自主防災活動など）では、次のことがありますか。（〇はいくつでも）



図表 2-4-7 地域活動において起こること

○全体の傾向

「団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役割に就く慣行がある」と回答した人の割合が32.6%と最も高く、次いで「女性が役員に就きたがらない」(21.3%)、「活動の準備や後片付けなどは女性行う慣行がある」(17.9%)となっている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	団体の会長には男性が就き、 女性 は補助的な役割に就く慣行がある	女性が役員に就きたがらない	活動の準備や後片付けなどは 女性が行う慣行がある	男性の参加が少ない	女性の参加が少ない	意見が聞き入れられにくい 女性が発言しにくかったり、	女性が表に出るべきでないという 雰囲気がある	その他	特に男女差はない	わからない	無回答
全 体	1,846	32.6	21.3	17.9	15.0	9.3	8.6	7.6	1.3	8.1	38.1	3.4
男性／合計	761	28.8	22.1	13.9	13.9	11.8	6.7	5.9	1.3	10.1	38.8	3.3
18～19 歳	6	16.7	—	—	16.7	—	—	—	—	16.7	66.7	—
20～29 歳	54	3.7	—	7.4	3.7	5.6	1.9	1.9	1.9	9.3	70.4	—
30～39 歳	105	8.6	7.6	1.9	4.8	4.8	2.9	2.9	—	4.8	74.3	2.9
40～49 歳	150	27.3	18.7	9.3	15.3	7.3	4.7	2.0	2.7	10.7	44.0	0.7
50～59 歳	146	30.8	18.5	14.4	13.7	11.6	4.8	7.5	—	13.0	35.6	4.1
60～69 歳	158	36.7	34.8	14.6	15.2	16.5	10.1	7.6	1.9	10.1	24.1	2.5
70 歳以上	138	44.2	35.5	29.7	22.5	19.6	12.3	10.9	1.4	10.1	13.8	8.0
女性／合計	1,015	35.9	20.7	21.4	15.8	7.4	10.0	8.7	1.4	6.8	37.4	3.0
18～19 歳	9	44.4	33.3	11.1	—	22.2	11.1	11.1	—	—	44.4	—
20～29 歳	95	7.4	4.2	9.5	4.2	2.1	5.3	3.2	—	2.1	82.1	2.1
30～39 歳	155	16.8	11.6	14.8	9.7	1.9	4.5	5.8	—	5.2	66.5	1.9
40～49 歳	214	26.6	17.8	16.4	15.4	5.1	9.8	7.0	3.3	13.6	39.7	1.9
50～59 歳	204	40.7	22.5	18.6	24.5	6.4	10.8	8.8	1.5	4.4	29.9	2.5
60～69 歳	162	53.7	28.4	30.2	16.0	8.6	10.5	12.3	1.2	7.4	18.5	1.9
70 歳以上	172	58.1	32.0	36.0	16.9	17.4	16.9	12.8	1.2	5.2	11.0	7.0

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

図表 2-4-8 地域活動において起こること（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、「わからない」を除いて男女ともに「団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役割に就く慣行がある」と回答した人の割合が最も高く、年齢が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。

単位：%

区分	回答者数 (件)	団体の会長には男性が就き、女性 は補助的な役割に就く慣行がある	女性が役員に就きたがらない	活動の準備や後片付けなどは 女性が行う慣行がある	男性の参加が少ない	女性の参加が少ない	女性は発言しにくかったり、 意見が聞き入れられにくい	女性が表に出るべきでないという雰囲気 がある	その他	特に男女差はない	わからない	無回答
全 体	1,846	32.6	21.3	17.9	15.0	9.3	8.6	7.6	1.3	8.1	38.1	3.4
主に自分	566	42.8	27.4	22.8	21.0	13.1	10.1	9.9	1.8	11.7	18.9	3.5
自分と配偶者(パートナー) が同じくらい	312	43.6	29.8	22.1	16.0	11.9	9.9	10.3	2.2	10.3	19.9	3.2
主に配偶者(パートナー)	281	39.5	27.4	23.1	21.7	7.1	10.3	8.5	—	8.5	28.1	2.1
主に配偶者(パートナー) 以外の家族	82	20.7	12.2	15.9	4.9	9.8	2.4	8.5	—	8.5	59.8	—
家族以外の人に依頼	11	54.5	27.3	27.3	18.2	27.3	18.2	18.2	—	—	27.3	—
あてはまらない	550	14.2	8.5	7.5	6.4	4.5	6.2	3.5	1.3	3.5	70.5	3.1

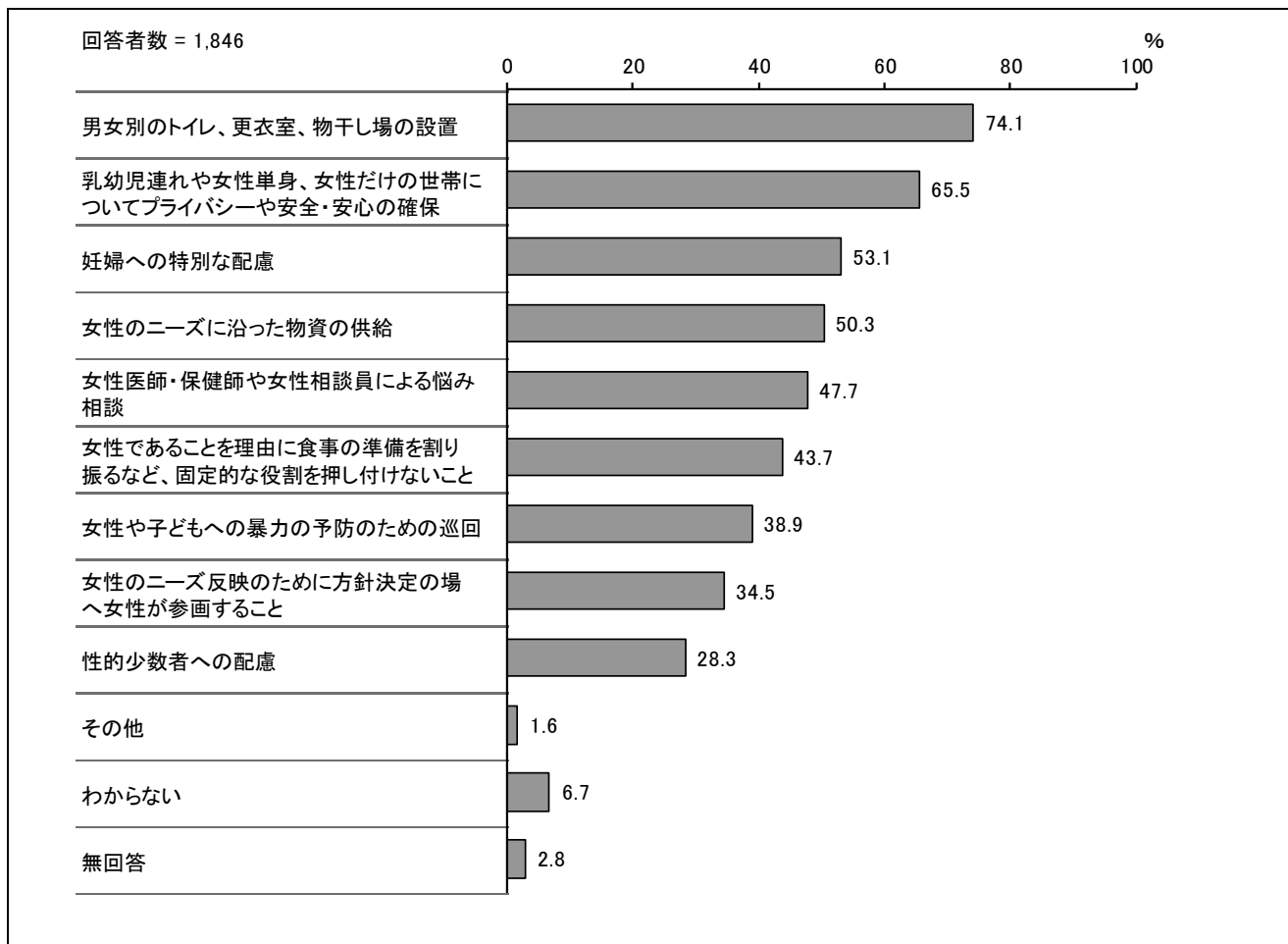
図表 2-4-9 地域活動において起こること（夫婦間での地域活動の分担別）

○夫婦間での地域活動の分担別の傾向

夫婦間での地域活動の分担別でみると、「団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役割に就く慣行がある」と回答した人の割合は家族以外の人に依頼する人で高く、5割半ばとなっている。

(5) 地域の防災（災害時の避難所運営）について必要なこと

問16. 地域の防災についておたずねします。災害時の避難所運営について、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）



図表 2-4-10 地域の防災（災害時の避難所運営）について必要なこと

○全体の傾向

「男女別のトイレ、更衣室、物干し場の設置」と回答した人の割合が74.1%と最も高く、次いで「乳幼児連れや女性単身、女性だけの世帯についてプライバシーや安全・安心の確保」(65.5%)、「妊婦への特別な配慮」(53.1%)となっている。

単位：%

区分	回答者数(件)	男女別のトイレ、更衣室、物干し場の設置	乳幼児連れや女性単身、女性だけの世帯についてプライバシーや安全・安心の確保	妊婦への特別な配慮	女性のニーズに沿った物資の供給	女性医師・保健師や女性相談員による悩み相談	女性であることを理由に食事の準備を割り振るなど、固定的な役割を押し付けられないこと	女性や子どもへの暴力の予防のための巡回	女性のニーズ反映のために方針決定の場へ女性が参画すること	性的少数者への配慮	その他	わからない	無回答
全体	1,846	74.1	65.5	53.1	50.3	47.7	43.7	38.9	34.5	28.3	1.6	6.7	2.8
男性／合計	761	70.7	59.9	53.5	46.0	43.4	42.0	34.7	36.1	24.6	1.6	8.9	2.8
18～19歳	6	50.0	50.0	50.0	83.3	33.3	66.7	50.0	66.7	16.7	—	16.7	—
20～29歳	54	66.7	53.7	59.3	44.4	38.9	42.6	29.6	25.9	25.9	—	13.0	—
30～39歳	105	61.9	59.0	59.0	47.6	39.0	36.2	38.1	30.5	26.7	1.0	15.2	2.9
40～49歳	150	75.3	63.3	60.7	54.0	44.7	44.7	41.3	36.0	23.3	2.7	9.3	—
50～59歳	146	71.9	54.8	51.4	43.8	47.3	43.2	38.4	32.9	28.1	0.7	10.3	2.1
60～69歳	158	71.5	66.5	49.4	42.4	42.4	39.9	34.8	40.5	24.1	1.3	5.7	3.2
70歳以上	138	72.5	58.7	46.4	41.3	43.5	44.2	23.2	42.0	21.7	2.9	4.3	7.2
女性／合計	1,015	77.5	70.9	54.0	54.2	51.5	45.8	42.7	34.1	31.8	1.7	4.4	2.3
18～19歳	9	100.0	77.8	77.8	77.8	55.6	55.6	55.6	33.3	44.4	11.1	—	—
20～29歳	95	71.6	69.5	64.2	63.2	50.5	47.4	47.4	35.8	36.8	1.1	10.5	2.1
30～39歳	155	77.4	86.5	68.4	59.4	51.0	51.6	57.4	32.9	43.2	3.2	3.9	1.9
40～49歳	214	76.2	68.7	50.5	57.0	52.3	48.1	44.9	32.2	32.7	0.9	5.1	1.4
50～59歳	204	79.9	70.6	54.4	54.4	57.8	42.6	41.7	32.4	30.4	2.0	2.5	2.0
60～69歳	162	81.5	68.5	50.0	48.1	44.4	38.9	37.0	35.8	26.5	0.6	4.9	1.2
70歳以上	172	75.0	62.8	41.3	45.3	50.6	46.5	29.1	37.2	23.3	0.6	2.9	5.2

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

図表 2-4-11 地域の防災（災害時の避難所運営）について必要なこと（性・年齢別）

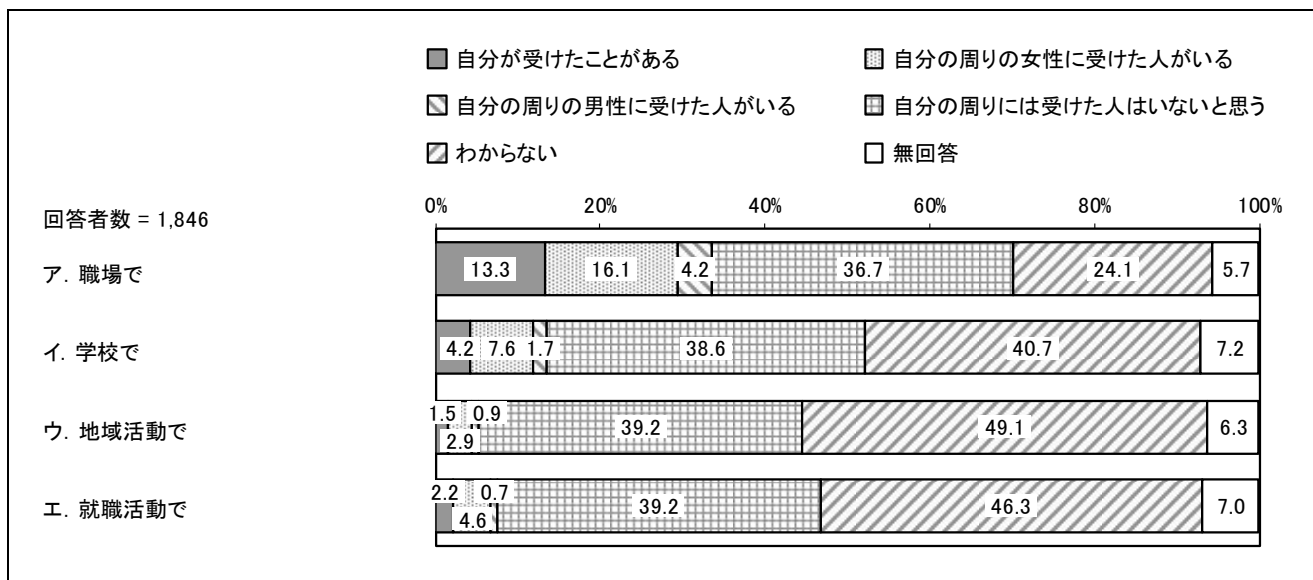
○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「乳幼児連れや女性単身、女性だけの世帯についてプライバシーや安全・安心の確保」と回答した人の割合は女性30～39歳が最も高く、8割を超えている。

5 ハラスメントについて

(1) セクシュアル・ハラスメントの経験

問17. あなたは身近なところ（職場・学校・地域活動・就職活動など）でセクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きしたことはありますか。
（ア～エのそれぞれについて、あてはまる「1～5」に○を1つ）

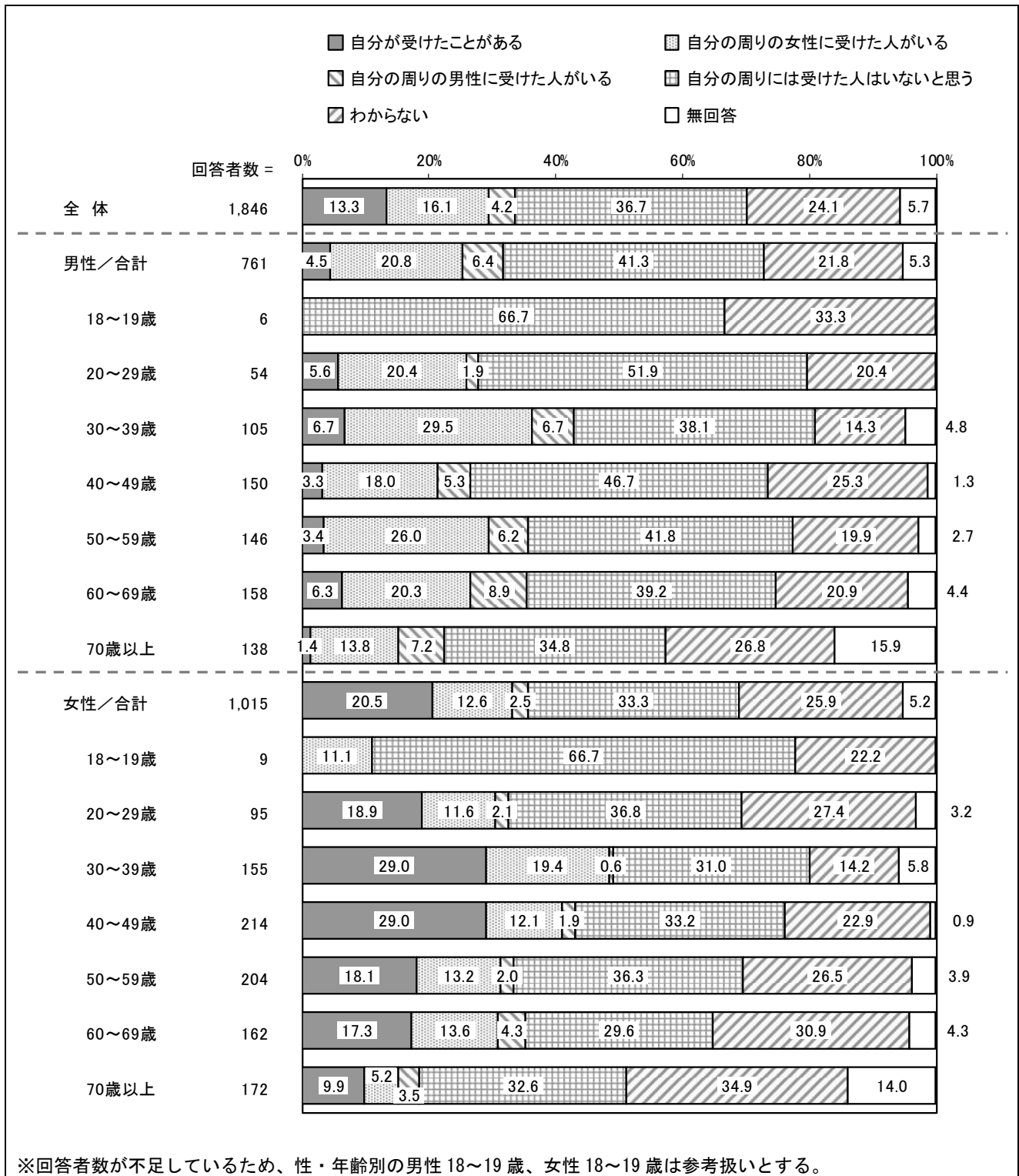


図表 2-5-1 セクシュアル・ハラスメントの経験

○全体の傾向

「自分が受けたことがある」人の割合は、『職場』で13.3%と高くなっている。また、「自分が受けたことがある」「自分の周りの女性に受けた人がいる」「自分の周りの男性に受けた人がいる」をあわせた“セクシュアル・ハラスメントの経験がある”の割合は、『職場』では33.6%、『学校』で13.5%にのぼっている。

ア. 職場で



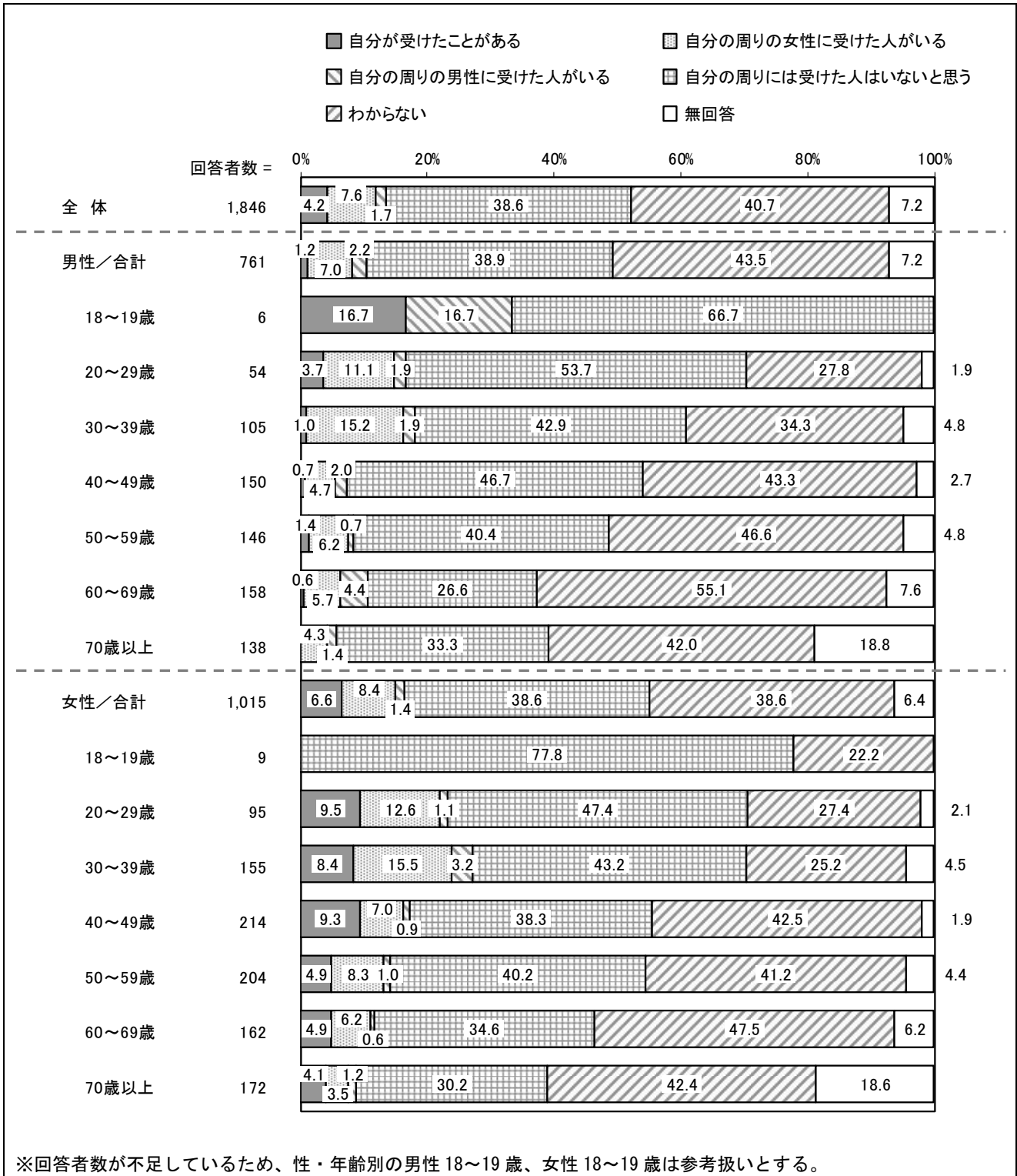
※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性 18～19 歳、女性 18～19 歳は参考扱いとする。

図表 2-5-2 「職場」におけるハラスメントの経験（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、「自分が受けたことがある」の割合は女性 30～39 歳、40～49 歳が最も高く、約 3 割となっている。一方、男性はすべての年代で女性より割合が低くなっている。

イ. 学校で

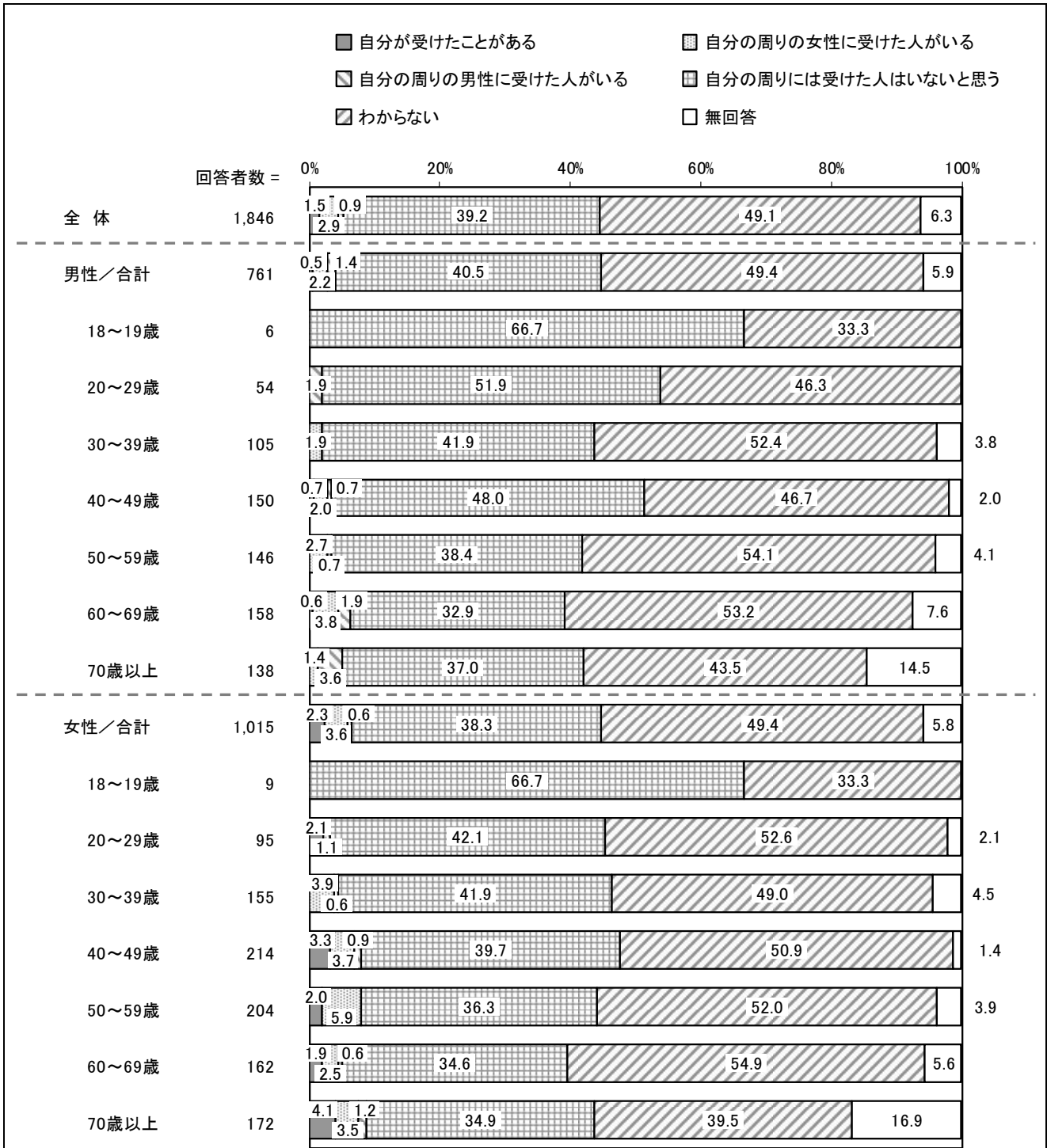


図表 2-5-3 「学校」におけるハラスメントの経験（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「自分が受けたことがある」の割合は女性20～29歳と30～39歳と40～49歳が高い傾向がみられ、約1割となっている。

ウ. 地域活動で



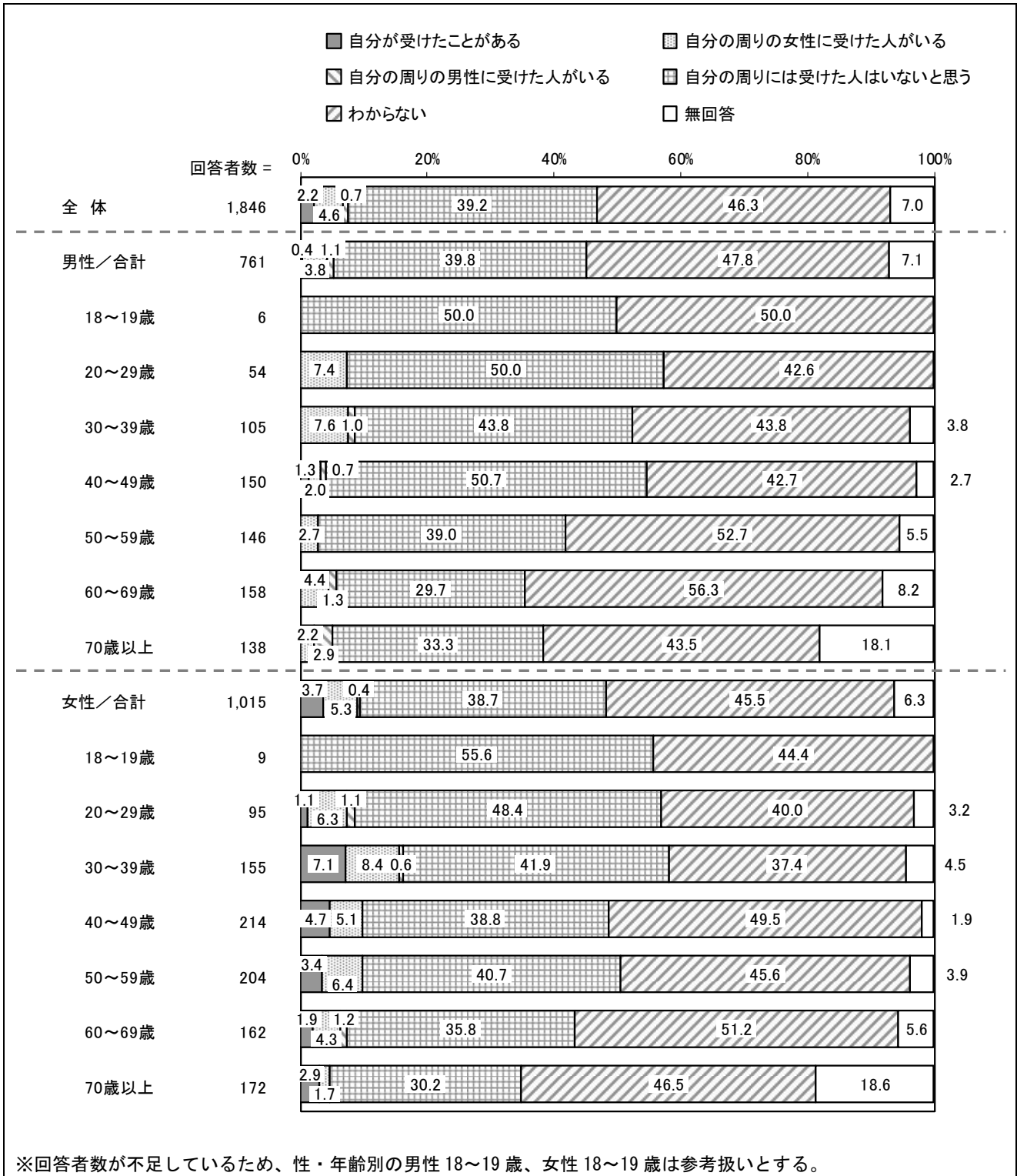
※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

図表 2-5-4 「地域活動」におけるハラスメントの経験（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「自分の周りに受けた人はいないと思う」の割合は男性20～29歳、40～49歳が最も高く約5割となっている。

エ. 就職活動で



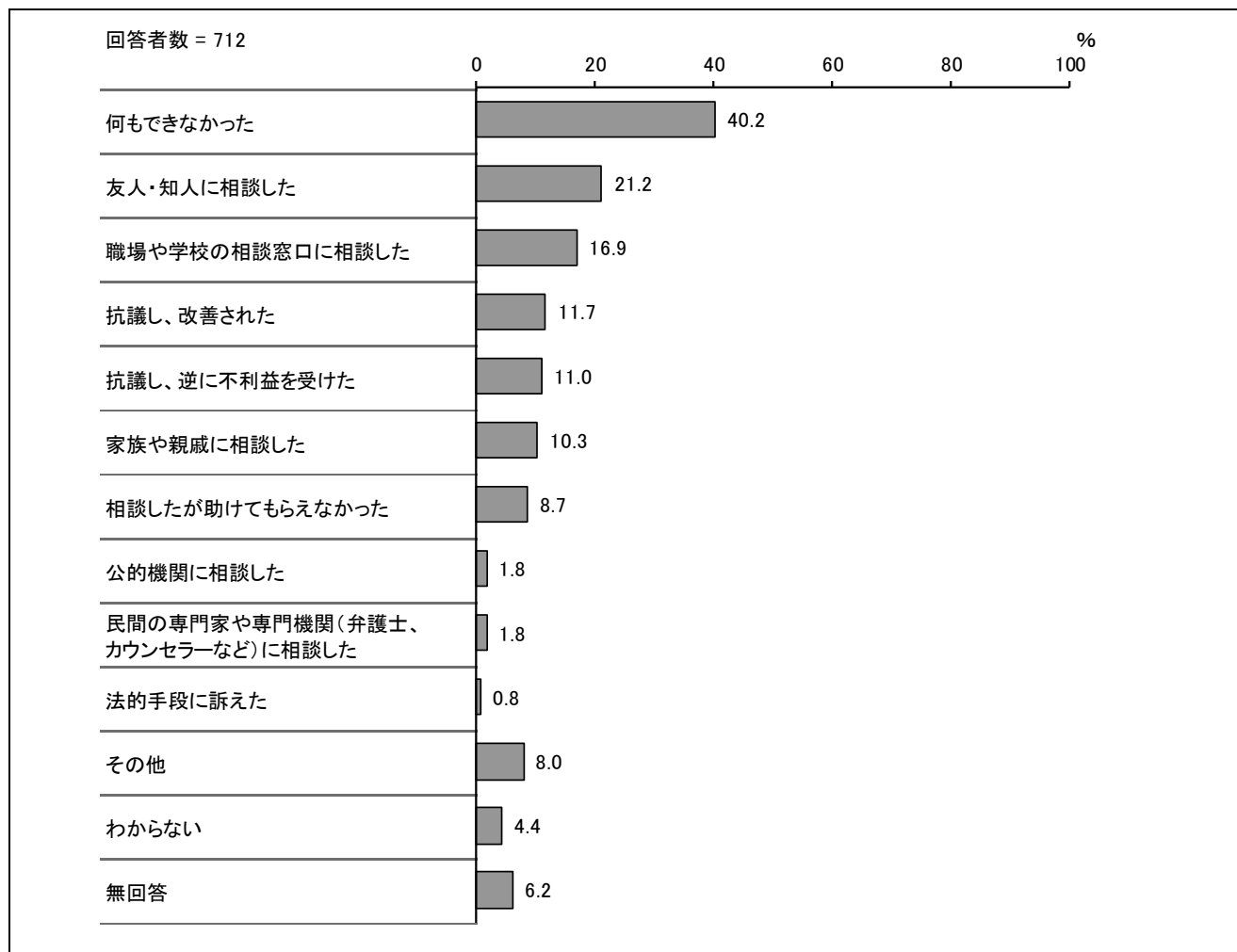
図表 2-5-5 「就職活動」におけるハラスメントの経験（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「自分が受けたことがある」の割合は女性30～39歳（7.1%）で最も高くなっている。一方、男性20～29歳（50.0%）と40～49歳（50.7%）で「自分の周りに受けた人はいないと思う」の割合が高く約5割となっている。

※問17でひとつでも「自分が受けたことがある」「自分の周りの女性に受けた人がいる」「自分の周りの男性に受けた人がいる」と回答した方におうかがいします。

問17-1. セクシュアル・ハラスメントを受けた時、あなたはどうしましたか。
(見聞きした場合は当事者がどうされたかをお答えください。)(○はいくつでも)



図表 2-5-6 セクシュアル・ハラスメントを受けた時の対応

○全体の傾向

「何もできなかった」と回答した人の割合が40.2%と最も高く、次いで「友人・知人に相談した」(21.2%)、「職場や学校の相談窓口に相談した」(16.9%)となっている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	何もできなかった	友人・知人に相談した	職場や学校の相談窓口に相談した	抗議し、改善された	抗議し、逆に不利益を受けた	家族や親戚に相談した	相談したが助けってもらえなかった	公的機関に相談した	民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラーなど）に相談した	法的手段に訴えた	その他	わからない	無回答
全 体	712	40.2	21.2	16.9	11.7	11.0	10.3	8.7	1.8	1.8	0.8	8.0	4.4	6.2
男性／合計	265	35.1	17.7	16.2	14.3	12.1	5.3	7.5	1.9	1.9	0.8	6.8	6.0	8.3
18～19 歳	2	50.0	—	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	21	23.8	19.0	19.0	14.3	4.8	14.3	4.8	—	—	4.8	4.8	9.5	4.8
30～39 歳	49	38.8	20.4	22.4	12.2	10.2	4.1	4.1	—	—	—	6.1	4.1	2.0
40～49 歳	41	29.3	22.0	17.1	22.0	12.2	9.8	7.3	2.4	2.4	—	12.2	2.4	4.9
50～59 歳	53	26.4	17.0	15.1	17.0	11.3	1.9	5.7	5.7	1.9	—	9.4	11.3	9.4
60～69 歳	62	41.9	17.7	14.5	11.3	12.9	4.8	11.3	1.6	4.8	1.6	3.2	6.5	9.7
70 歳以上	35	40.0	11.4	8.6	11.4	17.1	—	8.6	—	—	—	5.7	2.9	20.0
女性／合計	426	44.1	23.7	17.4	10.6	10.8	13.4	9.6	1.4	1.9	0.9	8.7	3.1	4.0
18～19 歳	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	50	46.0	30.0	18.0	10.0	6.0	14.0	8.0	4.0	8.0	2.0	12.0	6.0	2.0
30～39 歳	86	39.5	26.7	26.7	14.0	9.3	22.1	7.0	1.2	—	—	8.1	—	3.5
40～49 歳	98	43.9	24.5	11.2	9.2	14.3	11.2	15.3	1.0	2.0	2.0	7.1	1.0	3.1
50～59 歳	79	46.8	20.3	21.5	11.4	10.1	11.4	7.6	2.5	1.3	—	7.6	5.1	2.5
60～69 歳	68	41.2	23.5	13.2	8.8	5.9	7.4	4.4	—	—	1.5	8.8	7.4	7.4
70 歳以上	40	50.0	17.5	12.5	10.0	22.5	12.5	15.0	—	2.5	—	12.5	—	7.5

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性 18～19 歳、女性 18～19 歳は参考扱いとする。

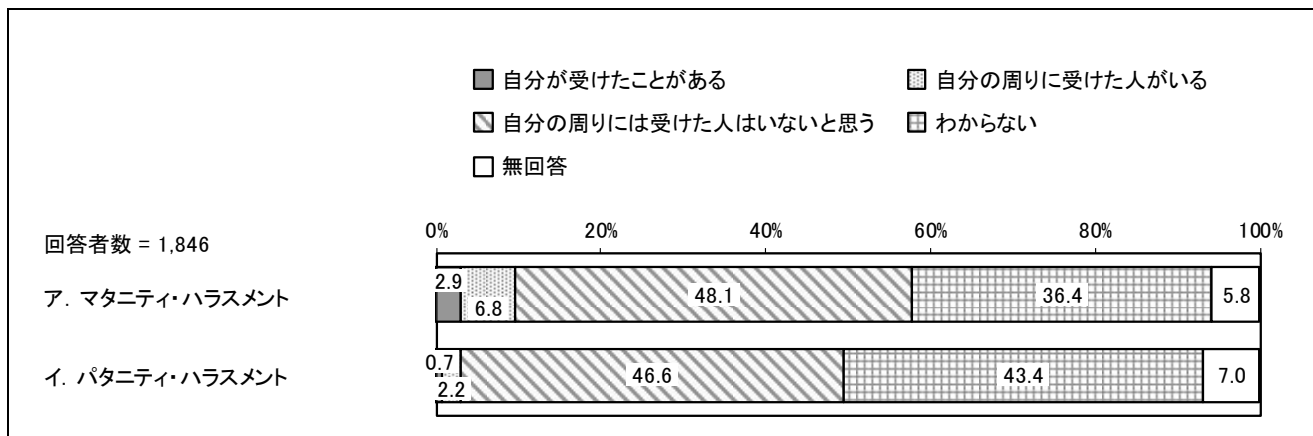
図表 2-5-7 セクシュアル・ハラスメントを受けた時の対応（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「何もできなかった」と回答した人の割合は男性では 60～69 歳（41.9%）、70 歳以上（40.0%）、女性では 70 歳以上（50.0%）で他の年代よりもやや高くなっている。

(2) マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメントの経験

問18 あなたは、マタニティ・ハラスメント又はパタニティ・ハラスメントを受けたり、見聞きしたことはありますか。
(ア～イのそれぞれについて、あてはまる「1～4」に○を1つ)



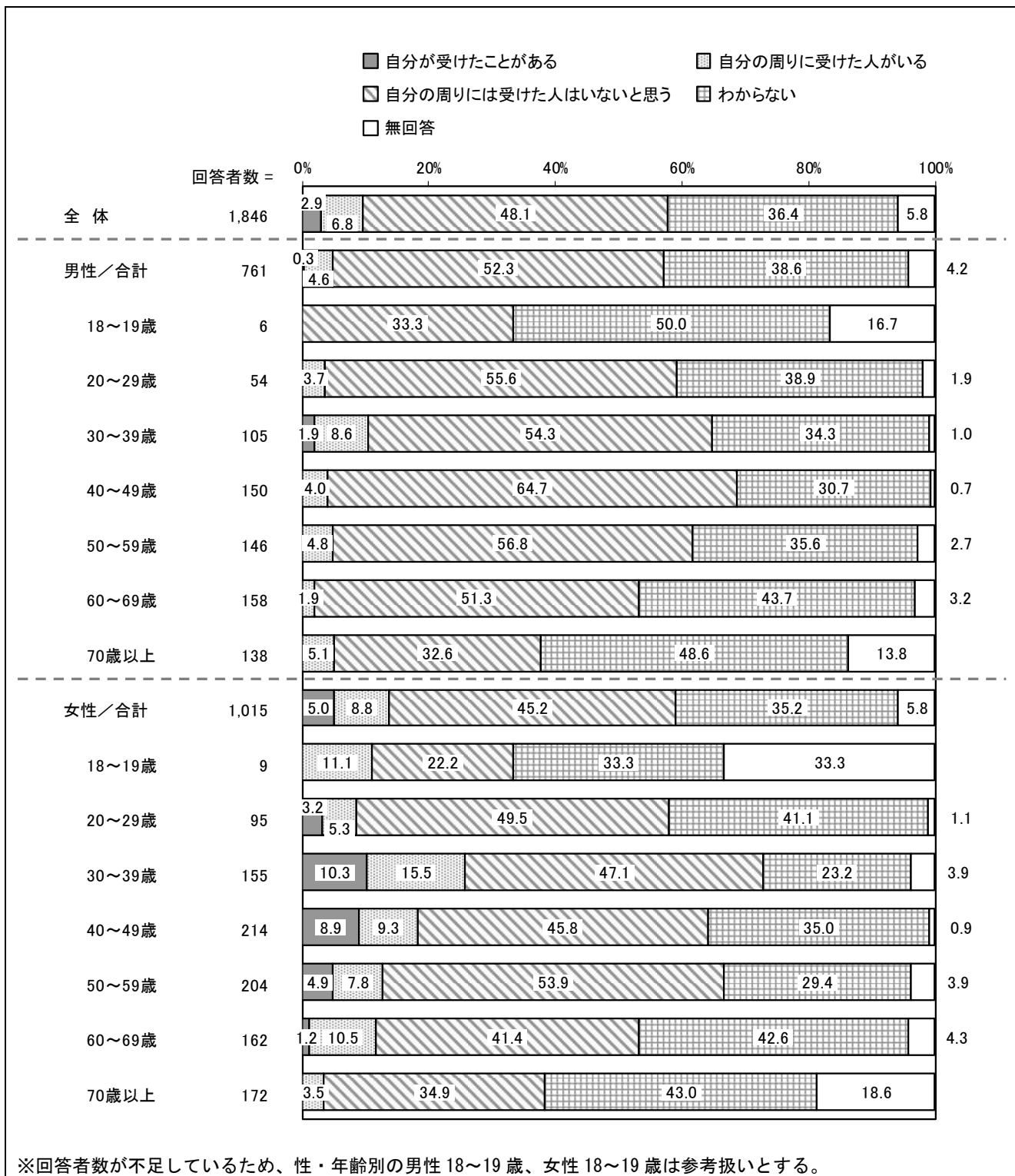
図表 2-5-8 「マタニティ・ハラスメント」「パタニティ・ハラスメント」の経験

○全体の傾向

マタニティ・ハラスメントの経験では、「自分の周りには受けた人はいないと思う」の割合が48.1%と最も高く、次いで「わからない」(36.4%)となっている。

パタニティ・ハラスメントの経験では、「自分の周りには受けた人はいないと思う」の割合が46.6%と最も高く、次いで「わからない」(43.4%)となっている。

ア. マタニティ・ハラスメント



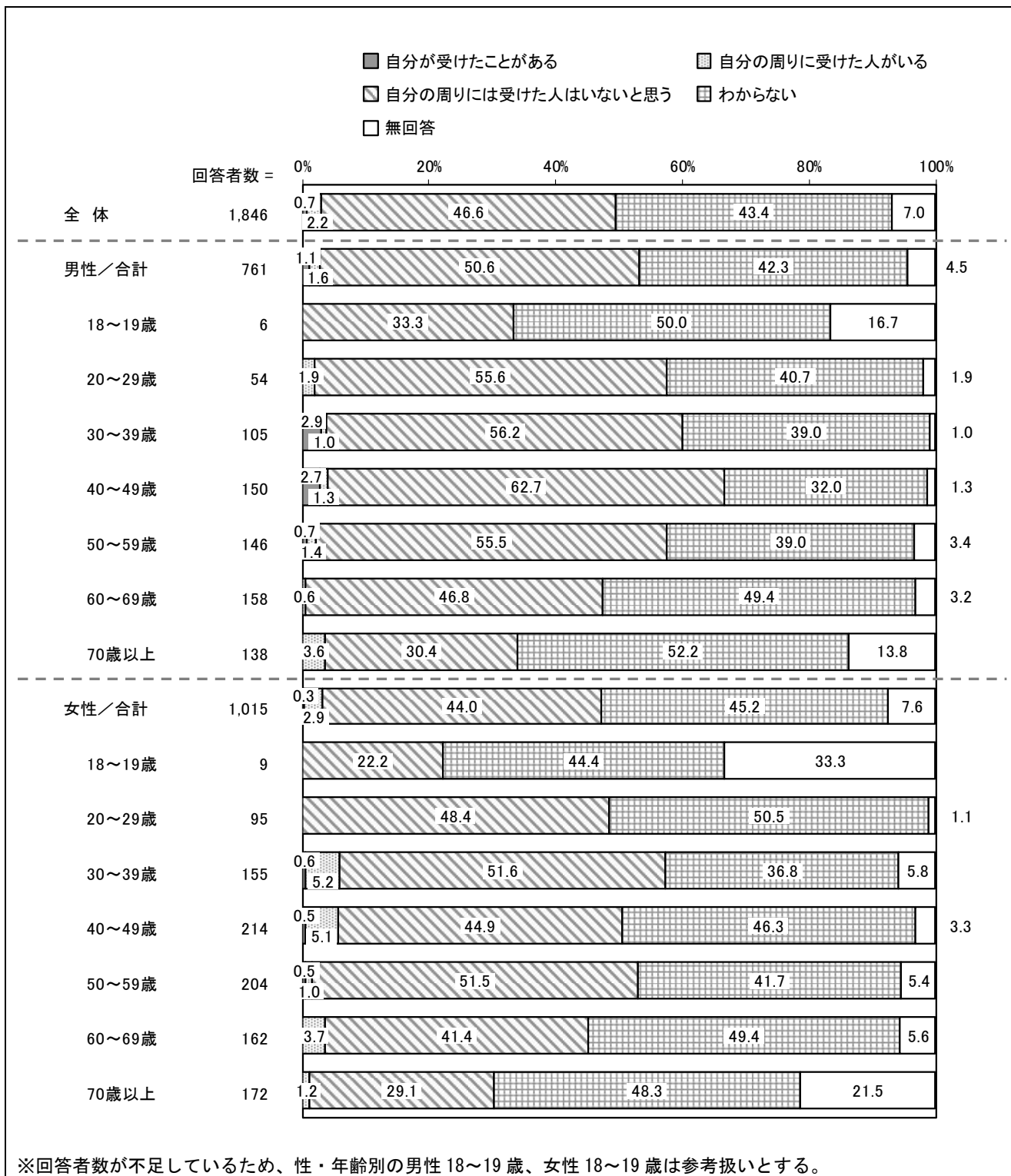
※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

図表 2-5-9 「マタニティ・ハラスメント」の経験（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「自分が受けたことがある」の割合は女性30～39歳と40～49歳が高く、約1割となっている。一方、男性40～49歳（64.7%）で「自分の周りに受けた人はいないと思う」の割合が高くなっている。

イ. パタニティ・ハラスメント



※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

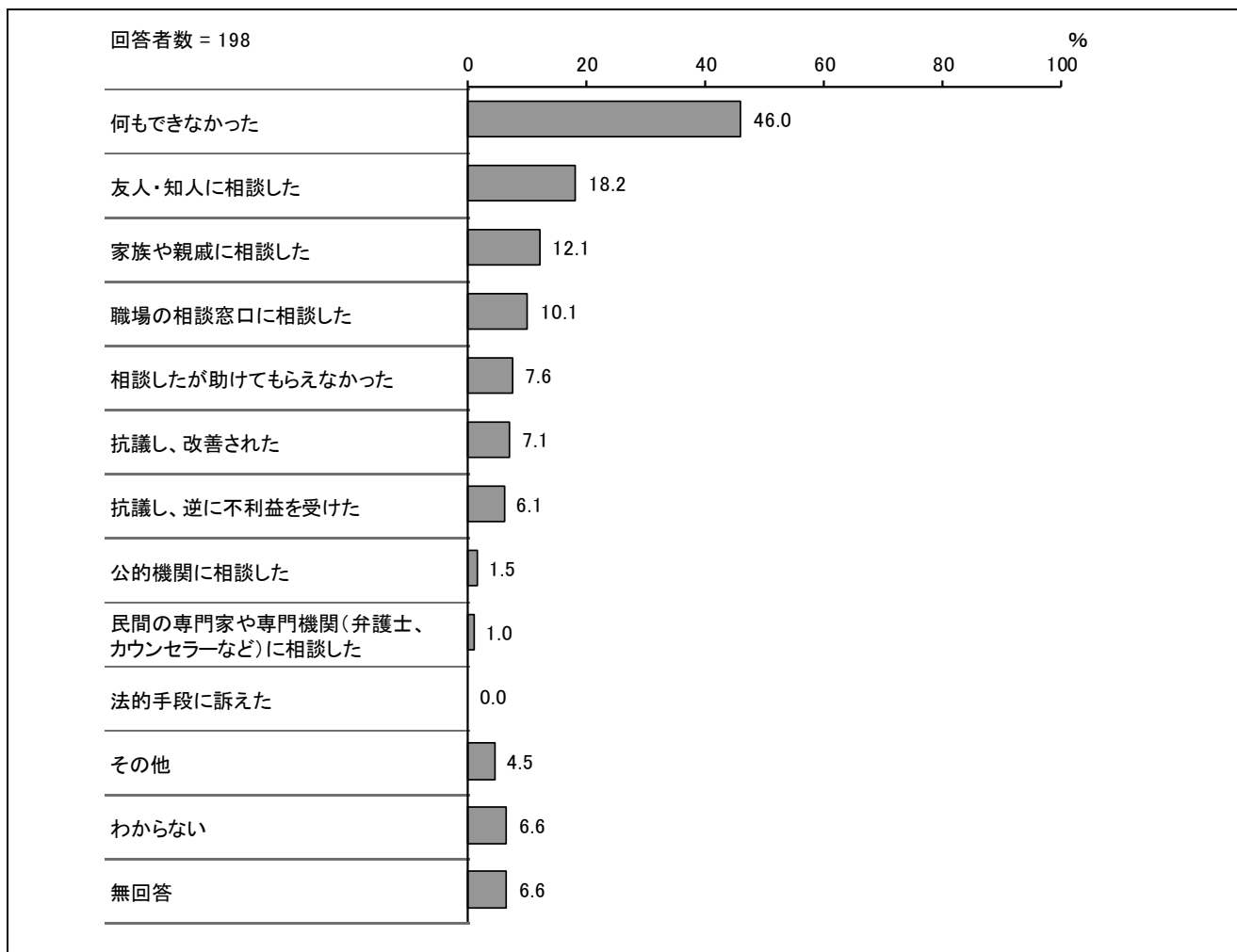
図表 2-5-10 「パタニティ・ハラスメント」の経験（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「自分の周りに受けた人はいないと思う」の割合は男性40～49歳が最も高く、6割を超えている。

※問18でひとつでも「自分が受けたことがある」「自分の周りに受けた人がいる」と回答した方におうかがいします。

問18-1. マタニティ・ハラスメント又はパタニティ・ハラスメントを受けた時、あなたはどうしましたか。(見聞きした場合は当事者がどうされたかをお答えください。)(〇はいくつでも)



図表 2-5-11 マタニティ・ハラスメント又はパタニティ・ハラスメントを受けた時の対応

○全体の傾向

「何もできなかった」と回答した人の割合が46.0%と最も高く、次いで「友人・知人に相談した」(18.2%)、「家族や親戚に相談した」(12.1%)となっている。

単位：%

区分	回答者数 (件)	何もできなかった	友人・知人に相談した	家族や親戚に相談した	職場の相談窓口 に相談した	相談したが 助けてもらえ なかった	抗議し、改 善された	抗議し、逆 に不利益を受 けた	公的機関に 相談した	民間の専門 家や専門機 関（弁護士 カウンセラー など）に相 談した	法的手段に 訴えた	その他	わからない	無回答
全 体	198	46.0	18.2	12.1	10.1	7.6	7.1	6.1	1.5	1.0	—	4.5	6.6	6.6
男性／合計	46	45.7	17.4	4.3	8.7	6.5	4.3	6.5	—	2.2	—	4.3	13.0	6.5
18～19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	2	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0	—
30～39 歳	13	46.2	23.1	7.7	7.7	7.7	—	—	—	—	—	7.7	23.1	—
40～49 歳	10	60.0	10.0	—	10.0	20.0	—	10.0	—	—	—	—	10.0	—
50～59 歳	9	33.3	11.1	—	11.1	—	11.1	11.1	—	11.1	—	11.1	11.1	—
60～69 歳	3	66.7	33.3	33.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	33.3
70 歳以上	8	25.0	25.0	—	12.5	—	12.5	12.5	—	—	—	—	—	25.0
女性／合計	149	46.3	17.4	14.1	10.1	8.1	8.1	6.0	1.3	0.7	—	4.7	4.7	6.7
18～19 歳	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	8	50.0	12.5	—	12.5	—	12.5	—	—	—	—	12.5	—	—
30～39 歳	44	47.7	25.0	20.5	11.4	9.1	9.1	4.5	—	—	—	—	9.1	2.3
40～49 歳	41	41.5	22.0	12.2	7.3	2.4	12.2	9.8	4.9	2.4	—	4.9	2.4	4.9
50～59 歳	26	46.2	7.7	11.5	11.5	19.2	3.8	7.7	—	—	—	11.5	7.7	—
60～69 歳	21	57.1	14.3	9.5	9.5	4.8	—	—	—	—	—	4.8	—	19.0
70 歳以上	7	28.6	—	28.6	14.3	—	14.3	14.3	—	—	—	—	—	42.9

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性 18～19 歳、20～29 歳、50～59 歳、60～69 歳、70 歳以上、女性 18～19 歳、20～29 歳、70 歳以上は参考扱いとする。

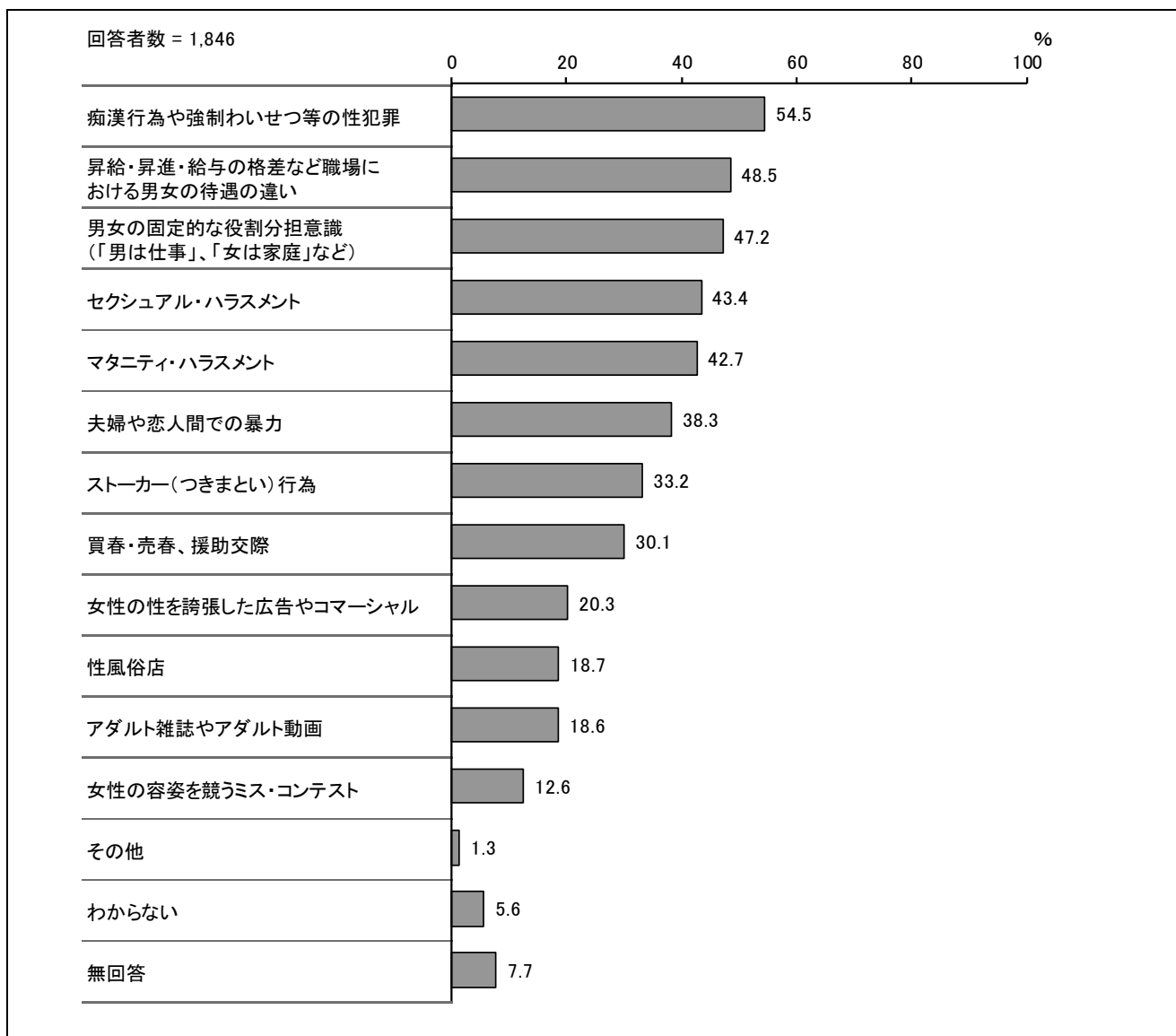
図表 2-5-12 マタニティ・ハラスメント又はパタニティ・ハラスメントを受けた時の対応（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、ほぼすべての性・年代で「何もできなかった」と回答した人の割合が高くなっている。

(3) 女性の人権への意識

問19. 次のうち、あなたが「女性の人権が尊重されていない」ことだと思うものはどれですか。(〇はいくつでも)



図表 2-5-13 女性の人権への意識

○全体の傾向

「痴漢行為や強制わいせつ等の性犯罪」と回答した人の割合が 54.5%と最も高く、次いで「昇給・昇進・給与の格差など職場における男女の待遇の違い」(48.5%)、「男女の固定的な役割分担意識(「男は仕事」、「女は家庭」など)」(47.2%)となっている。

単位：％

区分	回答者数(件)	性犯罪	痴漢行為や強制わいせつ等の	昇給・昇進・給与の格差など職場における男女の待遇の違い	男女の固定的な役割分担意識 〔「男は仕事」、「女は家庭」など〕	セクシュアル・ハラスメント	マタニティ・ハラスメント	夫婦や恋人間での暴力	ストーカー(つきまとい)行為	買春・売春、援助交際	女性の性を誇張した広告や コマージュ	性風俗店	アダルト雑誌やアダルト動画	女性の容姿を競うミス・コンテスト	その他	わからない	無回答
全 体	1,846	54.5	48.5	47.2	43.4	42.7	38.3	33.2	30.1	20.3	18.7	18.6	12.6	1.3	5.6	7.7	
男性／合計	761	47.0	42.2	43.5	39.8	37.8	29.0	28.9	22.6	15.1	14.3	13.8	11.8	1.8	7.0	9.2	
18～19 歳	6	66.7	66.7	66.7	33.3	33.3	66.7	66.7	—	16.7	16.7	16.7	16.7	—	—	33.3	
20～29 歳	54	50.0	38.9	38.9	44.4	35.2	29.6	33.3	18.5	11.1	11.1	5.6	5.6	1.9	11.1	11.1	
30～39 歳	105	33.3	42.9	43.8	38.1	41.9	20.0	21.0	14.3	11.4	9.5	11.4	11.4	3.8	5.7	9.5	
40～49 歳	150	40.0	40.0	38.7	37.3	40.0	24.0	24.7	18.0	12.7	9.3	7.3	8.7	2.7	7.3	12.7	
50～59 歳	146	41.8	36.3	43.8	41.1	41.1	24.0	20.5	11.0	9.6	8.9	8.2	6.2	0.7	6.8	9.6	
60～69 歳	158	56.3	46.8	51.9	43.7	38.0	38.0	36.1	26.6	20.3	17.1	19.0	19.0	0.6	8.2	5.1	
70 歳以上	138	57.2	46.4	39.1	37.0	30.4	33.3	37.0	42.8	21.7	26.1	23.9	15.9	2.2	5.1	8.0	
女性／合計	1,015	60.5	54.2	51.1	47.2	47.5	45.5	36.4	36.2	24.5	22.8	22.9	13.7	0.9	4.4	5.7	
18～19 歳	9	44.4	66.7	66.7	55.6	66.7	55.6	33.3	44.4	11.1	22.2	—	11.1	—	—	22.2	
20～29 歳	95	57.9	56.8	61.1	51.6	57.9	42.1	37.9	35.8	23.2	17.9	18.9	11.6	2.1	3.2	9.5	
30～39 歳	155	61.3	58.1	56.8	56.1	63.2	40.0	32.3	31.0	12.3	18.7	14.8	13.5	1.9	3.2	5.8	
40～49 歳	214	60.7	52.3	49.5	46.3	49.5	42.5	28.5	31.8	18.7	15.9	17.3	12.1	—	6.1	2.8	
50～59 歳	204	64.2	56.4	51.5	53.9	52.0	52.0	37.7	36.3	28.4	24.5	28.4	16.7	0.5	3.9	4.4	
60～69 歳	162	67.3	55.6	49.4	47.5	40.7	51.9	48.1	42.0	32.7	25.9	27.2	13.0	1.2	4.3	3.7	
70 歳以上	172	50.0	47.7	43.6	29.7	25.6	41.9	35.5	41.3	31.4	33.1	29.7	14.0	0.6	5.2	9.9	

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

図表 2-5-14 女性の人権への意識(性・年齢別)

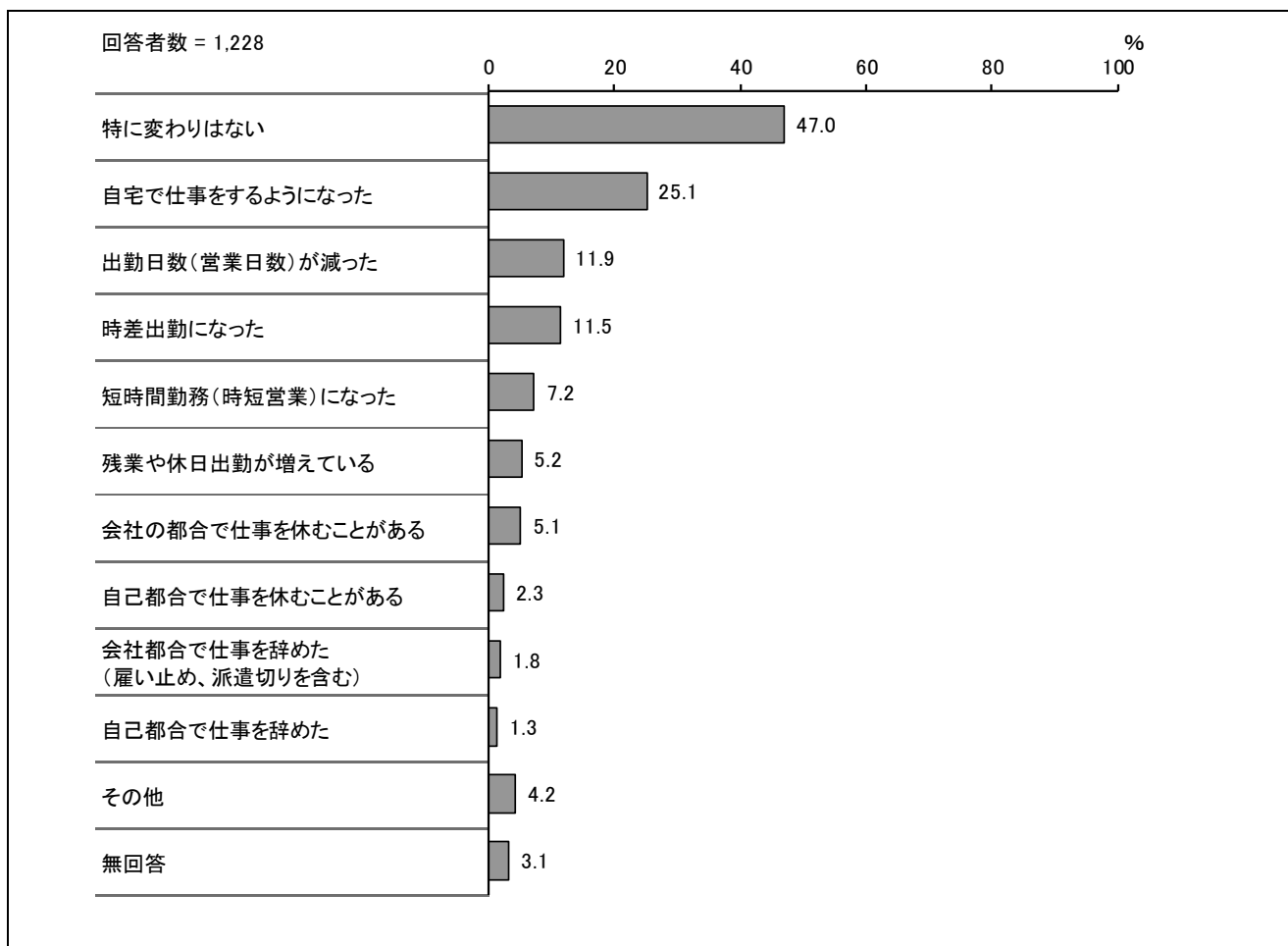
○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、男女ともに「痴漢行為や強制わいせつ等の性犯罪」と回答した人の割合が最も高くなっている。一方、男性30～39歳、40～49歳、50～59歳で「痴漢行為や強制わいせつ等の性犯罪」と回答した人の割合はやや低くなっている。

6 新型コロナウイルス感染症の影響について

(1) 新型コロナウイルス感染による働き方への影響

問20. 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、あなたの働き方は変わりましたか。
(〇はいくつでも)



図表 2-6-1 新型コロナウイルス感染による働き方への影響

○全体の傾向

「特に変わりはない」と回答した人の割合が47.0%と最も高く、次いで「自宅で仕事をするようになった」(25.1%)、「出勤日数(営業日数)が減った」(11.9%)となっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	特に変わりはない	自宅で仕事をするようになった	出勤日数（営業日数）が減った	時差出勤になった	短時間勤務（時短営業）になった	残業や休日出勤が増えている	会社の都合で仕事を休むことがある	自己都合で仕事を休むことがある	会社都合で仕事を辞めた（雇い止め、派遣切りを含む）	自己都合で仕事を辞めた	その他	無回答
全 体	1,228	47.0	25.1	11.9	11.5	7.2	5.2	5.1	2.3	1.8	1.3	4.2	3.1
男性／合計	589	40.2	33.3	12.1	15.1	7.0	6.5	4.9	2.2	1.5	0.7	4.9	2.9
18～19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	38	36.8	42.1	15.8	23.7	7.9	7.9	5.3	—	—	2.6	—	2.6
30～39 歳	102	34.3	44.1	8.8	12.7	3.9	7.8	4.9	2.9	1.0	1.0	2.9	2.0
40～49 歳	146	39.0	34.2	10.3	17.8	8.9	6.8	6.2	1.4	2.1	—	4.1	—
50～59 歳	140	34.3	40.0	14.3	21.4	7.1	10.0	5.0	4.3	1.4	0.7	5.0	3.6
60～69 歳	108	48.1	23.1	17.6	10.2	8.3	2.8	4.6	0.9	2.8	—	4.6	2.8
70 歳以上	55	56.4	7.3	3.6	—	3.6	—	1.8	1.8	—	1.8	14.5	10.9
女性／合計	638	53.3	17.6	11.8	8.2	7.5	4.1	5.3	2.4	2.0	1.9	3.4	3.1
18～19 歳	2	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	75	44.0	30.7	13.3	12.0	9.3	1.3	4.0	1.3	4.0	2.7	1.3	—
30～39 歳	121	45.5	29.8	14.0	14.9	9.1	6.6	4.1	2.5	1.7	—	4.1	—
40～49 歳	168	53.0	16.1	14.3	6.5	5.4	4.2	7.7	2.4	2.4	3.0	3.6	1.2
50～59 歳	153	58.2	14.4	9.2	7.8	8.5	4.6	3.9	2.0	2.0	2.6	2.0	2.0
60～69 歳	68	72.1	4.4	7.4	1.5	4.4	4.4	7.4	1.5	1.5	—	4.4	1.5
70 歳以上	49	46.9	2.0	8.2	2.0	10.2	—	4.1	6.1	—	2.0	6.1	28.6

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性 18～19 歳、女性 18～19 歳は参考扱いとする。

図表 2-6-2 新型コロナウイルス感染による働き方への影響（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、「特に変わりはない」と回答した人の割合は女性 60～69 歳が最も高く、7 割を超えている。一方、男性 20～29 歳（42.1%）や 30～39 歳（44.1%）、50～59 歳（40.0%）は「自宅で仕事をするようになった」と回答した人の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数(件)	特に変わりはない	自宅で仕事をするようになった	出勤日数(営業日数)が減った	時差出勤になった	短時間勤務(時短営業)になった	残業や休日出勤が増えている	会社の都合で仕事を休むことがある	自己都合で仕事を休むことがある	会社都合で仕事を辞めた(雇い止め、派遣切りを含む)	自己都合で仕事を辞めた	その他	無回答
全体	1,228	47.0	25.1	11.9	11.5	7.2	5.2	5.1	2.3	1.8	1.3	4.2	3.1
男性/合計	589	40.2	33.3	12.1	15.1	7.0	6.5	4.9	2.2	1.5	0.7	4.9	2.9
会社員・団体職員	416	35.6	42.1	12.0	18.5	6.5	7.7	5.5	1.7	0.7	0.5	3.8	1.7
自由業・自営業	61	52.5	11.5	11.5	—	13.1	1.6	—	3.3	1.6	—	11.5	4.9
パート・アルバイト	45	62.2	4.4	17.8	4.4	6.7	2.2	8.9	2.2	8.9	2.2	2.2	4.4
公務員・教員	49	46.9	20.4	8.2	18.4	4.1	8.2	4.1	4.1	—	—	6.1	2.0
家事専業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無職	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	18	33.3	11.1	11.1	5.6	5.6	—	—	5.6	5.6	5.6	11.1	22.2
女性/合計	638	53.3	17.6	11.8	8.2	7.5	4.1	5.3	2.4	2.0	1.9	3.4	3.1
会社員・団体職員	269	47.6	31.6	10.0	16.0	5.2	4.1	3.7	1.9	1.9	1.1	3.0	0.7
自由業・自営業	46	32.6	23.9	19.6	—	6.5	2.2	6.5	—	—	2.2	6.5	13.0
パート・アルバイト	249	63.5	4.0	13.3	2.8	11.6	2.8	7.2	2.8	2.8	2.4	2.0	2.4
公務員・教員	45	60.0	8.9	4.4	2.2	2.2	15.6	2.2	4.4	—	—	8.9	—
家事専業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無職	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	29	41.4	6.9	13.8	3.4	3.4	—	6.9	3.4	3.4	6.9	6.9	20.7

※回答者数が不足しているため、性・就労状況別の男女ともに家事専業、学生、無職は参考扱いとする。

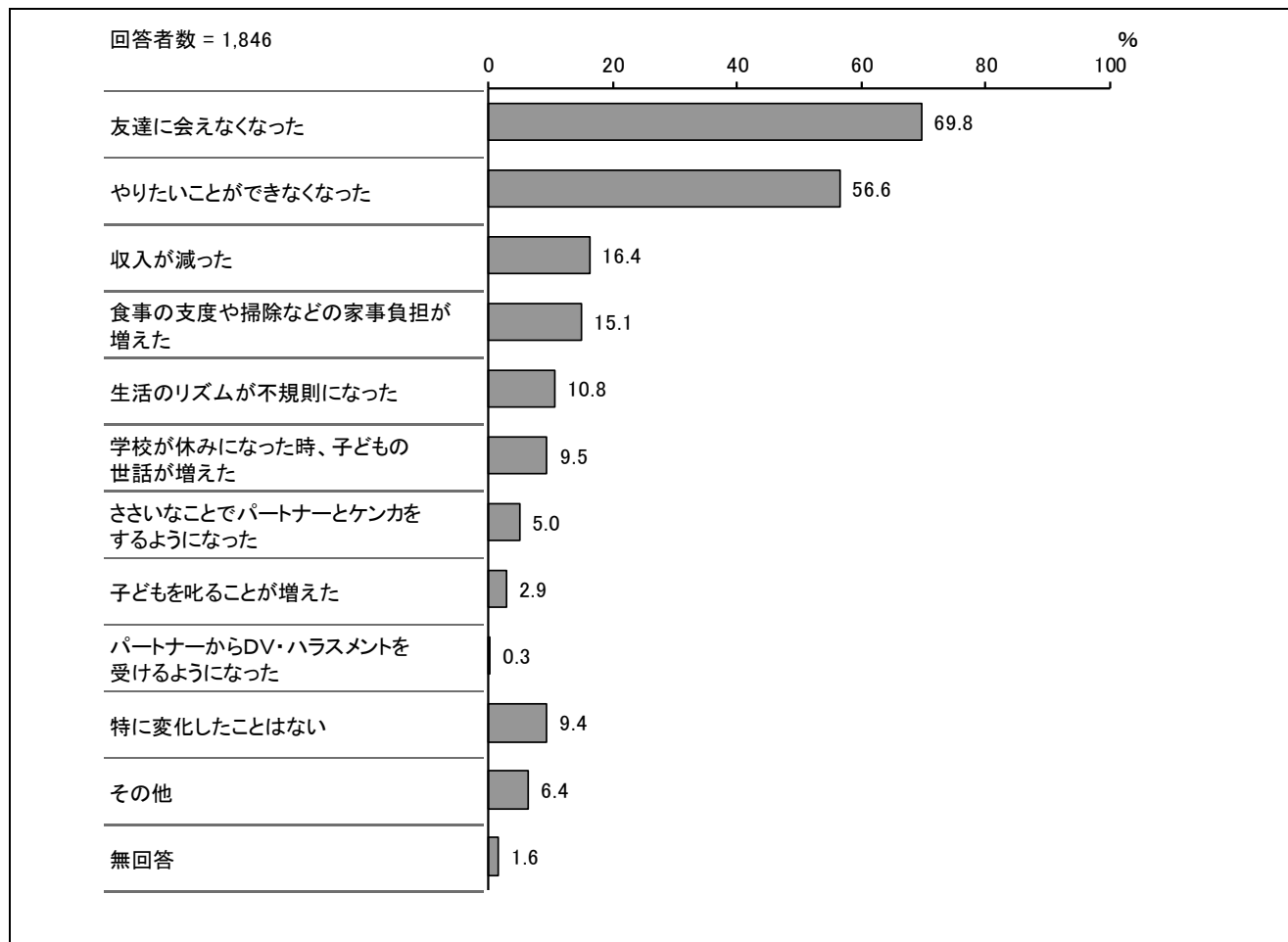
図表 2-6-3 新型コロナウイルス感染による働き方への影響(性・就労状況別)

○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別でみると、「特に変わりはない」と回答した人の割合は男性パート・アルバイト、女性パート・アルバイト、公務員・教員で高く、6割以上となっている。一方、男女ともに会社員・団体職員は「自宅で仕事をするようになった」と回答した人の割合が高くなっている。

(2) 新型コロナウイルス感染による生活や行動への影響

問 2 1. 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、あなたの生活や行動に変化がありましたか。(〇はいくつでも)



図表 2-6-4 新型コロナウイルス感染による生活や行動への影響

○全体の傾向

「友達に会えなくなった」と回答した人の割合が 69.8%と最も高く、次いで「やりたいことができなくなった」(56.6%)、「収入が減った」(16.4%)となっている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	友達に会えなくなった	やりたいことができなくなった	収入が減った	食事の支度や掃除などの家事負担が増えた	生活のリズムが不規則になった	学校が休みになった時、子どもの世話が増えた	やさしいことでパートナーとケンカをするようになった	子どもを叱ることが増えた	パートナーからDV・ハラスメントを受けるようになった	特に変化したことはない	その他	無回答
全 体	1,846	69.8	56.6	16.4	15.1	10.8	9.5	5.0	2.9	0.3	9.4	6.4	1.6
男性／合計	761	59.3	55.2	16.0	7.6	12.6	4.3	3.7	1.2	0.1	13.0	6.6	1.3
18～19 歳	6	50.0	66.7	16.7	—	16.7	—	—	—	—	16.7	—	—
20～29 歳	54	72.2	68.5	9.3	5.6	14.8	—	—	—	—	1.9	3.7	1.9
30～39 歳	105	61.0	51.4	10.5	11.4	11.4	9.5	1.0	4.8	—	16.2	9.5	1.0
40～49 歳	150	54.7	51.3	23.3	10.7	8.7	8.7	5.3	1.3	—	14.0	7.3	0.7
50～59 歳	146	53.4	57.5	18.5	6.2	13.7	3.4	3.4	1.4	0.7	9.6	7.5	—
60～69 歳	158	63.3	60.1	15.8	4.4	12.0	1.9	5.1	—	—	13.9	4.4	0.6
70 歳以上	138	60.1	47.8	10.9	7.2	16.7	0.7	4.3	—	—	15.9	6.5	4.3
女性／合計	1,015	78.0	57.5	16.7	20.7	9.7	13.8	5.5	4.2	0.4	6.8	6.5	1.2
18～19 歳	9	66.7	44.4	—	33.3	22.2	11.1	—	—	—	11.1	—	—
20～29 歳	95	81.1	67.4	13.7	10.5	11.6	1.1	3.2	1.1	—	4.2	6.3	—
30～39 歳	155	87.1	69.0	17.4	18.1	3.9	22.6	5.8	11.6	0.6	3.2	5.2	—
40～49 歳	214	77.1	52.8	24.8	28.5	7.0	32.7	7.0	7.9	0.5	5.1	6.1	—
50～59 歳	204	76.0	58.3	21.6	23.0	12.3	9.8	3.9	2.5	0.5	7.4	6.9	0.5
60～69 歳	162	74.1	52.5	12.3	22.2	8.0	4.9	6.2	—	0.6	10.5	9.3	1.9
70 歳以上	172	76.7	52.9	7.0	14.0	15.1	1.7	6.4	0.6	—	9.3	4.7	4.7

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性 18～19 歳、女性 18～19 歳は参考扱いとする。

図表 2-6-5 新型コロナウイルス感染による生活や行動への影響（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「収入が減った」と回答した人の割合は男性 40～49 歳（23.3%）、女性 40～49 歳（24.8%）、50～59 歳（21.6%）で高く、2割を超えている。また、「食事の支度や掃除などの家事負担が増えた」と回答した人の割合は女性で高く、特に女性 40～49 歳で約3割となっている。「学校が休みになった時、子どもの世話が増えた」と回答した人の割合は女性 30～39 歳（22.6%）、40～49 歳（32.7%）が最も高くなっている。

単位：％

区分	回答者数(件)	友達に会えなくなった	やりたいことができなくなった	収入が減った	食事の支度や掃除などの家事負担が増えた	生活のリズムが不規則になった	子どもの世話が増えた	学校が休みになった時、子どもの世話が増えた	ささいなことでパートナーとケンカをするようになった	子どもを叱ることが増えた	パートナーからDV・ハラスメントを受けるようになった	特に変化したことはない	その他	無回答
全 体	1,846	69.8	56.6	16.4	15.1	10.8	9.5	5.0	2.9	0.3	9.4	6.4	1.6	
男性／合計	761	59.3	55.2	16.0	7.6	12.6	4.3	3.7	1.2	0.1	13.0	6.6	1.3	
会社員・団体職員	416	58.2	55.3	13.5	9.6	10.3	5.8	2.4	1.9	—	12.5	7.7	0.5	
自由業・自営業	61	57.4	39.3	44.3	3.3	6.6	—	4.9	—	—	21.3	3.3	1.6	
パート・アルバイト	45	55.6	53.3	22.2	2.2	22.2	2.2	6.7	2.2	2.2	17.8	4.4	—	
公務員・教員	49	69.4	71.4	4.1	4.1	10.2	12.2	6.1	—	—	4.1	12.2	—	
家事専業	1	100.0	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
学生	19	63.2	73.7	15.8	10.5	21.1	—	—	—	—	5.3	—	—	
無職	140	64.3	53.6	10.0	7.1	19.3	0.7	6.4	—	—	13.6	4.3	2.9	
その他	18	50.0	50.0	22.2	—	11.1	—	—	—	—	16.7	—	11.1	
女性／合計	1,015	78.0	57.5	16.7	20.7	9.7	13.8	5.5	4.2	0.4	6.8	6.5	1.2	
会社員・団体職員	269	83.3	62.1	14.1	14.5	8.9	9.3	3.0	3.7	0.7	4.5	4.8	0.7	
自由業・自営業	46	71.7	54.3	37.0	21.7	8.7	15.2	4.3	6.5	—	2.2	8.7	4.3	
パート・アルバイト	249	76.7	53.4	24.9	20.9	7.6	17.3	6.8	4.0	—	8.0	5.2	—	
公務員・教員	45	77.8	64.4	4.4	8.9	4.4	6.7	4.4	—	—	2.2	11.1	—	
家事専業	226	79.2	58.4	12.4	34.1	11.5	23.0	9.7	7.5	0.4	5.8	7.1	0.9	
学生	20	70.0	60.0	10.0	25.0	20.0	5.0	5.0	—	5.0	5.0	10.0	—	
無職	113	71.7	51.3	8.0	12.4	10.6	3.5	2.7	—	—	14.2	5.3	3.5	
その他	29	69.0	62.1	13.8	10.3	10.3	6.9	3.4	—	—	13.8	10.3	6.9	

※回答者数が不足しているため、性・就労状況別の男性家事専業は参考扱いとする。

図表 2-6-6 新型コロナウイルス感染による生活や行動への影響（性・就労状況別）

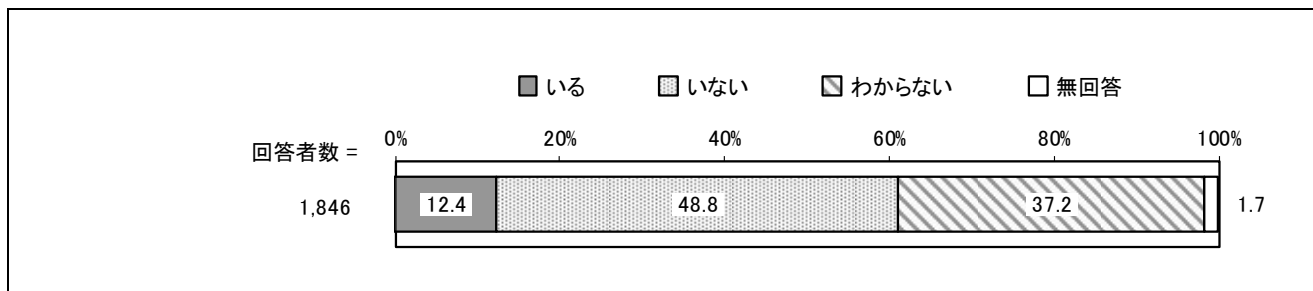
○性・就労状況別の傾向

性・就労状況別で見ると、「友達に会えなくなった」と回答した人の割合は男性無職（64.3%）、女性会社員・団体職員（83.3%）が最も高くなっている。また、男性公務員（71.4%）、学生（73.7%）で「やりたいことができなくなった」と回答した人の割合が高くなっている。

7 性について

(1) L G B T Qなど性的少数者について

問22. あなたの周り（自身も含む）にL G B T Qなど性的少数者はいますか。
(○は1つ)



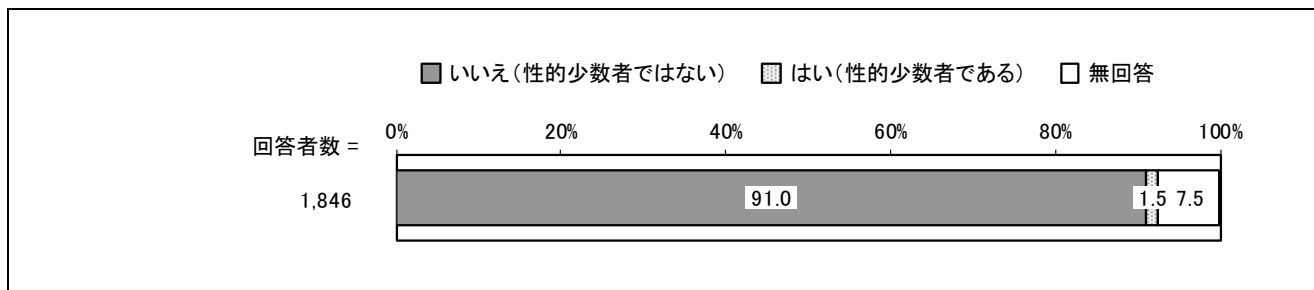
図表 2-7-1 L G B T Qなど性的少数者について

○全体の傾向

「いない」の割合が48.8%と最も高く、次いで「わからない」(37.2%)、「いる」(12.4%)となっている。

(2) 性的少数者かどうかについて

問23. あなたご自身は、性的少数者の当事者ですか。答えたくない場合は無記入で構いません。(〇は1つ)



図表 2-7-2 性的少数者かどうかについて

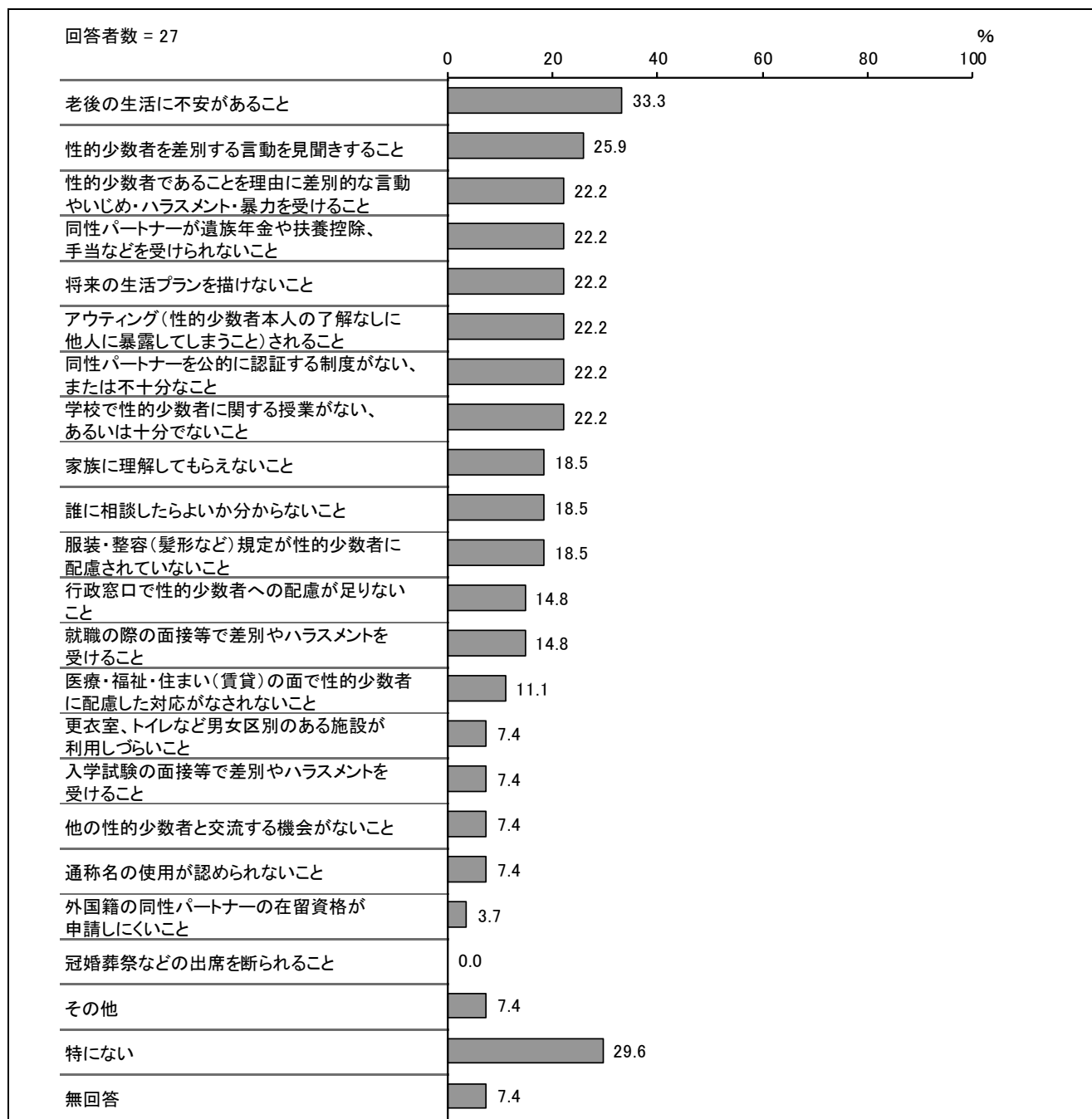
○全体の傾向

「いいえ(性的少数者ではない)」の割合が91.0%、「はい(性的少数者である)」の割合が1.5%となっている。

(3) 性的少数者であることについての悩みの有無

※問23で「2. はい（性的少数者である）」と回答した方におうかがいします。

問23-1. あなたが性的少数者として、あるいは関連したことで悩んだこと、不安だったこと、気になったことはありますか。(〇はいくつでも)



図表 2-7-3 性的少数者であることについての悩みの有無

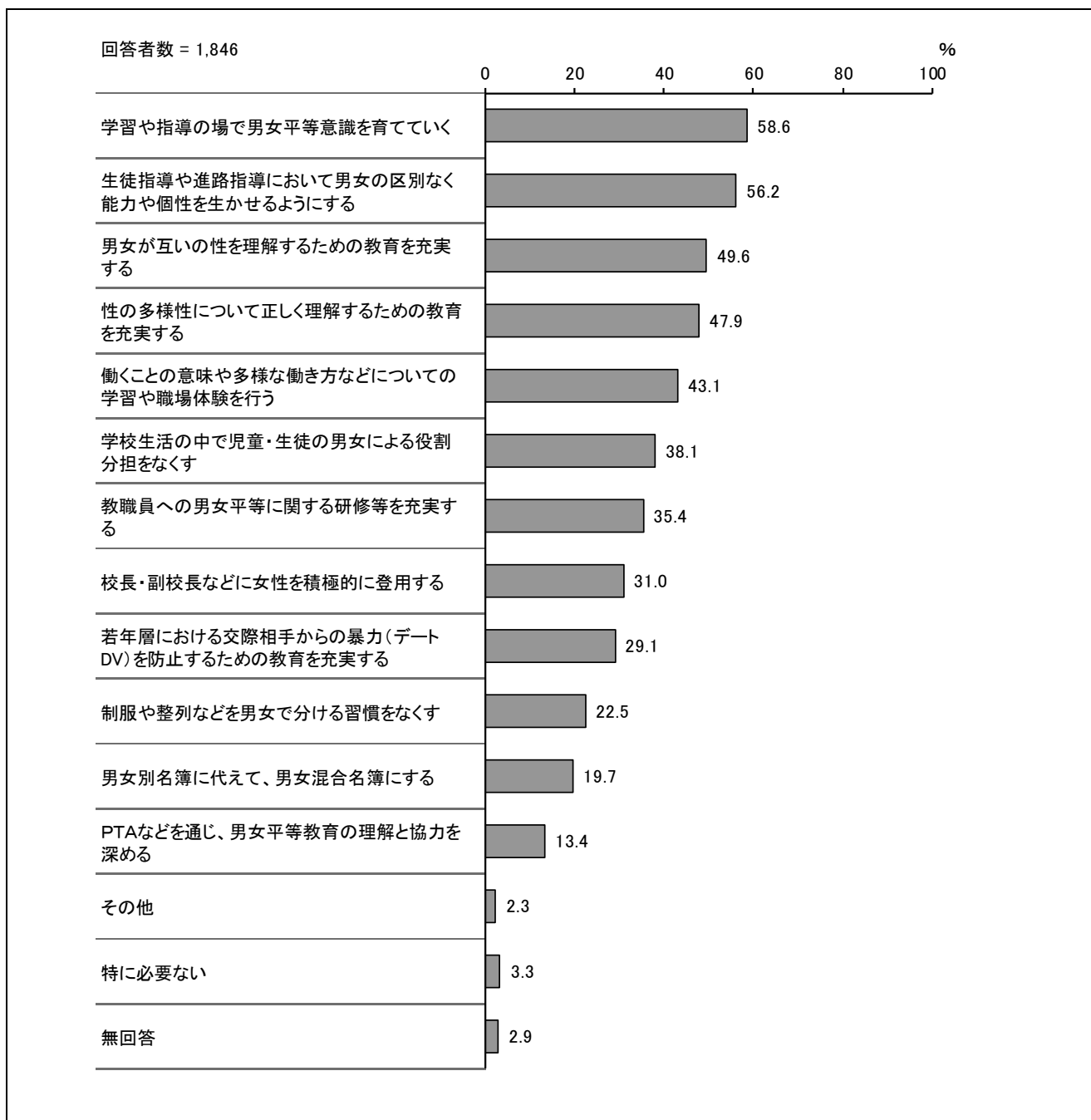
○全体の傾向

「老後の生活に不安があること」と回答した人の割合が 33.3%と最も高く、次いで「特になし」(29.6%)、「性的少数者を差別する言動を見聞きすること」(25.9%)となっている。

8 教育について

(1) 学校での男女平等教育の意識

問24. 学校での男女平等教育について、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から重要だと思うものを選んでください。(〇はいくつでも)



図表 2-8-1 学校での男女平等教育の意識

○全体の傾向

「学習や指導の場で男女平等意識を育てていく」と回答した人の割合が 58.6%と最も高く、次いで「生徒指導や進路指導において男女の区別なく能力や個性を生かせるようにする」(56.2%)、「男女が互いの性を理解するための教育を充実する」(49.6%) となっている。

単位：%

区分	回答者数(件)	学習や指導の場で男女平等意識を育てていく	生徒指導や進路指導において男女の区別なく能力や個性を生かせるようにする	男女が互いの性を理解するための教育を充実する	性の多様性についての正しく理解するための教育を充実する	働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行う	学校生活の中で児童・生徒の男女による役割分担をなくす	教職員への男女平等に関する研修等を実施する
全体	1,846	58.6	56.2	49.6	47.9	43.1	38.1	35.4
男性/合計	761	55.2	56.0	43.9	41.8	38.9	39.6	35.7
18～19歳	6	50.0	66.7	33.3	33.3	33.3	50.0	16.7
20～29歳	54	37.0	50.0	48.1	40.7	35.2	35.2	33.3
30～39歳	105	47.6	54.3	45.7	45.7	37.1	36.2	39.0
40～49歳	150	56.7	56.7	42.0	46.7	40.0	37.3	34.0
50～59歳	146	60.3	50.7	40.4	38.4	40.4	41.8	41.8
60～69歳	158	59.5	65.8	43.7	34.8	41.1	44.3	34.8
70歳以上	138	57.2	52.9	46.4	46.4	34.8	39.1	31.9
女性/合計	1,015	62.1	57.3	55.4	53.0	46.7	38.5	36.2
18～19歳	9	44.4	55.6	88.9	77.8	33.3	33.3	44.4
20～29歳	95	61.1	56.8	68.4	66.3	49.5	42.1	42.1
30～39歳	155	63.9	57.4	69.0	71.0	51.6	38.1	48.4
40～49歳	214	61.2	52.8	51.9	54.2	45.3	37.9	32.7
50～59歳	204	68.6	58.3	51.0	49.5	43.1	40.7	32.4
60～69歳	162	62.3	58.0	50.6	41.4	47.5	42.6	30.2
70歳以上	172	55.8	62.2	47.7	41.3	46.5	32.0	36.0

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

(次ページに続く)

図表 2-8-2 学校での男女平等教育の意識(性・年齢別)(その1)

単位：％

区分	校長・副校長などに女性を積極的に登用する	若年層における交際相手からの暴力（デートDV）を防止するための教育を充実する	制服や整列などを男女で分ける習慣をなくす	男女別名簿に代えて、男女混合名簿にする	P T A などを通じ、男女平等教育の理解と協力を深める	その他	特に必要ない	無回答
全 体	31.0	29.1	22.5	19.7	13.4	2.3	3.3	2.9
男性／合計	29.6	21.9	19.8	18.7	14.1	2.0	4.3	2.6
18～19 歳	50.0	33.3	16.7	16.7	33.3	—	16.7	—
20～29 歳	18.5	20.4	20.4	16.7	5.6	3.7	9.3	1.9
30～39 歳	23.8	24.8	16.2	19.0	8.6	1.9	4.8	—
40～49 歳	36.0	26.7	24.7	18.7	12.0	2.7	4.7	1.3
50～59 歳	32.9	19.2	21.9	21.9	11.6	3.4	4.1	2.7
60～69 歳	29.1	21.5	15.8	16.5	13.3	0.6	2.5	2.5
70 歳以上	28.3	18.1	20.3	18.8	26.8	0.7	3.6	6.5
女性／合計	32.3	34.8	24.6	20.7	13.1	2.7	1.9	2.2
18～19 歳	33.3	55.6	33.3	44.4	22.2	22.2	—	—
20～29 歳	40.0	44.2	33.7	32.6	14.7	2.1	1.1	—
30～39 歳	36.1	45.8	32.3	23.9	12.3	1.3	2.6	—
40～49 歳	32.2	32.2	27.1	21.5	9.8	3.7	2.3	0.9
50～59 歳	30.9	35.3	26.0	23.5	12.7	3.9	1.5	1.5
60～69 歳	30.2	30.2	21.0	19.8	11.7	1.9	1.9	1.2
70 歳以上	27.9	25.0	11.6	7.0	18.0	0.6	1.7	8.7

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性 18～19 歳、女性 18～19 歳は参考扱いとする。

図表 2-8-2 学校での男女平等教育の意識（性・年齢別）（その 2）

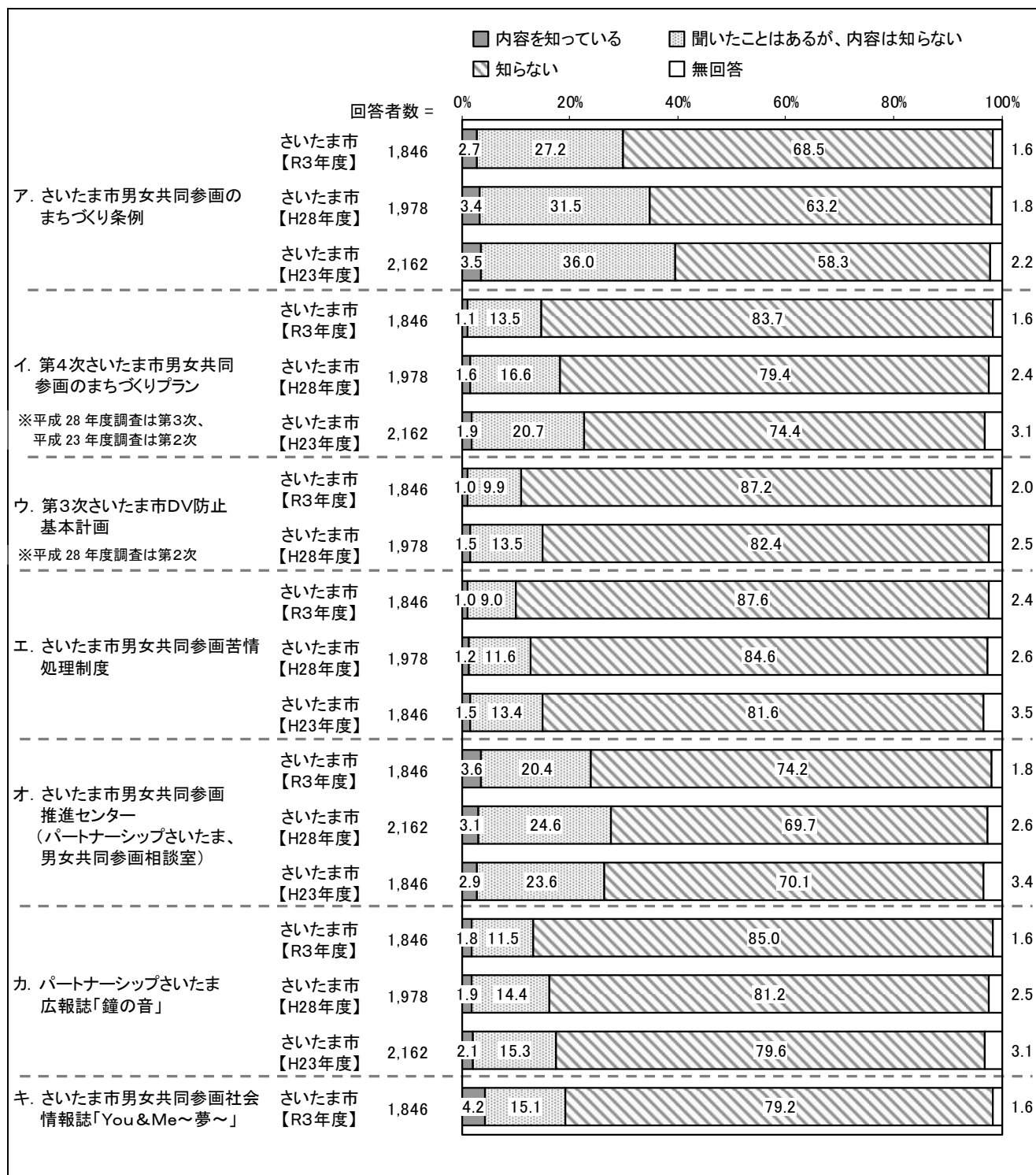
○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、男性では 50～59 歳、70 歳以上を除いた年齢で「生徒指導や進路指導において男女の区別なく能力や個性を生かせるようにする」と回答した人の割合が最も高くなっている。また、女性 20～29 歳では「男女が互いの性を理解するための教育を充実する」、30～39 歳では「性の多様性について正しく理解するための教育を充実する」、40～49 歳、50～59 歳、60～69 歳では「学習や指導の場で男女平等意識を育てていく」と回答した人の割合が最も高くなっている。

9 市の男女共同参画の推進に関する施策について

(1) 市の施策や制度の認知度

問25. あなたは、次にあげる言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。
(ア～キのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)

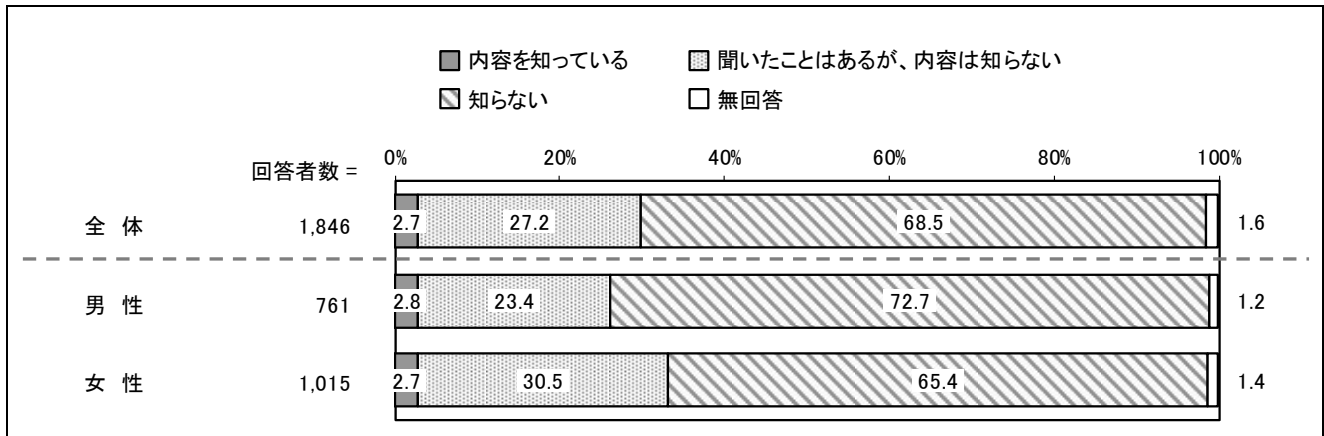


図表 2-9-1 市の施策や制度の認知度

○全体の傾向

市が行っている7つの男女共同参画推進施策や制度に関する言葉について、いずれも「知っている」の割合は数パーセントとなっている。一方、「知らない」の割合は、『第4次さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン』、『第3次さいたま市DV防止基本計画』、『さいたま市男女共同参画苦情処理制度』、『パートナーシップさいたま広報紙「鐘の音」』で特に高く、8割を超えている。

ア. さいたま市男女共同参画のまちづくり条例

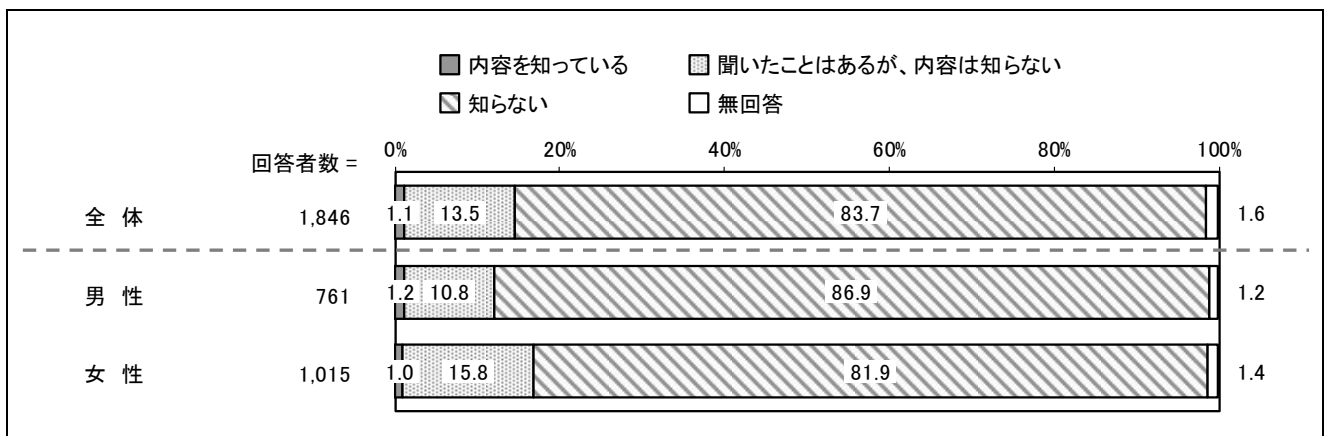


図表 2-9-2 「さいたま市男女共同参画のまちづくり条例」の認知度（性別）

○性別の傾向

性別で見ると、男性（72.7%）は「知らない」の割合が7割を超え、女性に比べ7.3ポイント高くなっている。また、女性（30.5%）は「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が高く、男性に比べ7.1ポイント高くなっている。

イ. 第4次さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン

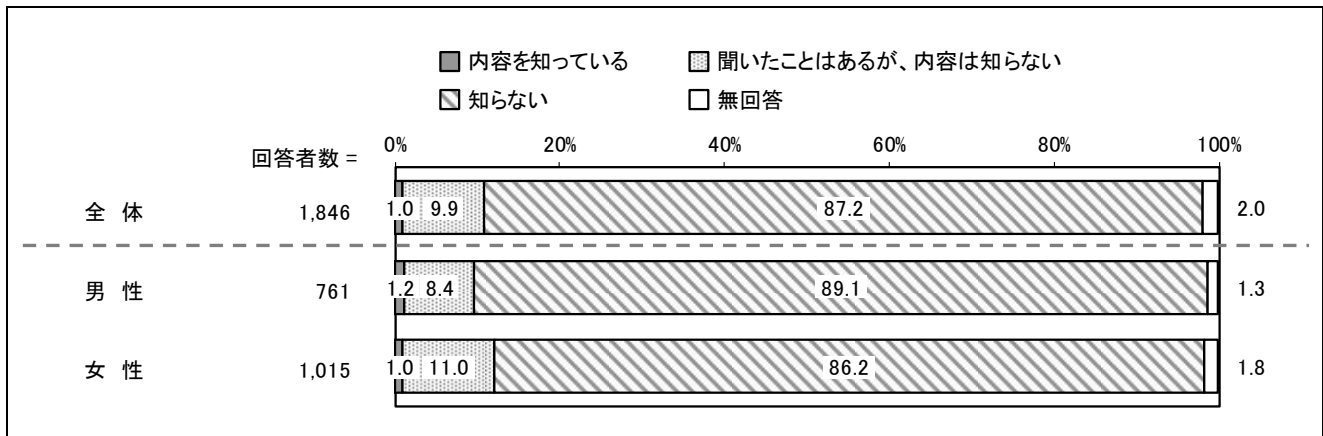


図表 2-9-3 「第4次さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン」の認知度（性別）

○性別の傾向

性別で見ると、男性（86.9%）は「知らない」の割合が8割半ばと、女性に比べ5.0ポイント高くなっている。また、女性（15.8%）は「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が高く、男性に比べ5.0ポイント高くなっている。

ウ. 第3次さいたま市DV防止基本計画

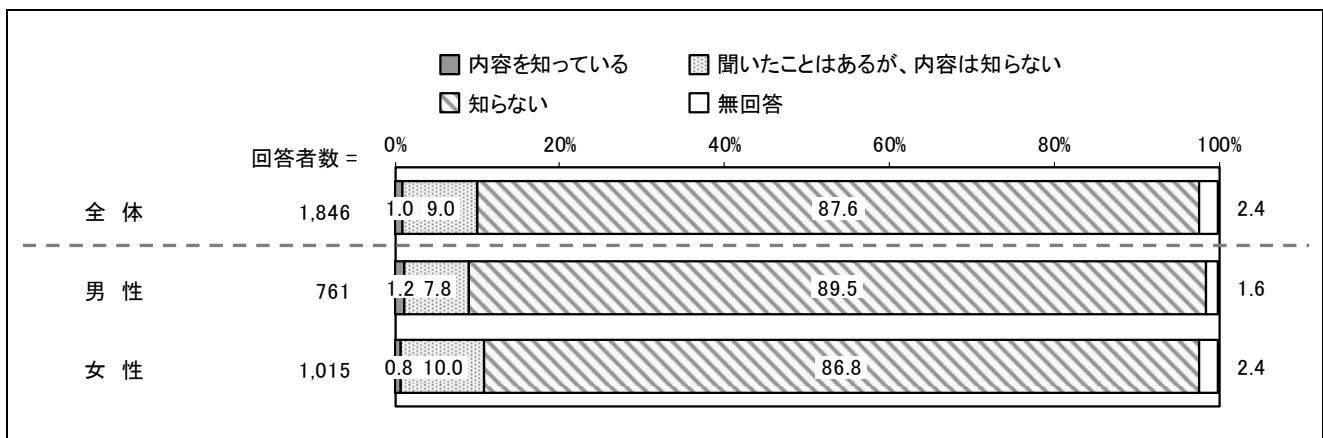


図表 2-9-4 「第3次さいたま市DV防止基本計画」の認知度（性別）

○性別の傾向

性別で見ると、男性（89.1%）は「知らない」の割合が約9割と、女性に比べ2.9ポイント高くなっている。また、女性（11.0%）は「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が高く、男性に比べ2.6ポイント高くなっている。

エ. さいたま市男女共同参画苦情処理制度

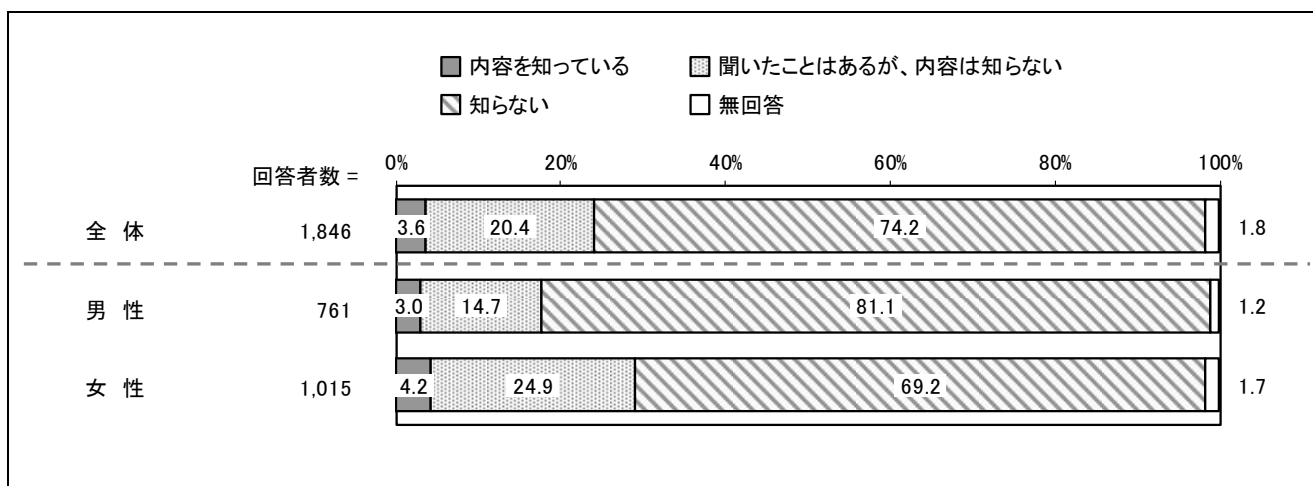


図表 2-9-5 「さいたま市男女共同参画苦情処理制度」の認知度（性別）

○性別の傾向

性別で見ると、男性（89.5%）は「知らない」の割合が約9割と、女性に比べ2.7ポイント高くなっている。また、女性（10.0%）は「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が高く、男性に比べ2.2ポイント高くなっている。

オ. さいたま市男女共同参画推進センター（パートナーシップさいたま、男女共同参画相談室）

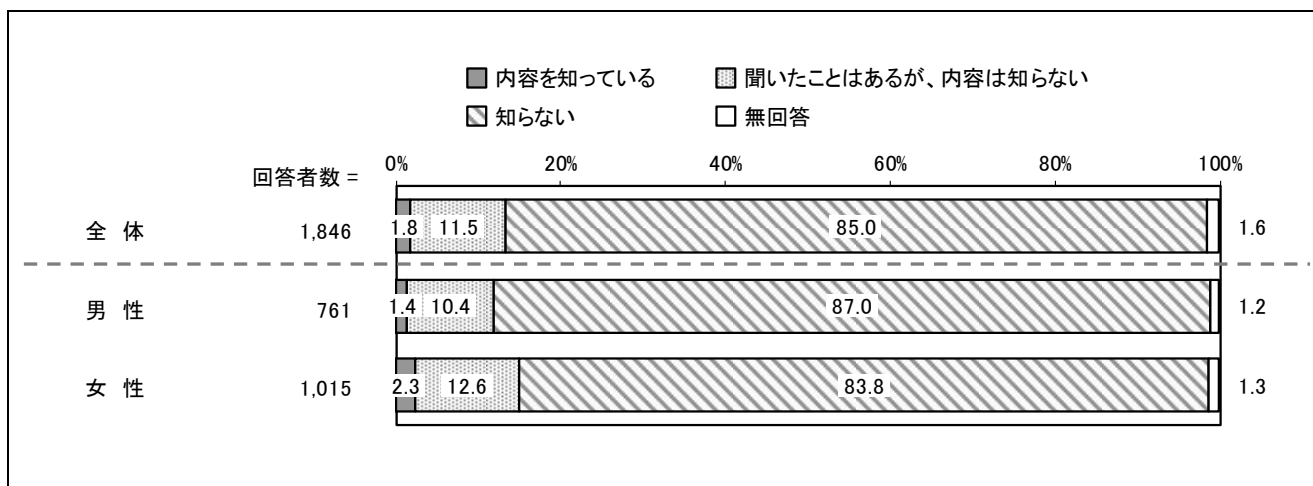


図表 2-9-6 「さいたま市男女共同参画推進センター（パートナーシップさいたま、男女共同参画相談室）」の認知度（性別）

○性別の傾向

性別で見ると、男性（81.1%）は「知らない」の割合が8割を超え、女性に比べ11.9ポイント高くなっている。また、女性（24.9%）は「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が高く、男性に比べ10.2ポイント高くなっている。

カ. パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」

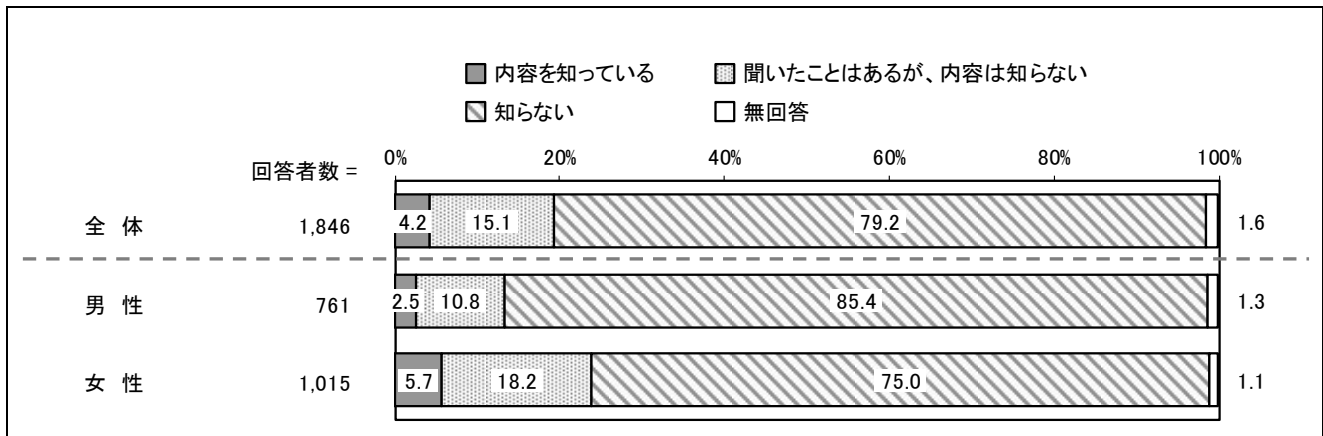


図表 2-9-7 「パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」」の認知度（性別）

○性別の傾向

性別で見ると、男性（87.0%）は「知らない」の割合が高く、女性に比べ3.2ポイント高くなっている。また、女性（12.6%）は「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が高く、男性に比べ2.2ポイント高くなっている。

キ. さいたま市男女共同参画社会情報誌「Y o u & M e ~ 夢 ~」



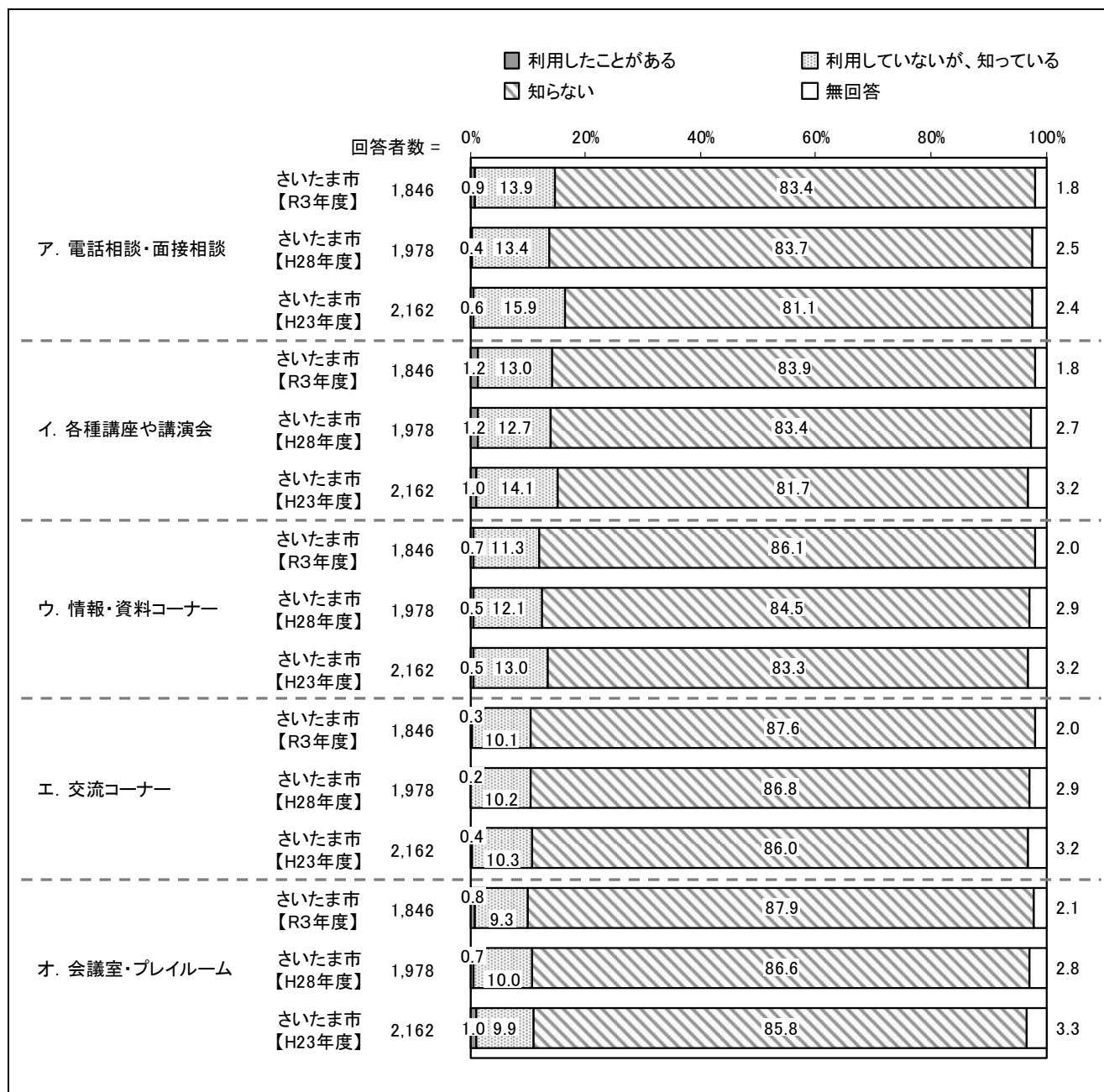
図表 2-9-8 「さいたま市男女共同参画社会情報誌「Y o u & M e ~ 夢 ~」」の認知度（性別）

○性別の傾向

性別で見ると、男性（85.4%）は「知らない」の割合が8割を超え、女性に比べ10.4ポイント高くなっている。また、女性（18.2%）は「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が高く、男性に比べ7.4ポイント高くなっている。

(2) 男女共同参画推進センターの利用経験

問26. さいたま市には男女共同参画を推進するための拠点施設として、「さいたま市男女共同参画推進センター（パートナーシップさいたま、男女共同参画相談室）」があります。あなたは、この施設を利用したことがありますか。
 (ア～オのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)

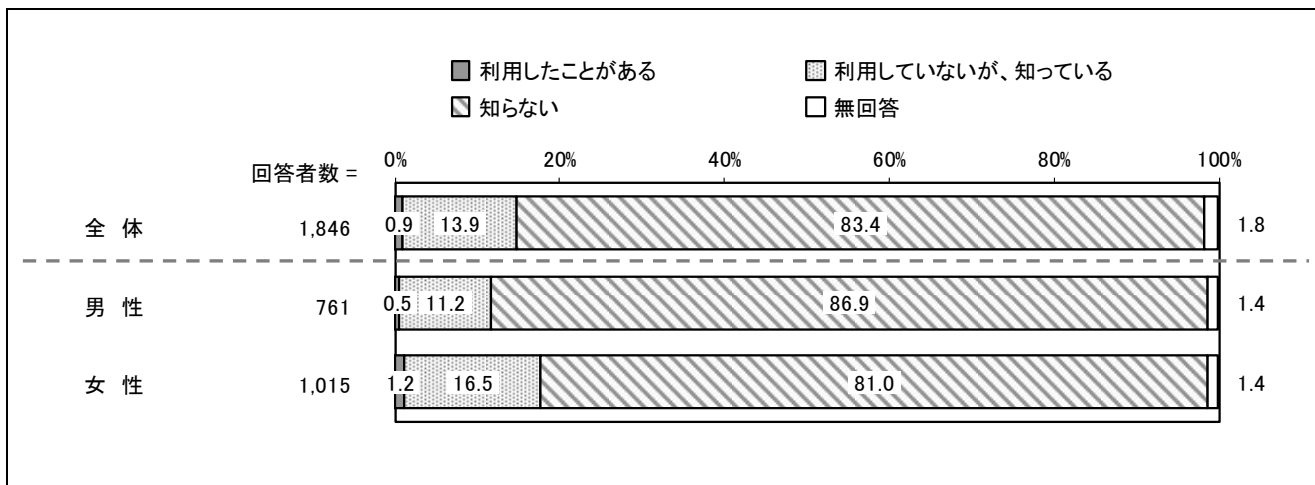


図表 2-9-9 男女共同参画推進センターの利用経験

○全体の傾向

男女共同参画センターの利用経験について、いずれも「知らない」の割合が8割を超えている。一方、「利用したことがある」の割合はすべての項目で1割を下回っている。

ア. 電話相談・面接相談

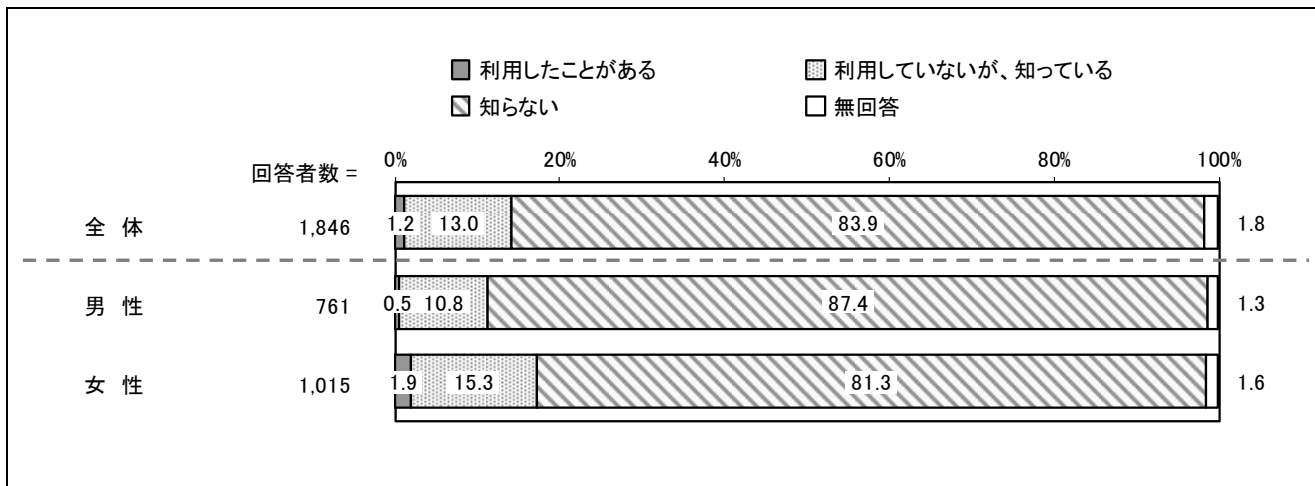


図表 2-9-10 「電話相談・面接相談」の利用経験（性別）

○性別の傾向

性別で見ると、男性（86.9%）は「知らない」の割合が8割半ばと、女性に比べ5.9ポイント高くなっている。また、女性（16.5%）は「利用していないが、知っている」の割合が、男性に比べ5.3ポイント高くなっている。

イ. 各種講座や講演会

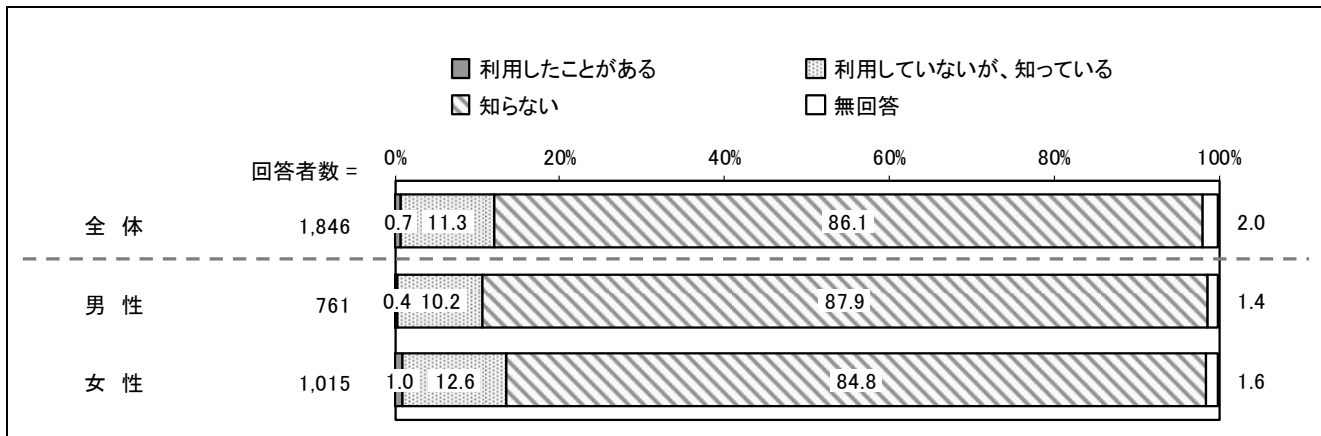


図表 2-9-11 「各種講座や講演会」の利用経験（性別）

○性別の傾向

性別で見ると、男性（87.4%）は「知らない」の割合が8割半ばと、女性に比べ6.1ポイント高くなっています。また、女性（15.3%）は「利用していないが、知っている」の割合が高く、男性に比べ4.5ポイント高くなっている。

ウ. 情報・資料コーナー

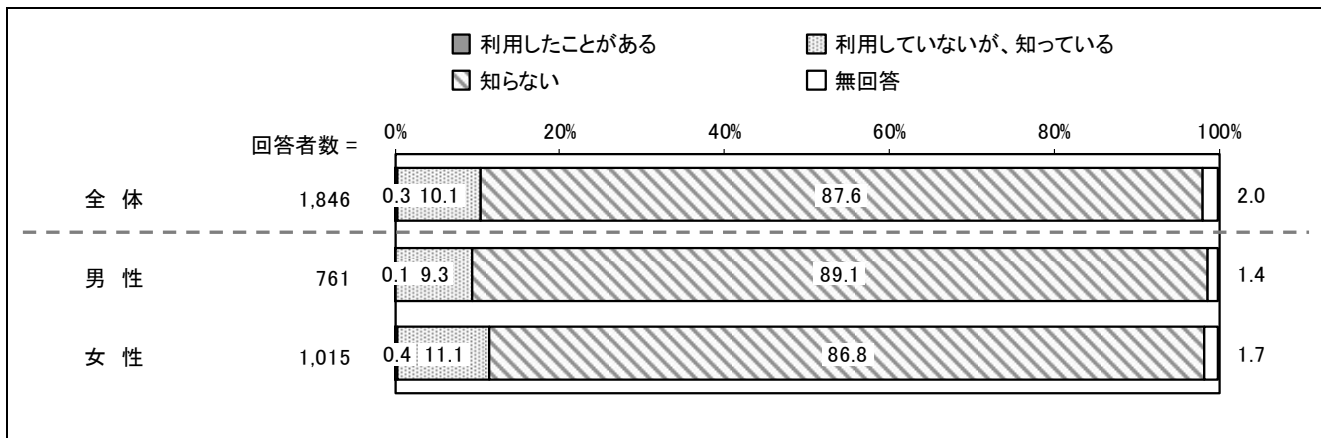


図表 2-9-12 「情報・資料コーナー」の利用経験（性別）

○性別の傾向

性別でみると、男性（87.9%）は「知らない」の割合が8割半ばと、女性に比べ3.1ポイント高くなっている。また、女性（12.6%）は「利用していないが、知っている」の割合が高く、男性に比べ2.4ポイント高くなっている。

エ. 交流コーナー

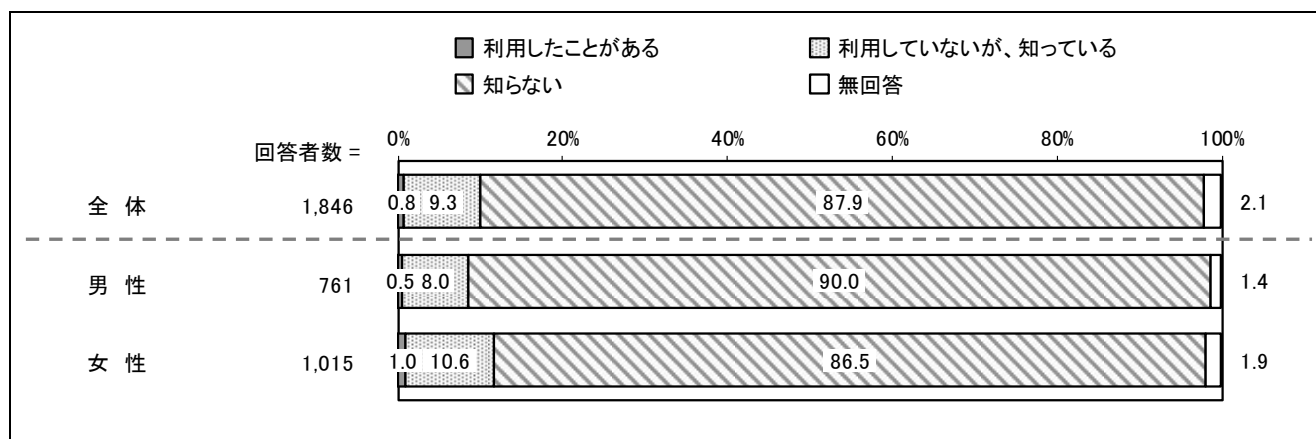


図表 2-9-13 「交流コーナー」の利用経験（性別）

○性別の傾向

性別でみると、男性（89.1%）は「知らない」の割合が約9割と、女性に比べ2.3ポイント高くなっている。また、女性（11.1%）は「利用していないが、知っている」の割合が高く、男性に比べ1.8ポイント高くなっている。

オ. 会議室・プレイルーム



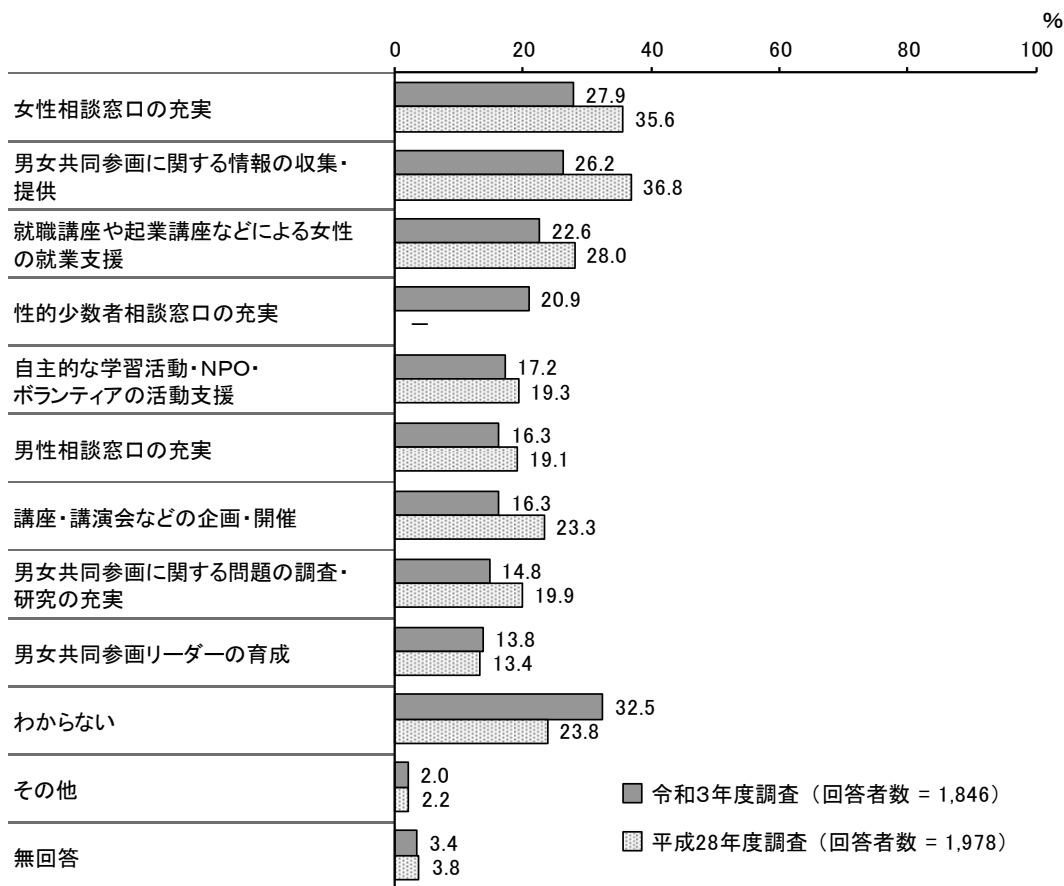
図表 2-9-14 「会議室・プレイルーム」の利用経験（性別）

○性別の傾向

性別で見ると、男性（90.0%）は「知らない」の割合が9割と、女性に比べ3.5ポイント高くなっている。また、女性（10.6%）は「利用していないが、知っている」の割合が高く、男性に比べ2.6ポイント高くなっている。

(3) 男女共同参画推進センターに期待すること

問27. あなたは、「男女共同参画推進センター（パートナーシップさいたま、男女共同参画相談室）」にどのような事業を期待しますか。（〇はいくつでも）



(注記)

平成28年度調査には「性的少数者相談窓口の充実」の選択肢はなく、令和3年度に追加されたものである。

図表 2-9-15 男女共同参画推進センターに期待すること

○全体の傾向・経年変化

「女性相談窓口の充実」と回答した人の割合が27.9%と最も高く、「男女共同参画に関する情報の収集・提供」(26.2%)、「就職講座や起業講座などによる女性の就業支援」(22.6%)となっている。

平成28年度調査と比較すると、「性的少数者相談窓口の充実」「男女共同参画リーダーの育成」「わからない」の項目を除いたすべての項目で割合が減少している。

単位：％

区分	回答者数(件)	女性相談窓口の充実	男女共同参画に関する情報の収集・提供	就職講座や起業講座などによる女性の就業支援	性的少数者相談窓口の充実	自主的な学習活動・NPO・ボランティアの活動支援	男性相談窓口の充実	講座・講演会などの企画・開催	調査・研究の充実	男女共同参画に関する問題の調査・研究の充実	男女共同参画リーダーの育成	わからない	その他	無回答
全体	1,846	27.9	26.2	22.6	20.9	17.2	16.3	16.3	14.8	13.8	32.5	2.0	3.4	
男性／合計	761	21.8	27.2	16.6	19.3	15.0	15.6	14.2	17.5	17.2	34.2	3.2	3.2	
18～19歳	6	33.3	33.3	—	50.0	33.3	33.3	33.3	33.3	16.7	—	16.7	—	
20～29歳	54	22.2	27.8	18.5	25.9	9.3	20.4	5.6	16.7	9.3	33.3	3.7	1.9	
30～39歳	105	21.9	25.7	15.2	21.9	13.3	21.0	9.5	17.1	13.3	28.6	5.7	3.8	
40～49歳	150	28.0	32.0	15.3	24.7	11.3	23.3	13.3	19.3	18.0	30.0	5.3	2.0	
50～59歳	146	26.7	21.2	17.1	19.9	12.3	12.3	15.1	19.2	12.3	43.8	1.4	3.4	
60～69歳	158	15.2	31.0	20.3	12.7	22.2	8.9	18.4	17.1	24.1	32.3	1.3	1.9	
70歳以上	138	17.4	25.4	13.8	15.2	16.7	11.6	15.9	14.5	20.3	36.2	2.2	5.8	
女性／合計	1,015	32.7	25.8	27.5	22.2	19.2	16.7	18.1	13.3	11.4	31.4	1.2	2.7	
18～19歳	9	44.4	44.4	11.1	44.4	22.2	44.4	11.1	22.2	22.2	33.3	—	—	
20～29歳	95	49.5	21.1	33.7	29.5	15.8	30.5	7.4	16.8	9.5	31.6	1.1	1.1	
30～39歳	155	29.7	22.6	29.7	31.0	11.0	18.7	10.3	18.7	9.0	32.9	1.9	0.6	
40～49歳	214	34.1	21.5	25.2	24.8	12.6	18.2	17.3	11.7	8.4	36.9	0.9	1.4	
50～59歳	204	30.4	28.9	31.4	21.1	21.6	14.2	23.0	13.2	11.8	30.9	1.0	1.5	
60～69歳	162	31.5	31.5	29.6	16.0	24.1	12.3	22.8	9.3	11.1	29.0	1.2	3.1	
70歳以上	172	27.9	26.7	18.6	12.8	29.1	11.6	21.5	12.2	17.4	26.2	0.6	8.1	

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

図表 2-9-16 男女共同参画推進センターに期待すること（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「女性相談窓口の充実」と回答した人の割合は女性20～29歳が最も高く、約5割となっている。

単位：％

区分	回答者数(件)	女性相談窓口の充実	男女共同参画に関する情報の収集・提供	就職講座や起業講座などによる女性の就業支援	性的少数者相談窓口の充実	ボランティアの活動支援	自主的な学習活動・NPO・ボランティアの活動支援	男性相談窓口の充実	講座・講演会などの企画・開催	調査・研究の充実	男女共同参画に関する問題の調査・研究の充実	男女共同参画リーダーの育成	わからない	その他	無回答
全体	1,846	27.9	26.2	22.6	20.9	17.2	16.3	16.3	14.8	13.8	32.5	2.0	3.4		
利用したことがある	16	37.5	25.0	37.5	43.8	43.8	25.0	43.8	12.5	12.5	12.5	6.3	—		
利用していないが、知っている	257	39.7	35.0	33.9	27.6	26.5	22.6	27.6	25.3	19.8	15.2	0.8	0.8		
知らない	1,540	26.2	24.9	20.8	19.8	15.6	15.4	14.4	13.2	12.8	36.1	2.1	2.5		

図表 2-9-17 男女共同参画推進センターに期待すること（電話相談・面接相談の利用経験別）

○電話相談・面接相談の利用経験別の傾向

電話相談・面接相談の利用経験別でみると、「性的少数者相談窓口の充実」「講座・講演会などの企画・開催」「自主的な学習活動・NPO・ボランティアの活動支援」と回答した人の割合は利用したことがある人で高く、4割半ばとなっている。

単位：％

区分	回答者数(件)	女性相談窓口の充実	男女共同参画に関する情報の収集・提供	就職講座や起業講座などによる女性の就業支援	性的少数者相談窓口の充実	ボランティアの活動支援	自主的な学習活動・NPO・ボランティアの活動支援	男性相談窓口の充実	講座・講演会などの企画・開催	調査・研究の充実	男女共同参画に関する問題の調査・研究の充実	男女共同参画リーダーの育成	わからない	その他	無回答
全体	1,846	27.9	26.2	22.6	20.9	17.2	16.3	16.3	14.8	13.8	32.5	2.0	3.4		
利用したことがある	23	26.1	39.1	26.1	26.1	30.4	17.4	65.2	13.0	17.4	4.3	4.3	4.3		
利用していないが、知っている	240	36.7	34.2	35.8	27.5	30.8	20.0	30.0	25.4	20.4	15.8	0.4	—		
知らない	1,549	26.9	25.0	20.7	20.1	15.0	15.9	13.7	13.4	12.8	36.0	2.2	2.5		

図表 2-9-18 男女共同参画推進センターに期待すること（各種講座や講演会の利用経験別）

○各種講座や講演会の利用経験別の傾向

各種講座や講演会の利用経験別でみると、「講座・講演会などの企画・開催」と回答した人の割合は利用したことがある人で高く、6割半ばとなっている。

単位：％

区分	回答者数(件)	女性相談窓口の充実	男女共同参画に関する情報の収集・提供	就職講座や起業講座などによる女性の就業支援	性的少数者相談窓口の充実	ボランティアの活動支援	自主的な学習活動・NPO・男性相談窓口の充実	講座・講演会などの企画・開催	調査・研究の充実	男女共同参画に関する問題の調査・研究の充実	男女共同参画リーダーの育成	わからない	その他	無回答
全体	1,846	27.9	26.2	22.6	20.9	17.2	16.3	16.3	14.8	13.8	32.5	2.0	3.4	
利用したことがある	13	38.5	30.8	30.8	30.8	23.1	23.1	53.8	23.1	7.7	15.4	—	—	
利用していないが、知っている	208	38.9	34.6	34.6	29.8	27.9	23.6	31.7	25.5	19.2	13.9	0.5	0.5	
知らない	1,589	26.7	25.3	21.1	20.0	15.9	15.5	14.2	13.5	13.2	35.6	2.2	2.5	

図表 2-9-19 男女共同参画推進センターに期待すること（情報・資料コーナーの利用経験別）

○情報・資料コーナーの利用経験別の傾向

情報・資料コーナーの利用経験別でみると、「講座・講演会などの企画・開催」と回答した人の割合は利用したことがある人で高く、5割半ばとなっている。

単位：％

区分	回答者数(件)	女性相談窓口の充実	男女共同参画に関する情報の収集・提供	就職講座や起業講座などによる女性の就業支援	性的少数者相談窓口の充実	ボランティアの活動支援	自主的な学習活動・NPO・男性相談窓口の充実	講座・講演会などの企画・開催	調査・研究の充実	男女共同参画に関する問題の調査・研究の充実	男女共同参画リーダーの育成	わからない	その他	無回答
全体	1,846	27.9	26.2	22.6	20.9	17.2	16.3	16.3	14.8	13.8	32.5	2.0	3.4	
利用したことがある	5	40.0	20.0	40.0	60.0	40.0	40.0	60.0	20.0	40.0	—	—	20.0	
利用していないが、知っている	186	38.2	34.4	34.9	30.1	25.8	22.0	32.3	24.2	20.4	14.5	0.5	—	
知らない	1,618	27.1	25.4	21.3	20.1	16.4	15.8	14.6	13.9	13.0	35.2	2.2	2.4	

図表 2-9-20 男女共同参画推進センターに期待すること（交流コーナーの利用経験別）

○交流コーナーの利用経験別の傾向

交流コーナーの利用経験別でみると、「女性相談窓口の充実」と回答した人の割合は利用していないが、知っている人で高く、約4割となっている。

単位：％

区分	回答者数(件)	女性相談窓口の充実	男女共同参画に関する情報の収集・提供	就職講座や起業講座などによる女性の就業支援	性的少数者相談窓口の充実	自主的な学習活動・NPO・ボランティアの活動支援	男性相談窓口の充実	講座・講演会などの企画・開催	調査・研究の充実	男女共同参画に関する問題の調査・研究の充実	男女共同参画リーダーの育成	わからない	その他	無回答
全 体	1,846	27.9	26.2	22.6	20.9	17.2	16.3	16.3	14.8	13.8	32.5	2.0	3.4	
利用したことがある	14	21.4	28.6	64.3	21.4	42.9	14.3	50.0	21.4	14.3	7.1	—	—	
利用していないが、知っている	171	38.6	33.9	32.7	31.0	26.3	21.6	33.3	25.1	19.9	13.5	0.6	0.6	
知らない	1,622	27.3	25.5	21.4	20.2	16.2	16.0	14.4	13.8	13.2	35.3	2.2	2.4	

図表 2-9-21 男女共同参画推進センターに期待すること（会議室・プレイルームの利用経験別）

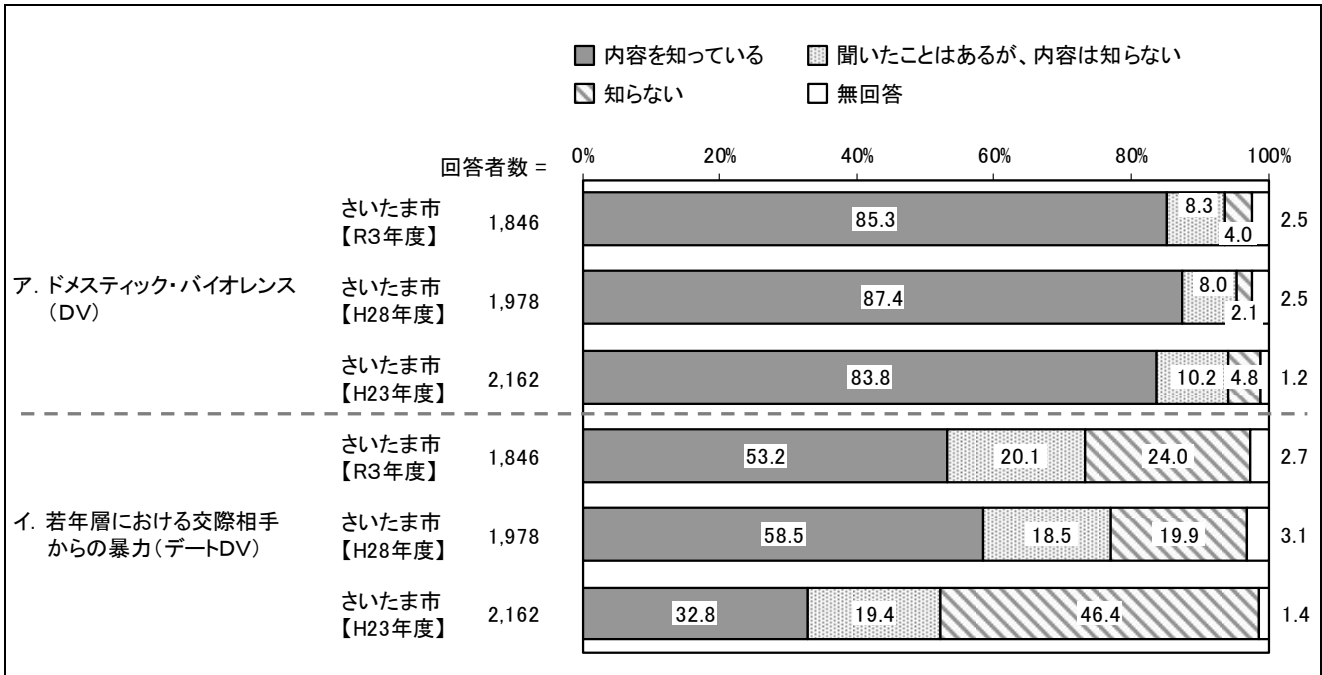
○会議室・プレイルームの利用経験別の傾向

会議室・プレイルームの利用経験別でみると、「就職講座や起業講座などによる女性の就業支援」と回答した人の割合は利用したことがある人で高く、6割半ばとなっている。

10 配偶者などからの暴力について

(1) 暴力に関する言葉の認知度

問28. あなたは、次にあげる言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。
(ア、イのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)



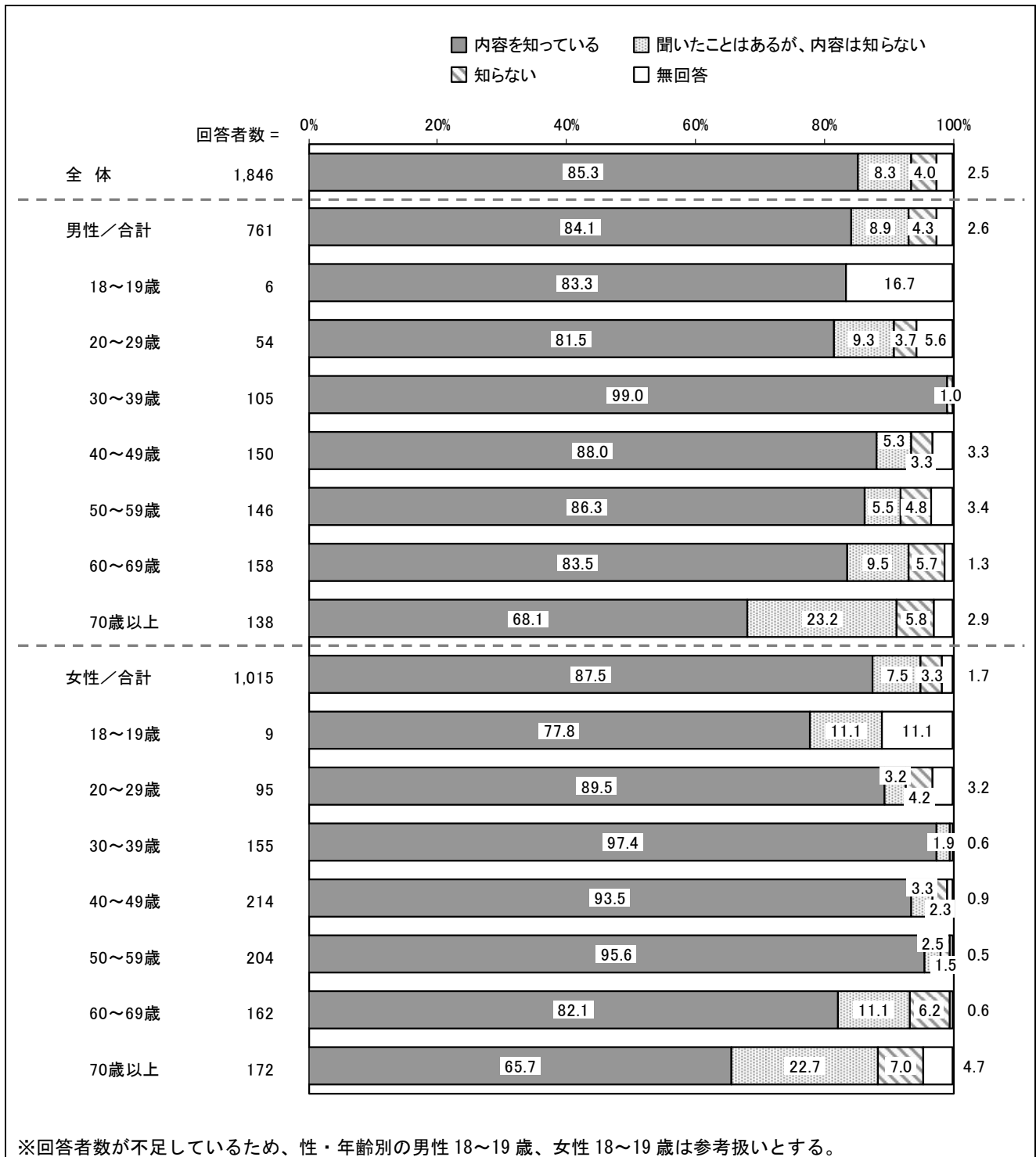
図表 2-10-1 暴力に関する言葉の認知度

○全体の傾向・経年変化

『ドメスティック・バイオレンス (DV)』の「内容を知っている」の割合は85.3%、『若年層における交際相手からの暴力 (デートDV)』の「内容を知っている」の割合は53.2%となっている。

過去の調査と比較すると、『ドメスティック・バイオレンス (DV)』『若年層における交際相手からの暴力 (デートDV)』ともに「内容を知っている」の割合は増加傾向にあるものの、平成28年度調査と比べると、『ドメスティック・バイオレンス (DV)』は2.1ポイント、『若年層における交際相手からの暴力 (デートDV)』は5.3ポイント減少している。

ア. ドメスティック・バイオレンス（DV）

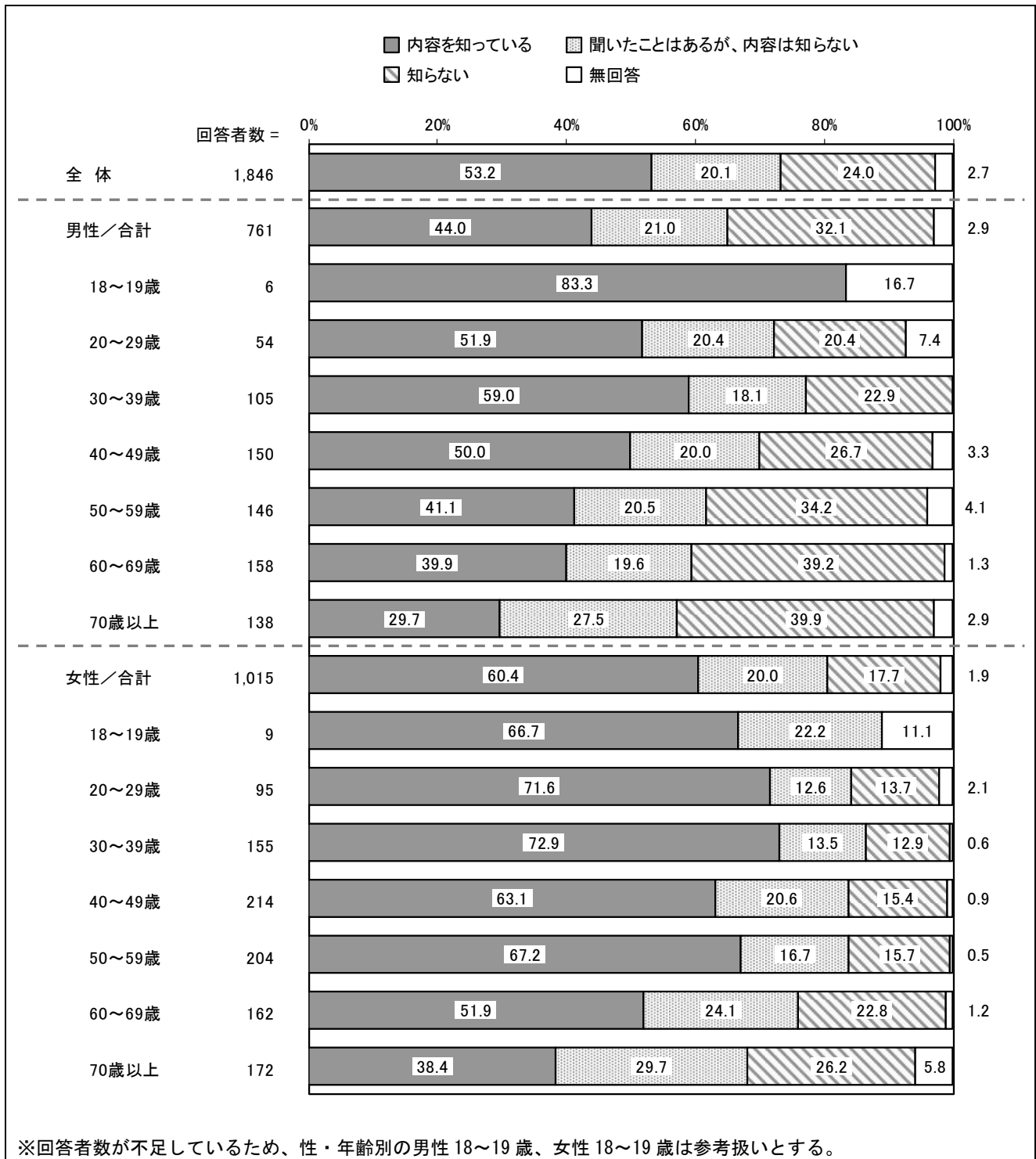


図表 2-10-2 「ドメスティック・バイオレンス（DV）」という言葉の認知度（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「内容を知っている」の割合は男性30～39歳、女性30～39歳と40～49歳と50～59歳で、9割を超えている。一方、男女ともに70歳以上で「内容を知っている」の割合は低く、7割を下回っている。

イ. 若年層における交際相手からの暴力（デートDV）



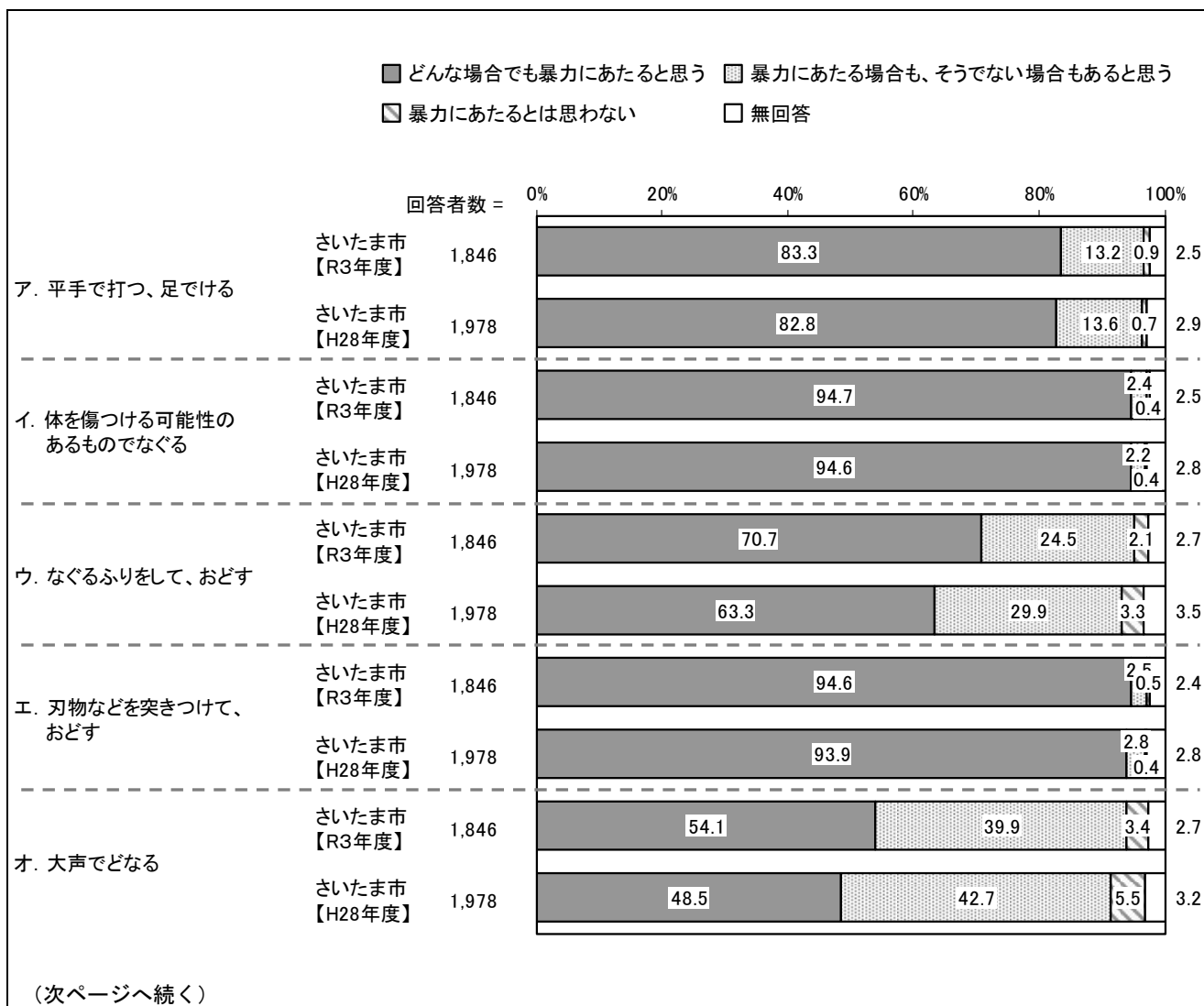
図表 2-10-3 「若年層における交際相手からの暴力（デートDV）」という言葉の認知度（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

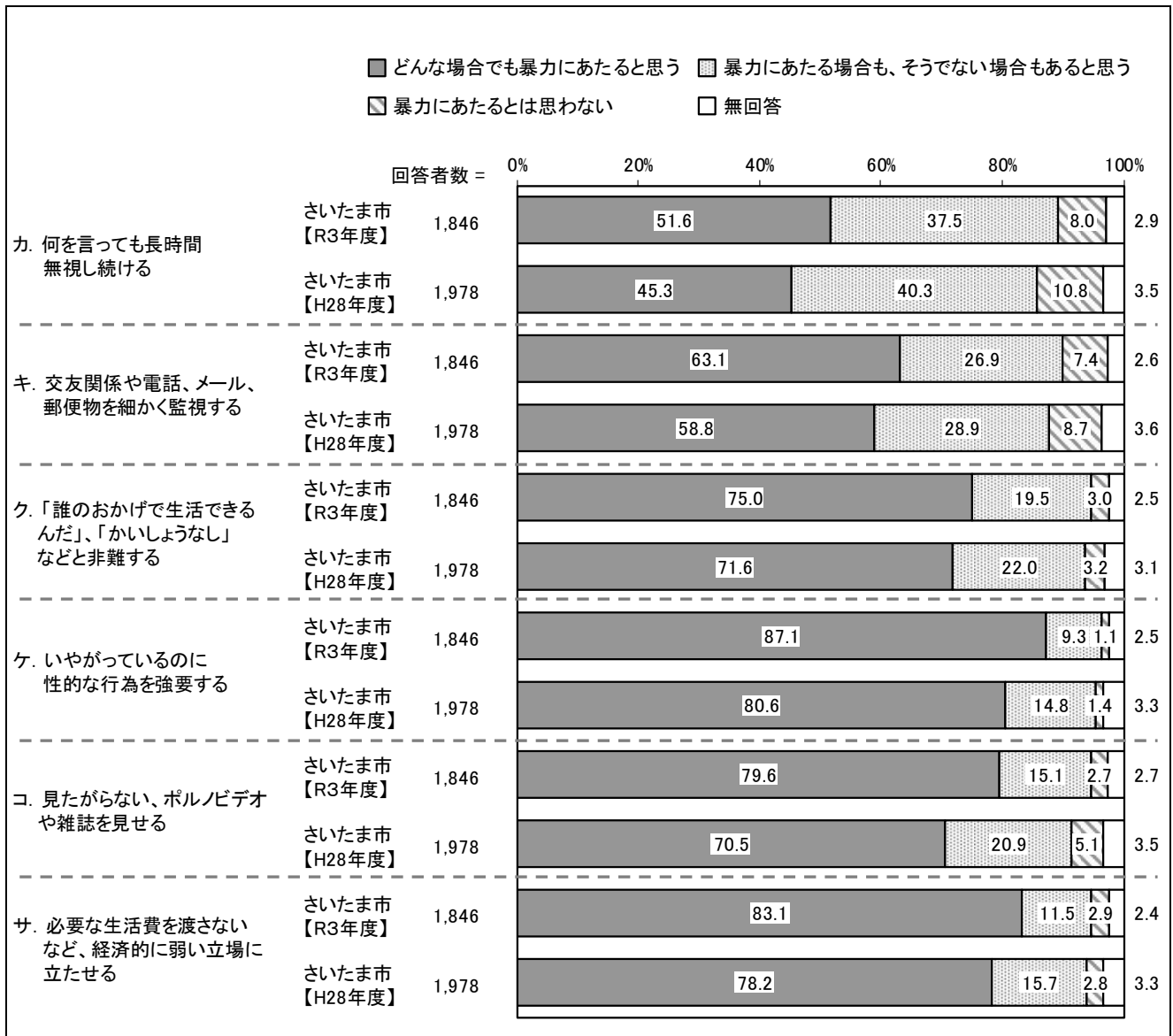
性・年齢別でみると、「内容を知っている」の割合は女性 20～29 歳と 30～39 歳で、7 割を超えている。一方、男女ともに年齢が高くなるにつれて「内容を知っている」の割合は低くなる傾向がみられ、特に男性の 70 歳以上で約 3 割となっている。

(2) 暴力として認知される行為

問29. あなたは、次のようなことが配偶者などの間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。(ア～サのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)



図表 2-10-4 暴力として認知される行為 (その1)

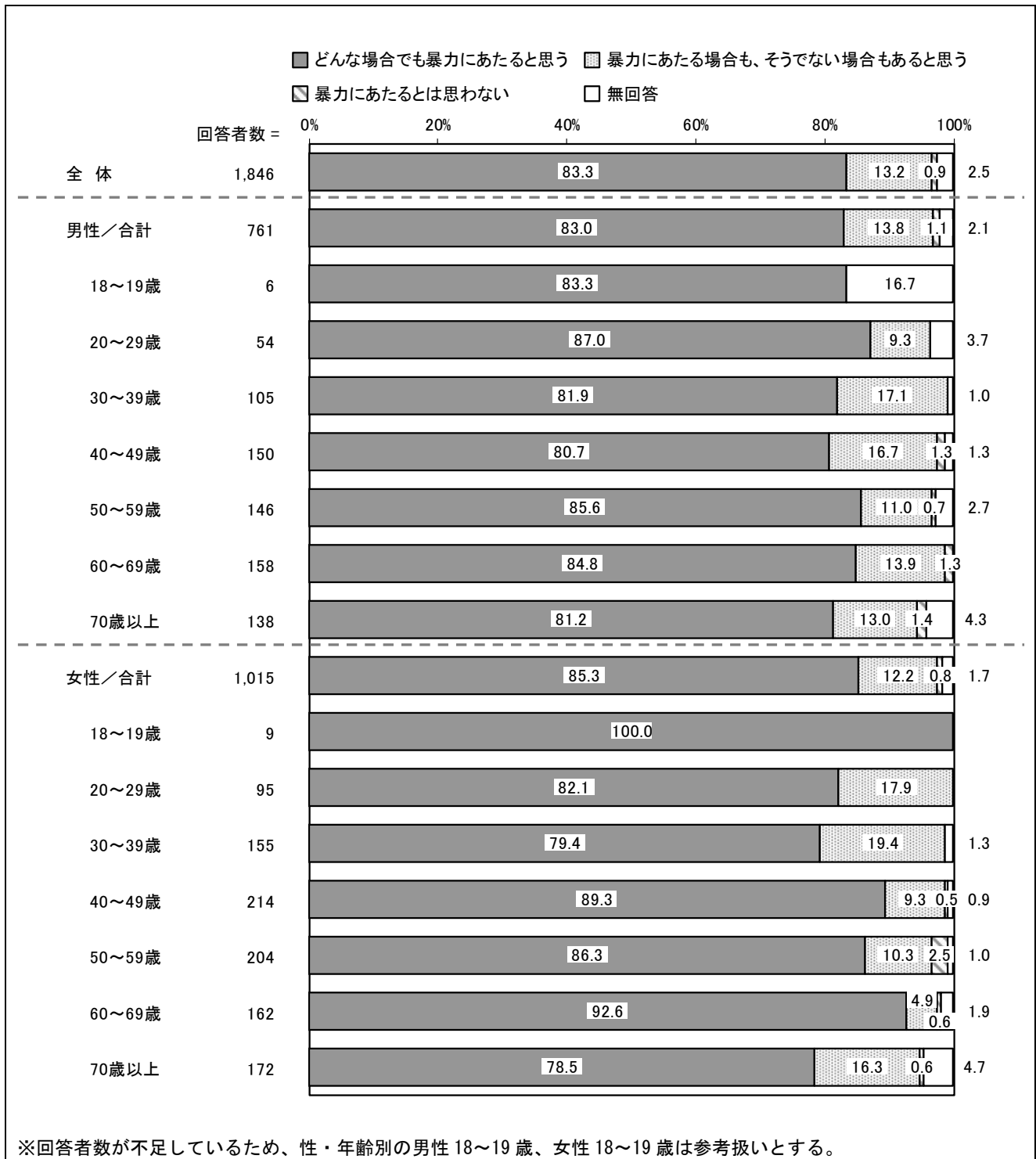


図表 2-10-4 暴力として認知される行為（その2）

○全体の傾向

配偶者などに対して行われた行為で暴力にあたる行為は、『体を傷つける可能性のあるものでなく』『刃物などを突きつけて、おどす』は「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が9割を超え、『平手で打つ、足でける』『いやがっているのに性的な行為を強要する』『必要な生活費を渡さないなど、経済的に弱い立場に立たせる』なども8割を超えている。一方、『大声でどなる』『何を言っても長時間無視し続ける』は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が約5割となっている。

ア. 平手で打つ、足でける

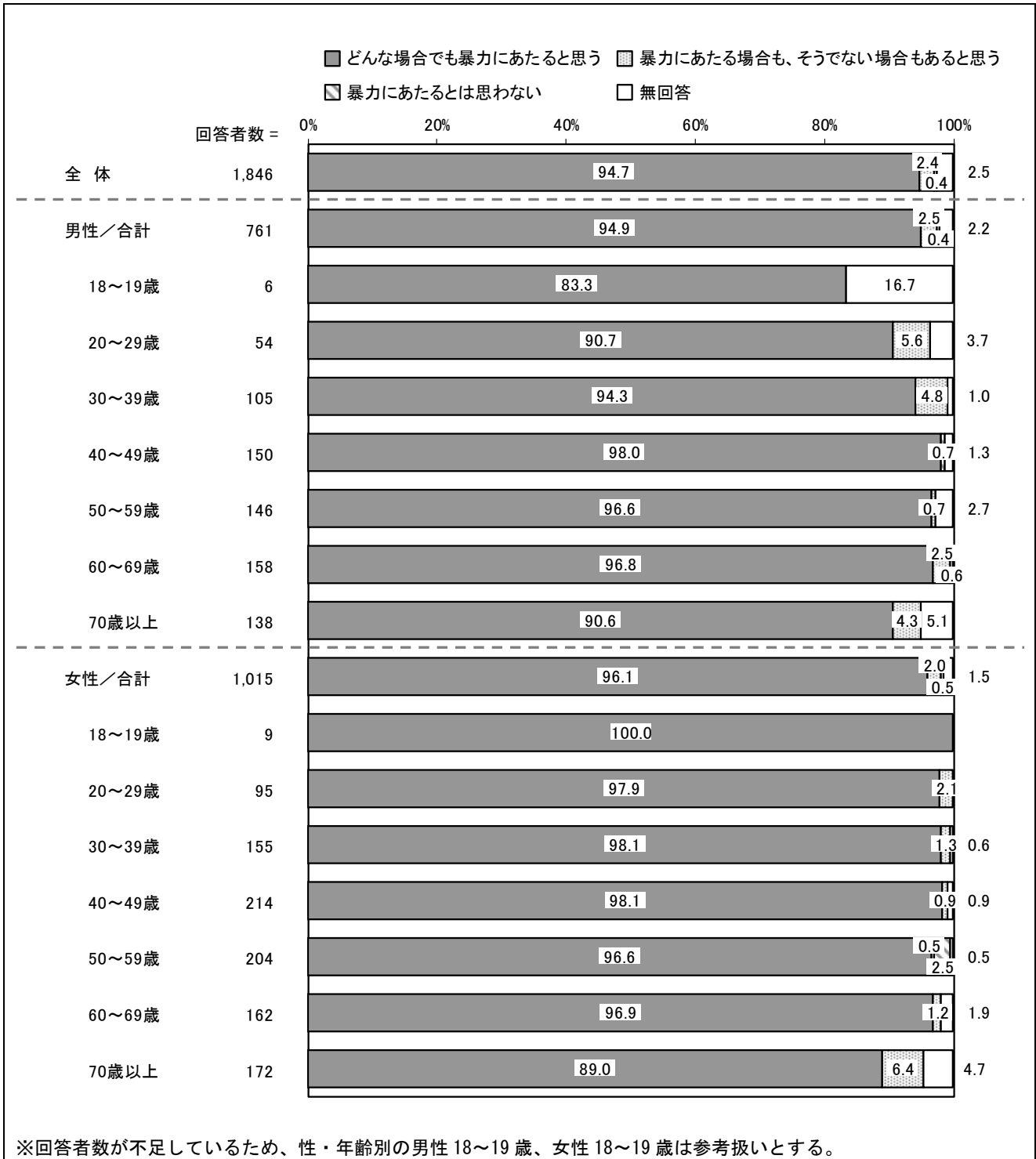


図表 2-10-5 暴力として認知される行為（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は女性の60～69歳で9割を超えている。一方、女性の30～39歳で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高く、約2割となっている。

イ. 体を傷つける可能性のあるものでなく

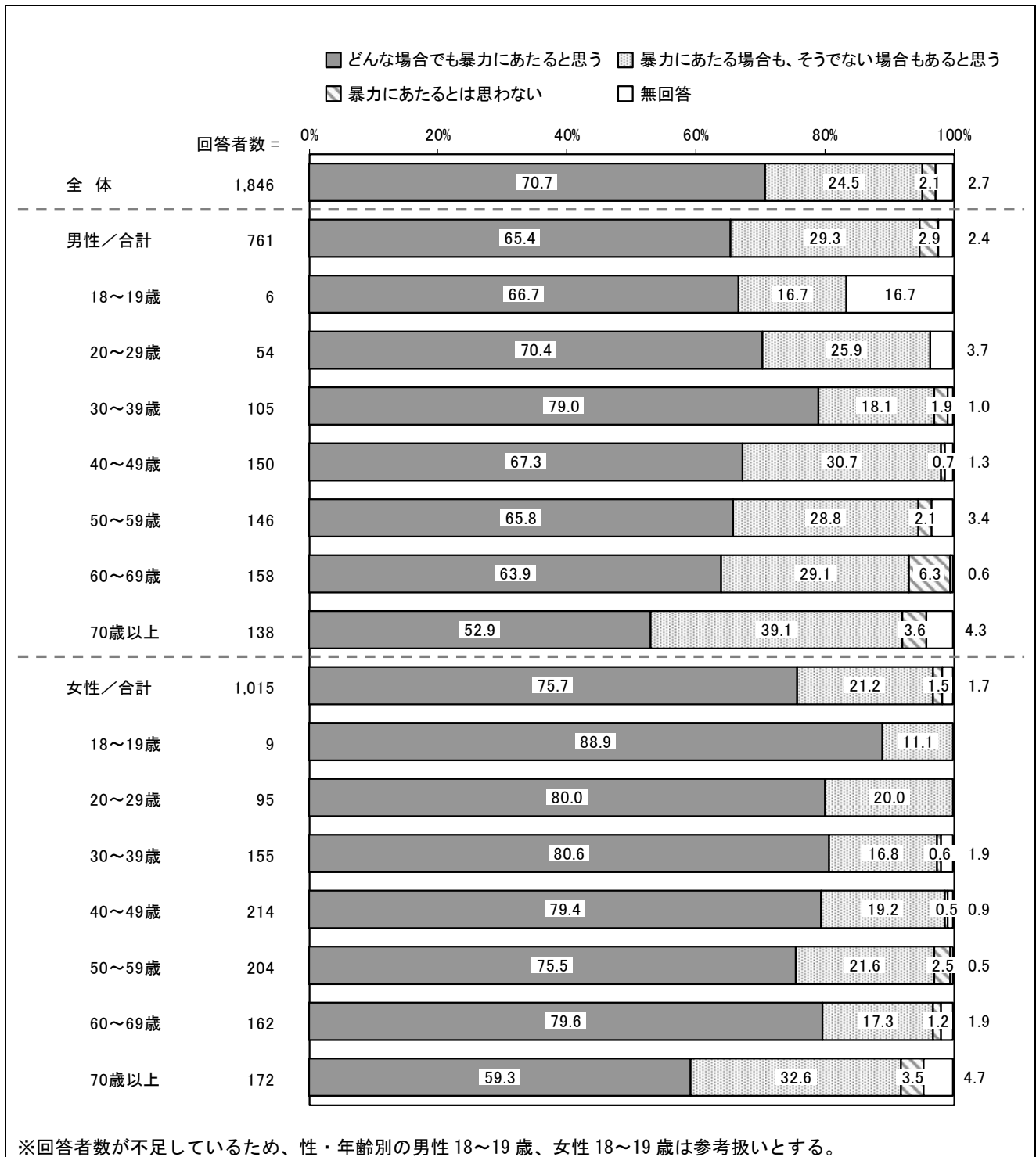


図表 2-10-6 暴力として認知される行為（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、女性の70歳以上を除き「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が9割を超えている。

ウ. なぐるふりをして、おどす

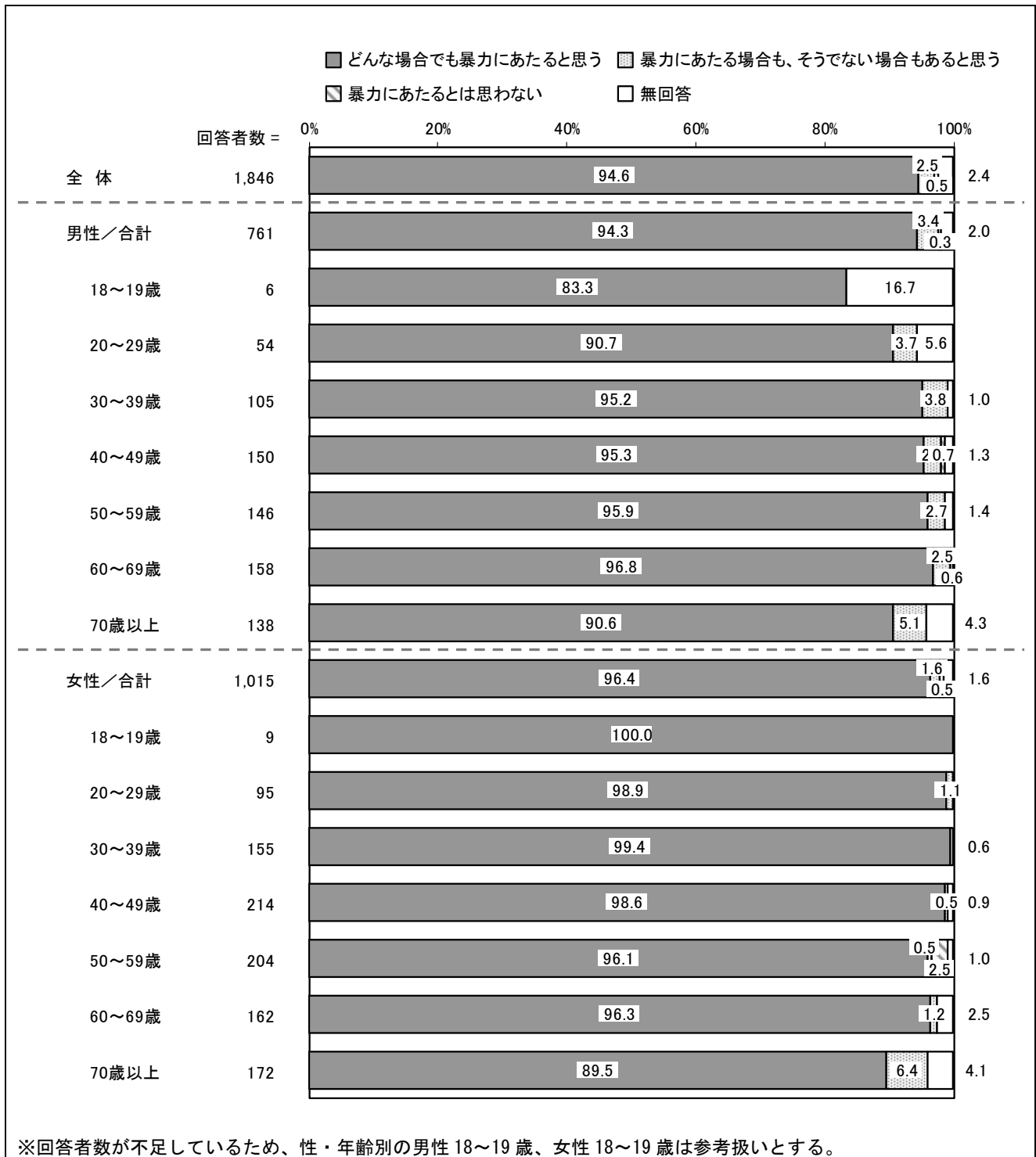


図表 2-10-7 暴力として認知される行為（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は男性30～39歳、女性20～29歳、30～39歳、40～49歳、60～69歳で約8割となっている。一方、男女ともに70歳以上で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高く、男性の70歳以上では約4割となっている。

エ. 刃物などを突きつけて、おどす

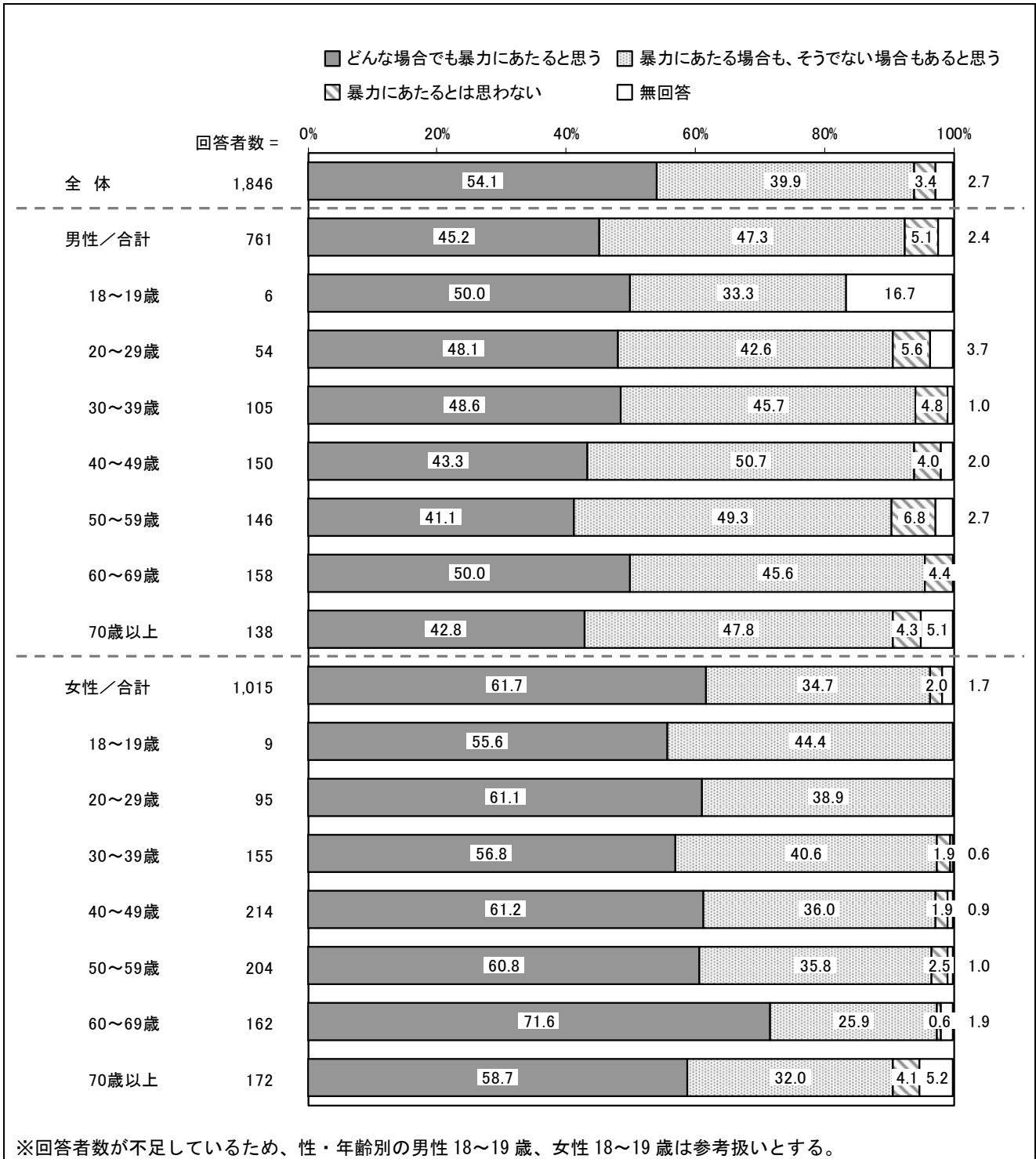


図表 2-10-8 暴力として認知される行為 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、女性の70歳以上を除き「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が9割を超えている。

オ. 大声でどなる

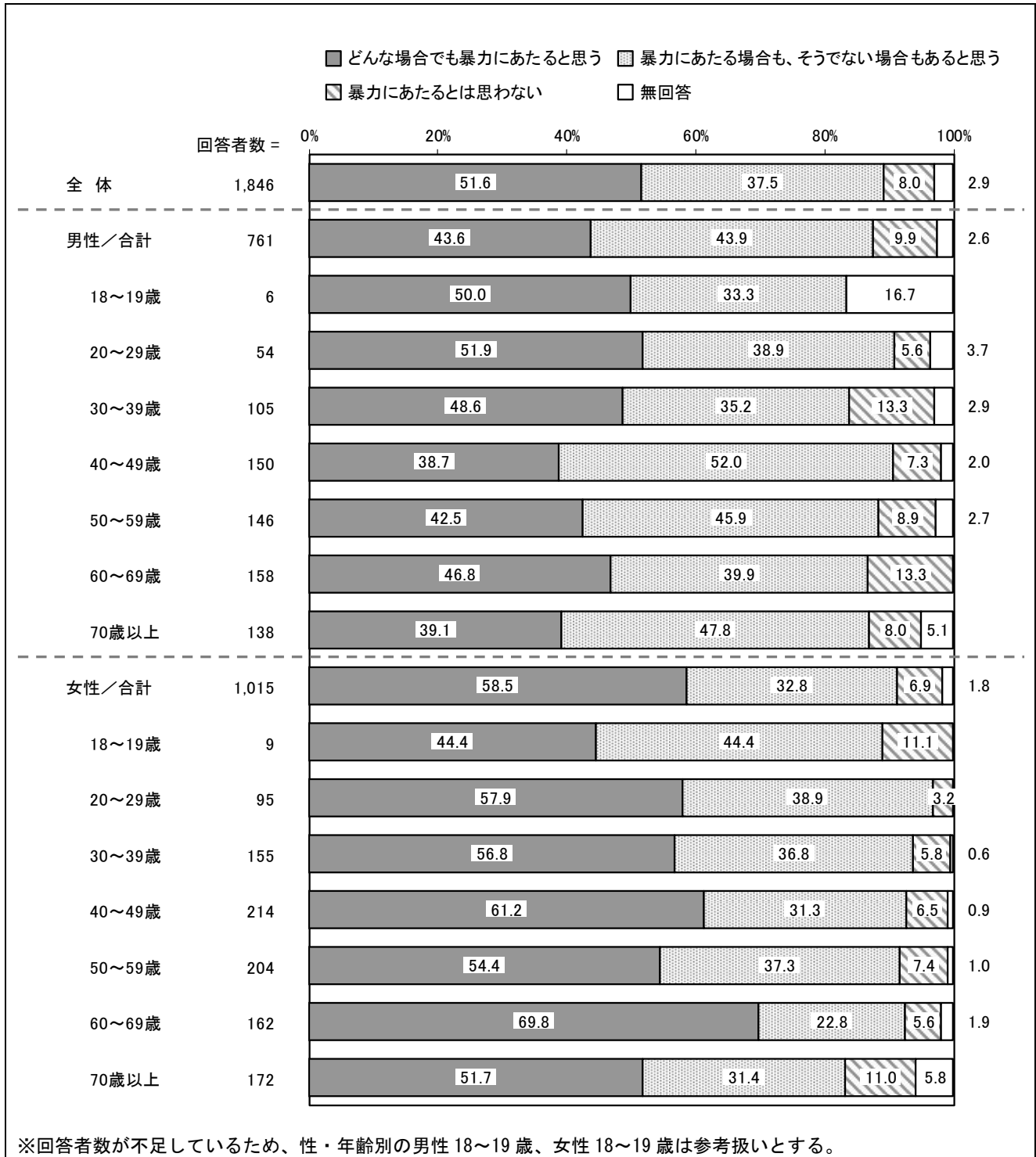


図表 2-10-9 暴力として認知される行為（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は女性60～69歳で7割を超えている。また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、いずれの年齢も女性に比べ男性で低く、特に男性50～59歳で約4割となっている。

カ. 何を言っても長時間無視し続ける

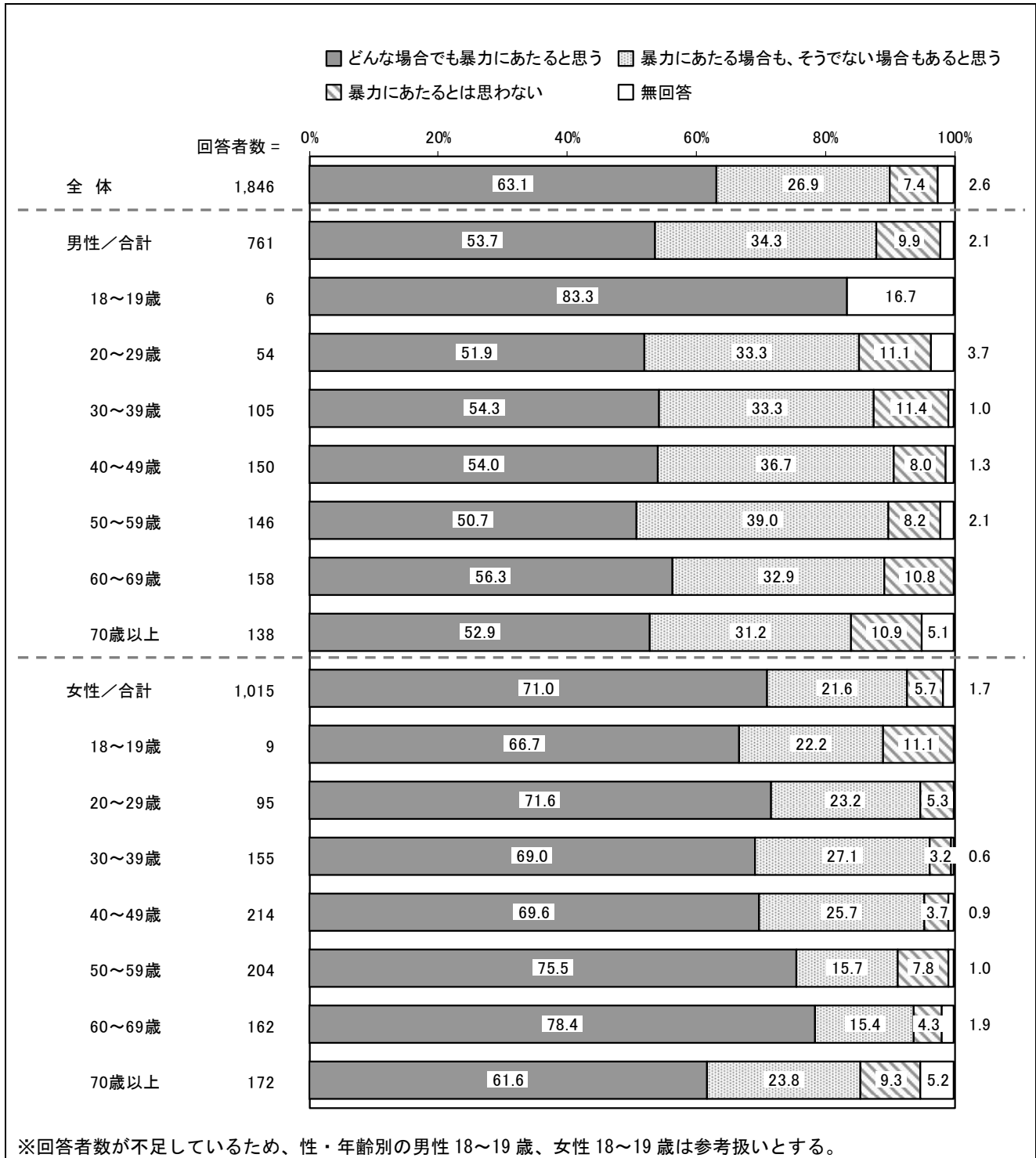


図表 2-10-10 暴力として認知される行為 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は女性60～69歳で約7割となっている。また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、いずれの年齢も女性に比べ男性で低く、特に男性40～49歳と70歳以上で4割を下回っている。

キ. 交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視する

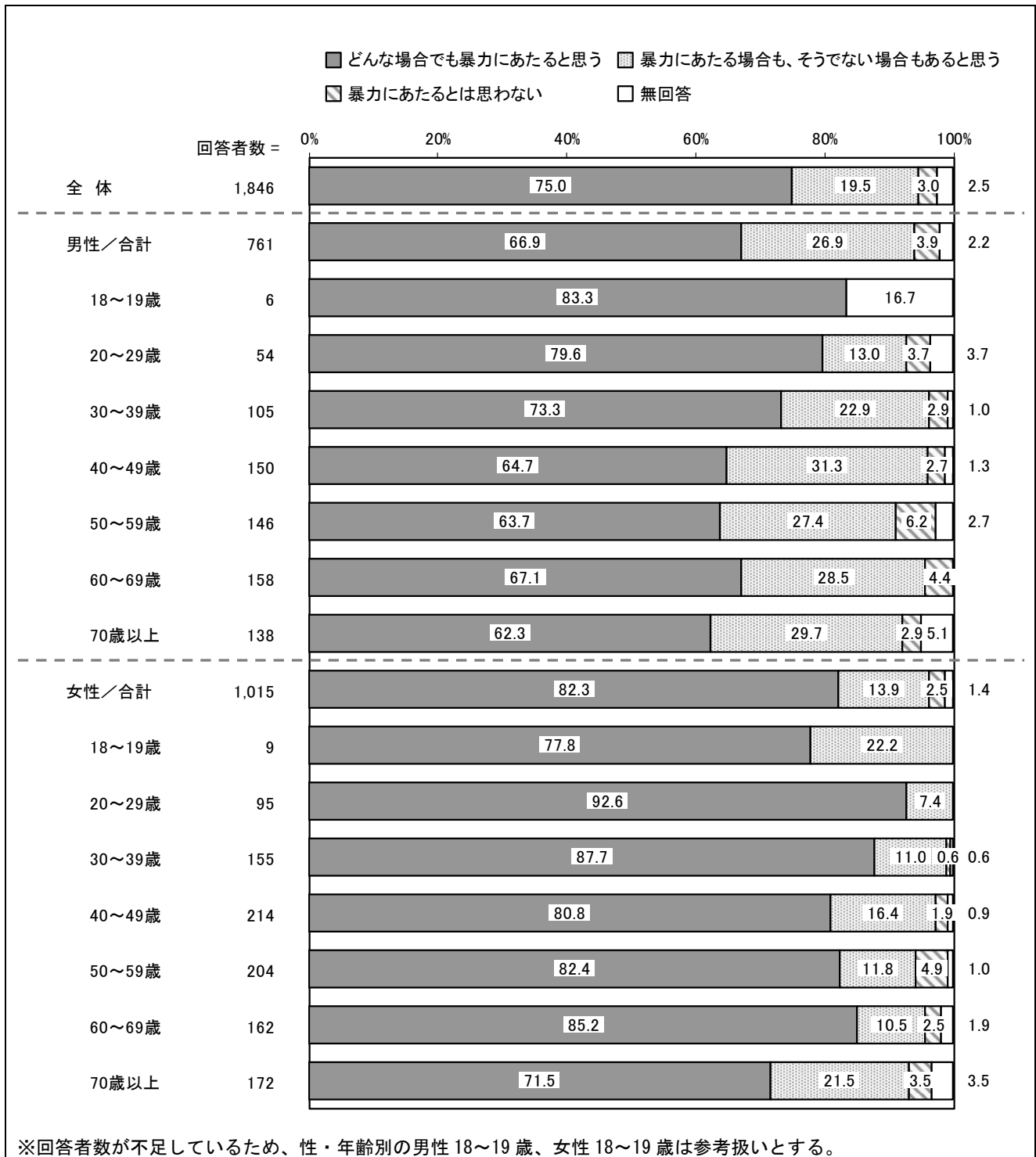


図表 2-10-11 暴力として認知される行為 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は女性20～29歳と50～59歳と60～69歳で7割を超えている。また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、いずれの年齢も女性に比べ男性で低く、5割台となっている。

ク. 「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」などと非難する

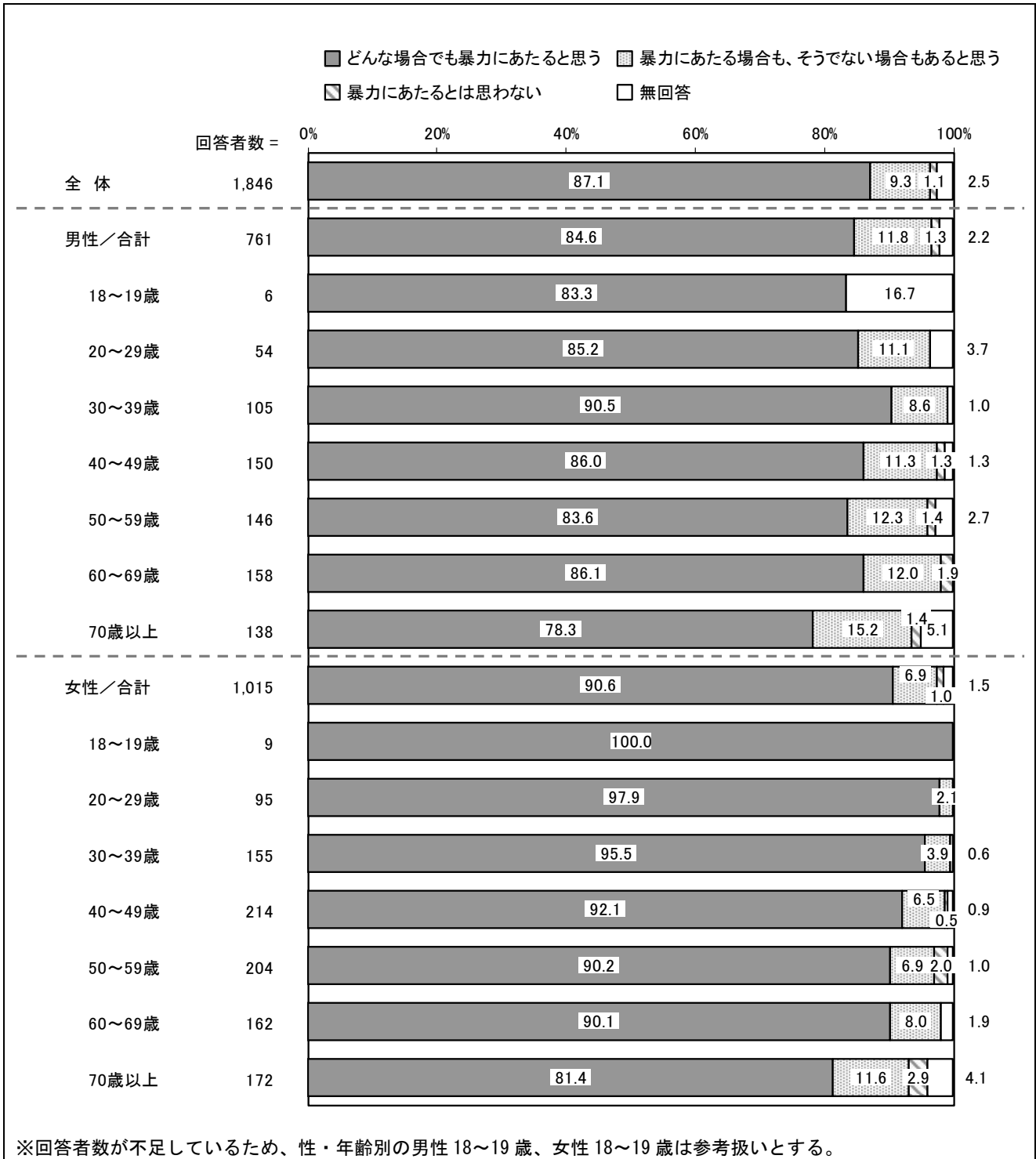


図表 2-10-12 暴力として認知される行為 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は女性 20～29 歳で 9 割を超えている。また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、いずれの年齢も女性に比べ男性で低く、男性の 40 歳以上で 6 割台となっている。

ケ. いやがっているのに性的な行為を強要する

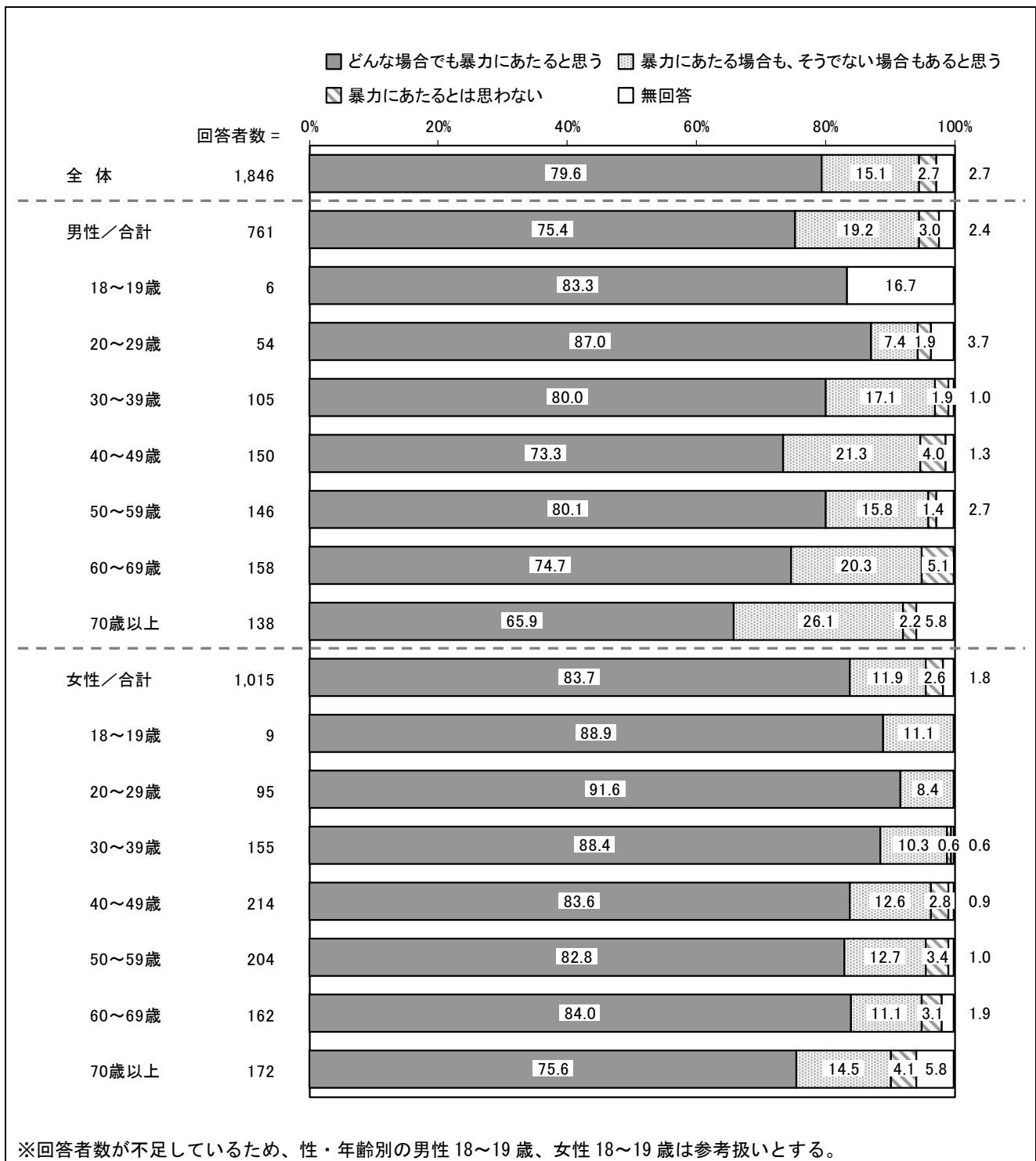


図表 2-10-13 暴力として認知される行為 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は男性30~39歳で、女性は70歳以上を除き9割を超えている。また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、いずれの年齢も女性に比べ男性で低くなっている。

コ. 見たがらない、ポルノビデオや雑誌を見せる

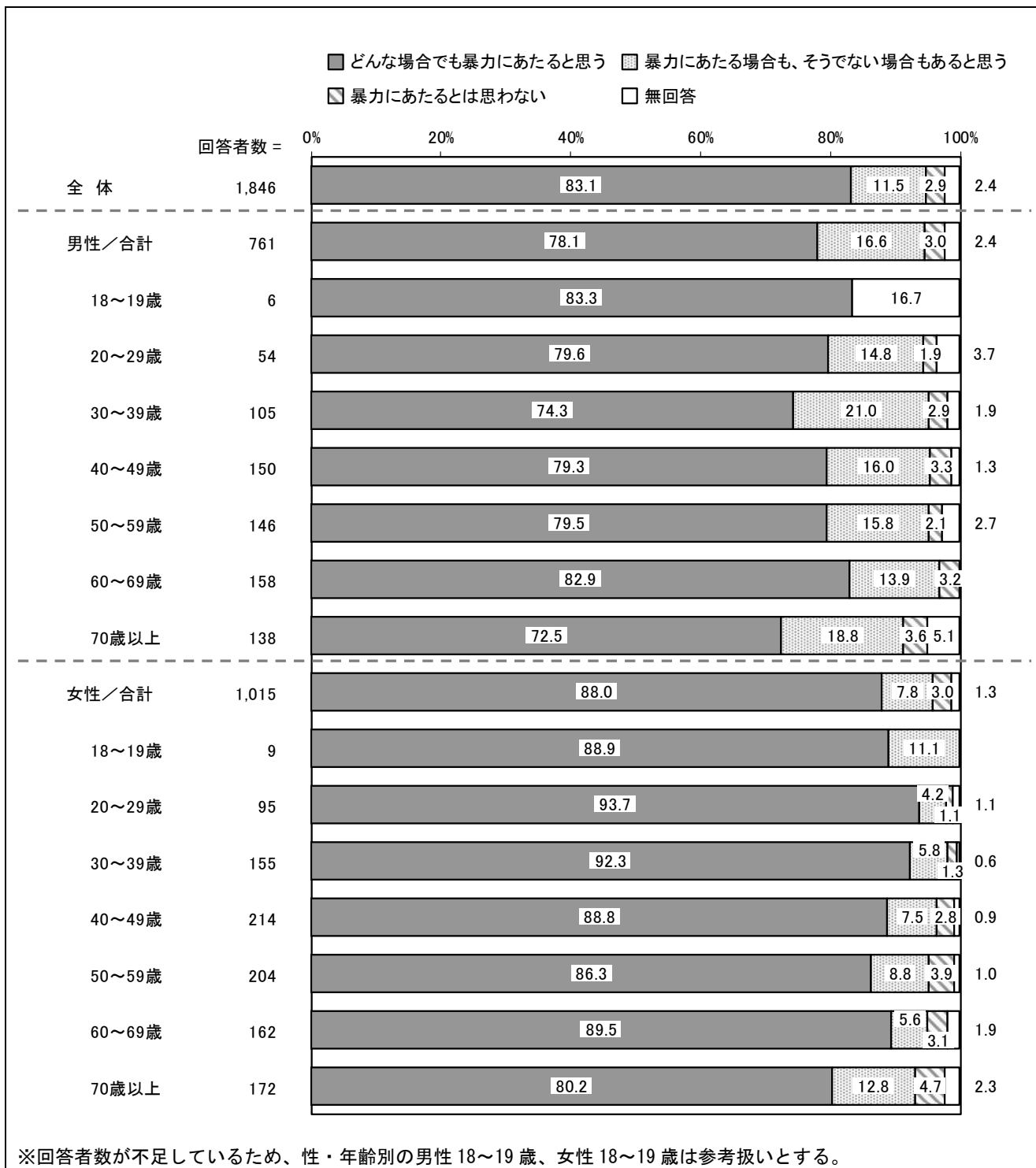


図表 2-10-14 暴力として認知される行為 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は女性20~29歳で9割を超えている。また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、いずれの年齢も女性に比べ男性で低くなっている。

サ. 必要な生活費を渡さないなど、経済的に弱い立場に立たせる



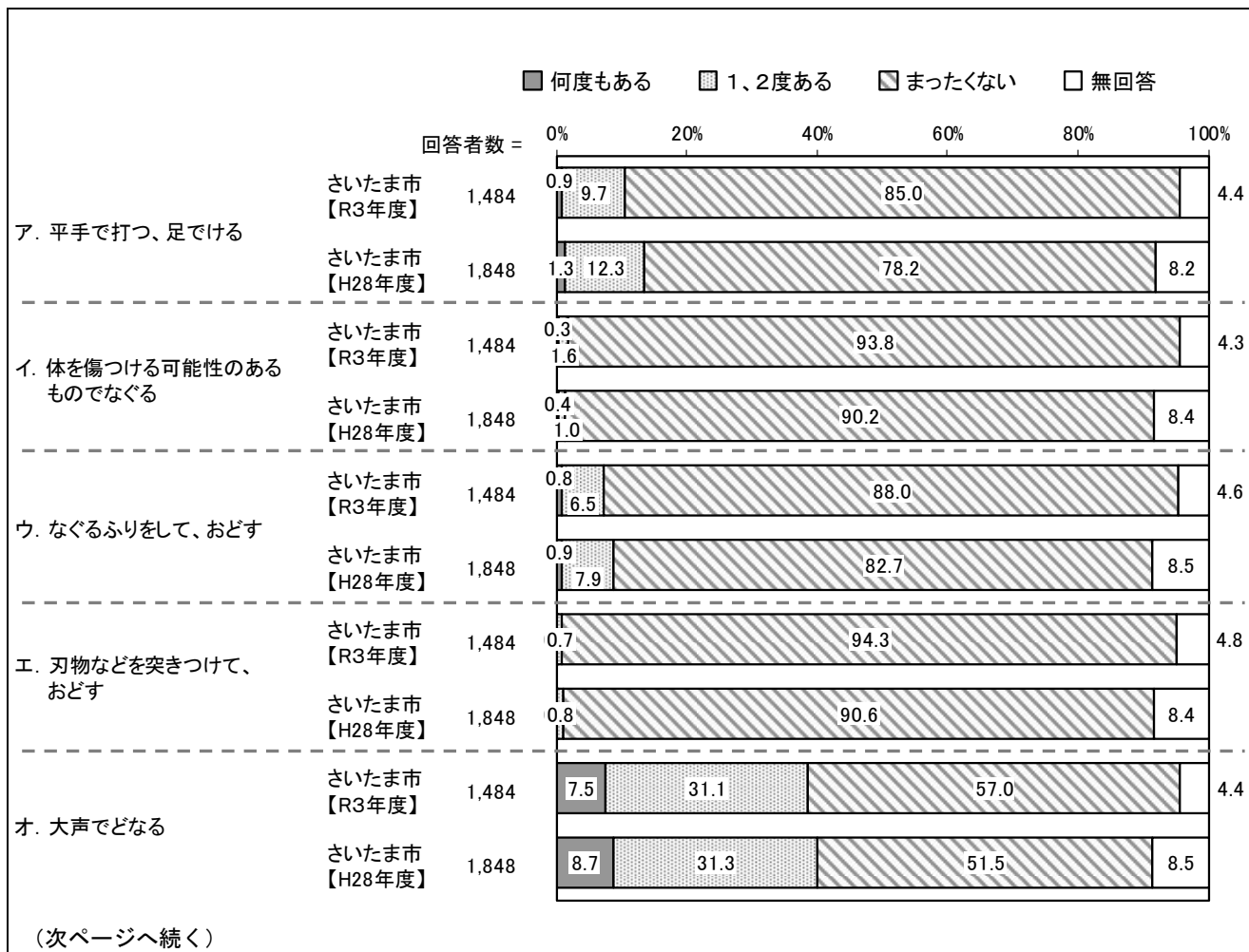
図表 2-10-15 暴力として認知される行為 (性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

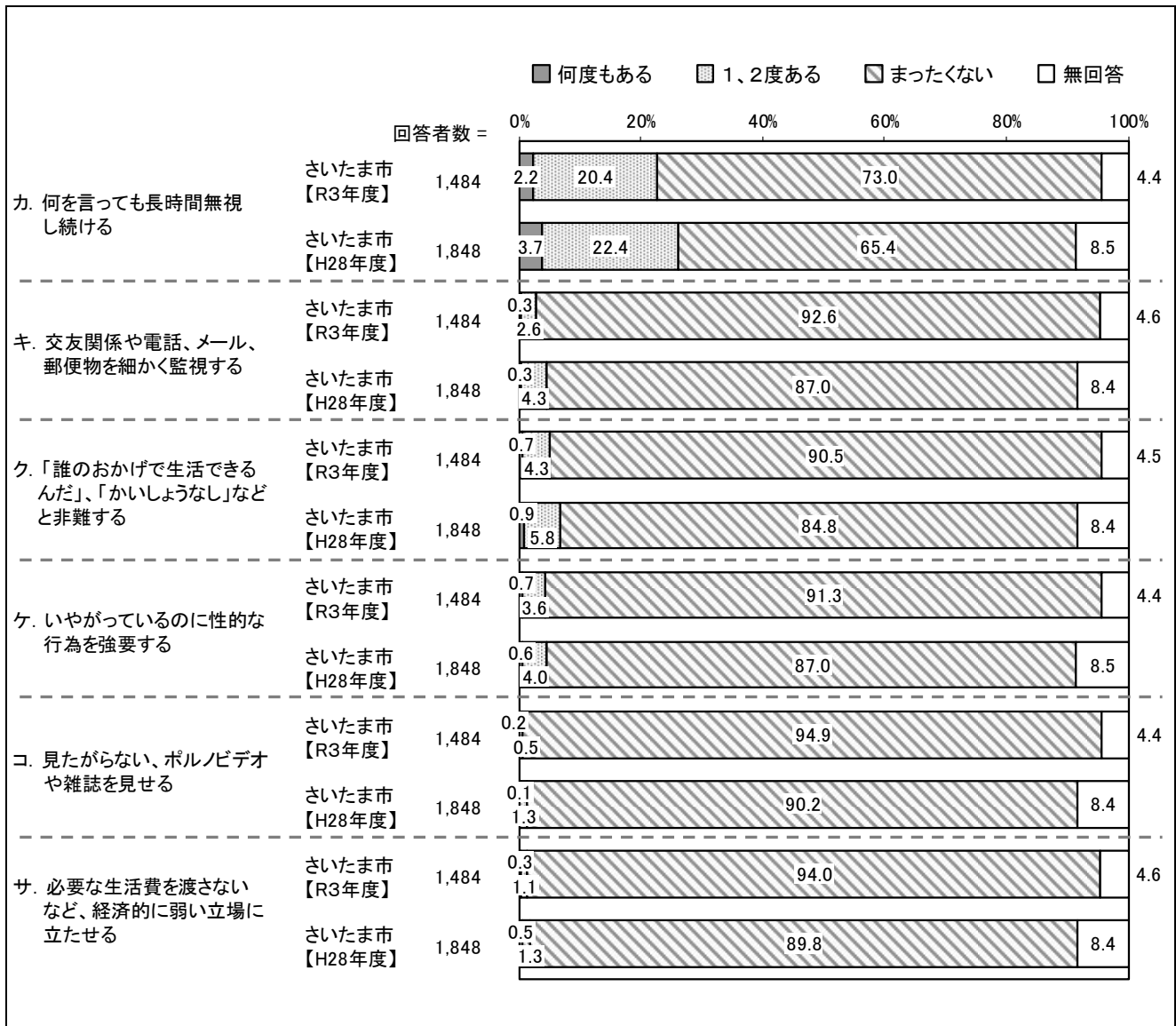
性・年齢別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は女性20～29歳と30～39歳で9割を超えている。また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、いずれの年齢も女性に比べ男性で低くなっている。

(3) 配偶者などへの加害行為

問30. あなたは、これまでに、あなたの配偶者などに対して次のような行為をしたことがありますか。
 (ア～サのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)



図表 2-10-16 配偶者などへの加害行為 (その1)

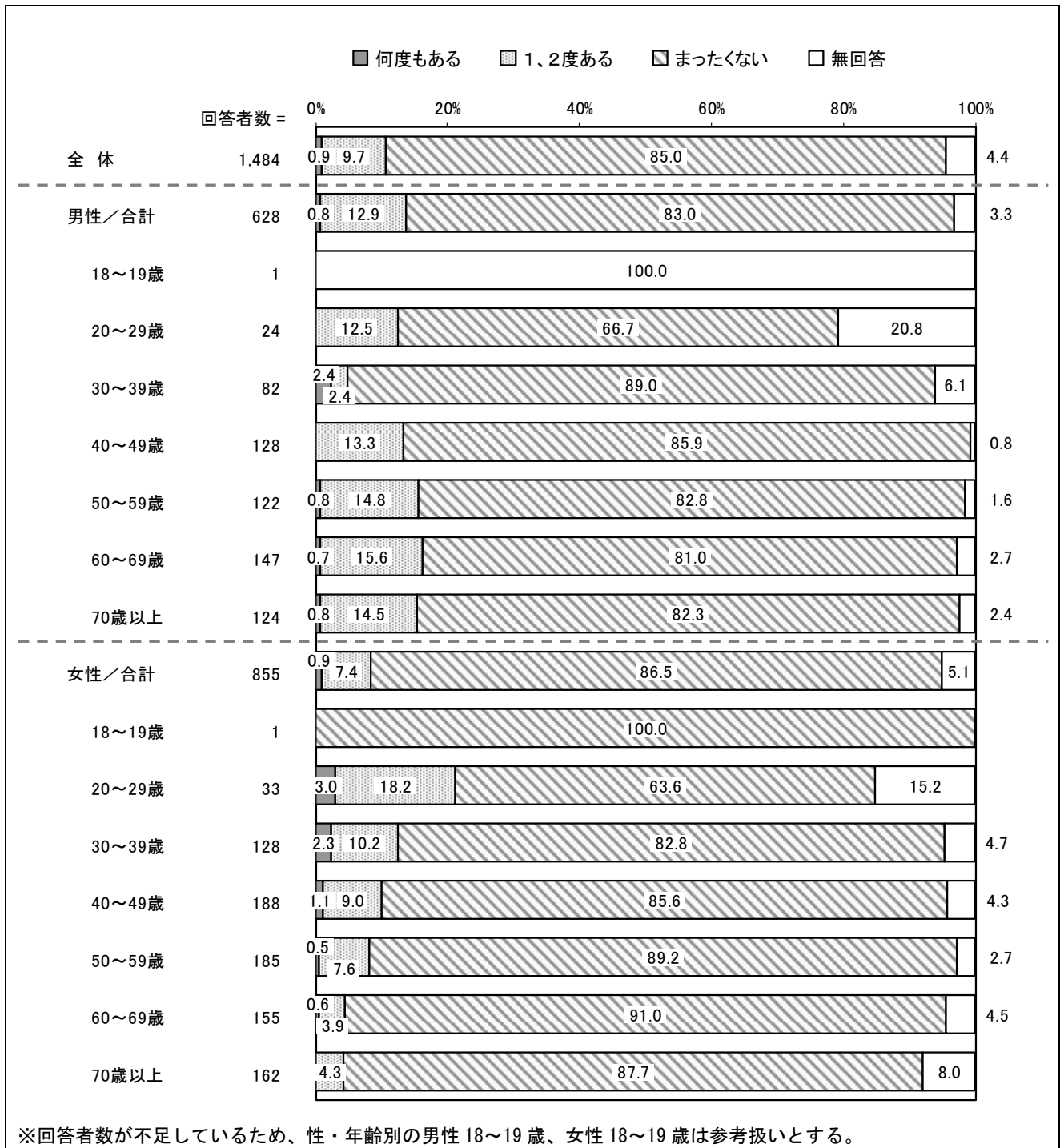


図表 2-10-16 配偶者などへの加害行為（その2）

○全体の傾向

配偶者などに対して行った行為（11項目）について聞いたところ、9項目で「まったくない」の割合が8割を超えている。一方、『大声でどなる』は「何度もある」（7.5%）と「1、2度ある」（31.1%）を合わせた割合が約4割となっており、『何を言っても長時間無視し続ける』は「何度もある」（2.2%）と「1、2度ある」（20.4%）を合わせた割合は2割を超えている。

ア. 平手で打つ、足でける

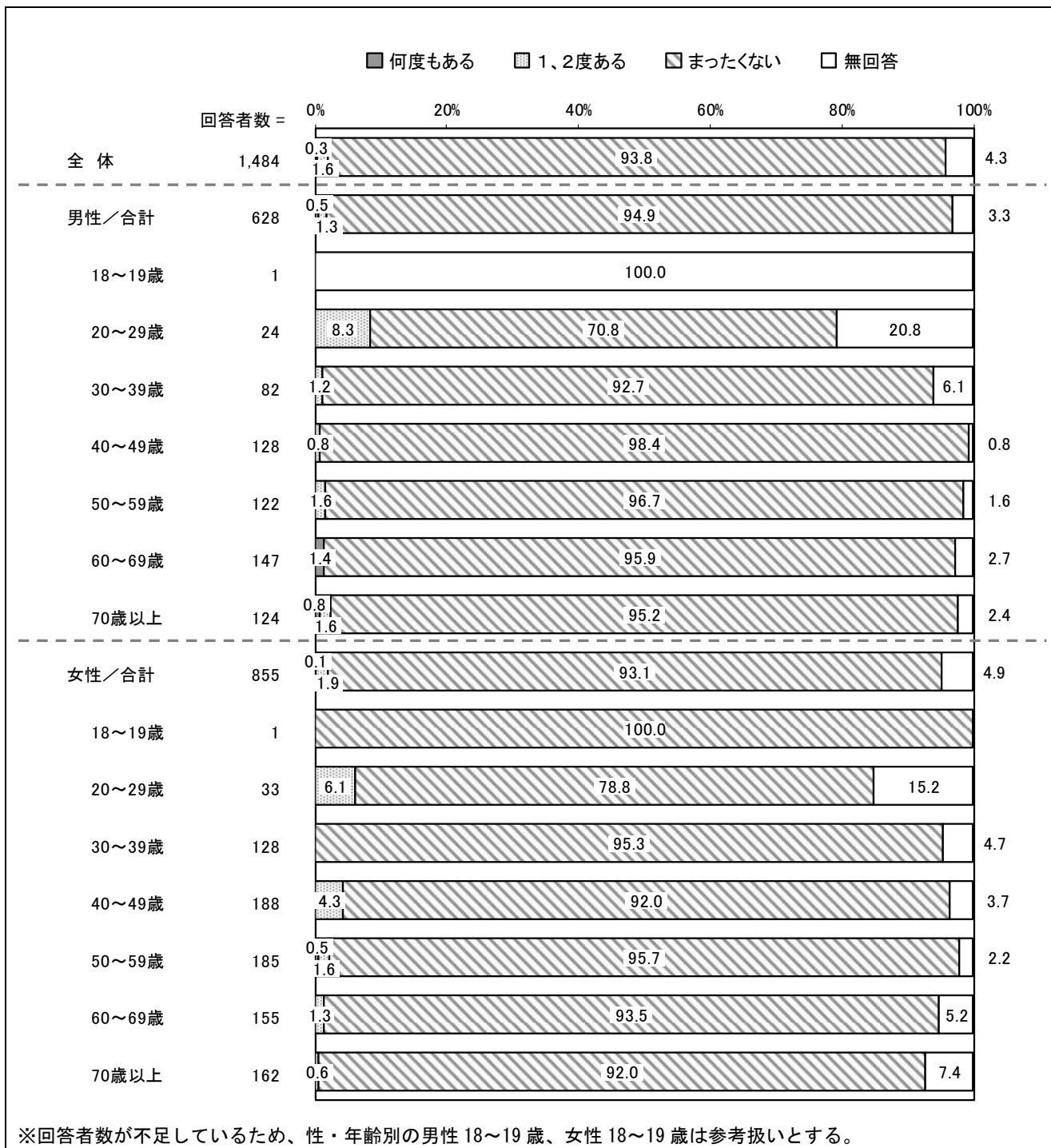


図表 2-10-17 配偶者などへの加害行為（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、男性では、30～39歳を除いて、「1、2度ある」の割合が1割を超えている。また、女性では年齢が低くなるにつれて「1、2度ある」の割合が高くなる傾向がみられ、女性20～29歳が最も高く、約2割となっている。

イ. 体を傷つける可能性のあるものでなく

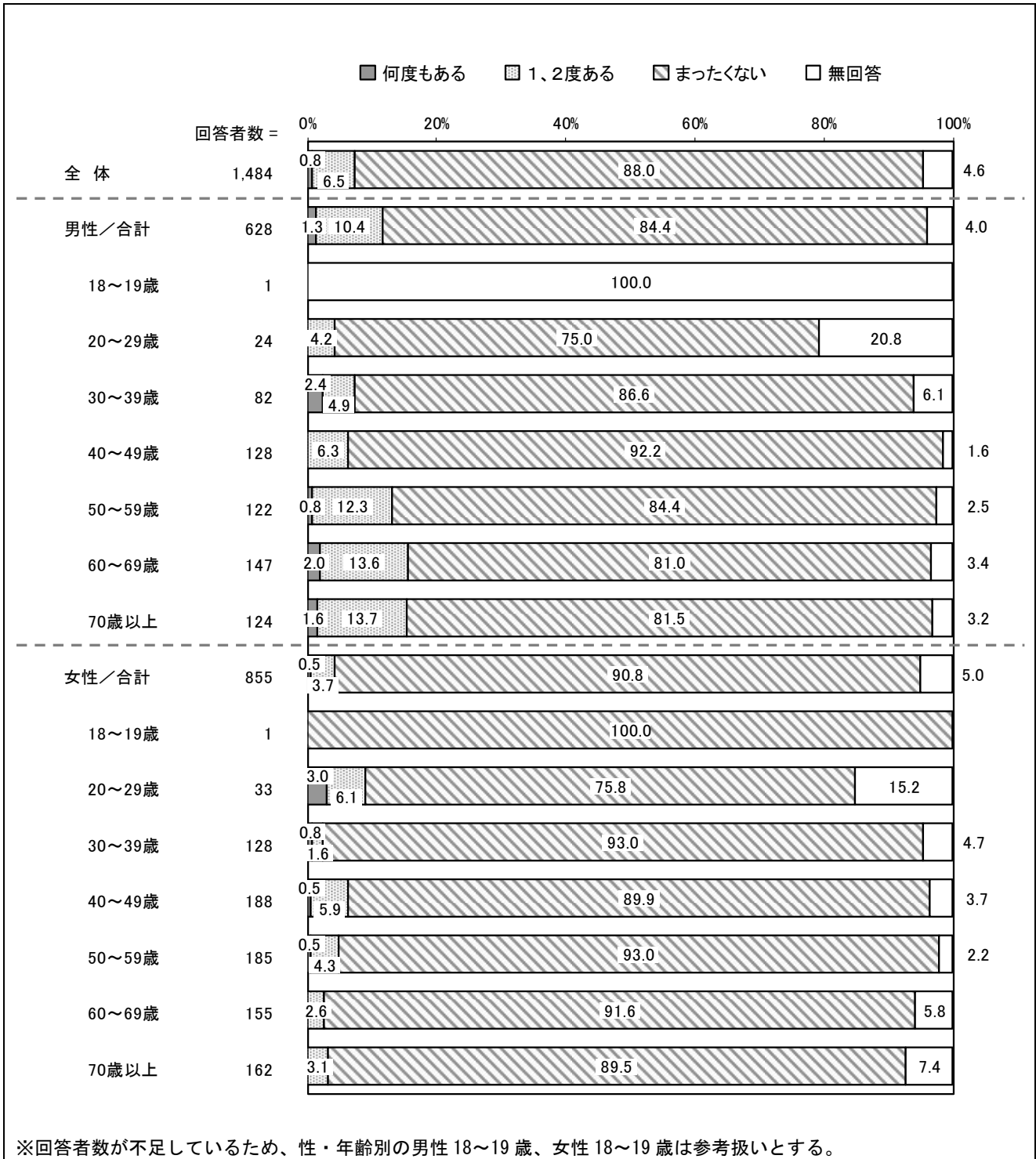


図表 2-10-18 配偶者などへの加害行為（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、男女ともに20～29歳を除いて「まったくくない」の割合が9割を超えている。

ウ. なぐるふりをして、おどす

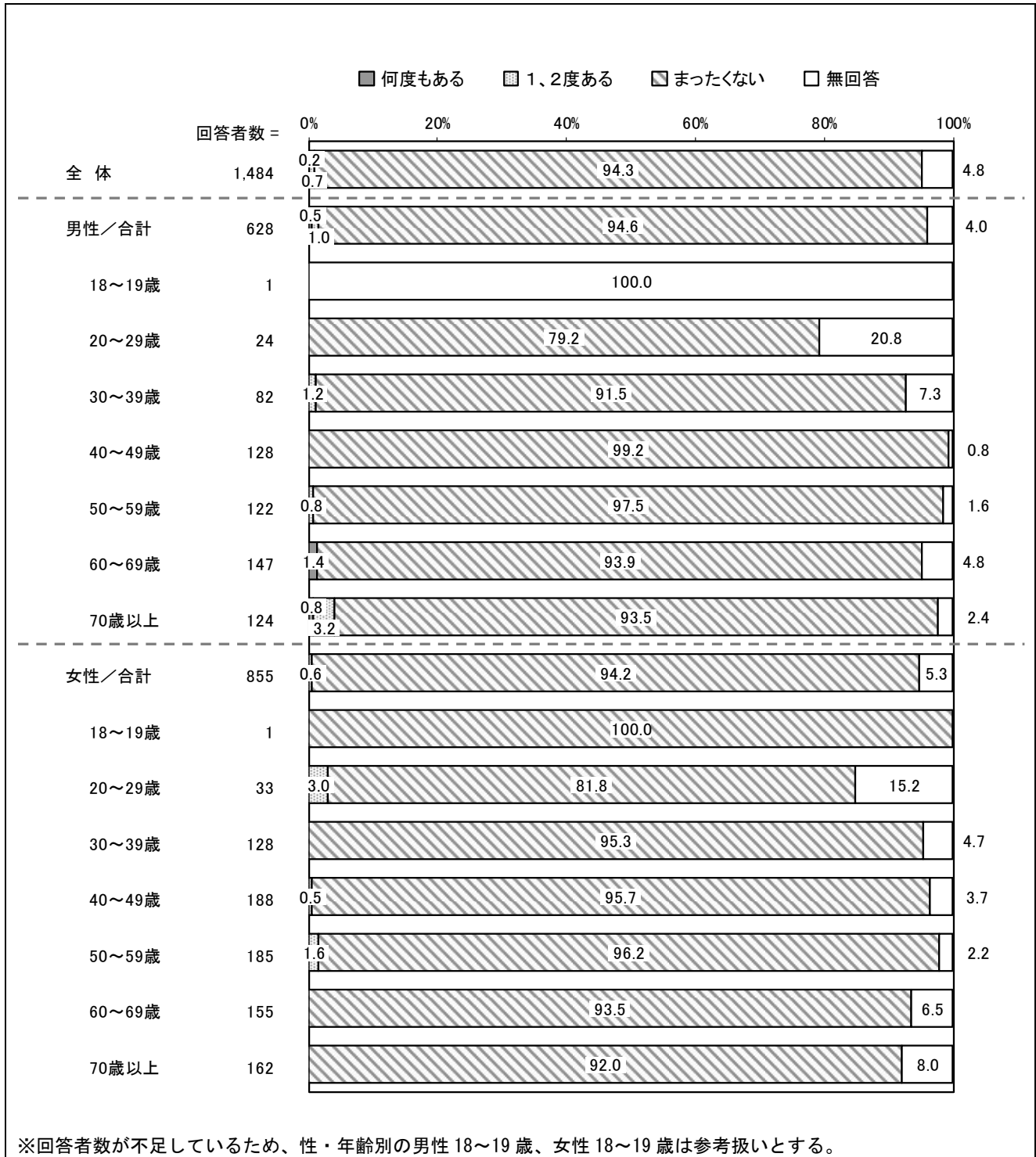


図表 2-10-19 配偶者などへの加害行為（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、男性では年齢が高くなるにつれて「1、2度ある」の割合が高くなる傾向がみられ、50歳以上の年代で1割を超えている。一方、女性では年齢が低くなるにつれて「1、2度ある」の割合が高くなる傾向がみられる。

エ. 刃物などを突きつけて、おどす

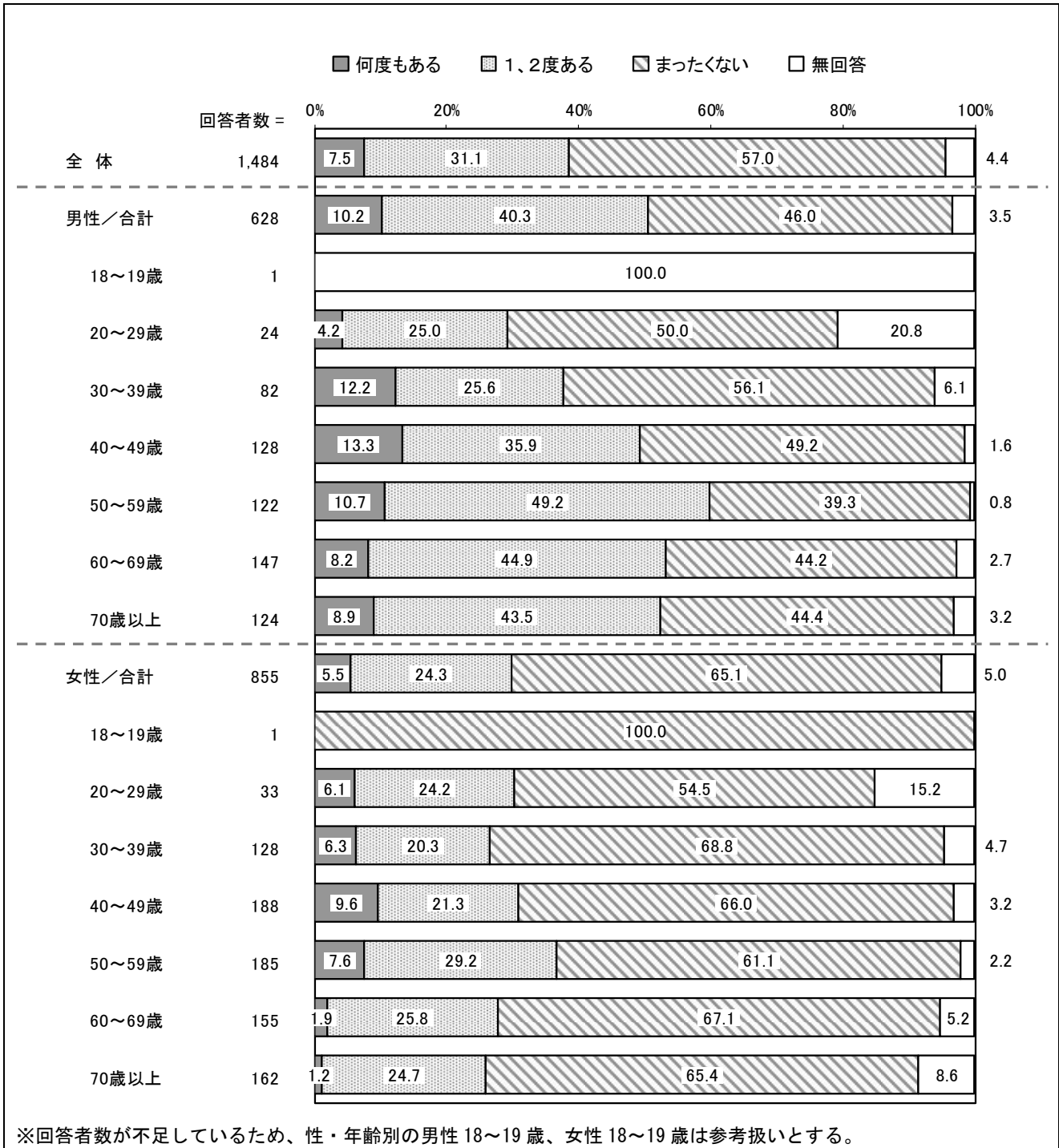


図表 2-10-20 配偶者などへの加害行為（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、男女ともに20～29歳を除いて「まったくない」の割合が9割を超えている。

オ. 大声でどなる

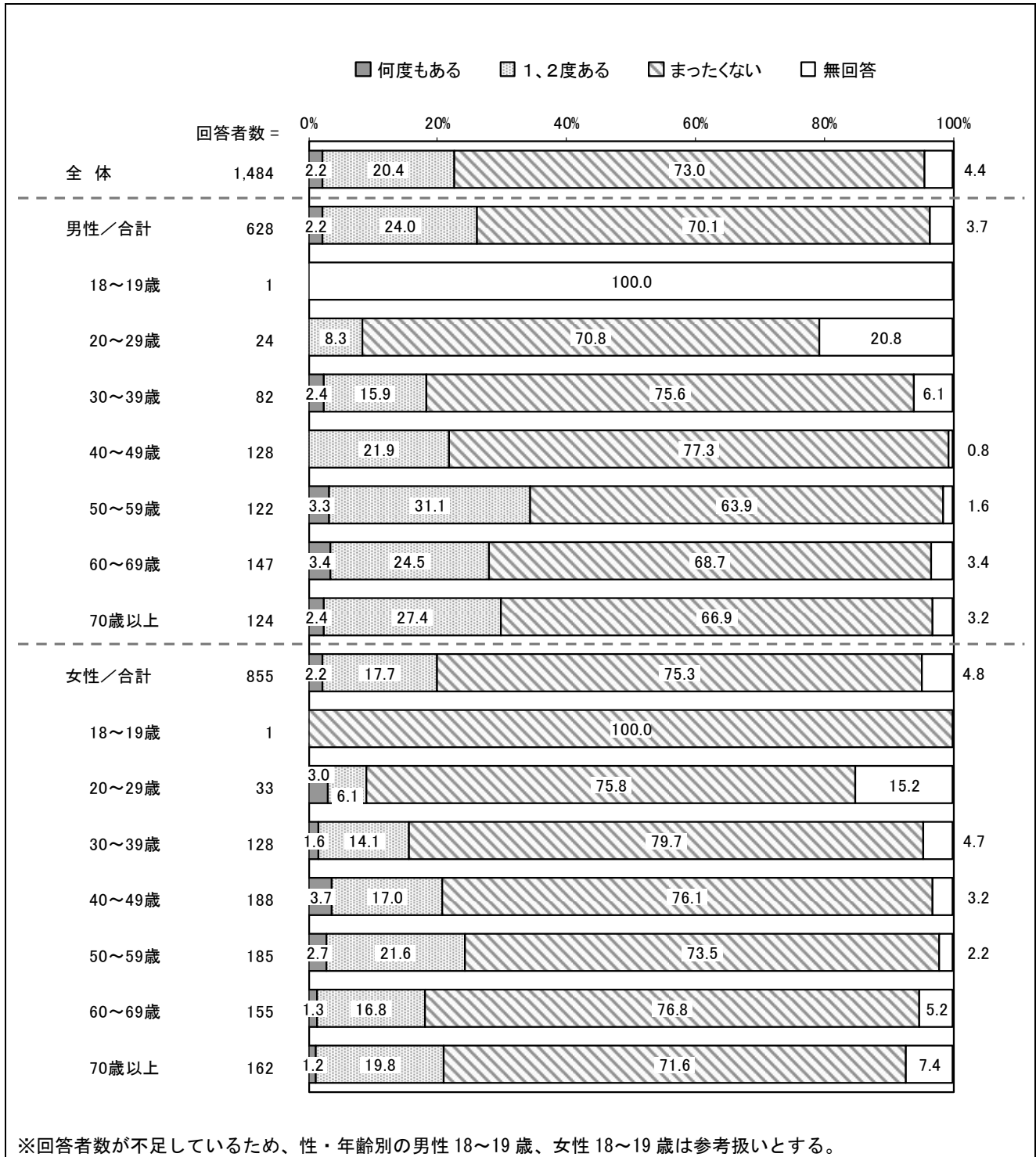


図表 2-10-21 配偶者などへの加害行為（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、男女ともに「1、2度ある」の割合が50～59歳で高く、特に男性で約5割となっている。

カ. 何を言っても長時間無視し続ける

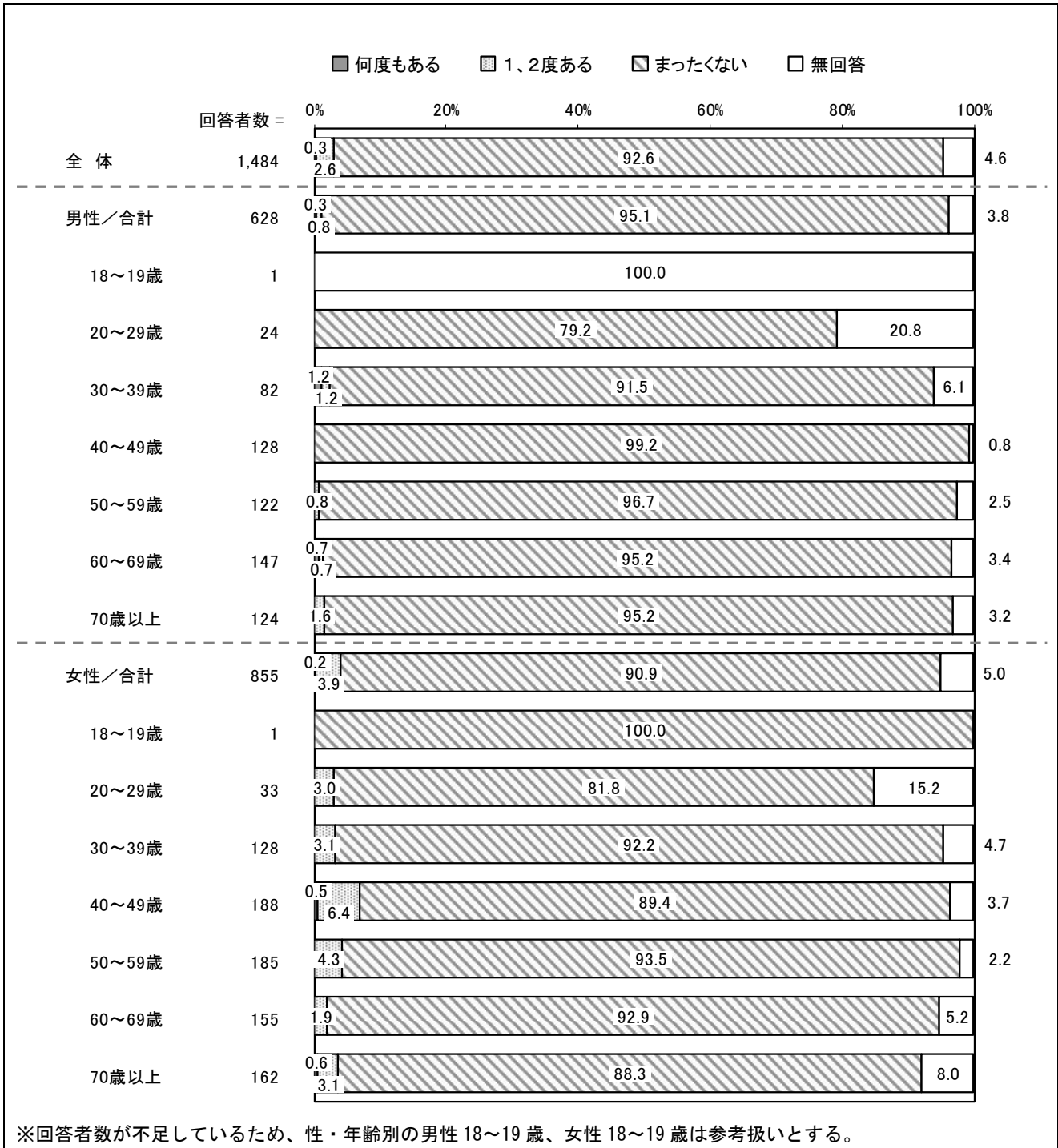


図表 2-10-22 配偶者などへの加害行為（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、男女ともに「1、2度ある」の割合が50～59歳で高く、特に男性で3割を超えている。

キ. 交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視する

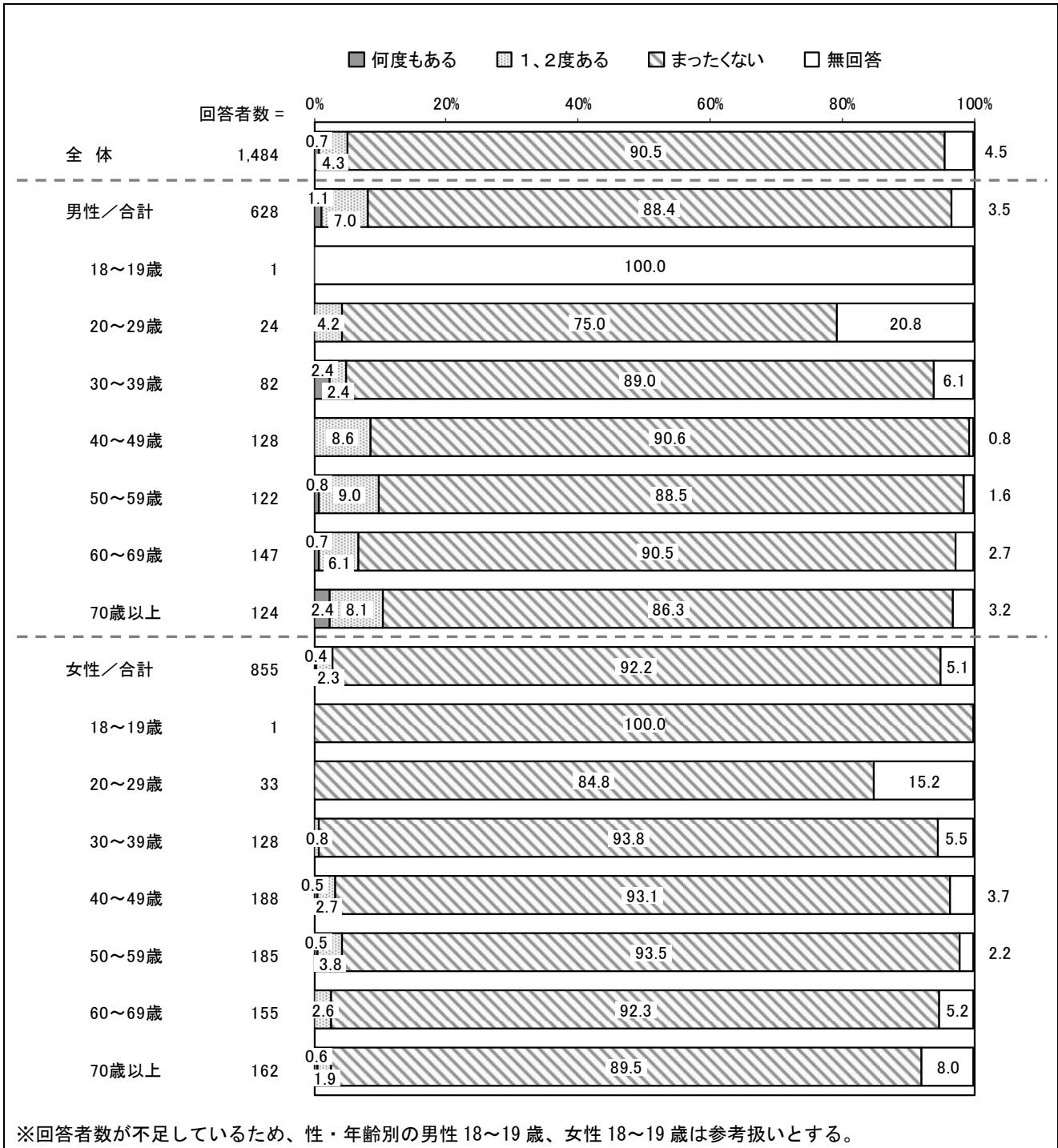


図表 2-10-23 配偶者などへの加害行為（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、男性では20～29歳を除いて「まったくない」の割合が9割を超えており、女性では30～39歳と50～59歳と60～69歳で9割を超えている。

ク. 「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」などと非難する

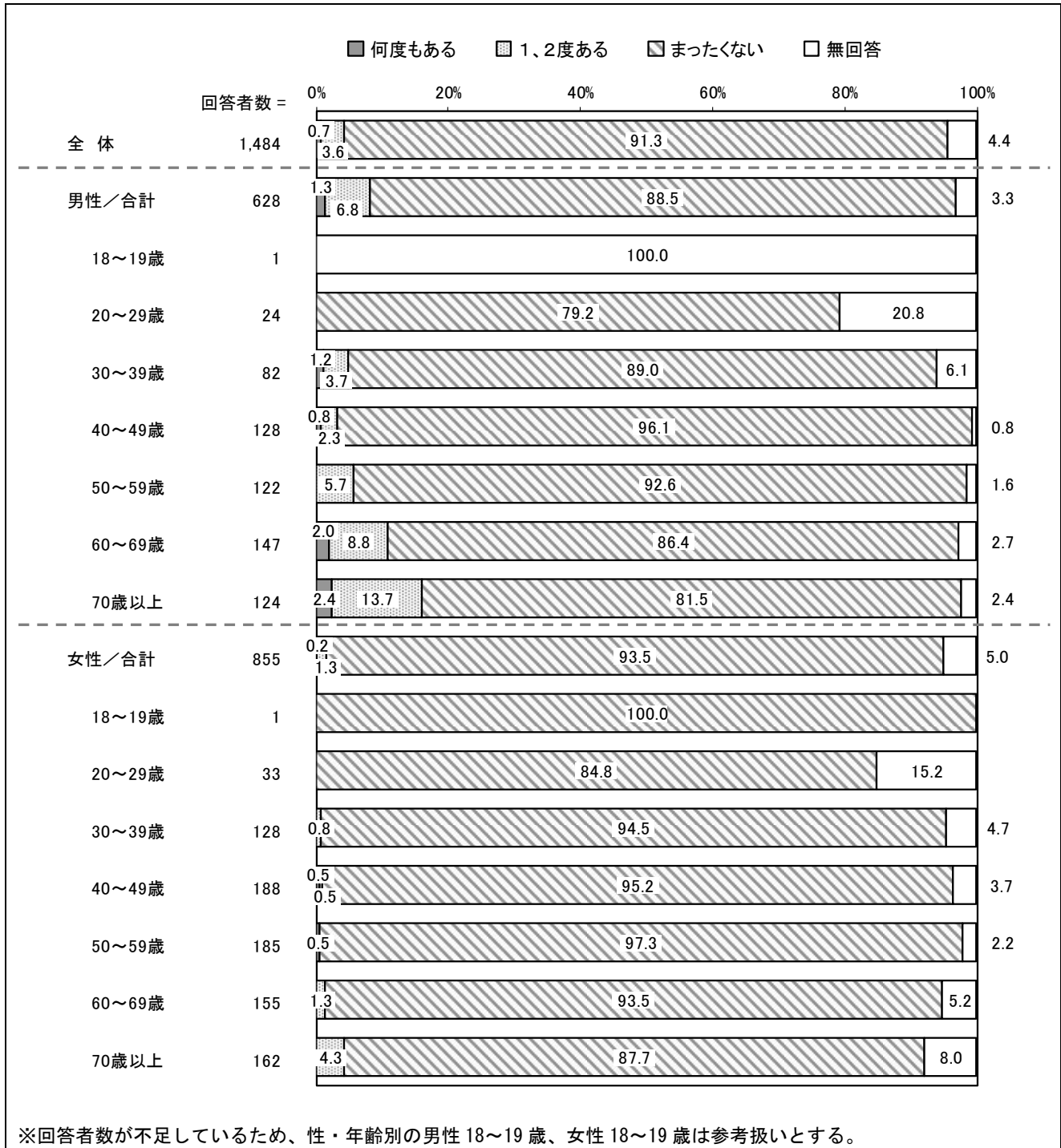


図表 2-10-24 配偶者などへの加害行為（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、男性では年齢が高くなるにつれて「1、2度ある」の割合が高くなる傾向がみられる。

ケ. いやがっているのに性的な行為を強要する

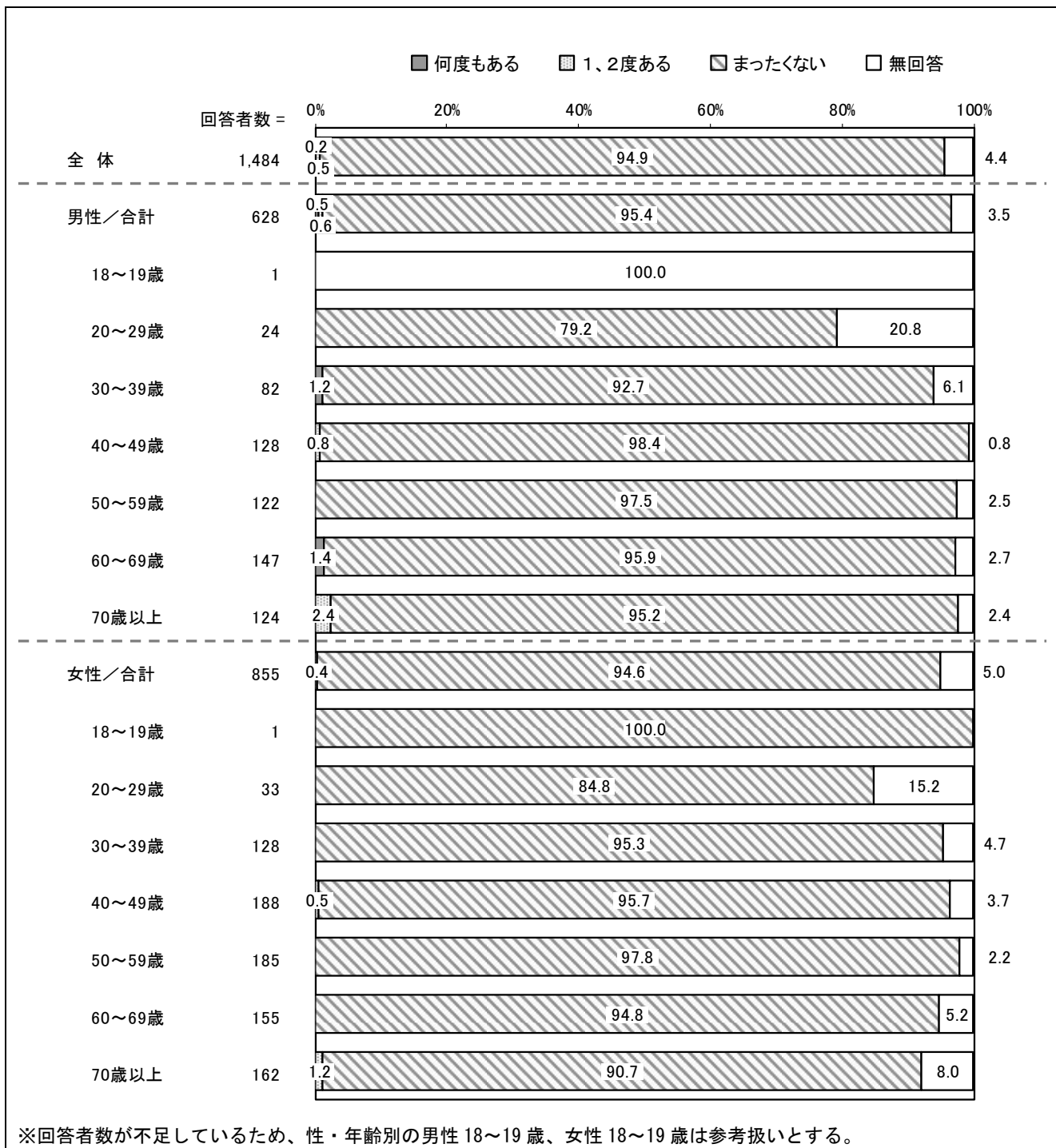


図表 2-10-25 配偶者などへの加害行為（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、男性では年齢が高くなるにつれて「1、2度ある」の割合が高くなる傾向がみられる。

コ. 見たがない、ポルノビデオや雑誌を見せる

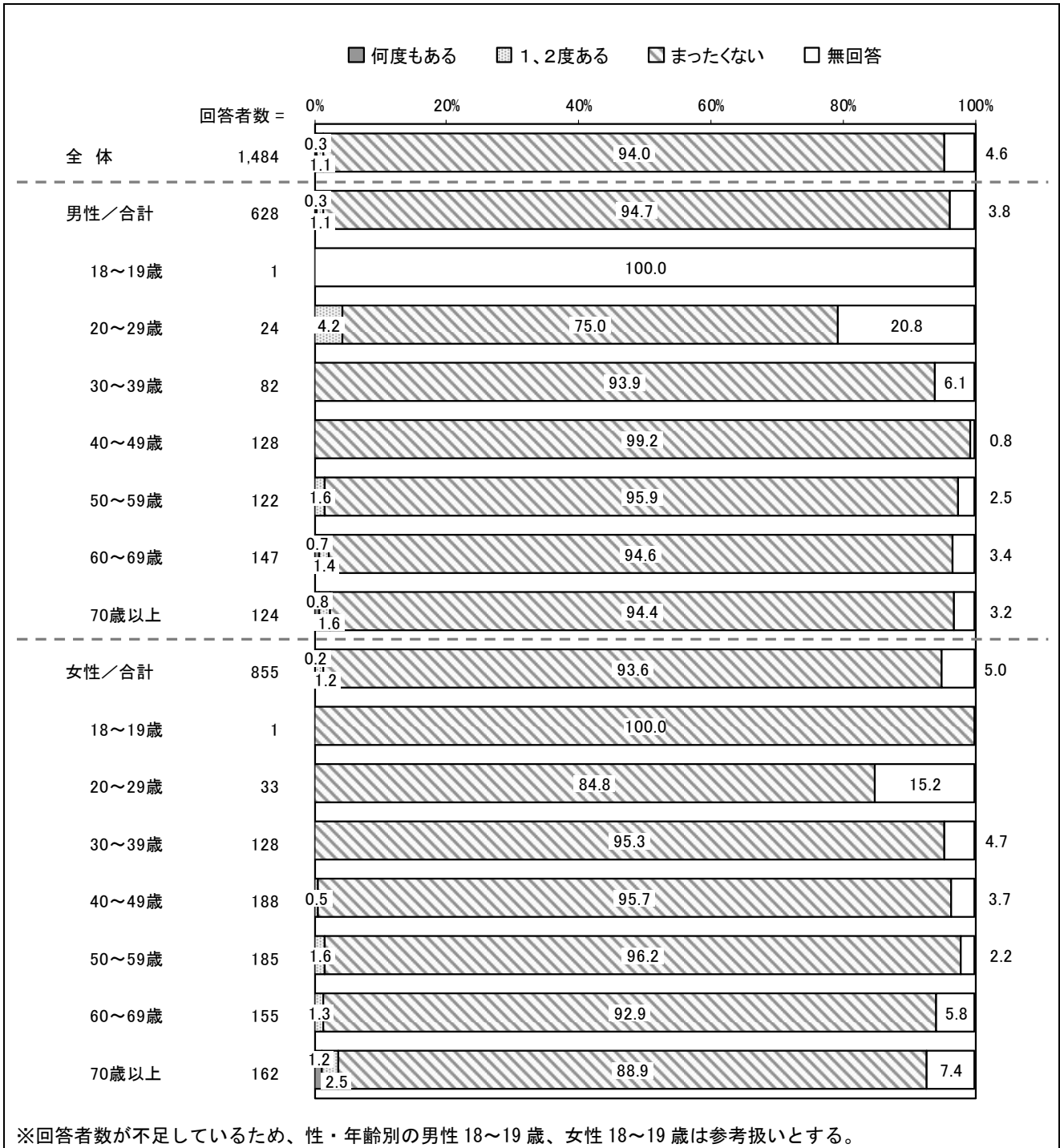


図表 2-10-26 配偶者などへの加害行為（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、男女ともに20～29歳を除いて「まったくない」の割合が9割を超えている。

サ. 必要な生活費を渡さないなど、経済的に弱い立場に立たせる



図表 2-10-27 配偶者などへの加害行為（性・年齢別）

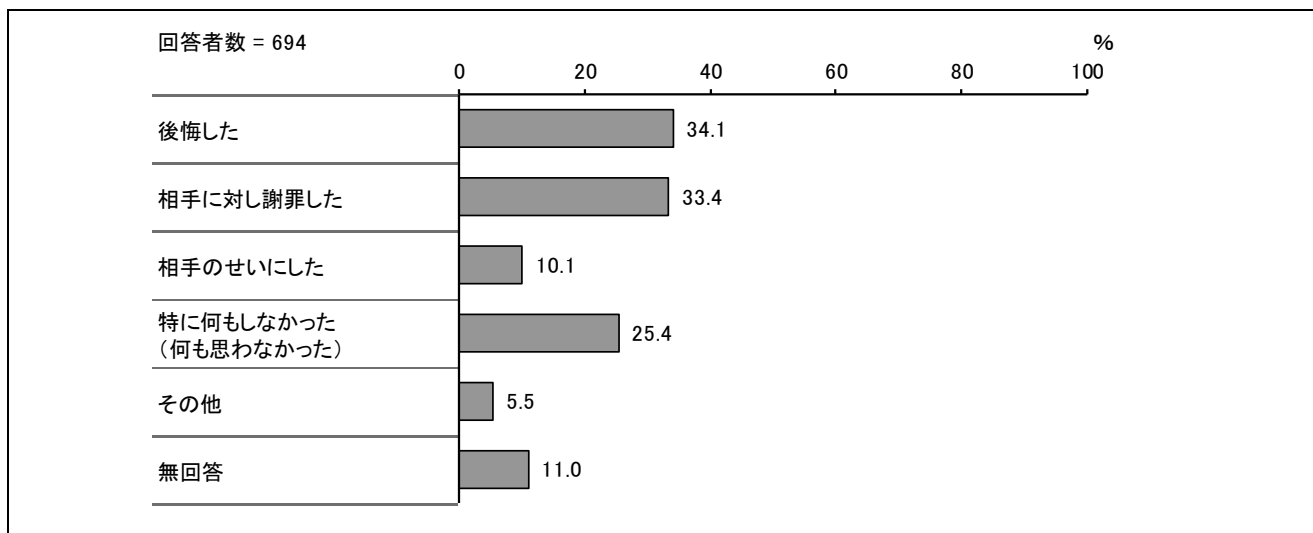
○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、男性では20～29歳、女性では20～29歳と70歳以上を除いて「まったくない」の割合が9割を超えている。

(4) 問30の各行為を行った後の行動

※問30でひとつでも「何度もある」「1、2度ある」と回答した方におうかがいします。

問30-1. あなたは、問30のような行為をしたことについて、どうしましたか。
(〇はいくつでも)



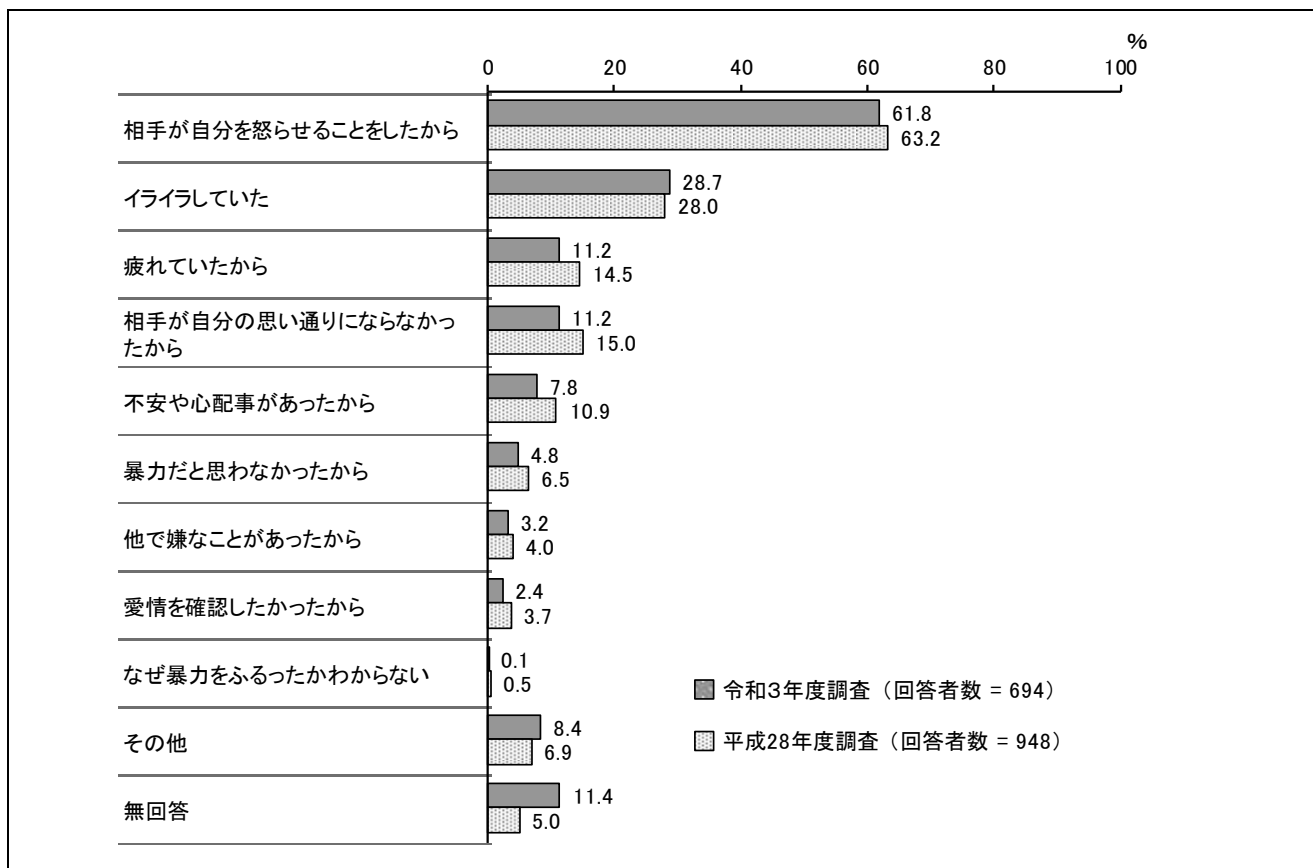
図表 2-10-28 問30の各行為を行った後の行動

○全体の傾向

各行為を行った後の行動は、「後悔した」と回答した人の割合が34.1%と最も高く、次いで「相手に対し謝罪した」(33.4%)、「特に何もしなかった(何も思わなかった)」(25.4%)となっている。

(5) 問 30 の各行為を行った理由

問 30-2. あなたは、問 30 のような行為をしたのはなぜですか。(〇はいくつでも)



図表 2-10-29 問 30 の各行為を行った理由

○全体の傾向・経年変化

各行為を行った理由は、「相手が自分を怒らせることをしたから」と回答した人の割合が 61.8% と最も高く、次いで「イライラしていた」(28.7%)、「疲れていたから」(11.2%)、「相手が自分の思い通りにならなかったから」(11.2%) となっている。

平成 28 年度調査と比較すると、同様の傾向となっており、「相手が自分を怒らせることをしたから」と回答した人の割合が最も高くなっている。

単位：％

区分	回答者数(件)	相手が自分を怒らせることをしたから	イライラしていた	疲れていたから	相手が自分の思い通りにならなかったから	不安や心配事があったから	暴力だと思わなかったから	他で嫌なことがあったから	愛情を確認したかったから	なぜ暴力をふるったかわからない	その他	無回答
全 体	694	61.8	28.7	11.2	11.2	7.8	4.8	3.2	2.4	0.1	8.4	11.4
男性／合計	366	61.7	32.0	10.4	12.6	4.9	5.7	3.3	2.7	0.3	8.2	8.2
18～19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	8	75.0	50.0	12.5	25.0	—	12.5	—	—	—	12.5	—
30～39 歳	40	52.5	32.5	15.0	10.0	5.0	5.0	2.5	7.5	—	15.0	5.0
40～49 歳	68	69.1	39.7	11.8	5.9	7.4	—	1.5	1.5	—	13.2	8.8
50～59 歳	80	70.0	38.8	7.5	13.8	3.8	5.0	5.0	1.3	—	7.5	5.0
60～69 歳	97	55.7	24.7	10.3	12.4	5.2	5.2	5.2	4.1	—	4.1	12.4
70 歳以上	73	57.5	24.7	9.6	17.8	4.1	12.3	1.4	1.4	1.4	5.5	8.2
女性／合計	328	61.9	25.0	12.2	9.8	11.0	3.7	3.0	2.1	—	8.5	14.9
18～19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	12	58.3	25.0	—	16.7	8.3	—	—	8.3	—	8.3	—
30～39 歳	43	79.1	41.9	14.0	4.7	14.0	4.7	—	—	—	4.7	4.7
40～49 歳	75	68.0	26.7	16.0	9.3	18.7	4.0	2.7	5.3	—	9.3	9.3
50～59 歳	84	66.7	23.8	9.5	10.7	9.5	3.6	3.6	1.2	—	10.7	13.1
60～69 歳	55	52.7	20.0	12.7	3.6	5.5	—	1.8	1.8	—	12.7	21.8
70 歳以上	58	44.8	15.5	10.3	17.2	6.9	6.9	6.9	—	—	3.4	29.3

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性 18～19 歳、20～29 歳、女性 18～19 歳は参考扱いとする。

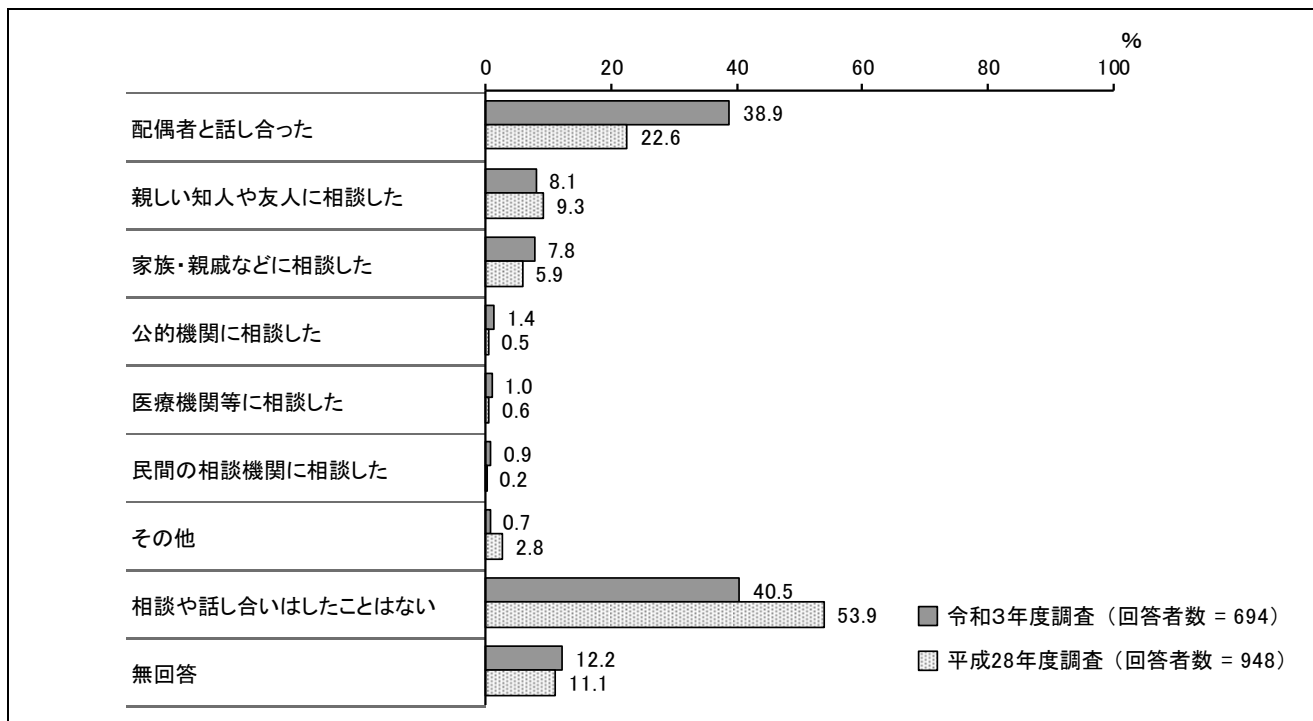
図表 2-10-30 問 30 の各行為を行った理由（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、「イライラしていた」と回答した人の割合は女性 30～39 歳が最も高く、4 割を超えている。一方、「暴力だと思わなかったから」と回答した人の割合は男性 70 歳以上（12.3％）でやや高くなっている。

(6) 問 30 の各行為の後に相談した相手（場所）

問 30-3. あなたは、問 30 のような行為をしたことについて、誰か（どこか）に相談したり話し合いましたか。（○はいくつでも）



図表 2-10-31 問 30 の各行為の後に相談した相手（場所）

○全体の傾向・経年変化

各行為の後に相談した相手（場所）は、「相談や話し合いはしたことはない」と回答した人の割合が 40.5%と最も高く、次いで「配偶者と話し合った」（38.9%）となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「配偶者と話し合った」と回答した人の割合が 16.3 ポイント増加しており、「相談や話し合いはしたことはない」と回答した人の割合が 13.4 ポイント減少しています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	配偶者と話し合った	親しい知人や友人に 相談した	家族・親戚などに相談した	公的機関に相談した	医療機関等に相談した	民間の相談機関に相談した	その他	相談や話し合いはした ことはない	無回答
全 体	694	38.9	8.1	7.8	1.4	1.0	0.9	0.7	40.5	12.2
男性／合計	366	39.1	3.0	5.2	0.3	0.8	0.3	0.5	48.6	8.5
18～19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	8	75.0	—	25.0	—	—	—	—	25.0	—
30～39 歳	40	42.5	2.5	7.5	—	—	—	—	47.5	5.0
40～49 歳	68	38.2	—	8.8	—	1.5	—	—	47.1	10.3
50～59 歳	80	40.0	5.0	2.5	—	1.3	1.3	1.3	52.5	5.0
60～69 歳	97	37.1	1.0	5.2	—	1.0	—	—	47.4	12.4
70 歳以上	73	35.6	6.8	1.4	1.4	—	—	1.4	50.7	8.2
女性／合計	328	38.7	13.7	10.7	2.7	1.2	1.5	0.9	31.4	16.5
18～19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	12	66.7	33.3	—	—	—	—	—	25.0	—
30～39 歳	43	58.1	11.6	16.3	—	—	—	2.3	27.9	4.7
40～49 歳	75	48.0	18.7	10.7	5.3	1.3	1.3	—	26.7	9.3
50～59 歳	84	40.5	15.5	10.7	2.4	2.4	4.8	—	33.3	14.3
60～69 歳	55	16.4	9.1	14.5	1.8	1.8	—	1.8	40.0	25.5
70 歳以上	58	24.1	6.9	5.2	3.4	—	—	1.7	31.0	32.8

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性 18～19 歳、20～29 歳、女性 18～19 歳は参考扱いとする。

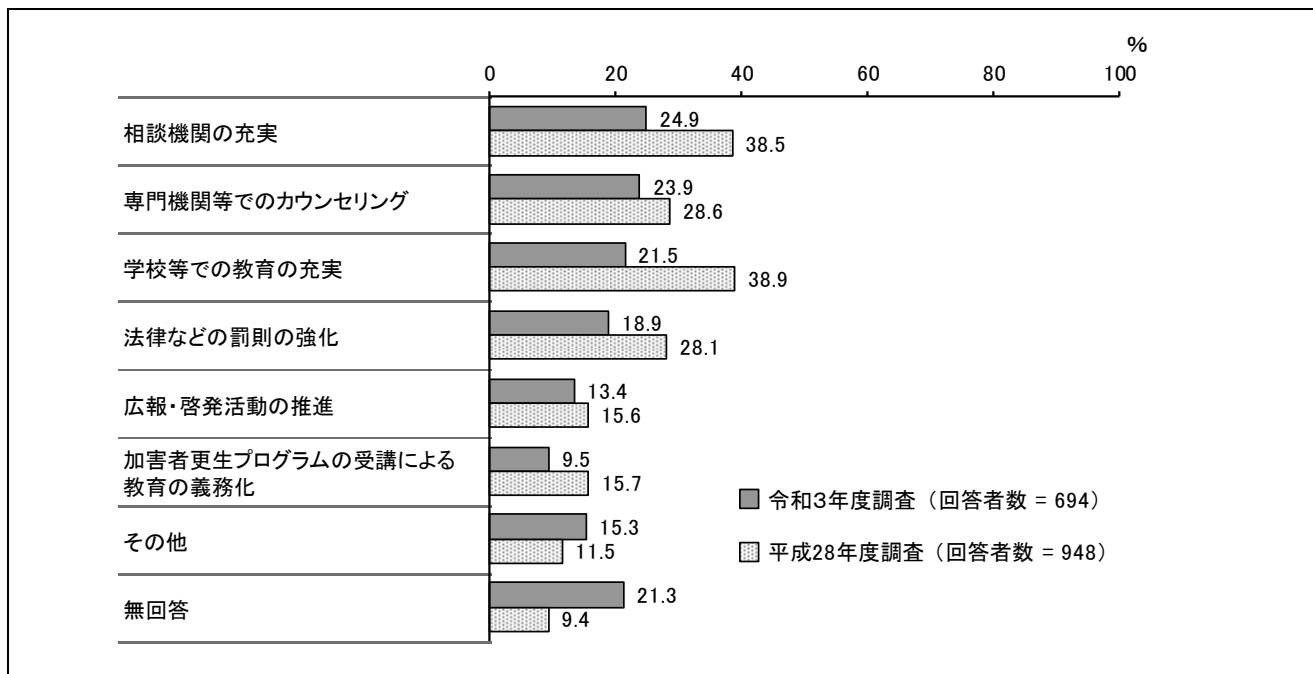
図表 2-10-32 問 30 の各行為の後に相談した相手（場所）（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「親しい知人や友人に相談した」と回答した人の割合は女性 20～29 歳が最も高く、3 割を超えている。一方、「相談や話し合いはしたことはない」と回答した人の割合は男性 50～59 歳と 70 歳以上で高く、5 割を超えている

(7) 問 30 の各行為をやめる (しない) ために必要なこと

問 30-4. あなたは、問 30 のような行為をやめる (しない) ために必要だと思うことはなんですか。(〇はいくつでも)



図表 2-10-33 問 30 の各行為をやめる (しない) ために必要なこと

○全体の傾向・経年変化

各行為をやめる(しない)ために必要なことは、「相談機関の充実」と回答した人の割合が 24.9% と最も高く、次いで「専門機関等でのカウンセリング」(23.9%)、「学校等での教育の充実」(21.5%) となっている。

平成 28 年度調査と比較すると、「その他」を除いた項目で割合が減少している。

単位：％

区分	回答者数 (件)	相談機関の 充実	専門機関等での カウンセリ ング	学校等での教育の 充実	法律などの罰則の 強化	広報・啓発活動の 推進	加害者更生プログラ ムの受講による教育 の義務化	その他	無回答
全 体	694	24.9	23.9	21.5	18.9	13.4	9.5	15.3	21.3
男性／合計	366	20.5	23.8	25.4	21.0	17.5	9.3	15.6	15.8
18～19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	8	12.5	37.5	50.0	12.5	12.5	—	—	12.5
30～39 歳	40	15.0	20.0	20.0	30.0	15.0	5.0	22.5	10.0
40～49 歳	68	19.1	25.0	25.0	20.6	20.6	10.3	19.1	11.8
50～59 歳	80	26.3	27.5	35.0	31.3	16.3	15.0	20.0	7.5
60～69 歳	97	23.7	21.6	23.7	15.5	20.6	10.3	11.3	19.6
70 歳以上	73	15.1	21.9	17.8	13.7	13.7	4.1	11.0	27.4
女性／合計	328	29.9	24.1	17.1	16.5	8.8	9.8	14.9	27.4
18～19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	12	50.0	41.7	33.3	16.7	16.7	16.7	8.3	8.3
30～39 歳	43	30.2	18.6	20.9	20.9	11.6	14.0	11.6	23.3
40～49 歳	75	32.0	33.3	26.7	30.7	6.7	18.7	8.0	17.3
50～59 歳	84	31.0	27.4	13.1	14.3	7.1	4.8	23.8	19.0
60～69 歳	55	29.1	18.2	10.9	7.3	7.3	7.3	14.5	43.6
70 歳以上	58	22.4	13.8	10.3	6.9	12.1	3.4	13.8	44.8

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性 18～19 歳、20～29 歳、女性 18～19 歳は参考扱いとする。

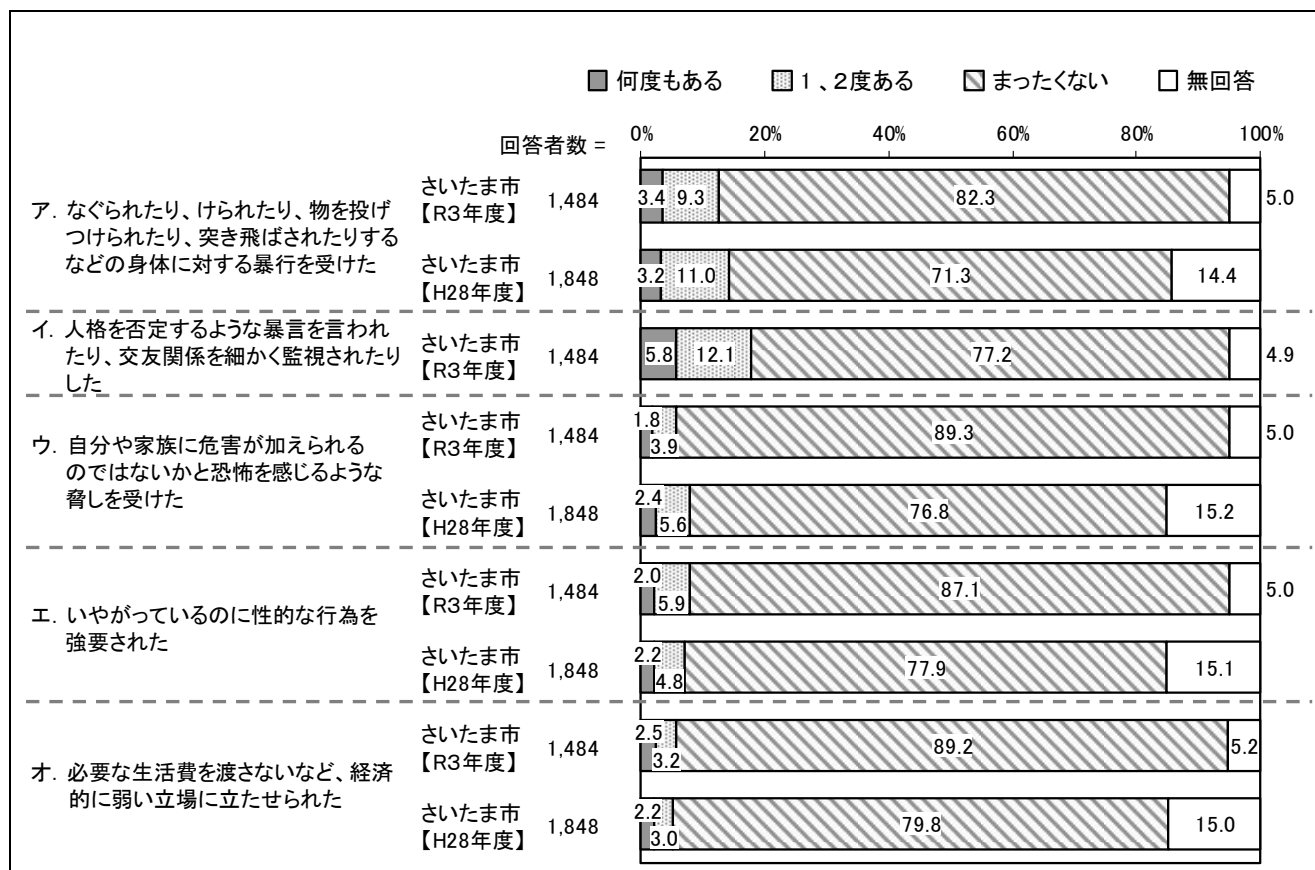
図表 2-10-34 問 30 の各行為をやめる（しない）ために必要なこと（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、「法律などの罰則の強化」と回答した人の割合は男性 30～39 歳と 50～59 歳、女性 40～49 歳が高く、3 割を超えている。また、「相談機関の充実」と回答した人の割合は女性 20～29 歳が最も高く、5 割となっている。

(8) 配偶者などからの被害経験

問3 1. あなたはこれまでに、あなたの配偶者などから次のような行為をされたことがありますか。(ア～オのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)

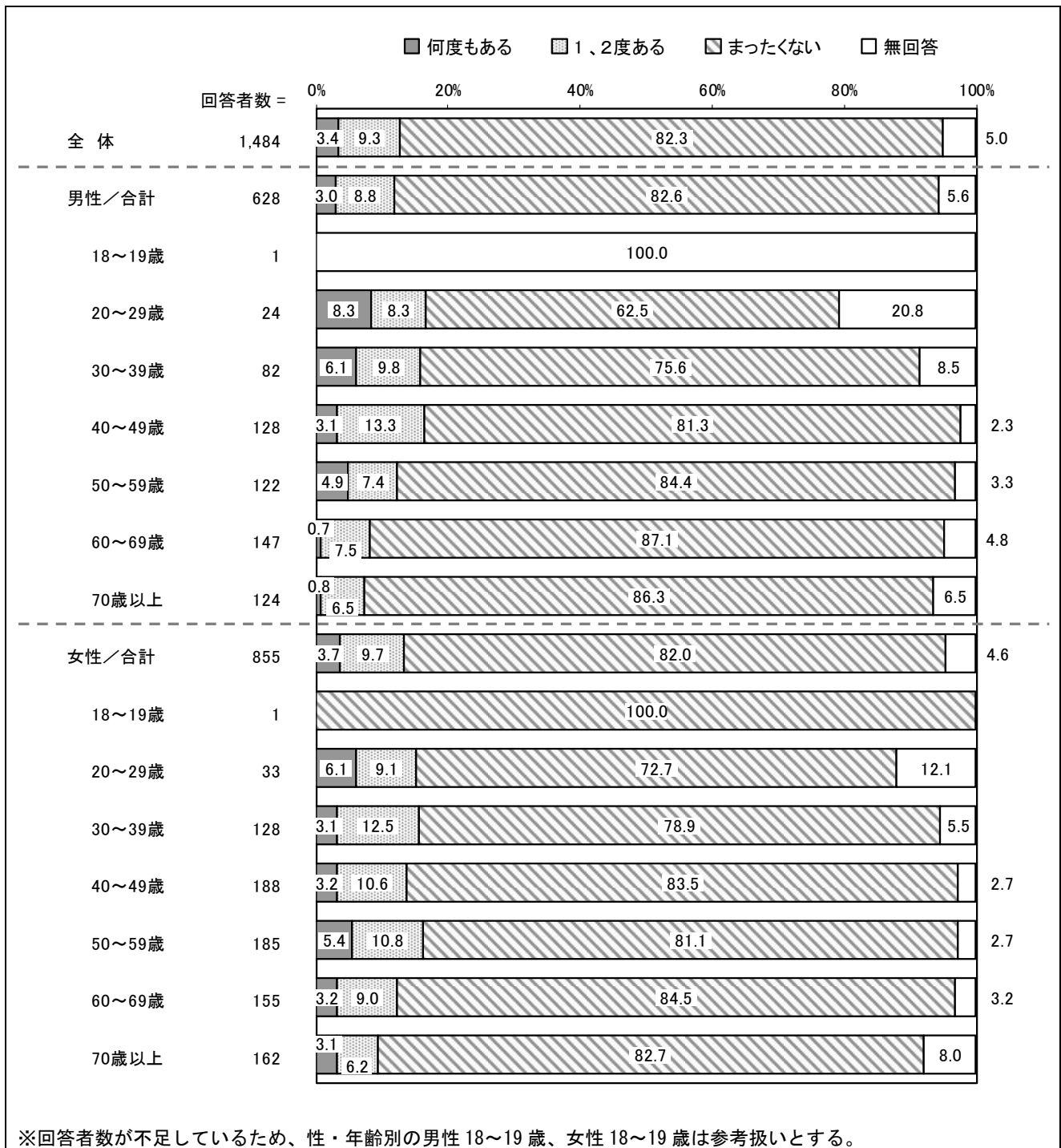


図表 2-10-35 配偶者などからの被害経験

○全体の傾向

配偶者などからされた行為（5項目）は、「まったくない」の割合が7割を超えている。『人格を否定されるような暴言を言われたり、交友関係を細かく監視されたりした』の割合は「1、2度ある」（12.1%）の割合が1割を超え、「何度もある」（5.8%）の割合は他の項目と比べ高くなっている。

ア. なぐられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行を受けた

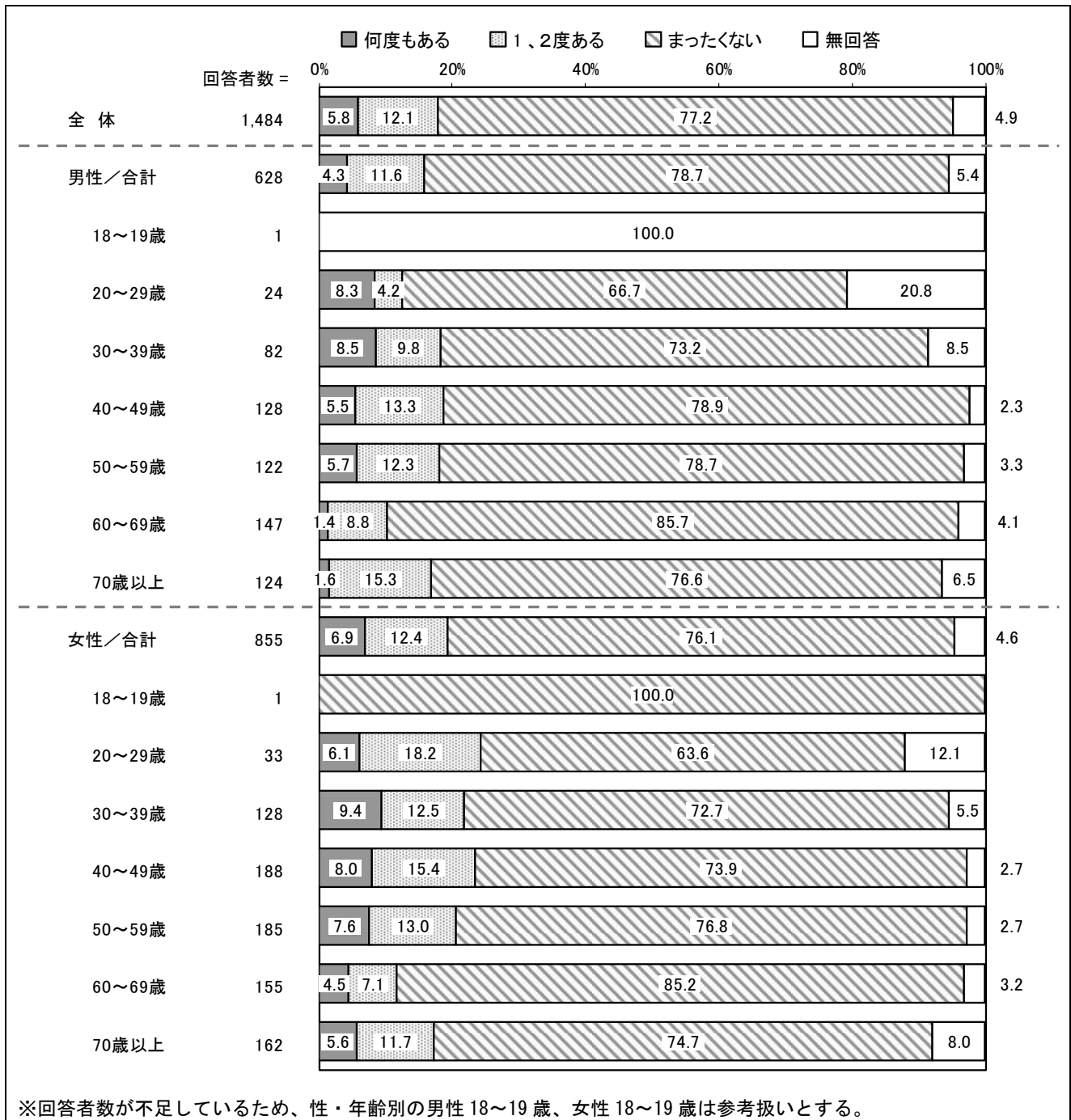


図表 2-10-36 配偶者などからの被害経験（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、男性では年齢が低くなるにつれて「何度もある」の割合が高くなる傾向がみられ、20～29歳で約1割となっている。

イ. 人格を否定するような暴言を言われたり、交友関係を細かく監視されたりした

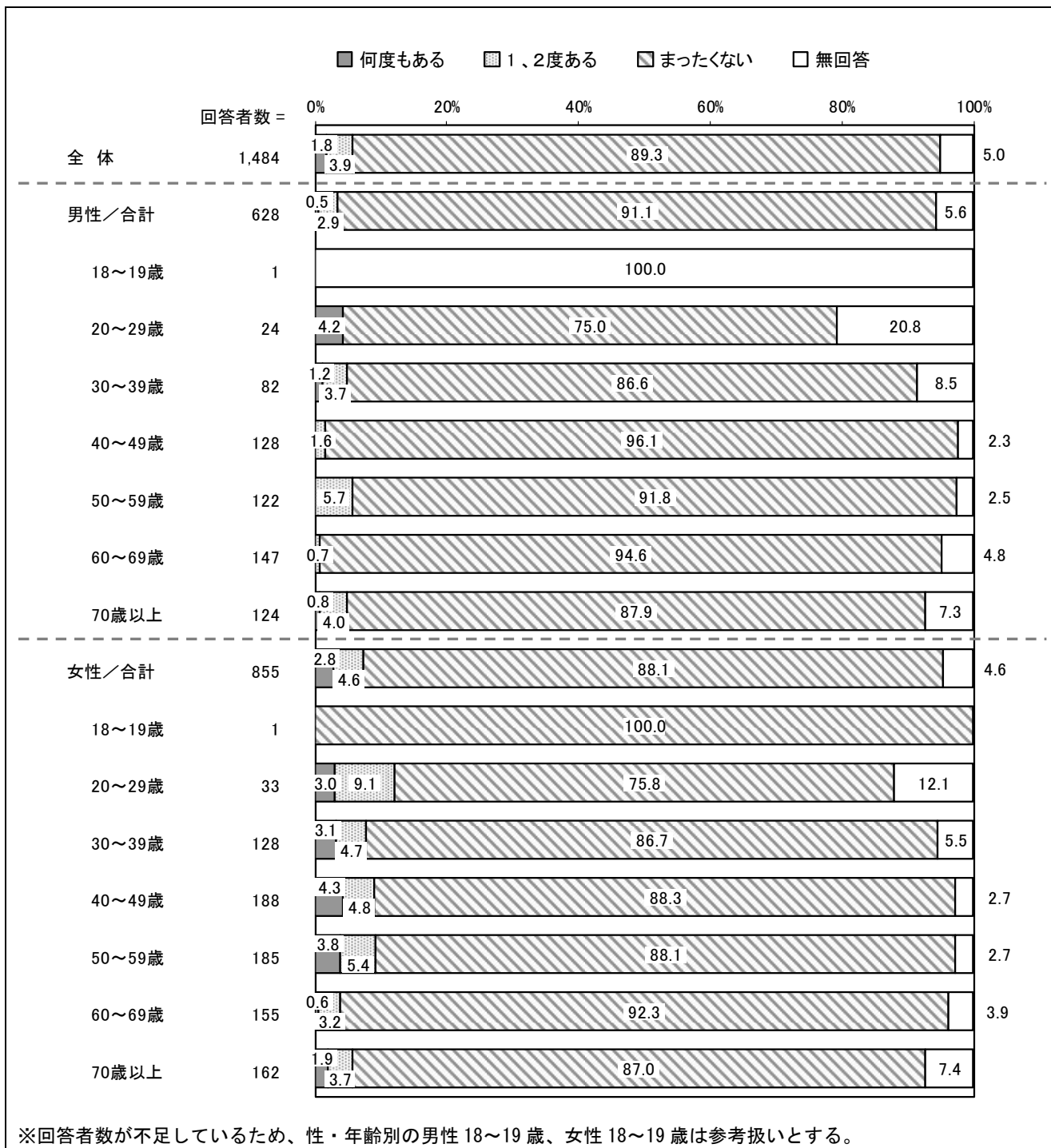


図表 2-10-37 配偶者などからの被害経験（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、男女ともに60～69歳で「まったくない」の割合が8割以上を占めている。また、女性では年齢が低くなるにつれて「1、2度ある」の割合が高くなる傾向がみられ、20～29歳で約2割となっている。

ウ. 自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅しを受けた

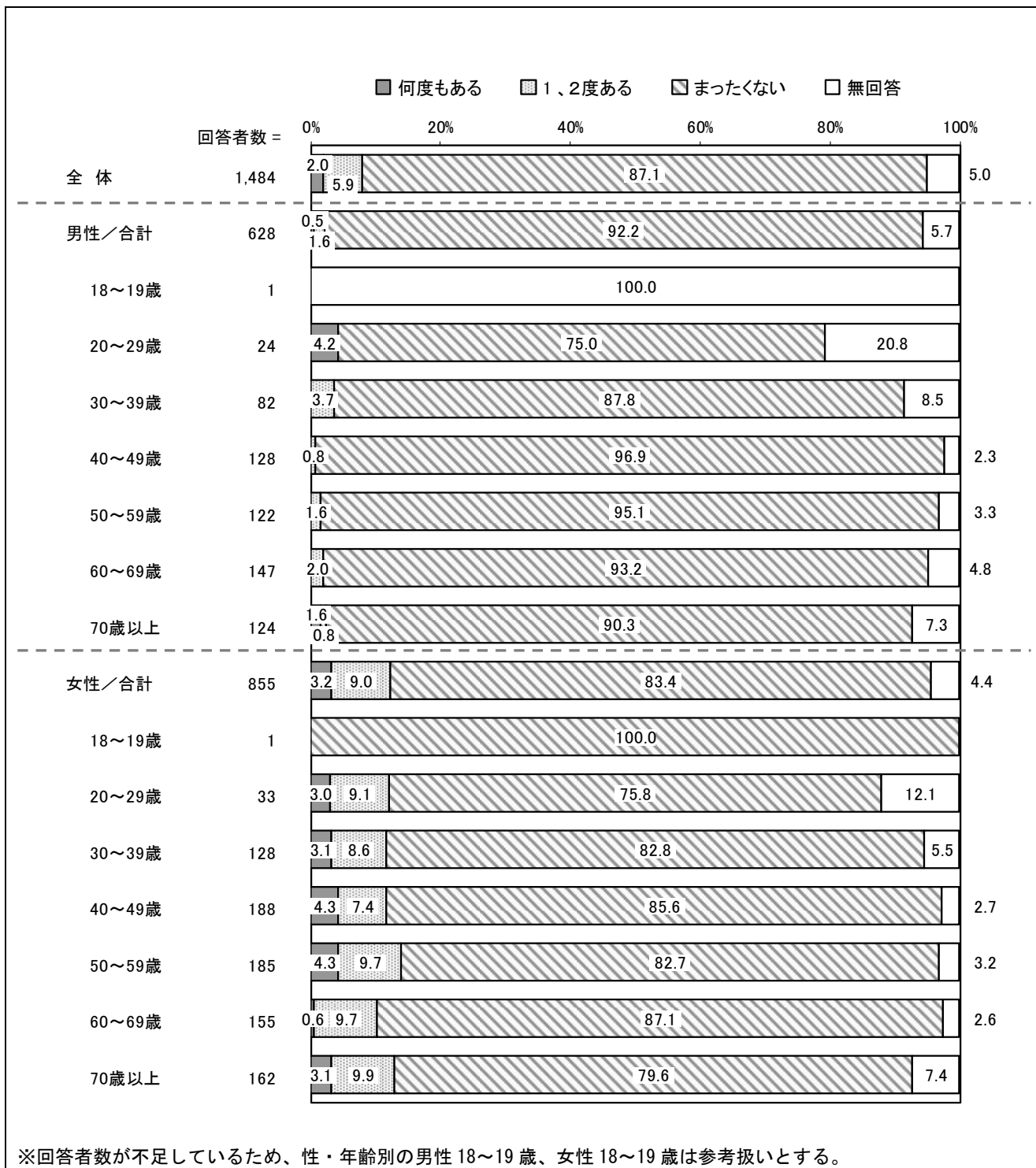


図表 2-10-38 配偶者などからの被害経験（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別でみると、男女ともに20～29歳を除いて「まったくない」の割合が8割を超えている。また、「何どもある」は女性（2.8%）が男性（0.5%）を2.3ポイント上回っている。

エ. いやがっているのに性的な行為を強要された

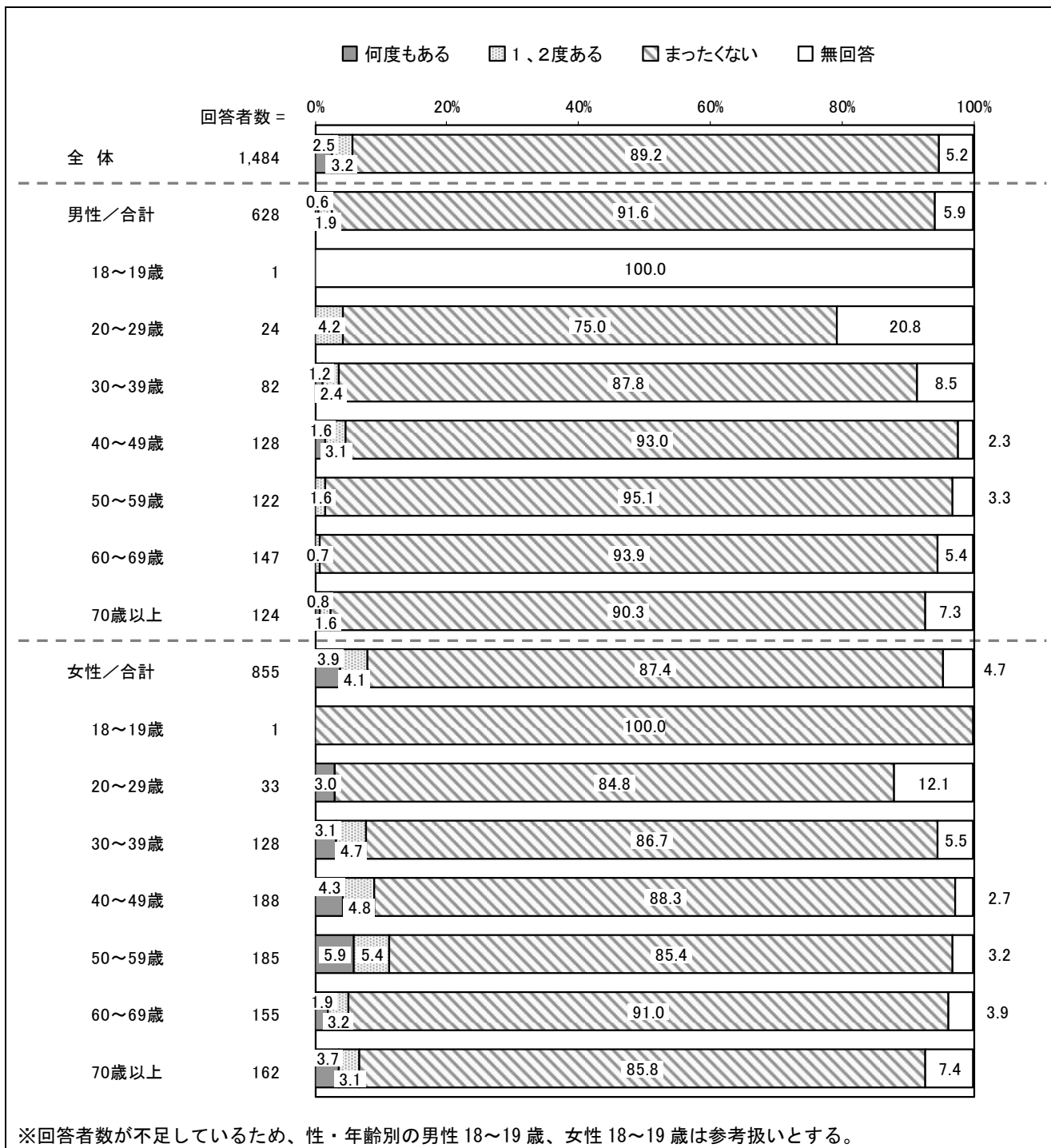


図表 2-10-39 配偶者などからの被害経験（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

性・年齢別で見ると、男性20～29歳、女性20～29歳と70歳以上を除いて「まったくない」の割合が8割を超えている。また、「1、2度ある」の割合は女性（9.0%）が男性（1.6%）を7.4ポイント上回っている。

オ. 必要な生活費を渡さないなど、経済的に弱い立場に立たせられた



図表 2-10-40 配偶者などからの被害経験（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

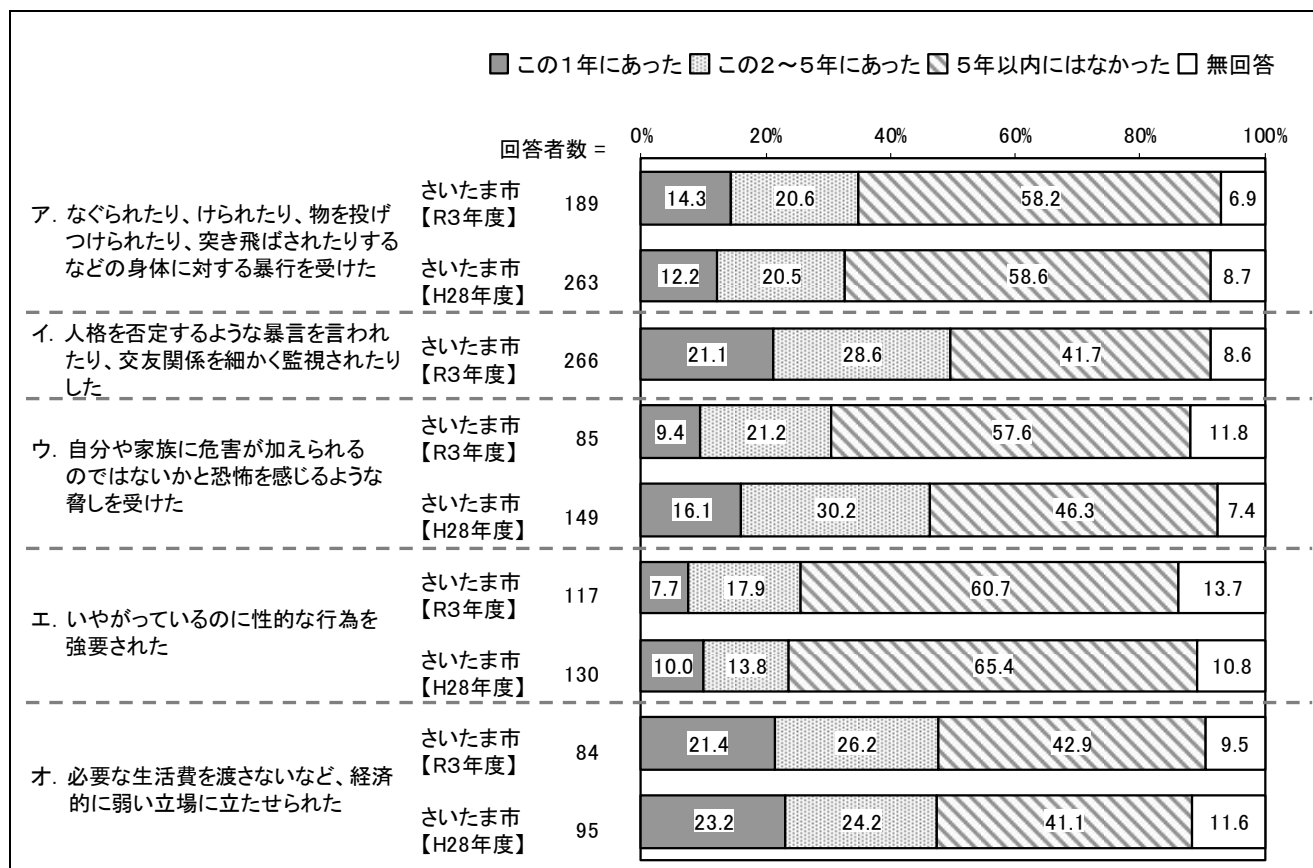
性・年齢別で見ると、男性では20～29歳を除いて「まったくない」の割合が8割を超えており、女性ではすべての年代で「まったくない」の割合が8割を超えている。

(9) 問 31 の各行為を受けた時期

※問 31 でひとつでも「何度もある」「1、2度ある」と回答した方におうかがいします。

問 31-1. この1年とこの2～5年では、いかがでしたか。

(ア～オのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)



図表 2-10-41 問 31 の各行為を受けた時期

○全体の傾向

問 31 の行為を受けた時期は、『いやがっているのに性的な行為を強要された』は「5年以内にはなかった」(60.7%)の割合が6割を超え、『なぐられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行』(58.2%)、『自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅しを受けた』も5割を超えている。一方、『人格を否定するような暴言を言われたり、交友関係を細かく監視されたりした』と『必要な生活費を渡さないなど、経済的に弱い立場に立たせられた』は「この1年にあった」の割合が2割を超えている。

ア. なぐられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行を受けた

単位：％

区分		回答者数 (件)	この1年 にあった	この2～5年 にあった	5年以内 にはなかつた	無回答
全体	さいたま市【R3年度】	189	14.3	20.6	58.2	6.9
	さいたま市【H28年度】	263	12.2	20.5	58.6	8.7
	さいたま市【H23年度】	300	16.7	22.7	58.6	8.7
男性	さいたま市【R3年度】	74	21.6	23.0	48.6	6.8
	さいたま市【H28年度】	76	17.1	19.7	61.8	1.3
	さいたま市【H23年度】	85	21.2	23.5	51.8	3.5
女性	さいたま市【R3年度】	115	9.6	19.1	64.3	7.0
	さいたま市【H28年度】	177	9.0	21.5	58.2	11.3
	さいたま市【H23年度】	187	16.0	21.4	52.9	9.6

図表 2-10-42 問 31 の各行為を受けた時期（性別）

○性別の傾向

性別でみると、男性（21.6％）は「この1年にあった」の割合が2割を超え、女性（9.6％）を12ポイント上回っている。また、女性（64.3％）は「5年以内にはなかった」の割合が高く、男性に比べ15.7ポイント高くなっている。

平成28年度調査と比較すると、男性で「この1年にあった」の割合が4.5ポイント増加している

イ. 人格を否定するような暴言を言われたり、交友関係を細かく監視されたりした

単位：％

区分		回答者数 (件)	この1年 にあった	この2～5年 にあった	5年以内 にはなかつた	無回答
全体		266	21.1	28.6	41.7	8.6
男性		100	26.0	35.0	32.0	7.0
女性		165	18.2	24.8	47.9	9.1

図表 2-10-43 問 31 の各行為を受けた時期（性別）

○性別の傾向

性別でみると、男性（35.0％）は「この2～5年にあった」の割合が3割を超え、女性（24.8％）を10.2ポイント上回っている。また、女性（47.9％）は「5年以内にはなかった」の割合が高く、男性に比べ15.9ポイント高くなっている。

ウ. 自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅しを受けた

単位：％

区分		回答者数 (件)	この1年 にあった	この2～5年 にあった	5年以内 には なかった	無回答
全体	さいたま市【R3年度】	85	9.4	21.2	57.6	11.8
	さいたま市【H28年度】	149	16.1	30.2	46.3	7.4
	さいたま市【H23年度】	160	13.1	31.3	45.6	10.0
男性	さいたま市【R3年度】	21	9.5	19.0	47.6	23.8
	さいたま市【H28年度】	29	27.6	17.2	48.3	6.9
	さいたま市【H23年度】	27	11.1	33.3	48.1	7.4
女性	さいたま市【R3年度】	63	9.5	22.2	61.9	6.3
	さいたま市【H28年度】	114	12.3	34.2	45.6	7.9
	さいたま市【H23年度】	114	14.9	31.6	43.0	10.5

図表 2-10-44 問 31 の各行為を受けた時期 (性別)

○性別の傾向

性別で見ると、女性 (61.9%) は「5年以内にはなかった」の割合が6割を超え、男性 (47.6%) を14.3ポイント上回っている。

平成28年度調査と比較すると、女性で「5年以内にはなかった」の割合が16.3ポイント増加している。

エ. いやがっているのに性的な行為を強要された

単位：％

区分		回答者数 (件)	この1年 にあった	この2～5年 にあった	5年以内 には なかった	無回答
全体	さいたま市【R3年度】	117	7.7	17.9	60.7	13.7
	さいたま市【H28年度】	130	10.0	13.8	65.4	10.8
	さいたま市【H23年度】	126	8.7	19.8	65.1	6.3
男性	さいたま市【R3年度】	13	15.4	23.1	38.5	23.1
	さいたま市【H28年度】	9	11.1	11.1	77.8	—
	さいたま市【H23年度】	9	—	22.2	77.8	—
女性	さいたま市【R3年度】	104	6.7	17.3	63.5	12.5
	さいたま市【H28年度】	115	8.7	13.9	66.1	11.3
	さいたま市【H23年度】	99	9.1	18.2	65.7	7.1

図表 2-10-45 問 31 の各行為を受けた時期 (性別)

○性別の傾向

性別で見ると、男性 (15.4%) は「この1年にあった」の割合が1割を超え、女性 (6.7%) を8.7ポイント上回っている。

平成28年度調査と比較すると、男性で「この1年にあった」の割合が4.3ポイント増加している。

オ. 必要な生活費を渡さないなど、経済的に弱い立場に立たせられた

単位：％

区分		回答者数 (件)	この1年 にあった	この2～5年 にあった	5年以内 にはなかつた	無回答
全体	さいたま市【R3年度】	84	21.4	26.2	42.9	9.5
	さいたま市【H28年度】	95	23.2	24.2	41.1	11.6
男性	さいたま市【R3年度】	16	18.8	25.0	43.8	12.5
	さいたま市【H28年度】	15	20.0	40.0	26.7	13.3
女性	さいたま市【R3年度】	68	22.1	26.5	42.6	8.8
	さいたま市【H28年度】	77	22.1	22.1	44.2	11.7

図表 2-10-46 問 31 の各行為を受けた時期 (性別)

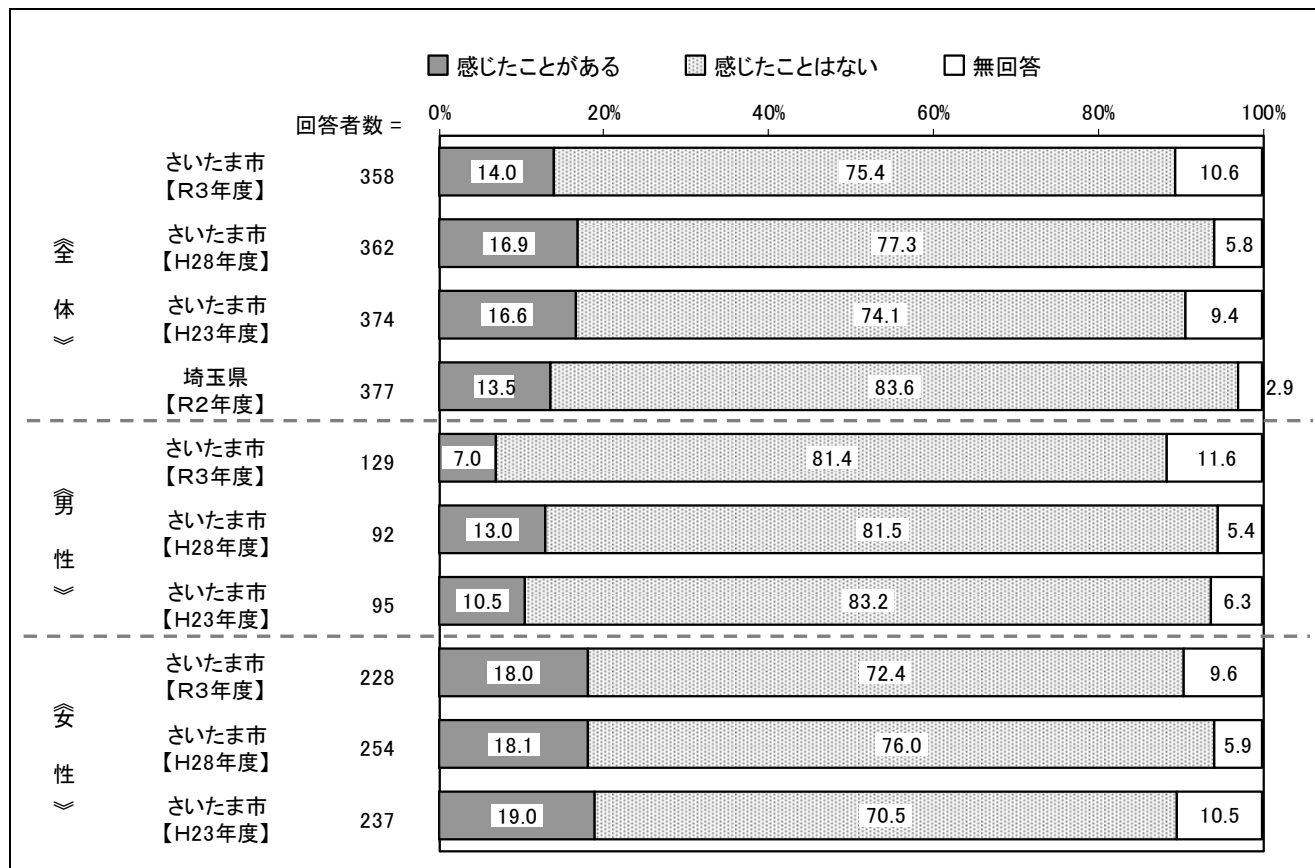
○性別の傾向

性別で見ると、女性（22.1％）は「この1年にあった」の割合が2割を超え、男性（18.8％）を3.3ポイント上回っている。

平成28年度調査と比較すると、男性で「5年以内にはなかった」の割合が17.1ポイント増加している。

(10) 問 31 の各行為中に感じた命の危機

問 3 1 - 2. あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。(○は1つ)



図表 2-10-47 問 31 の各行為中に感じた命の危機

○全体の傾向・性別の傾向・経年変化

全体では「感じたことがある」の割合が 14.0%、「感じたことはない」の割合が 75.4%となっている。

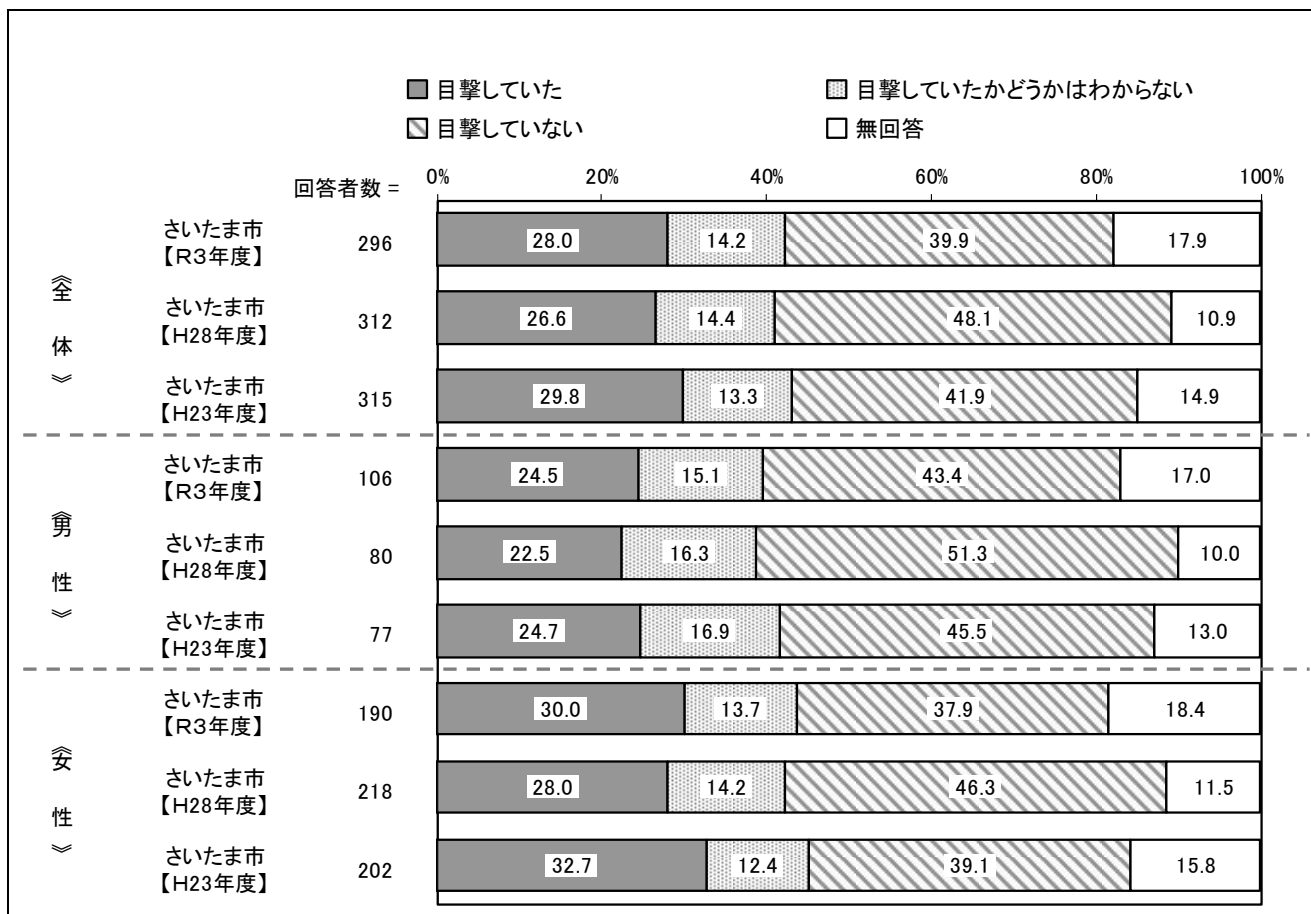
性別で見ると、「感じたことがある」の割合は女性（18.0%）が男性（7.0%）を 11.0 ポイント上回っている。

平成 28 年度調査と比較すると、男性で「感じたことがある」の割合が 6.0 ポイント減少している。

(11) 問 31 の各行為を受けた際、子どもの目撃の有無

※問 3 1-3、4 は子どもがいる方におうかがいします。子どものいない方は問 3 1-5 へ進んでください

問 3 1-3. あなたがその行為を受けた時に、あなたのお子さんはそれを目撃しましたか。
(○は1つ)



図表 2-10-48 問 31 の各行為を受けた際、子どもの目撃の有無

○全体の傾向・性別の傾向・経年変化

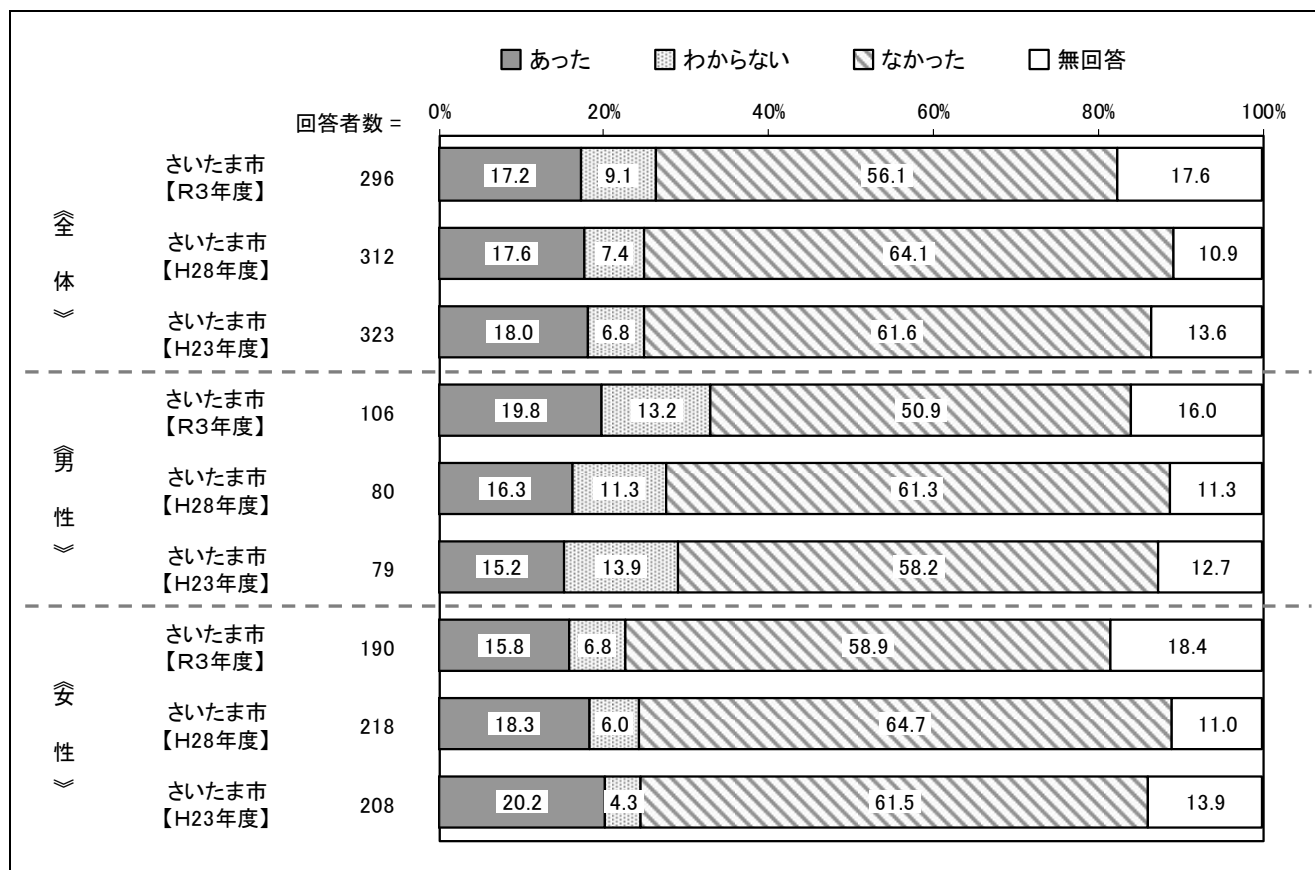
全体では「目撃していない」の割合が 39.9%と最も高く、次いで「目撃していた」(28.0%)、「目撃していたかどうかはわからない」(14.2%)となっている。

性別で見ると、女性(30.0%)は「目撃していた」の割合が3割となっているが、男性(24.5%)は5.5ポイント低くなっている。

平成 28 年度調査と比較すると、さいたま市全体、男女ともに「目撃していた」の割合がわずかに増加している。

(12) 問 31 の各行為が子どもにも同様に行われたか

問 3 1 - 4. その相手は、あなたのお子さんに対して、あなたがされていたのと同じ行為をしたことがありましたか。(○は1つ)



図表 2-10-49 問 31 の各行為が子どもにも同様に行われたか

○全体の傾向・性別の傾向・経年変化

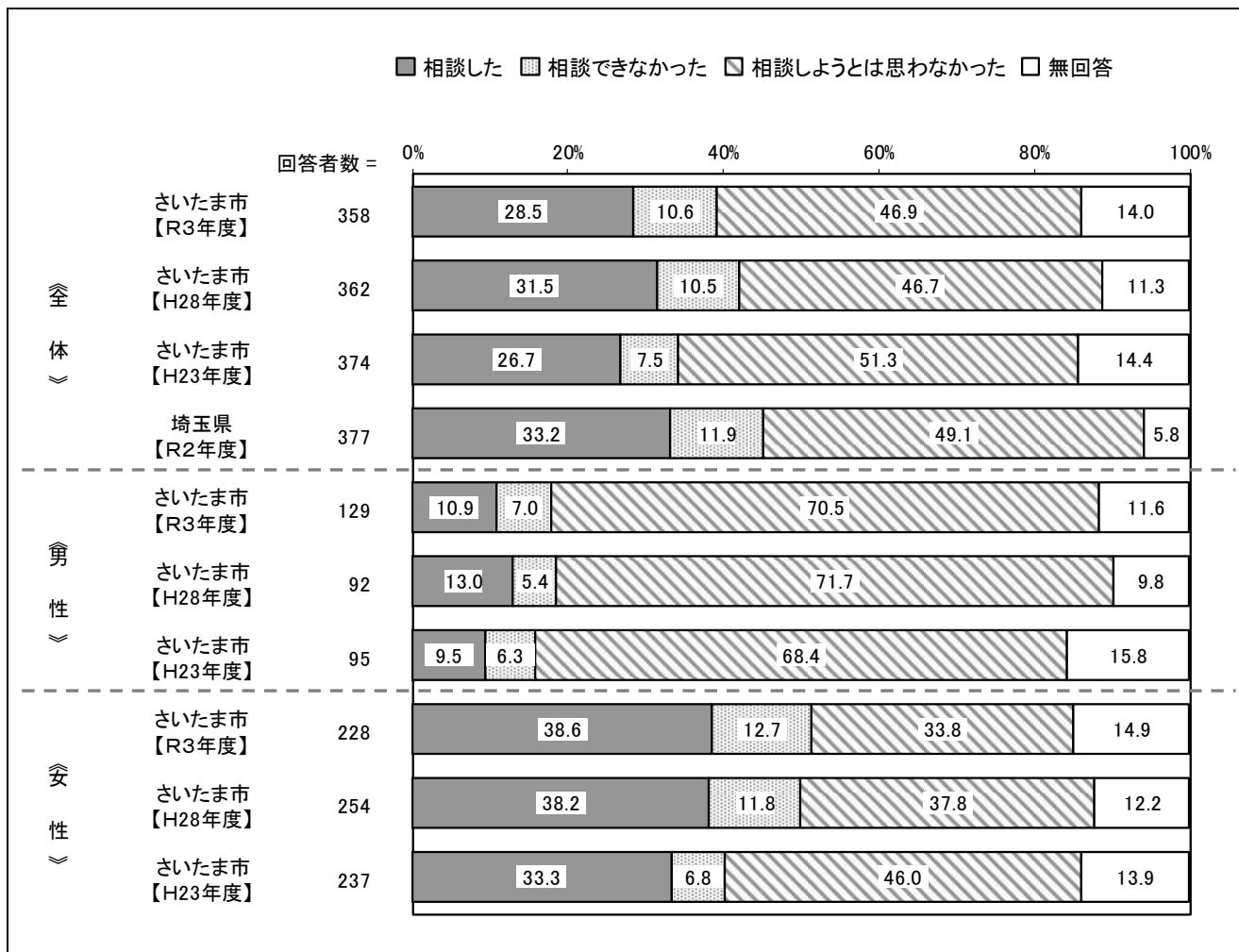
全体では、「なかった」の割合が 56.1%と最も高く、次いで「あった」(17.2%)となっている。

性別でみると、男性(19.8%)は「あった」の割合が約2割となっており、女性(15.8%)を4.0ポイント上回っている。

過去の調査と比較すると、女性では「あった」の割合が減少傾向にあるのに対し、男性では増加傾向にある。

(13) 問 31 の各行為に関する相談状況

問 31-5. あなたはこれまでに、その相手から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つ)



図表 2-10-50 問 31 の各行為に関する相談状況

○全体の傾向・性別の傾向・経年変化

全体では、「相談しようとは思わなかった」の割合が 46.9%と最も高く、次いで「相談した」(28.5%)、「相談できなかった」(10.6%)となっている。

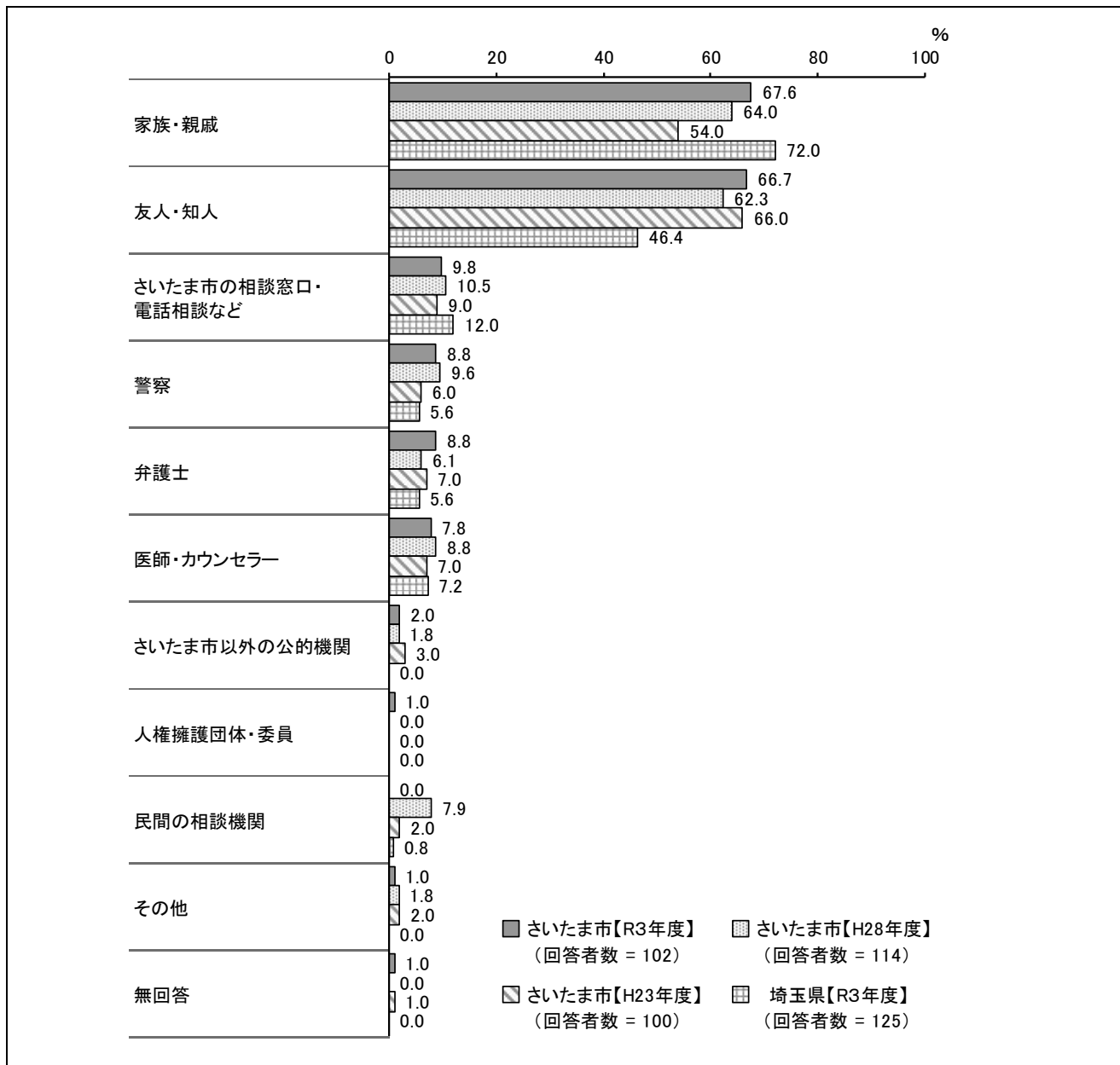
性別で見ると、男性(70.5%)は「相談しようとは思わなかった」の割合が7割を超えているが、女性(33.8%)は36.7ポイント低くなっている。また、女性(38.6%)は「相談した」の割合が高く、男性に比べ27.7ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、女性では「相談した」の割合が増加傾向にあり、約4割となっている。

(14) 問 31 の各行為に関する相談相手（場所）

※問 3 1－5 で「1. 相談した」と回答した方におうかがいします。

問 3 1－6. あなたが相談した人（場所）を教えてください。（〇はいくつでも）



図表 2-10-51 問 31 の各行為に関する相談相手（場所）

○全体の傾向・経年変化

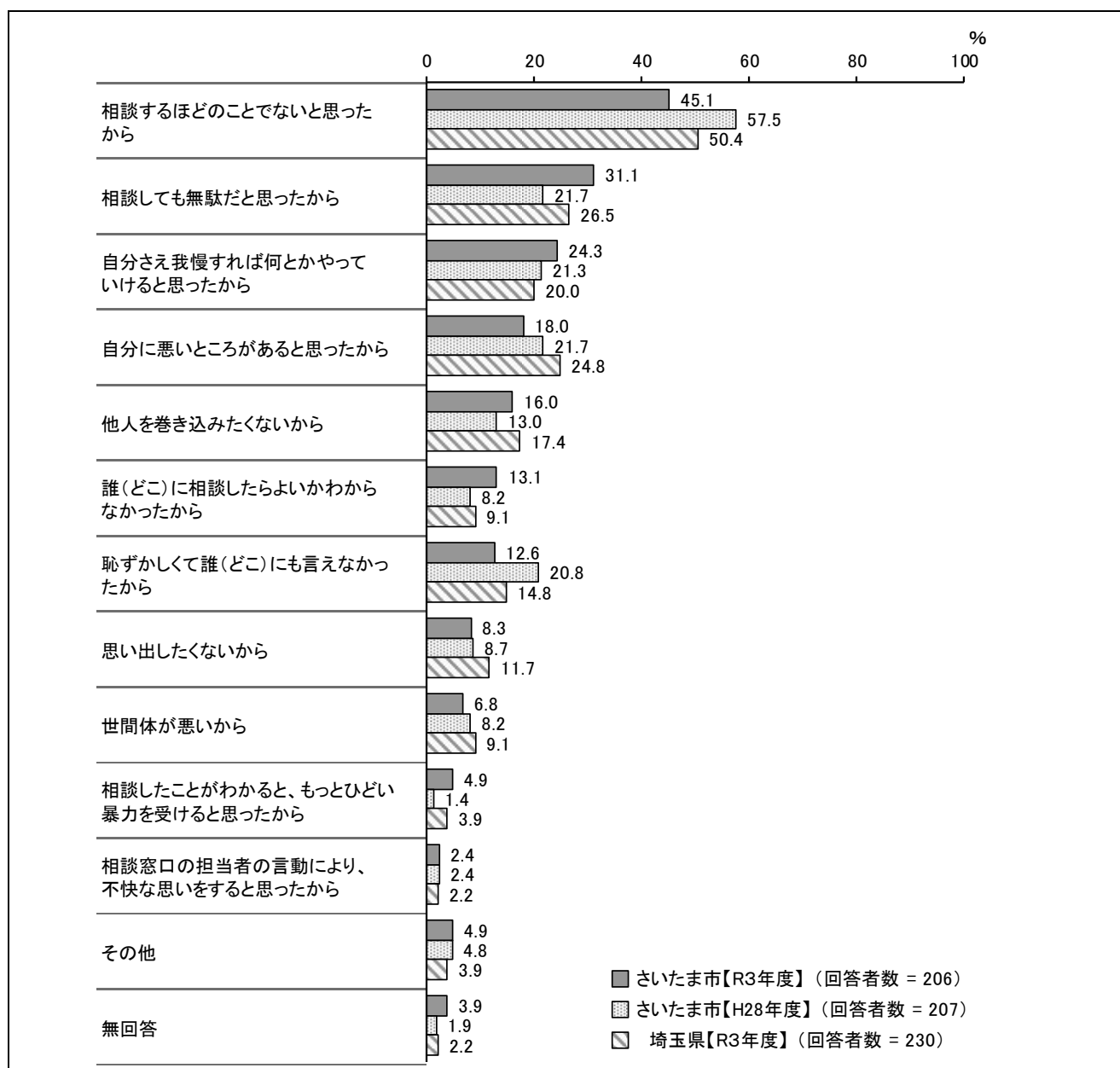
相談した人（場所）は、「家族・親戚」と回答した人の割合が 67.6%と最も高く、次いで「友人・知人」（66.7%）となっている。

過去の調査と比較すると、「家族・親戚」と回答した人の割合が増加傾向にある。

(15) 問 31 の各行為に関して相談しなかった理由

※問 3 1－5 で「2. 相談できなかった」「3. 相談しようとは思わなかった」と回答した方におうかがいします。

問 3 1－7. あなたが誰（どこ）にも相談できなかった（しなかった）のはなぜですか。
（〇はいくつでも）



図表 2-10-52 問 31 の各行為に関して相談しなかった理由

○全体の傾向・経年変化

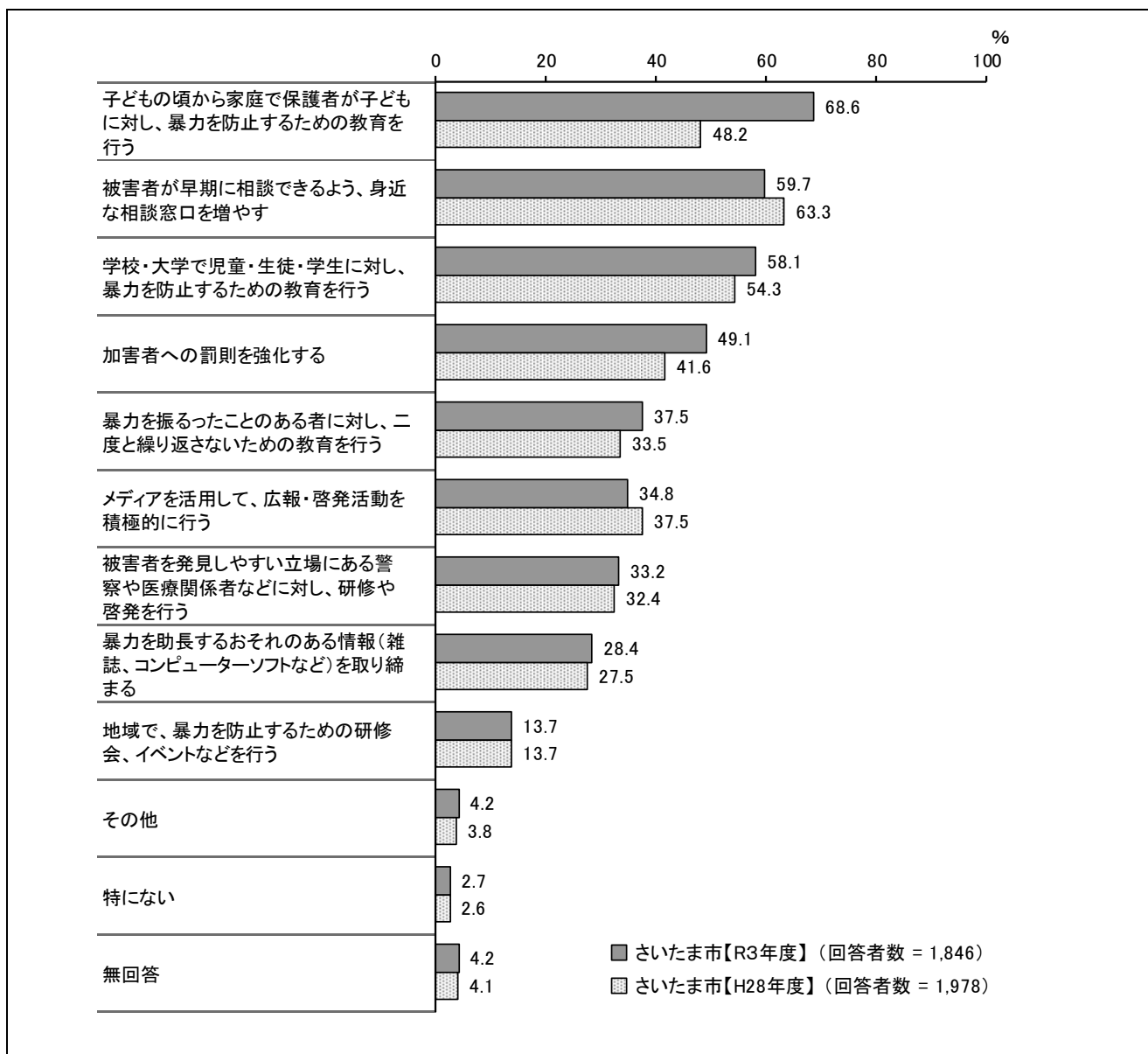
相談しなかった理由は、「相談するほどのことでないと思ったから」と回答した人の割合が 45.1%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」(31.1%)、「自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから」(24.3%)となっている。

過去の調査と比較すると、「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから」と回答した人の割合が増加傾向にある。

(16) 配偶者などの間における暴力を防止するために必要なこと

※ここからは再度、全員の方におうかがいします。

問 3 2. 配偶者などの間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。(〇はいくつでも)



図表 2-10-53 配偶者などの間における暴力を防止するために必要なこと

○全体の傾向・経年変化

配偶者などの間における暴力を防止するためには、「子どもの頃から家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」と回答した人の割合が 68.6%と最も高く、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(59.7%)、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」(58.1%)となっている。

平成 28 年度調査と比較すると、「子どもの頃から家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」と回答した人の割合が 20.4 ポイント増加しています。

単位：%

区分	回答者数(件)	子どもの頃から家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的にを行う
全体	1,846	68.6	59.7	58.1	49.1	37.5	34.8
男性／合計	761	66.4	54.4	56.8	48.6	33.6	34.6
18～19歳	6	66.7	100.0	66.7	83.3	50.0	33.3
20～29歳	54	53.7	51.9	44.4	50.0	37.0	31.5
30～39歳	105	61.0	46.7	52.4	56.2	32.4	28.6
40～49歳	150	66.0	53.3	57.3	55.3	30.7	36.0
50～59歳	146	70.5	58.9	60.3	54.1	41.1	42.5
60～69歳	158	69.6	57.6	67.7	41.1	32.9	38.0
70歳以上	138	67.4	52.2	47.1	35.5	29.0	26.8
女性／合計	1,015	71.3	65.2	60.2	50.3	41.0	35.7
18～19歳	9	77.8	55.6	88.9	66.7	33.3	33.3
20～29歳	95	61.1	74.7	65.3	70.5	43.2	40.0
30～39歳	155	71.0	67.1	58.7	65.2	40.6	37.4
40～49歳	214	71.5	61.7	59.3	53.3	38.3	37.4
50～59歳	204	71.1	69.1	62.7	40.2	41.7	40.7
60～69歳	162	75.9	66.7	56.8	46.9	48.8	30.9
70歳以上	172	72.7	57.6	58.1	35.5	36.0	27.9

区分	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピュータソフトなど)を取り締まる	地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	その他	特になし	無回答
全体	33.2	28.4	13.7	4.2	2.7	4.2
男性／合計	30.1	24.0	14.7	4.6	2.8	4.6
18～19歳	66.7	33.3	16.7	—	—	—
20～29歳	40.7	16.7	16.7	3.7	3.7	9.3
30～39歳	30.5	14.3	12.4	4.8	1.0	1.0
40～49歳	29.3	16.0	16.0	10.0	2.0	3.3
50～59歳	28.1	25.3	14.4	4.1	2.1	3.4
60～69歳	30.4	29.7	14.6	3.2	4.4	3.2
70歳以上	26.1	34.1	15.2	1.4	3.6	10.1
女性／合計	36.5	31.7	13.0	4.1	2.3	2.5
18～19歳	33.3	33.3	22.2	—	—	11.1
20～29歳	55.8	14.7	14.7	3.2	2.1	2.1
30～39歳	47.7	26.5	12.3	5.8	1.3	1.3
40～49歳	30.8	29.4	13.6	4.7	2.3	0.5
50～59歳	35.8	31.9	14.2	5.9	2.5	1.0
60～69歳	32.1	41.4	9.3	2.5	1.2	2.5
70歳以上	27.3	39.5	13.4	1.7	4.1	7.6

※回答者数が不足しているため、性・年齢別の男性18～19歳、女性18～19歳は参考扱いとする。

図表 2-10-54 配偶者などの間における暴力を防止するために必要なこと(性・年齢別)

○性・年齢別の傾向

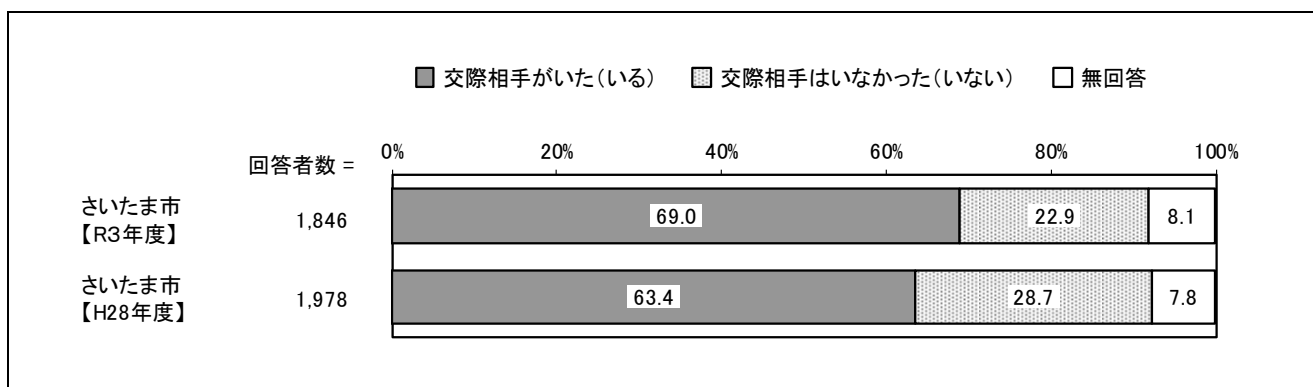
性・年齢別でみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」「加害者への罰則を強化する」と回答した人の割合は女性20～29歳が最も高く、7割を超えている。

11 交際相手からの暴力について

(1) 10代、20代における交際相手の有無

※問33は、あなたの10代から20代の時の経験についておうかがいます。結婚している方、結婚したことがある方については、結婚前についてお答えください。

問33. あなたには、その当時、交際相手がありましたか。結婚している方、結婚したことのある方については、後に配偶者となった相手以外についてお答えください。
(○は1つ)

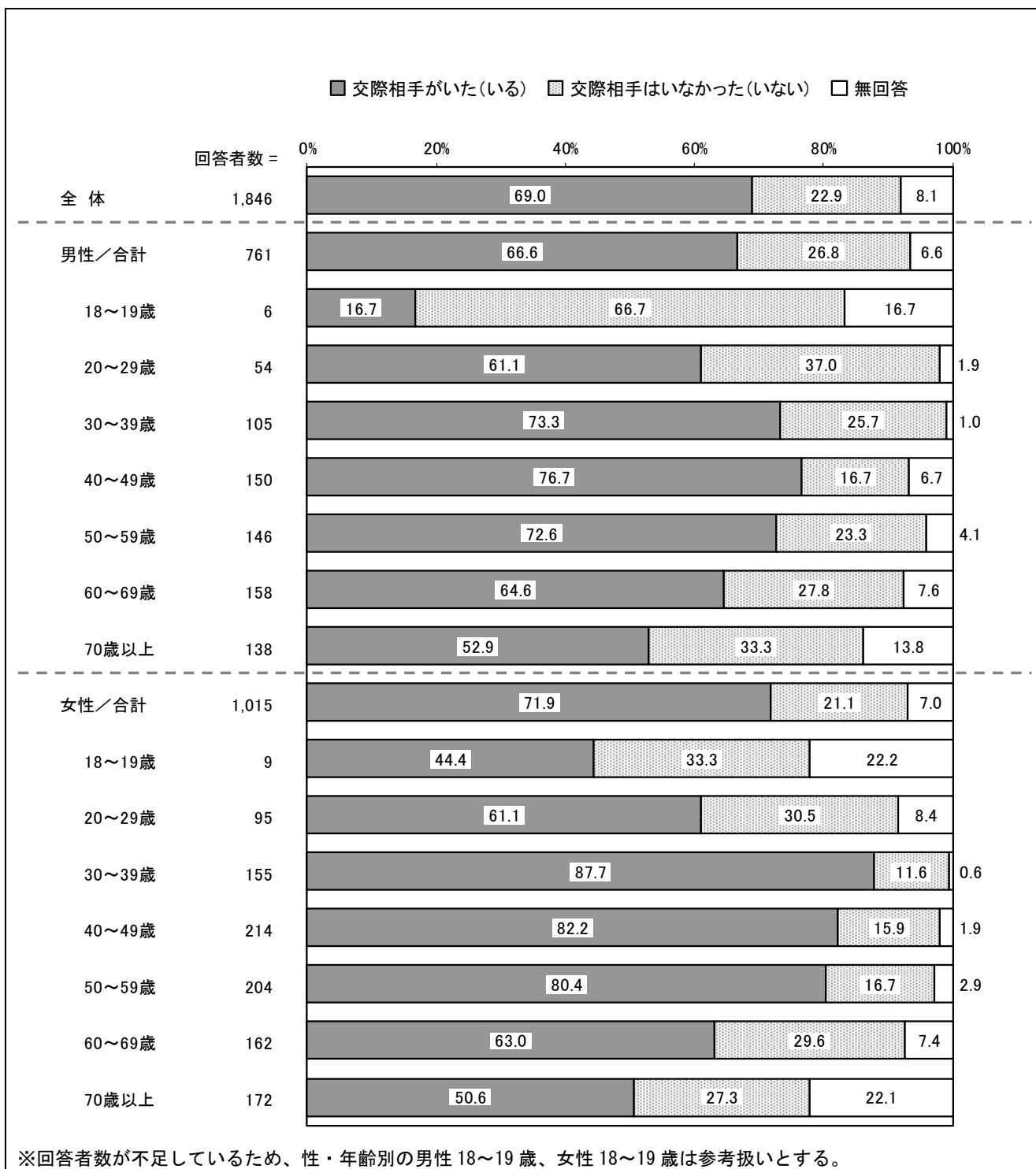


図表 2-11-1 10代、20代における交際相手の有無

○全体の傾向・経年変化

「交際相手があった(いる)」の割合が69.0%、「交際相手はなかった(いない)」の割合が22.9%となっている。

平成28年度調査と比較すると、「交際相手があった(いる)」の割合が5.6ポイント増加している。



図表 2-11-2 10代、20代における交際相手の有無（性・年齢別）

○性・年齢別の傾向

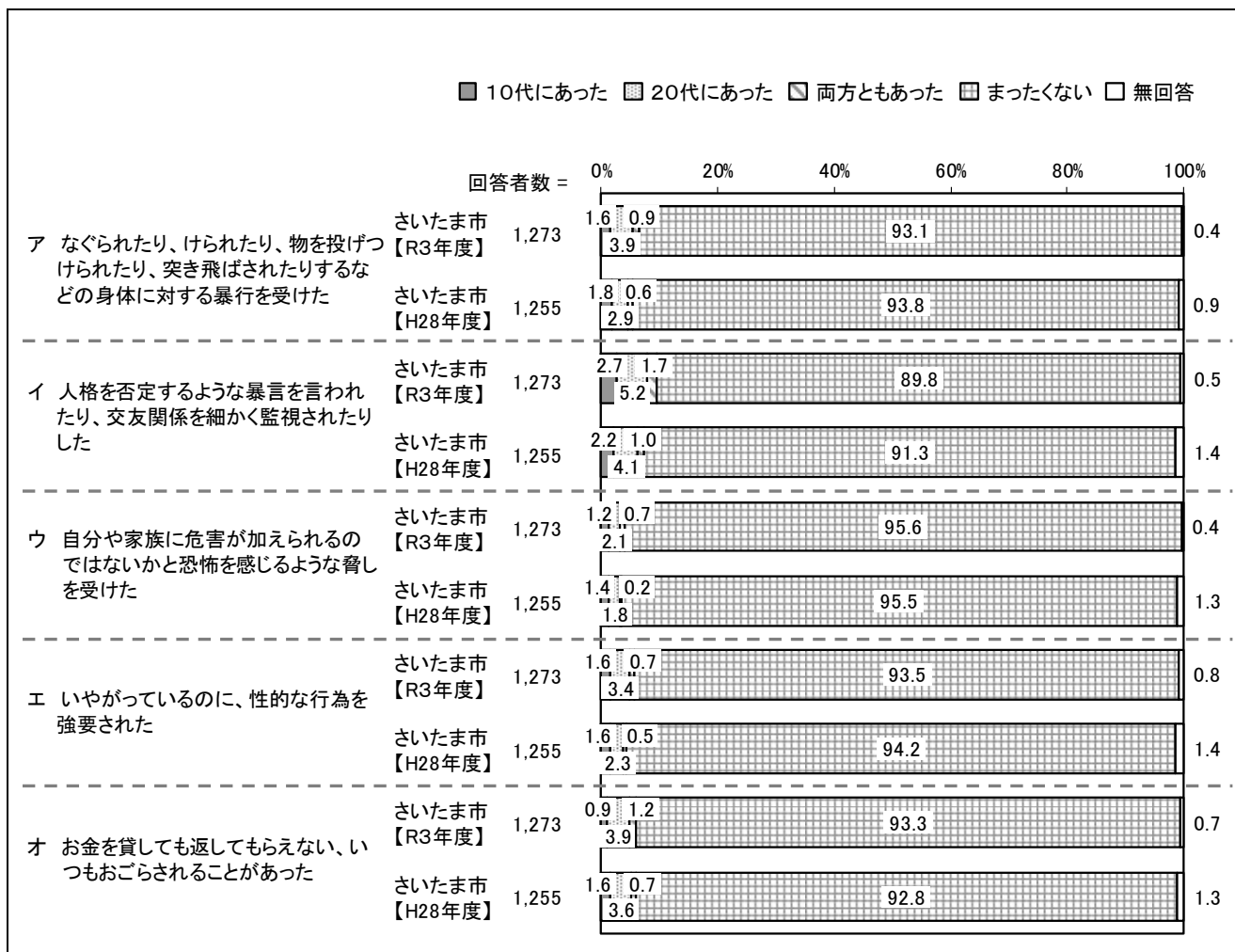
性・年齢別でみると、「交際相手がいた(いる)」の割合は女性(71.9%)が男性(66.6%)を5.3ポイント上回っており、特に女性の30～39歳で最も多く、約9割となっている。また、年齢が高くなるにつれ「交際相手がいた(いる)」の割合は減少傾向にあり、男女ともに70歳以上では約5割となっている。

(2) 10代、20代中の交際相手から受けた行為

※問33で、「1. 交際相手がいた(いる)」と回答した方におうかがいます。

問33-1. あなたは、10代、20代の時に、交際相手から次のような行為をされたことがありますか。

(ア～オのそれぞれについて、あてはまる「1～4」に○を1つ)



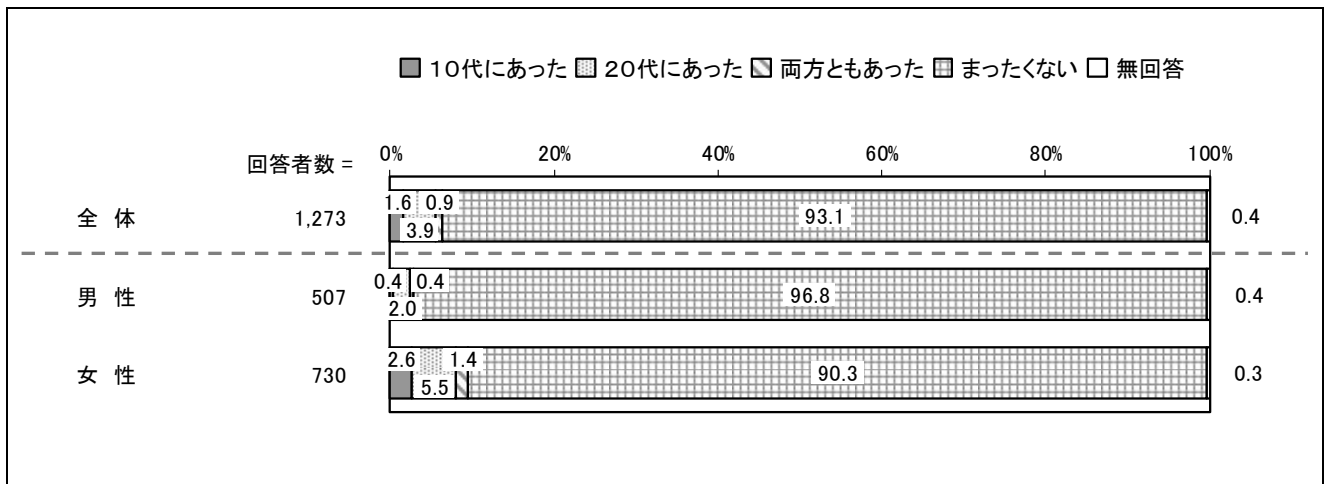
図表 2-11-3 10代、20代中の交際相手から受けた行為

○全体の傾向

5項目すべてで「まったくくない」の割合が約9割となっている。一方、『人格を否定するような暴言を言われたり、交友関係を細かく監視された』は「10代にあった」(2.7%)、「20代にあった」(5.2%)、「両方ともあった」(1.7%)の割合が、いずれも5項目の中で最も高くなっている。

平成28年度調査と比較すると、「20代にあった」の割合が『人格を否定するような暴言を言われたり、交友関係を細かく監視された』で1.1ポイント、『いやがっているのに、性的な行為を強要された』で1.0ポイント増加している。

ア. なぐられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行を受けた

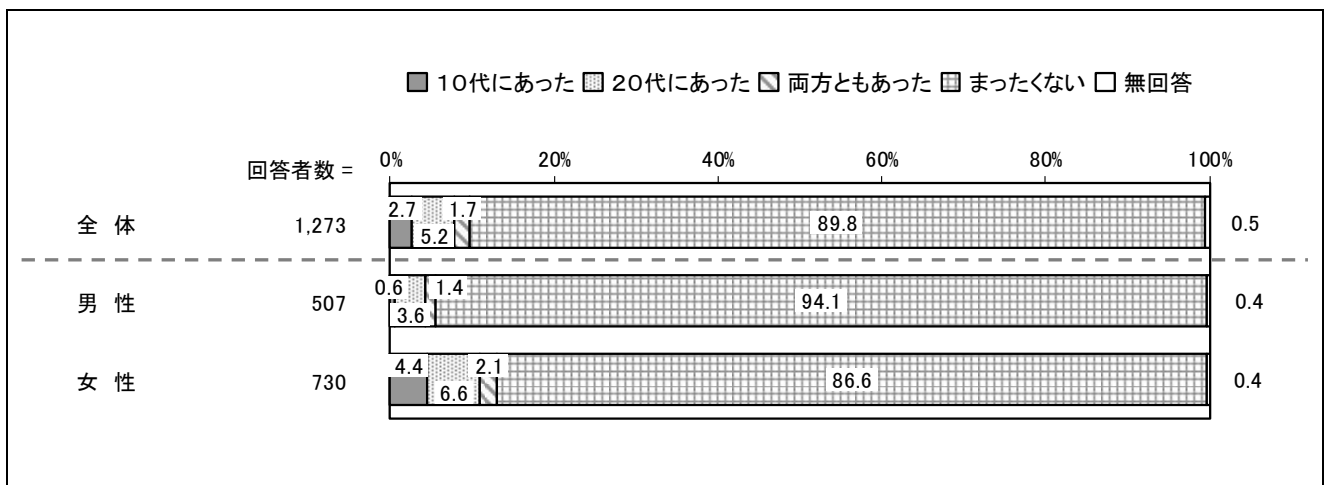


図表 2-11-4 10代、20代中の交際相手から受けた行為（性別）

○性別の傾向

性別でみると、男女ともに「まったくない」の割合が9割を超えている。一方、「10代にあった」「20代にあった」「両方ともあった」の割合は、いずれも女性の方がやや高くなっている。

イ. 人格を否定するような暴言を言われたり、交友関係を細かく監視されたりした

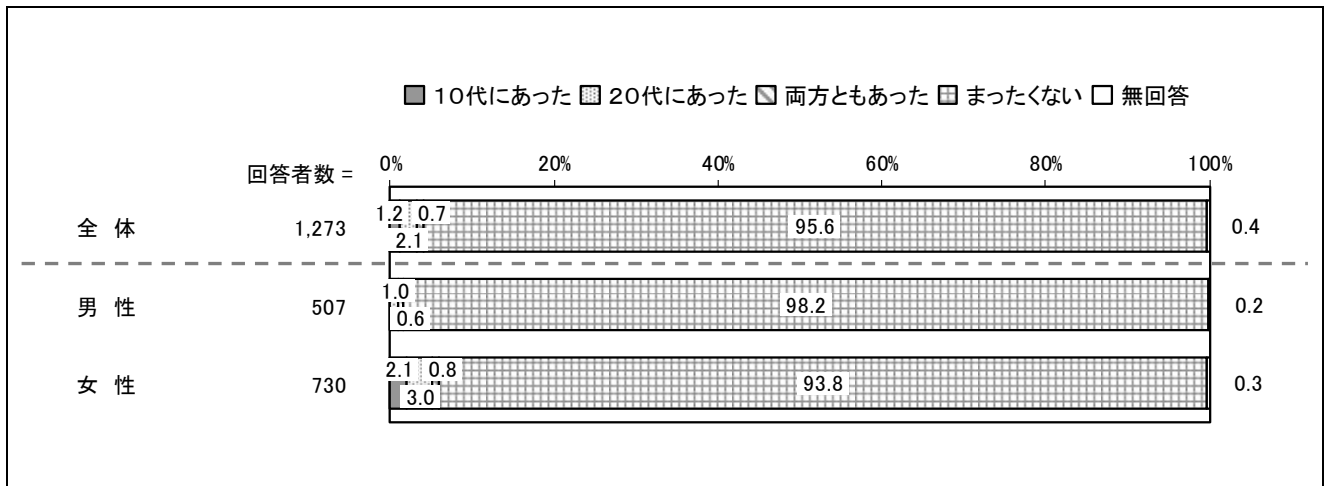


図表 2-11-5 10代、20代中の交際相手から受けた行為（性別）

○性別の傾向

性別でみると、男性は「まったくない」の割合が9割を超えているのに対して、女性では8割半ばとなっている。一方、「10代にあった」「20代にあった」「両方ともあった」の割合は、いずれも女性の方がやや高くなっている。

ウ. 自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅しを受けた

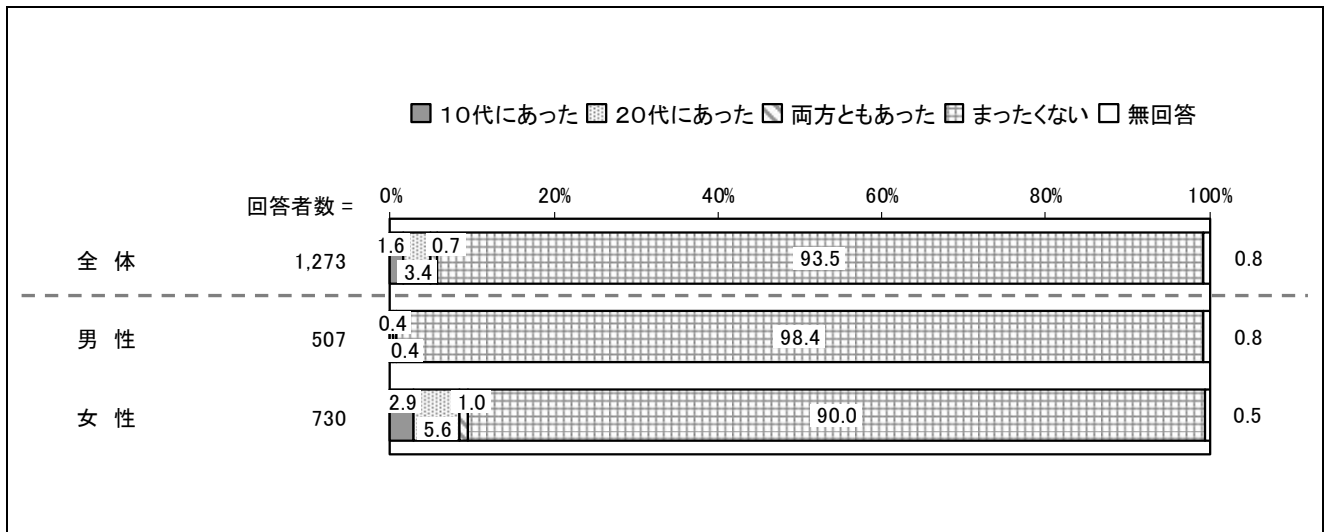


図表 2-11-6 10代、20代中の交際相手から受けた行為（性別）

○性別の傾向

性別で見ると、男女ともに「まったくない」の割合が9割を超えている。一方、「10代にあった」「20代にあった」「両方ともあった」の割合は、いずれも女性の方がやや高くなっている。

エ. いやがっているのに、性的な行為を強要された

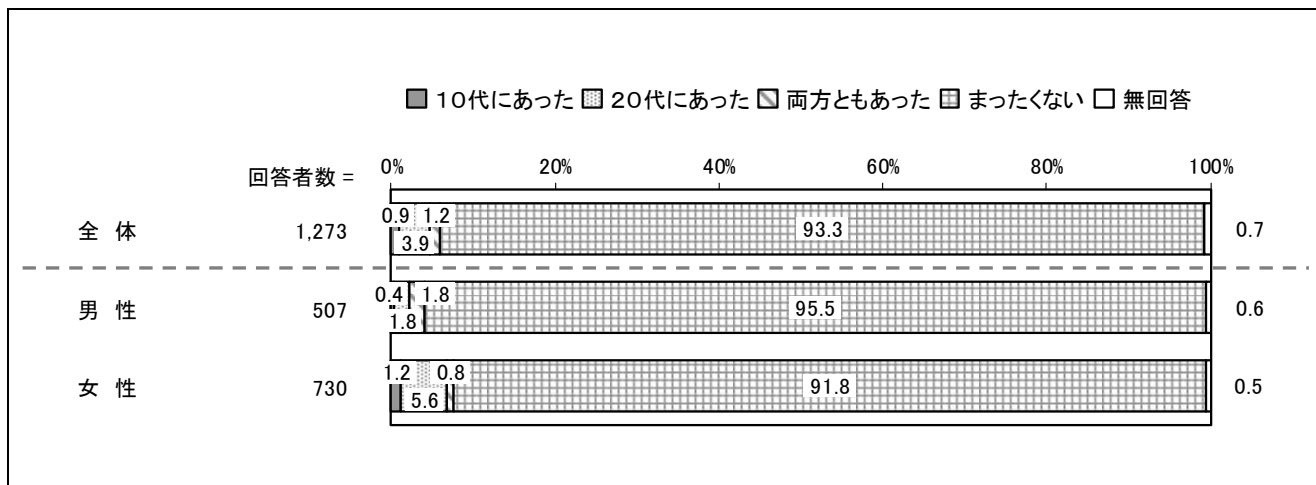


図表 2-11-7 10代、20代中の交際相手から受けた行為（性別）

○性別の傾向

性別で見ると、男女ともに「まったくない」の割合が9割を超えている。一方、「10代にあった」「20代にあった」「両方ともあった」の割合は、いずれも女性の方がやや高くなっている。

オ. お金を貸しても返してもらえない、いつもおごられることがあった



図表 2-11-8 10代、20代中の交際相手から受けた行為（性別）

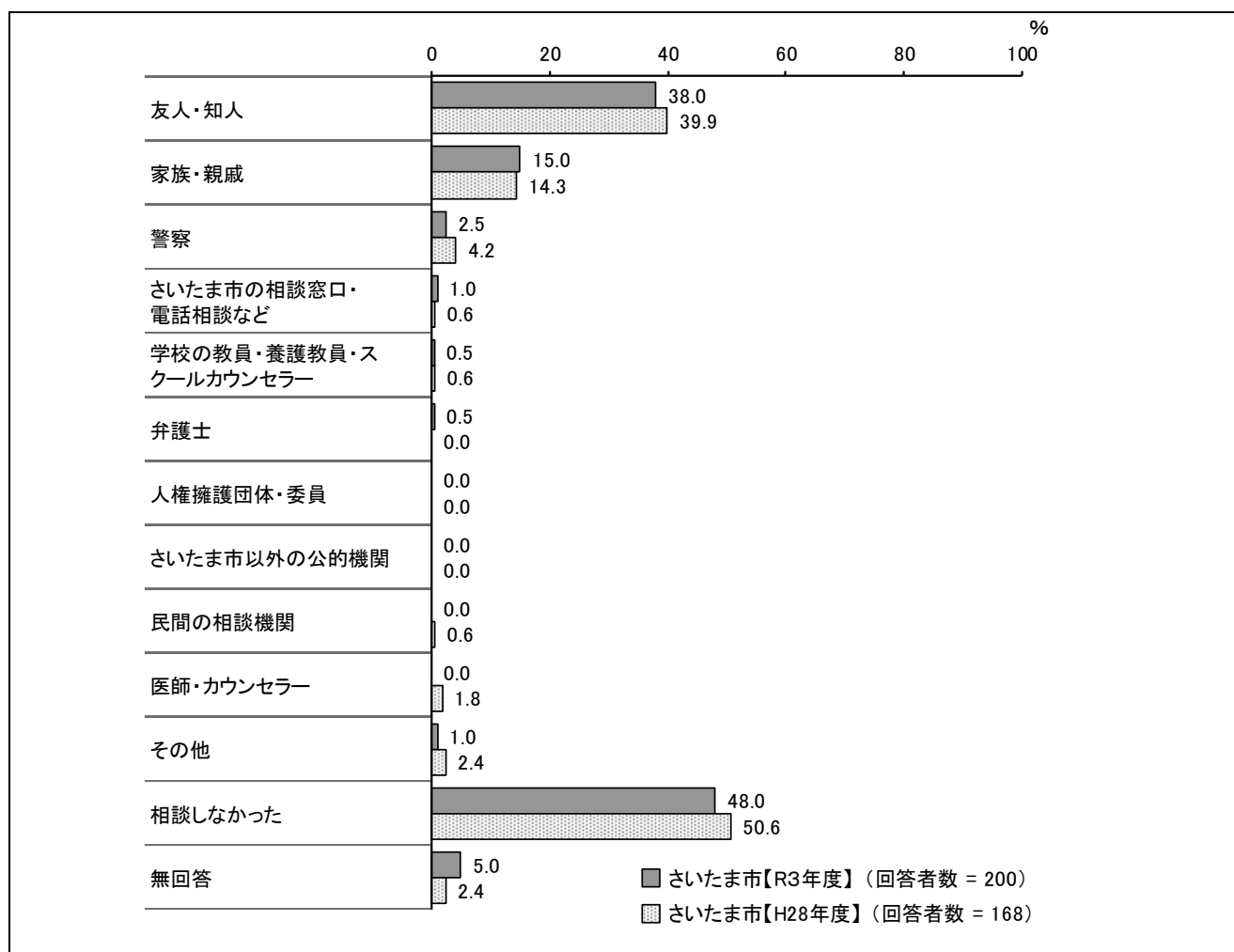
○性別の傾向

性別で見ると、男女ともに「まったくない」の割合が9割を超えている。一方、「10代にあった」「20代にあった」の割合は女性の方がやや高く、「両方ともあった」の割合は男性の方がやや高くなっている。

(3) 10代、20代中の交際相手から受けた行為に関して相談した相手（場所）

※問33-1でひとつでも「10代にあった」「20代にあった」「両方ともあった」と回答した方におうかがいします。

問33-2. あなたは誰か（どこか）に相談しましたか。（〇はいくつでも）



図表 2-11-9 10代、20代中の交際相手から受けた行為に関して相談した相手（場所）

○全体の傾向・経年変化

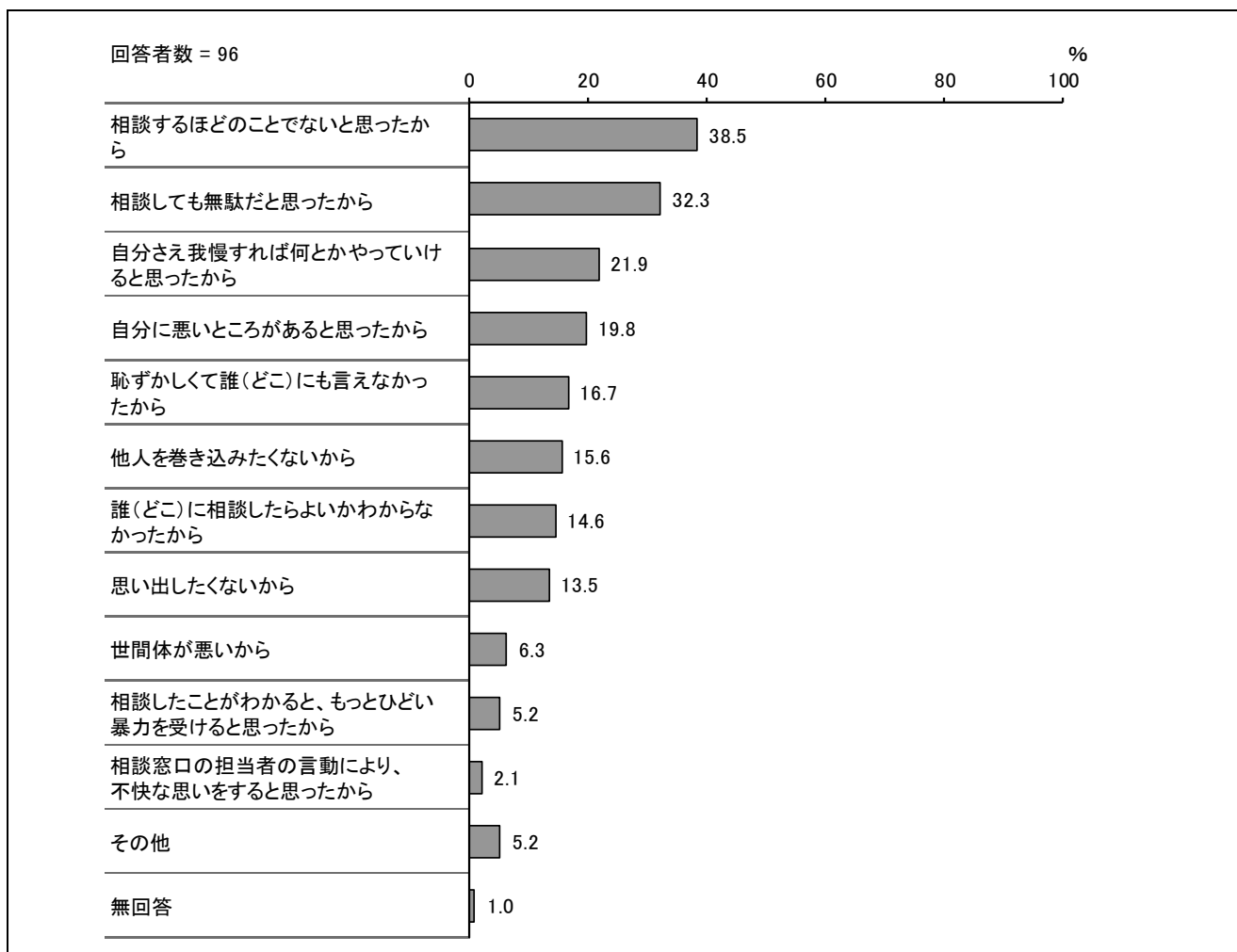
誰か（どこか）に相談しました経験は、「相談しなかった」と回答した人の割合が48.0%と最も高く、次いで「友人・知人」（38.0%）、「家族・親戚」（15.0%）となっている。

平成28年度調査と比較すると、「相談しなかった」と回答した人の割合が2.6ポイント減少している。

(4) 問 33-1 の各行為に関して相談しなかった理由

※問 33-2 で「11. 相談しなかった」と回答した方におうかがいします。

問 33-3. あなたが誰（どこ）にも相談しなかったのはなぜですか。
（〇はいくつでも）



図表 2-11-10 問 33-1 の各行為に関して相談しなかった理由

○全体の傾向

誰（どこ）にも相談しなかった理由は、「相談するほどのことでないと思ったから」と回答した人の割合が 38.5%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」（32.3%）、「自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから」（21.9%）となっている。

12 自由意見

回答者に、男女共同参画社会の実現にあたって、意見、感想を自由記述形式で聞いたところ、256人から261件の回答寄せられた。その内容は以下のとおりである。

【自由意見の具体的記述】

1	男女平等に関する意識について	89件
・	男女平等社会と言うけれど全て男女平等は不可能である。	11件
・	義務教育で学ぶ機会をつくってほしい。	10件
・	個人の意思によって自由とすべきと思う。	7件
・	年齢が高くなるにつれて、理解を得られない様に感じる。	4件
・	多様な生き方や考え方を認めて欲しい。	1件
・	女性が虐げられている。被害者だということから何年たっても変わらない。	1件
・	平等にしてほしい女性ばかりではない。	1件
・	日本ではまだまだ女性蔑視の考えを持つ男性が多い。	1件
・	今回アンケートを受け取り、男女共同参画課があるのを知りました。	1件
・	世間が言っているほど、女性は不利ではないと思う。	1件
・	妊婦や母親はつらいと思うこともあります。	1件
・	男だから、女だからという考え方が生きづらくしている。	1件
・	P T A活動、民設学童の親の会の運営が男女参画社会実現の妨げとなっている。	1件
・	制度や法律など知らないことを知ることが出来て良かった。	1件
・	今こそもっともっと女性のことを考える時代が来ていると思います。	1件
・	自分の同世代は男女とか差別とか割と気にせず理解があると思う。	1件
・	これ以上女性優遇社会になったら非常に困ります。	1件
・	これからの時代、男女が協力し合い社会全体を構成していくことは重要なこと。	1件
・	男女平等をうたうなら女性を優遇するようなことはやらない方が良いと思う。	1件
・	社会を見直す前にまず、家庭、家族だと思えます。	1件
・	男性、社会全体の理解や受け入れ体制を整えることが重要だと考えます。	1件
・	世代交代をしないと男性優位の社会は続くと思います。若い考えが必要。	1件
・	男女平等を発展させ人間平等へ向けて社会の発展と進歩に資することを望みます。	1件
・	男女共同参画社会実現をさいたま市が国をリードするように改革を進めてほしい。	1件
・	会社（社会へ以降は良くない）男女共同参画の実現は必要と思います。	1件
・	女性の地位向上は必要だと思う。	1件
・	男が上で女が下という意識が根っこにはびこっていると思う。	1件
・	「男女共同参画社会」は今の社会で現実にはまだまだ行われていない。	1件
・	社会各層、各年代等、幅広い層の理解と協力が欠かせません。	1件
・	男女問わず、就労意欲のある人が活躍できる社会を目指すべきだと思います。	1件
・	日本の場合は男は仕事、女は家庭という意識が根深く、変えるのは難しいと思う。	1件
・	男女それぞれの意識改革が必要だと思います。	1件

・ 男女共同参画はよいことだと思います。 ……	1 件
・ 私としては近年、男女差別のない女性としても生活の場が開かれている。 ……	1 件
・ まだまだ、女性より男性がえらい、強いというイメージが多いと感じます。 ……	1 件
・ 「男女共同参画社会」といわれても身近に感じられない。 ……	1 件
・ 女性自身の意識にも問題があると思う。 ……	1 件
・ 男女共同参画は、今後の社会に必要なことだと感じております。 ……	1 件
・ その人の個性や力を十分に生かせる社会になればと願うばかりです。 ……	1 件
・ 当然、男女の権利は平等です。 ……	1 件
・ そもそも男女では出来るものごとに差があるため、差別を無くすことが大切。 ……	1 件
・ 子どもを育てやすく子どもがいても働きやすい社会になればと思います。 ……	1 件
・ 男女共同参画社会は人権平和持続可能な社会とお互いが繋がっていると思います。 ……	1 件
・ 男女共同参画社会という言葉が現代に合っていないと感じています。 ……	1 件
・ もっと社会全体が理解や知る機会があると良いのではないかと思います。 ……	1 件
・ 男性、女性でお互いに補い合うことが大切ではないかと思っています。 ……	1 件
・ 女性社会進出が男性のやる気、社会全体の活力を生むようにならない。 ……	1 件
・ 能力ある人を性別関係なく適材適所できる社会にしてほしい。 ……	1 件
・ 法律があってもまだまだ男女の差を感じる人が多いです。 ……	1 件
・ 男女間の格差が無くなることを希望します。 ……	1 件
・ 共同参画の言い方は区別をなくそうと言うことから始めているように聞こえる。 ……	1 件
・ 平等の捉え方が難しいと思う。 ……	1 件
・ 良心に基づいて、生きやすい社会になることを望みます。 ……	1 件
・ 大きな声を出す人の意見に振り回されずバランスのとれた社会を目指して欲しい。 ……	1 件
・ 私が小さかった頃に比べると、今の社会は格段に女性が活躍していると思います。 ……	1 件
・ 男女共同参画社会の実現は人間をみる豊かな「眼」を養っていくことだと思う。 ……	1 件
・ 男女共同参画社会の実現は難しく、時間もかかることだと思います。 ……	1 件
・ 無理に平等、共同参画社会を推し進める必要はないと思う。普通で良い。 ……	1 件
・ 子育ては女性がするものと言う考えは変わってきたように思います。 ……	1 件
・ 職場の上司や同僚に認められるようにならないと女性の社会参加が難しくなる。 ……	1 件
・ 皆が多種多様な考え方を受け入れることができればと考えます。 ……	1 件

2 家庭生活について ……	4 件
・ 現在の状況では仕事中心の生活を要求され、女性の家事担当が多い。 ……	1 件
・ 尽く尽く男性の意識が変わらない限り女性の笑顔は増えない。 ……	1 件
・ 2人がOKであるなら、仕事、家事等はどちらがしてもいいと思う。 ……	1 件
・ 夫は人が変わり今は、家事は私が担うことが多いが夫婦仲良く暮らしています。 ……	1 件

3 就業について	28 件
・ 育児休業については、その分周りの業務負担や不公平感がうらみを買うことになる。1件	
・ 男性が活躍する社会になっているが男女の能力には大きな差はないように思う。・・1件	
・ 教員は多忙すぎる為さいたま市は待遇が悪すぎる。.....1件	
・ ブルーカラーもきちんと女性が参画する社会を目指してください。.....1件	
・ 長期休みになると、どうにもならず、パートを休まざるをえない。.....1件	
・ 単身女性については何一つ触れられていません。.....1件	
・ 学校教育の教職者の充実を強化してほしい。.....1件	
・ 今の激務を子どもを持ってやれるかというところだと思います。.....1件	
・ 会社に子ども（0歳～5歳くらいの）を連れて来ればと思ったことはあります。1件	
・ 子どもがいる家族で、子ども休暇、年5日を法律上、強制的に取得させる。.....1件	
・ 男性の方が仕事量が多くなる傾向があると思います。.....1件	
・ 小さな子ども目線での優しい社会にしてほしいです。.....1件	
・ 産後に時短で働くママたちの肩身の狭そうな姿。.....1件	
・ 自分が産休、育休を使える立場になっても、使おうとは思えませんでした。.....1件	
・ 仕事をしながらでは、子どもが長年できませんでした。.....1件	
・ 昨今の行政は育休の取得と就労の継続一辺倒のように思われます。.....1件	
・ 女性が働ける環境づくりにあたり、保育園の増加を期待します。.....1件	
・ 企業内での男女差はまだまだ感じることが多い。.....1件	
・ 現在の20～30代では男女平等の意識は高いと思う。.....1件	
・ 小中学から相手に対しての尊敬教育を体の発達、変化をする時期に行って欲しい。1件	
・ 長時間働かないと稼げない企業の体制がある。.....1件	
・ 女性にしても社会参加を望まず家庭に入ることを望む方が一定数いる。.....1件	
・ 女性で男性と同じように社会に出たい方が多いが受け入れる社会になってない。・・1件	
・ 男女両者が協力しながら活躍できる社会が求められていると思います。.....1件	
・ 女性で出産をし、育休を経て職場復帰をしたくても出来ない方がたくさんいます。1件	
・ 働き方改革の充実を図って欲しい。.....1件	
・ 女性であることを理由に業務を断ったり、家庭（子ども）を理由に仕事を選んでいる人は多い（休みの要求も）.....1件	
・ 子どものいる家庭で女性が働くためには、保育所など子どもを預ける環境が不可欠だと思います。.....1件	

4	社会参画について	7件
	・ 男女の別なく皆が明るく活気ある社会になることを望んでいます。	1件
	・ 女性の働く機会の増加。	1件
	・ 個人の意思を尊重出来る社会になってくれたら良いと思います。	1件
	・ 私の勤務する職場では女性の比率が多くなりました。	1件
	・ すべての女性が輝く令和の社会へ、とても素敵です。	1件
	・ 女性に対して国際的に見ても変わっていかないと、と思います。	1件
	・ 男女が自由に選択できる社会になるのが良いと思う。	1件

5	配偶者などからの暴力について	5件
	・ 夫にたたかれたことがあり、やさしい人なのでその時1回だけの事でありました。	1件
	・ DVをしてしまうのは、その方の生育歴が大きく影響していると思います。	1件
	・ 参画より男尊女卑、DVを改める。女は虐げられている。	1件
	・ 子どもへの虐待が増加する要因は様々だと思いますが無くならないのが現状です。	1件
	・ 以前、DV相談をしたが全く話が通じず、話にならなかった。	1件

6	性について	9件
	・ 平等は男女間だけでなく女性同士の関係でも大切なのではないのでしょうか。	1件
	・ 小学生の子どもがLGBTです。親子で知識を得られる機会が欲しいです。	1件
	・ どの性であれ、人権が尊重され、生きづらい人がいない社会であって欲しいです。	1件
	・ 平等、性について学ぶ機会が少なかった。	1件
	・ 我々LGBTQへの制度が少しずつでも増えて欲しいと思います。	1件
	・ この際社会が性別という概念を廃止するべきではないかと思います。	1件
	・ 小学生の時から理解はとても大切なんだと子どもの様子を見て感じました。	1件
	・ LGBTQにおいてもさいたま市は遅れているなと思います。	1件
	・ オリパラに関する騒動はジェンダーについて考えるきっかけになりました。	1件

7	市の男女共同参画の推進に関する施策について	15 件
・	市の取り組み状況が全く分からないのもっと広報活動をした方が良い。	5 件
・	SNS をもっと有効に活用してみるともっと違うと思う。	1 件
・	役所の余分な業務部署を新しくつukらない。現有で処理していく。	1 件
・	あまり変化のない事に今更ながら感じてしまいます。	1 件
・	町内会の集まりに家族全員で参加できるような集まりやすい環境づくりが良い。	1 件
・	事業に取り組んだことに対して成果をもっと広めてほしい。	1 件
・	もっと身近な親しみを持って知れる機会が増えたら嬉しいです。	1 件
・	具体的にいくつかの提案を行い、どれだけ採用になったのかを教えてください。	1 件
・	さいたま市において男女共同参画を推進する団体があれば是非参加したい。	1 件
・	就労関係では会社の規模や職種によって男女間の問題のとらえ方がむずかしい。	1 件
・	男女共同参画と言われても何のことだかわかりづらい。	1 件

8	アンケートについて	52 件
・	アンケートの設問が多過ぎる。	10 件
・	このアンケートで知ったことがあった、考えるきっかけとなった。	6 件
・	アンケート内容が不快です。	4 件
・	質問の内容がとても難しかったです。	4 件
・	アンケートはネットでやった方が良いと思う。	3 件
・	アンケートの質問内容に偏りを感じた。	3 件
・	アンケートに参加できたことに感謝申し上げます。	3 件
・	愚問が多いように感じます。	1 件
・	アンケート内容の後半がひどい。協力する気が全くなくなった。	1 件
・	問1の質問についてですが、内容を知る機会がありません。	1 件
・	用語や内容など難しく誰もがわかりやすい制度にすべきであると思う。	1 件
・	現在の女性のあり方を否定するような方向へのアンケート内容で驚いた。	1 件
・	今回のアンケートについて対象者の選別について年齢を考慮してほしい。	1 件
・	アンケートの結果及びどのように活かせるのか、きちんと報告してほしいです。	1 件
・	女性も男性と同等に働くべきという大前提のもと作成されていると感じました。	1 件
・	暴力等の質問、設問を設けるならパートナーにしばらくしないで欲しかったです。	1 件
・	アンケートを参考にして頂き、本当の意味での平等を実現していただきたいです。	1 件
・	アンケートの中身も形だけでも男女平等の意識を持ったものであってほしかった。	1 件
・	社会全体で意識は高まってきており良い傾向に思えます。	1 件
・	私の周辺で純粋な意味での「性差別」を見聞きしたことはない。	1 件
・	答えに窮する設問が多く、結構苦労しましたが、良い経験になりました。	1 件
・	定年退職し現在は再就職して長年勤務した会社と立場が違うので回答に苦労した。	1 件
・	今回の参加した意識調査も形だけの取り組みにならないように願っています。	1 件
・	アンケートにDVについての記載があるのに、このような内容がふくまれるとの注意書きがなかったことに非常に驚きました。	1 件

・ このデータを基礎的な資料とすると記載してあるが何の目的で具体的に何に使用するか。不明です。 ……	1 件
・ アンケートはかなり詳しい内容で感心しました。さいたま市が力を入れている思いが伝わってきました。 ……	1 件

9 その他 ……	52 件
・ 市民のために一刻も早くコロナウィルス接種を進めるべきでは。 ……	1 件
・ 高齢ですので理解できるかと思いましたが楽しく自分を考えることができました。 ……	1 件
・ 住民税が高いです。 ……	1 件
・ 全員が同じサービスを受けるべきであると考えている。 ……	1 件
・ 全くわからない。知らなかった。広報活動に力を入れた方がよいと思う。 ……	1 件
・ 安心して老後が送れることを一番に願います。 ……	1 件
・ 胸のせいで体育の授業は辛かった。 ……	1 件
・ 男女共同参画社会というものについてほとんど知識がありませんでした。 ……	1 件
・ しっかり政治をしてほしい。お願いします。 ……	1 件
・ 授乳室について、先日、授乳室を利用した際、若干渋られました。 ……	1 件
・ 制服文化をなくしたほうがよいと思います。 ……	1 件
・ 怖くて、外出できない。薬をのんでいる。 ……	1 件
・ 市内のとりくみ、法整備、支援センターなどまったく知りませんでした。 ……	1 件
・ 男女よりも大宮と浦和の格差ではありませんか。 ……	1 件
・ ある組織団体などの要職に女性がいないから、入れるというのは違う気がします。 ……	1 件
・ 障害児の子育てについて知識と理解のない保育施設。 ……	1 件
・ 問 25 の言葉についてどれも内容を知らなかったので調べてみたいと思います。 ……	1 件
・ さいたま市が、もっと今より住みやすい街になることを願っています。 ……	1 件
・ 体が調子悪くあまりわかりません。すみません。 ……	1 件
・ さいたま市にも延長やキャッチアップをお願いしたいと思います ……	1 件
・ 市報等をさっと目を通していただくことがわかりました。 ……	1 件
・ 千里の道も一歩から。 ……	1 件
・ 一般の方の意見に寄り添った常識の中での発展を望みます。 ……	1 件
・ 子育て、介護している人に対してやさしい社会にして頂きたい。 ……	1 件
・ 男女共同に関心を持たなくては、社会はよい方向に向かわないと気づいた。 ……	1 件
・ 70 歳を過ぎると考える、行動するエネルギーはないです。 ……	1 件
・ これを機会にしっかり見ながら自分の出来ることは協力して行きたいと思います。 ……	1 件
・ 新しいものには新しい風を入れ、固執した古い風はいらないと思います。 ……	1 件
・ PCR 検査やめろ。ウイルスを特定する検査ではない。 ……	1 件
・ さいたま市は行政において、とても住みやすい場所だと思います。 ……	1 件
・ 戸籍上の夫婦別性には反対です。 ……	1 件
・ 今の日本はとにかく生きにくいと感じます。 ……	1 件
・ 戸籍を廃止するべき。世帯主宛の郵便物など役所の業務から変える必要がある。 ……	1 件
・ ハラスメントは加害者側を守るような制度も必要だと思う。 ……	1 件

- ・ 「さいたま市」から全国に行く事を願っています。…………… 1件
- ・ 関係者、機関の皆様へ感謝しています。…………… 1件
- ・ 経済力がない人たちの生活上、心理上の相談と指導が必要であると思います。…… 1件
- ・ 保活ももっと入りたい人がすぐに入れるように充実させてほしいです。…………… 1件
- ・ 人員不足が世に優しくない環境になっていると考えます。…………… 1件
- ・ 男女共同参画が進んだ国、組織の事例から、具体的にどのような良さがあるのかを多くの人に知ってもらうことが必要では。…………… 1件
- ・ 緑区は転入者家族が多くその方々との接点がなく、年代を超え男女を超え社会が活性化する必要があると思われまます。…………… 1件
- ・ 女性の立場向上が重要視されているが、この時点で既に性的少数者はふるい落とされてしまっているように感じた。…………… 1件
- ・ 私の家の近くには、駅からの道が明るいいため、仕事で夜遅くなってしまった時も安心して帰宅できるところがとてもよいと感じています。…………… 1件
- ・ コロナや働き方改革などで残業や休日制限されると給料の低い社会では休みたくても休めません。…………… 1件
- ・ 日本初女子プロサッカーリーグWEリーグは多様性の理解を促進する活動、成果の可能性を広げると大きな期待をしています。…………… 1件
- ・ 未来ある子供達が成人する頃までには、性別での区別、偏見なく1人の人間として当たり前前に過ごせる環境が出来ている事を願っています。…………… 1件
- ・ 女性の社会進出は大賛成ですが、やるなら最後まで責任をもってやってほしいです。結局最後は男性に頼るのはやめてほしいです。…………… 1件
- ・ 調査票全体を読みコロナ以前の週休二日制の土日休みの世界の方々からの発想と感じました。…………… 1件
- ・ 国連からの勧告を無視して公立学校の男女別学を続ける埼玉県に男女共同参画など夢のまた夢だと思えます。…………… 1件
- ・ 男女平等が進んだことにより共働きが当たり前の時代ですが、我が家の子どもは障害があり、主人は労働時間が長く、家事育児は殆ど私がしています。…………… 1件
- ・ コロナで大変な思いをしているこの時期にもっと市民に聞かなければいけないことがあるのでは。…………… 1件
- ・ 少子高齢化の問題について、予算の問題もあると思いますが、個人的には、妊婦、女性医師、看護師への負担がまだまだ多い気がします。…………… 1件

13 調査のまとめと今後の課題

【1 男女平等に関する意識について】

「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識への賛成は減少傾向にあり、今年度は反対が7割を超えた。にもかかわらず、学校教育を除く分野では依然として男性が優遇されていると感じる割合が高く、政治の場、社会通念や慣習などにおいて特に顕著となっている。家庭生活の場、法律や制度上においても、約半数が男性の方が優遇されていると感じている。また、男性に比べ、女性でこのような不平等感を持つ割合が高く、男女間の意識の違いや、女性が現状への不満、改善を求める様子をうかがわせる。

固定的な性別役割分担意識は、個人としての能力の発揮や、活動の選択を制限するもので、男女共同参画が進まない要因となる。特に男性の意識改革は男性自身にとっても暮らしやすい社会の形成につながる点としても重要であるため、引き続き、男女共同参画に関する用語の認知度を上げるだけでなく、男女間の認識の差を埋める努力が必要となる。

【2 家庭生活について】

家庭生活においては、炊事・洗濯・掃除などの家事については女性の約7割が「主に自分で担っている」と回答したのに対し、男性は約1割にとどまっている。「主に自分で担っている」と回答した割合は、育児や子どものしつけ、子どもの学校行事への参加、親や家族の介護、家計の管理についても女性が男性を大きく上回っており、自治会などの地域活動についても女性が男性を10ポイント以上上回っている。一方、生活費の確保については、男性の6割半ばが「主に自分で担っている」と回答したのに対し、女性は2割弱となっている。また、高額な商品や土地、家屋の購入の決定、貯蓄・投資などの生活設計についても男性が女性を上回っている。

家事、子育て、介護、地域活動へ参加するために必要なこととして、男性は「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICT（情報通信技術）を利用した多様な働き方を普及する」と回答した割合が高い一方で、女性で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「子どもの時から家庭や学校で男女平等について教える」と回答した割合が高くなっており、男性に比べ、女性は単に時間的な制約だけでなく、男性自身の家事・育児等への抵抗感の解消や男女共同参画に対する意識の醸成を求めていることがうかがえる。

【3 就業について】

職業をもつことに対する考えについて、「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が年々増加しており、今年度は約半数となった。また、性・就労状況別でみると、女性の会社員・団体職員、自由業・自営業、公務員・教員で特に高く、6割を超えている。

女性が働き続けたり再就職をするために必要なことについては、「育児や介護・看護のための休暇・休業を取りやすい環境整備」の割合が7割を超えている。また、管理職への昇格の希望については、男性では年代が下がるほど高くなる傾向にあるが、女性ではどの年代も「希望しない」が半数以上を占めており、その理由について「ワーク・ライフ・バランスが保てない」「自分には務まらない」の割合が高いことから、長時間労働や職場における不平等感の解消、キャリア形成における支援などが必要となっている。

男性の育児・介護休業等取得に対する考え方について、「積極的に取得した方がよい」「どちら

かといえば、取得した方が良い」を合わせた「取得した方が良い」と考える割合は約9割となっているが、育児休業においては「機会があり必要性を感じたが取得できなかった」が女性に比べ男性で高く、約1割となっており、男性が育児休業などを取りやすい職場風土づくりに取り組む必要がある。

【4 社会参画について】

今後増えてほしい女性の職業や役職については、「国会・県議会・市町村議会等の議員」が6割半ばと最も高く、「都道府県知事、市町村長」「企業の管理職」で5割を超えている。女性リーダーの増加による影響としては「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」と考える割合が男女ともに7割以上と最も高くなっている。また、女性の政策・方針決定の場への参画が少ない理由について、女性のすべての年代で「男性優位の組織運営であるから」の割合が高くなっていることから、職場における仕事の内容や賃金、待遇、昇進・昇格の機会などの男女差別をなくすとともに、性別にかかわらず多様で柔軟な働き方を選択でき働き続けられる職場づくりを進めることが求められる。

地域でも同様に、「団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役割に就く慣行がある」と感じている割合が最も高くなっており、年代が上がるほど高くなる傾向にある。地域は生活の場であり、男女ともに心豊かで生活しやすい地域社会を構築するために、働いているいないにかかわらず、男女が共に地域活動に参画し、地域ぐるみで活性化を図ることができるようにする必要がある。また、地域の防災において、災害時の避難所運営に必要なと思うことは、男女ともに、「男女別のトイレ、更衣室、物干し場の設置」「乳幼児連れや女性単身、女性だけの世帯についてプライバシーや安全・安心の確保」の割合が高くなっていることから、災害時の避難所における男女のニーズの違いなどに配慮した災害対応を推進することが求められる。

【5 ハラスメントについて】

セクシュアル・ハラスメントの経験について、職場で「自分が受けたことがある」の割合が13.3%、「自分の周りの女性に受けた人がいる」の割合が16.1%となっており、女性が職場において「自分が受けたことがある」の割合は約2割を占めている。また、マタニティ・ハラスメントについては約1割が、パタニティ・ハラスメントについては3%程度が「自分が受けたことがある」もしくは「自分の周りに受けた人がいる」と回答している。

ハラスメントは、被害者の人権を著しく侵害し社会的にも許されない行為である。雇用の場だけでなく、教育や福祉などの現場や地域社会においても発生する可能性があり、性別・性的指向・性自認を問わず被害者となる恐れがある一方、誰もが加害者となる可能性がある。

さまざまな暴力を根絶するため、暴力の加害者、被害者、傍観者とならないための幼児期からの教育をはじめとした暴力を容認しない社会環境の整備等、暴力の根絶のための基盤づくりの強化が必要である。

【6 新型コロナウイルス感染症の影響について】

新型コロナウイルス感染による働き方への影響について、「自宅で仕事をするようになった」の割合が2割半ば、「出勤日数（営業日数）が減った」の割合が約1割となっている。日常生活においても「友達に会えなくなった」「やりたいことができなくなった」の割合が半数を超えている他、1割半ばが「収入が減った」と回答しており、暮らしへの影響がうかがえる。また、女性の3で「学校が休みになった時、子どもの世話が增えた」「食事の支度や掃除などの家事負担が増えた」の割合が高くなっており、コロナ禍において家事・育児における女性の負担が増加している様子がうかがえる。

【7 性について】

LGBTQなど性的少数者については、周囲に「いる」と回答した割合が12.4%となっており、本調査においても、1.5%が性的少数者であると回答している。

性的少数者としての悩みや不安については、「老後の生活に不安があること」「性的少数者を差別する言動を見聞きすること」の割合が高くなっている。性的指向や性自認については、根強い偏見や差別があり、性的少数者が周囲の心ない好奇の目にさらされて苦しむことのないよう、性的指向や性自認を理由とする差別や偏見をなくし、理解を深めることが必要だと考えられる。

【8 教育について】

学校での男女平等教育で重要だと思うことについて、「学習や指導の場で男女平等意識を育てていく」「生徒指導や進路指導において男女の区別なく能力や個性を生かせるようにする」の割合が半数を超えており、男女が共に、各人の生き方や能力を考え、固定的な性別役割分担にとらわれずに、主体的に進路を選択する能力・態度を身に付けることができる教育や進路指導が求められている。

【9 市の男女共同参画の推進に関する施策について】

さいたま市が取り組んでいる7つの施策や制度については、いずれも過半数が知らないと回答しており、その割合も年々増加している。「さいたま市男女共同参画推進センター（パートナーシップさいたま、男女共同参画相談室）」を「利用したことがある」もしくは「利用していないが、知っている」を合わせた割合についても、1割程度となっており、認知度の向上に対する取り組みが必要であると考えられる。「男女共同参画推進センター（パートナーシップさいたま、男女共同参画相談室）」に期待する取り組みについては、相談窓口の充実や情報提供を求める意見が寄せられているものの、認知度が増加していない状況から「わからない」と回答した割合が増加しているため、引き続き、男女共同参画推進センターの周知を図る必要がある。

【10 配偶者などからの暴力について】

ドメスティック・バイオレンス（DV）という用語の認知度はどの年代も9割程度となっているが、70歳以上で男女ともに「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が2割と他の年代に比べ高くなっている。

また、実際の暴力行為に関する認識については項目によって異なり、なぐるふりをしておどす、大声でどなるなどの精神的暴力についての認識は前回調査より増加しているものの、5割から7

割程度にとどまっている。配偶者などからの被害経験についても、人格を否定されるような暴言を言われたり、交友関係を細かく監視されるなどの行為を経験している割合は他の暴力より高い。

加えて、配偶者からの暴力を受けた際に、子どもが目撃していた割合は3割程度となっている。子どもに対し、自分がされていたのと同じ行為をしたことが「あった」と回答した割合も1割半ばとなっており、子どもの心身に影響を与えている現状がうかがえる。

配偶者などの間における暴力を防止するために必要なことについて、「子どもの頃から家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」の割合が6割以上と最も高くなっており、家庭での教育が重要だと考える人は前回調査と比べ増加している。家族がくり返しDVを受けている様子を見ることで、子どもが無意識に感情表現や問題の解決方法として暴力的な手段を使うなど、暴力を肯定してしまわないよう、暴力のない安全で安心できる環境づくりに取り組む必要がある。

【11 交際相手からの暴力について】

10代、20代で交際相手から受けた行為について、「人格を否定するような暴言を言われたり、交友関係を細かく監視された」の割合が他の身体的・性的暴力等に比べ高くなっている。また、暴力を受けた約半数が「相談しなかった」と回答しており、その理由として「相談するほどのことでないと思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから」の割合が高くなっていることから、相談窓口の周知に加え、暴力について理解を深めるとともに、相談することに抵抗を感じたり、相談しているということが周囲に知られたくないと感じたりする人にとっても利用しやすい環境づくりが必要になると考えられる。

Ⅲ 調査票と単純集計結果

さいたま市 男女共同参画に関する市民意識調査

ご協力のお願い

日頃から、市政へのご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さいたま市は、男女が互いに人権を尊重しあい、個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の実現をめざして、さまざまな取組を進めています。

この調査は、市民の皆様の男女共同参画に関するご意見を幅広くおうかがいし、今後予定している「第4次さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン」の改定や、市の今後の男女共同参画施策の推進に向けた基礎的な資料とさせていただきますことを目的に実施いたします。

調査にあたっては、市内にお住まいの18歳以上の市民の皆様の中から5,000人を無作為に選び、ご協力をお願いしています。また、この調査には、お名前を書いていただく必要はありません。お寄せいただいた回答は統計的に処理しますので、ご迷惑をお掛けすることは一切ございません。

お忙しい中、誠にお手数ですがご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年8月

さいたま市長 清水 勇人

調査票の記入方法について

1. 調査票への記入は封筒のあて名のご本人をお願いいたします。
2. 回答は、質問ごとにあてはまる番号を選び、番号を○で囲んでください。
3. 回答数は（ ）内に示すとおり、「その他」の場合は（ ）内に具体的に記入してください。
4. 記入が済みました調査票は、同封の返信用封筒に入れて、

8月23日(月)までに投函してください。

5. この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

さいたま市 市民局 市民生活部 人権政策・男女共同参画課

男女共同参画推進センター

〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-10-18

シーノ大宮センタープラザ3階

TEL 048-643-5816 / FAX 048-643-5801

男女平等に関する意識についておうかがいします

問1. あなたは、次にあげる言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。

(ア～スのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)n=1, 846

	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	(無回答)
ア. 男女共同参画社会	31.5	42.5	25.4	0.6
イ. 女子差別撤廃条約	15.4	39.9	43.9	0.8
ウ. 男女共同参画基本法	19.6	43.8	35.3	1.3
エ. 男女雇用機会均等法	65.8	26.9	6.4	1.0
オ. 育児・介護休業法	54.4	33.5	11.0	1.1
カ. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	43.8	30.4	24.4	1.4
キ. 女性活躍推進法	19.7	45.0	33.8	1.5
ク. 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律	8.6	34.8	55.5	1.0
ケ. ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)	66.1	24.9	8.2	0.8
コ. LGBTQ(性的少数者を表す総称の一つ)	62.8	21.7	14.5	1.0
サ. ポジティブ・アクション(積極的是正措置)	7.7	25.9	65.3	1.0
シ. クオータ制(性別による割り当て制度)	8.2	17.3	73.5	1.0
ス. アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)	11.3	15.3	72.5	0.9

問2. 結婚、家庭、離婚について、さまざまな考え方がありますが、あなたは次の意見についてどのように思いますか。

(ア～オのそれぞれについて、あてはまる「1～5」に○を1つ)n=1, 846

	賛成	どちらかと いえば 賛成	どちらかと いえば 反対	反対	わからない	(無回答)
ア. 「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方	2.3	16.6	34.2	37.6	7.8	1.4
イ. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけた方がよい	6.8	28.7	21.1	22.4	10.0	11.1
ウ. 夫婦は戸籍上、別々の姓を名乗っても構わない	30.6	23.2	15.6	11.1	8.6	10.9
エ. 結婚後、通称として旧姓使用が可能な範囲が広がる方がよい	41.1	26.4	6.8	4.5	10.4	10.8
オ. 以下のような生き方があってもよい 独身、事実婚、シングルマザー、DINKs(共働きで子を持たない家庭)	51.0	24.1	6.4	2.2	5.4	10.9

※問2「(ア)「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方」について「1. 賛成」、「2. どちらかといえば賛成」とお答えの方に伺います。

問2-1. その理由は何ですか。(〇はいくつでも)n=350

1. 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	21.1	5. 家事、育児、介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	58.6
2. 妻が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから	57.4	6. 女性は経済的に自立しなくてもよいと思うから	3.1
3. 自分の両親も役割分担をしていたから	17.1	7. 理由を考えたことはない	0.6
4. 夫が外で働いたほうが、多くの収入が得られると思うから	32.9	8. その他(具体的に)	14.3
		(無回答)	4.9

※問2「(ア)「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方」について「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」とお答えの方に伺います。

問2-2. その理由は何ですか。(〇はいくつでも)n=1,326

1. 男女平等に反するから	47.9	5. 自分の両親も外で働いていたから	11.8
2. 少子高齢化により労働力が減少し、女性も仕事を必要があると思うから	33.3	6. 妻が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから	31.4
3. 固定的な夫と妻の役割分担意識を押し付けるべきではないから	78.1	7. 理由を考えたことはない	0.5
4. 夫も妻も働いたほうが、多くの収入を得られると思うから	35.7	8. その他(具体的に)	12.6
		(無回答)	4.2

問3. あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

(ア～クのそれぞれについて、あてはまる「1～6」に〇を1つ)n=1,846

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	(無回答)
ア. 家庭生活の場	9.4	44.8	26.8	8.2	1.2	8.2	1.4
イ. 学校教育の場	3.1	20.3	57.4	3.1	0.5	14.4	1.2
ウ. 職場	18.4	48.2	18.5	5.3	1.1	7.5	1.1
エ. 政治の場	50.5	35.4	5.7	0.8	0.2	6.4	1.0
オ. 地域活動の場	10.8	34.5	29.1	3.6	0.5	19.7	1.9
カ. 社会通念や慣習など	22.7	52.2	10.9	1.9	0.6	10.4	1.4
キ. 法律や制度上	16.3	37.7	26.0	3.3	0.9	14.7	1.2
ク. 社会全体	16.4	58.0	10.7	3.4	0.8	10.0	0.7

II 家庭生活についておうかがいします

問4. あなたの家庭では次のことがらを、主にどなたが行っていますか。

(ア～ケのそれぞれについて、あてはまる「1～6」に○を1つ)n=1,846

	主に自分	同僚(VOL)が (パートナー)が	自分と配偶者 (パートナー)	主に配偶者 (パートナー)	以外の家族	家族以外の人に 依頼	あてはまらない	(無回答)
ア. 炊事・洗濯・掃除などの家事	47.2	16.4	24.4	5.5	0.2	4.7	1.6	
イ. 育児や子どものしつけ	27.5	18.3	16.4	2.1	0.0	33.4	2.4	
ウ. 親や家族の介護	17.4	13.7	5.9	2.7	2.4	55.1	2.9	
エ. 自治会などの地域活動	30.7	16.9	15.2	4.4	0.6	29.8	2.4	
オ. 子どもの学校行事への参加	29.9	10.2	16.5	2.0	0.0	38.8	2.7	
カ. 生活費の確保	38.7	20.0	29.8	4.0	0.2	5.4	1.9	
キ. 家計の管理	40.4	21.1	26.6	4.7	0.1	5.0	2.2	
ク. 高額な商品や土地、家屋の購入の決定	20.8	45.0	17.7	3.6	0.1	10.9	1.9	
ケ. 貯蓄・投資などの生活設計	32.6	33.7	18.8	3.1	0.2	10.0	1.7	

問5. あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)n=1,846

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	28.9	9. 男性が子育て、介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)づくりを進める	11.9
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす	6.3	10. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける	6.2
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションを積極的に行う	38.4	11. 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICT(情報通信技術)を利用した多様な働き方を普及する	38.4
4. まわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する	17.0	12. 子どもの時から家庭や学校で男女平等について教える	33.3
5. 社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める	19.3	13. 特に必要なことはない(男性の参加は必要)	0.9
6. 講習会や研修等を行い、男性の家事、育児、介護の技能を高める	5.7	14. 男性は積極的に参加する必要はない	0.1
7. 男性の仕事中心の生き方、考え方を改める	29.1	15. わからない	0.6
8. 男性が家事などに関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	7.2	16. その他(具体的に)	3.1
		(無回答)	8.3

III 就業についておうかがいします

問6. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(〇は1つ)n= 1, 846

1. 女性は職業をもたない方がよい	0.3	5. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったらフルタイムの職業をもつ方がよい	11.5
2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい	2.0		
3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	4.4	6. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったらパートタイムの職業をもつ方がよい	14.8
4. 結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい	50.1	7その他(具体的に)	11.1
		8. わからない	3.7
		(無回答)	2.2

問7. あなたは、働く意欲のある女性が働き続けたり、再就職したりするために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)n= 1, 846

1. 育児や介護・看護のための施設やサービスの充実	66.8	8. 仕事や職場環境についての相談窓口の充実	16.9
2. 育児や介護・看護のための休暇・休業を取りやすい環境整備	76.3	9. 能力開発や技術習得のための講座・研修会の実施	14.1
3. 労働時間の短縮、在宅勤務やフレックスタイム等の制度の充実	60.3	10. 求人・職業情報の積極的な情報提供	16.8
		11. 育児や介護・看護等による退職者の再雇用制度の普及	48.0
4. 採用や昇進・昇給など職場における男女平等の確保	44.3	12. その他(具体的に)	3.4
5. 家族の理解や家事・育児などへの参加	51.0		
6. 企業経営者や職場の理解	50.7	13. 必要なことはない	0.2
7. 女性自身が働き続けることに対する意識を持つこと	24.4	14. わからない	1.0
		(無回答)	0.8

※問8. 問9は現在働いている方におうかがいします。

問8. あなたは現在、管理職(課長相当職以上)への昇格を希望していますか。(〇は1つ)n= 1, 228

1. 希望する	13.5	3. 既に管理職である	17.8
2. 希望しない	48.5	4. わからない	9.0
		(無回答)	11.2

※問8で「1. 希望する」とお答えの方に伺います。

問8-1. その理由は何ですか。(〇はいくつでも)n=166

1. 給料が上がる	83.1	4. 上司・会社に期待されていると感じる	24.7
2. 裁量権が増し、やりがい上がる	62.0	5. その他(具体的に)	4.8
3. 能力的にできると思う	27.7	(無回答)	0.0

※問8で「2. 希望しない」とお答えの方に伺います。

問8-2. その理由は何ですか。(〇はいくつでも)n=596

1. ワーク・ライフ・バランスが保てない	49.0	4. 長く会社に在籍するつもりがない	13.3
2. 自分には務まらない	30.9	5. 責任が重くなる	27.5
3. 管理職の仕事にやりがいや魅力感じない	40.1	6. その他(具体的に)	15.4
		(無回答)	1.2

問9. あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか。

(ア～コのそれぞれについて、あてはまる「1～6」に○を1つ)n=1, 228

	非常に優遇されている	男性の方が優遇されている	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	非常に優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	(無回答)
ア. 採用時の条件	5.9	21.6	48.7	2.7	0.8	10.0	10.3		
イ. 賃金	8.1	20.0	51.5	0.5	0.2	9.9	9.8		
ウ. 昇進や昇格	11.3	29.6	37.0	2.0	0.2	9.7	10.2		
エ. 能力評価	6.4	20.9	51.0	1.7	0.2	9.5	10.2		
オ. 仕事の内容	5.4	20.4	46.8	7.7	1.5	8.1	10.3		
カ. 研修の機会や内容	3.1	9.1	65.0	1.2	0.2	10.5	10.8		
キ. 育児休業、介護休業の取得	0.5	1.9	32.1	25.5	13.3	16.4	10.4		
ク. 管理職への登用	10.6	30.0	29.0	2.4	0.3	17.1	10.5		
ケ. 家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備	2.4	8.6	38.2	14.8	3.8	21.8	10.3		
コ. 定年まで働き続けることを当然とする風土	8.3	16.5	44.2	0.2	0.0	20.6	10.1		

※ここからは再度、全員の方におうかがいします。

問10. 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児・介護休業、子の看護休暇、介護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性が、この制度を活用することについてどう思いますか。

(ア～エのそれぞれについて、あてはまる「1～5」に○を1つ)n=1, 846

	積極的に取得した方が良い	どちらかといえば、取得した方が良い	どちらかといえば取得しない方が良い	取得しない方が良い	わからない	(無回答)
ア. 育児休業	57.4	30.4	4.4	1.3	3.9	2.5
イ. 介護休業	61.2	28.7	3.2	0.7	3.8	2.4
ウ. 子の看護休暇	59.6	29.4	3.3	1.2	3.7	2.8
エ. 介護休暇	62.5	28.6	2.7	0.7	3.0	2.6

※育児休業：労働者が原則としてその1歳に満たない子を養育するためにする休業（条件により最長2歳まで延長可）

※介護休業：労働者がその要介護状態にある対象家族を介護するためにする休業（対象家族1人につき通算93日まで）

※子の看護休暇：小学校就学の始期に達するまでの子を養育する労働者が、病気やけがをした子の世話をするための休暇（1年に5日まで、当該子が2人以上の場合は10日まで）

※介護休暇：労働者が要介護状態にある対象家族の介護その他の世話をを行うための休暇（1年に5日まで、対象家族が2人以上の場合は10日まで）

問11. あなたは、育児休業、介護休業、子の看護休暇、介護休暇を取得したことがありますか。

(ア～エのそれぞれについて、あてはまる「1～7」に○を1つ)n=1,846

	経験がある	自身が取得した	感じたが取得できなかった	機会があり必要性を感じたが取得できなかった	必要を感じなかった	機会があったが取得の経験がある	自身は取得していないが配偶者・パートナーが取得した経験がある	できる前に機会があった	制度を知らなかった又は制度が	機会があれば取得しようと思う	取得するつもりはない	機会があっても	(無回答)
ア. 育児休業	8.8	6.9	6.1	3.8	14.0	38.1	6.5	15.8					
イ. 介護休業	1.5	4.6	4.2	0.5	9.2	59.7	6.0	14.4					
ウ. 子の看護休暇	4.6	3.8	4.3	1.3	14.1	49.1	5.9	17.1					
エ. 介護休暇	2.3	4.2	3.8	0.7	9.1	60.4	4.7	14.8					

※問11の「ア. 育児休業」、「イ. 介護休業」について「1. 自身が取得したことがある」とお答えした人に伺います。

問11-1 連続して取得した期間をお答えください。(ア、イのそれぞれについて、あてはまる「1～5」に○を1つ)

	5日未満	5日～14日未満	14日～1か月未満	1か月～3か月未満	3か月以上	(無回答)
ア. 育児休業 n=162	8.6	5.6	2.5	15.4	63.6	4.3
イ. 介護休業 n=28	39.3	7.1	14.3	17.9	21.4	0.0

Ⅳ 社会参画についておうかがいします

問12. あなたが、次にあげるような職業や役職において、今後女性が増えるほうが良いと思うものはどれですか。

(○はいくつでも)n=1,846

1. 国会・県議会・市町村議会等の議員	66.3	10. 都道府県知事、市町村長	53.6
2. 弁護士、医師などの専門職	45.7	11. 国家公務員・地方公務員の管理職	43.5
3. 自治会、PTAなどの役員	22.9	12. 起業家、経営者	34.5
4. 企業の管理職	50.1	13. 新聞・放送の記者	18.7
5. 労働組合の幹部	33.5	14. 小・中・高等学校の管理職	33.5
6. 国連などの国際機関の管理職	34.0	15. 県や市町村の審議会や委員会のメンバー	32.3
7. 建設業などの女性の少ない職場	23.7	16. その他(具体的に)	2.4
8. 理工系などの女性の少ない分野の学生	32.1		
9. 大学、研究所などの研究者	29.7	17. 特にない	8.8
		(無回答)	2.1

問13. あなたは、政治・経済・地域など各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるなどどのような影響があると思いますか。(〇はいくつでも)n=1,846

1. 多様な視点が加わることで、新たな価値や商品・サービスが創造される	64.1	8. 男性の家事・育児などへの参加が増える	34.5
2. 人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	36.7	9. 今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる	4.0
3. 女性の声が反映されやすくなる	57.4	10. 男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	3.7
4. 国際社会から好印象を得ることができる	20.5		
5. 男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	70.4	11. 保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する	11.7
6. 男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	47.9	12. その他(具体的に)	2.2
7. 労働時間の短縮など働き方の見直しが進む	29.8	13. 特にない	1.5
		14. わからない	2.2
		(無回答)	2.4

問14. あなたは、政治や企業活動、地域活動など、あらゆる分野において、政策や方針の決定過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。(〇はいくつでも)n=1,846

1. 性別による役割分担や性差別の意識があるから	47.2	7. 女性の活動を支援する人的ネットワークが不足しているから	15.5
2. 男性優位の組織運営であるから	67.2	8. 子育て・介護の支援などの公的サービスが十分でないから	47.9
3. 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから	38.9	9. ワーク・ライフ・バランスに取り組みにくい職場づくりが進んでいないから	32.0
4. 女性側の積極性が十分ではないから	26.2	10. 女性の参画が少ないとは思わない	1.2
5. 家庭の支援・協力が得られないから	32.3	11. その他(具体的に)	2.2
6. 女性の能力開発の機会が不十分であるから	17.1	12. 特に理由はない	2.2
		(無回答)	2.9

問15. あなたがお住まいの地域の活動(自治会・子ども会・ボランティア・自主防災活動など)では、次のことがありますか。(〇はいくつでも)n=1,846

1. 男性の参加が少ない	15.0	7. 活動の準備や後片付けなどは女性が慣行がある	17.9
2. 女性の参加が少ない	9.3	8. その他(具体的に)	1.3
3. 団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役割に就く慣行がある	32.6	9. 特に男女差はない	8.1
4. 女性が役員に就きたがらない	21.3	10. わからない	38.1
5. 女性が表に出るべきでないという雰囲気がある	7.6		
6. 女性は発言しにくかったり、意見が聞き入れられにくい	8.6	(無回答)	3.4

問16. 地域の防災についておたずねします。災害時の避難所運営について、あなたはどのようなことが必要だと
 思いますか。(〇はいくつでも)n=1,846

1. 女性のニーズに沿った物資の供給	50.3	7. 女性医師・保健師や女性相談員による相談	47.7
2. 乳幼児連れや女性単身、女性だけの世帯についてプライバシーや安全・安心の確保	65.5	8. 女性のニーズ反映のために方針決定の場へ	34.5
3. 男女別のトイレ、更衣室、物干し場の設置	74.1	9. 女性が参画すること	
4. 女性や子どもへの暴力の予防のための巡回	38.9	10. 女性であることを理由に食事の準備を割り振るなど、固定的な役割を押し付けないこと	43.7
5. 妊婦への特別な配慮	53.1	11. その他(具体的に)	1.6
6. 性的少数者への配慮	28.3		6.7
		(無回答)	2.8

V ハラスメントについておうかがいします

問17. あなたは身近なところ(職場・学校・地域活動・就職活動など)でセクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きしたことはありますか。(ア～エのそれぞれについて、あてはまる「1～5」に〇を1つ)n=1,846

	自分が受けたことがある	自分の周りの女性に受けた人がいる	自分の周りの男性に受けた人がいる	自分の周りには受けた人はいないと思う	わからない	(無回答)
ア. 職場で	13.3	16.1	4.2	36.7	24.1	5.7
イ. 学校で	4.2	7.6	1.7	38.6	40.7	7.2
ウ. 地域活動で	1.5	2.9	0.9	39.2	49.1	6.3
エ. 就職活動で	2.2	4.6	0.7	39.2	46.3	7.0

※問17でひとつでも「自分が受けたことがある」「自分の周りの女性に受けた人がいる」「自分の周りの男性に受けた人がいる」と回答した方におうかがいします。

問17-1. セクシュアル・ハラスメントを受けた時、あなたはどうしましたか。

(見聞きした場合は当事者がどうされたかをお答えください。)(〇はいくつでも)n=712

1. 何もできなかった	40.2	7. 職場や学校の相談窓口に相談した	16.9
2. 抗議し、改善された	11.7	8. 家族や親戚に相談した	10.3
3. 抗議し、逆に不利益を受けた	11.0	9. 友人・知人に相談した	21.2
4. 公的機関に相談した	1.8	10. 相談したが助けてもらえなかった	8.7
5. 法的手段に訴えた	0.8	11. その他(具体的に)	8.0
6. 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラーなど)に相談した	1.8	12. わからない	4.4
		(無回答)	6.2

問18 あなたは、マタニティ・ハラスメント又はパタニティ・ハラスメントを受けたり、見聞きしたことはありますか。

(ア～イのそれぞれについて、あてはまる「1～4」に○を1つ)n=1,846

	自分が受けたことがある	自分の周りに受けた人がいる	自分の周りには受けた人はいないと思う	わからない	(無回答)
ア. マタニティ・ハラスメント	2.9	6.8	48.1	36.4	5.8
イ. パタニティ・ハラスメント	0.7	2.2	46.6	43.4	7.0

※パタニティ・ハラスメント：育児休業等を申出・取得した男性労働者への嫌がらせ

※問18でひとつでも「自分が受けたことがある」「自分の周りに受けた人がいる」と回答した方におうかがいします。

問18-1. マタニティ・ハラスメント又はパタニティ・ハラスメントを受けた時、あなたはどうしましたか。

(見聞きした場合は当事者がどうされたかをお答えください。)(○はいくつでも)n=198

1. 何もできなかった	46.0	7. 職場の相談窓口相談した	10.1
2. 抗議し、改善された	7.1	8. 家族や親戚に相談した	12.1
3. 抗議し、逆に不利益を受けた	6.1	9. 友人・知人に相談した	18.2
4. 公的機関に相談した	1.5	10. 相談したが助けてもらえなかった	7.6
5. 法的手段に訴えた	0.0	11. その他(具体的に)	4.5
6. 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラーなど)に相談した	1.0	12. わからない	6.6
		(無回答)	6.6

問19. 次のうち、あなたが「女性の人権が尊重されていない」と思うものはどれですか。(○はいくつでも)n=1,846

1. 買春・売春、援助交際	30.1	8. 女性の容姿を競うミス・コンテスト	12.6
2. ストーカー(つきまとい)行為	33.2	9. 女性の性を誇張した広告やコマーシャル	20.3
3. 痴漢行為や強制わいせつ等の性犯罪	54.5	10. 男女の固定的な役割分担意識	47.2
4. 夫婦や恋人間での暴力	38.3	(「男は仕事」、「女は家庭」など)	
5. セクシュアル・ハラスメント	43.4	11. 性風俗店	18.7
6. マタニティ・ハラスメント	42.7	12. アダルト雑誌やアダルト動画	18.6
7. 給与・昇進・給与の格差など職場における男女の待遇の違い	48.5	13. その他(具体的に)	1.3
		14. わからない	5.6
		(無回答)	7.7

VI 新型コロナウイルス感染症の影響についておうかがいします

問20. 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、あなたの働き方は変わりましたか。(○はいくつでも)n=1,228

1. 特に変わりはない	47.0	7. 会社の都合で仕事を休むことがある	5.1
2. 自宅で仕事をするようになった	25.1	8. 短時間勤務(時短営業)になった	7.2
3. 時差出勤になった	11.5	9. 自己都合で仕事を辞めた	1.3
4. 出勤日数(営業日数)が減った	11.9	10. 会社都合で仕事を辞めた	1.8
5. 自己都合で仕事を休むことがある	2.3	(雇い止め、派遣切りを含む)	
6. 残業や休日出勤が増えている	5.2	11. その他(具体的に)	4.2
		(無回答)	3.1

問21. 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、あなたの生活や行動に変化がありましたか。(〇はいくつでも)n=1,846

1. 友達に会えなくなった	69.8	7. ささいなことでパートナーとケンカをする	5.0
2. やりたいことができなくなった	56.6	8. パートナーからDV・ハラスメントを受ける	0.3
3. 食事の支度や掃除などの家事負担が増えた	15.1	9. 収入が減った	16.4
4. 学校が休みになった時、子どもの世話が	9.5	10. 特に変化したことはない	9.4
5. 生活のリズムが不規則になった	10.8	11. その他(具体的に)	6.4
6. 子どもを叱ることが増えた	2.9	(無回答)	1.6

Ⅶ 性についておうかがいします

問22. あなたの周り(自身も含む)にLGBTQなどの性的少数者はいますか。(〇は1つ)n=1,846

1. いる	12.4	2. いない	48.8	3. わからない	37.2
				(無回答)	1.7

問23. あなたご自身は、性的少数者の当事者ですか。答えたくない場合は無記入で構いません。(〇は1つ)n=1,846

1. いいえ(性的少数者ではない)	91.0	2. はい(性的少数者である)	1.5
		(無回答)	7.5

※問23で「2. はい(性的少数者である)」と回答した方におうかがいします。

問23-1. あなたが性的少数者として、あるいは関連したことで悩んだこと、不安だったこと、気になったことはありますか。

(〇はいくつでも)n=27

1. 性的少数者を差別する言動を見聞きすること	25.9	11. 外国籍の同性パートナーの在留資格が申請しにくいこと	3.7
2. 性的少数者であることを理由に差別的な言動やいじめ・ハラスメント・暴力を受けること	22.2	12. 冠婚葬祭などの出席を断られること	0.0
3. 家族に理解してもらえないこと	18.5	13. 将来の生活プランを描けないこと	22.2
4. 誰に相談したらよいか分からないこと	18.5	14. 老後の生活に不安があること	33.3
5. 更衣室、トイレなど男女区別のある施設が利用しづらいこと	7.4	15. アウティング(性的少数者本人の了解なしに他人に暴露してしまうこと)されること	22.2
6. 医療・福祉・住まい(賃貸)の面で性的少数者に配慮した対応がなされないこと	11.1	16. 他の性的少数者と交流する機会がないこと	7.4
7. 行政窓口で性的少数者への配慮が足りないこと	14.8	17. 同性パートナーを公的に認証する制度がない、または不十分なこと	22.2
8. 同性パートナーが遺族年金や扶養控除、手当などを受けられないこと	22.2	18. 学校で性的少数者に関する授業がない、あるいは十分でないこと	22.2
9. 入学試験の面接等で差別やハラスメントを受けること	7.4	19. 通称名の使用が認められないこと	7.4
10. 就職の際の面接等で差別やハラスメントを受けること	14.8	20. 服装・整容(髪形など)規定が性的少数者に配慮されていないこと	18.5
		21. その他(具体的に)	7.4
		22. 特になし	29.6
		(無回答)	7.4

VIII 教育についておうかがいします

問24. 学校での男女平等教育について、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から重要だと思うものを選んでください。(〇はいくつでも)n=1,846

1. 制服や整列などを男女で分ける習慣をなくす	22.5	8. 若年層における交際相手からの暴力(デートDV)を防止するための教育を充実する	29.1
2. 男女別名簿に代えて、男女混合名簿にする	19.7	9. 男女が互いの性を理解するための教育を充実する	49.6
3. 学校生活の中で児童・生徒の男女による役割分担をなくす	38.1	10. 働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行う	43.1
4. 学習や指導の場で男女平等意識を育てていく	58.6	11. 性の多様性について正しく理解するための教育を充実する	47.9
5. 生徒指導や進路指導において男女の区別なく能力や個性を生かせるようにする	56.2	12. PTAなどを通じ、男女平等教育の理解と協力を深める	13.4
6. 教職員への男女平等に関する研修等を充実する	35.4	13. その他(具体的に)	2.3
7. 校長・副校長などに女性を積極的に登用する	31.0	14. 特に必要ない	3.3
		(無回答)	2.9

IX 市の男女共同参画の推進に関する施策についておうかがいします

問25. あなたは、次にあげる言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。

(ア～キのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に〇を1つ)n=1,846

	内容を 知っている	聞いたこと はあるが、 内容は知らない	知らない	無回答 (無回答)
ア. さいたま市男女共同参画のまちづくり条例	2.7	27.2	68.5	1.6
イ. 第4次さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン	1.1	13.5	83.7	1.6
ウ. 第3次さいたま市DV防止基本計画	1.0	9.9	87.2	2.0
エ. さいたま市男女共同参画苦情処理制度	1.0	9.0	87.6	2.4
オ. さいたま市男女共同参画推進センター (パートナーシップさいたま、男女共同参画相談室)	3.6	20.4	74.2	1.8
カ. パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」	1.8	11.5	85.0	1.6
キ. さいたま市男女共同参画社会情報誌「You&Me～夢～」	4.2	15.1	79.2	1.6

問26. さいたま市には男女共同参画を推進するための拠点施設として、「さいたま市男女共同参画推進センター（パートナーシップさいたま、男女共同参画相談室）」があります。あなたは、この施設を利用したことがありますか。

(ア～オのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)n=1,846

	利用したことがある	利用していないが、知っている	知らない	(無回答)
ア. 電話相談・面接相談	0.9	13.9	83.4	1.8
イ. 各種講座や講演会	1.2	13.0	83.9	1.8
ウ. 情報・資料コーナー	0.7	11.3	86.1	2.0
エ. 交流コーナー	0.3	10.1	87.6	2.0
オ. 会議室・プレイルーム	0.8	9.3	87.9	2.1

問27. あなたは、「男女共同参画推進センター（パートナーシップさいたま、男女共同参画相談室）」にどのような事業を期待しますか。

(○はいくつでも)n=1,846

1. 女性相談窓口の充実	27.9	7. 自主的な学習活動・NPO・ボランティアの活動支援	17.2
2. 男性相談窓口の充実	16.3	8. 男女共同参画リーダーの育成	13.8
3. 性的少数者相談窓口の充実	20.9	9. 男女共同参画に関する問題の調査・研究の充実	14.8
4. 男女共同参画に関する情報の収集・提供	26.2	10. わからない	32.5
5. 講座・講演会などの企画・開催	16.3	11. その他(具体的に)	2.0
6. 就職講座や起業講座などによる女性の就業支援	22.6	(無回答)	3.4

X 配偶者などからの暴力についておうかがいします

※問28～32の設問にある「配偶者など」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者のほかに、交際相手(パートナー)も含まれます。

問28. あなたは、次にあげる言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。

(ア、イのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)n=1,846

	内容を 知っている	聞いたことは あるが、内容は 知らない	知らない	(無回答)
ア. ドメスティック・バイオレンス(DV)	85.3	8.3	4.0	2.5
イ. 若年層における交際相手からの暴力(デートDV)	53.2	20.1	24.0	2.7

問29. あなたは、次のようなことが配偶者などの間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。

(ア～サのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ) n= 1, 846

	どんな場合でも 暴力にあたると 思う	暴力にあたる 場合も、そう でない場合も あると思う	暴力にあたる とは思わない	(無回答)
ア. 平手で打つ、足でける	83.3	13.2	0.9	2.5
イ. 体を傷つける可能性のあるものでなく	94.7	2.4	0.4	2.5
ウ. なぐるふりをして、おどす	70.7	24.5	2.1	2.7
エ. 刃物などを突きつけて、おどす	94.6	2.5	0.5	2.4
オ. 大声でどなる	54.1	39.9	3.4	2.7
カ. 何を言っても長時間無視し続ける	51.6	37.5	8.0	2.9
キ. 交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視する	63.1	26.9	7.4	2.6
ク. 「誰のおかげで生活できるんだ」、 「かいしょうなし」などと非難する	75.0	19.5	3.0	2.5
ケ. いやがっているのに性的な行為を強要する	87.1	9.3	1.1	2.5
コ. 見たがらない、ポルノビデオや雑誌を見せる	79.6	15.1	2.7	2.7
サ. 必要な生活費を渡さないなど、経済的に弱い立場に立たせる	83.1	11.5	2.9	2.4

※これまで配偶者などがいたことがない方は、問32へお進みください。

問30. あなたは、これまでに、あなたの配偶者などに対して次のような行為をしたことがありますか。

(ア～サのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ) n= 1, 484

	なんども 何度もある	1、2度 ある	まったく ない	(無回答)
ア. 平手で打つ、足でける	0.9	9.7	85.0	4.4
イ. 体を傷つける可能性のあるものでなく	0.3	1.6	93.8	4.3
ウ. なぐるふりをして、おどす	0.8	6.5	88.0	4.6
エ. 刃物などを突きつけて、おどす	0.2	0.7	94.3	4.8
オ. 大声でどなる	7.5	31.1	57.0	4.4
カ. 何を言っても長時間無視し続ける	2.2	20.4	73.0	4.4
キ. 交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視する	0.3	2.6	92.6	4.6
ク. 「誰のおかげで生活できるんだ」、 「かいしょうなし」などと非難する	0.7	4.3	90.5	4.5
ケ. いやがっているのに性的な行為を強要する	0.7	3.6	91.3	4.4
コ. 見たがらない、ポルノビデオや雑誌を見せる	0.2	0.5	94.9	4.4
サ. 必要な生活費を渡さないなど、経済的に弱い立場に立たせる	0.3	1.1	94.0	4.6

問30-1へ

問31へ

※問30でひとつでも「何度もある」「1、2度ある」と回答した方におうかがいします。

問30-1. あなたは、問30のような行為をしたことについて、どうしましたか。(〇はいくつでも)n= 694

1. 後悔した	34.1	4. 特に何もしなかった (何も思わなかった)	25.4
2. 相手に対し謝罪した	33.4		
3. 相手のせいにした	10.1	5. その他(具体的に)	5.5
		(無回答)	11.0

問30-2. あなたは、問30のような行為をしたのはなぜですか。(〇はいくつでも)n= 694

1. イライラしていた	28.7	6. 他に嫌なことがあったから	3.2
2. 相手が自分を怒らせることをしたから	61.8	7. 不安や心配事があったから	7.8
3. 愛情を確認したかったから	2.4	8. なぜ暴力をふるったかわからない	0.1
4. 疲れていたから	11.2	9. 暴力だと思わなかったから	4.8
5. 相手が自分の思い通りにならなかったから	11.2	10. その他(具体的に)	8.4
		(無回答)	11.4

問30-3. あなたは、問30のような行為をしたことについて、誰か(どこか)に相談したり話し合いましたか。

(〇はいくつでも)n= 694

1. 配偶者と話し合った	38.9	5. 公的機関に相談した	1.4
2. 家族・親戚などに相談した	7.8	6. 民間の相談機関に相談した	0.9
3. 医療機関等に相談した	1.0	7. その他(具体的に)	0.7
4. 親しい知人や友人に相談した	8.1	8. 相談や話し合いはしたことはない	40.5
		(無回答)	12.2

問30-4. あなたは、問30のような行為をやめる(しない)ために必要だと思うことはなんですか。(〇はいくつでも)n= 694

1. 法律などの罰則の強化	18.9	5. 広報・啓発活動の推進	13.4
2. 専門機関等でのカウンセリング	23.9	6. 学校等での教育の充実	21.5
3. 加害者更生プログラムの受講による教育の義務化	9.5	7. その他(具体的に)	15.3
4. 相談機関の充実	24.9	(無回答)	21.3

問31. あなたはこれまでに、あなたの配偶者などから次のような行為をされたことがありますか。

(ア～オのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に〇を1つ)n= 1,484

	何度もある	1、2度ある	まったくない	(無回答)
ア. なぐられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行を受けた	3.4	9.3	82.3	5.0
イ. 人格を否定するような暴言を言われたり、交友関係を細かく監視されたりした	5.8	12.1	77.2	4.9
ウ. 自分や家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅しを受けた	1.8	3.9	89.3	5.0
エ. いやがっているのに性的な行為を強要された	2.0	5.9	87.1	5.0
オ. 必要な生活費を渡さないなど、経済的に弱い立場に立たせられた	2.5	3.2	89.2	5.2

14

問31-1へ

問32へ

※問31でひとつでも「何度もある」「1、2度ある」と回答した方におうかがいします。

問31-1. この1年とこの2～5年では、いかがでしたか。(ア～オのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)

	この1年に あった	この2～5 年にあった	5年以内に はなかった	(無回答)
ア. なぐられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行を受けた n= 189	14.3	20.6	58.2	6.9
イ. 人格を否定するような暴言を言われたり、交友関係を細かく監視されたりした n= 266	21.1	28.6	41.7	8.6
ウ. 自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅しを受けた n= 85	9.4	21.2	57.6	11.8
エ. いやがっているのに性的な行為を強要された n= 117	7.7	17.9	60.7	13.7
オ. 必要な生活費を渡さないなど、経済的に弱い立場に立たせられた n= 84	21.4	26.2	42.9	9.5

問31-2. あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。(○は1つ)n= 358

1. 感じたことがある	14.0	2. 感じたことはない	75.4
			(無回答) 10.6

※問31-3、4は子どもがいる方におうかがいします。子どものいない方は問31-5へ進んでください

問31-3. あなたがその行為を受けた時に、あなたのお子さんはそれを目撃しましたか。(○は1つ)n= 296

1. 目撃していた	28.0	3. 目撃していない	39.9
2. 目撃していたかどうかはわからない	14.2	(無回答) 17.9	

問31-4. その相手は、あなたのお子さんに対して、あなたがされていたのと同じ行為をしたことがありますか。

(○は1つ)n= 296

1. あった	17.2	3. なかった	56.1
2. わからない	9.1	(無回答) 17.6	

問31-5. あなたはこれまでに、その相手から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(○は1つ)n=358

1. 相談した	28.5	3. 相談しようとは思わなかった	46.9
2. 相談できなかった	10.6	(無回答) 14.0	

※問31-5で「1. 相談した」と回答した方におうかがいします。

問31-6. あなたが相談した人(場所)を教えてください。(○はいくつでも)n=102

1. 家族・親戚	67.6	6. さいたま市以外の公的機関	2.0
2. 友人・知人	66.7	7. 弁護士	8.8
3. 警察	8.8	8. 医師・カウンセラー	7.8
4. 人権擁護団体・委員	1.0	9. 民間の相談機関	0.0
5. さいたま市の相談窓口・電話相談など	9.8	10. その他(具体的に)	1.0
			(無回答) 1.0

※問31-5で「2. 相談できなかった」「3. 相談しようとは思わなかった」と回答した方におうかがいします。

問31-7. あなたが誰(どこ)にも相談できなかった(しなかった)のはなぜですか。(〇はいくつでも)n=206

1. 誰(どこ)に相談したらよいかわからなかったから	13.1	7. 世間体が悪いから	6.8
2. 恥ずかしくて誰(どこ)にも言えなかったから	12.6	8. 他人を巻き込みたくないから	16.0
3. 相談しても無駄だと思ったから	31.1	9. 思い出したくないから	8.3
4. 相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思ったから	4.9	10. 自分に悪いところがあると思ったから	18.0
5. 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから	2.4	11. 相談するほどのことでないと思ったから	45.1
6. 自分さえ我慢すれば何とかやっつけていけると思ったから	24.3	12. その他(具体的に)	4.9
		(無回答)	3.9

※ここからは再度、全員の方におうかがいします。

問32. 配偶者などの間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。

(〇はいくつでも)n=1,846

1. 子どもの頃から家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	68.6
2. 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	58.1
3. 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	13.7
4. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	34.8
5. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	59.7
6. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	33.2
7. 暴力を振ったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	37.5
8. 加害者への罰則を強化する	49.1
9. 暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピューターソフトなど)を取り締まる	28.4
10. その他()	4.2
11. 特にない	2.7
	(無回答) 4.2

XI 交際相手からの暴力についておうかがいします

※問33は、あなたの10代から20代の時の経験についておうかがいます。

結婚している方、結婚したことがある方については、結婚前についてお答えください。

問33. あなたには、その当時、交際相手がありましたか。結婚している方、結婚したことがある方については、後に配偶者となった相手以外についてお答えください。(〇は1つ)n=1,846

1. 交際相手があった(いる) → 問33-1 へ	69.0	2. 交際相手はいなかった(いない)	→ F1 へ 22.9
		(無回答)	8.1

※問33で、「1. 交際相手がいた(いる)」と回答した方におうかがいます。

問33-1. あなたは、10代、20代の時に、交際相手から次のような行為をされたことがありますか。

(ア～オのそれぞれについて、あてはまる「1～4」に○を1つ)n=1,273

	10代に あった	20代に あった	両方とも あった	まったく ない	(無回答)
ア. なくられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行を受けた	1.6	3.9	0.9	93.1	0.4
イ. 人格を否定するような暴言を言われたり、交友関係を細かく監視されたりした	2.7	5.2	1.7	89.8	0.5
ウ. 自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅しを受けた	1.2	2.1	0.7	95.6	0.4
エ. いやがっているのに、性的な行為を強要された	1.6	3.4	0.7	93.5	0.8
オ. お金を貸しても返してもらえない、いつもおごられることがあった	0.9	3.9	1.2	93.3	0.7

※問33-1でひとつでも「10代にあった」「20代にあった」「両方ともあった」と回答した方におうかがいます。

問33-2. あなたは誰か(どこか)に相談しましたか。(○はい/いつでも)n=200

1. 家族・親戚	15.0	6. さいたま市の相談窓口・電話相談など	1.0
2. 友人・知人	38.0	7. さいたま市以外の公的機関	0.0
3. 学校の教員・養護教員・スクールカウンセラー	0.5	8. 弁護士	0.5
4. 警察	2.5	9. 民間の相談機関	0.0
5. 人権擁護団体・委員	0.0	10. その他(具体的に)	1.0
		11. 相談しなかった	48.0
		(無回答)	5.0

※問33-2で「11. 相談しなかった」と回答した方におうかがいます。

問33-3. あなたが誰(どこ)にも相談しなかったのはなぜですか。(○はい/いつでも)n=96

1. 誰(どこ)に相談したらよいかわからなかったから	14.6	7. 世間体が悪いから	6.3
2. 恥ずかしくて誰(どこ)にも言えなかったから	16.7	8. 他人を巻き込みたくないから	15.6
3. 相談しても無駄だと思ったから	32.3	9. 思い出したくないから	13.5
4. 相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思ったから	5.2	10. 自分に悪いところがあると思ったから	19.8
5. 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすると思ったから	2.1	11. 相談するほどのことでないと思ったから	38.5
6. 自分さえ我慢すれば何とかやっつけられると思ったから	21.9	12. その他(具体的に)	5.2
		(無回答)	1.0

統計に必要ですので、次のページの質問にもお答えください。

F 1. 戸籍上の性別 n=1,846	1. 男性 41.2	2. 女性 55.0	(無回答) 3.8
F 2. 年齢 n=1,846	1. 18～19歳 0.8	2. 20～29歳 8.1	3. 30～39歳 14.1
	4. 40～49歳 19.7	5. 50～59歳 19.0	6. 60～69歳 17.4
	7. 70歳以上 16.8	(無回答) 4.1	
F 3. 就労状況 n=1,846	1. 会社員・団体職員 37.1	2. 自由業・自営業 5.8	3. パート・アルバイト 16.0
	4. 公務員・教員 5.1	5. 家事専業 12.3	6. 学生 2.1
	7. 無職 13.8	8. その他 2.5	(無回答) 5.3
F 4. 婚姻状況、 子どもの有無 n=1,846	1. 結婚して、子どもがいる 58.8	2. 結婚して、子どもがいない 10.5	3. 結婚していたが、離別または死別して、子どもがいる 6.5
	4. 結婚していたが、離別または死別して、子どもがいない 1.2	5. 結婚していないが、パートナーがいる 2.8	6. 結婚していない(したことがない) 15.0
	7. その他(具体的に) 0.5	(無回答) 4.7	
F 5. 同居している家族の構成 n=1,846	1. 単身世帯(1人住まい) 11.0	2. 1世代世帯(夫婦のみ) 27.8	3. 2世代世帯(親+子ども) 48.5
	4. 3世代世帯(親+子ども+孫) 4.6	5. その他() 3.4	(無回答) 4.7
F 6. お住まいの区 n=1,846	1. 西区 6.1	2. 北区 10.7	3. 大宮区 8.9
	4. 見沼区 11.5	5. 中央区 7.5	6. 桜区 5.7
	7. 浦和区 13.4	8. 南区 15.6	9. 緑区 8.3
	10. 岩槻区 7.9	(無回答) 4.4	
日本国籍でない方におうかがいします			
F 7. 国籍 n=103	1. 中国 8.7	2. 韓国 1.0	3. 朝鮮 1.0
	4. フィリピン 1.0	5. ベトナム 1.0	6. 米国 0.0
	7. ブラジル 0.0	8. タイ 0.0	9. 台湾 0.0
	10. ネパール 0.0	11. その他() 0.0	(無回答) 87.4
F 8. 滞在年数 n=103	1. 6か月未満 1.9	2. 6か月～1年未満 6.8	3. 1年～2年未満 3.9
	4. 2年以上 87.4	(無回答) 0.0	

と
問34. 男女共同参画社会の実現にあたってご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

いじょう お
以上で終わりです。

いそが
お忙しいところ、アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

き にゅう
ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、

がつ にち けつ
8月23日(月) までにご投函くださいますよう、お願い申し上げます。



さいたま市

令和3年度
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書
令和4年1月

発行 市民生活部 人権政策・男女共同参画課 男女共同参画推進センター
〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1丁目10-18
シーノ大宮センタープラザ3階
電話 048 (643) 5816

調査実施 株式会社 名豊
〒460-0017 愛知県名古屋市中区松原二丁目2番33号
電話 052 (322) 0071

【この「男女共同参画に関する市民意識調査」業務の委託に要する経費は、141万円です。】